

富谷市
高齢者保健福祉計画・
第10期介護保険事業計画
実態把握調査
結果報告書

令和8年3月

富 谷 市

目 次

I	調査の概要.....	2
1	調査の目的.....	2
2	調査対象.....	2
3	調査期間.....	2
4	調査方法.....	2
5	回収状況.....	2
6	調査結果の表示方法.....	4
II	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果.....	6
問1	あなたのご家族や生活状況について.....	7
問2	からだを動かすことについて.....	17
問3	食べることについて.....	50
問4	毎日の生活について.....	60
問5	地域での活動について.....	75
問6	就労について.....	85
問7	たすけあいについて.....	86
問8	健康について.....	95
問9	介護の相談窓口について.....	106
問10	認知症について.....	117
問11	今後の生活について.....	132
III	生活機能評価等に関する分析.....	140
1	機能別リスク該当者割合の分析.....	140
(1)	運動器の機能低下.....	140
(2)	閉じこもり傾向.....	142
(3)	転倒リスク.....	143
(4)	低栄養の傾向.....	144
(5)	口腔機能の低下.....	145
(6)	認知機能.....	146
(7)	うつ傾向.....	147
(8)	I A D L（手段的自立度）.....	148
IV	在宅介護実態調査結果.....	152
A票	調査対象者様ご本人について.....	152
B票	主な介護者の方について、お伺いします.....	196
V	第2号被保険者対象ニーズ調査結果.....	246
1	あなたご自身のことについて.....	246
2	あなた自身の健康状況について.....	248
3	認知症について.....	257
4	生活状況について.....	269
5	地域との関わりについて.....	274
6	相談窓口などについて.....	288

7	将来の生活（介護の考え方を含む）について.....	292
8	親御さんの介護について.....	298
VI	共通設問等の分析.....	304
1	健康状況について.....	304
(1)	治療中、または後遺症のある病気や要介護者が現在抱えている傷病名.....	304
(2)	健診や人間ドックについて.....	304
(3)	健康のために意識していることや取り組んでいること.....	304
	【課題分析】.....	304
2	生きがいづくりについて.....	305
(1)	生きがいや余暇の過ごし方.....	305
	【課題分析】.....	305
3	認知症について.....	305
(1)	認知症に関する相談窓口の認知度.....	305
(2)	認知症のイメージ.....	305
(3)	安心して生活するために必要なこと.....	305
	【課題分析】.....	306
4	地域とのつながり.....	306
(1)	隣近所との関わり.....	306
	【課題分析】.....	306
5	災害時の対応について.....	306
(1)	福祉避難所の周知状況.....	306
(2)	災害時に不安に感じること.....	306
	【課題分析】.....	307
6	相談窓口について.....	307
(1)	介護に関する相談窓口に求めるもの.....	307
(2)	成年後見制度について.....	307
	【課題分析】.....	307
7	今後の生活について.....	307
(1)	どのような介護を受けながら生活したいか.....	307
(2)	終末期に関しての話し合いの意向.....	308
(3)	判断能力が低下したときに心配なこと.....	308
	【課題分析】.....	308
VII	事業所調査（共通設問）.....	310
	《第10期》介護人材実態調査票①【事業所票（全事業共通）】.....	310
VIII	次期計画策定に向けた課題の整理.....	340
1.	心と体の元気づくりの推進.....	340
2.	共に支える地域づくり.....	340
3.	安心できる在宅生活のための環境づくりの推進.....	340
4.	地域包括ケアシステムの深化・推進.....	341
5.	認知症施策の推進.....	341
6.	介護保険事業等の推進.....	341

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

老人福祉法（昭和 38 年法律 133 号）第 20 条の 8 第 1 項に規定する「市町村老人福祉計画」及び介護保険法（平成 9 年法律第 123 号）第 117 条第 1 項に規定する「市町村介護保険事業計画」を策定するにあたり、市民の生活実態等についてアンケート調査等を実施し、それに基づいた課題分析とニーズ等を把握することにより、令和 9 年度を始期とする「富谷市高齢者保健福祉計画・第 10 期介護保険事業計画」策定の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査対象

調査票の種類	対象
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和 7 年 12 月 1 日現在で、市内在住の要介護認定を受けていない 65 歳以上の市民の中から 1,500 名を無作為に抽出。（要支援・事業対象者を含む）
②在宅介護実態調査	令和 7 年 12 月 1 日現在で、市内在住の 65 歳以上の要介護認定者の中から 500 名を無作為に抽出。
③第 2 号被保険者ニーズ調査	令和 7 年 12 月 1 日現在で、市内在住の 40～64 歳の市民の中から 800 名を無作為に抽出。
④介護人材実態調査	令和 7 年 12 月 1 日時点の市内に住所を有する介護サービス事業所（複数のサービス指定を受けている場合は指定数でカウント）

3 調査期間

令和 8 年 1 月 15 日（木）～令和 8 年 1 月 31 日（土）

4 調査方法

郵送による配布、郵送・WEB 併用回収

5 回収状況

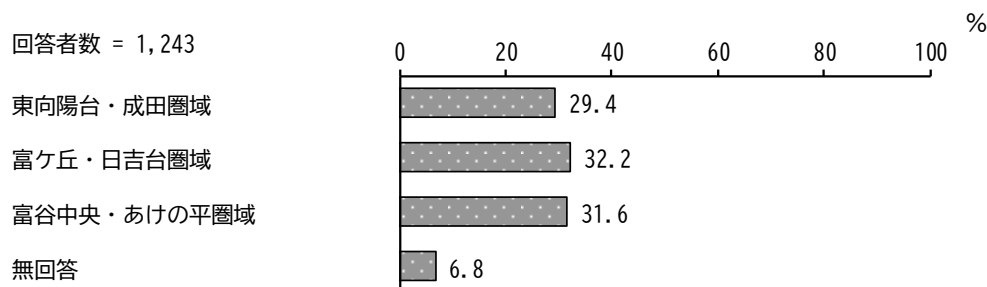
調査票の種類	対象者数	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	10,308 人	1,500 件	1,243 件	1,243 件	82.9%
②在宅介護実態調査	1,313 人	500 件	350 件	350 件	70.0%
③第 2 号被保険者ニーズ調査	18,311 人	800 件	503 件	503 件	62.9%
④介護人材実態調査	60 事業所	60 件	52 件	52 件	86.7%

・日常生活圏域の定義

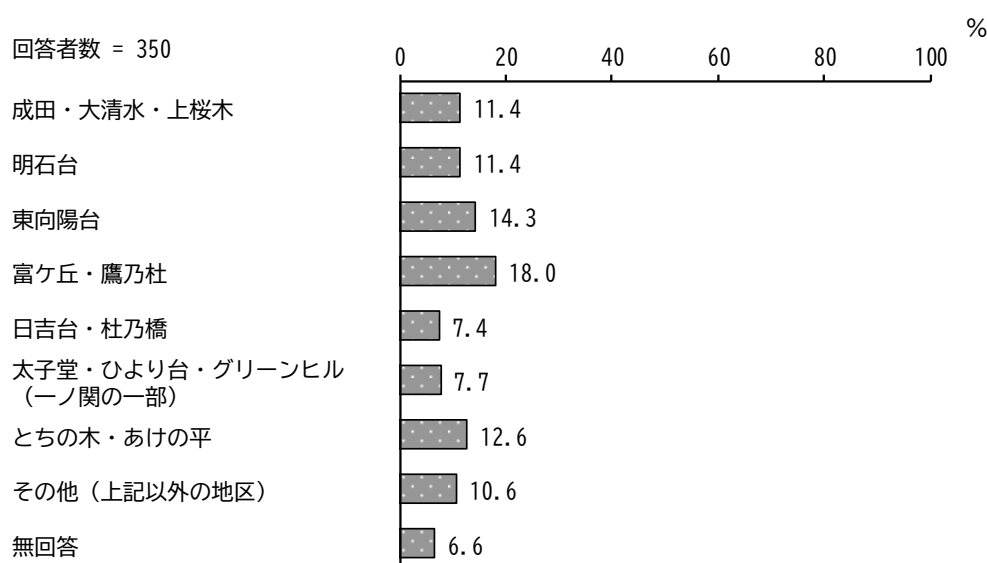
日常生活圏域名	地区名
東向陽台・成田圏域	成田・大清水・上桜木・明石台・東向陽台
富ヶ丘・日吉台圏域	富ヶ丘・鷹乃杜・日吉台・杜乃橋
富谷中央・あけの平圏域	太子堂・ひより台・グリーンヒル（一ノ関の一部）・とちの木・あけの平・その他（上記以外の地区）

本調査における有効回答者の属性は以下のとおりです。

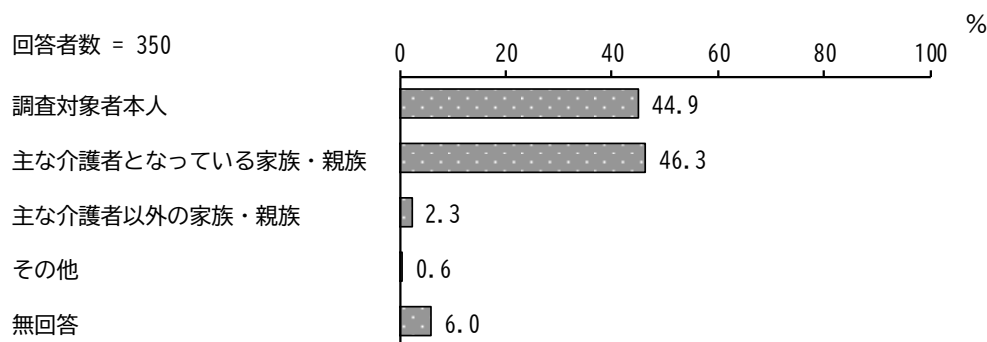
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査



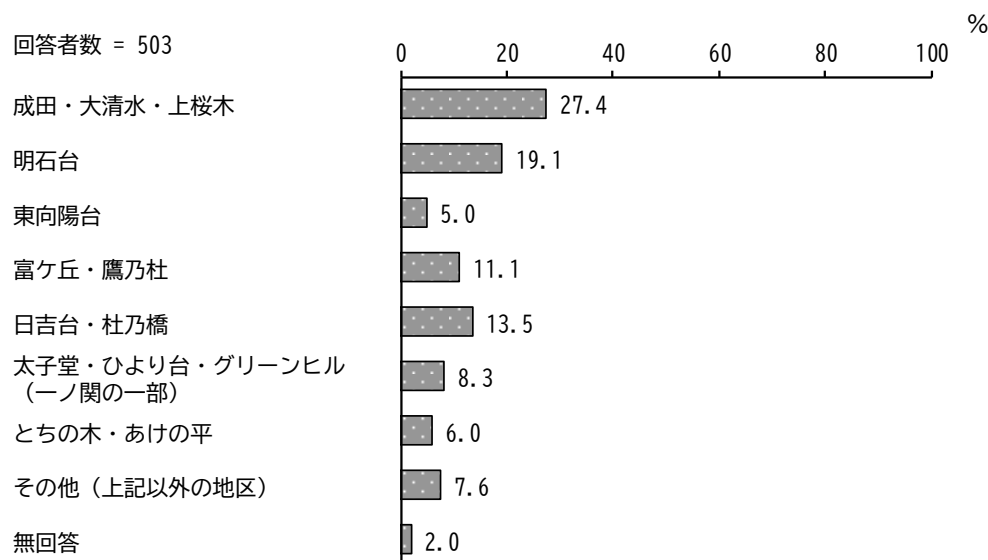
②在宅介護実態調査



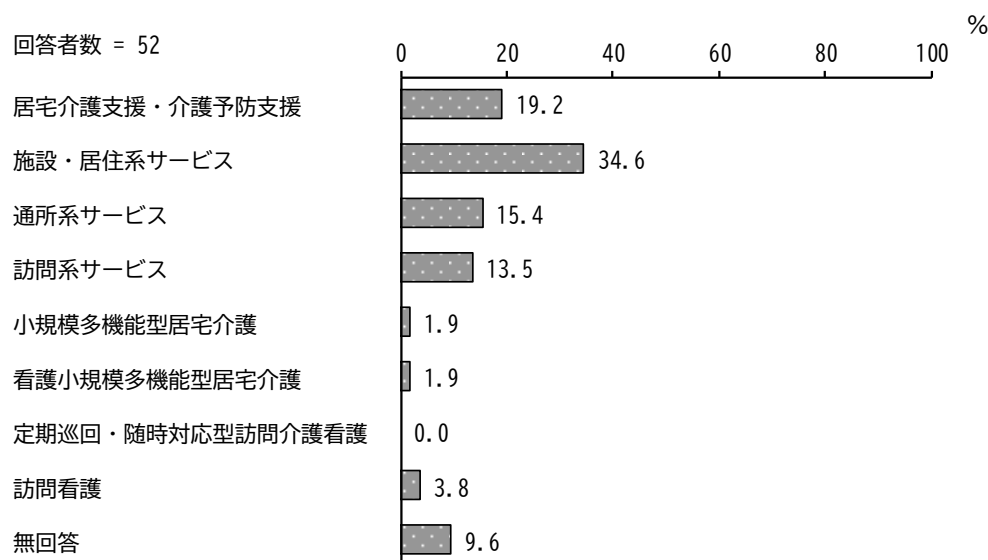
調査回答者（A-問1）



③第2号被保険者対象ニーズ調査



④介護人材実態調査



6 調査結果の表示方法

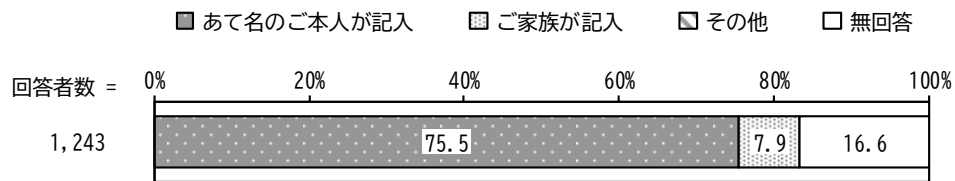
- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合及びクロス集計において回答者数が1桁の場合は、回答結果のみ示しています。

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域二一ス調査結果

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

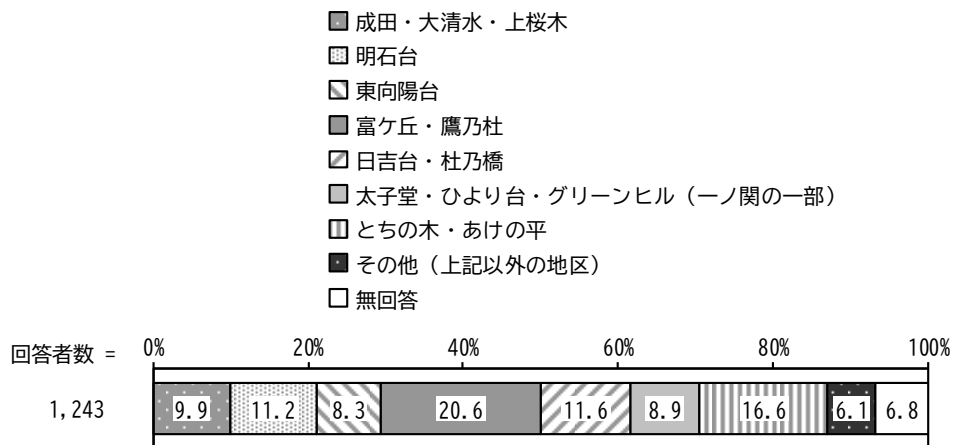
※調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

「あて名のご本人が記入」の割合が75.5%、「ご家族が記入」の割合が7.9%となっています。



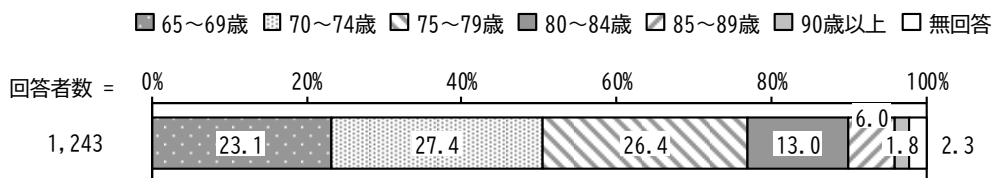
※あて名のご本人（以下、「あなた」という）のお住まいの地区はどちらですか（○は1つ）

「富ヶ丘・鷹乃杜」の割合が20.6%と最も高く、次いで「とちの木・あけの平」の割合が16.6%、「日吉台・杜乃橋」の割合が11.6%となっています。



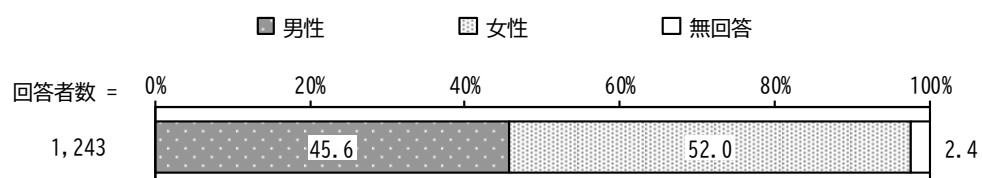
※あなたの年齢について、ご回答ください（○は1つ）

「70～74歳」の割合が27.4%と最も高く、次いで「75～79歳」の割合が26.4%、「65～69歳」の割合が23.1%となっています。



※あなたの性別について、ご回答ください（○は1つ）

「男性」の割合が45.6%、「女性」の割合が52.0%となっています。

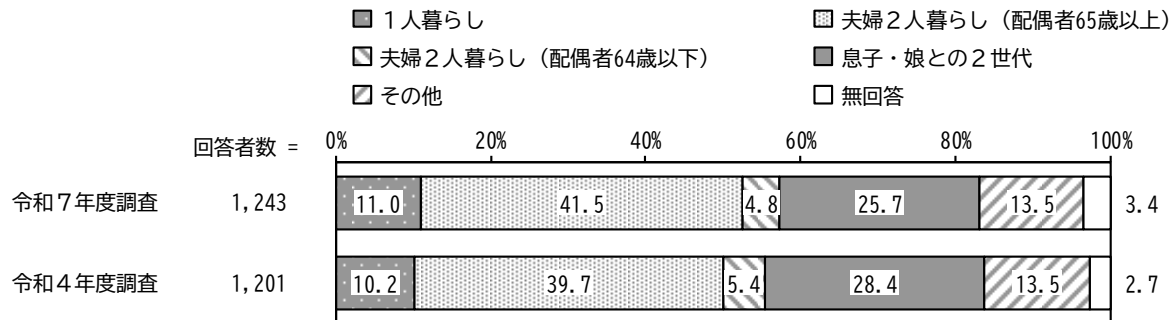


問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください(○は1つ)

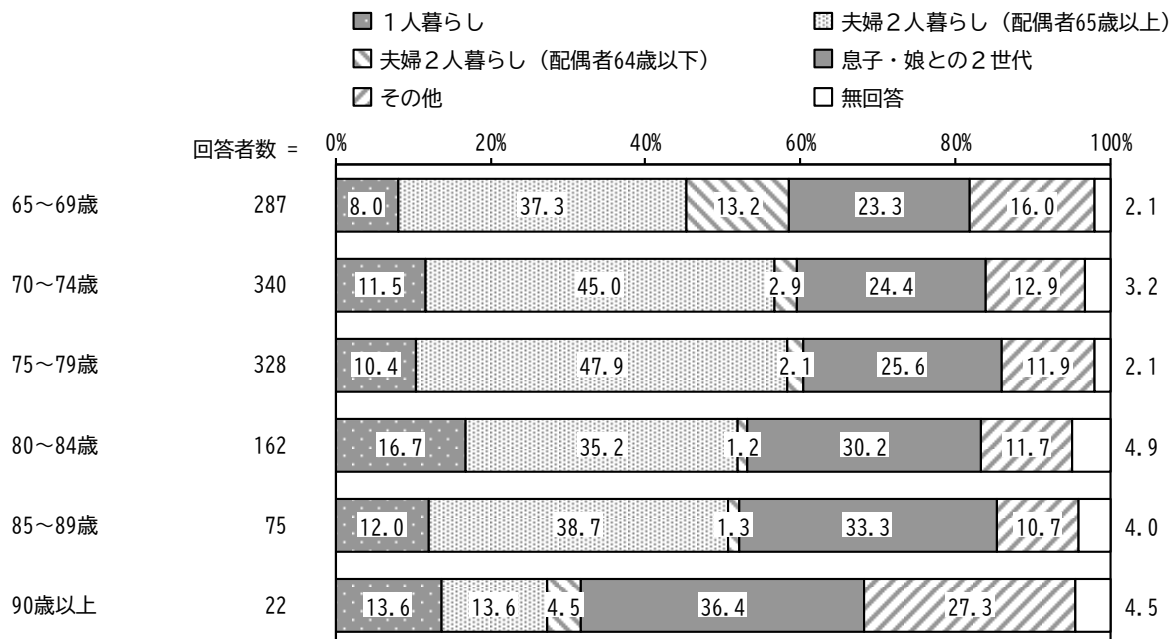
「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が41.5%と最も高く、次いで「息子・娘との2世代」の割合が25.7%、「1人暮らし」の割合が11.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



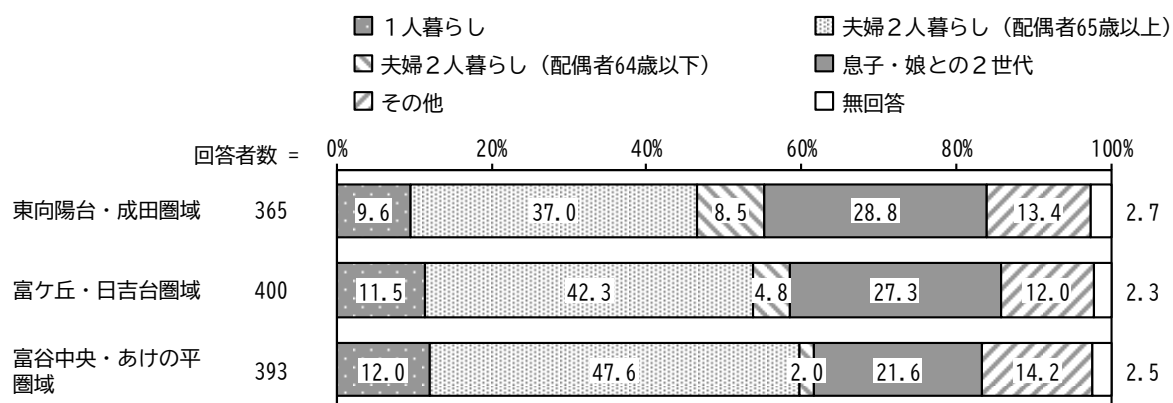
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「息子・娘との2世代」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が低くなっています。



【圏域別】

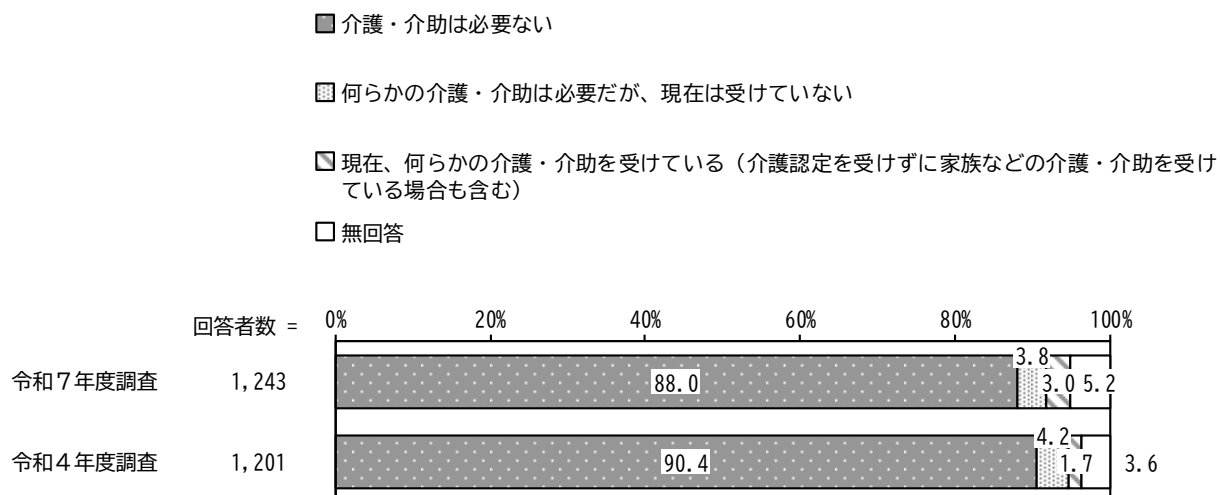
圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合が高くなっています。



（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要です（○は1つ）

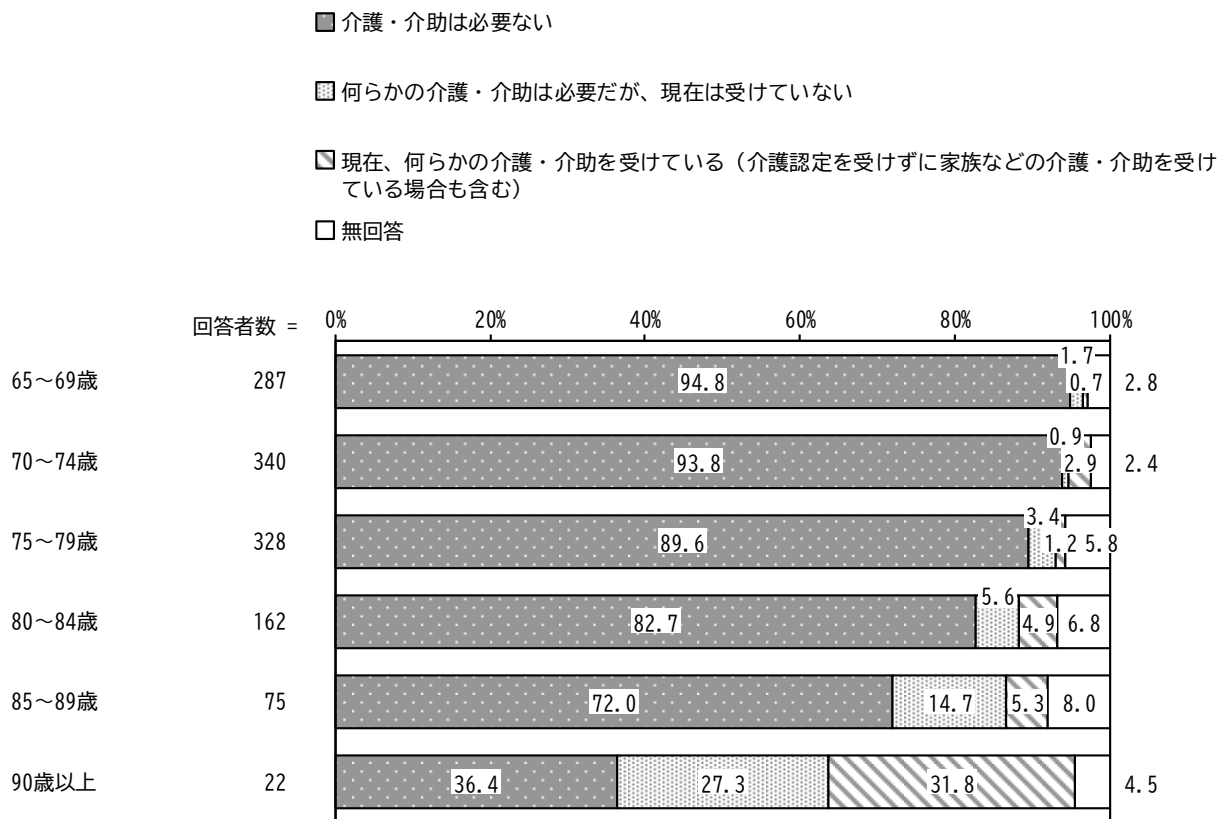
「介護・介助は必要ない」の割合が 88.0%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が 3.8%、「現在、何らかの介護・介助を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護・介助を受けている場合も含む）」の割合が 3.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



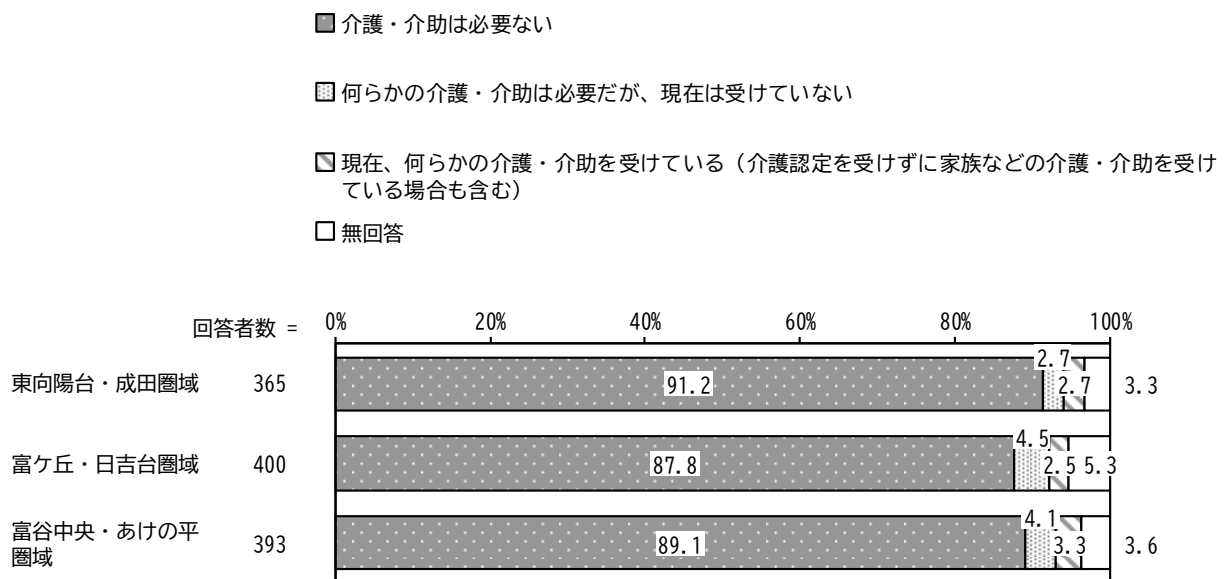
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「介護・介助は必要ない」の割合が高くなっています。



【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。

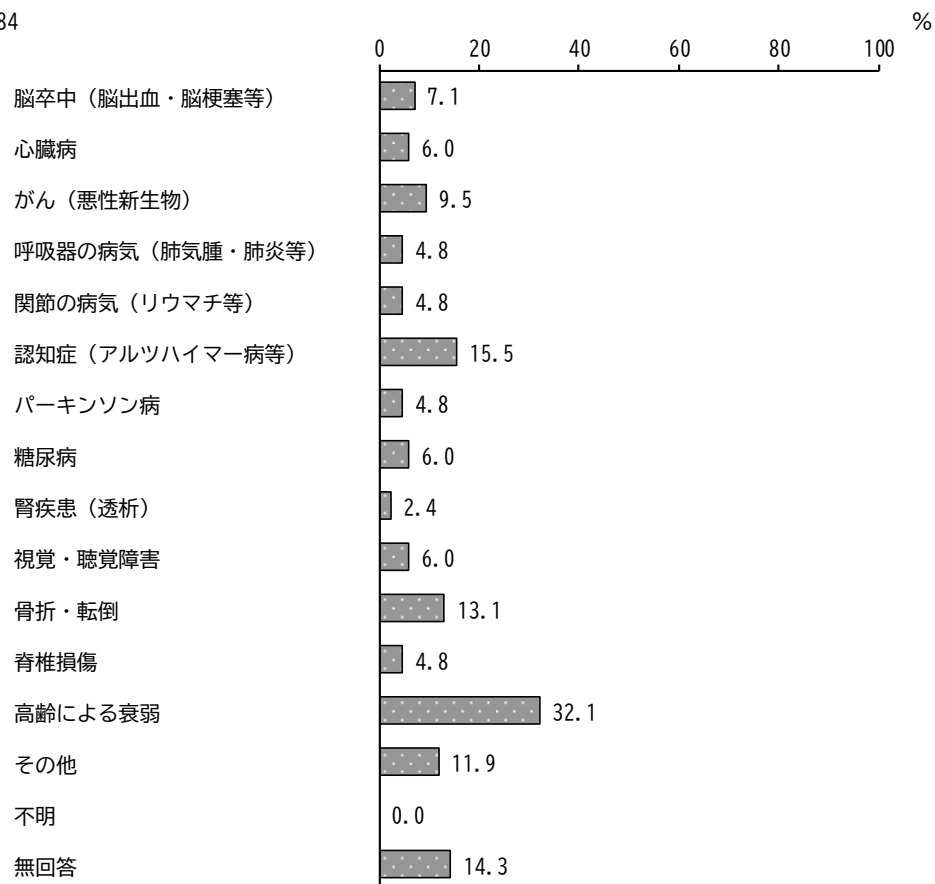


【(2) において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（〇はいくつでも）

「高齢による衰弱」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「認知症(アルツハイマー病等)」の割合が 15.5%、「骨折・転倒」の割合が 13.1%となっています。

回答者数 = 84



【その他意見】

- ・ コロナ
- ・ てんかん
- ・ 脊髄小脳変性
- ・ つしとう症 など

【性別】

性別にみると、男性で「心臓病」「がん（悪性新生物）」「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」「認知症（アルツハイマー病等）」「脊椎損傷」の割合が高く、女性で「骨折・転倒」「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	脳卒中(脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病
全 体	84	7.1	6.0	9.5	4.8	4.8	15.5	4.8	6.0
男性	28	10.7	10.7	14.3	10.7	3.6	21.4	7.1	7.1
女性	51	5.9	3.9	7.8	2.0	3.9	11.8	3.9	3.9

区分	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全 体	2.4	6.0	13.1	4.8	32.1	11.9	0.0	14.3
男性	0.0	7.1	7.1	7.1	28.6	3.6	0.0	21.4
女性	3.9	5.9	17.6	2.0	35.3	15.7	0.0	9.8

【年齢別】

年齢別にみると、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「心臓病」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	脳卒中(脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病
全 体	84	7.1	6.0	9.5	4.8	4.8	15.5	4.8	6.0
65～69歳	7	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
70～74歳	13	15.4	7.7	23.1	7.7	0.0	23.1	0.0	15.4
75～79歳	15	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	6.7	13.3	0.0
80～84歳	17	11.8	5.9	17.6	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9
85～89歳	15	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	20.0	6.7	6.7
90歳以上	13	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7

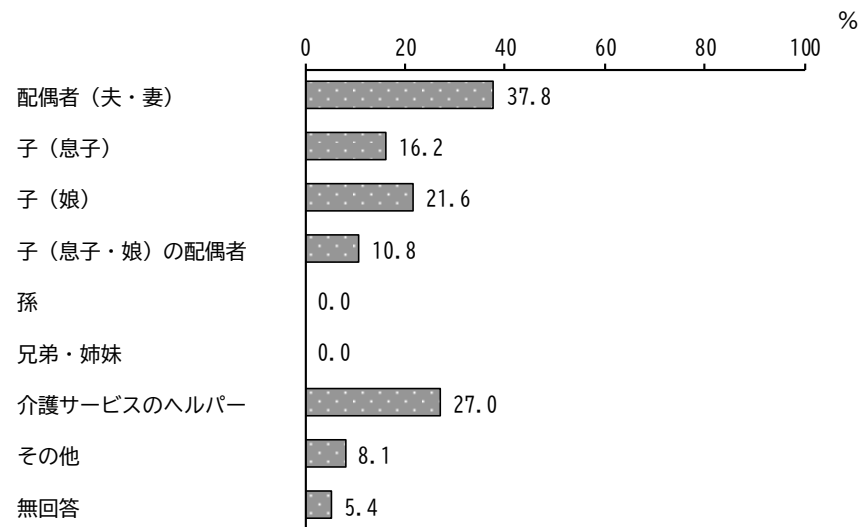
区分	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全 体	2.4	6.0	13.1	4.8	32.1	11.9	0.0	14.3
65～69歳	14.3	0.0	0.0	0.0	57.1	28.6	0.0	0.0
70～74歳	0.0	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	0.0	0.0
75～79歳	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	33.3	0.0	26.7
80～84歳	0.0	17.6	23.5	11.8	35.3	5.9	0.0	5.9
85～89歳	0.0	6.7	6.7	6.7	60.0	0.0	0.0	20.0
90歳以上	0.0	0.0	23.1	0.0	46.2	0.0	0.0	23.1

【(2) において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

② 主にどなたの介護、介助を受けていますか（○はいくつでも）

「配偶者（夫・妻）」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」の割合が 27.0%、「子（娘）」の割合が 21.6%となっています。

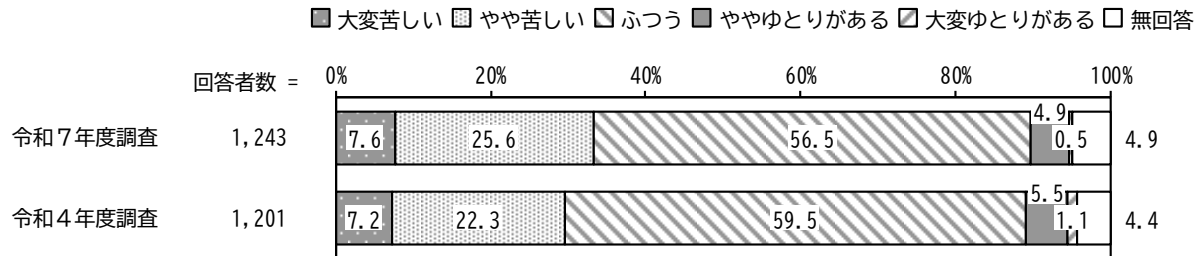
回答者数 = 37



(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (〇は1つ)

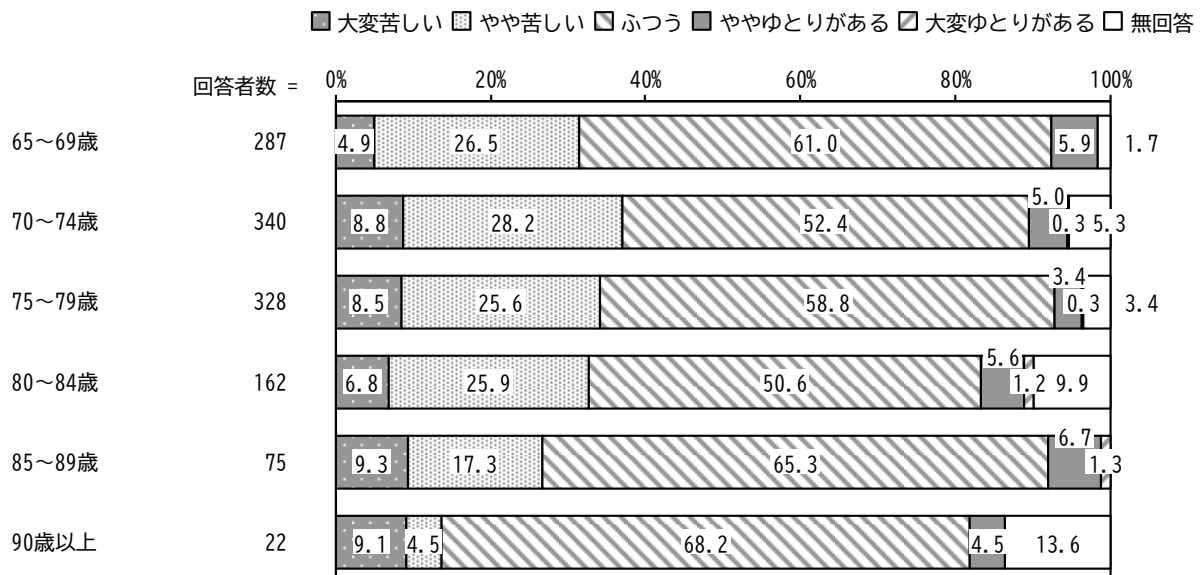
「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”の割合が33.2%、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”の割合が5.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



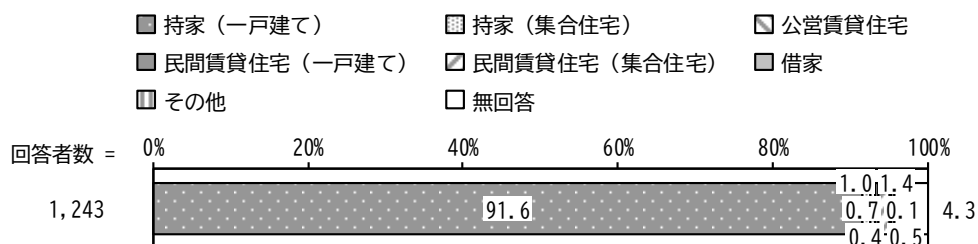
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど“苦しい”の割合が高くなっています。また、90歳以上で「やや苦しい」の割合が低くなっています。



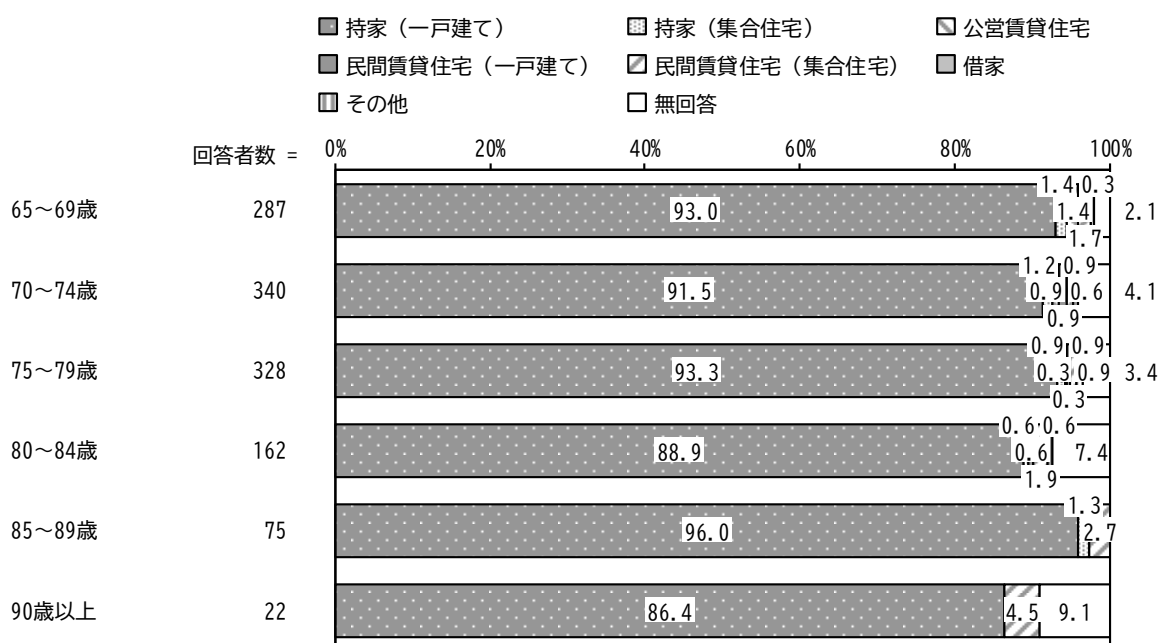
(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (〇は1つ)

「持家（一戸建て）」の割合が 91.6%と最も高くなっています。



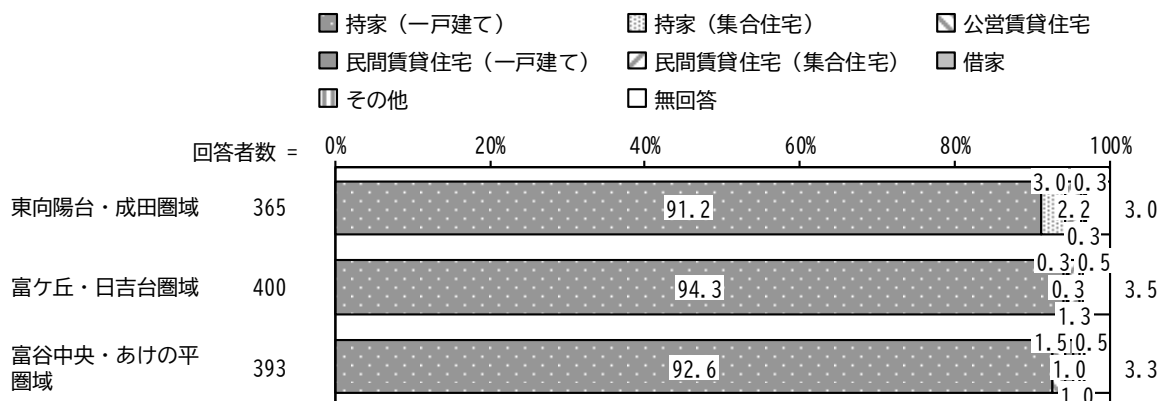
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上で「持家（一戸建て）」の割合が低くなっています。



【圏域別】

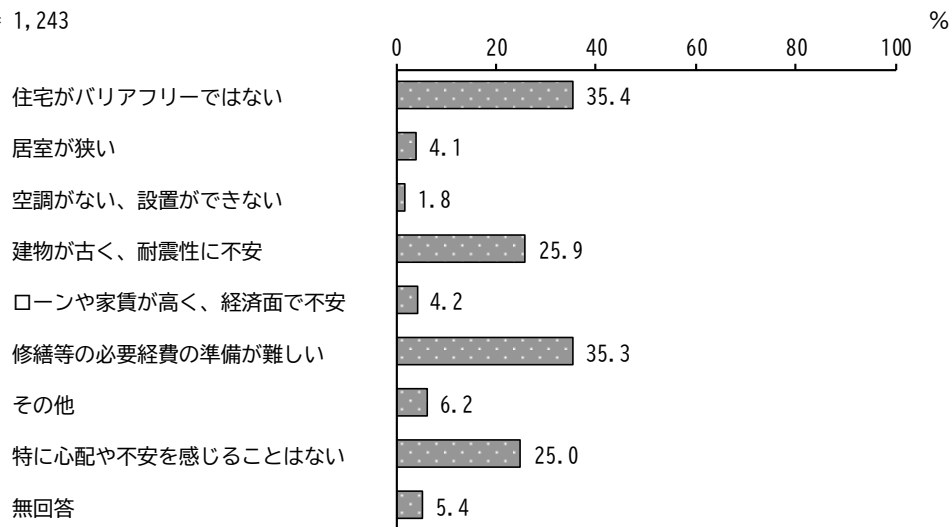
圏域別にみると、大きな差はみられません。



(5) 現在の住まいについて、今後も住み続けるにあたり、心配や不安に思うことはありますか（〇はいくつでも）

「住宅がバリアフリーではない」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「修繕等の必要経費の準備が難しい」の割合が 35.3%、「建物が古く、耐震性に不安」の割合が 25.9%となっています。

回答者数 = 1,243



【性別】

性別にみると、男性で「修繕等の必要経費の準備が難しい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	住宅がバリアフリーではない	居室が狭い	空調がない、設置ができない	建物が古く、耐震性に不安	ローンや家賃が高く、経済面で不安	修繕等の必要経費の準備が難しい	その他	特に心配や不安を感じることはない	無回答
全 体	1,243	35.4	4.1	1.8	25.9	4.2	35.3	6.2	25.0	5.4
男性	567	36.5	3.4	1.6	25.2	4.1	38.6	4.1	24.2	3.4
女性	646	35.0	4.6	1.9	26.5	4.5	32.8	7.9	25.4	7.1

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「住宅がバリアフリーではない」「修繕等の必要経費の準備が難しい」の割合が高い傾向にあり、70～74歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「建物が古く、耐震性に不安」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住宅がバリアフリー ではない	居室が狭い	空調がない、設置が できない	建物が古く、耐震性 に不安	ローンや家賃が高 く、経済面で不安	修繕等の必要経費 の準備が難しい	その他	特に心配や不安を 感じることはない	無回答
全 体	1,243	35.4	4.1	1.8	25.9	4.2	35.3	6.2	25.0	5.4
65～69歳	287	39.0	4.5	1.0	23.7	5.9	39.7	5.9	22.6	3.5
70～74歳	340	36.8	3.5	1.8	23.5	5.6	36.5	5.6	23.2	4.4
75～79歳	328	36.3	4.0	2.4	25.0	2.4	35.1	5.8	28.4	5.5
80～84歳	162	32.7	4.9	0.6	29.0	2.5	32.1	5.6	27.8	9.9
85～89歳	75	25.3	4.0	2.7	41.3	2.7	30.7	10.7	21.3	5.3
90歳以上	22	22.7	0.0	4.5	27.3	4.5	9.1	9.1	31.8	9.1

【圏域別】

圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で「住宅がバリアフリーではない」、富ヶ丘・日吉台圏域で「建物が古く、耐震性に不安」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住宅がバリアフリー ではない	居室が狭い	空調がない、設置が できない	建物が古く、耐震性 に不安	ローンや家賃が高 く、経済面で不安	修繕等の必要経費 の準備が難しい	その他	特に心配や不安を 感じることはない	無回答
全 体	1,243	35.4	4.1	1.8	25.9	4.2	35.3	6.2	25.0	5.4
東向陽台・成田圏域	365	27.9	2.7	0.8	17.0	3.6	34.5	6.8	29.3	6.6
富ヶ丘・日吉台圏域	400	39.3	4.5	1.8	31.0	4.8	36.5	4.5	23.5	3.5
富谷中央・あけの平圏域	393	41.0	4.6	2.3	30.8	3.3	35.9	6.4	21.9	5.9

【調査結果のまとめ】

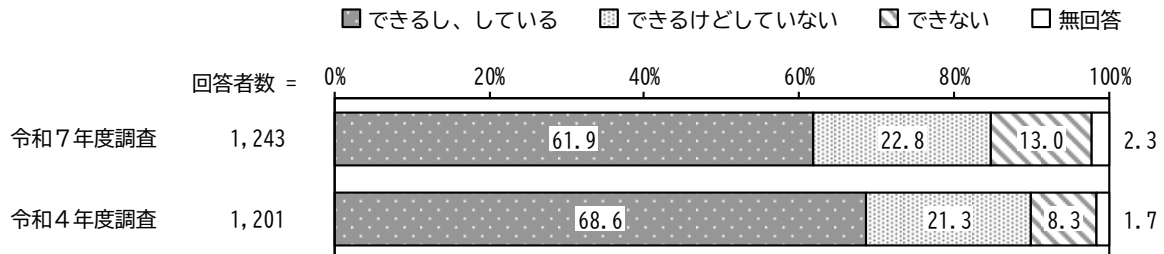
- 家族構成は「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 41.5%と最も高く、「1人暮らし」（11.0%）と合わせた高齢者のみ世帯が過半数を占めています。
- 経済状況については、33.2%が「苦しい」と感じており、特に年齢が下がるほどその割合が高い傾向にあります。
- 現在の住まいの不安は「住宅がバリアフリーではない」（35.4%）、「修繕費の準備が難しい」（35.3%）が上位です。
- 高齢者のみ世帯が主流となる中、住まいの老朽化やバリアフリー化への経済的不安が顕在化しており、在宅生活の継続に向けた住環境整備支援の検討が課題であると考えられます。

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(○は1つ)

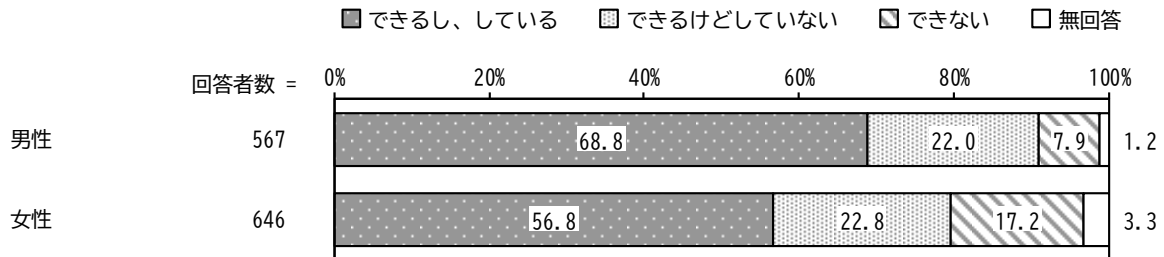
「できるし、している」の割合が61.9%、「できるけどしていない」の割合が22.8%、「できない」の割合が13.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」の割合が減少しています。



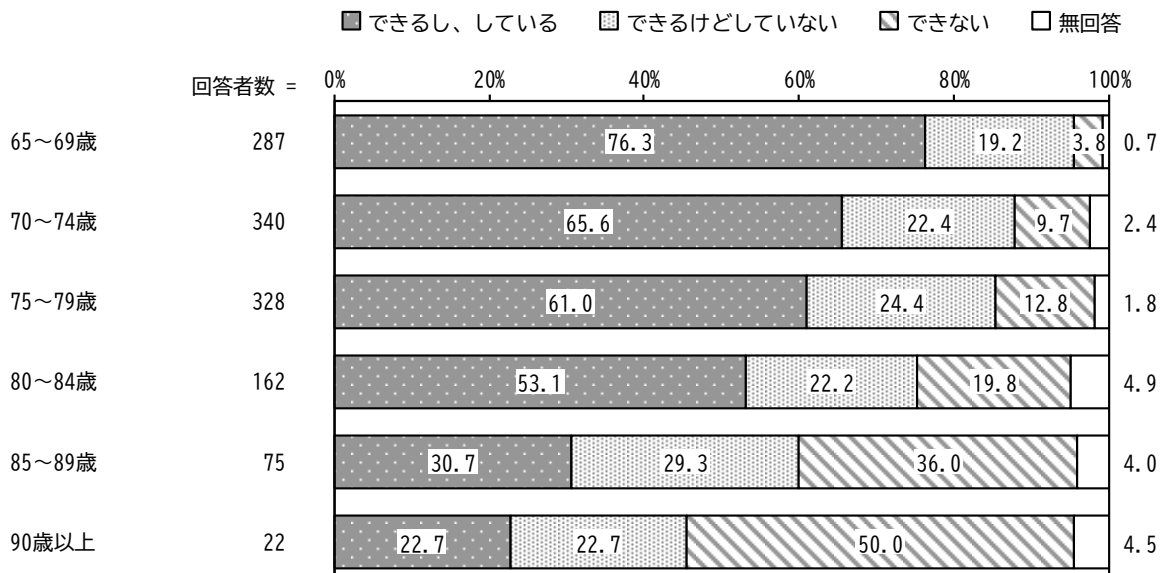
【性別】

性別にみると、男性で「できるし、している」の割合が高く、女性で「できない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

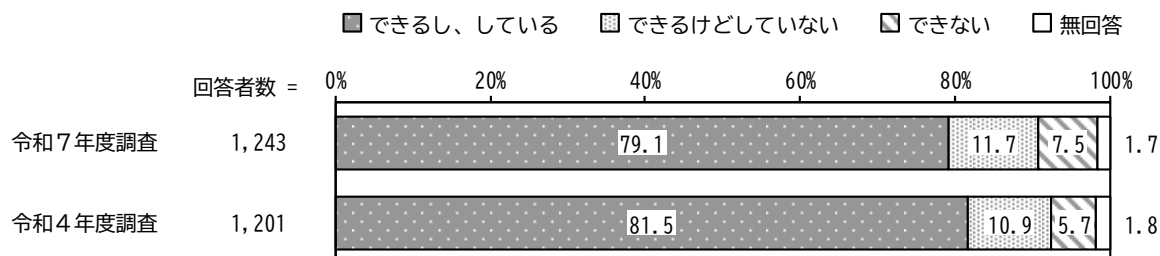
年齢別にみると、年齢が上がるほど「できない」の割合が高く、「できるし、している」の割合が低くなっています。



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (〇は1つ)

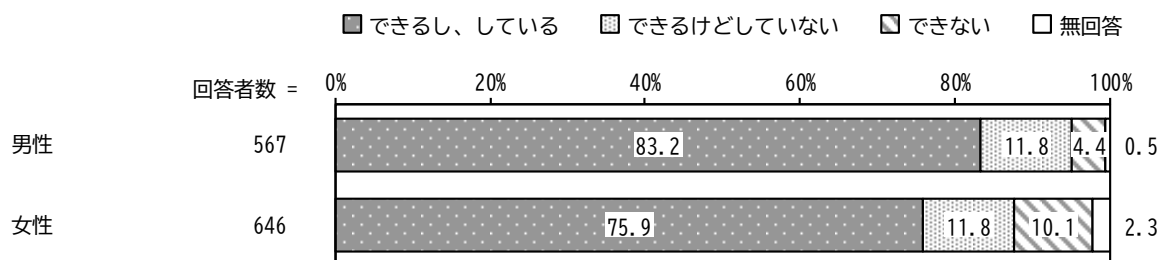
「できるし、している」の割合が 79.1%、「できるけどしていない」の割合が 11.7%、「できない」の割合が 7.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



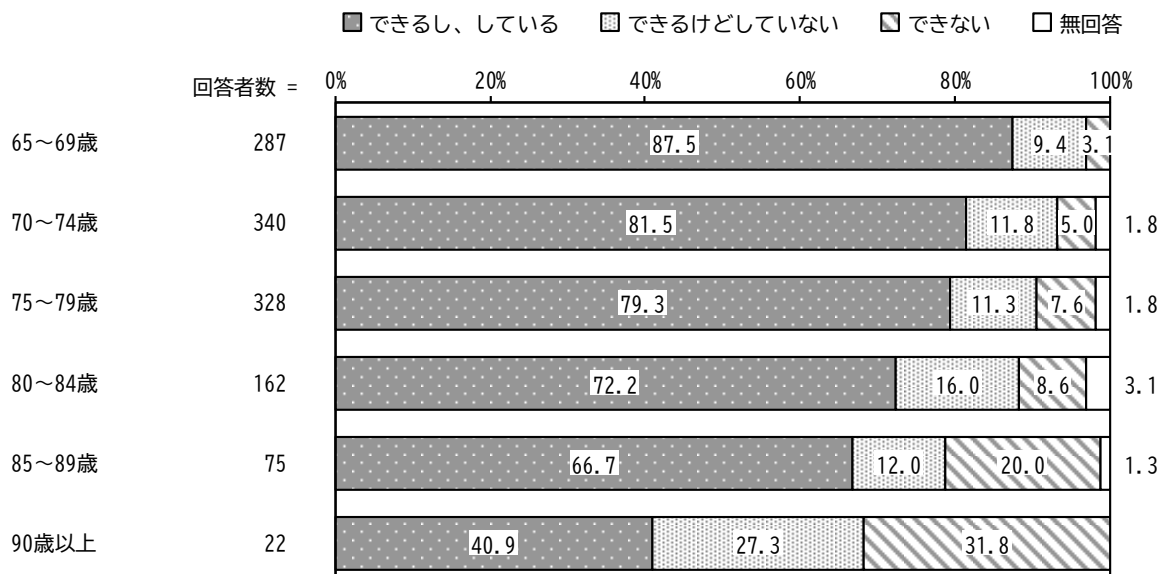
【性別】

性別にみると、男性で「できるし、している」の割合が高く、女性で「できない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

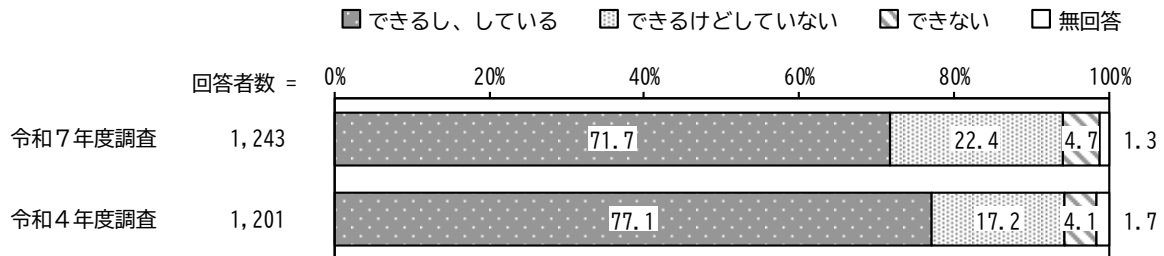
年齢別にみると、年齢が上がるほど「できない」の割合が高く、「できるし、している」の割合が低くなっています。また、90歳以上で「できるけどしていない」の割合が高くなっています。



(3) 15分位続けて歩いていますか(○は1つ)

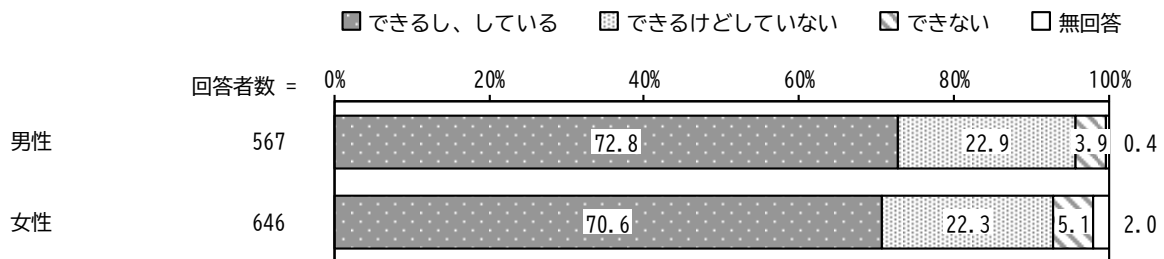
「できるし、している」の割合が71.7%、「できるけどしていない」の割合が22.4%、「できない」の割合が4.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「できるけどしていない」の割合が増加しています。一方、「できるし、している」の割合が減少しています。



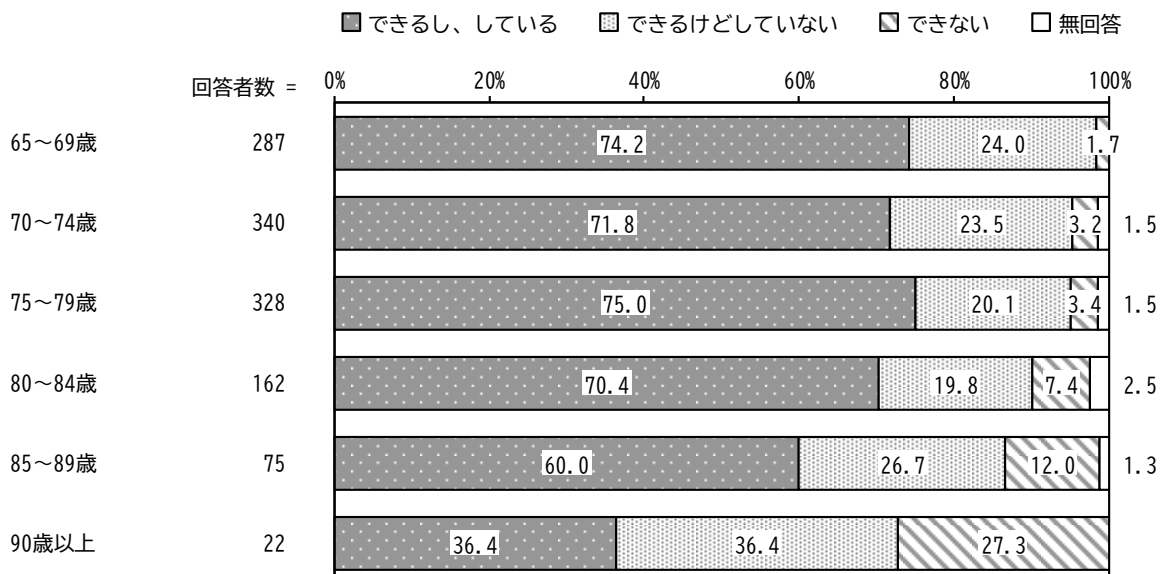
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



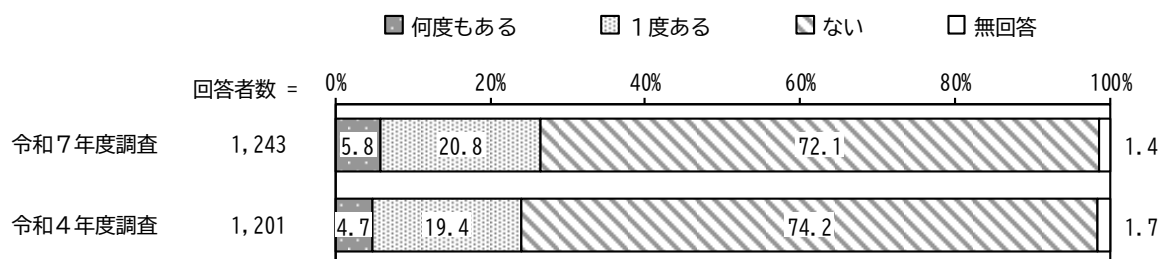
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「できない」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「できるけどしていない」の割合が高く、「できるし、している」の割合が低くなっています。



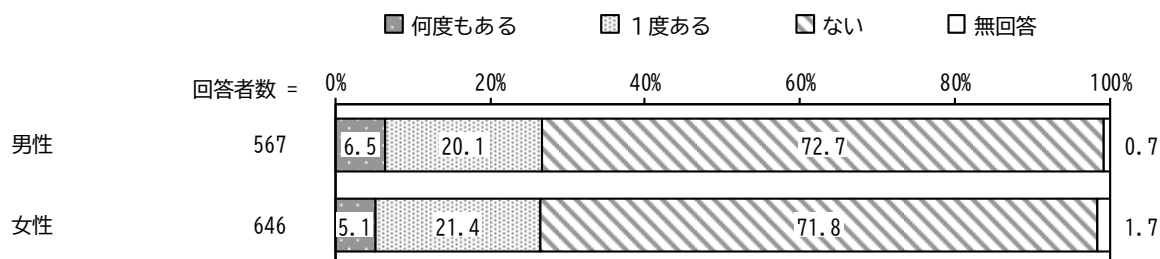
（４）過去１年間に転んだ経験がありますか（○は１つ）

「何でもある」の割合が 5.8%、「１度ある」の割合が 20.8%、「ない」の割合が 72.1%となっています。
令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



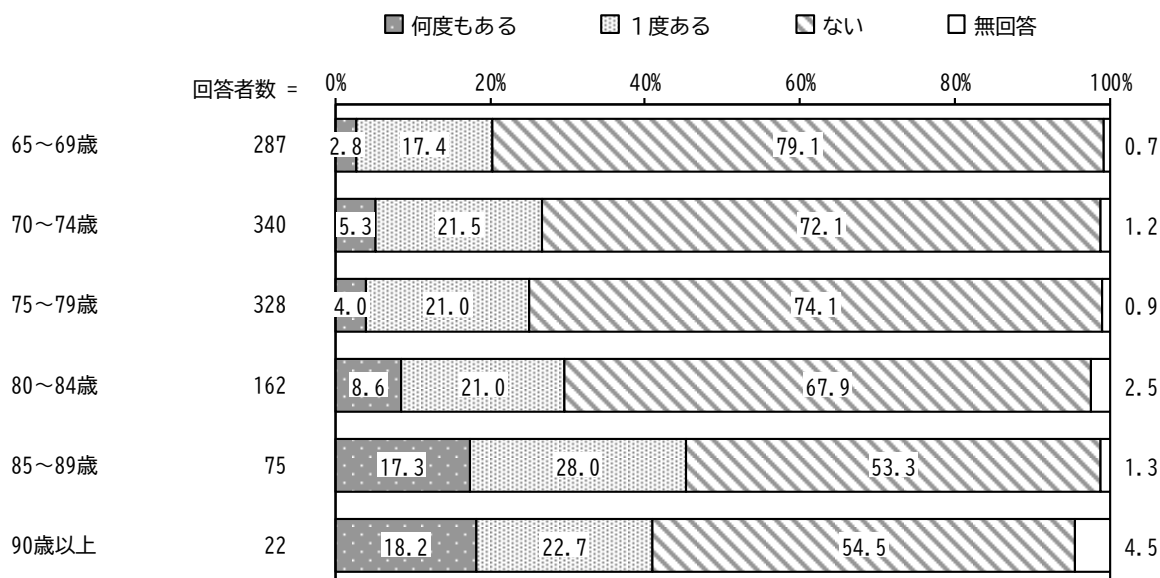
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

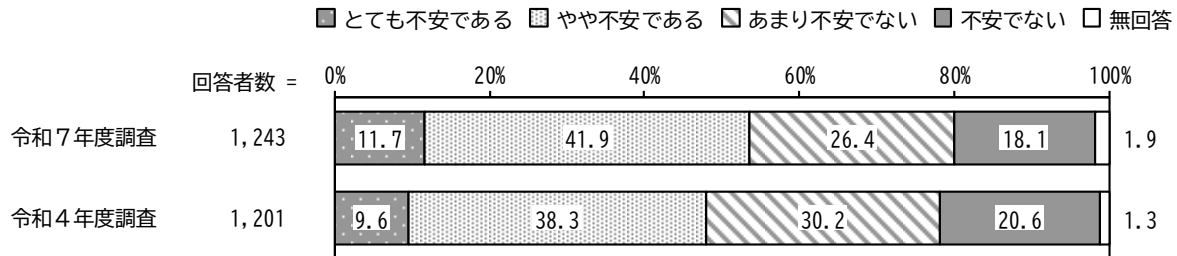
年齢別にみると、年齢が上がるほど「何でもある」の割合が高い傾向にあります。また、85～89歳、90歳以上で「ない」の割合が低くなっています。



(5) 転倒に対する不安は大きいですか (○は1つ)

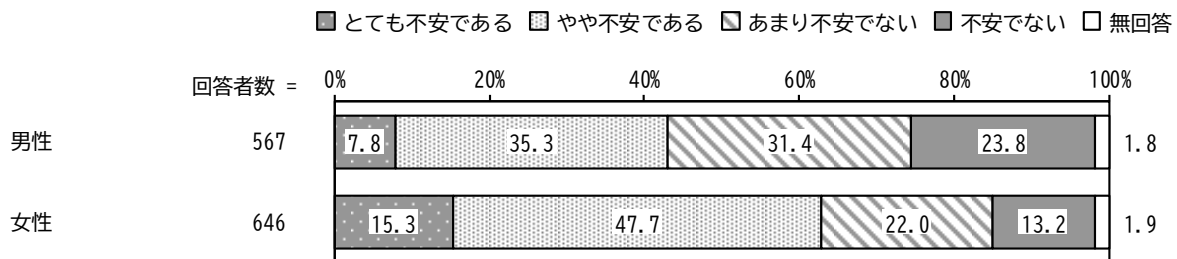
「やや不安である」の割合が41.9%と最も高く、次いで「あまり不安でない」の割合が26.4%、「不安でない」の割合が18.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



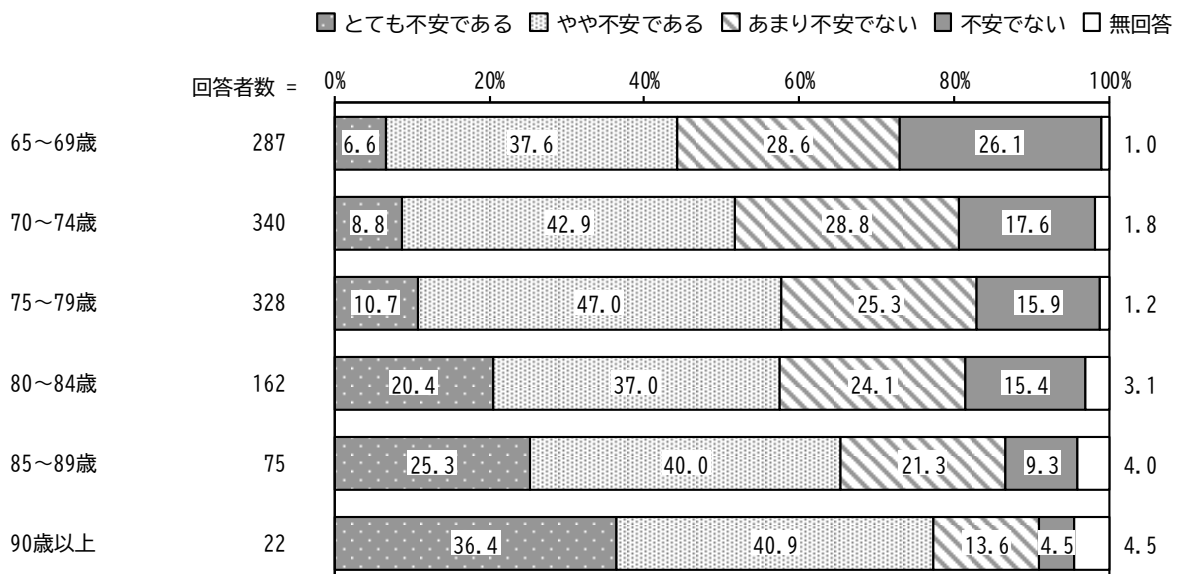
【性別】

性別にみると、男性で「あまり不安でない」「不安でない」の割合が高く、女性で「とても不安である」「やや不安である」の割合が高くなっています。



【年齢別】

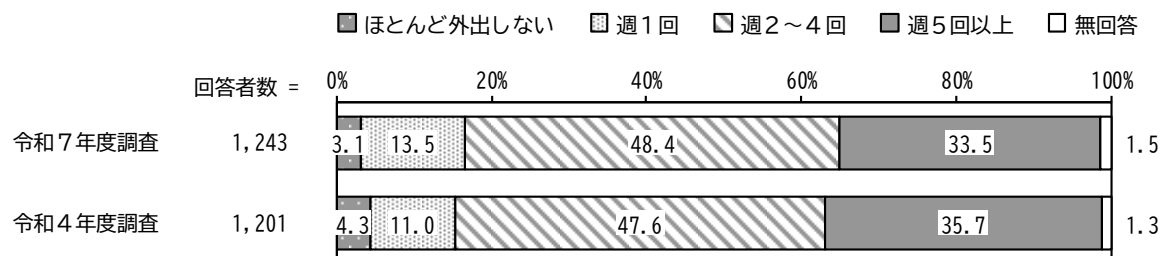
年齢別にみると、年齢が上がるほど「とても不安である」の割合が高く、「不安でない」の割合が低く、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「あまり不安でない」の割合が高くなっています。



(6) 週に1回以上は外出していますか(○は1つ)

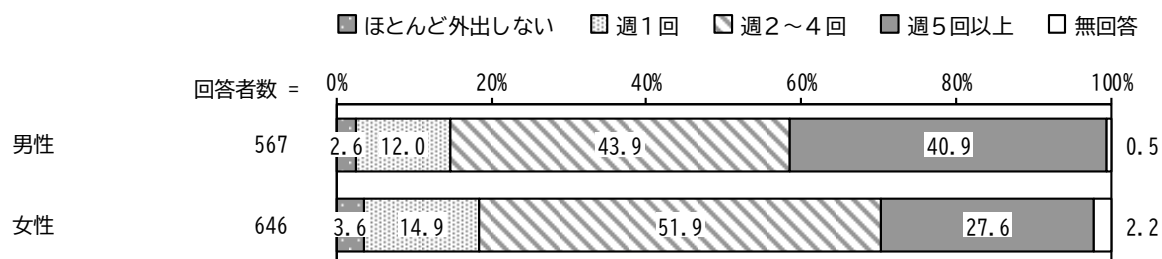
「週2～4回」の割合が48.4%と最も高く、次いで「週5回以上」の割合が33.5%、「週1回」の割合が13.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



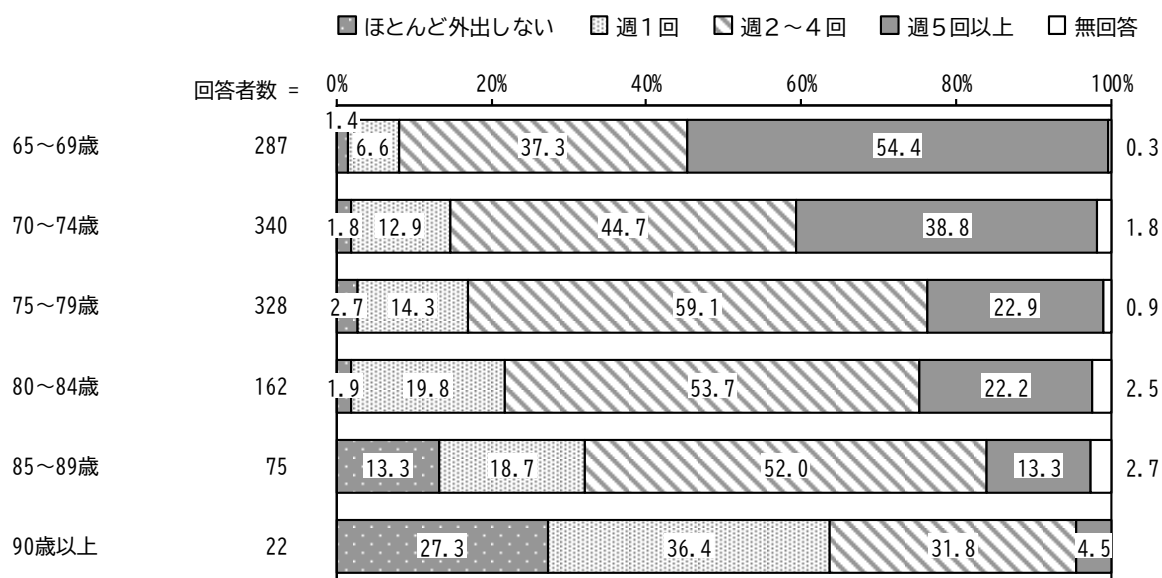
【性別】

性別にみると、男性で「週5回以上」の割合が高く、女性で「週2～4回」の割合が高くなっています。



【年齢別】

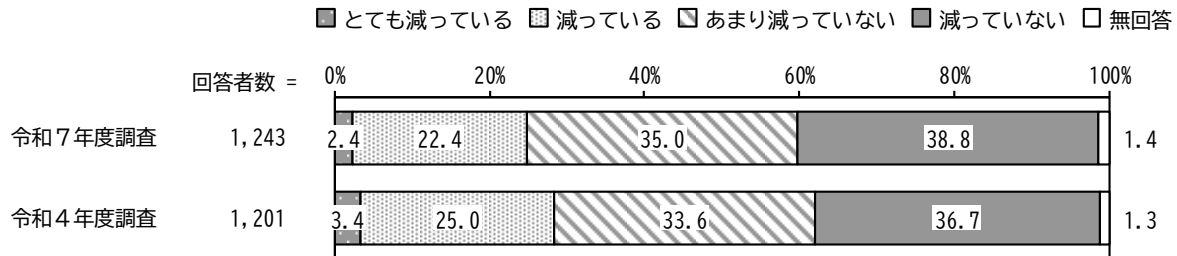
年齢別にみると、年齢が上がるほど「ほとんど外出しない」「週1回」の割合が高い傾向にあり、「週5回以上」の割合が低く、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「週2～4回」の割合が高くなっています。



(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○は1つ)

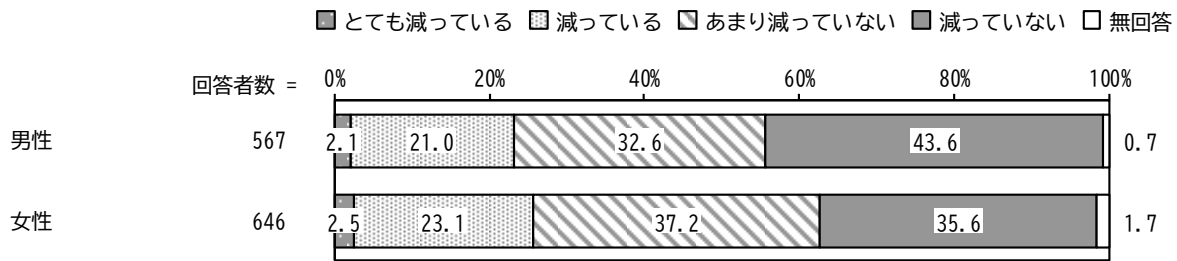
「減っていない」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「あまり減っていない」の割合が 35.0%、「減っている」の割合が 22.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



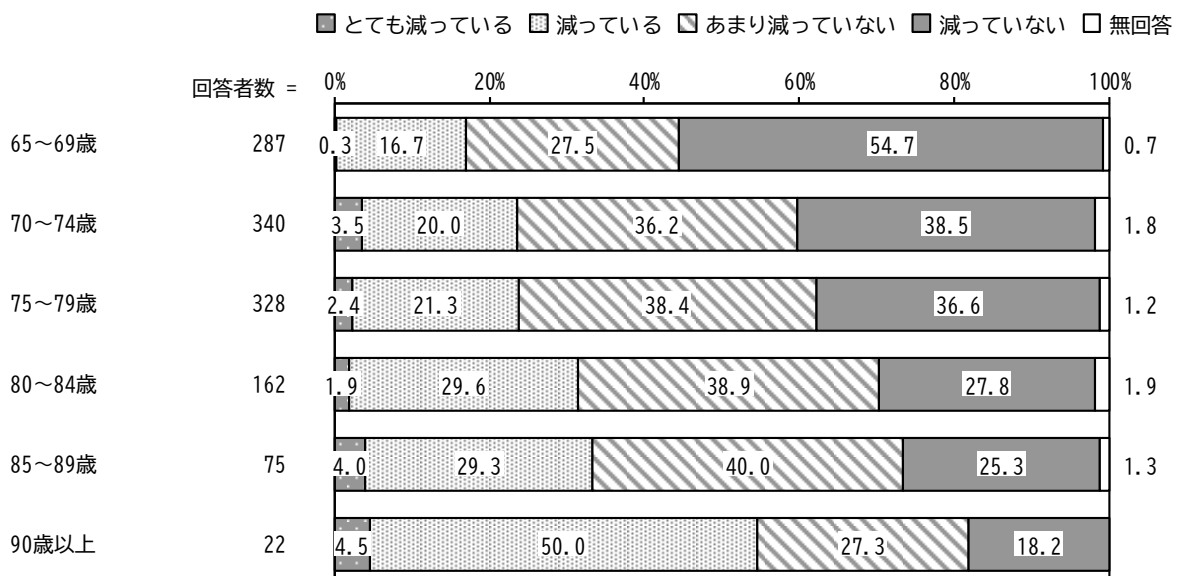
【性別】

性別にみると、男性で「減っていない」の割合が高くなっています。



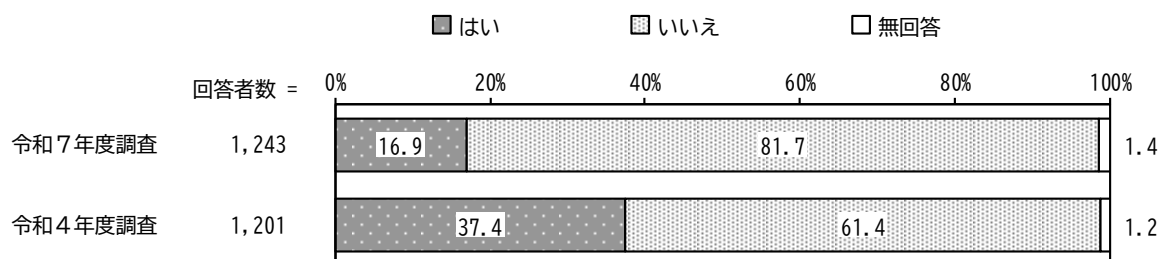
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「減っている」の割合が高い傾向にあり、「減っていない」の割合が低く、65～69 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「あまり減っていない」の割合が高くなっています。



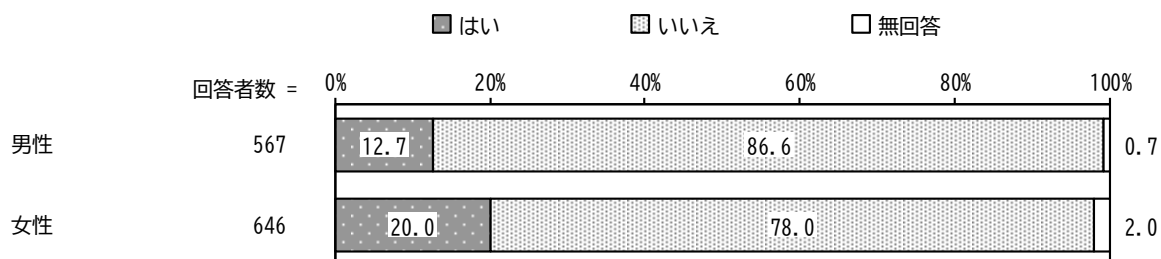
(8) 外出を控えていますか (○は1つ)

「はい」の割合が16.9%、「いいえ」の割合が81.7%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「はい」の割合が減少しています。



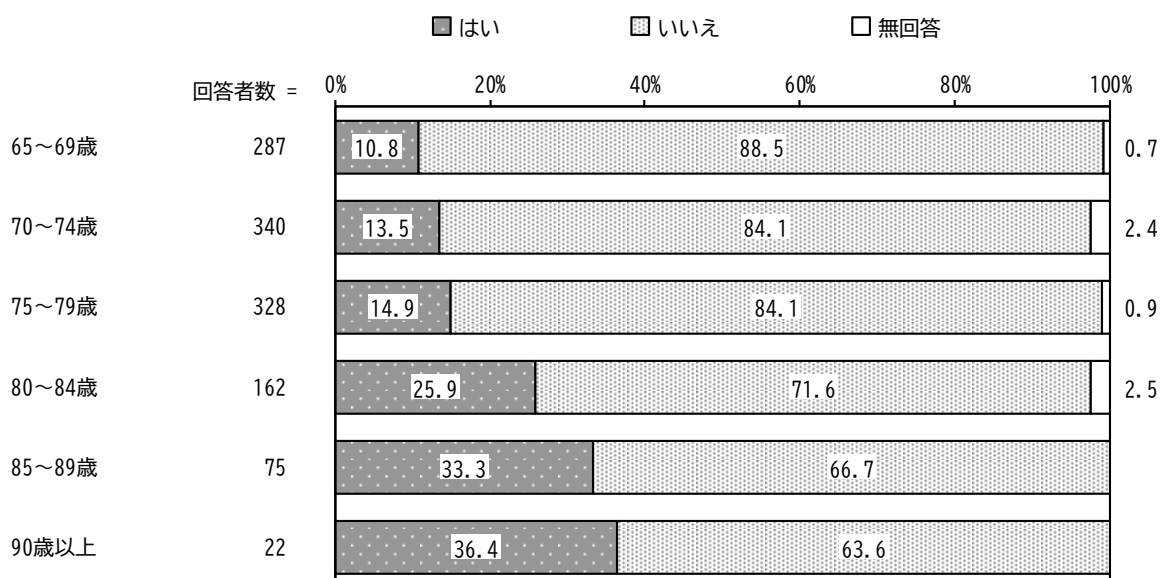
【性別】

性別にみると、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。

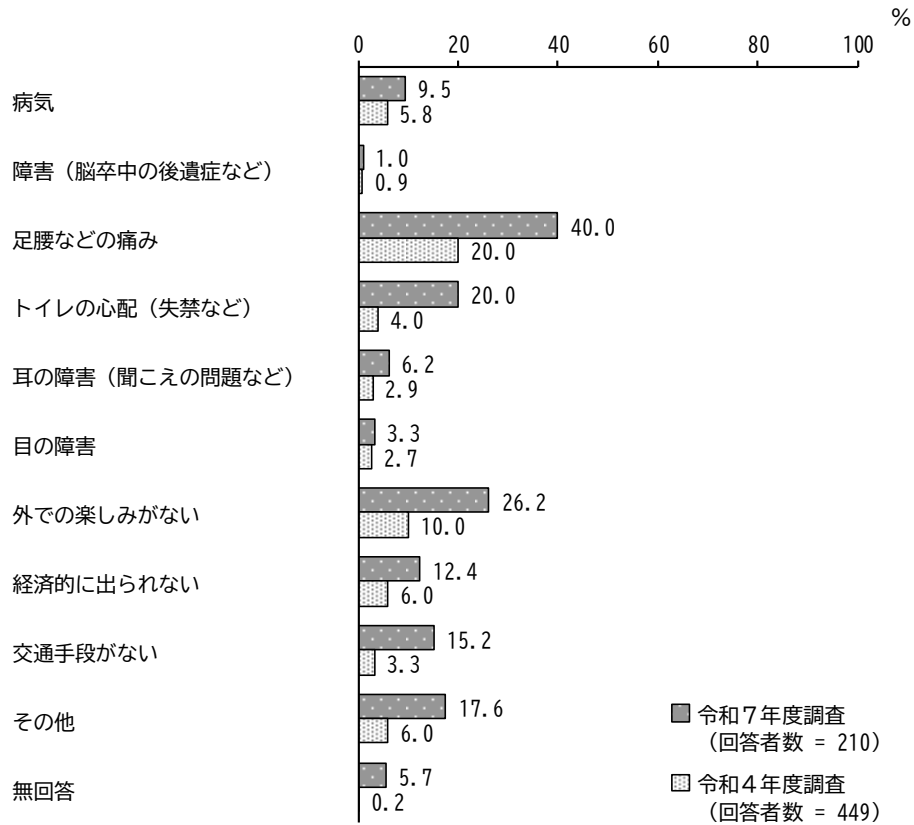


【(8)で「はい」(外出を控えている)と回答した方のみ】

① 外出を控えている理由は、次のどれですか(○はいいくつでも)

「足腰などの痛み」の割合が40.0%と最も高く、次いで「外での楽しみがない」の割合が26.2%、「トイレの心配(失禁など)」の割合が20.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「足腰などの痛み」「トイレの心配(失禁など)」「外での楽しみがない」「経済的に出られない」「交通手段がない」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、男性で「目の障害」の割合が高く、女性で「足腰などの痛み」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	病気	障害(脳卒中の後遺症など)	足腰などの痛み	トイレの心配(失禁など)	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
全 体	210	9.5	1.0	40.0	20.0	6.2	3.3	26.2	12.4	15.2	17.6	5.7
男性	72	11.1	2.8	31.9	22.2	6.9	6.9	29.2	13.9	13.9	13.9	8.3
女性	129	8.5	0.0	44.2	19.4	5.4	1.6	25.6	11.6	17.1	18.6	4.7

【年齢別】

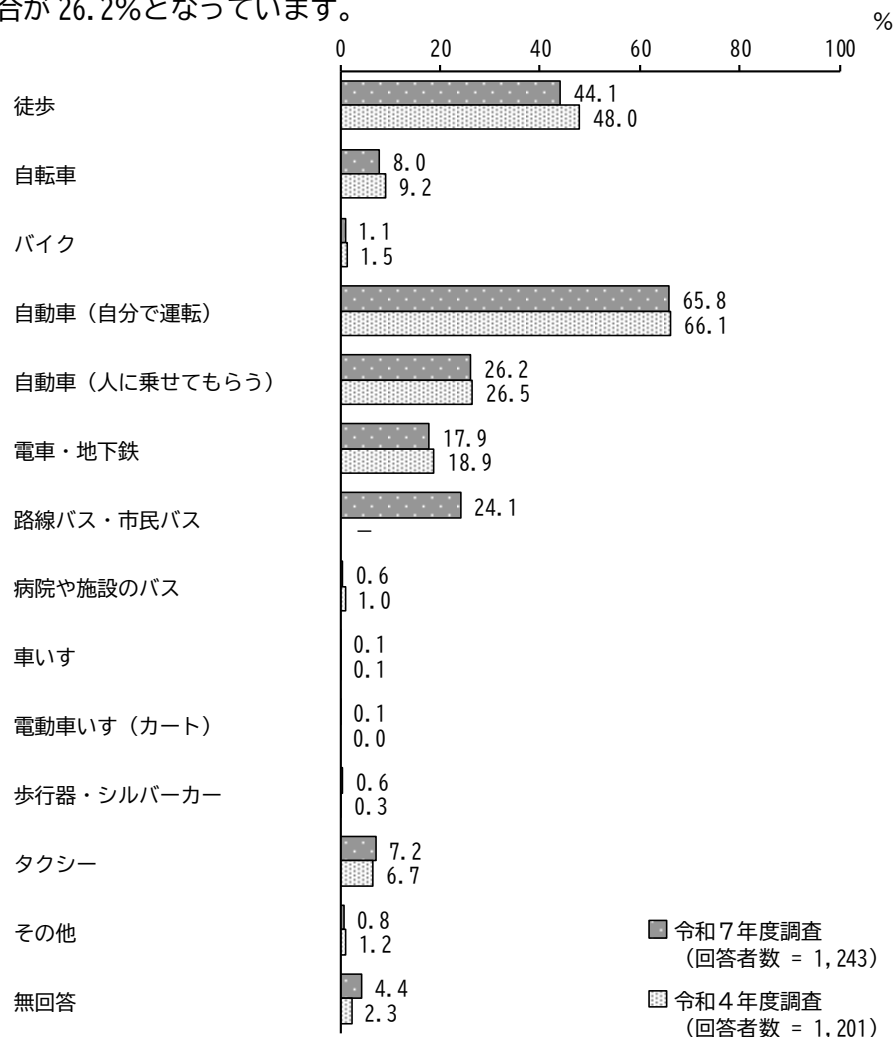
年齢別にみると、年齢が上がるほど「交通手段がない」の割合が高く、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「外での楽しみがない」「経済的に出られない」の割合が高い傾向にあり、「耳の障害（聞こえの問題など）」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	無 回 答
全 体	210	9.5	1.0	40.0	20.0	6.2	3.3	26.2	12.4	15.2	17.6	5.7
65～69歳	31	6.5	0.0	25.8	9.7	6.5	3.2	35.5	19.4	3.2	32.3	3.2
70～74歳	46	10.9	0.0	26.1	19.6	0.0	4.3	37.0	19.6	8.7	15.2	6.5
75～79歳	49	10.2	2.0	46.9	18.4	6.1	2.0	28.6	10.2	12.2	18.4	2.0
80～84歳	42	11.9	2.4	50.0	33.3	7.1	2.4	21.4	7.1	23.8	9.5	7.1
85～89歳	25	12.0	0.0	44.0	20.0	8.0	4.0	12.0	8.0	32.0	12.0	8.0
90歳以上	8	0.0	0.0	62.5	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	37.5	12.5	12.5

(9) 外出する際の移動手段は何ですか（○はいくつでも）

「自動車（自分で運転）」の割合が65.8%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が44.1%、「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が26.2%となっています。



※令和4年度調査では、「路線バス・市民バス」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「自動車（自分で運転）」の割合が高く、女性で「自動車（人に乗せてもらう）」「路線バス・市民バス」「タクシー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車・地下鉄	路線バス・市民バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カー）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全 体	1,243	44.1	8.0	1.1	65.8	26.2	17.9	24.1	0.6	0.1	0.1	0.6	7.2	0.8	4.4
男性	567	42.9	9.2	1.8	84.8	10.9	15.5	20.5	0.4	0.0	0.0	0.2	4.2	0.4	3.9
女性	646	45.2	7.1	0.5	49.2	40.1	20.0	27.4	0.9	0.0	0.0	0.9	9.3	1.2	5.0

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「自動車（自分で運転）」の割合が高く、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車・地下鉄	路線バス・市民バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カー）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全 体	1,243	44.1	8.0	1.1	65.8	26.2	17.9	24.1	0.6	0.1	0.1	0.6	7.2	0.8	4.4
65～69歳	287	38.3	8.0	2.1	81.2	22.3	17.1	18.1	0.7	0.0	0.0	0.0	3.1	0.3	5.2
70～74歳	340	41.8	8.2	1.5	75.9	21.8	17.4	20.3	0.3	0.0	0.0	0.0	3.2	0.6	4.4
75～79歳	328	51.8	7.6	0.3	62.5	27.1	21.0	27.1	0.0	0.0	0.0	0.3	6.1	0.6	2.4
80～84歳	162	44.4	10.5	0.6	47.5	30.9	19.1	33.3	0.6	0.0	0.0	2.5	14.2	0.6	6.8
85～89歳	75	48.0	6.7	0.0	32.0	41.3	9.3	33.3	4.0	1.3	1.3	4.0	24.0	4.0	2.7
90歳以上	22	31.8	0.0	0.0	9.1	59.1	13.6	22.7	4.5	0.0	0.0	0.0	18.2	4.5	13.6

【圏域別】

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で「徒歩」「電車・地下鉄」「路線バス・市民バス」の割合が高くなっています。

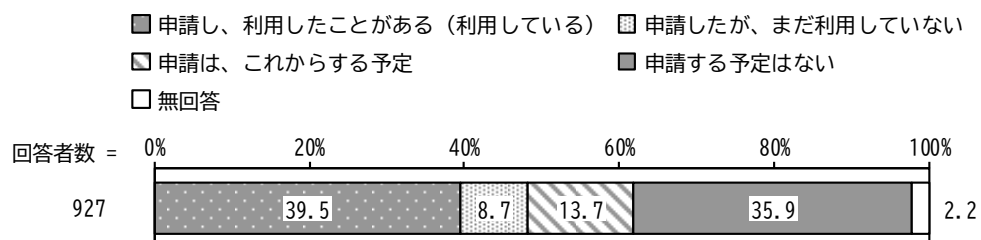
単位：％

区分	回答者数（件）	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車・地下鉄	路線バス・市民バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カー）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全 体	1,243	44.1	8.0	1.1	65.8	26.2	17.9	24.1	0.6	0.1	0.1	0.6	7.2	0.8	4.4
東向陽台・成田圏域	365	50.7	7.7	1.4	65.5	25.5	27.7	32.9	1.1	0.0	0.0	0.8	7.9	0.5	4.1
富ヶ丘・日吉台圏域	400	47.3	7.8	1.5	65.8	26.3	16.8	25.0	0.3	0.3	0.3	0.8	9.0	1.0	3.5
富谷中央・あけの平圏域	393	33.8	7.9	0.3	68.7	26.2	11.2	16.5	0.5	0.0	0.0	0.3	4.3	0.5	4.6

【70 歳以上の方のみ】

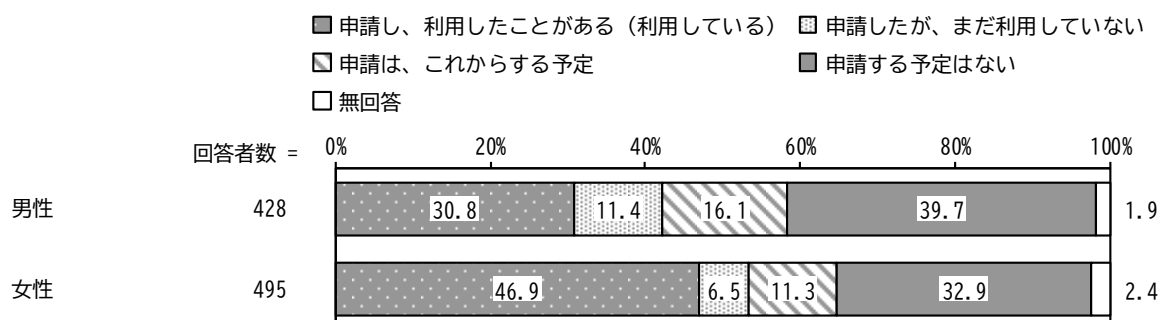
(10) とみばすの利用の申請をしましたか。また、実際に利用はしていますか。(○は1つ)

「申請し、利用したことがある（利用している）」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「申請する予定はない」の割合が 35.9%、「申請は、これからする予定」の割合が 13.7%となっています。



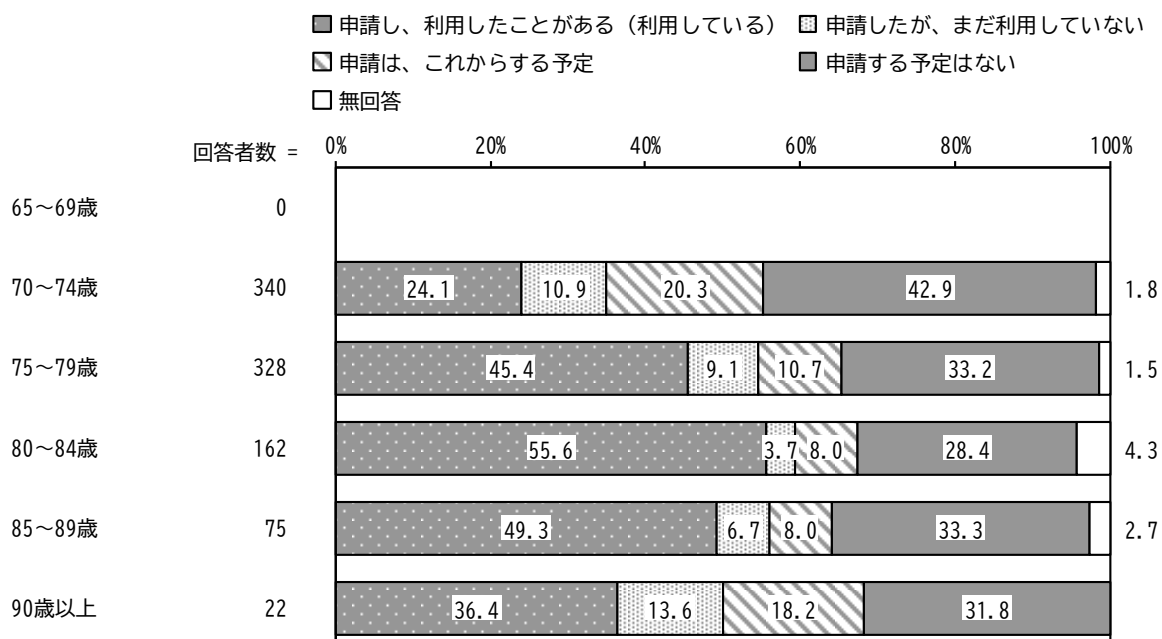
【性別】

性別にみると、男性で「申請する予定はない」の割合が高く、女性で「申請し、利用したことがある（利用している）」の割合が高くなっています。



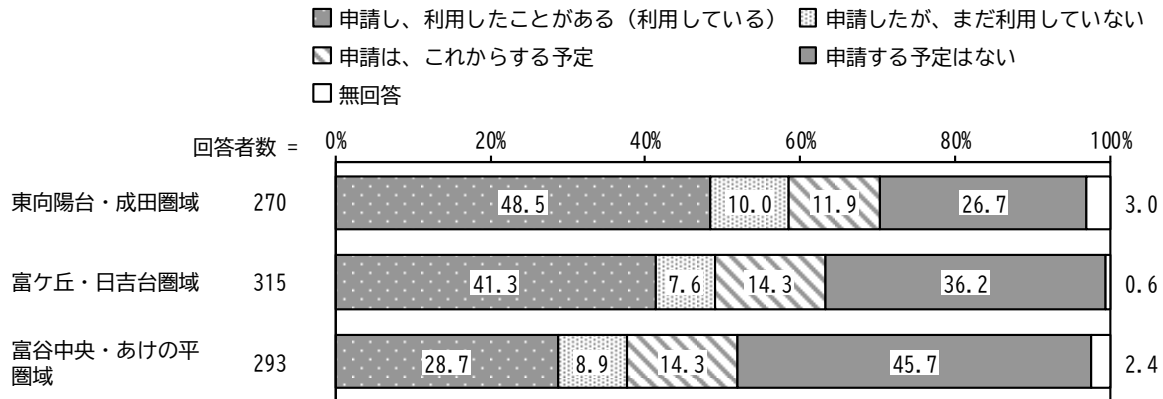
【年齢別】

年齢別にみると、65～69 歳から 80～84 歳まで年齢が上がるほど「申請し、利用したことがある（利用している）」の割合が高くなっています。



【圏域別】

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で「申請し、利用したことがある（利用している）」、富谷中央・あけの平圏域で「申請する予定はない」の割合が高くなっています。

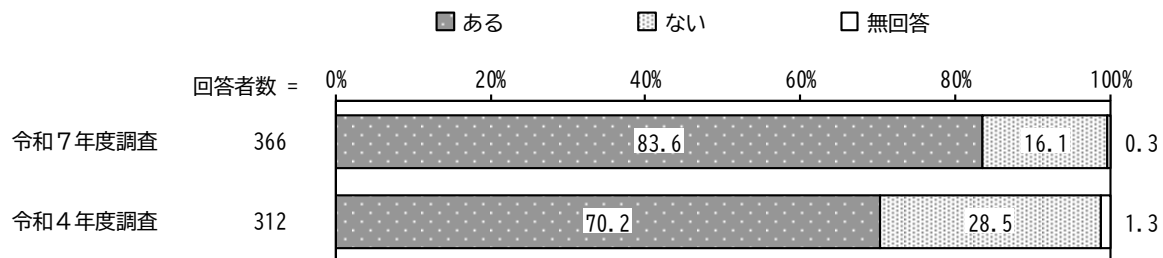


【(10) で「申請し、利用したことがある（利用している）」と回答した方のみ】

① とみばすの入金申請をしたことがありますか。（○は1つ）

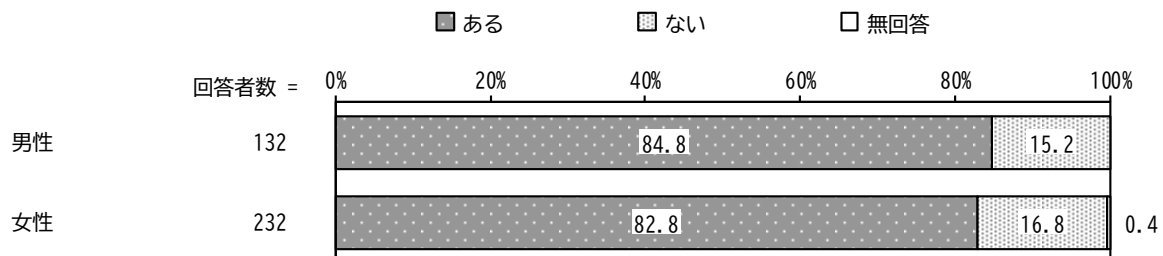
「ある」の割合が 83.6%、「ない」の割合が 16.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「ある」の割合が増加しています。



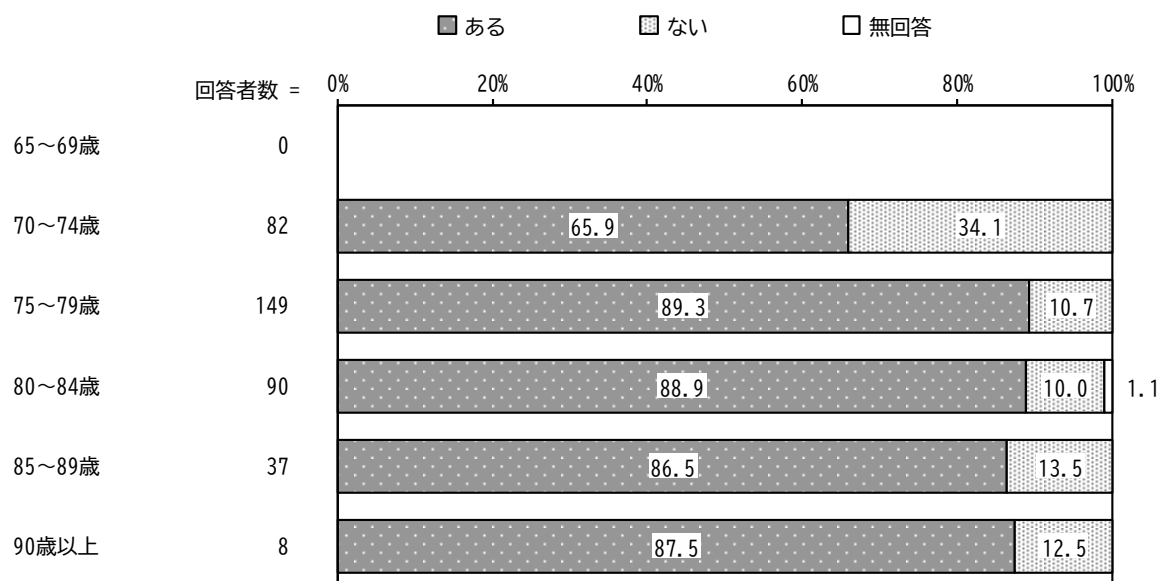
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



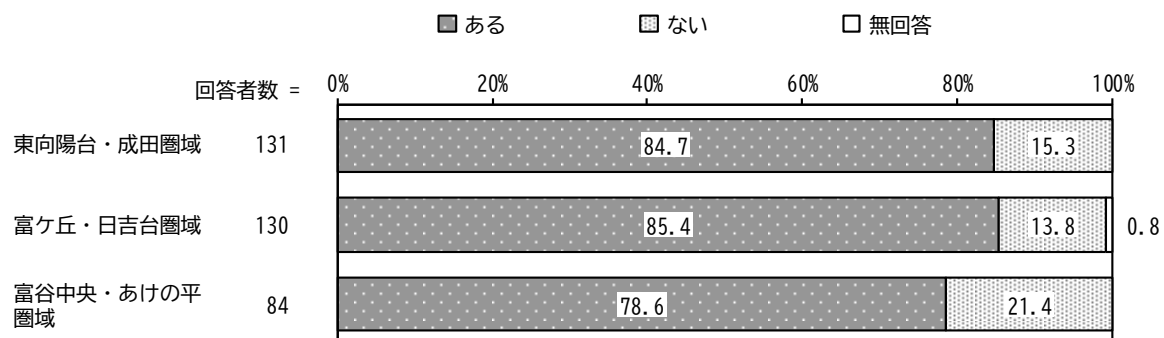
【年齢別】

年齢別にみると、80～84 歳から 70～74 歳まで年齢が下がるほど「ない」の割合が高くなっています。



【圏域別】

圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で「ない」の割合が高くなっています。

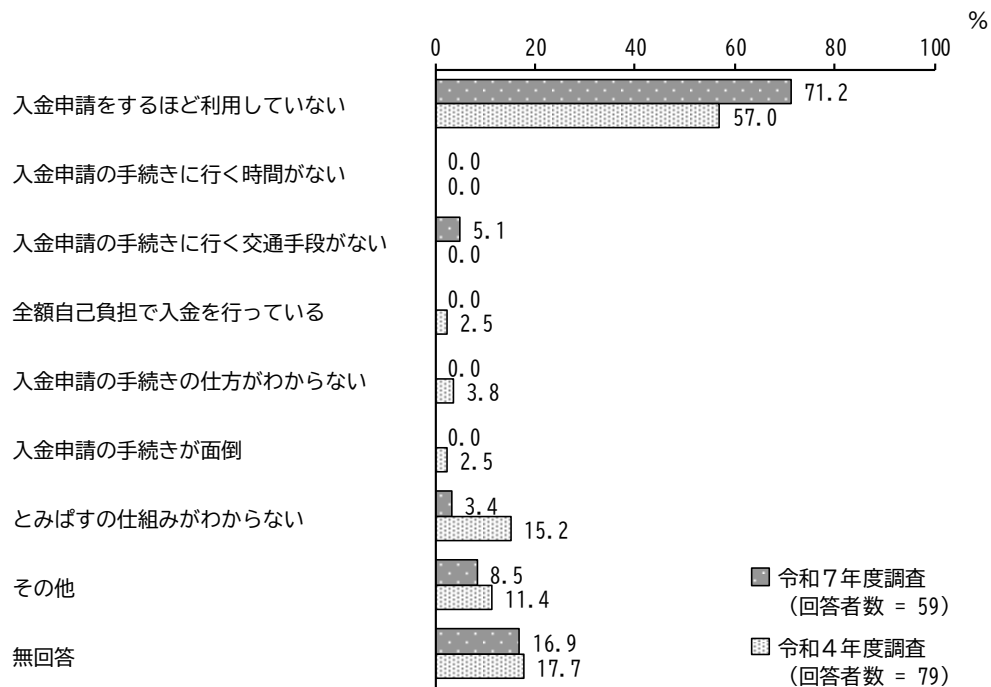


【(10) ①で「ない」と回答した方のみ】

② 入金申請（市役所・出張所窓口）をしていない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「入金申請をするほど利用していない」の割合が71.2%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「入金申請をするほど利用していない」「入金申請の手続きに行く交通手段がない」の割合が増加しています。一方、「とみばすの仕組みがわからない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「入金申請をするほど利用していない」の割合が高く、女性で「入金申請の手続きに行く交通手段がない」「とみばすの仕組みがわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	入金申請をするほど利用していない	入金申請の手続きに行く時間がない	入金申請の手続きに行く交通手段がない	全額自己負担で入金を行っている	入金申請の手続きの仕方がわからない	入金申請の手続きが面倒	とみばすの仕組みがわからない	その他	無回答
全 体	59	71.2	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	3.4	8.5	16.9
男性	20	85.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0
女性	39	64.1	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	5.1	10.3	20.5

【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「入金申請の手続きに行く交通手段がない」の割合が高く、80～84歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「入金申請をするほど利用していない」の割合が高くなっています。また、75～79歳で「入金申請をするほど利用していない」「とみばすの仕組みがわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	入金申請をするほど 利用していない	入金申請の手続き に行く時間がない	入金申請の手続き に行く交通手段が ない	全額自己負担で入 金を行っている	入金申請の手続き の仕方がわからな い	入金申請の手続き が面倒	とみばすの仕組 みがわからない	その他	無回答
全 体	59	71.2	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	3.4	8.5	16.9
65～69歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	28	71.4	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
75～79歳	16	81.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
80～84歳	9	55.6	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
85～89歳	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
90歳以上	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【圏域別】

圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域、富谷中央・あけの平圏域で「入金申請をするほど利用していない」、富谷中央・あけの平圏域で「入金申請の手続きに行く交通手段がない」の割合が高くなっています。

単位：％

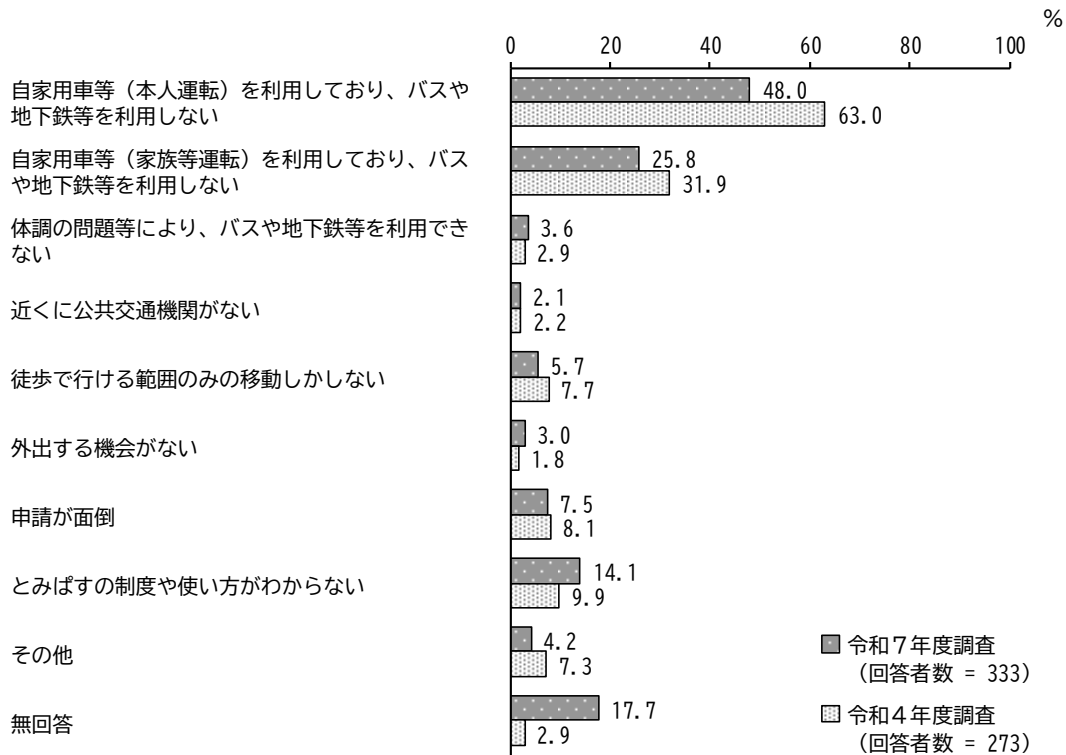
区分	回答者数 (件)	入金申請をするほど 利用していない	入金申請の手続き に行く時間がない	入金申請の手続き に行く交通手段が ない	全額自己負担で入 金を行っている	入金申請の手続き の仕方がわからな い	入金申請の手続き が面倒	とみばすの仕組 みがわからない	その他	無回答
全 体	59	71.2	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	3.4	8.5	16.9
東向陽台・成田圏域	20	60.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	25.0
富ヶ丘・日吉台圏域	18	77.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	22.2
富谷中央・あけの平圏域	18	77.8	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6

【(10) で「申請する予定はない」と回答した方のみ】

③ とみばすを申請しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

「自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が 25.8%、「とみばすの制度や使い方がわからない」の割合が 14.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」「自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が高く、女性で「自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」「徒歩で行ける範囲のみの移動しかない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	体調の問題等により、バスや地下鉄等を利用できない	近くに公共交通機関がない	徒歩で行ける範囲のみの移動しかない	外出する機会がない	申請が面倒	とみばすの制度や使い方がわからない	その他	無回答
全 体	333	48.0	25.8	3.6	2.1	5.7	3.0	7.5	14.1	4.2	17.7
男性	170	60.6	11.2	1.8	1.2	2.4	1.2	6.5	14.7	2.9	20.6
女性	163	35.0	41.1	5.5	3.1	9.2	4.9	8.6	13.5	5.5	14.7

【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が高く、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「申請が面倒」の割合が高くなっています。また、80～84歳、85～89歳で「自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	体調の問題等により、バスや地下鉄等を利用できない	近くに公共交通機関がない	徒歩で行ける範囲のみの移動しかない	外出する機会がない	申請が面倒	とみばすの制度や使い方がわからない	その他	無回答
全 体	333	48.0	25.8	3.6	2.1	5.7	3.0	7.5	14.1	4.2	17.7
65～69歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	146	56.2	21.2	2.7	0.7	2.7	3.4	6.2	13.0	4.1	18.5
75～79歳	109	45.9	22.0	1.8	4.6	7.3	1.8	11.9	17.4	4.6	18.3
80～84歳	46	43.5	41.3	6.5	0.0	10.9	4.3	4.3	6.5	6.5	10.9
85～89歳	25	28.0	40.0	4.0	0.0	8.0	4.0	4.0	16.0	0.0	20.0
90歳以上	7	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6

【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。

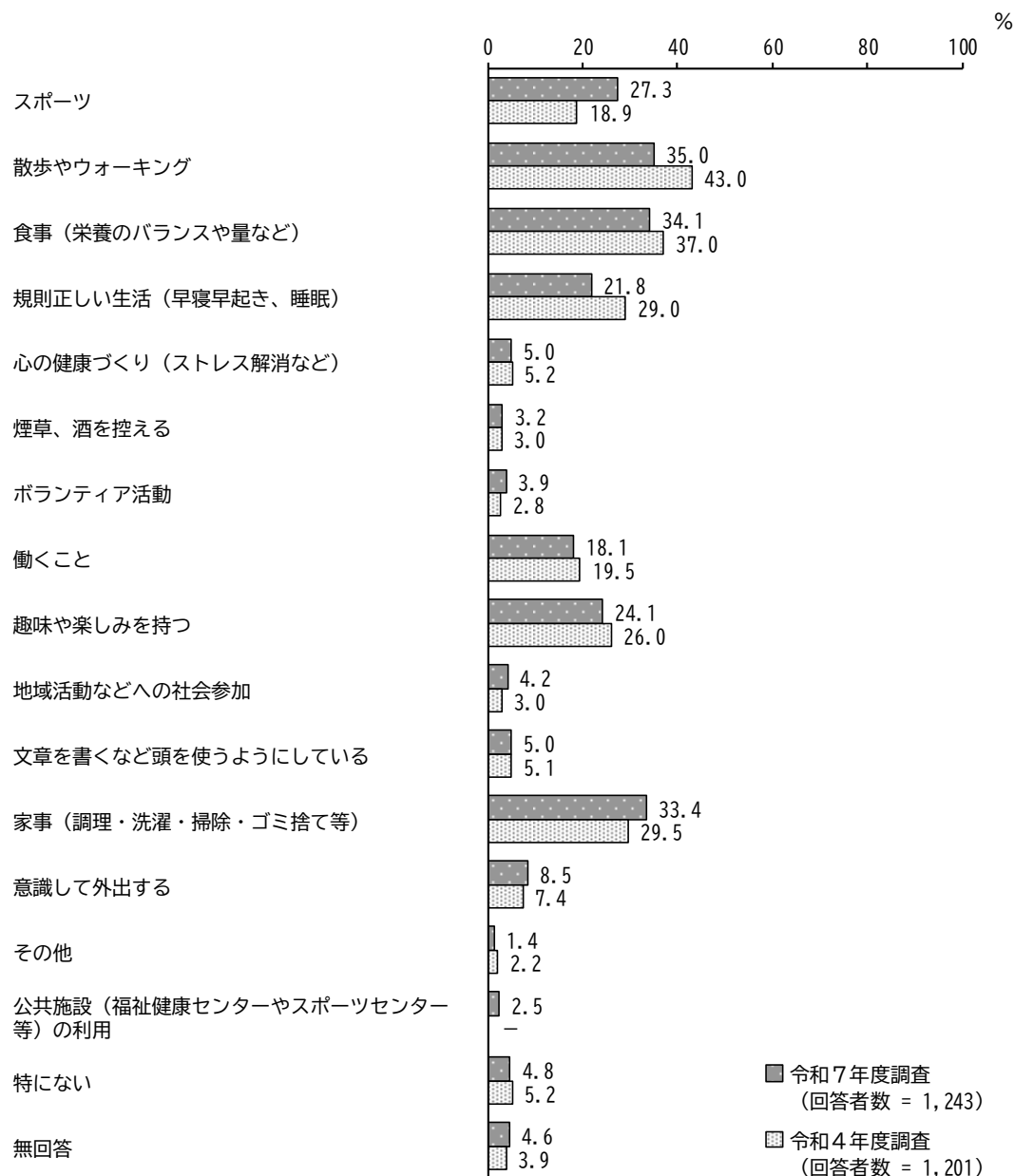
単位：％

区分	回答者数（件）	自家用車等（本人運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	自家用車等（家族等運転）を利用しており、バスや地下鉄等を利用しない	体調の問題等により、バスや地下鉄等を利用できない	近くに公共交通機関がない	徒歩で行ける範囲のみの移動しかない	外出する機会がない	申請が面倒	とみばすの制度や使い方がわからない	その他	無回答
全 体	333	48.0	25.8	3.6	2.1	5.7	3.0	7.5	14.1	4.2	17.7
東向陽台・成田圏域	72	50.0	26.4	4.2	0.0	9.7	1.4	6.9	9.7	4.2	16.7
富ヶ丘・日吉台圏域	114	51.8	26.3	5.3	0.9	5.3	4.4	10.5	15.8	5.3	13.2
富谷中央・あけの平圏域	134	43.3	24.6	2.2	3.7	3.0	3.0	6.0	14.9	3.7	23.9

(11) 介護予防や健康のため、取り組んでいることはありますか（〇は3つまで）

「散歩やウォーキング」の割合が35.0%と最も高く、次いで「食事（栄養のバランスや量など）」の割合が34.1%、「家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）」の割合が33.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「スポーツ」の割合が増加しています。一方、「散歩やウォーキング」「規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用」がありませんでした。

【第2号被保険者対象ニーズ調査との比較】

第2号被保険者調査との比較をみると、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で「スポーツ」「散歩やウォーキング」「家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）」の割合が、第2号被保険者調査で「食事（栄養のバランスや量など）」「規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）」「心の健康づくり（ストレス解消など）」「煙草、酒を控える」「働くこと」「趣味や楽しみを持つ」「意識して外出する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツ	散歩やウォーキング	食事（栄養のバランスや量など）	規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）	心の健康づくり（ストレス解消など）	煙草、酒を控える	ボランティア活動	働くこと
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,243	27.3	35.0	34.1	21.8	5.0	3.2	3.9	18.1
第2号被保険者調査	503	17.5	28.4	41.4	30.0	17.5	8.7	2.0	41.7

区分	趣味や楽しみを持つ	地域活動などへの社会参加	文章を書くなど頭を使うようにしている	家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）	意識して外出する	その他	公共施設（福祉センターやスポーツセンター等）の利用	特になし	無回答
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	24.1	4.2	5.0	33.4	8.5	1.4	2.5	4.8	4.6
第2号被保険者調査	36.8	1.6	4.6	25.0	14.3	2.6	2.6	9.7	1.2

【性別】

性別にみると、男性で「散歩やウォーキング」「煙草、酒を控える」「働くこと」の割合が高く、女性で「食事（栄養のバランスや量など）」「趣味や楽しみを持つ」「家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツ	散歩やウォーキング	食事（栄養のバランスや量など）	規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）	心の健康づくり（ストレス解消など）	煙草、酒を控える	ボランティア活動	働くこと
全 体	1,243	27.3	35.0	34.1	21.8	5.0	3.2	3.9	18.1
男性	567	28.7	42.5	26.8	24.2	4.4	6.2	4.8	24.0
女性	646	26.2	28.6	40.2	20.0	5.4	0.5	3.3	13.0

区分	趣味や楽しみを持つ	地域活動などへの社会参加	文章を書くなど頭を使うようにしている	家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）	意識して外出する	その他	公共施設（福祉センターやスポーツセンター等）の利用	特になし	無回答
全 体	24.1	4.2	5.0	33.4	8.5	1.4	2.5	4.8	4.6
男性	21.2	4.4	4.4	18.5	8.5	1.2	2.6	5.8	4.8
女性	27.1	4.0	5.4	46.1	8.5	1.5	2.2	3.9	4.3

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「働くこと」の割合が高く、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「文章を書くなど頭を使うようにしている」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

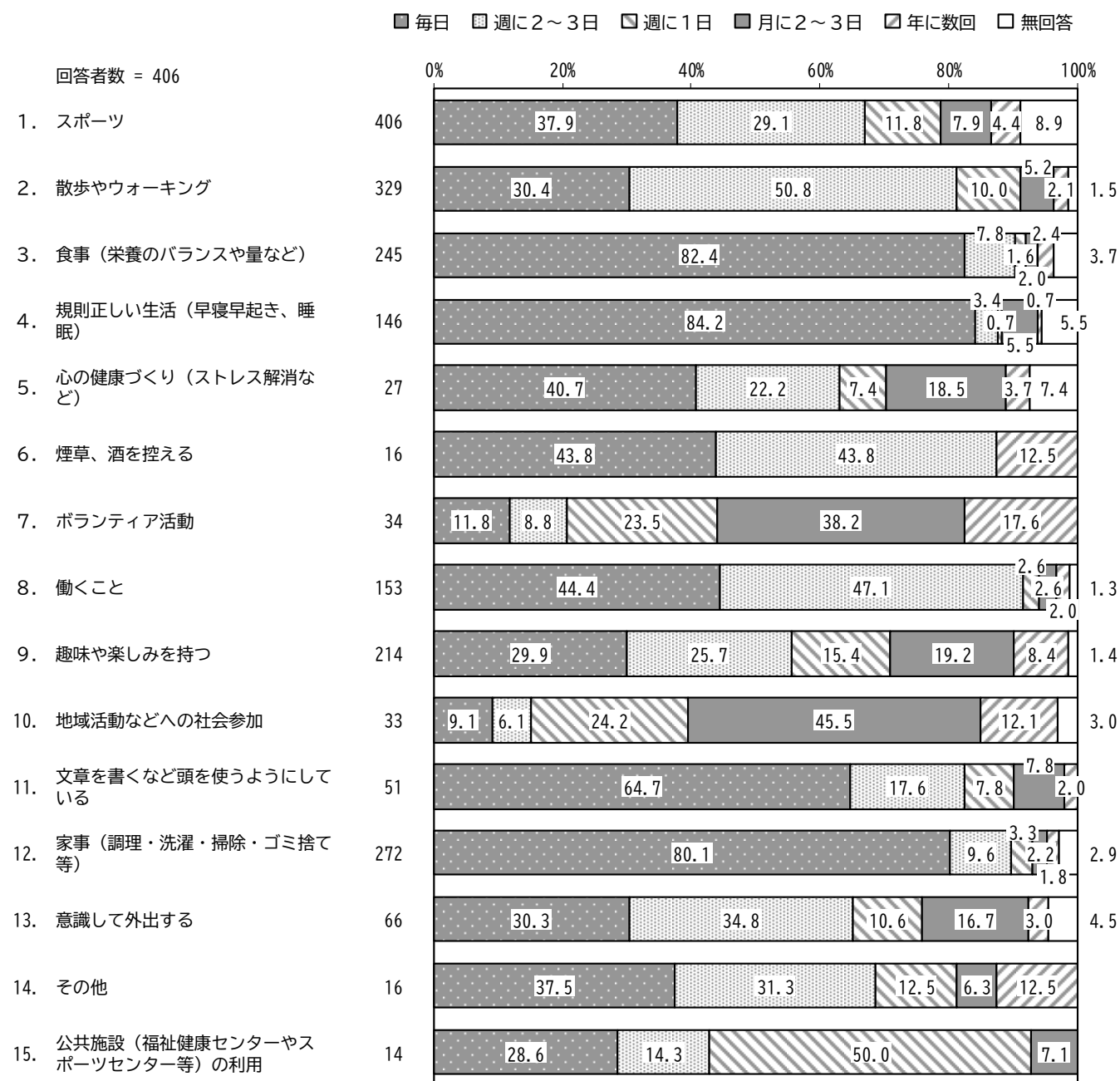
区分	回答者数 (件)	スポーツ	散歩やウォーキング	食事(栄養のバランスや量など)	規則正しい生活(早寝早起き、睡眠)	心の健康づくり(ストレス解消など)	煙草、酒を控える	ボランティア活動	働くこと
全 体	1,243	27.3	35.0	34.1	21.8	5.0	3.2	3.9	18.1
65～69歳	287	27.2	31.0	33.4	22.6	7.3	2.4	2.4	28.6
70～74歳	340	25.6	35.6	39.4	25.3	5.9	3.5	3.5	23.2
75～79歳	328	27.7	44.8	32.9	20.1	3.4	3.4	6.1	12.8
80～84歳	162	29.6	34.6	30.2	17.3	3.7	3.7	4.3	8.0
85～89歳	75	32.0	17.3	25.3	22.7	2.7	2.7	0.0	5.3
90歳以上	22	18.2	9.1	27.3	22.7	4.5	0.0	4.5	0.0

区分	趣味や楽しみを持つ	地域活動などへの社会参加	文章を書くなど頭を使うようにしている	家事(調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等)	意識して外出する	その他	公共施設(福祉センターやスポーツセンター等)の利用	特にない	無回答
全 体	24.1	4.2	5.0	33.4	8.5	1.4	2.5	4.8	4.6
65～69歳	25.1	3.5	4.5	27.9	10.5	1.7	1.0	5.6	5.2
70～74歳	22.1	4.4	2.6	30.9	7.4	1.2	2.4	5.0	2.4
75～79歳	26.5	3.4	5.2	37.5	8.2	1.2	4.0	2.7	4.3
80～84歳	23.5	6.8	8.0	42.0	10.5	0.6	1.9	2.5	6.8
85～89歳	24.0	1.3	6.7	34.7	2.7	1.3	2.7	14.7	6.7
90歳以上	27.3	9.1	13.6	18.2	13.6	9.1	0.0	0.0	9.1

【(11) で「特にない」以外に回答した方のみ】

①取り組みの頻度はどのくらいですか。

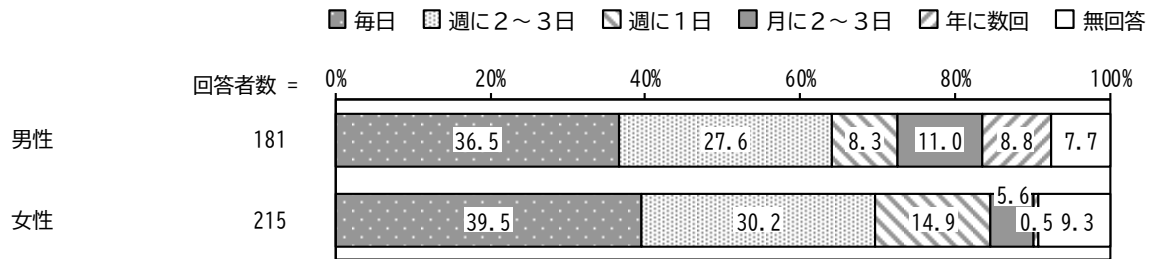
『4. 規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）』で「毎日」が、『2. 散歩やウォーキング』で「週に2～3日」が、『15. 公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用』で「週に1日」が、『10. 地域活動などへの社会参加』で「月に2～3日」が、『7. ボランティア活動』で「年に数回」が高くなっています。



1. スポーツ

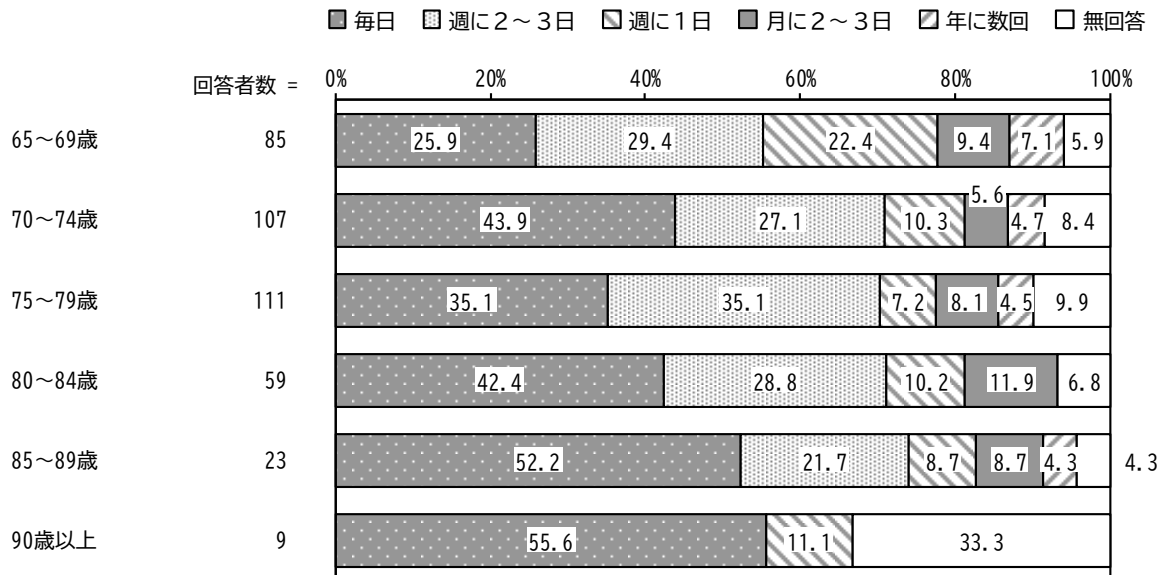
【性別】

性別にみると、女性で「週1回以上」の割合が高くなっています。



【年齢別】

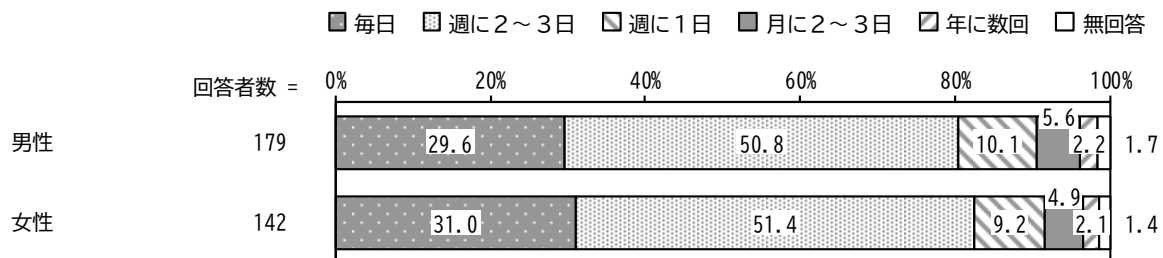
年齢別にみると、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「毎日」の割合が高く、「週に2～3日」の割合が低くなっています。また、65～69歳で「週に1日」の割合が高くなっています。



2. 散歩やウォーキング

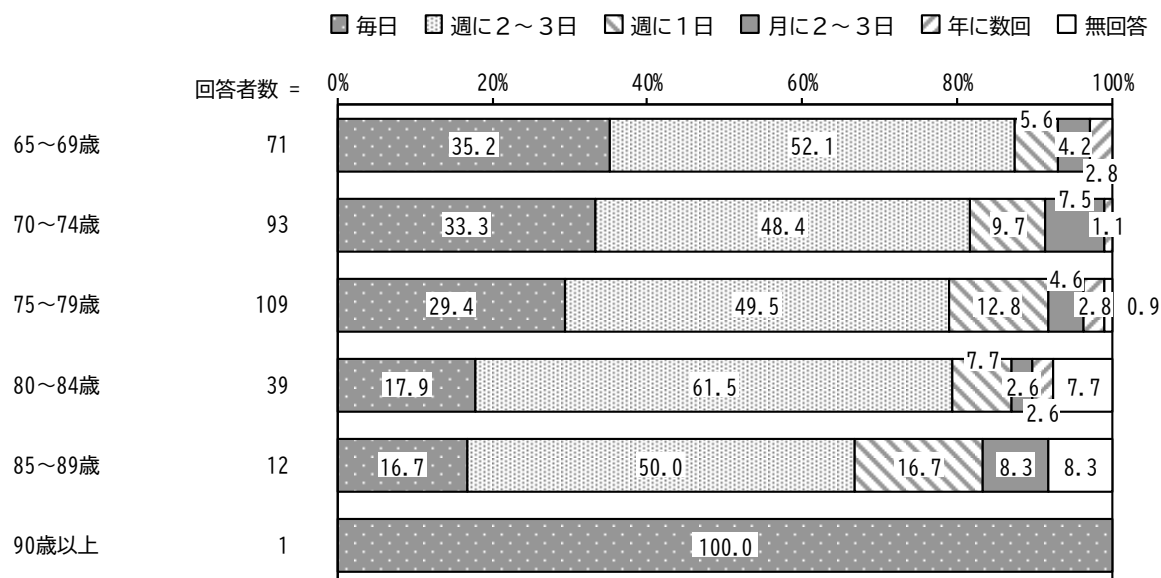
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

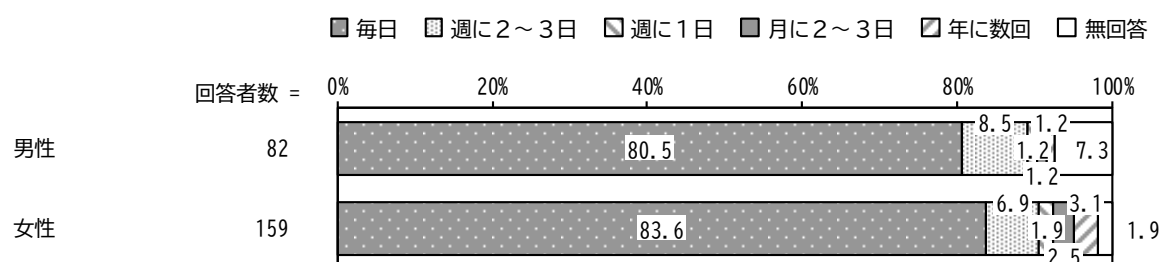
年齢別にみると、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高い傾向にあります。また、80～84歳で「週に2～3日」の割合が高く、「毎日」の割合が低くなっています。



3. 食事（栄養のバランスや量など）

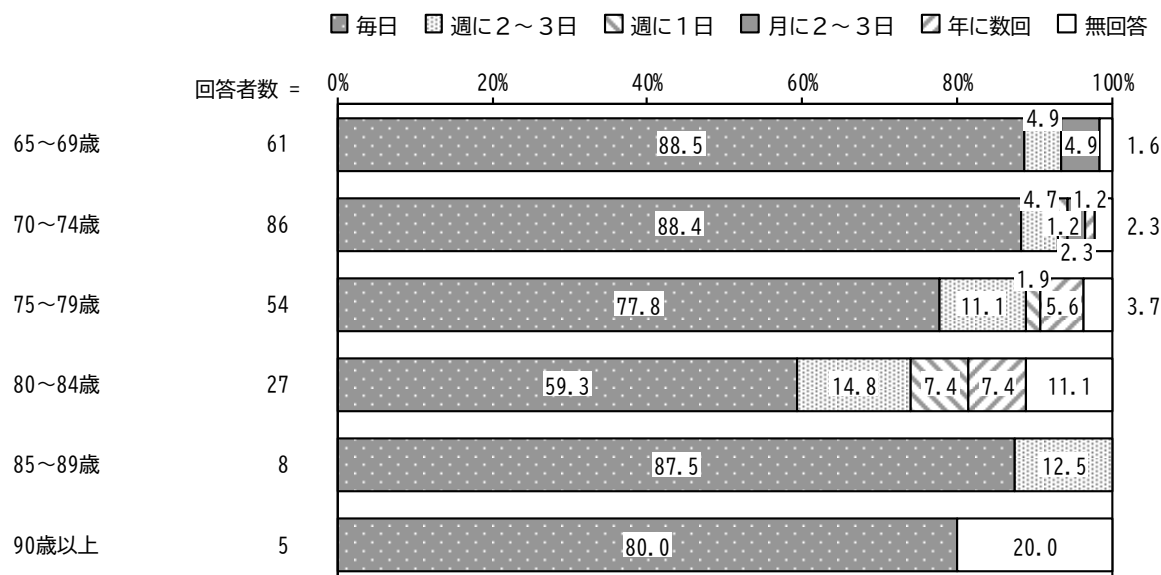
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

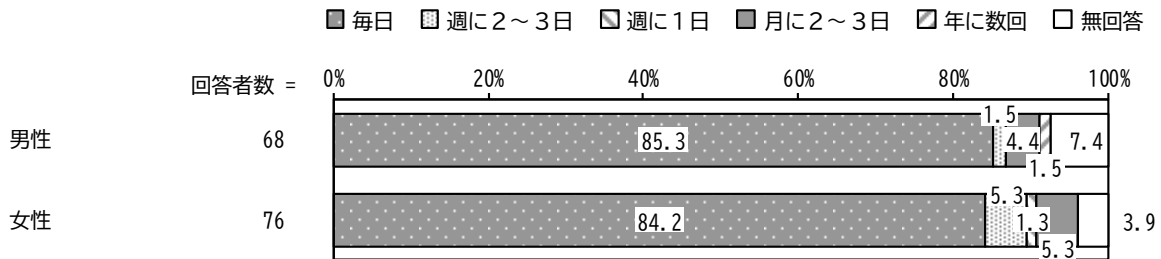
年齢別にみると、80～84歳から70～74歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高くなっています。また、80～84歳で「毎日」の割合が低くなっています。



4. 規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）

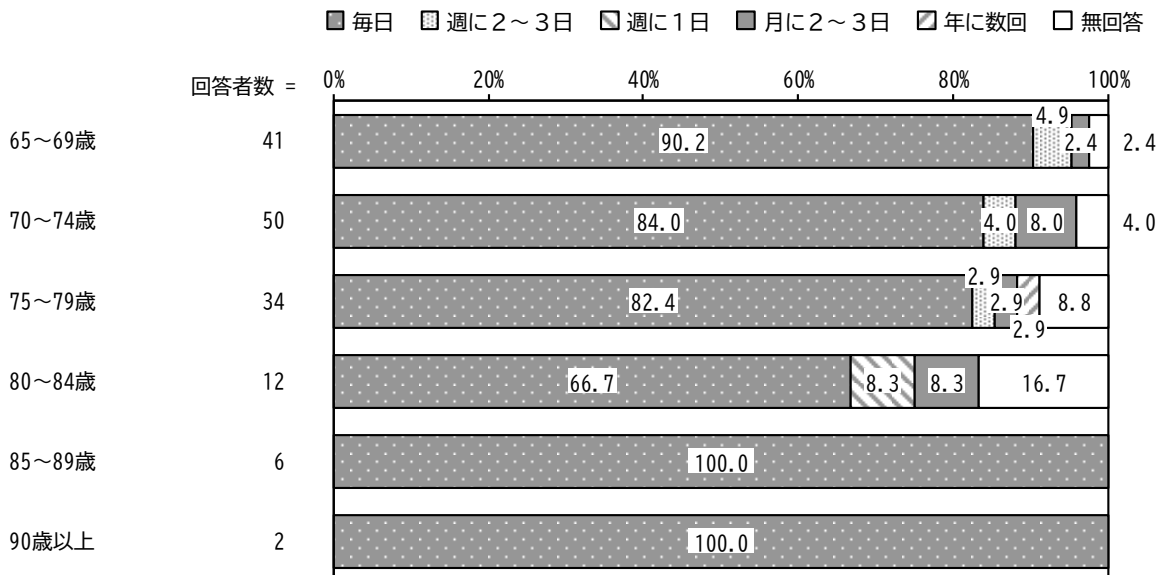
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

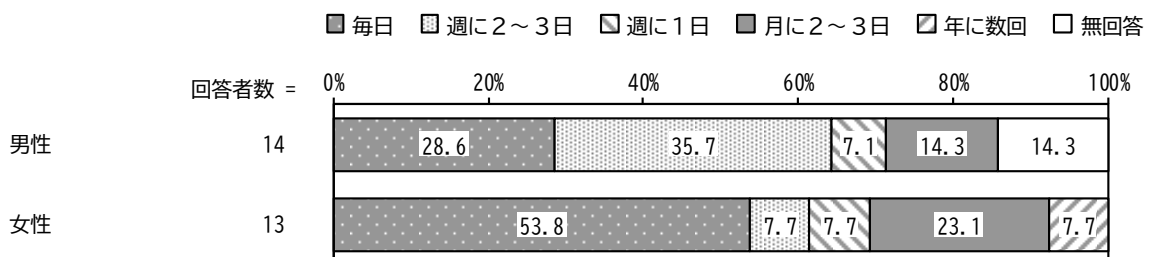
年齢別にみると、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高くなっています。



5. 心の健康づくり（ストレス解消など）

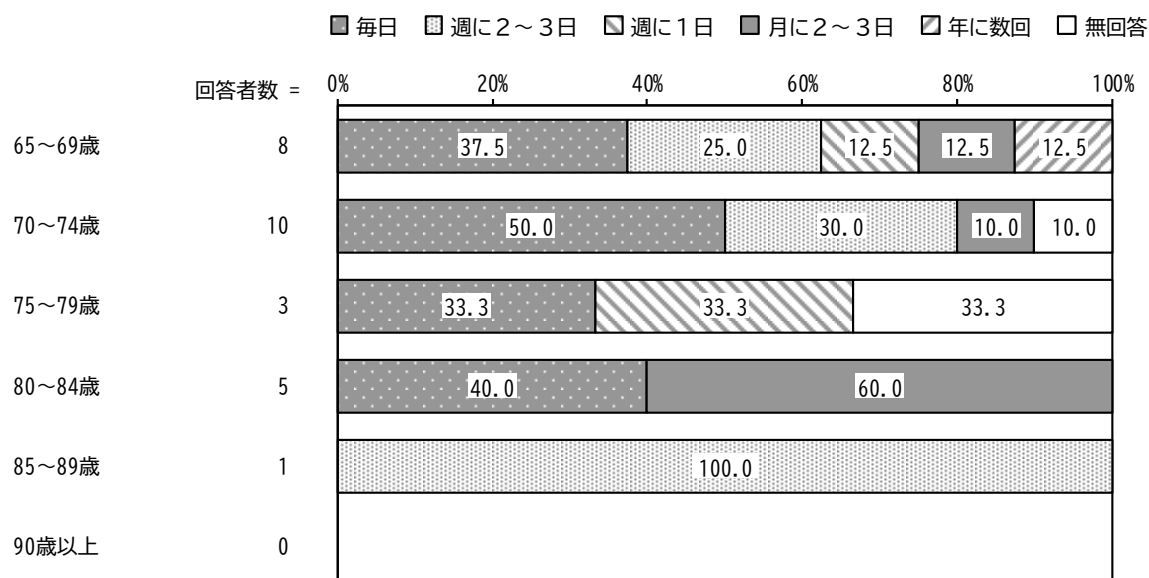
【性別】

性別にみると、男性で「週に2～3日」の割合が高く、女性で「毎日」「月に2～3日」「年に数回」の割合が高くなっています。



【年齢別】

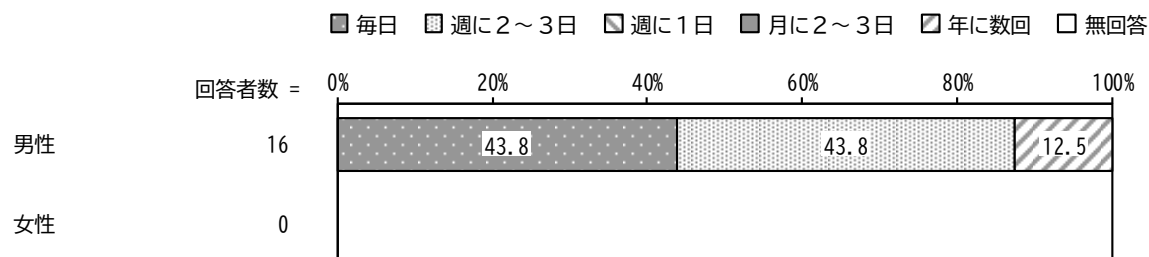
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



6. 煙草、酒を控える

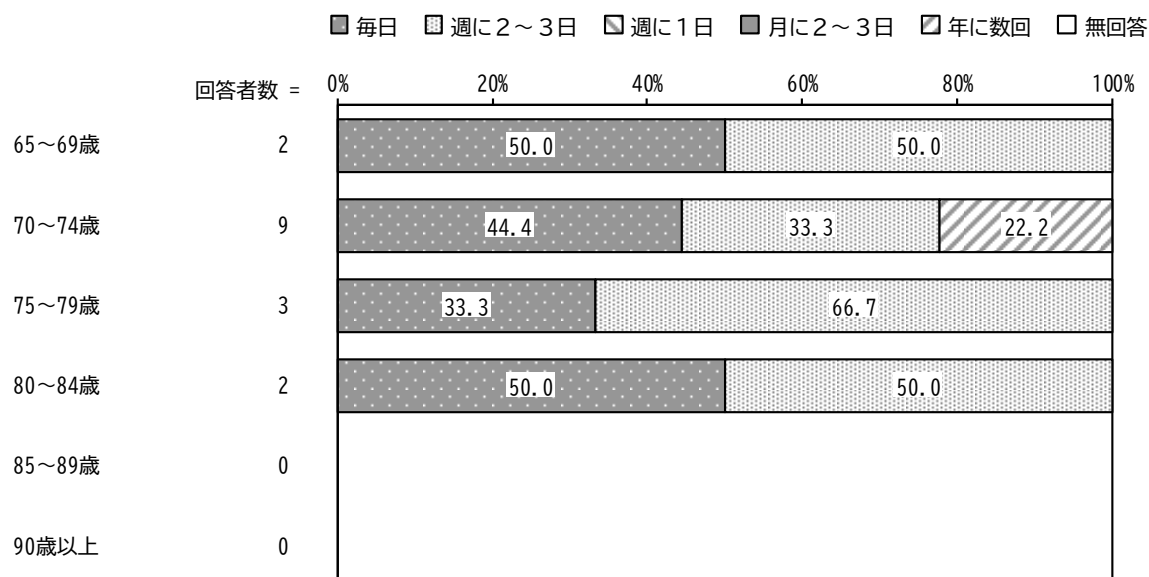
【性別】

有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



【年齢別】

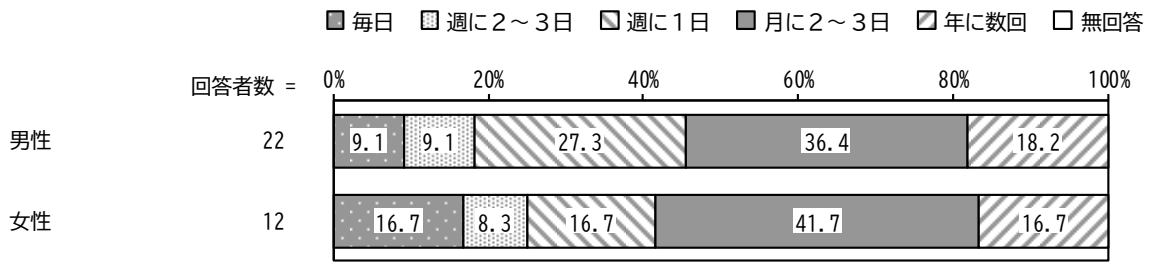
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



7. ボランティア活動

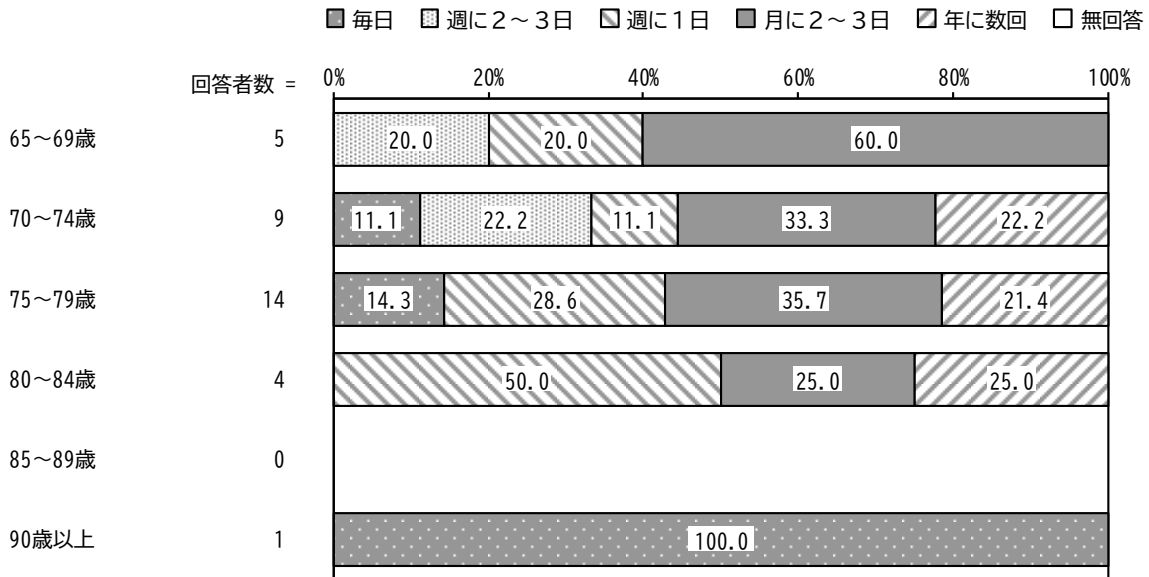
【性別】

性別にみると、男性で「週に1日」の割合が高く、女性で「毎日」「月に2～3日」の割合が高くなっています。



【年齢別】

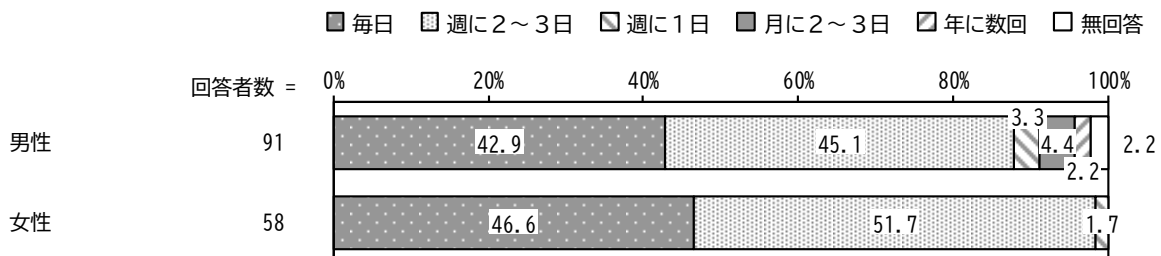
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



8. 働くこと

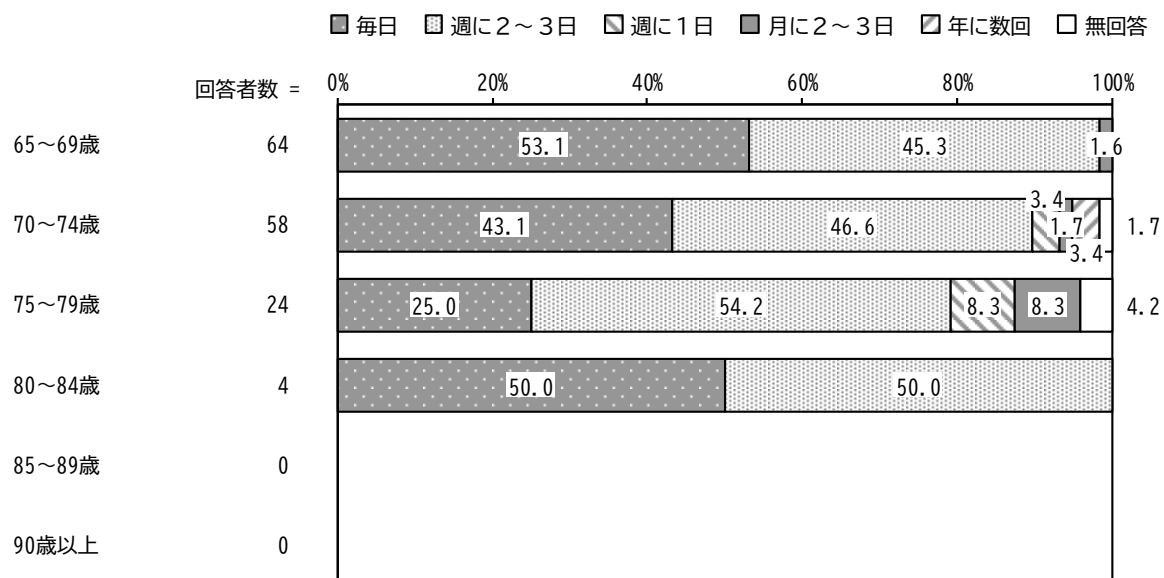
【性別】

性別にみると、女性で“週1回以上”の割合が高くなっています。



【年齢別】

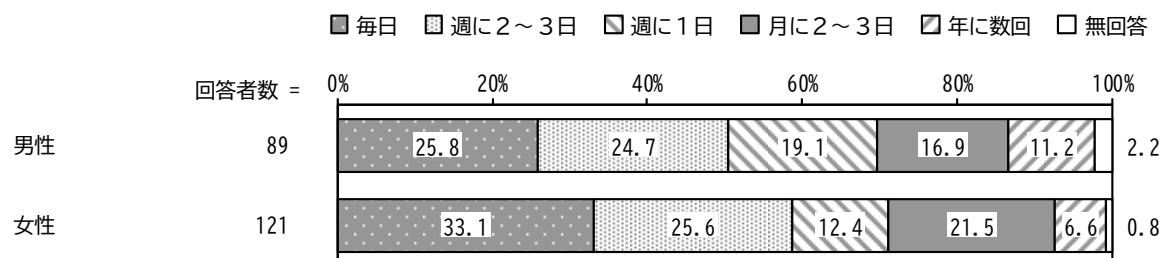
年齢別にみると、75～79歳から65～69歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高くなっています。また、75～79歳で「毎日」の割合が低くなっています。



9. 趣味や楽しみを持つ

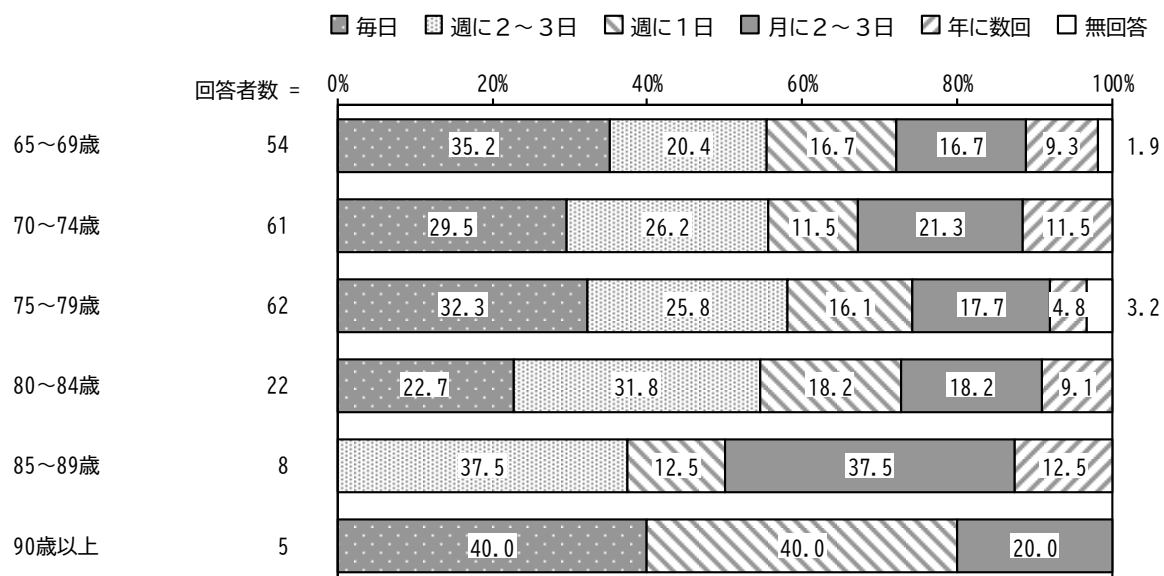
【性別】

性別にみると、男性で「週に1日」の割合が高く、女性で「毎日」の割合が高くなっています。



【年齢別】

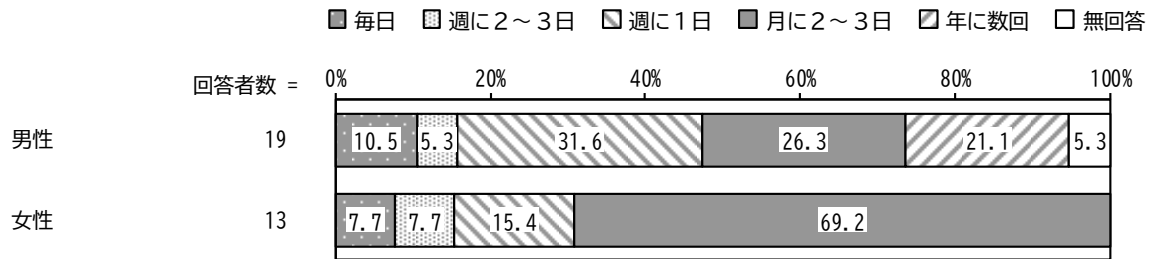
年齢別にみると、85～89歳から75～79歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高くなっています。



10. 地域活動などへの社会参加

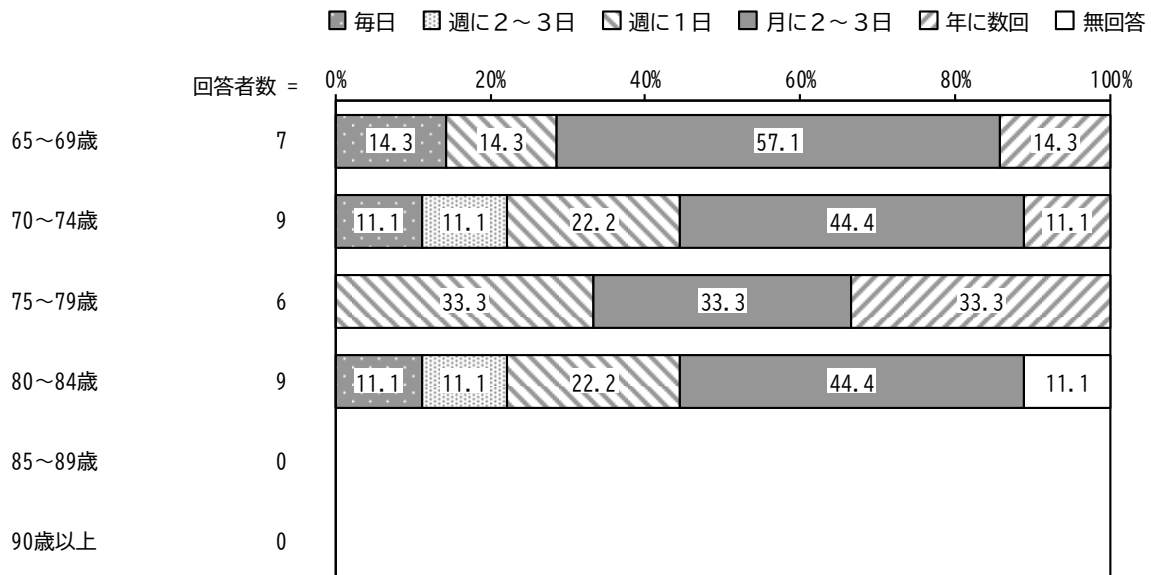
【性別】

性別にみると、男性で“週1回以上”の割合が高くなっています。



【年齢別】

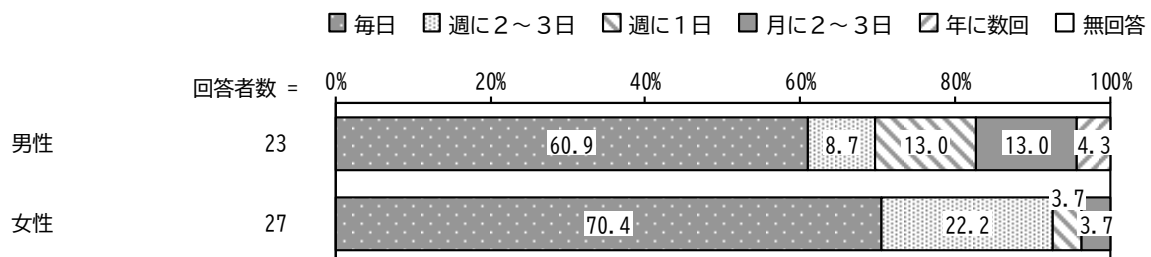
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



11. 文章を書くなど頭を使うようにしている

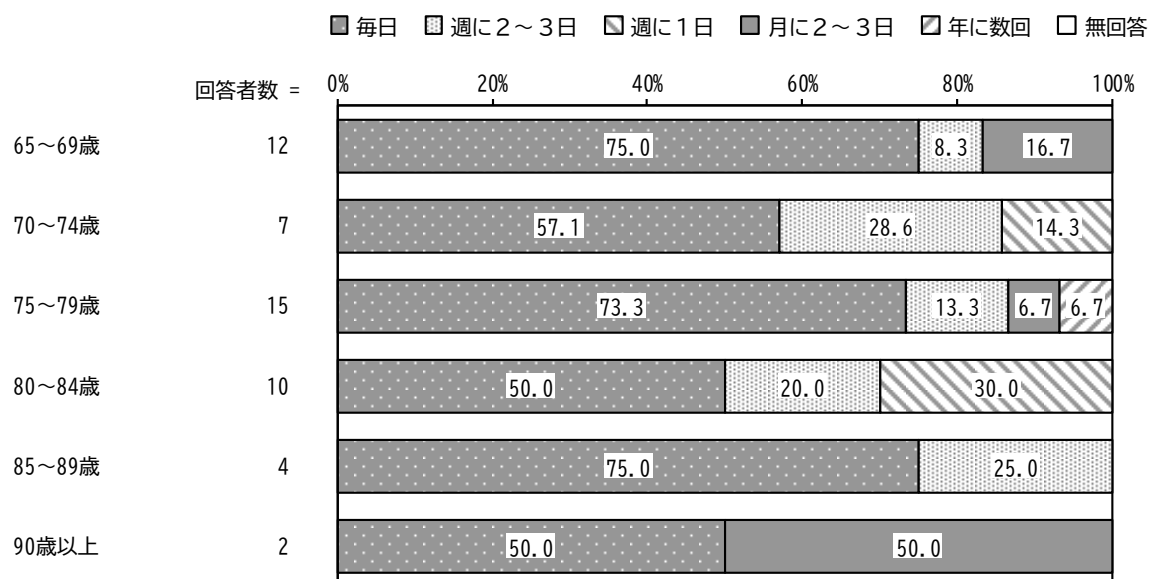
【性別】

性別にみると、女性で“週1回以上”の割合が高くなっています。



【年齢別】

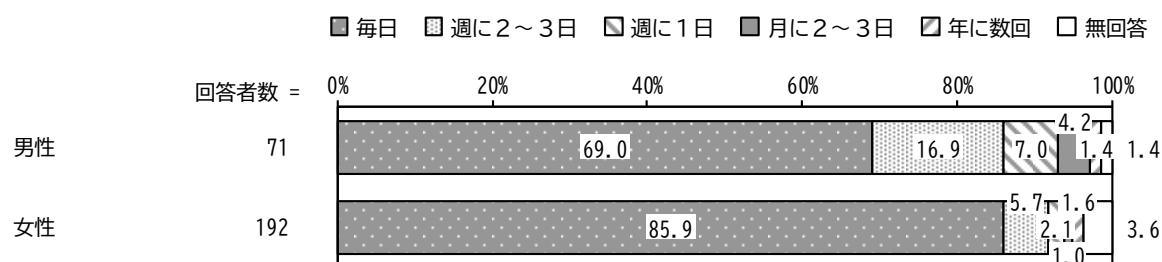
年齢別にみると、75～79 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「週に 2～3 日」の割合が高くなっています。



12. 家事（調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て等）

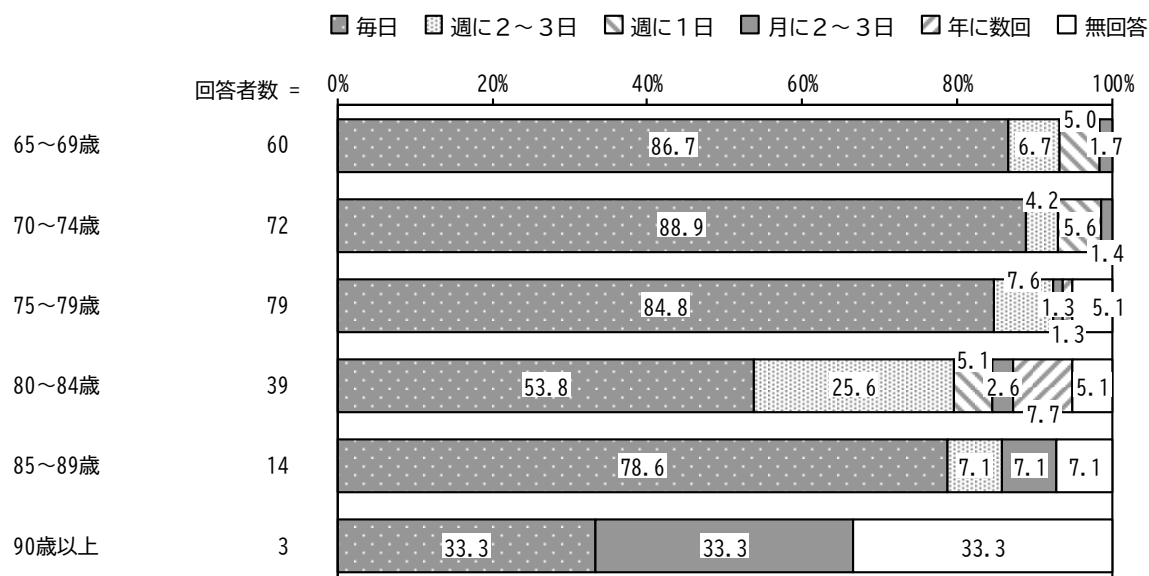
【性別】

性別にみると、男性で「週に 2～3 日」の割合が高く、女性で「毎日」の割合が高くなっています。



【年齢別】

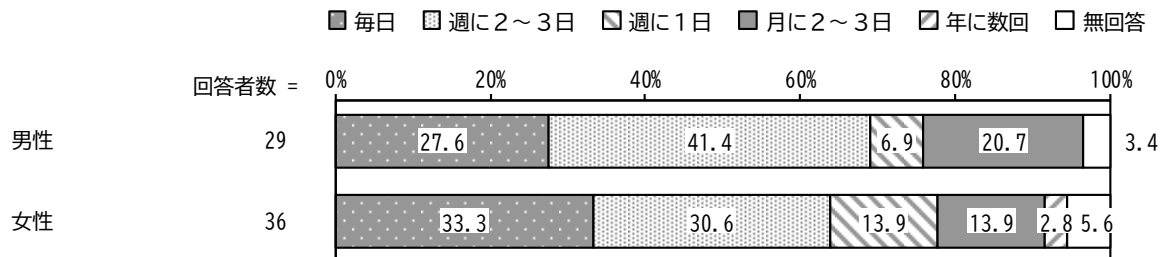
年齢別にみると、65～69 歳、70～74 歳で“週 1 回以上”の割合が高くなっています。



13. 意識して外出する

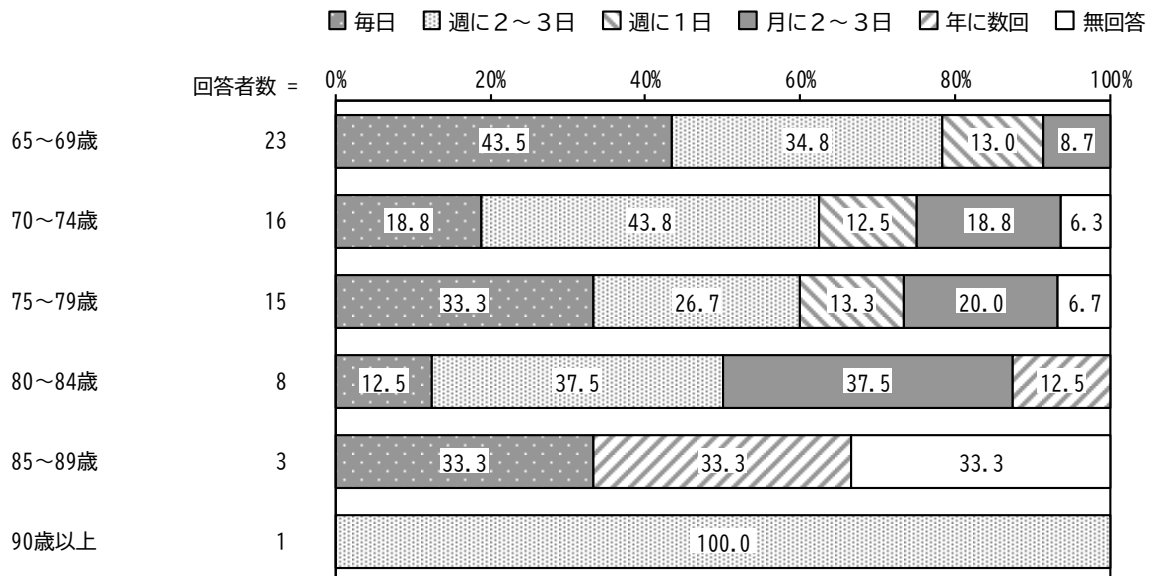
【性別】

性別にみると、男性で「週に2～3日」「月に2～3日」の割合が高く、女性で「毎日」「週に1日」の割合が高くなっています。



【年齢別】

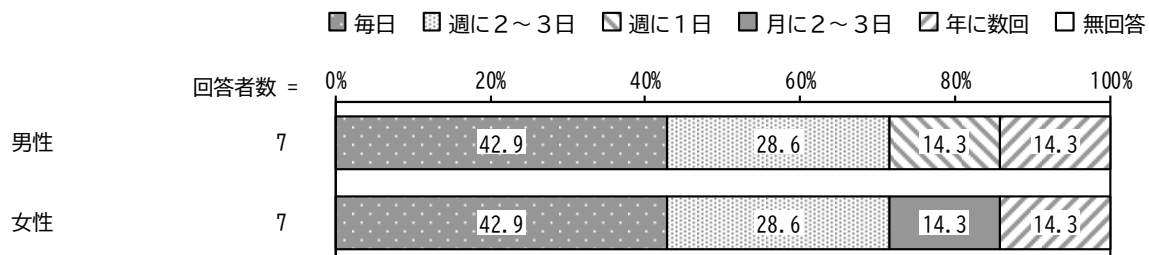
年齢別にみると、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど“週1回以上”の割合が高くなっています。また、65～69歳で「毎日」の割合が高くなっています。



14. その他

【性別】

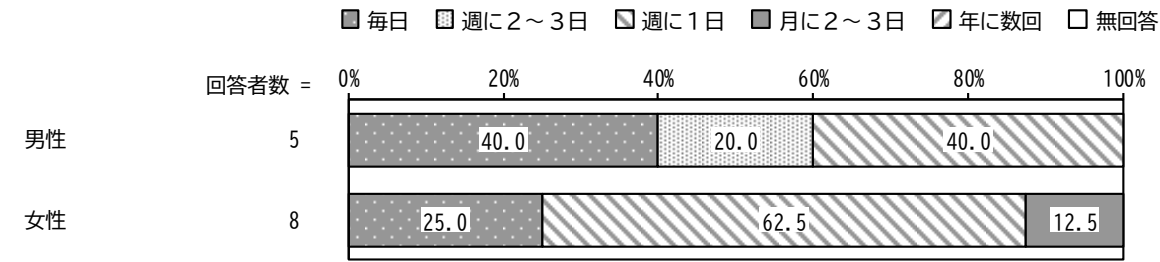
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



15. 公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用

【性別】

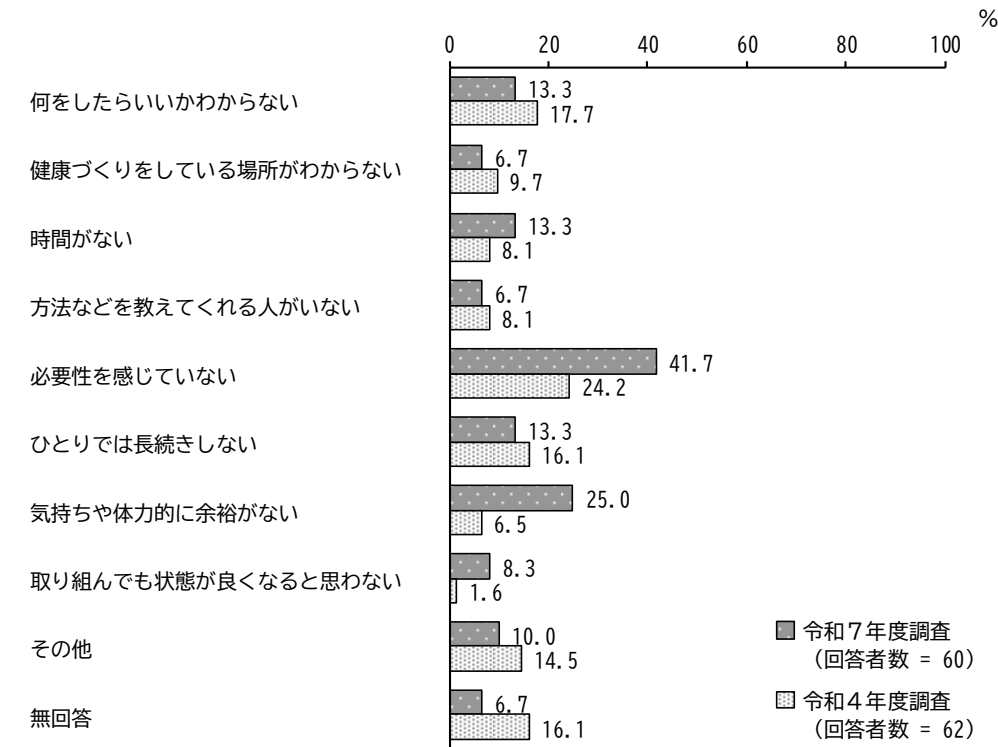
有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



【(11) で「特にない」と回答した方のみ】

② 取り組んでいることが「特にない」理由は何ですか（○はいくつでも）

「必要性を感じていない」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「気持ちや体力的に余裕がない」の割合が 25.0%、「何をしたらいいかわからない」、「時間がない」、「ひとりでは長続きしない」の割合が 13.3%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「時間がない」「必要性を感じていない」の割合が高く、女性で「何をしたらいいかわからない」等の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	何をしたらいいかわからない	健康づくりをしている場所がわからない	時間がない	方法などを教えてくれる人がいない	必要性を感じていない	ひとりでは長続きしない	気持ちや体力的に余裕がない	取り組んでも状態が良くなると思わない	その他	無回答
全 体	60	13.3	6.7	13.3	6.7	41.7	13.3	25.0	8.3	10.0	6.7
男性	33	9.1	3.0	18.2	3.0	51.5	9.1	18.2	6.1	6.1	0.0
女性	25	20.0	8.0	8.0	8.0	32.0	16.0	32.0	12.0	16.0	16.0

【第2号被保険者対象ニーズ調査との比較】

第2号被保険者調査との比較をみると、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で「必要性を感じていない」「取り組んでも状態が良くなると思わない」の割合が、第2号被保険者調査で「時間がない」「気持ちや体力的に余裕がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	何をしたらいいかわからない	健康づくりをしていない場所がわからない	時間がない	方法などを教えてくれる人がいない	必要性を感じていない	ひとりでは長続きしない	気持ちや体力的に余裕がない	取り組んでも状態が良くなると思わない	その他	無回答
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	60	13.3	6.7	13.3	6.7	41.7	13.3	25.0	8.3	10.0	6.7
第2号被保険者調査	49	16.3	6.1	51.0	2.0	10.2	16.3	32.7	2.0	8.2	2.0

【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「気持ちや体力的に余裕がない」の割合が高く、80～84歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「何をしたらいいかわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	何をしたらいいかわからない	健康づくりをしていない場所がわからない	時間がない	方法などを教えてくれる人がいない	必要性を感じていない	ひとりでは長続きしない	気持ちや体力的に余裕がない	取り組んでも状態が良くなると思わない	その他	無回答
全 体	60	13.3	6.7	13.3	6.7	41.7	13.3	25.0	8.3	10.0	6.7
65～69歳	16	6.3	12.5	12.5	6.3	50.0	18.8	6.3	0.0	6.3	12.5
70～74歳	17	23.5	5.9	11.8	5.9	35.3	17.6	17.6	11.8	17.6	11.8
75～79歳	9	11.1	0.0	22.2	0.0	44.4	0.0	33.3	22.2	0.0	0.0
80～84歳	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
85～89歳	11	18.2	0.0	18.2	0.0	45.5	0.0	45.5	9.1	18.2	0.0
90歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【調査結果のまとめ】

- 階段昇降を「できるし、している」の割合が61.9%に減少しており、15分位続けて歩く項目でも「できるけどしていない」が増加(22.4%)しています。
- 転倒への不安は「やや不安である」が41.9%と最も高い状況です。
- 外出を控えている人の理由は「足腰などの痛み」が40.0%と最多になっています。
- 身体機能の低下および転倒不安が外出機会を阻害しており、移動手段の確保と合わせた、痛みの緩和や筋力維持を図るフレイル対策の推進が重要であるとうかがえます。

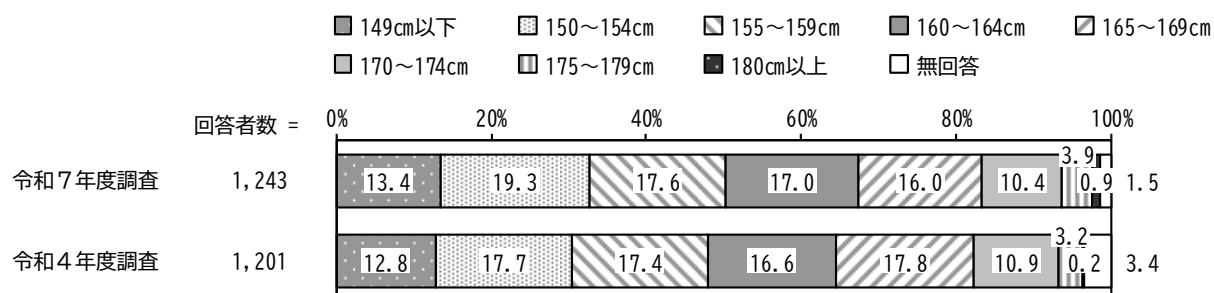
問3 食べることについて

(1) 身長・体重（最近測定した数字を記入）

身長

「150～154cm」の割合が19.3%と最も高く、次いで「155～159cm」の割合が17.6%、「160～164cm」の割合が17.0%となっています。

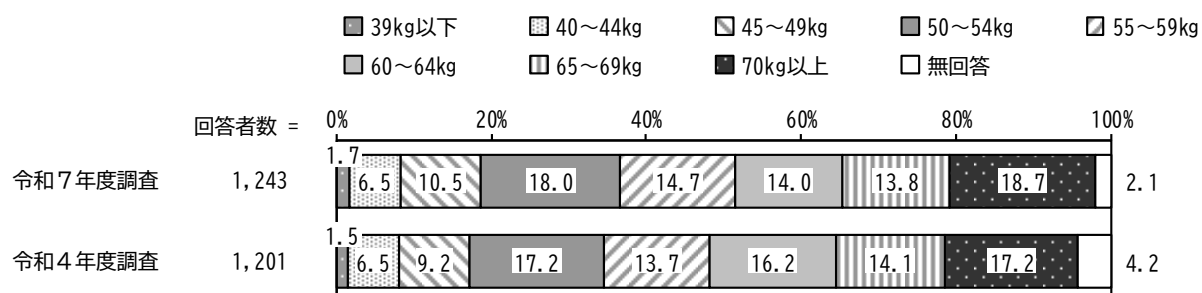
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



体重

「70kg 以上」の割合が18.7%と最も高く、次いで「50～54kg」の割合が18.0%、「55～59kg」の割合が14.7%となっています。

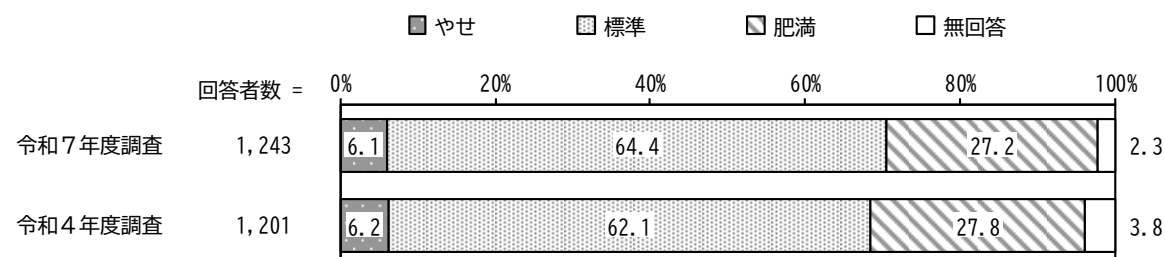
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



BMI

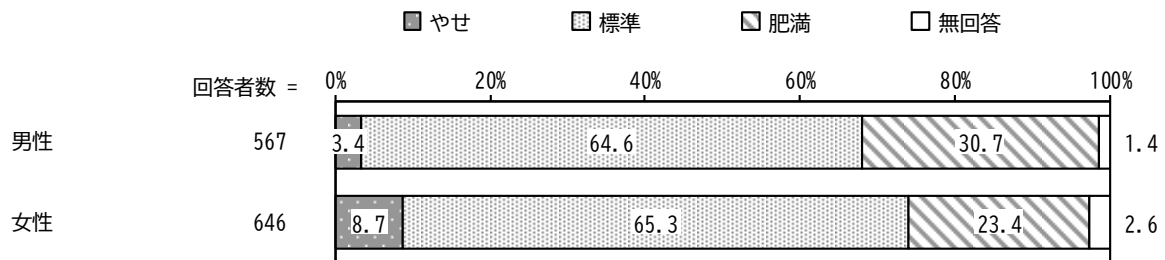
「やせ」の割合が6.1%、「標準」の割合が64.4%、「肥満」の割合が27.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



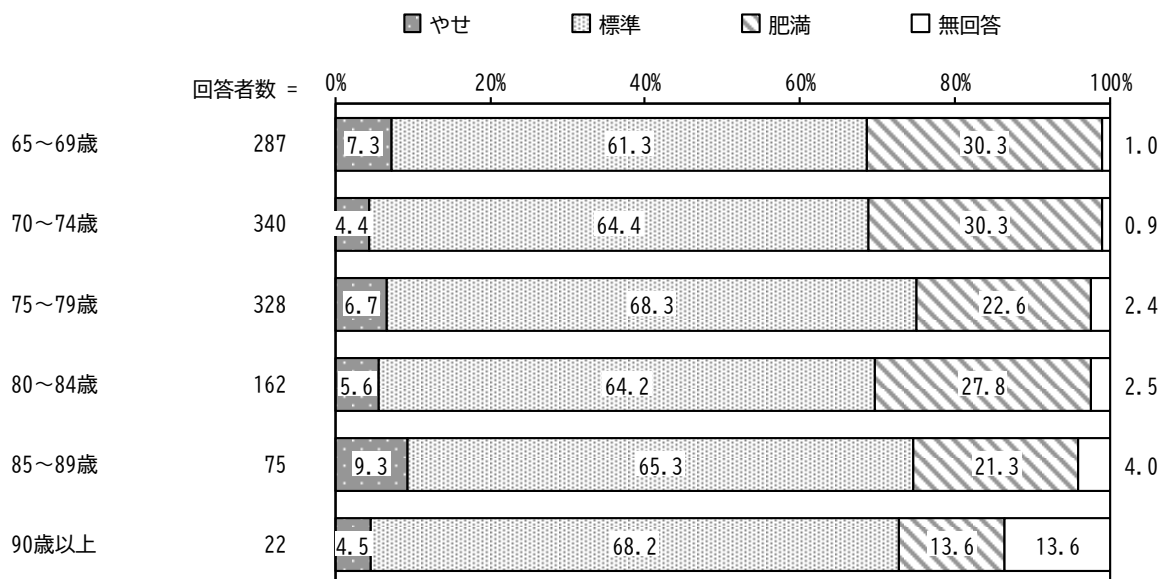
【性別】

性別にみると、男性で「肥満」の割合が高く、女性で「やせ」の割合が高くなっています。



【年齢別】

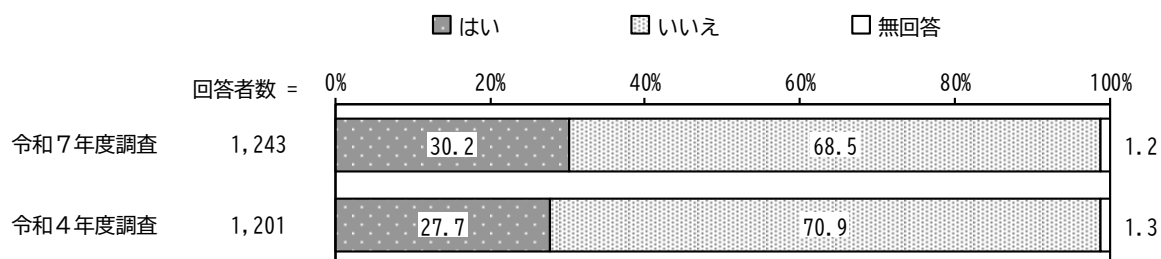
年齢別にみると、90歳以上で「肥満」の割合が低くなっています。



(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○は1つ)

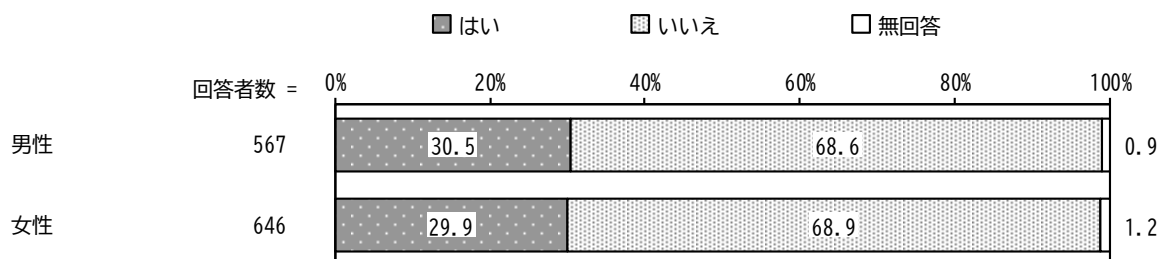
「はい」の割合が30.2%、「いいえ」の割合が68.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



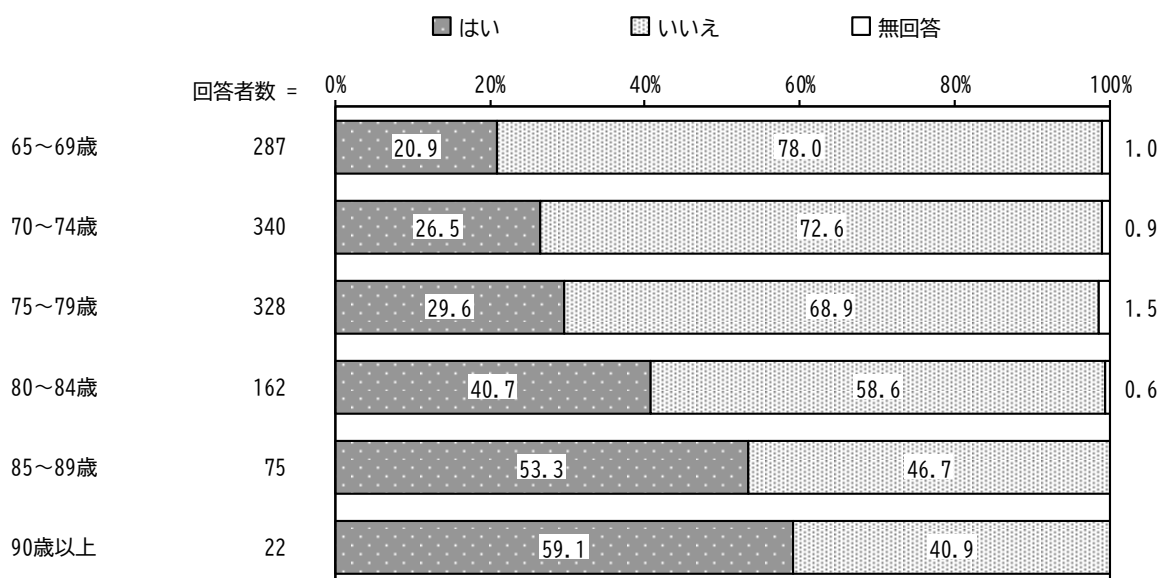
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



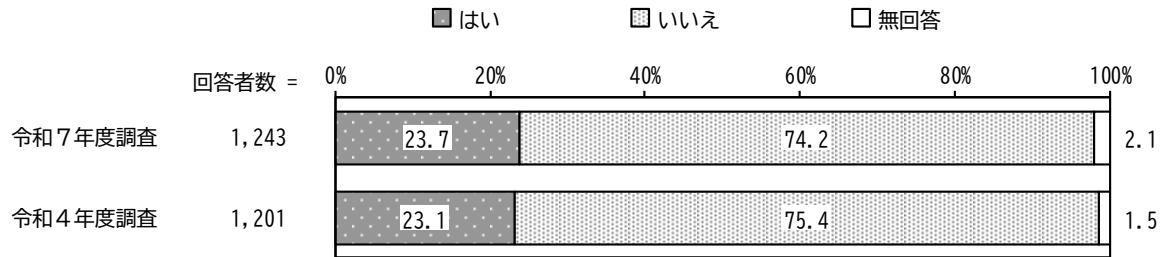
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。



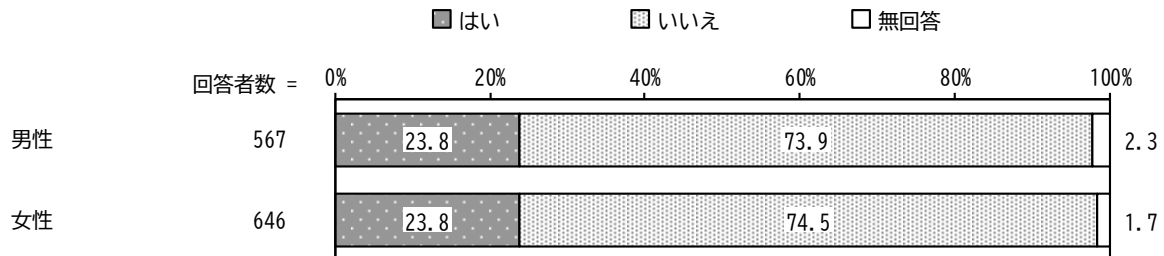
（３）お茶や汁物等でむせることはありますか（○は１つ）

「はい」の割合が23.7%、「いいえ」の割合が74.2%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



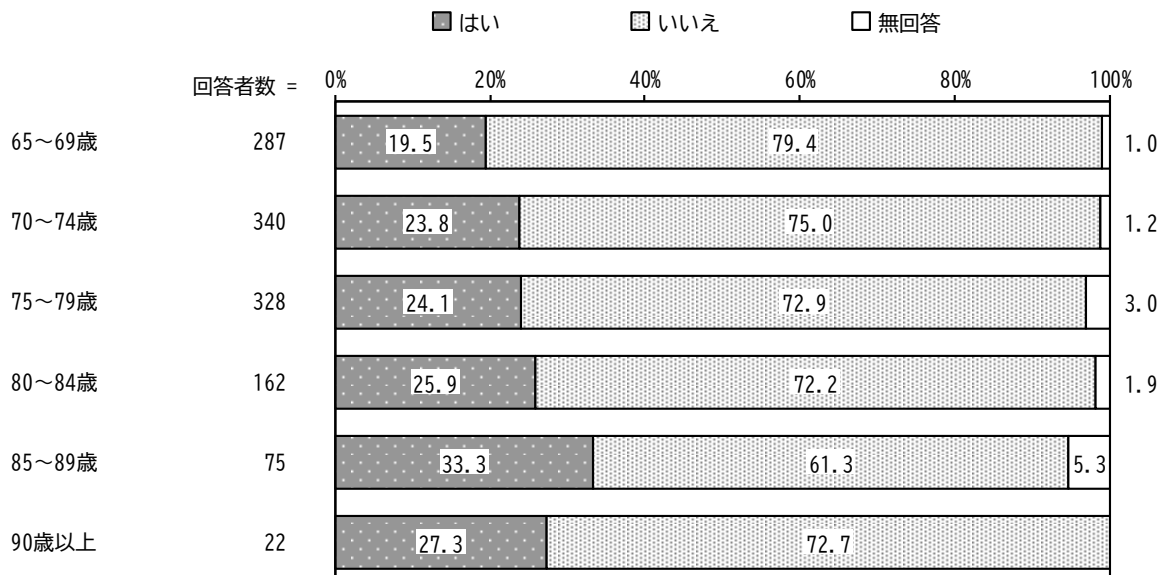
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



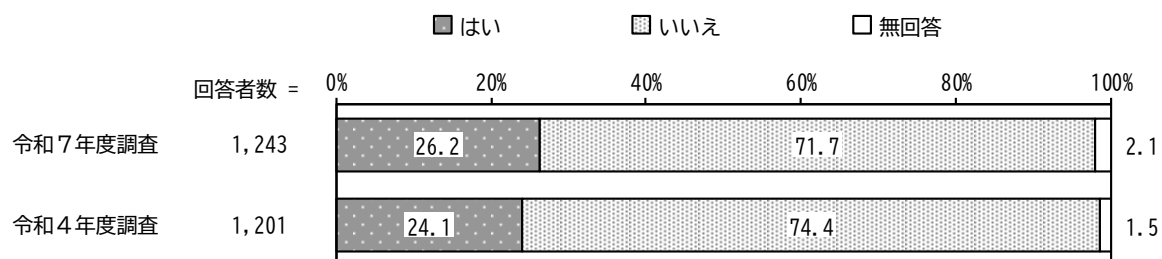
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。



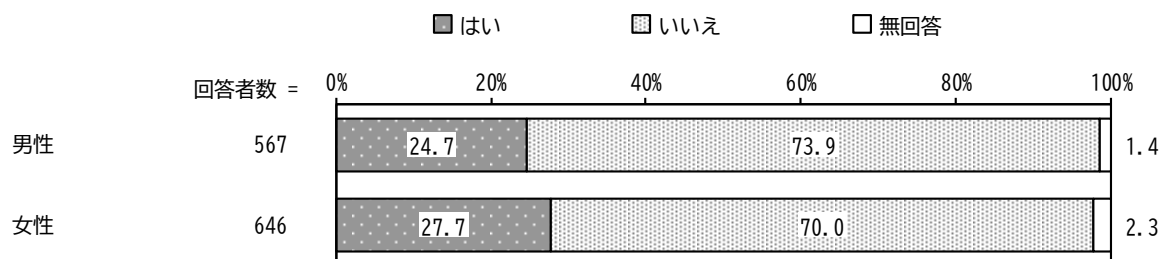
(4) 口の渇きが気になりますか (○は1つ)

「はい」の割合が26.2%、「いいえ」の割合が71.7%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



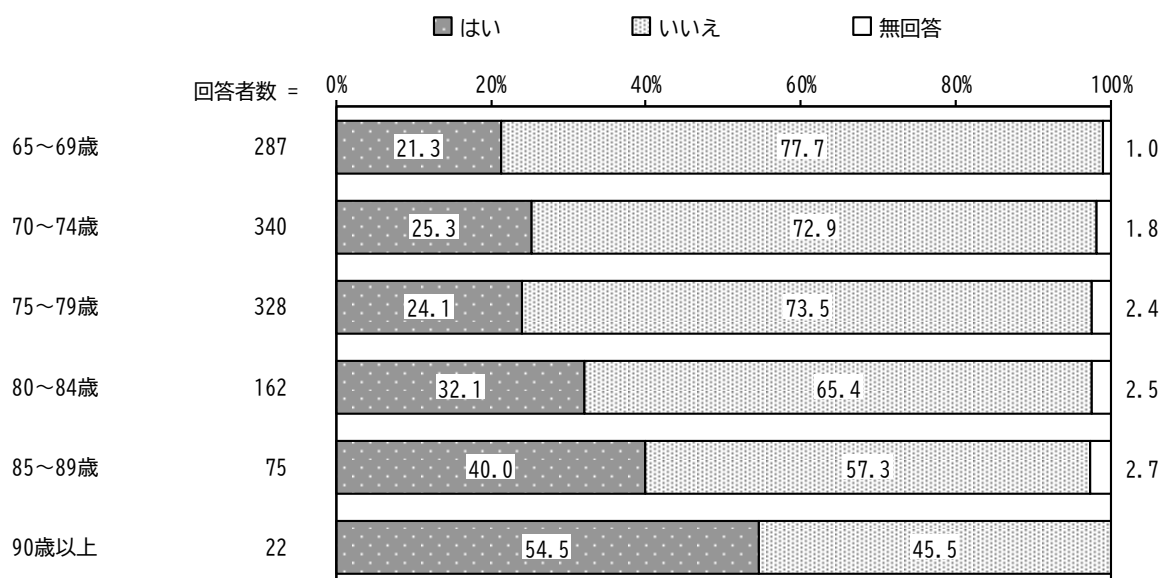
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



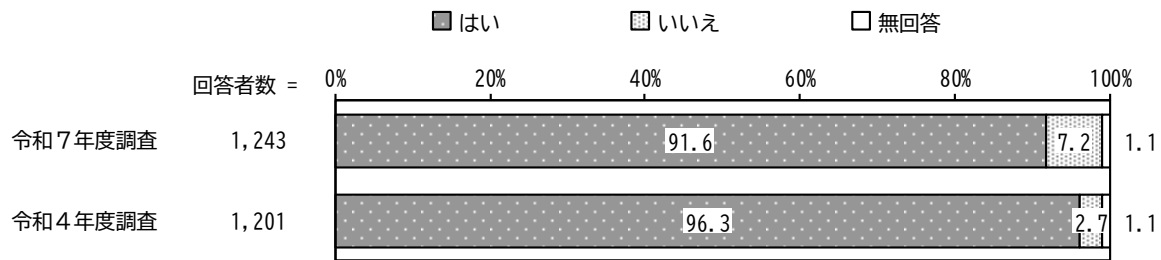
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「はい」の割合が高い傾向にあります。



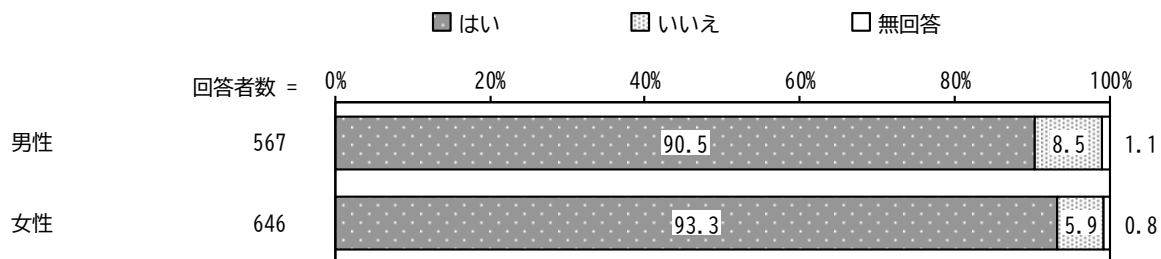
(5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（○は1つ）

「はい」の割合が91.6%、「いいえ」の割合が7.2%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



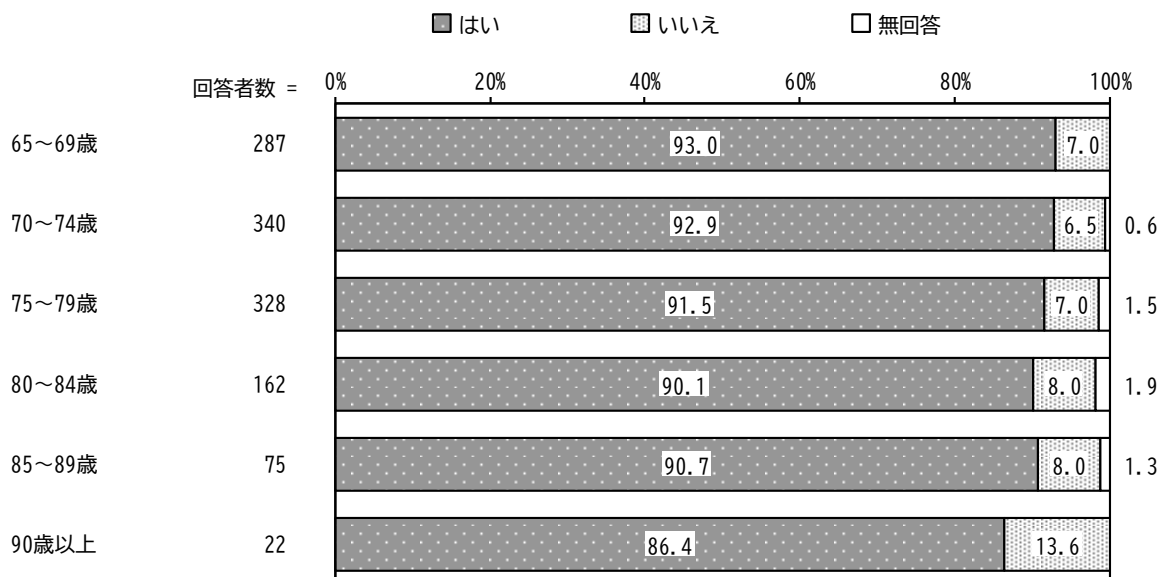
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



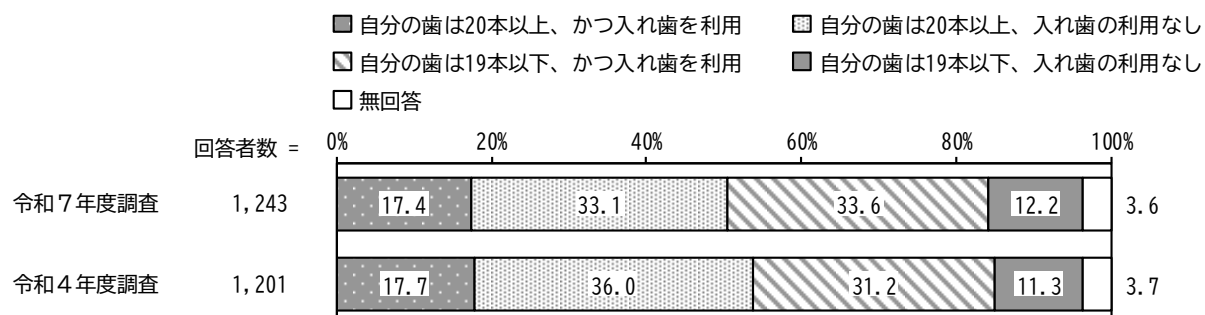
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上で「いいえ」の割合が高くなっています。



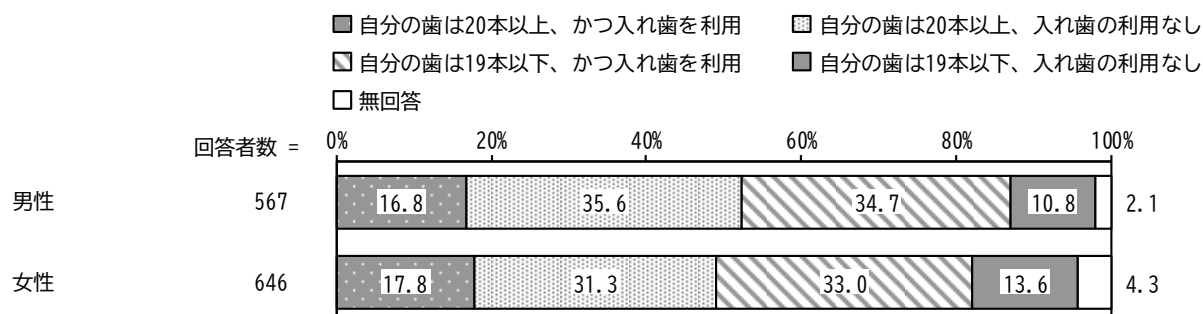
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(○は1つ)(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が33.6%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が33.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」の割合が17.4%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



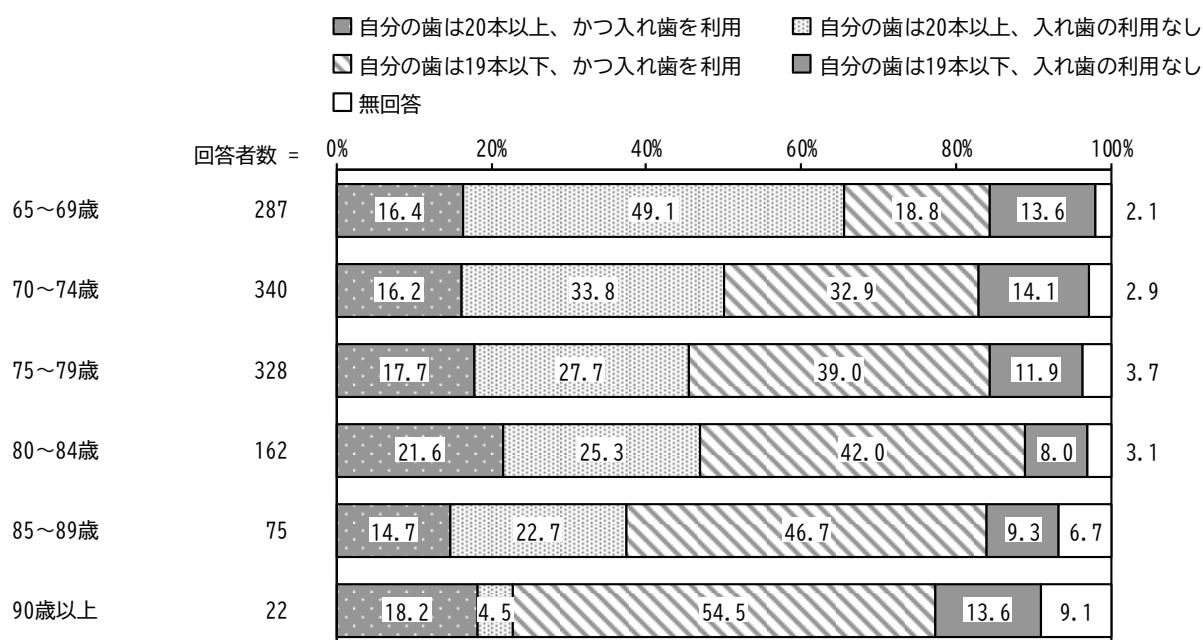
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



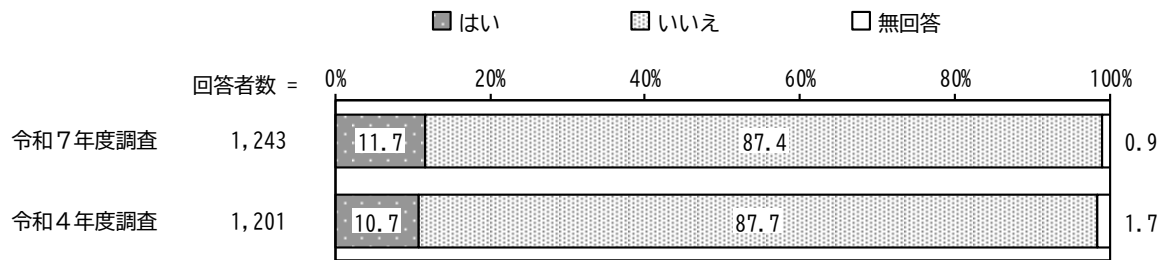
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が高く、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が低くなっています。



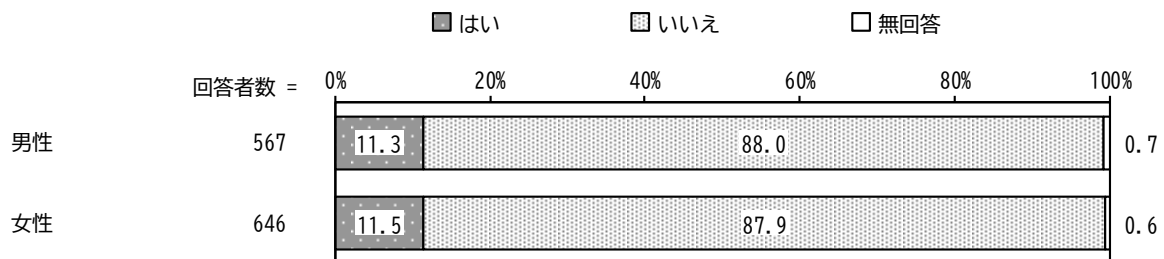
(7) 6か月間で2～3kgの体重減少がありましたか(○は1つ)

「はい」の割合が11.7%、「いいえ」の割合が87.4%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



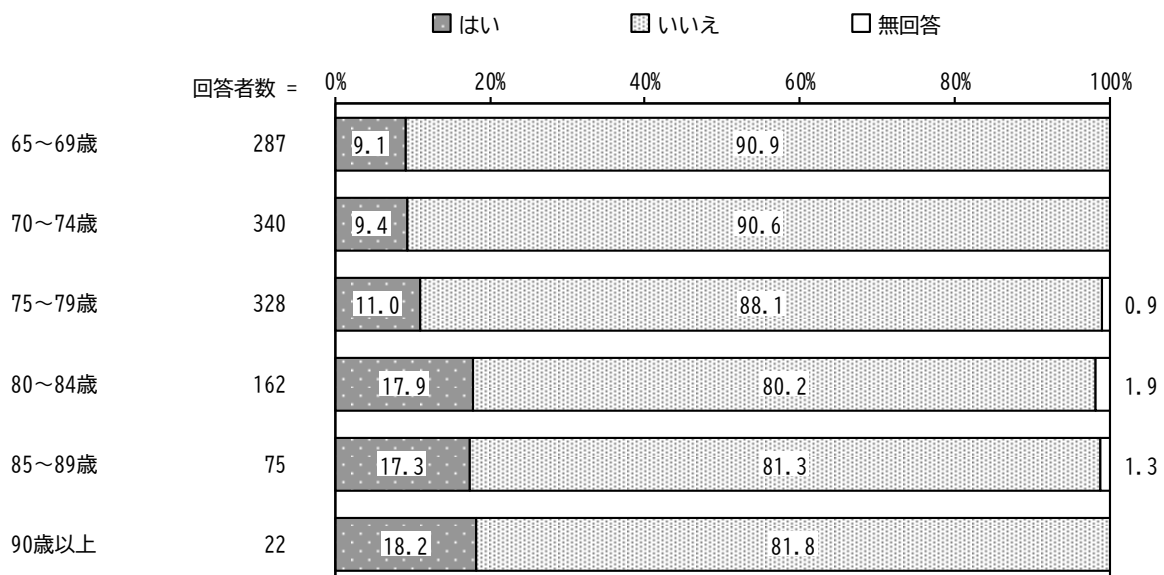
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



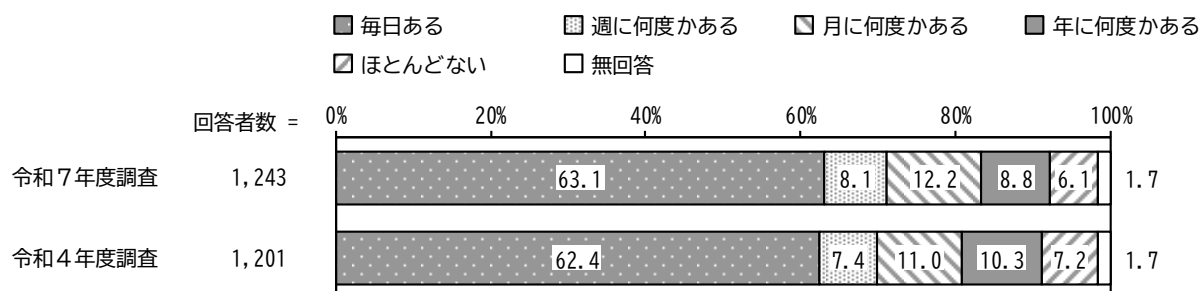
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。



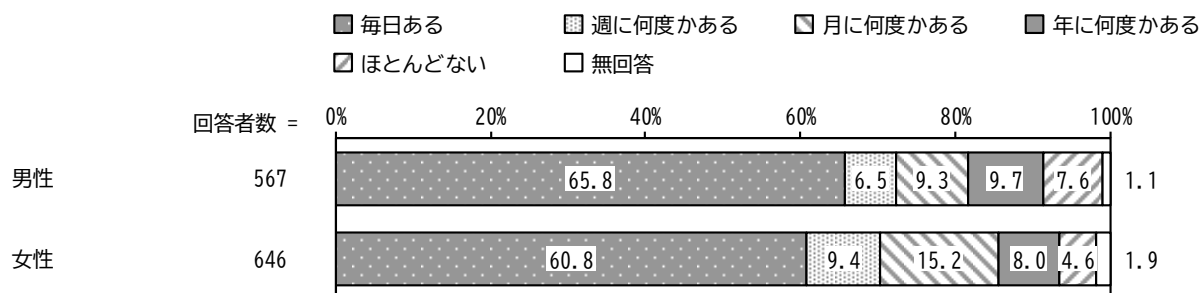
(8) どなたかと食事をとる機会がありますか (○は1つ)

「毎日ある」の割合が 63.1%と最も高く、次いで「月に何度かある」の割合が 12.2%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



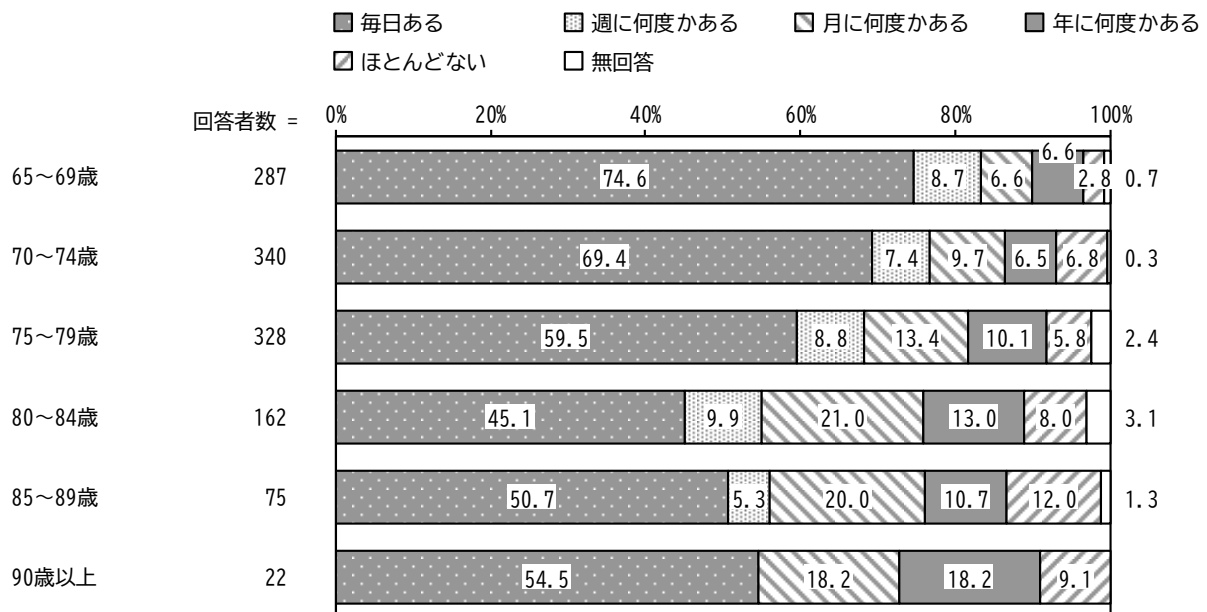
【性別】

性別にみると、男性で「毎日ある」の割合が高く、女性で「月に何度かある」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「年に何度かある」の割合が高い傾向にあり、65～69 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「ほとんどない」の割合が高い傾向にあります。また、65～69 歳で「毎日ある」の割合が高くなっています。



【調査結果のまとめ】

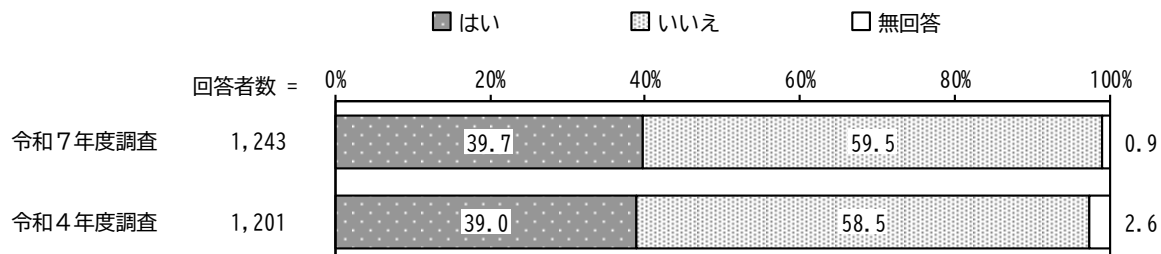
- 半年前と比較して「固いものが食べにくくなった」人が 30.2%、「お茶や汁物でむせる」人が 23.7%見られます。
- 自分の歯が 19 本以下で入れ歯を利用している人は 33.6%に上ります。
- 体重が 6 か月間で 2～3 kg 減少した人も 11.7%存在します。
- オーラルフレイルの予備軍が約 3 割に達しており、低栄養や誤嚥性肺炎を予防するための口腔機能向上プログラムの普及が課題であると考えられます。

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか(○は1つ)

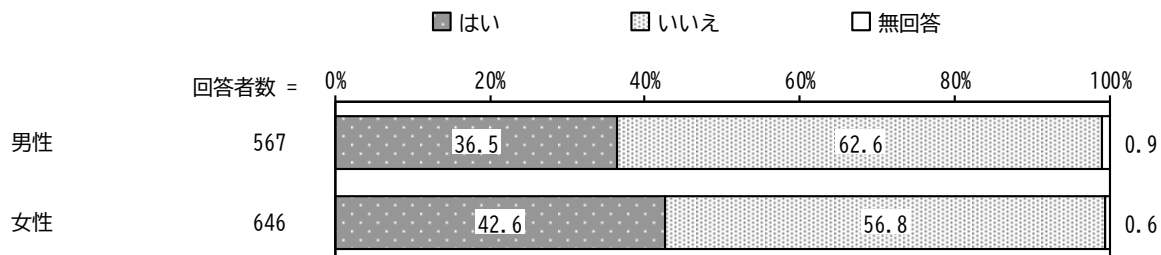
「はい」の割合が39.7%、「いいえ」の割合が59.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



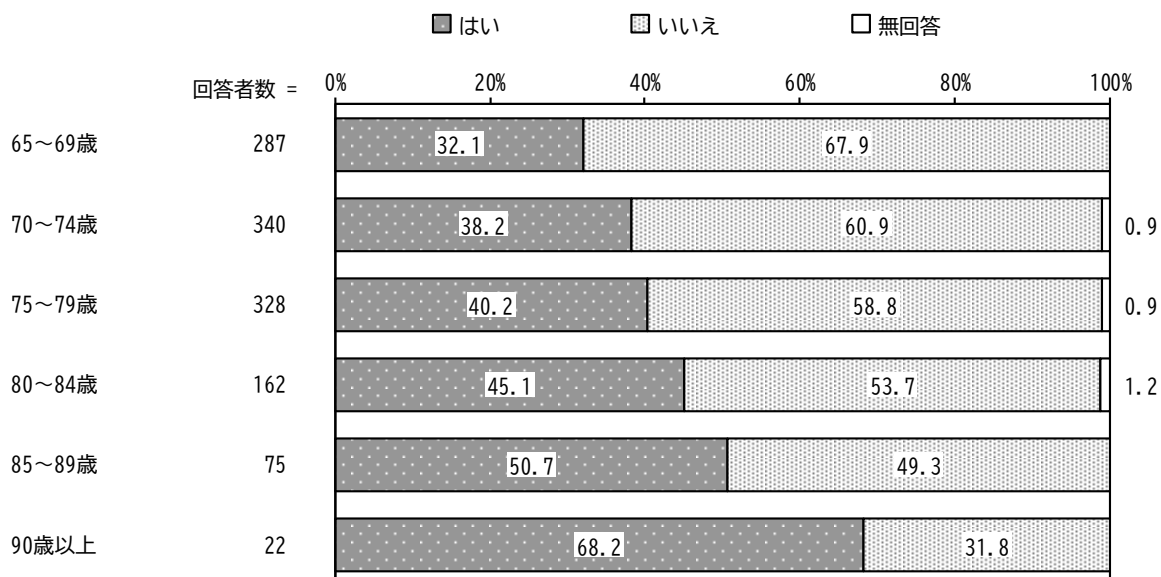
【性別】

性別にみると、女性で「はい」の割合が高くなっています。



【年齢別】

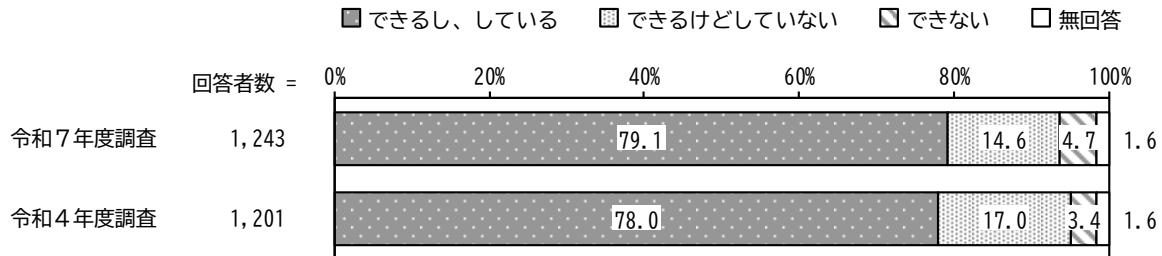
年齢別にみると、年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。



(2) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○は1つ）

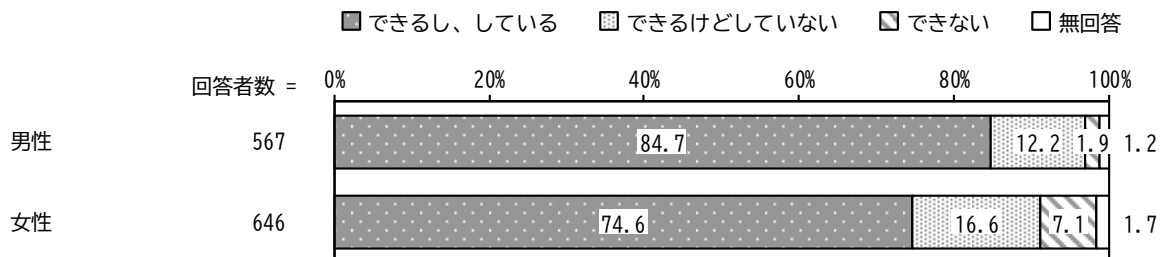
「できるし、している」の割合が79.1%、「できるけどしていない」の割合が14.6%、「できない」の割合が4.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



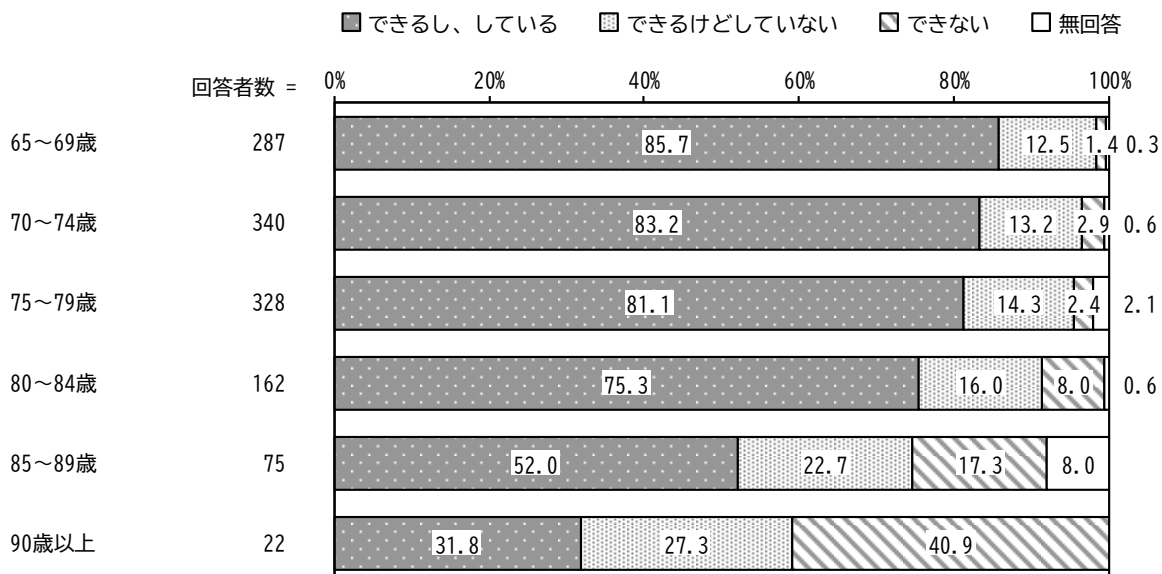
【性別】

性別にみると、男性で「できるし、している」の割合が高く、女性で「できない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

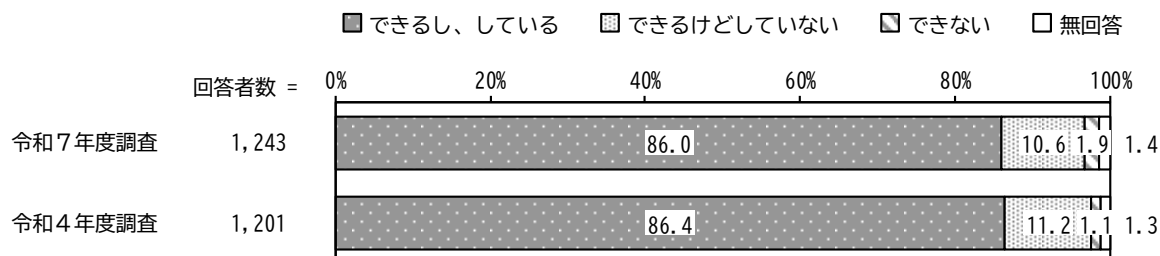
年齢別にみると、年齢が上がるほど「できるけどしていない」「できない」の割合が高い傾向にあり、「できるし、している」の割合が低くなっています。



(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか（○は1つ）

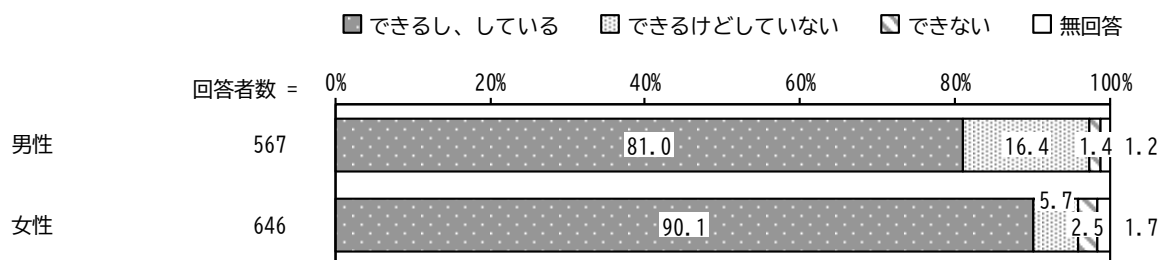
「できるし、している」の割合が 86.0%、「できるけどしていない」の割合が 10.6%、「できない」の割合が 1.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



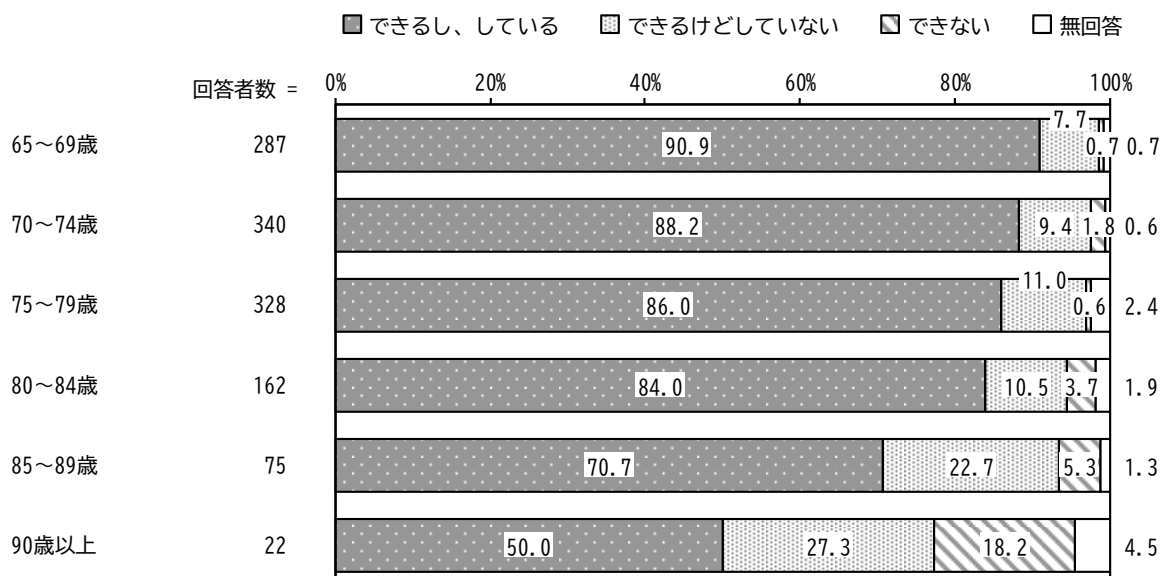
【性別】

性別にみると、男性で「できるけどしていない」の割合が高く、女性で「できるし、している」の割合が高くなっています。



【年齢別】

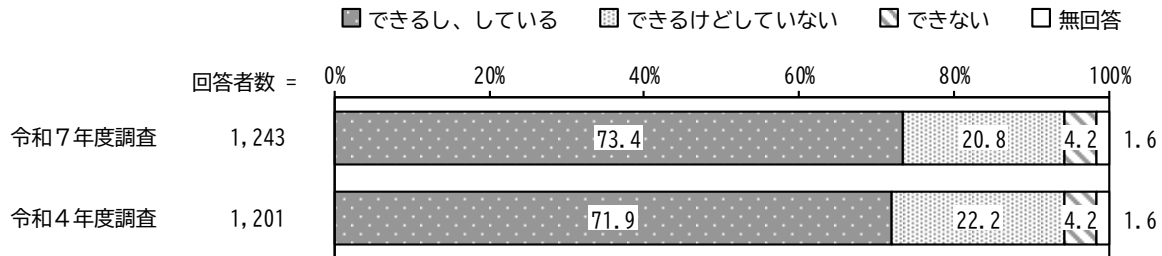
年齢別にみると、年齢が上がるほど「できるけどしていない」の割合が高い傾向にあり、「できるし、している」の割合が低くなっています。



(4) 自分で食事の用意をしていますか (○は1つ)

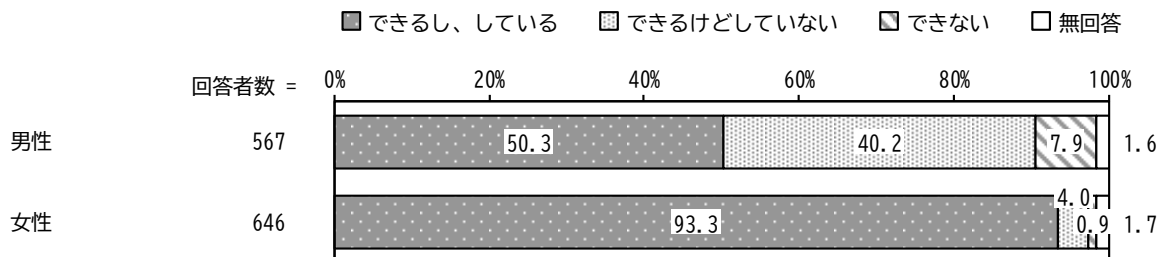
「できるし、している」の割合が 73.4%、「できるけどしていない」の割合が 20.8%、「できない」の割合が 4.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



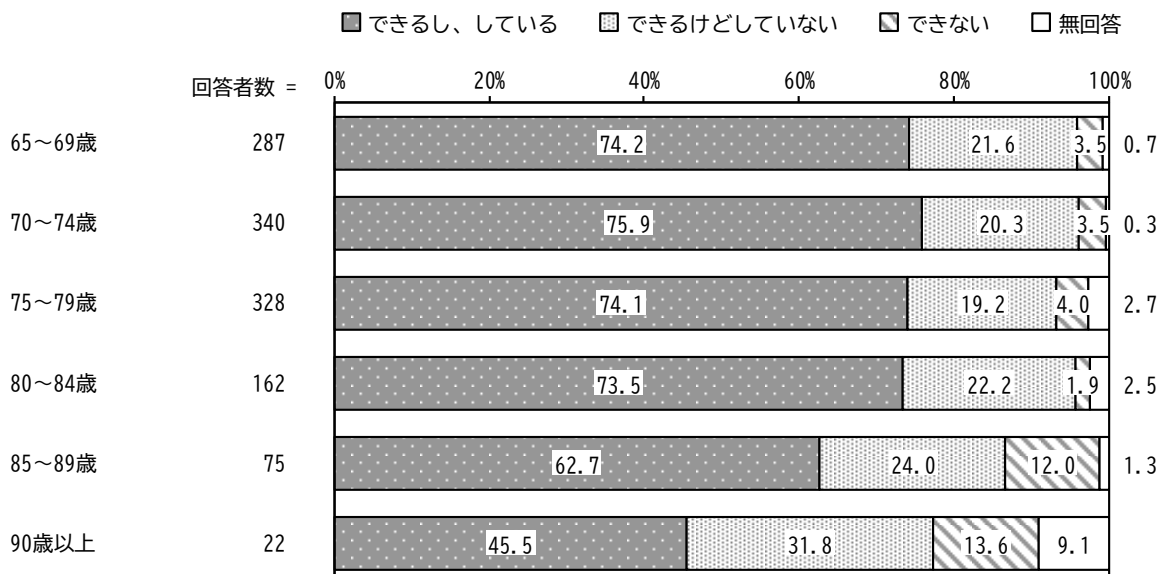
【性別】

性別にみると、男性で「できるけどしていない」「できない」の割合が高く、女性で「できるし、している」の割合が高くなっています。



【年齢別】

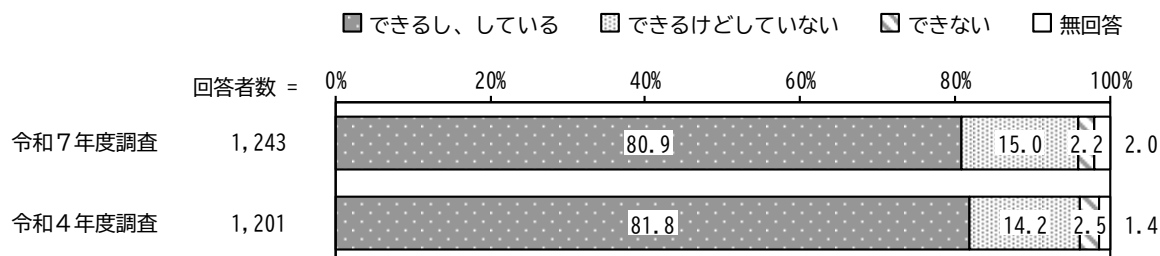
年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「できるし、している」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「できるけどしていない」の割合が高くなっています。



(5) 自分で請求書の支払いをしていますか (○は1つ)

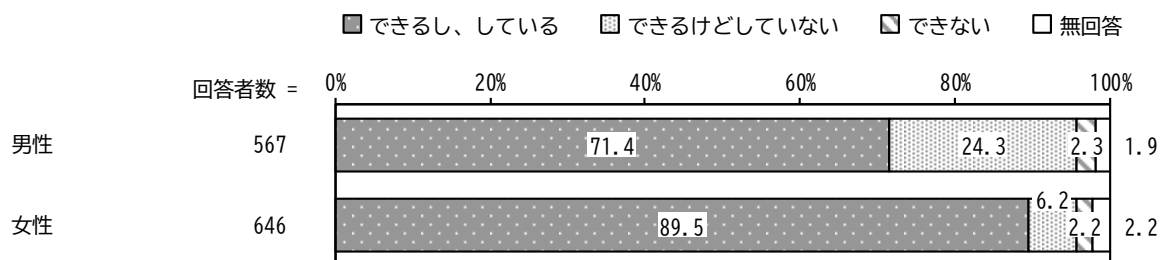
「できるし、している」の割合が 80.9%、「できるけどしていない」の割合が 15.0%、「できない」の割合が 2.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



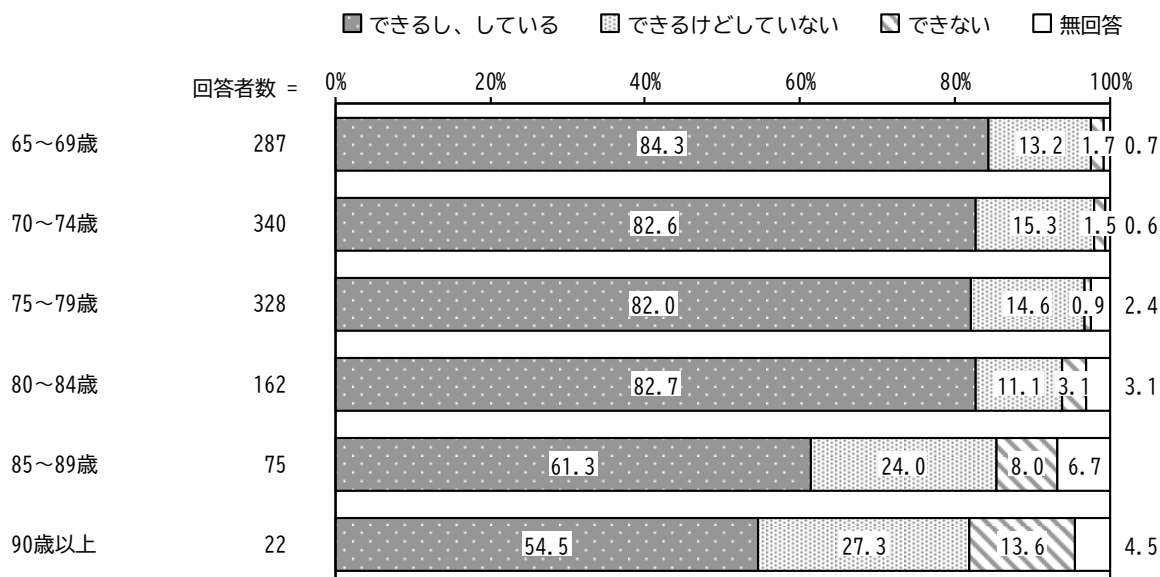
【性別】

性別にみると、男性で「できるけどしていない」の割合が高く、女性で「できるし、している」の割合が高くなっています。



【年齢別】

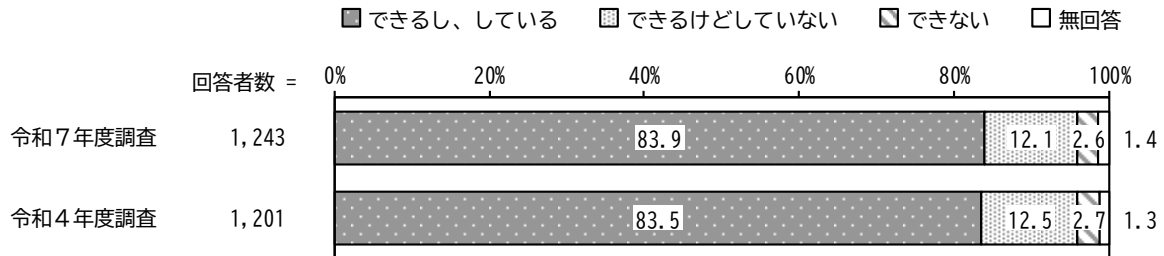
年齢別にみると、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「できない」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「できるけどしていない」の割合が高く、「できるし、している」の割合が低くなっています。



(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○は1つ)

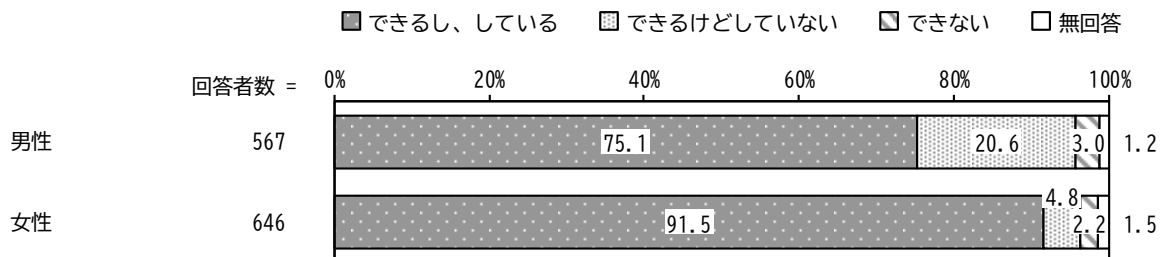
「できるし、している」の割合が 83.9%、「できるけどしていない」の割合が 12.1%、「できない」の割合が 2.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



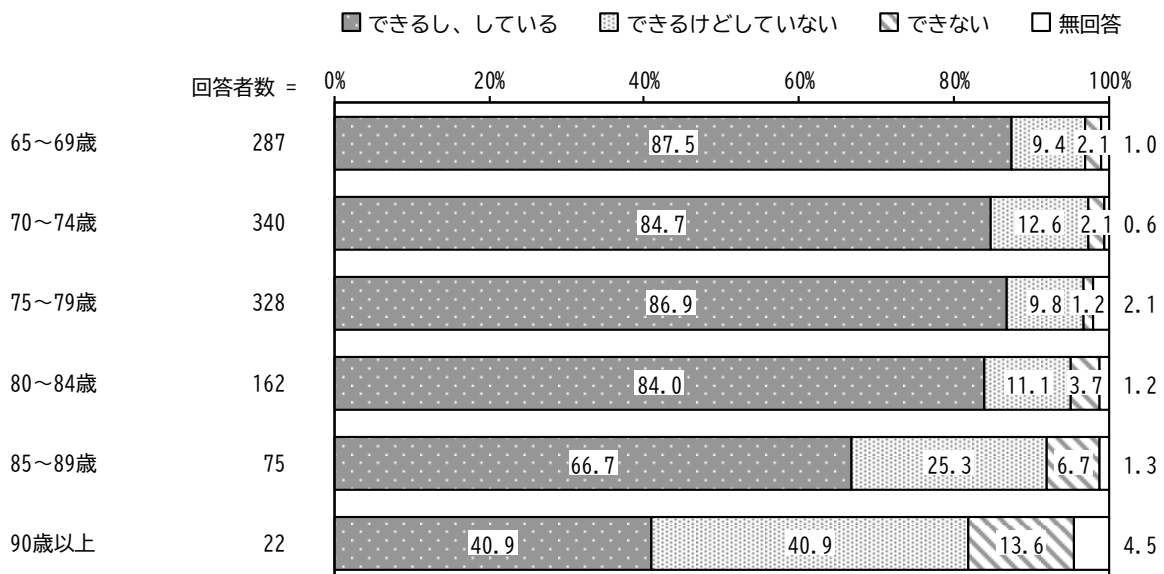
【性別】

性別にみると、男性で「できるけどしていない」の割合が高く、女性で「できるし、している」の割合が高くなっています。



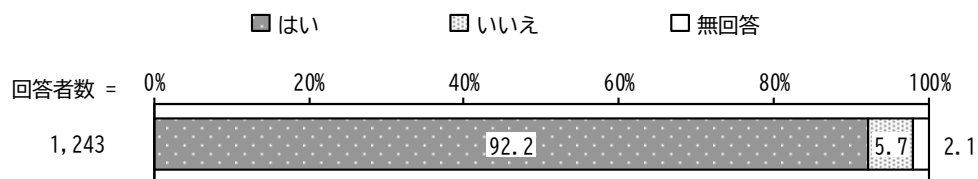
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「できるし、している」の割合が高い傾向にあります。また、90歳以上で「できるけどしていない」の割合が高くなっています。



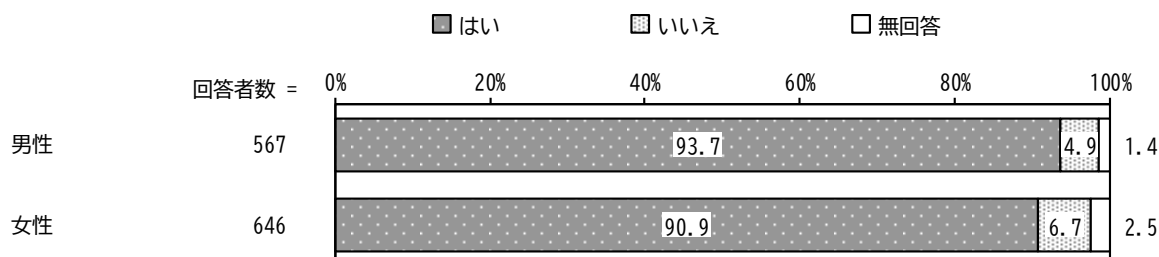
(7) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（○は1つ）

「はい」の割合が92.2%、「いいえ」の割合が5.7%となっています。



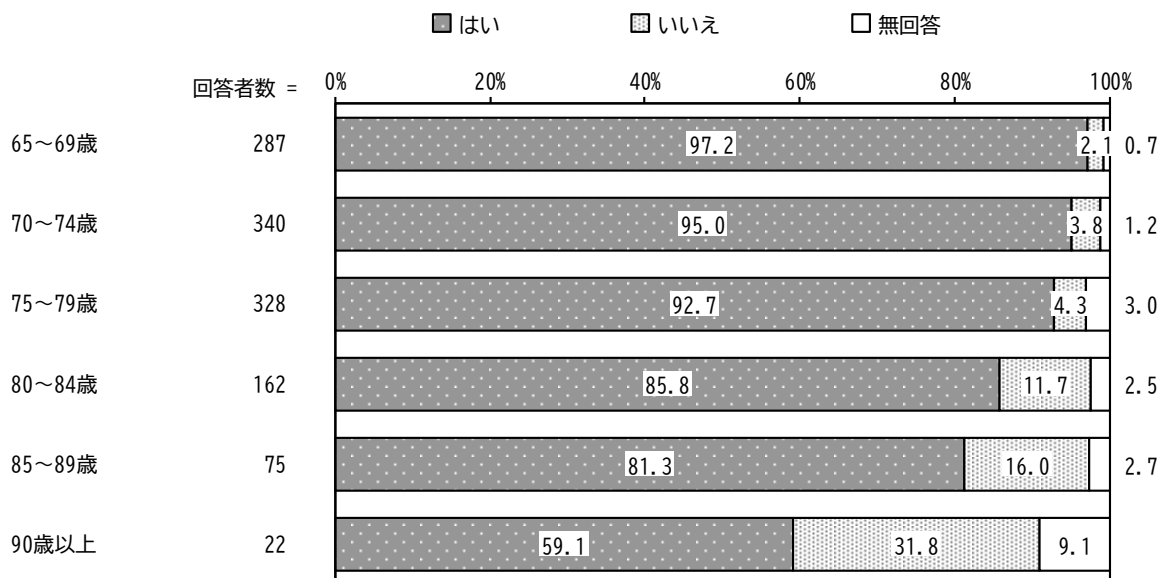
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



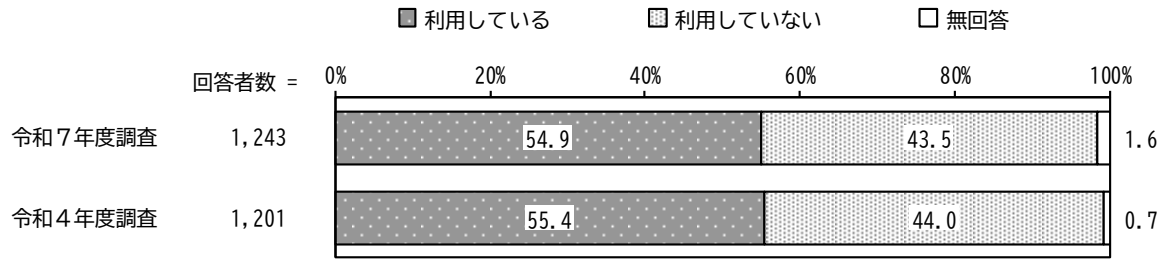
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「いいえ」の割合が高くなっています。



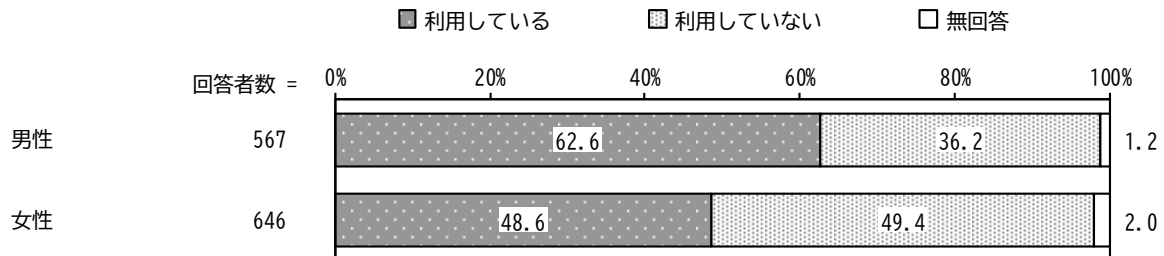
（８）インターネットを利用していますか（○は１つ）

「利用している」の割合が 54.9%、「利用していない」の割合が 43.5%となっています。
令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



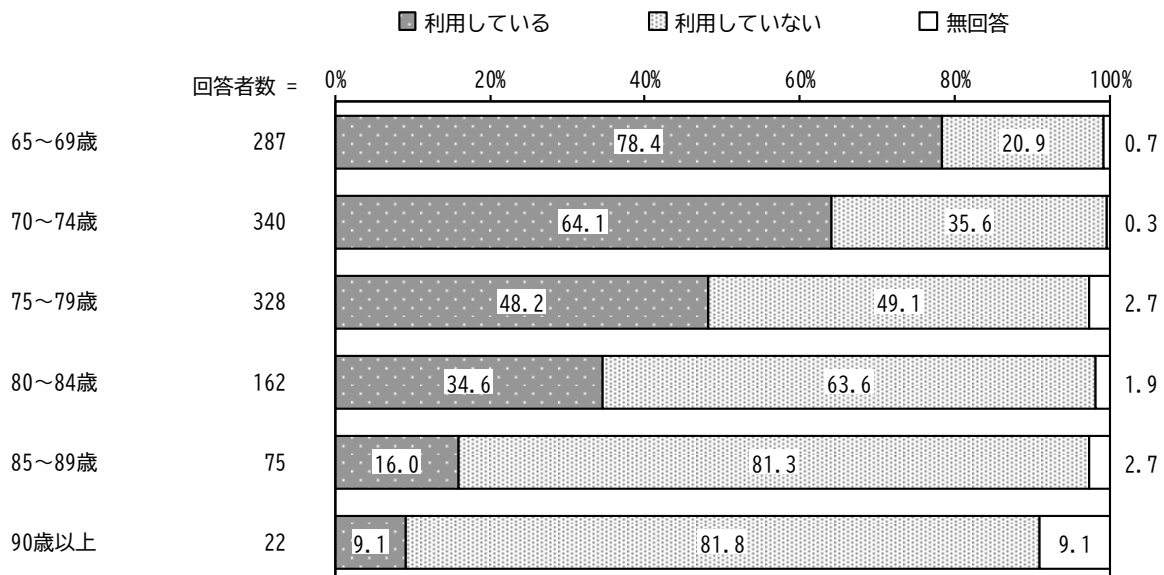
【性別】

性別にみると、男性で「利用している」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用していない」の割合が高くなっています。

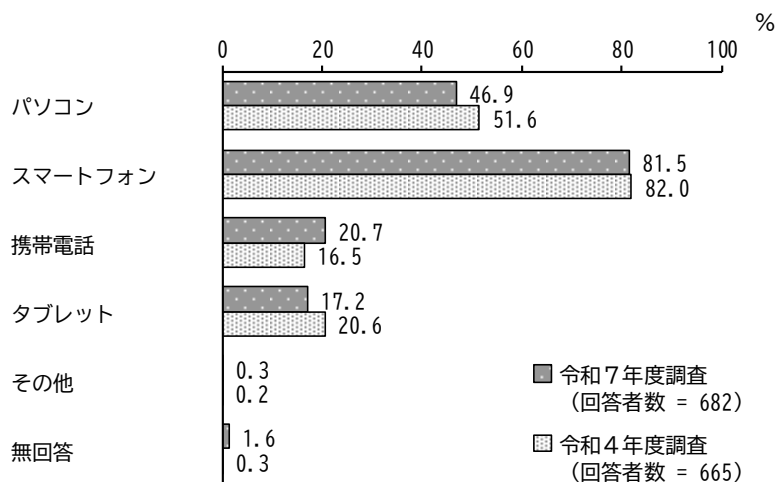


【(8) で「利用している」と回答した方のみ】

① お使いの端末は次のどれですか。(〇はいくつでも)

「スマートフォン」の割合が81.5%と最も高く、次いで「パソコン」の割合が46.9%、「携帯電話」の割合が20.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、男性で「パソコン」の割合が高く、女性で「携帯電話」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	パソコン	スマートフォン	携帯電話	タブレット	その他	無回答
全 体	682	46.9	81.5	20.7	17.2	0.3	1.6
男性	355	64.8	83.1	18.0	19.4	0.6	0.3
女性	314	27.4	79.9	23.6	15.0	0.0	3.2

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「タブレット」の割合が高く、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「スマートフォン」の割合が高くなっています。また、80～84歳で「携帯電話」の割合が高くなっています。

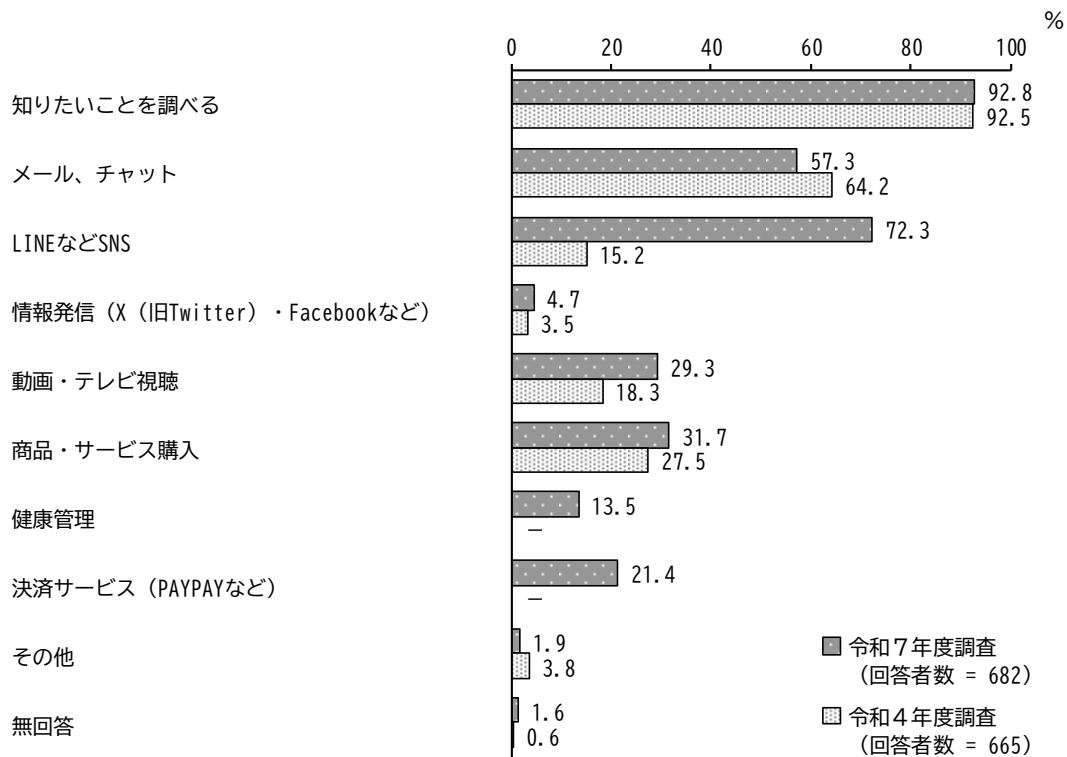
単位：％

区分	回答者数 (件)	パソコン	スマートフォン	携帯電話	タブレット	その他	無回答
全 体	682	46.9	81.5	20.7	17.2	0.3	1.6
65～69歳	225	54.2	91.1	14.2	18.7	0.4	0.4
70～74歳	218	49.1	87.2	17.9	17.4	0.5	0.5
75～79歳	158	40.5	72.8	23.4	16.5	0.0	3.2
80～84歳	56	30.4	55.4	51.8	16.1	0.0	3.6
85～89歳	12	50.0	25.0	25.0	8.3	0.0	16.7
90歳以上	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

② インターネットをどのように活用していますか。(〇はいくつでも)

「知りたいことを調べる」の割合が92.8%と最も高く、次いで「LINE など SNS」の割合が72.3%、「メール、チャット」の割合が57.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「LINE など SNS」「動画・テレビ視聴」の割合が増加しています。一方、「メール、チャット」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「健康管理」、「決済サービス (PAYPAY など)」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「メール、チャット」「商品・サービス購入」の割合が高く、女性で「LINE など SNS」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	知りたいことを調べる	メール、チャット	LINE など SNS	情報発信 (X (旧Twitter)・Facebook など)	動画・テレビ視聴	商品・サービス購入	健康管理	決済サービス (PAYPAY など)	その他	無回答
全 体	682	92.8	57.3	72.3	4.7	29.3	31.7	13.5	21.4	1.9	1.6
男性	355	94.4	61.1	65.1	6.5	31.0	37.5	13.0	23.9	2.5	0.8
女性	314	91.1	54.1	81.2	2.9	27.1	25.8	14.6	19.1	1.3	2.5

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「動画・テレビ視聴」「決済サービス（PAYPAY など）」の割合が高い傾向にあり、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「知りたいことを調べる」「メール、チャット」「LINE など SNS」「健康管理」の割合が高い傾向にあります。また、65～69 歳で「商品・サービス購入」の割合が高くなっています。

単位：％

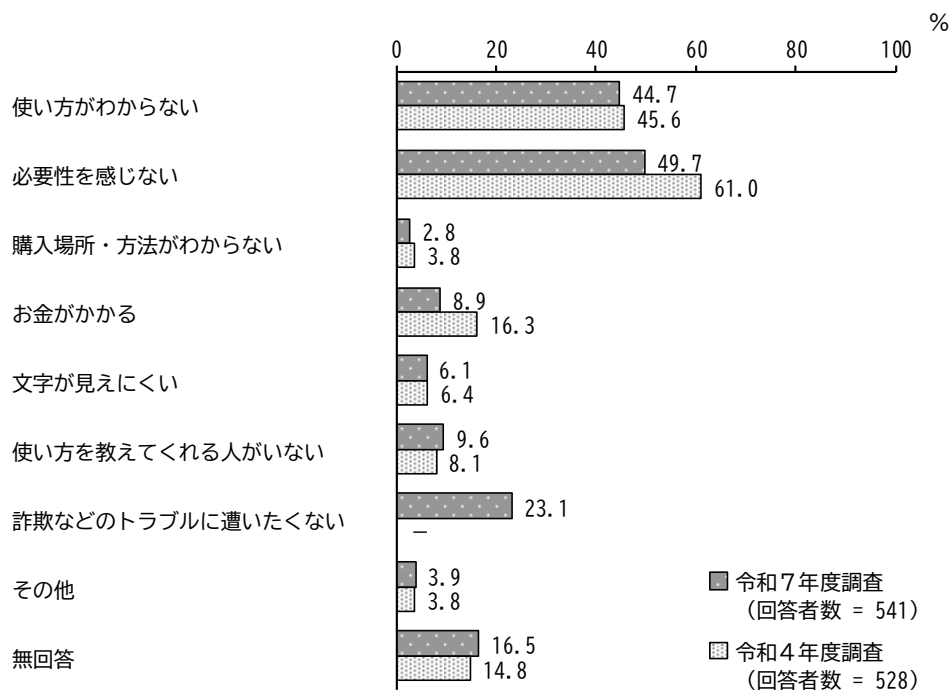
区分	回答者数 (件)	知りたいことを調べる	メール、チャット	LINE など SNS	情報発信 (X (旧 Twitter)・Facebook など)	動画・テレビ視聴	商品・サービス購入	健康管理	決済サービス (PAYPAY など)	その他	無回答
全 体	682	92.8	57.3	72.3	4.7	29.3	31.7	13.5	21.4	1.9	1.6
65～69歳	225	94.2	63.1	79.6	6.7	38.2	44.4	16.9	32.9	2.7	0.9
70～74歳	218	94.0	56.4	73.9	5.0	27.1	32.1	12.8	21.1	1.4	0.5
75～79歳	158	91.1	54.4	69.6	2.5	26.6	22.2	13.9	13.9	1.3	2.5
80～84歳	56	89.3	55.4	58.9	0.0	14.3	12.5	7.1	7.1	3.6	5.4
85～89歳	12	75.0	41.7	25.0	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3
90歳以上	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【(8) で「利用していない」と回答した方のみ】

③ インターネットを利用しない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

「必要性を感じない」の割合が 49.7%と最も高く、次いで「使い方がわからない」の割合が 44.7%、「詐欺などのトラブルに遭いたくない」の割合が 23.1%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「必要性を感じない」「お金がかかる」の割合が減少しています。



※令和 4 年度調査では、「詐欺などのトラブルに遭いたくない」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「お金がかかる」「文字が見えにくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	使い方がわからない	必要性を感じない	購入場所・方法がわからない	お金がかかる	文字が見えにくい	使い方を教えてくれる人がいない	詐欺などのトラブルに遭いたくない	その他	無回答
全 体	541	44.7	49.7	2.8	8.9	6.1	9.6	23.1	3.9	16.5
男性	205	44.9	50.2	3.9	13.2	8.8	7.3	24.9	3.4	12.7
女性	319	44.8	50.8	2.2	6.0	3.8	10.7	22.9	4.4	17.9

【年齢別】

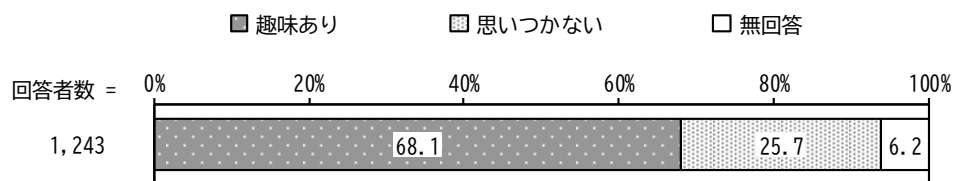
年齢別にみると、年齢が上がるほど「使い方がわからない」の割合が高い傾向にあり、「詐欺などのトラブルに遭いたくない」の割合が低い傾向にあり、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「使い方を教えてくれる人がいない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	使い方がわからない	必要性を感じない	購入場所・方法がわからない	お金がかかる	文字が見えにくい	使い方を教えてくれる人がいない	詐欺などのトラブルに遭いたくない	その他	無回答
全 体	541	44.7	49.7	2.8	8.9	6.1	9.6	23.1	3.9	16.5
65～69歳	60	36.7	40.0	0.0	10.0	3.3	10.0	33.3	10.0	18.3
70～74歳	121	40.5	53.7	1.7	11.6	4.1	5.8	23.1	1.7	14.0
75～79歳	161	48.4	52.8	3.7	6.2	6.2	11.8	22.4	1.2	16.1
80～84歳	103	45.6	55.3	1.9	8.7	5.8	11.7	22.3	8.7	16.5
85～89歳	61	49.2	47.5	6.6	11.5	6.6	8.2	24.6	3.3	11.5
90歳以上	18	55.6	27.8	5.6	0.0	16.7	0.0	11.1	0.0	27.8

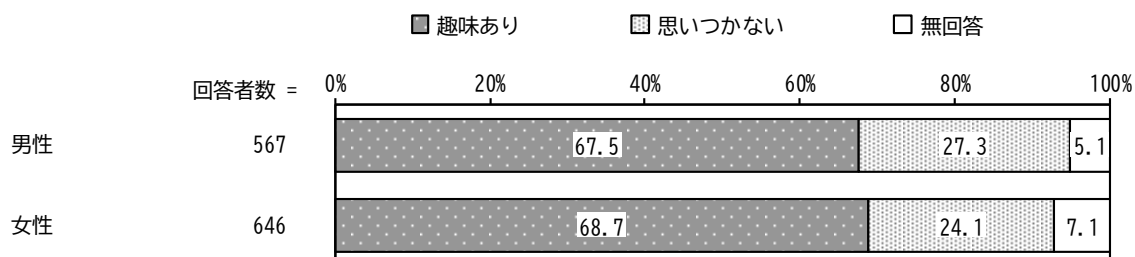
(9) 趣味はありますか (○は1つ)

「趣味あり」の割合が 68.1%、「思いつかない」の割合が 25.7%となっています。



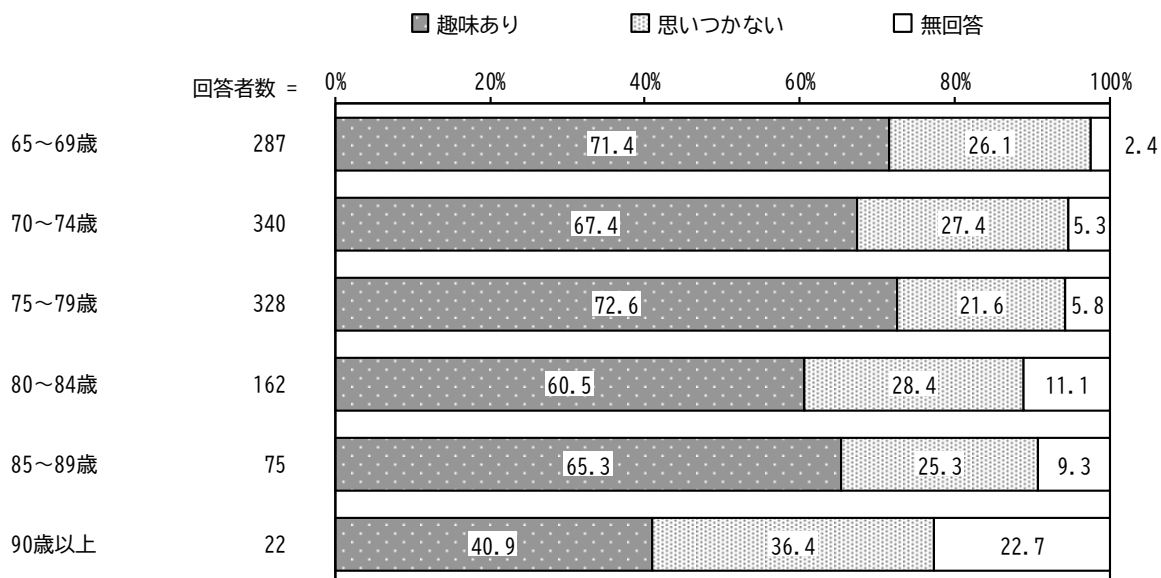
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



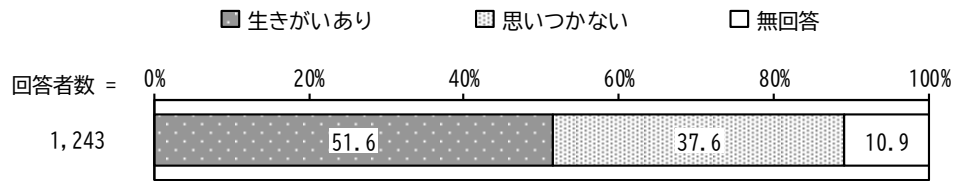
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上で「思いつかない」の割合が高くなっています。



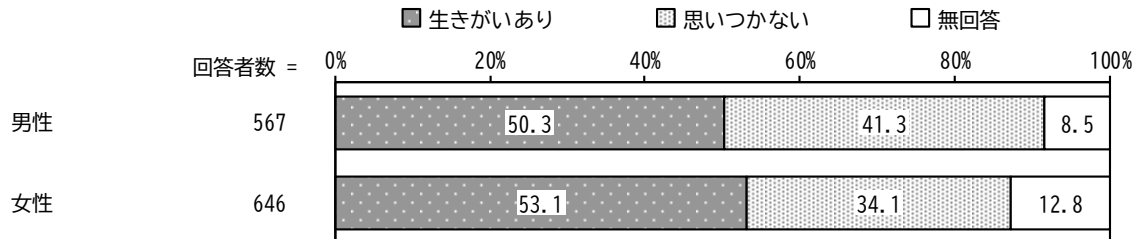
(10) 生きがいがありますか（○は1つ）。

「生きがいあり」の割合が51.6%、「思いつかない」の割合が37.6%となっています。



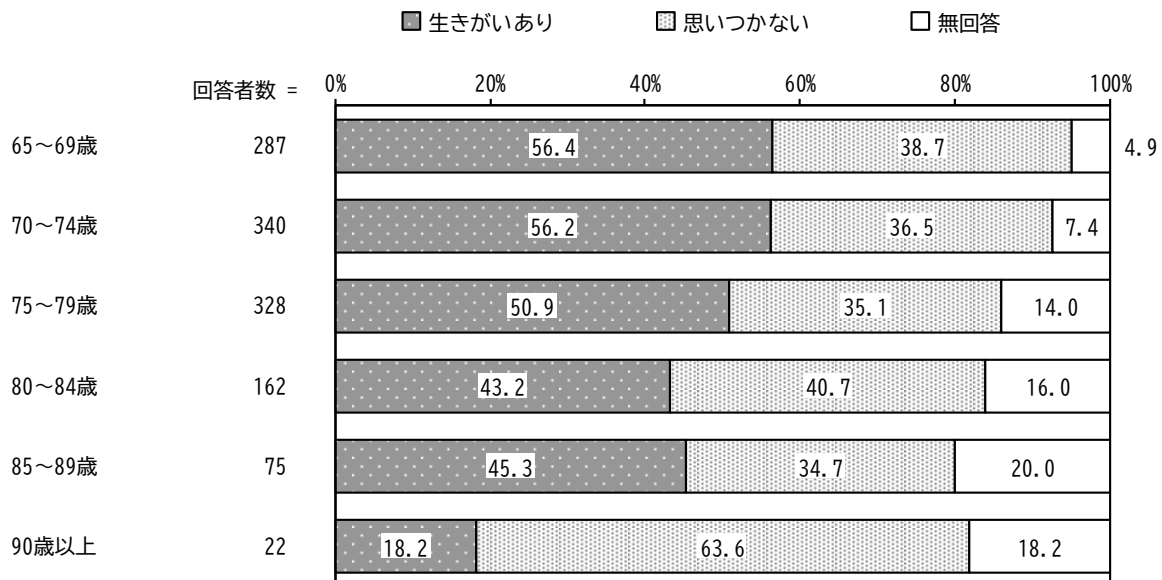
【性別】

性別にみると、男性で「思いつかない」の割合が高くなっています。



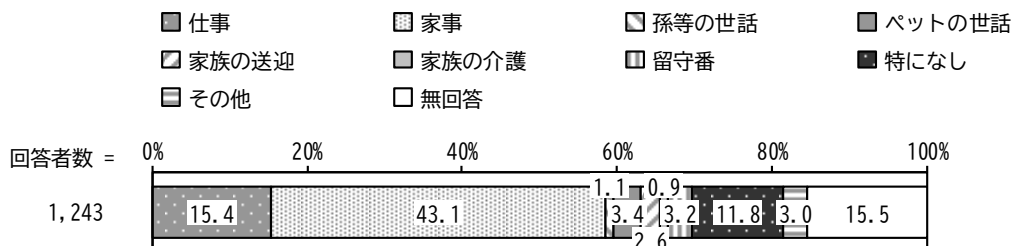
【年齢別】

年齢別にみると、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「生きがいあり」の割合が高くなっています。



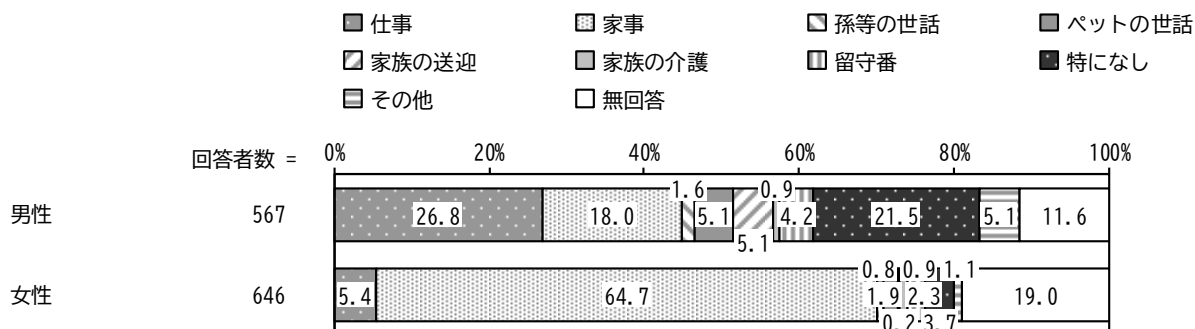
(11) あなたの家庭での主な役割はどのようなことですか。（○は1つ）

「家事」の割合が43.1%と最も高く、次いで「仕事」の割合が15.4%となっています。



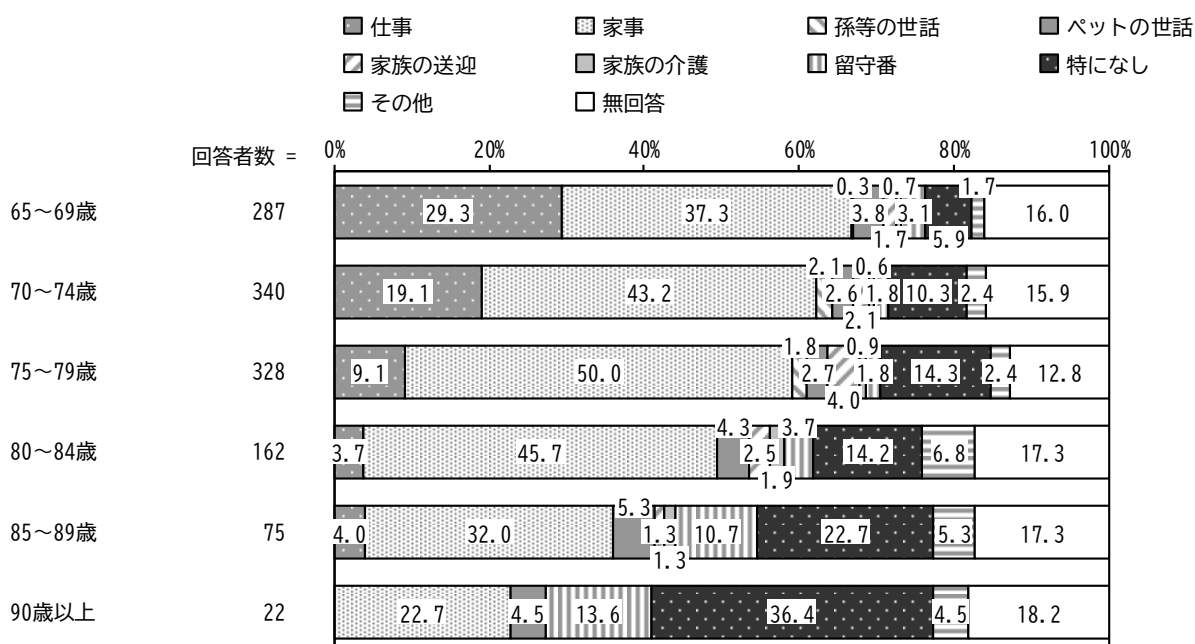
【性別】

性別にみると、男性で「仕事」の割合が高く、女性で「家事」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「仕事」の割合が高い傾向にあり、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「留守番」の割合が高い傾向にあります。



【調査結果のまとめ】

- 「物忘れが多い」と感じている人は 39.7%ととなっています。
- インターネットの利用率は 54.9%で、利用者の 81.5%がスマートフォンを使用し、主に情報の検索（92.8%）や SNS（72.3%）に活用しています。一方で、非利用者の約半数は「必要性を感じない」と回答しています。
- デジタルツールの普及が進む一方で、物忘れ等の認知機能への不安も高く、ICTを活用した健康管理や認知症予防情報の効果的な発信が有効であるとうかがえます。

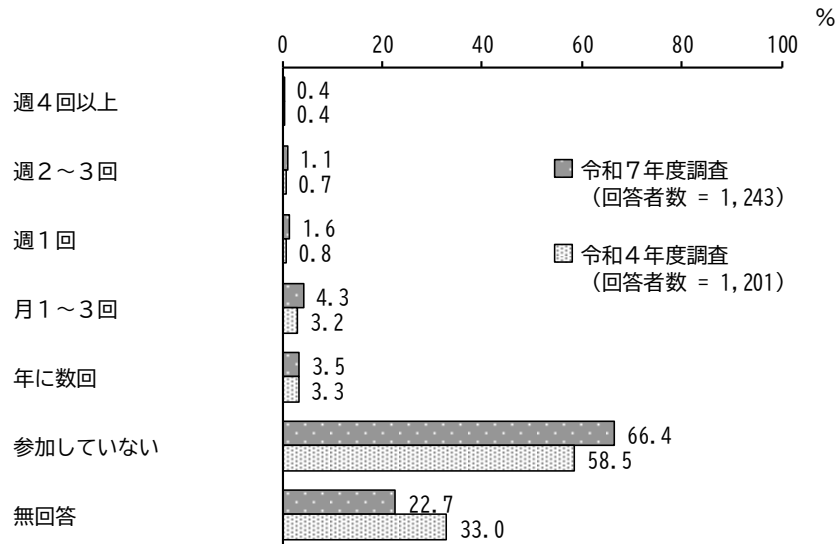
問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑪それぞれに回答してください（それぞれ○は1つ）

① ボランティアのグループ

【経年比較】

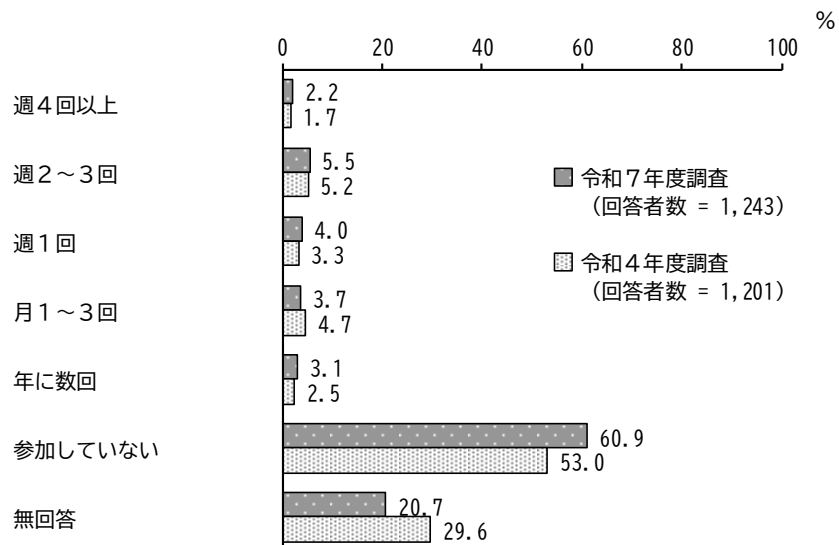
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



② スポーツ関係のグループやクラブ

【経年比較】

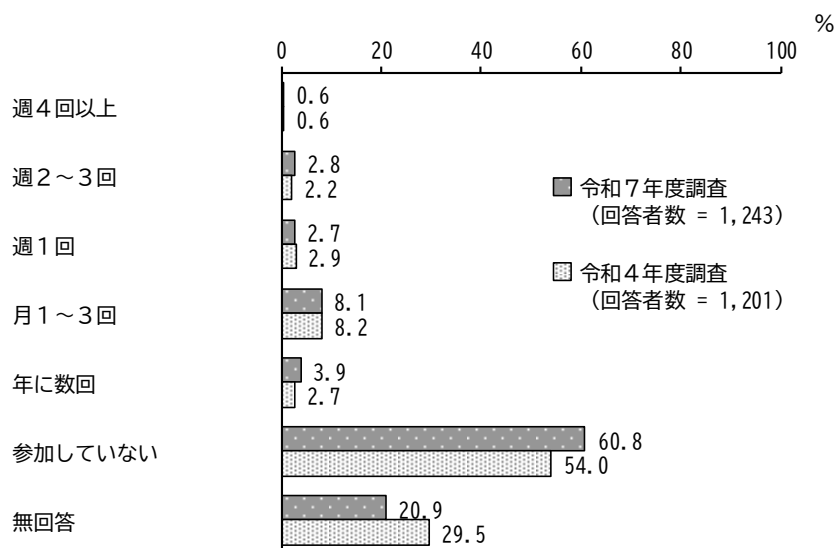
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



③ 趣味関係のグループ

【経年比較】

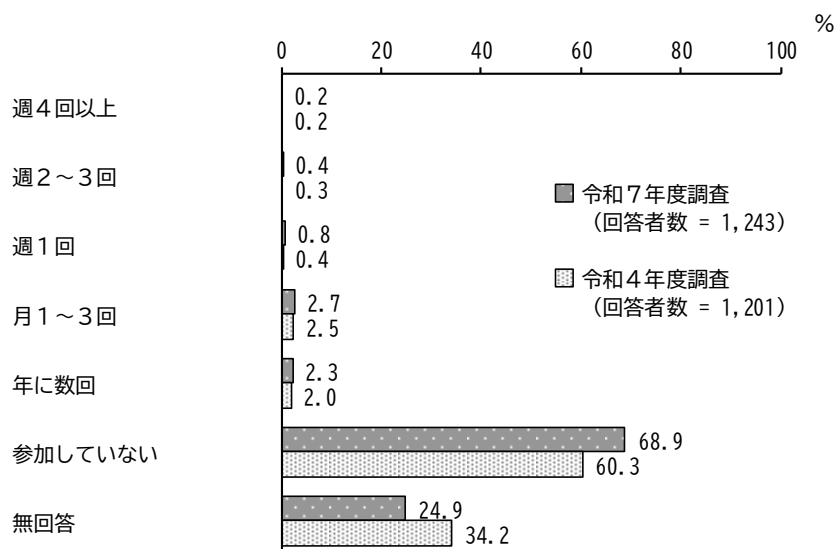
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



④ 学習・教養サークル

【経年比較】

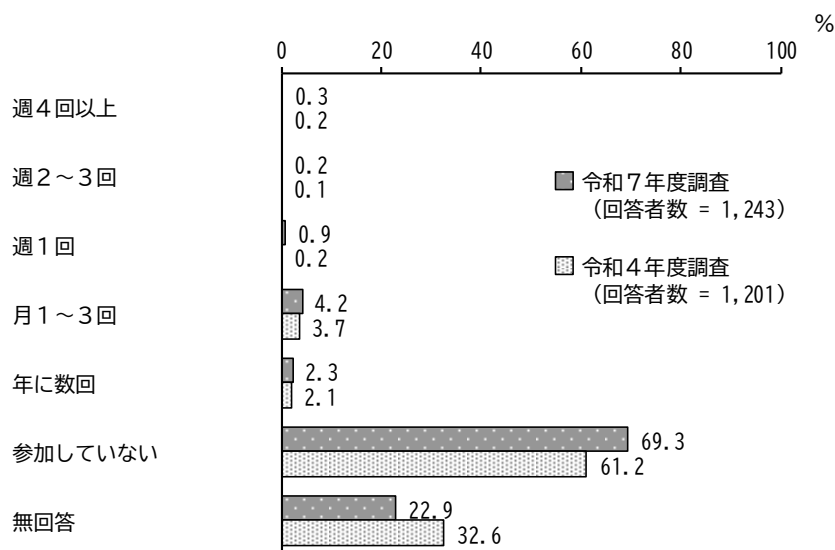
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑤ ゆとりすとクラブ・サロン

【経年比較】

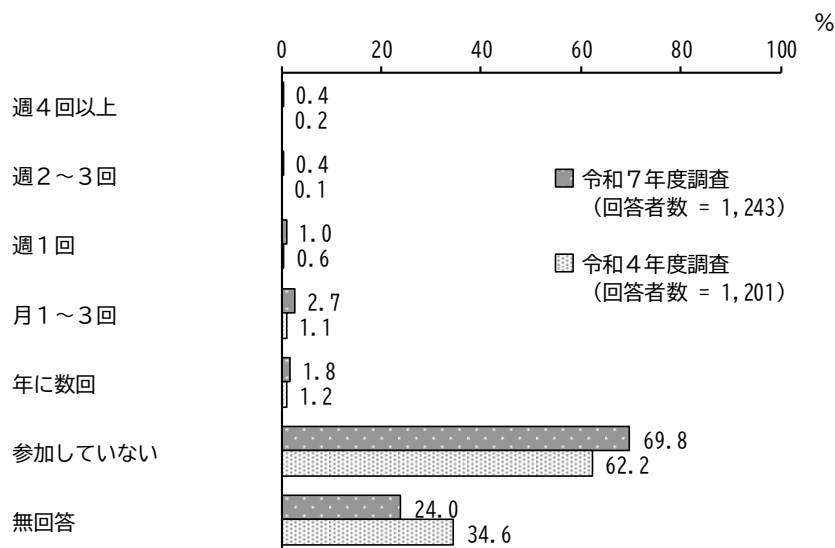
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑥ 街かどカフェ

【経年比較】

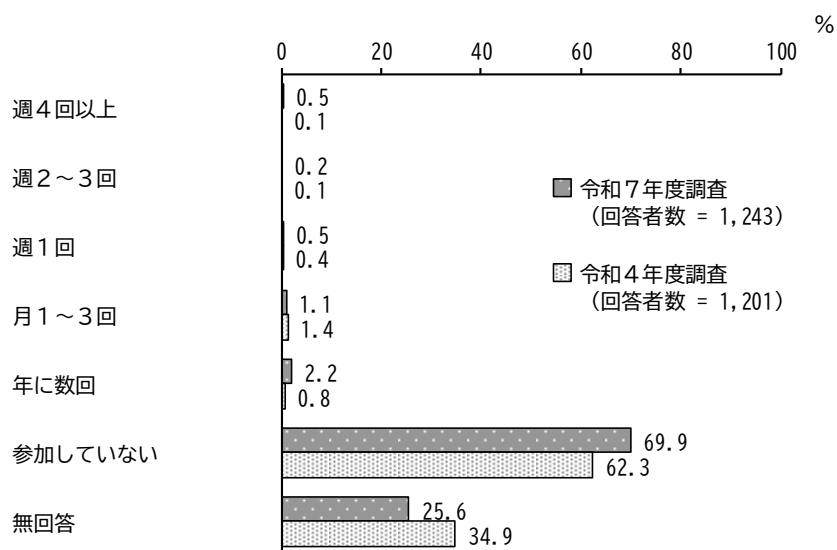
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑦ 富谷市福祉健康センター

【経年比較】

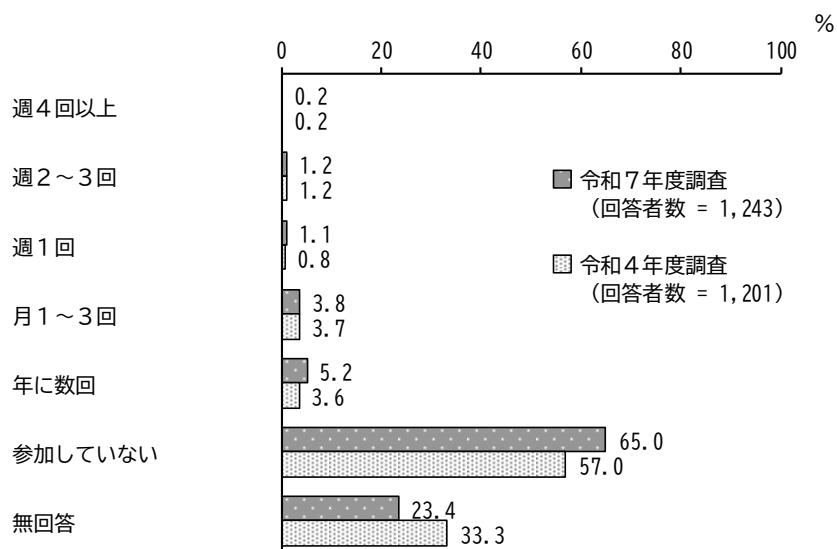
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑧ 近隣でのお茶飲み会 など

【経年比較】

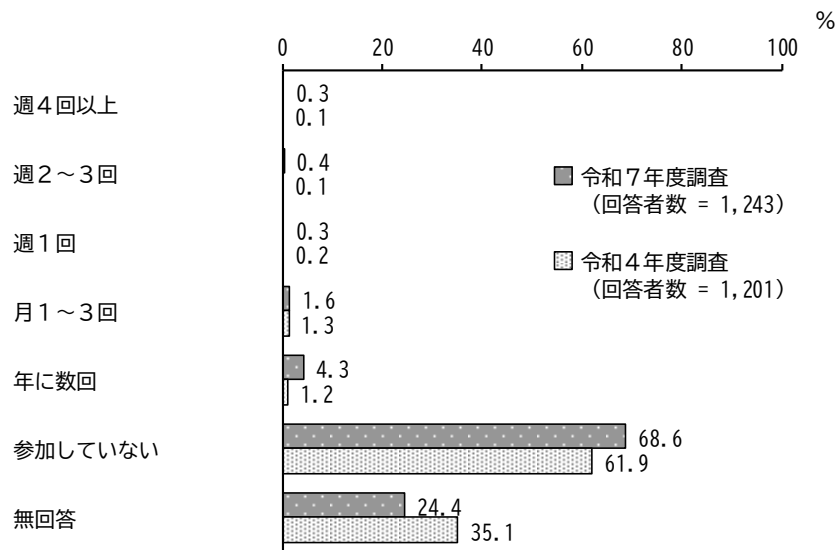
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑨ 老人クラブ

【経年比較】

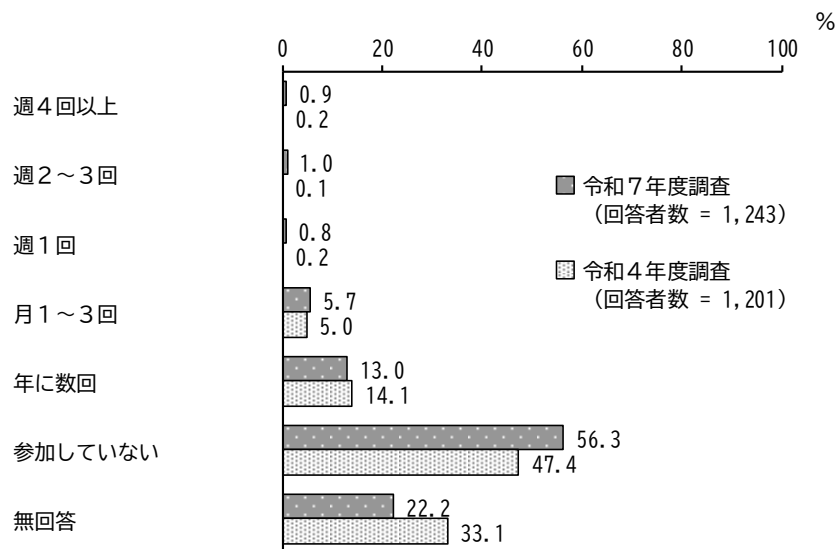
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑩ 町内会・自治会

【経年比較】

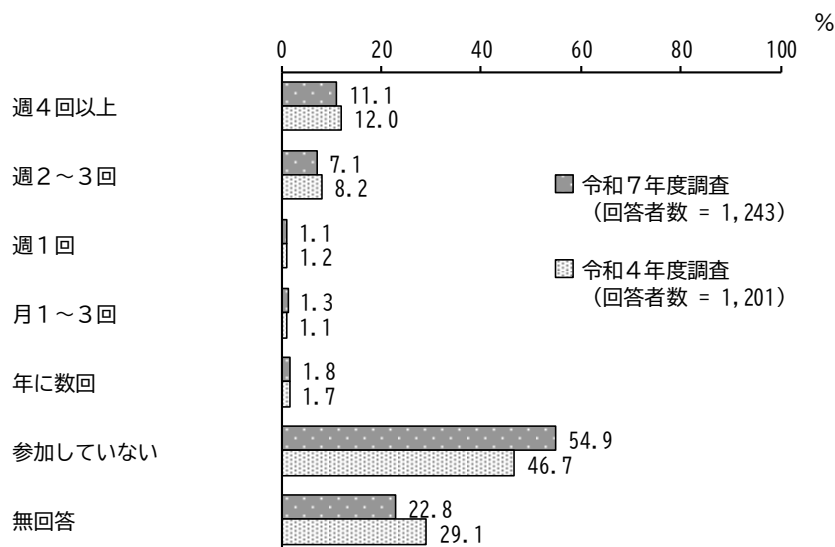
令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



⑪ 収入のある仕事

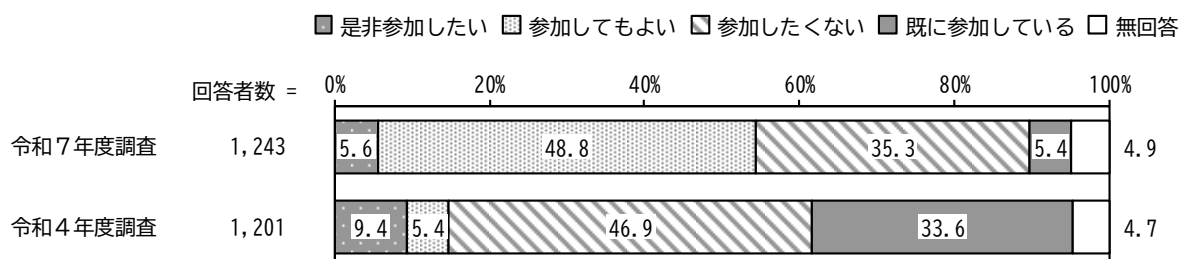
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「参加していない」の割合が増加しています。



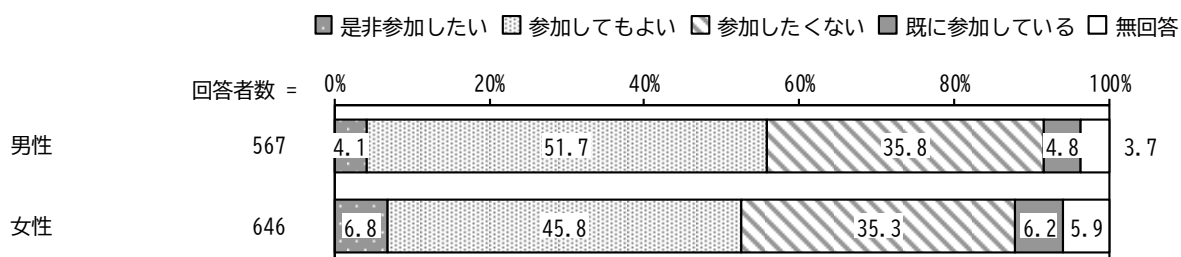
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (○は1つ)

「参加してもよい」の割合が48.8%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が35.3%となっています。令和4年度調査と比較すると、「参加してもよい」の割合が増加しています。一方、「参加したくない」「既に参加している」の割合が減少しています。



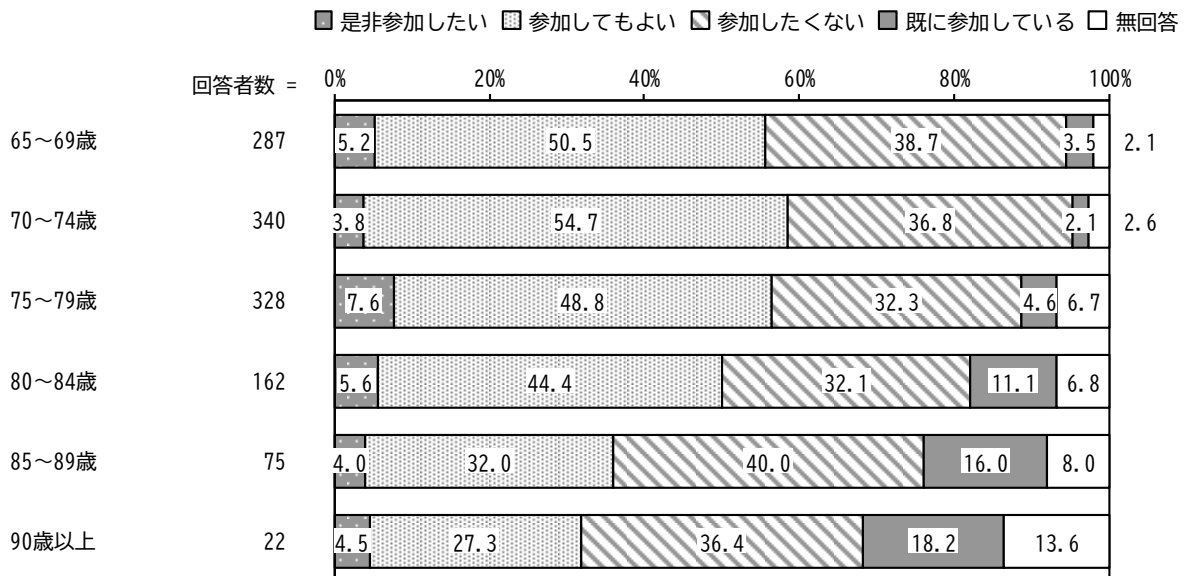
【性別】

性別にみると、男性で「参加してもよい」の割合が高くなっています。



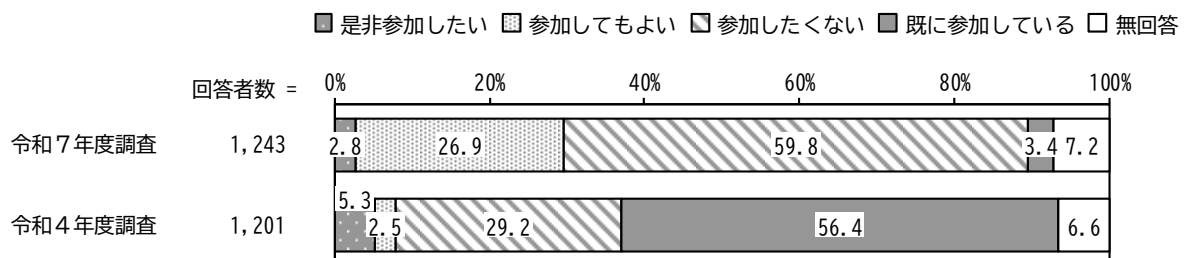
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「既に参加している」の割合が高く、「参加してもよい」の割合が低く、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「参加したくない」の割合が高くなっています。



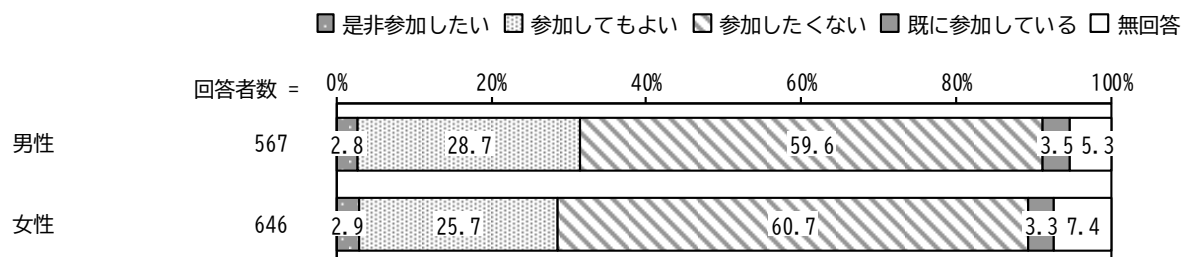
(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○は1つ）

「参加したくない」の割合が59.8%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が26.9%となっています。令和4年度調査と比較すると、「参加してもよい」「参加したくない」の割合が増加しています。一方、「既に参加している」の割合が減少しており、コロナ禍による活動の自粛が続いたことで地域とのつながりが薄れたことや、責任のある役割を「時間や心理的な負担が大きい」と感じる人が増えたことがうかがえます。



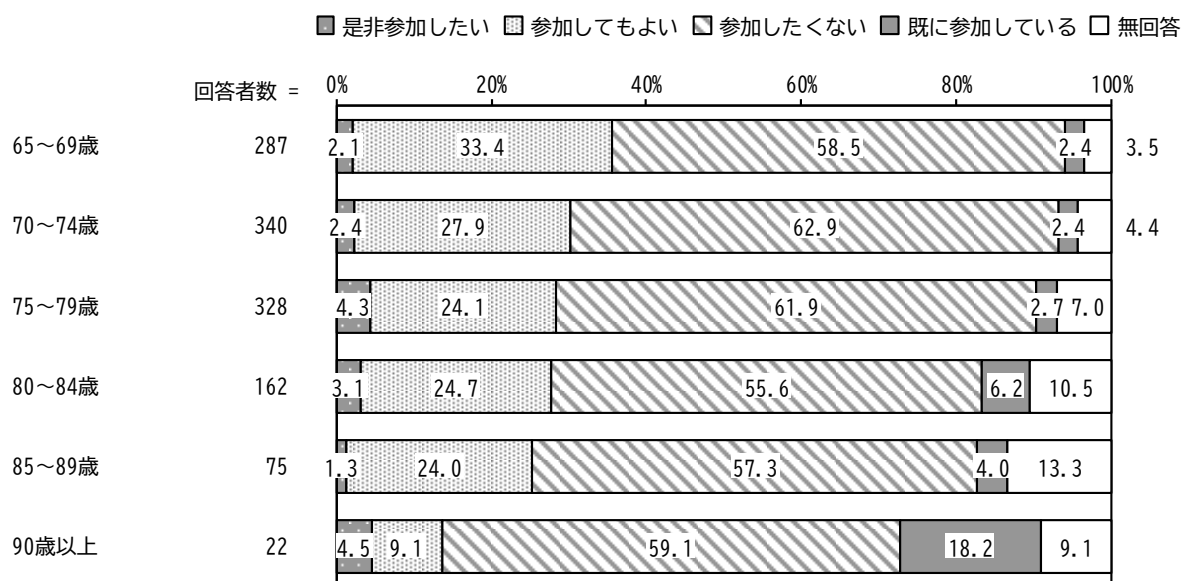
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



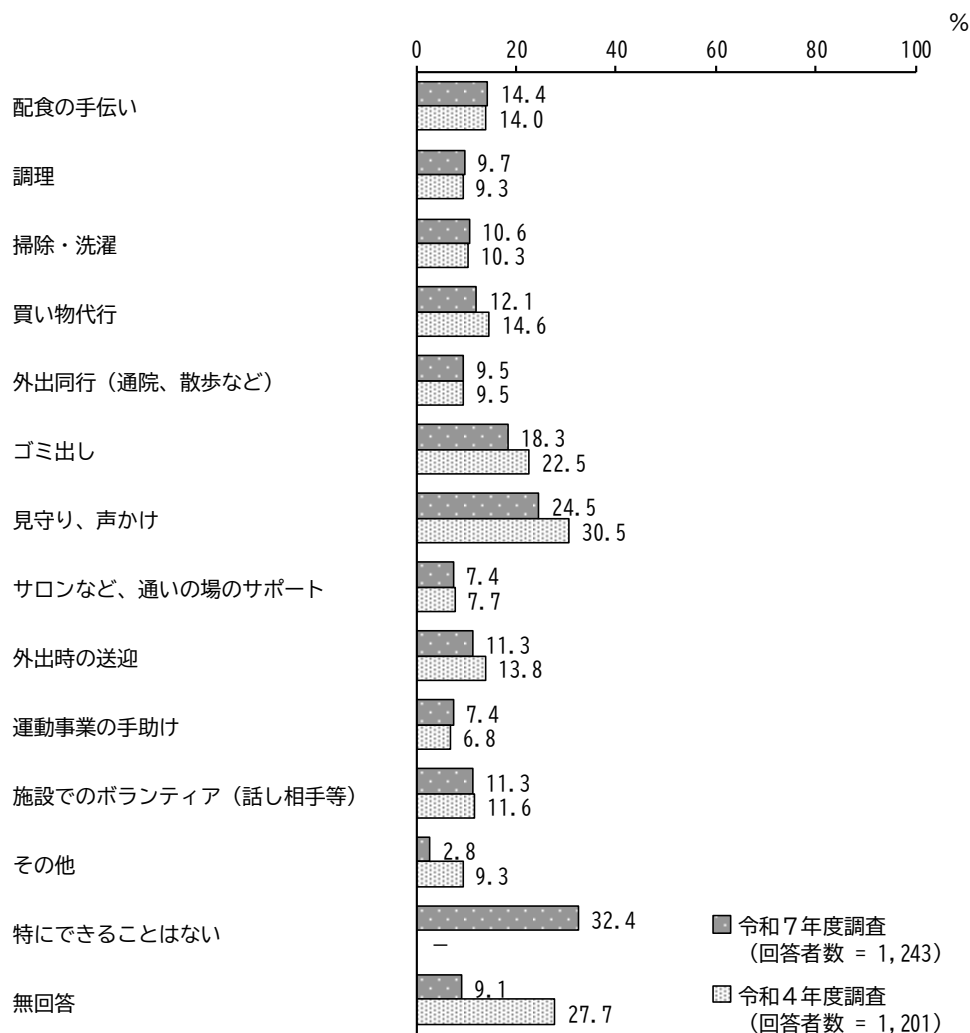
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加してもよい」の割合が高い傾向にあります。



(4) あなたは地域で支えあい活動を行うとしたら、どのようなことであればできますか
(〇はいくつでも)

「見守り、声かけ」の割合が 24.5%と最も高く、次いで「ゴミ出し」の割合が 18.3%、「配食の手伝い」の割合が 14.4%となっています。令和4年度調査と比較すると、「見守り、声かけ」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「特にできることはない」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「外出時の送迎」「運動事業の手助け」の割合が高く、女性で「配食の手伝い」「調理」「施設でのボランティア（話し相手等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食の手伝い	調理	掃除・洗濯	買い物代行	外出同行 (通院、散 歩など)	ゴミ出し	見守り、声かけ	場のサポート	外出時の送迎	運動事業の手助け	施設でのボラン ティア(話し相手等)	その他	特に できることは ない	無回答
全 体	1,243	14.4	9.7	10.6	12.1	9.5	18.3	24.5	7.4	11.3	7.4	11.3	2.8	32.4	9.1
男性	567	7.4	3.0	9.5	12.9	10.8	20.8	25.9	7.4	18.7	13.4	7.1	3.7	34.2	7.4
女性	646	20.7	15.6	11.5	11.5	8.4	16.4	24.0	7.6	5.1	2.3	15.5	2.2	31.0	9.8

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「買い物代行」「外出同行（通院、散歩など）」「見守り、声かけ」「サロンなど、通いの場のサポート」「外出時の送迎」「施設でのボランティア（話し相手等）」の割合が高い傾向にあり、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「配食の手伝い」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食の手伝い	調理	掃除・洗濯	買い物代行	外出同行 (通院、散 歩など)	ゴミ出し	見守り、声かけ	場のサポート	外出時の送迎	運動事業の手助け	施設でのボラン ティア(話し相手等)	その他	特に できることは ない	無回答
全 体	1,243	14.4	9.7	10.6	12.1	9.5	18.3	24.5	7.4	11.3	7.4	11.3	2.8	32.4	9.1
65～69歳	287	18.5	12.5	12.5	16.0	12.2	18.5	32.1	10.5	14.6	9.4	16.0	1.4	31.0	4.5
70～74歳	340	19.1	9.4	12.9	12.6	11.2	19.7	29.1	8.8	12.4	9.4	12.6	1.8	29.4	5.6
75～79歳	328	11.6	10.1	8.8	12.5	9.8	21.3	22.0	7.3	11.6	4.3	9.5	4.3	32.9	8.5
80～84歳	162	10.5	8.6	8.6	10.5	6.8	15.4	19.8	3.7	8.6	6.2	11.1	4.3	27.2	17.3
85～89歳	75	4.0	4.0	2.7	2.7	0.0	9.3	9.3	0.0	4.0	9.3	4.0	4.0	56.0	14.7
90歳以上	22	0.0	4.5	13.6	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	50.0	22.7

【調査結果のまとめ】

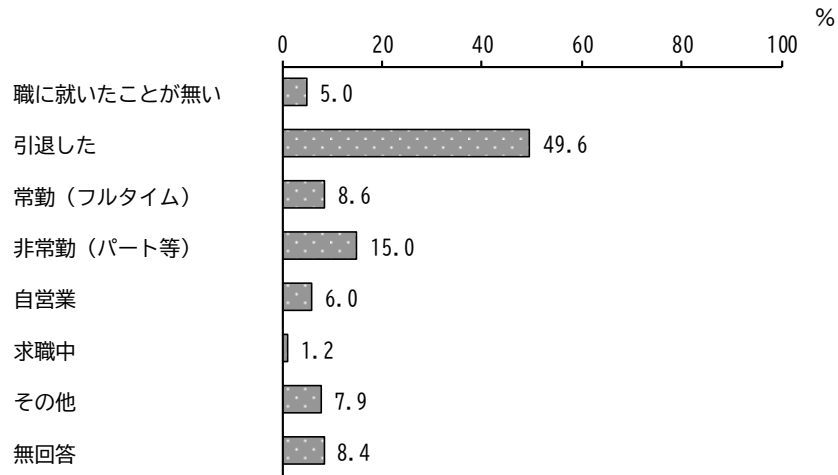
- ボランティア、スポーツ、趣味などの各グループ活動において、令和4年度調査と比較し「参加していない」の割合が増加しています。しかし、今後の活動への参加意向は「参加してもよい」が48.8%と高く、地域での支えあい活動として「見守り、声かけ」（24.5%）などは可能とする意向が見られます。
- 実際の活動参加率は停滞していますが、潜在的な参加・貢献意欲は高いため、参加のハードルを下げた多様な活動機会の創出が課題であると考えられます。

問6 就労について

(1) 現在のあなたの就労状態はどれですか(○はいくつでも)

「引退した」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「非常勤(パート等)」の割合が 15.0%となっています。

回答者数 = 1,243



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「常勤(フルタイム)」の割合が高い傾向にあり、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「職に就いたことが無い」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数(件)	職に就いたことが無い	引退した	常勤(フルタイム)	非常勤(パート等)	自営業	求職中	その他	無回答
全 体	1,243	5.0	49.6	8.6	15.0	6.0	1.2	7.9	8.4
65～69歳	287	3.1	34.1	20.9	24.4	8.0	2.1	6.3	2.4
70～74歳	340	2.9	53.5	10.3	17.1	7.6	0.9	5.6	3.2
75～79歳	328	6.4	55.2	2.4	12.5	4.9	1.5	9.8	9.5
80～84歳	162	5.6	58.0	1.9	6.8	2.5	0.6	8.6	17.3
85～89歳	75	9.3	50.7	0.0	2.7	5.3	0.0	12.0	20.0
90歳以上	22	22.7	45.5	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	27.3

【調査結果のまとめ】

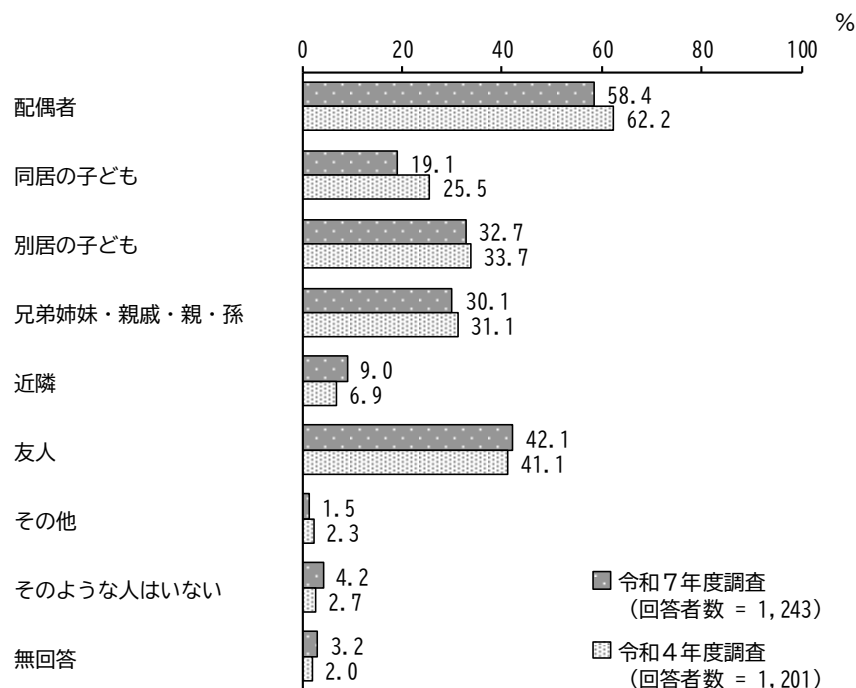
- 現在の状況は「引退した」が 49.6%と最も高い一方、「非常勤(パート等)」(15.0%)や「常勤」(8.6%)など、何らかの形で就労している層が約3割見られます。
- 65歳以降も働く意欲を持つ層が一定数見られ、生涯現役社会の実現に向けた高齢者の就労支援や社会貢献活動へのつながりが重要であるとうかがえます。

問7 たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(〇はいくつでも)

「配偶者」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「友人」の割合が 42.1%、「別居の子ども」の割合が 32.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「同居の子ども」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「配偶者」「友人」の割合が高い傾向にあり、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「別居の子ども」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が高くなっています。

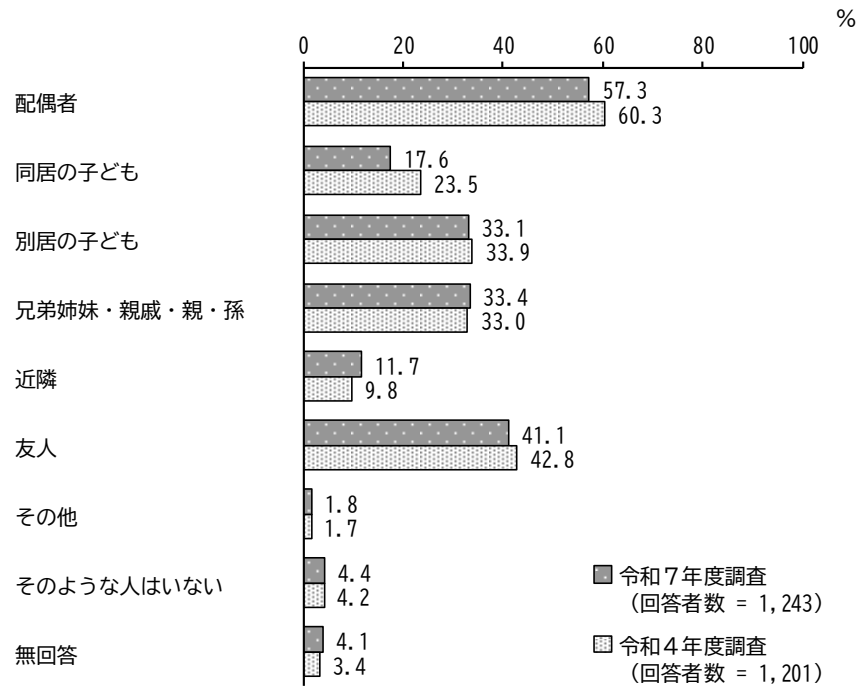
単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全 体	1,243	58.4	19.1	32.7	30.1	9.0	42.1	1.5	4.2	3.2
65～69歳	287	67.2	18.1	34.1	30.7	7.0	54.0	1.4	3.5	1.4
70～74歳	340	65.6	18.8	33.5	26.2	8.8	42.4	0.9	4.7	2.1
75～79歳	328	59.1	16.2	35.7	31.7	10.7	42.4	1.5	4.3	2.4
80～84歳	162	40.7	26.5	28.4	30.2	13.0	34.0	2.5	2.5	6.2
85～89歳	75	38.7	20.0	28.0	30.7	5.3	24.0	4.0	4.0	8.0
90歳以上	22	22.7	22.7	9.1	40.9	0.0	22.7	0.0	13.6	4.5

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人(○はいくつでも)

「配偶者」の割合が57.3%と最も高く、次いで「友人」の割合が41.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が33.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「同居の子ども」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「配偶者」「友人」の割合が高く、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「別居の子ども」の割合が高くなっています。

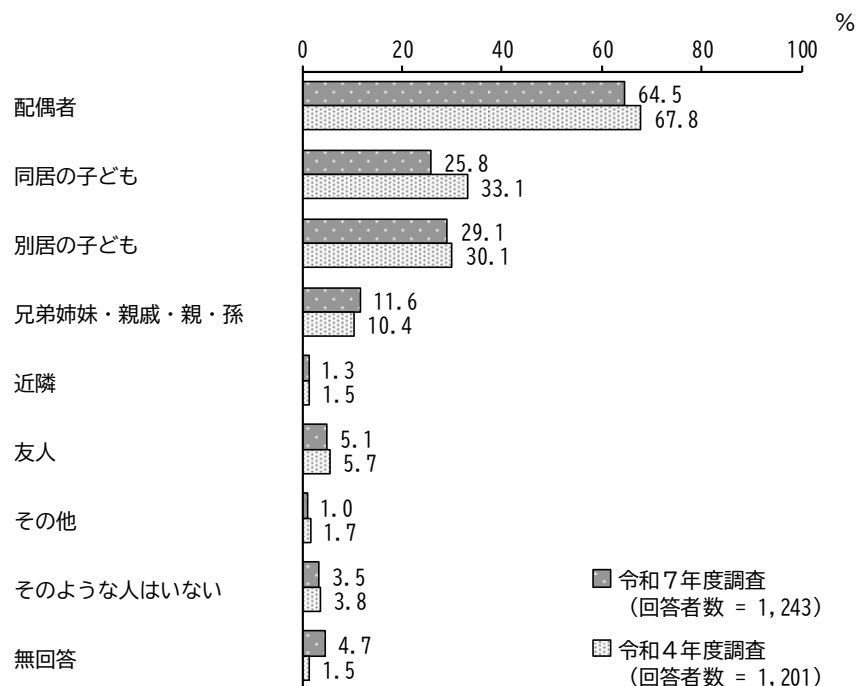
単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全 体	1,243	57.3	17.6	33.1	33.4	11.7	41.1	1.8	4.4	4.1
65～69歳	287	66.9	19.2	34.1	35.5	8.4	51.6	1.7	2.8	1.0
70～74歳	340	65.0	18.2	35.3	31.5	11.5	42.1	0.9	4.1	3.5
75～79歳	328	56.4	14.3	38.4	36.3	14.3	40.5	2.4	4.0	4.3
80～84歳	162	40.7	18.5	25.9	31.5	16.0	37.0	2.5	4.9	6.2
85～89歳	75	38.7	22.7	21.3	25.3	5.3	20.0	2.7	4.0	9.3
90歳以上	22	18.2	18.2	4.5	31.8	4.5	18.2	0.0	27.3	4.5

（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）

「配偶者」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が 29.1%、「同居の子ども」の割合が 25.8%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「同居の子ども」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「同居の子ども」の割合が高く、「配偶者」の割合が低く、65～69 歳から 80～84 歳まで年齢が上がるほど「別居の子ども」の割合が高くなっています。

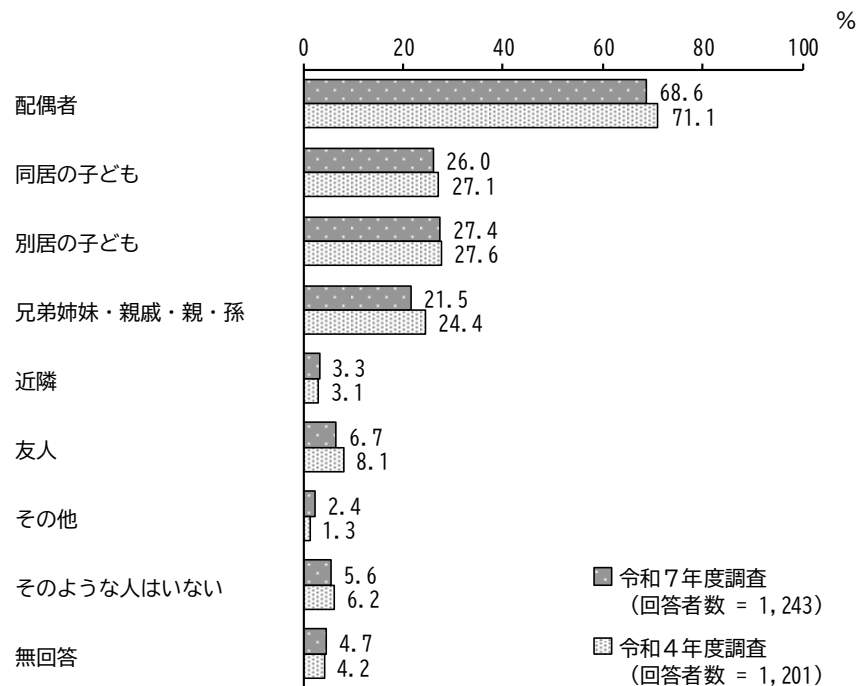
単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全 体	1,243	64.5	25.8	29.1	11.6	1.3	5.1	1.0	3.5	4.7
65～69歳	287	75.6	22.0	24.4	15.0	0.7	6.3	0.3	3.5	1.4
70～74歳	340	69.4	23.5	30.0	9.7	0.9	4.7	0.6	3.2	4.4
75～79歳	328	64.9	25.3	30.5	12.8	1.5	5.5	0.6	4.3	4.9
80～84歳	162	50.0	33.3	36.4	6.8	2.5	6.2	1.2	3.1	4.3
85～89歳	75	42.7	36.0	24.0	12.0	2.7	1.3	6.7	2.7	12.0
90歳以上	22	22.7	40.9	13.6	9.1	0.0	4.5	0.0	4.5	18.2

(4) 反対に、あなたが看病や世話をしあげる人(○はいくつでも)

「配偶者」の割合が68.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が27.4%、「同居の子ども」の割合が26.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「配偶者」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」の割合が高い傾向にあります。

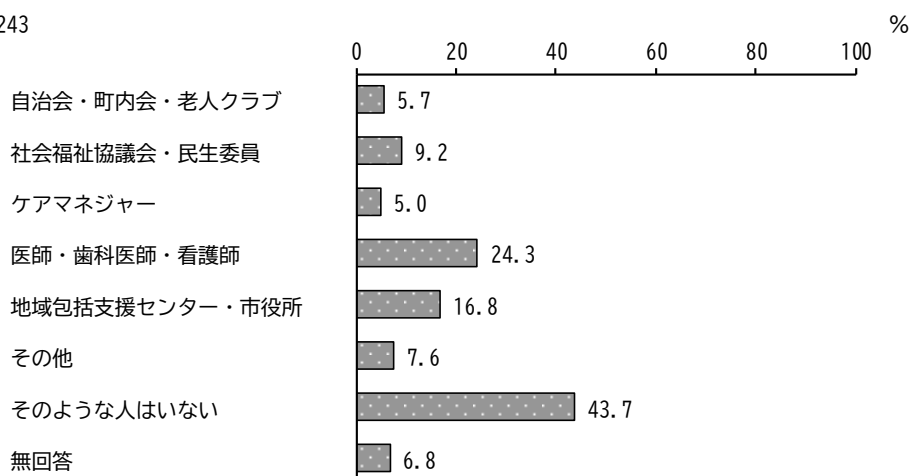
単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全 体	1,243	68.6	26.0	27.4	21.5	3.3	6.7	2.4	5.6	4.7
65～69歳	287	79.4	26.1	31.4	31.4	2.8	10.5	2.1	2.1	1.7
70～74歳	340	75.0	27.4	29.1	21.8	2.9	5.9	1.8	5.0	2.6
75～79歳	328	69.8	22.6	29.0	20.4	3.0	5.8	1.5	6.4	4.3
80～84歳	162	54.3	29.6	25.3	14.8	6.2	7.4	3.7	6.2	7.4
85～89歳	75	44.0	25.3	10.7	9.3	1.3	2.7	5.3	9.3	14.7
90歳以上	22	18.2	31.8	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	36.4	13.6

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (〇はいくつでも)

「そのような人はいない」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 24.3%、「地域包括支援センター・市役所」の割合が 16.8%となっています。

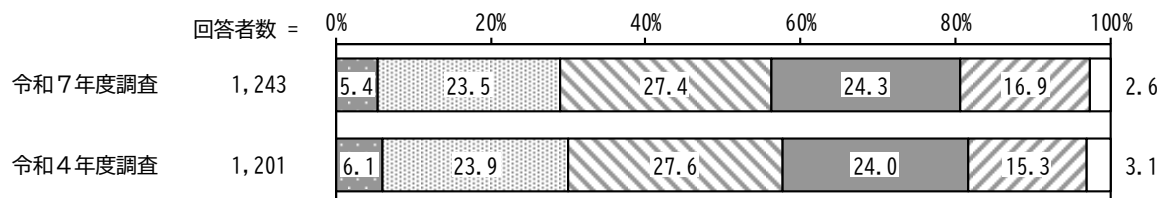
回答者数 = 1,243



(6) 友人・知人に会う頻度はどれくらいですか (〇は1つ)

「月に何度かある」の割合が 27.4%と最も高く、次いで「年に何度かある」の割合が 24.3%、「週に何度かある」の割合が 23.5%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

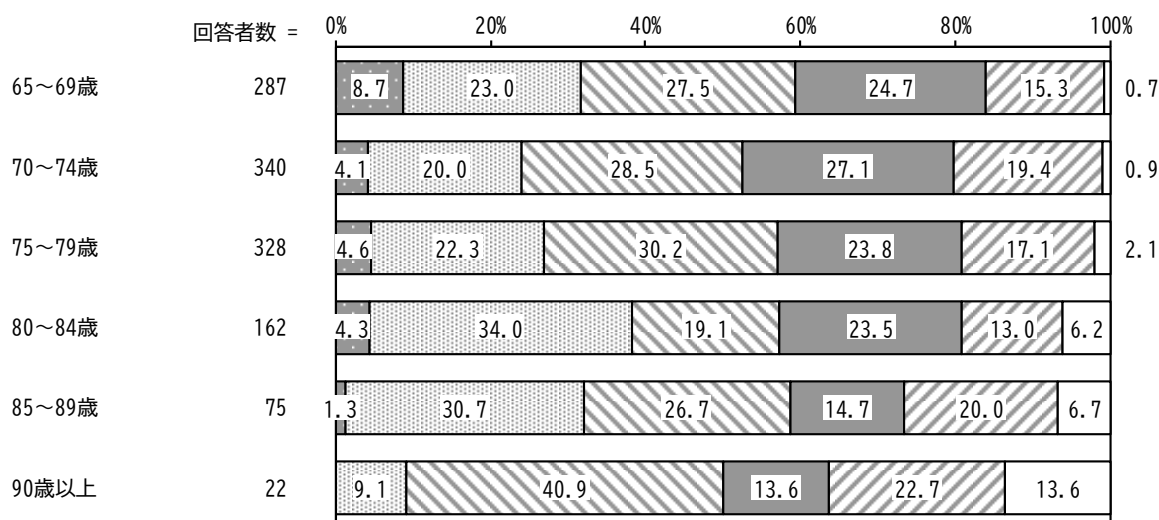
■ 毎日ある □ 週に何度かある □ 月に何度かある ■ 年に何度かある
 □ ほとんどない □ 無回答



【年齢別】

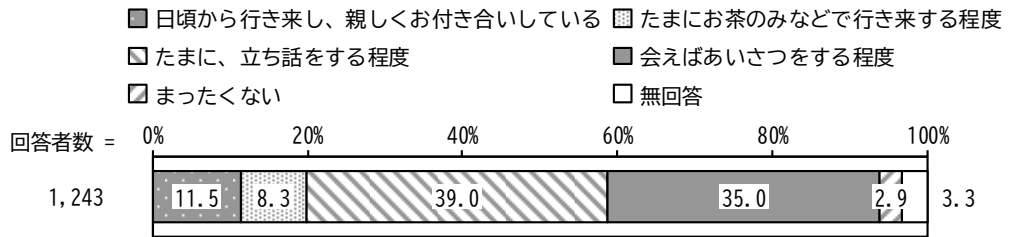
年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「年に何度かある」の割合が高くなっています。また、80～84歳で「週に何度かある」、90歳以上で「月に何度かある」の割合が高くなっています。

■ 毎日ある □ 週に何度かある □ 月に何度かある ■ 年に何度かある
 □ ほとんどない □ 無回答



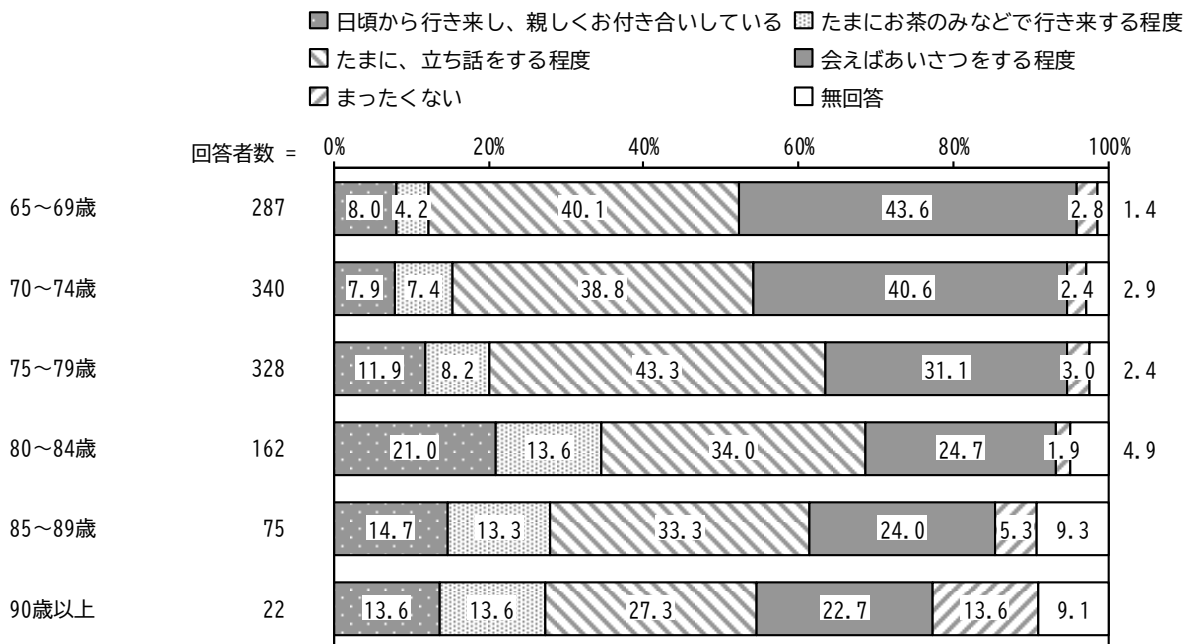
(7) 隣近所や地域の方と、どのようなお付き合いをしていますか。(〇は1つ)

「たまに、立ち話をする程度」の割合が39.0%と最も高く、次いで「会えばあいさつをする程度」の割合が35.0%、「日頃から行き来し、親しくお付き合いしている」の割合が11.5%となっています。



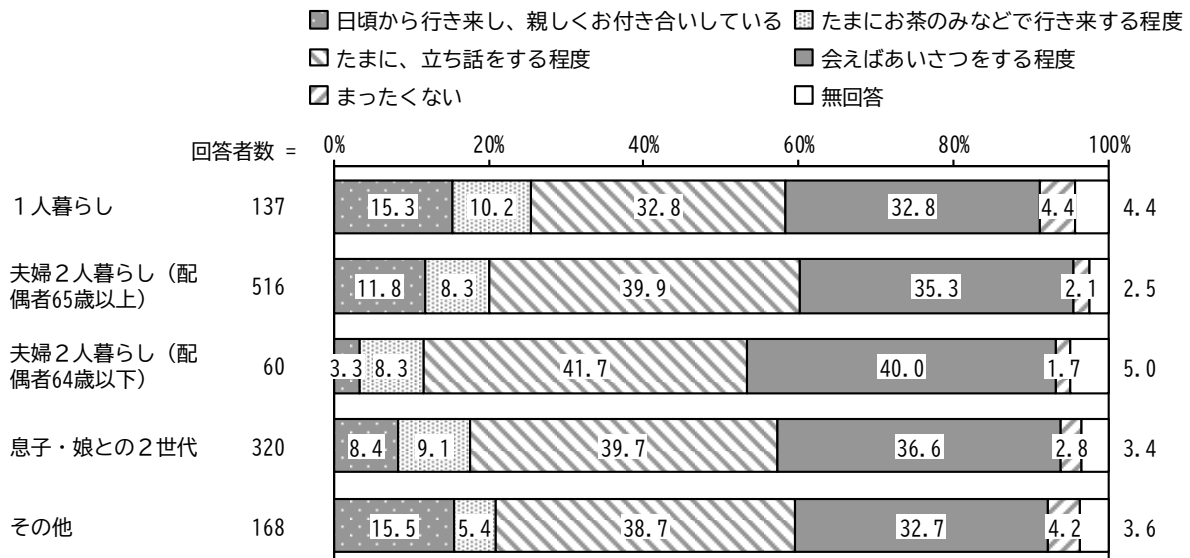
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「会えばあいさつをする程度」の割合が高く、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「たまに、立ち話をする程度」の割合が高くなっています。



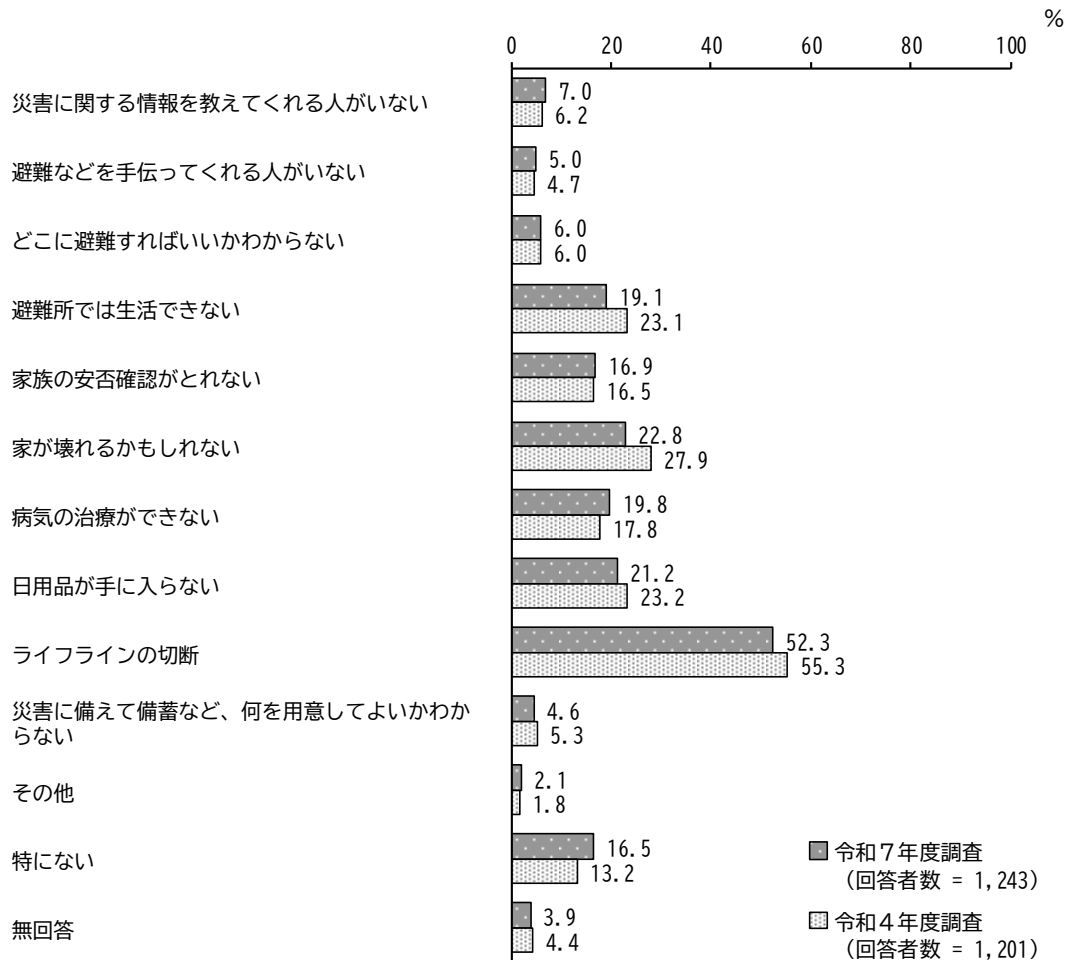
【家族構成別】

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で「会えばあいさつをする程度」の割合が高くなっています。



(8) 災害時に、不安に感じることはどのようなことですか (〇はいくつでも)

「ライフラインの切断」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「家が壊れるかもしれない」の割合が 22.8%、「日用品が手に入らない」の割合が 21.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「ライフラインの切断」の割合が高い傾向にあり、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「避難などを手伝ってくれる人がいない」の割合が高くなっています。また、85～89 歳で「家が壊れるかもしれない」の割合が高くなっています。

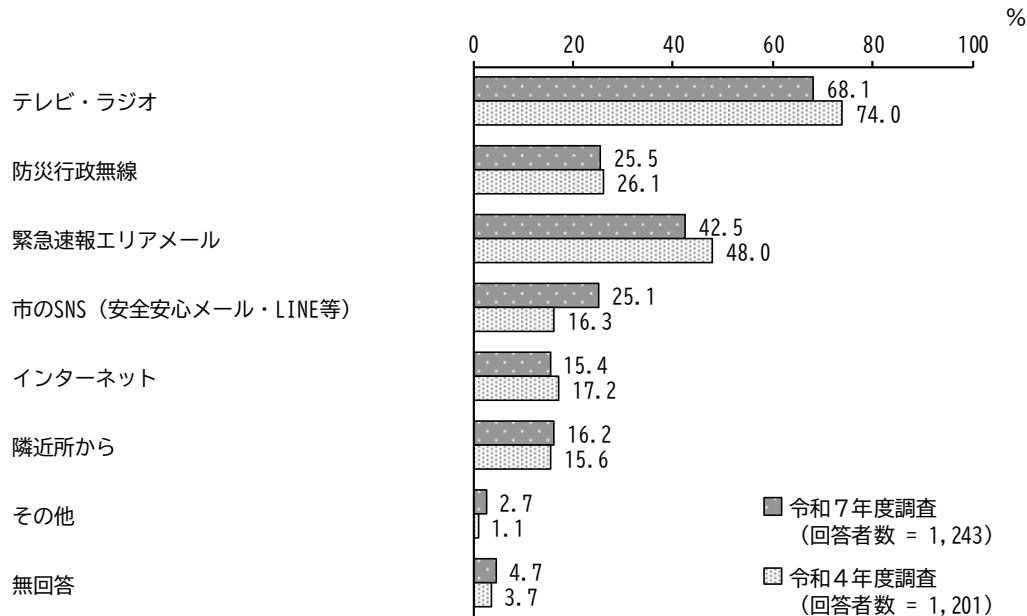
単位：％

区分	回答者数 (件)	災害に関する情報を教えてくれる人がいない	避難などを手伝ってくれる人がいない	どこに避難すればいいかわからない	避難所では生活できない	家族の安否確認がとれない	家が壊れるかもしれない	病気の治療ができない	日用品が手に入らない	ライフラインの切断	災害に備えて備蓄など、何を用意してよいかわからない	その他	特にない	無回答
全 体	1,243	7.0	5.0	6.0	19.1	16.9	22.8	19.8	21.2	52.3	4.6	2.1	16.5	3.9
65～69歳	287	8.0	4.5	3.5	17.8	20.9	22.6	16.4	25.1	68.6	4.2	2.4	11.1	1.4
70～74歳	340	5.9	2.9	5.9	20.0	15.6	23.5	20.9	25.3	56.5	3.2	1.5	15.3	2.6
75～79歳	328	6.4	4.6	5.5	19.5	14.6	22.3	17.1	17.4	48.5	4.9	1.2	20.1	3.4
80～84歳	162	8.0	8.0	6.8	19.8	16.7	21.0	27.2	14.2	35.8	3.1	2.5	19.8	6.8
85～89歳	75	8.0	9.3	14.7	18.7	20.0	36.0	22.7	21.3	36.0	10.7	4.0	17.3	10.7
90歳以上	22	4.5	13.6	13.6	18.2	18.2	0.0	22.7	13.6	31.8	4.5	4.5	27.3	9.1

(9) 市からの災害に関する情報をどのように得ていますか (〇は3つまで)

「テレビ・ラジオ」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「緊急速報エリアメール」の割合が 42.5%、「防災行政無線」の割合が 25.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「市の SNS (安全安心メール・LINE 等)」の割合が増加しています。一方、「テレビ・ラジオ」「緊急速報エリアメール」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「防災行政無線」の割合が高い傾向にあり、「市の SNS (安全安心メール・LINE 等)」の割合が低く、90 歳以上から 75～79 歳まで年齢が下がるほど「緊急速報エリアメール」の割合が高くなっています。また、90 歳以上で「テレビ・ラジオ」、65～69 歳で「インターネット」の割合が高くなっています。

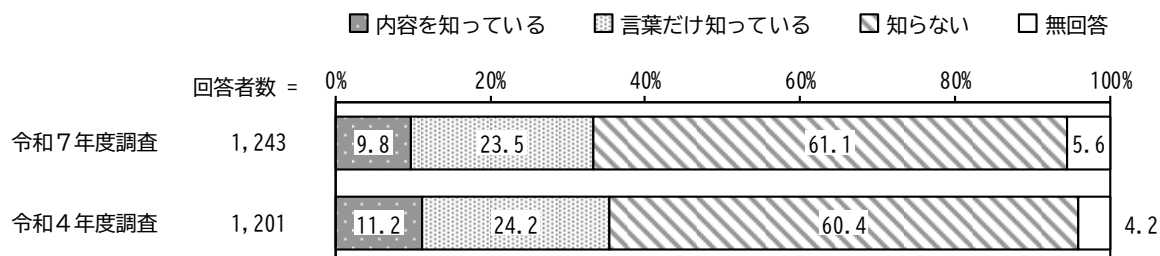
単位：％

区分	回答者数(件)	テレビ・ラジオ	防災行政無線	緊急速報エリアメール	市の SNS (安全安心メール・LINE 等)	インターネット	隣近所から	その他	無回答
全 体	1,243	68.1	25.5	42.5	25.1	15.4	16.2	2.7	4.7
65～69歳	287	60.3	24.4	48.4	36.6	25.8	5.9	2.8	3.1
70～74歳	340	64.1	24.7	41.2	29.4	17.4	15.9	2.4	4.7
75～79歳	328	73.5	26.2	45.7	19.2	11.3	19.5	2.4	4.0
80～84歳	162	76.5	24.7	42.0	19.1	6.2	24.1	3.7	4.3
85～89歳	75	73.3	28.0	22.7	10.7	12.0	21.3	2.7	10.7
90歳以上	22	81.8	36.4	18.2	0.0	0.0	18.2	4.5	18.2

(10) 福祉避難所を知っていますか（○は1つ）

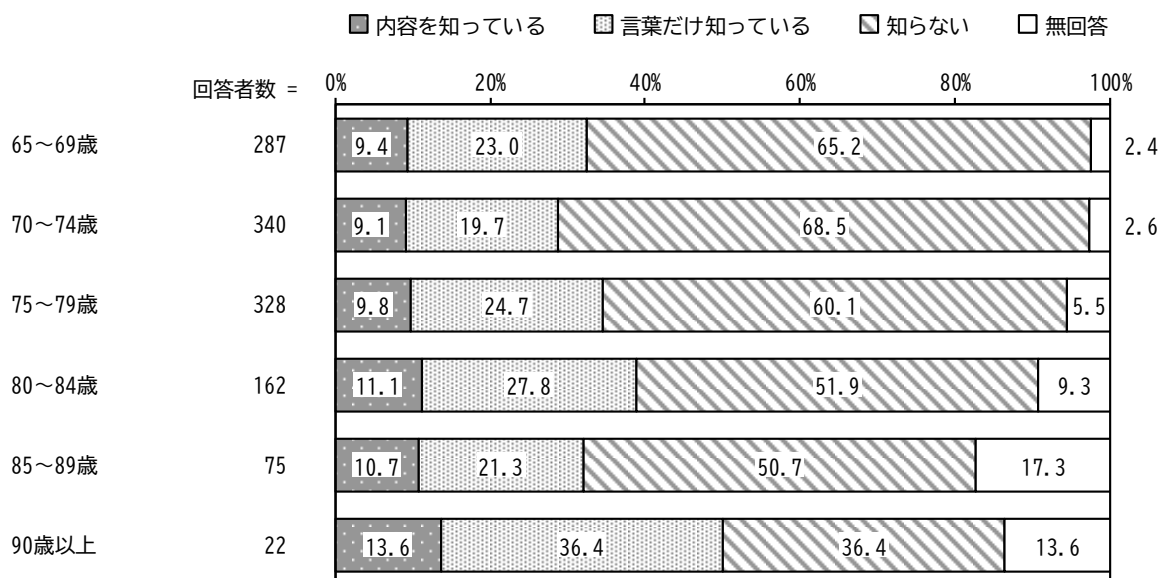
「内容を知っている」の割合が 9.8%、「言葉だけ知っている」の割合が 23.5%、「知らない」の割合が 61.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



【調査結果のまとめ】

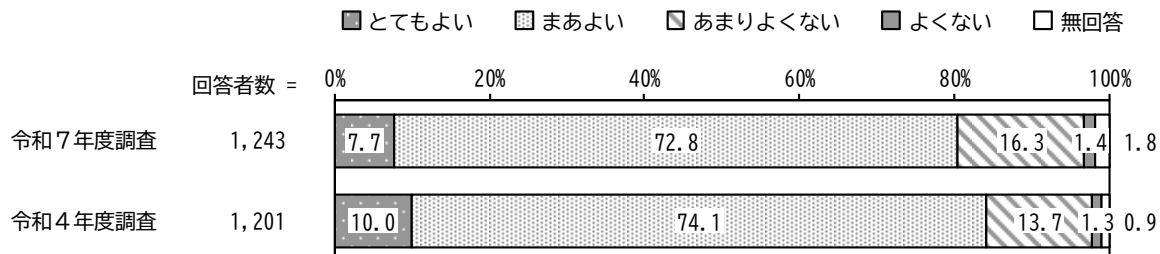
- 心配事の相談相手や看病の依頼先として「配偶者」の割合が最も高く、次いで友人や別居の子どもが挙がっています。
- 近所付き合いは「たまに立ち話をする程度」が 39.0%と最多です。
- 災害時の不安は「ライフラインの切断」が 52.3%と突出しています。
- 家族への依存度が高い一方、近隣とは挨拶や立ち話程度の関係が主流であり、有事の際の共助体制、特にライフライン停止時を想定した個別避難計画の重要性がうかがえます。

問8 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○は1つ)

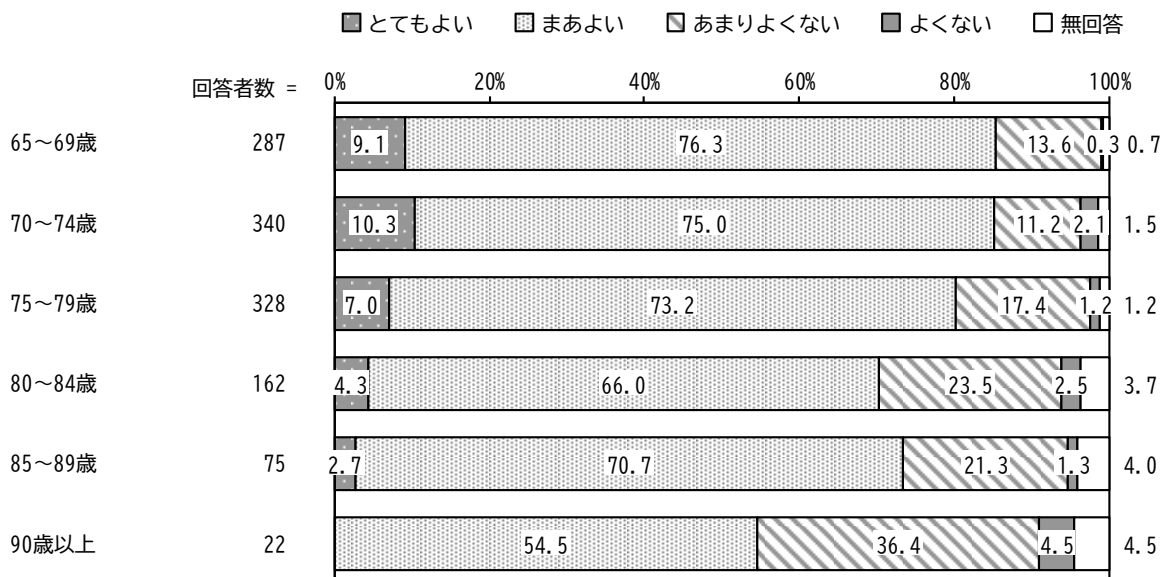
「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”の割合が80.5%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”の割合が17.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

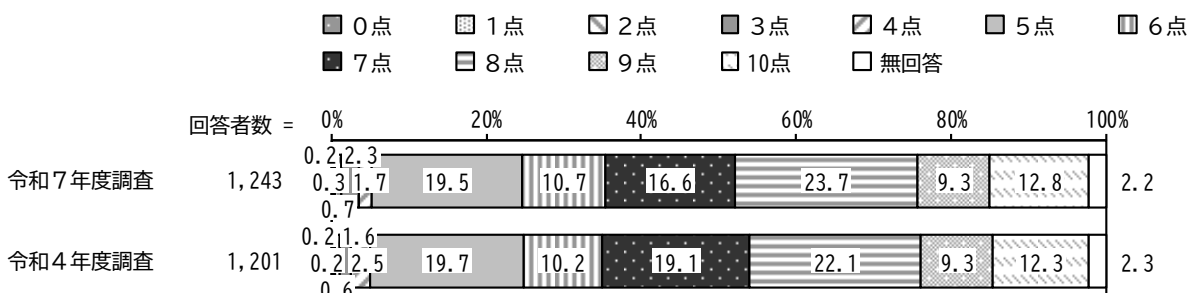
年齢別にみると、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど“よい”の割合が高くなっています。また、90歳以上で「あまりよくない」の割合が高く、「まあよい」の割合が低くなっています。



(2) あなたは、現在どの程度幸せですか (○は1つ)

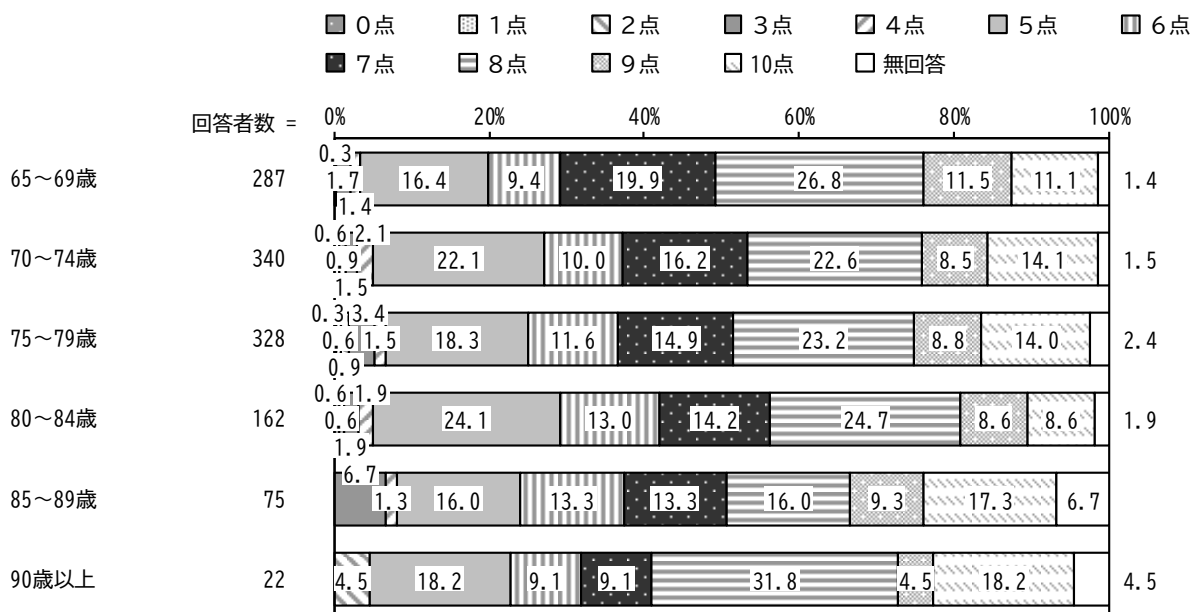
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

「8点」の割合が23.7%と最も高く、次いで「5点」の割合が19.5%、「7点」の割合が16.6%となっています。



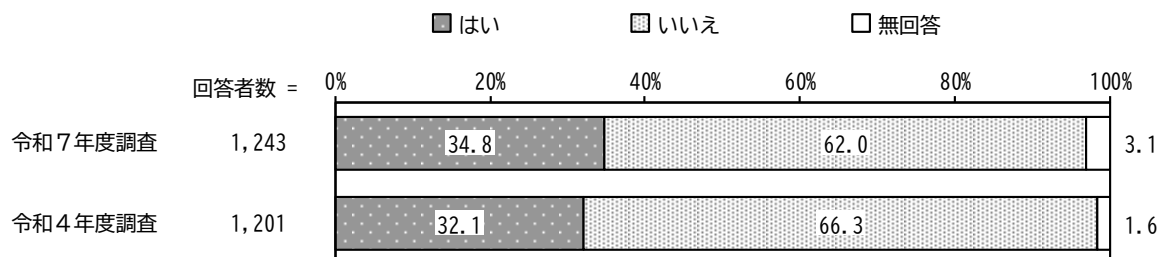
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「7点」の割合が高くなっています。



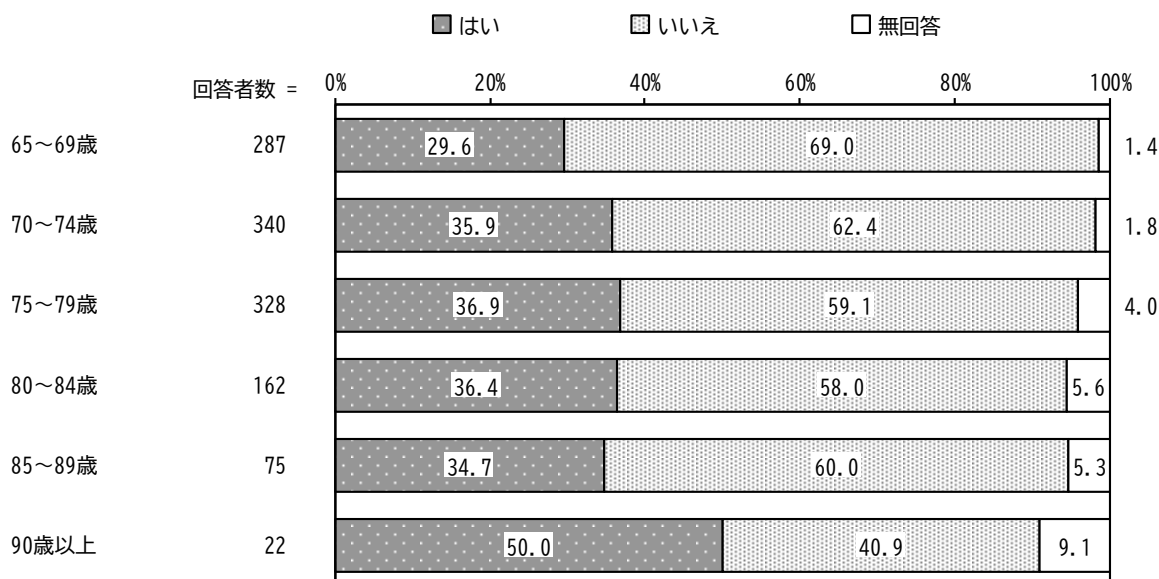
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○は1つ)

「はい」の割合が34.8%、「いいえ」の割合が62.0%となっています。



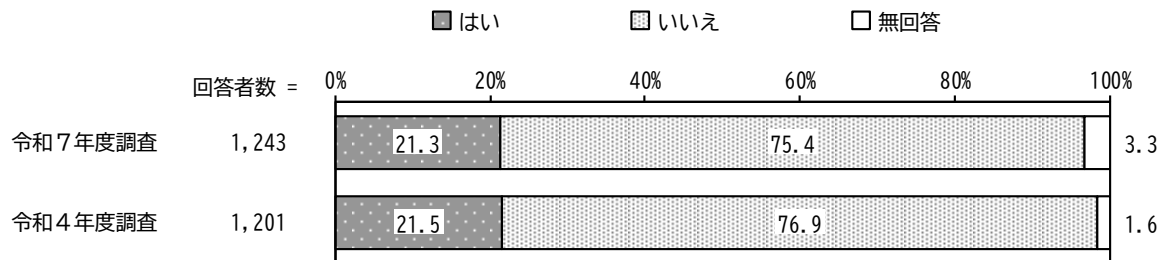
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「いいえ」の割合が高い傾向にあります。



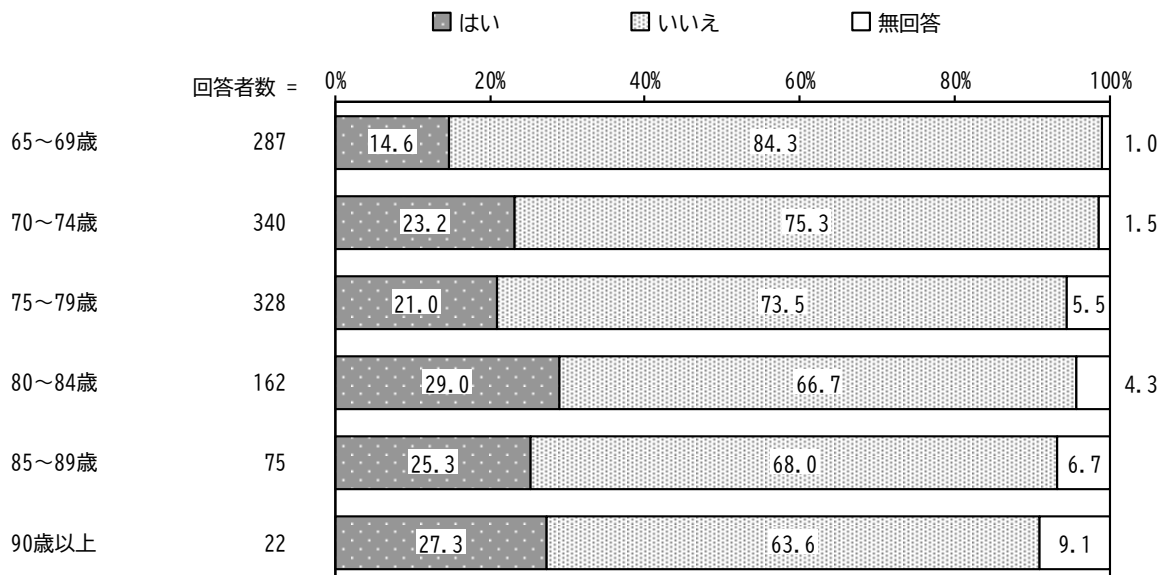
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○は1つ)

「はい」の割合が21.3%、「いいえ」の割合が75.4%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



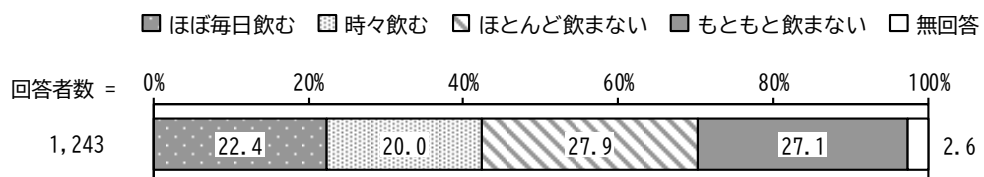
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「いいえ」の割合が高い傾向にあります。



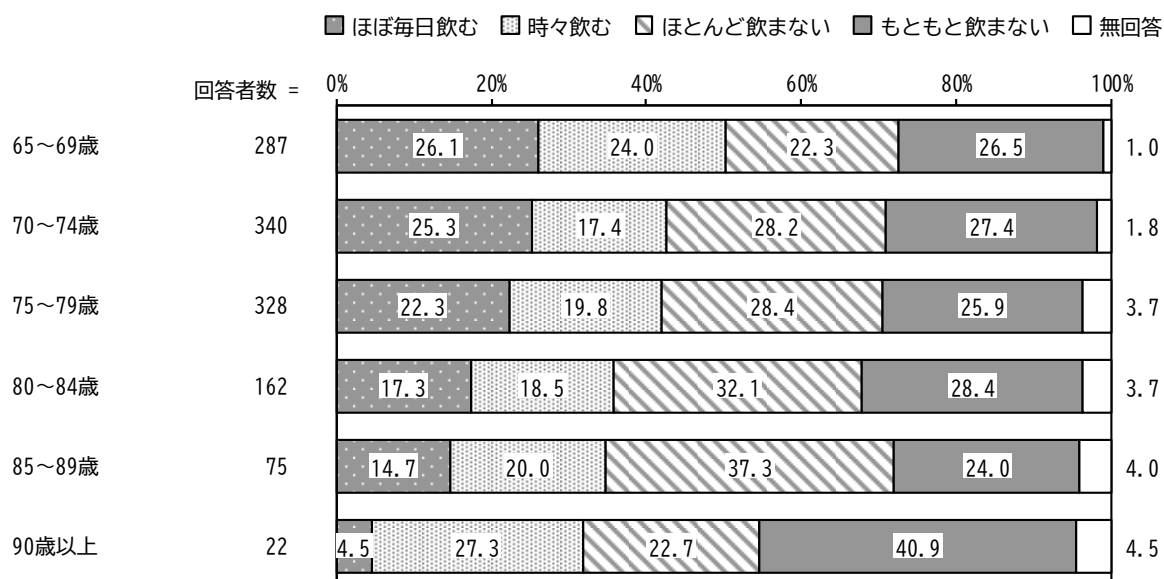
(5) お酒は飲みますか (○は1つ)

「ほとんど飲まない」の割合が27.9%と最も高く、次いで「もともと飲まない」の割合が27.1%、「ほぼ毎日飲む」の割合が22.4%となっています。



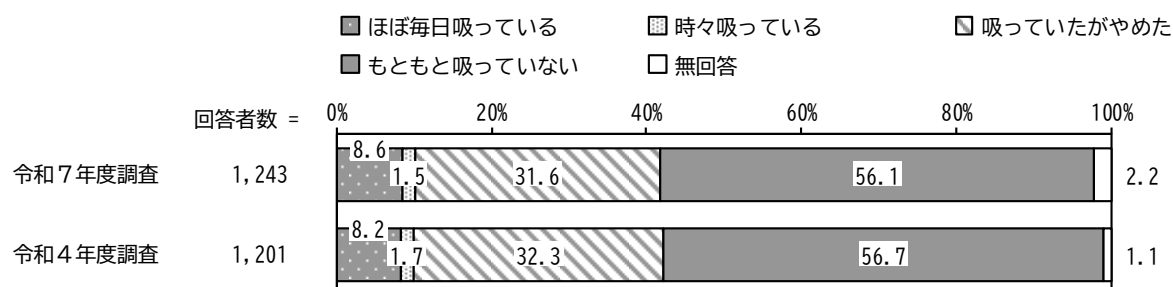
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「ほぼ毎日飲む」の割合が高く、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「ほとんど飲まない」の割合が高くなっています。



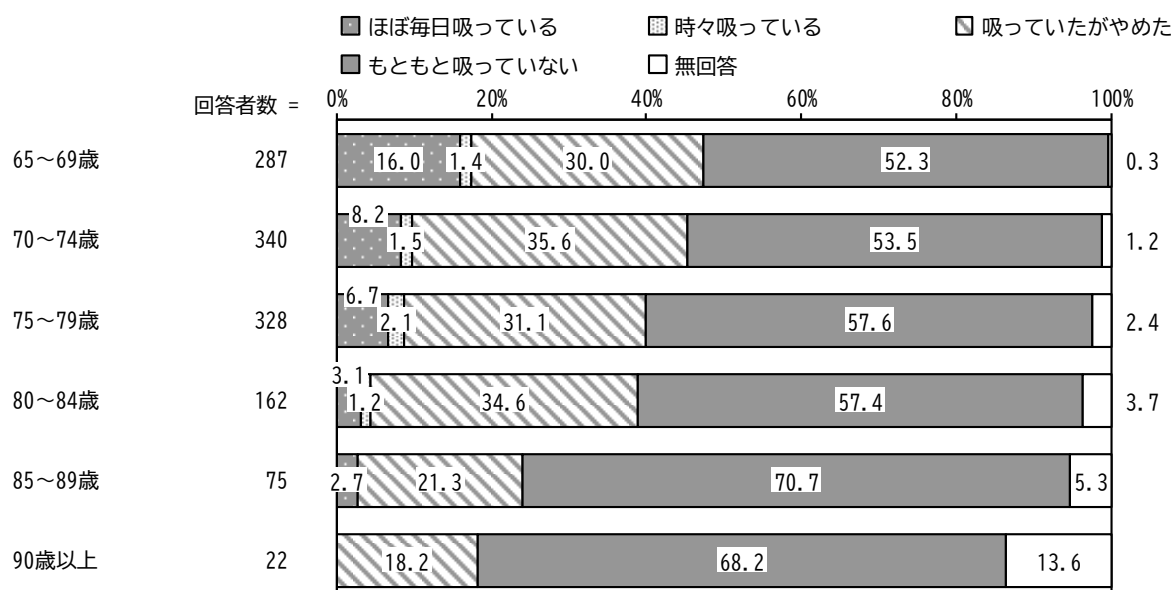
(6) タバコは吸っていますか (○は1つ)

「もともと吸っていない」の割合が56.1%と最も高くなっています。



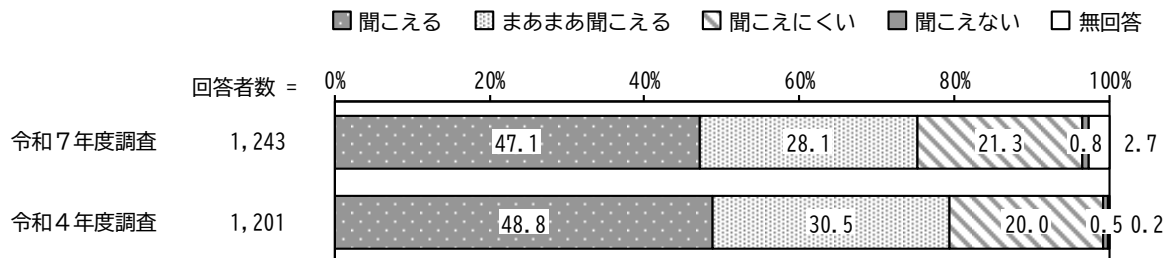
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「ほぼ毎日吸っている」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「吸っていたがやめた」の割合が低くなっています。



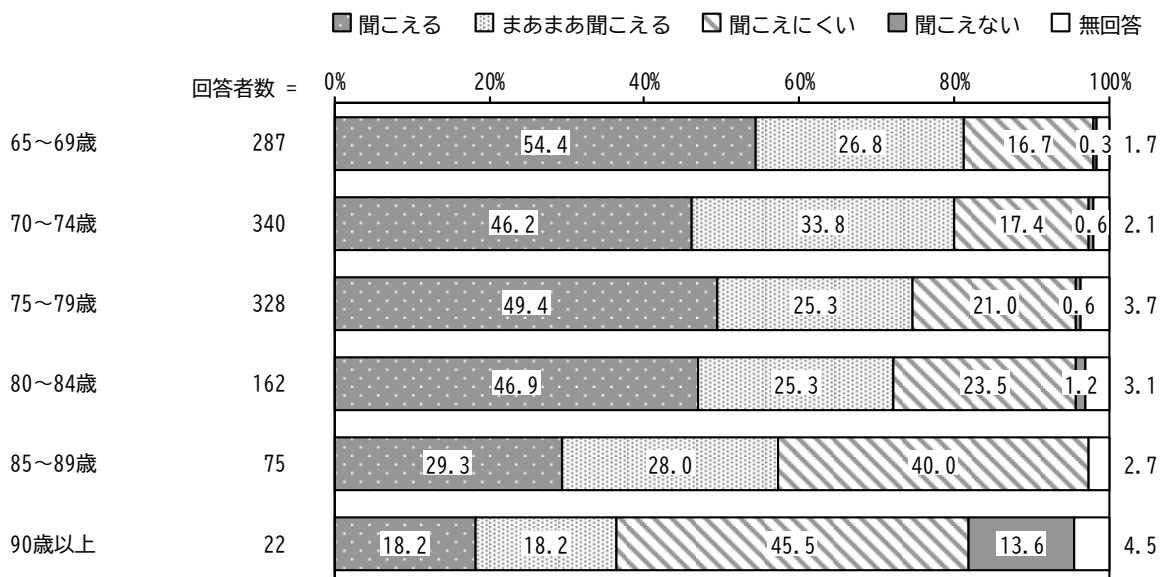
(7) 耳の聞こえに不安はありますか（テレビの音や人の会話など聞こえにくさを感じることはありますか）（○は1つ）

「聞こえる」「まあまあ聞こえる」を合わせた“聞こえる”の割合が75.2%、「聞こえにくい」「聞こえない」を合わせた“聞こえない”の割合が22.1%となっています。



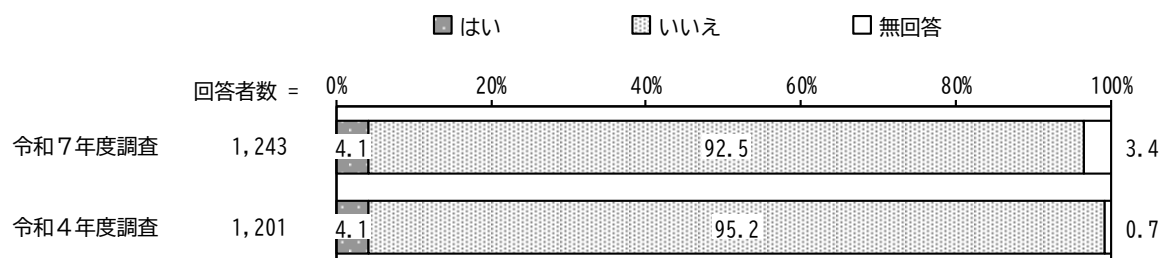
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど“聞こえない”の割合が高くなっています。また、90歳以上で「聞こえにくい」の割合が高く、「聞こえる」の割合が低くなっています。



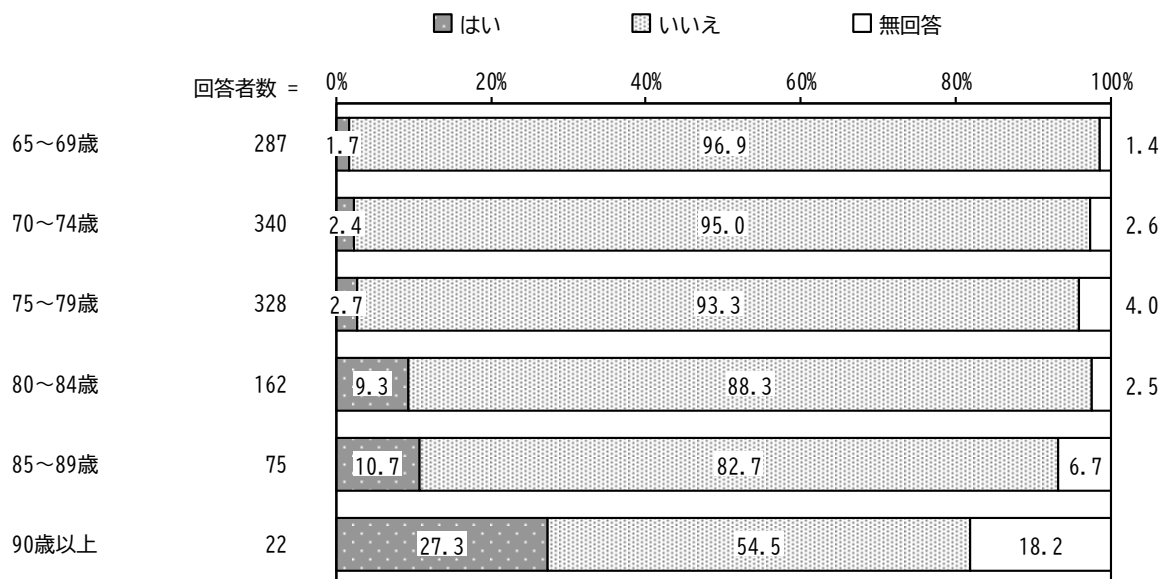
(8) 現在、補聴器を日常的に使っていますか（○は1つ）

「はい」の割合が4.1%、「いいえ」の割合が92.5%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

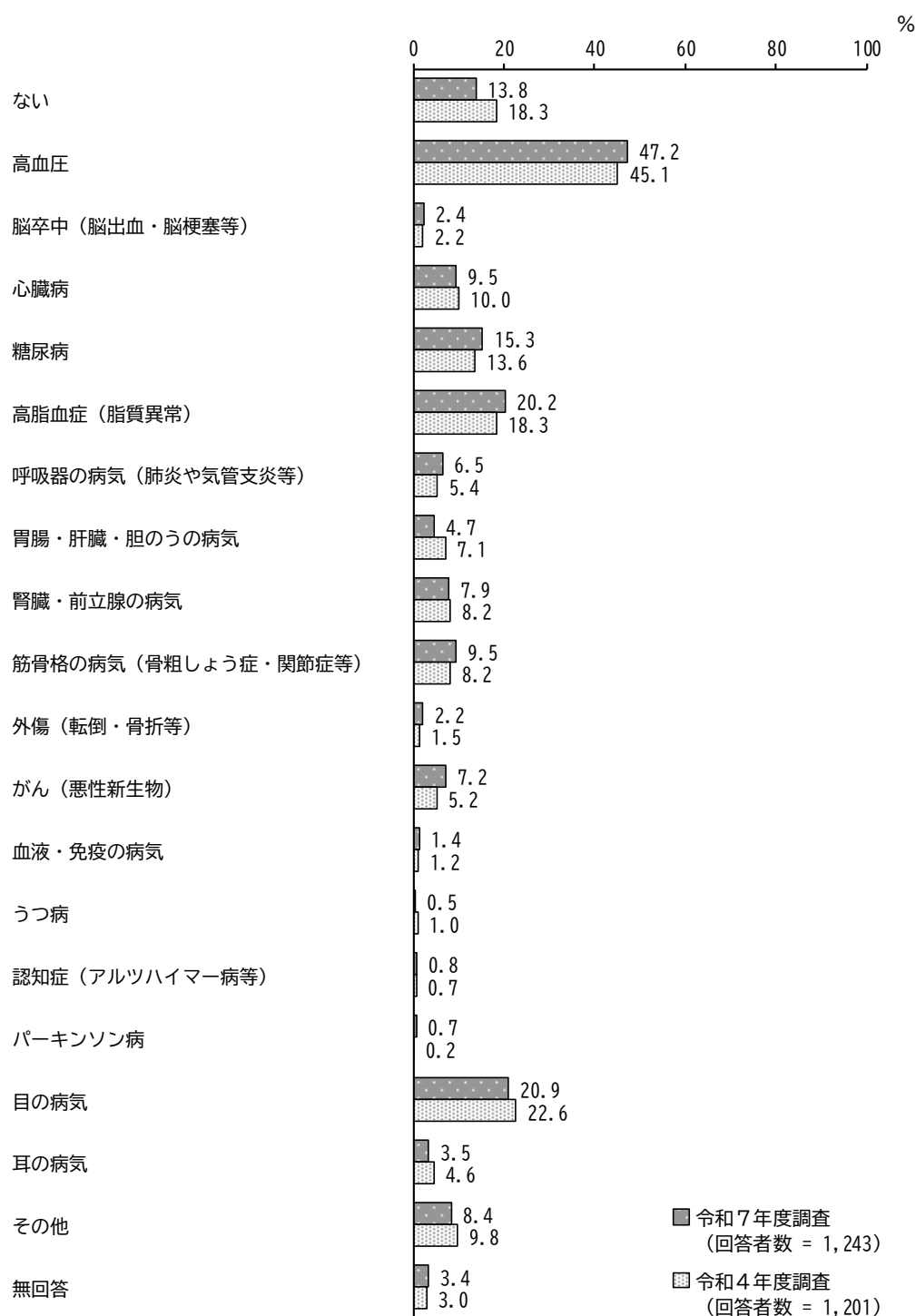
年齢別にみると、年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっています。



(9) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

「高血圧」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「目の病気」の割合が 20.9%、「高脂血症（脂質異常）」の割合が 20.2%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【その他意見】

- ・歯周病
- ・椎間板ヘルニアからの右足指先の痺れ等
- ・白血病
- ・带状疱疹
- ・带状疱疹 など

【性別】

性別にみると、男性で「高血圧」「心臓病」「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」の割合が高く、女性で「ない」「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ない	高血圧	脳卒中(脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	異常 高脂血症(脂質)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支 炎等)	胃腸・肝臓・胆の うの病気	腎臓・前立腺の 病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症・関節症等)
全 体	1,243	13.8	47.2	2.4	9.5	15.3	20.2	6.5	4.7	7.9	9.5
男性	567	11.1	51.5	3.0	12.3	20.3	19.0	7.4	4.9	14.8	2.5
女性	646	16.6	43.2	2.0	7.0	10.5	21.8	5.6	4.5	1.7	15.5

区分	外傷(転倒・骨折 等)	がん (悪性新生 物)	血液・免疫の病 気	うつ病	認知症(アルツ ハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全 体	2.2	7.2	1.4	0.5	0.8	0.7	20.9	3.5	8.4	3.4
男性	1.2	9.2	1.4	0.4	0.9	1.1	21.2	3.5	6.7	4.6
女性	3.1	5.7	1.2	0.5	0.8	0.5	20.7	3.7	10.1	2.3

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「高血圧」「腎臓・前立腺の病気」の割合が高く、「ない」の割合が低い傾向にあり、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「糖尿病」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

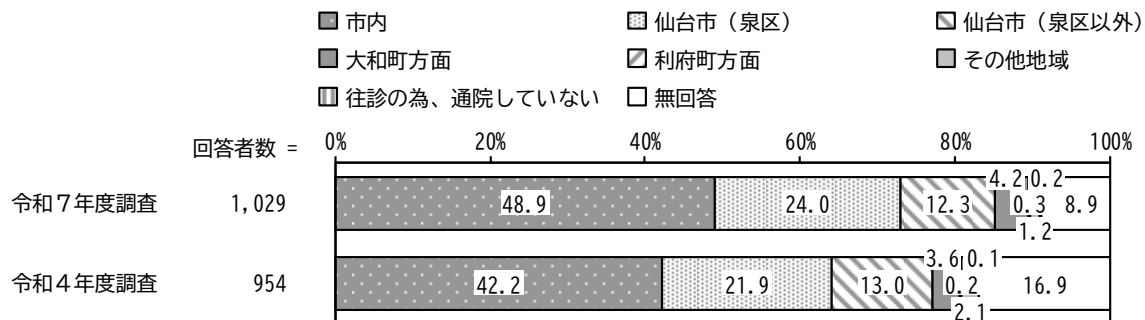
区分	回答者数 (件)	ない	高血圧	脳卒中(脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	異常 高脂血症(脂質)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支 炎等)	胃腸・肝臓・胆の うの病気	腎臓・前立腺の 病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症・関節症等)
全 体	1,243	13.8	47.2	2.4	9.5	15.3	20.2	6.5	4.7	7.9	9.5
65～69歳	287	19.9	37.3	2.8	4.2	13.6	21.6	5.2	5.2	5.2	5.2
70～74歳	340	15.0	43.2	2.4	9.4	17.1	25.3	7.4	5.3	5.3	9.1
75～79歳	328	10.7	50.3	2.7	8.5	14.9	18.9	5.2	4.3	9.8	10.4
80～84歳	162	9.9	56.8	3.1	17.3	16.0	13.6	7.4	5.6	9.9	12.3
85～89歳	75	10.7	61.3	0.0	16.0	13.3	16.0	6.7	1.3	14.7	17.3
90歳以上	22	9.1	72.7	0.0	13.6	9.1	22.7	18.2	0.0	18.2	4.5

区分	外傷(転倒・骨折 等)	がん (悪性新生 物)	血液・免疫の病 気	うつ病	認知症(アルツ ハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全 体	2.2	7.2	1.4	0.5	0.8	0.7	20.9	3.5	8.4	3.4
65～69歳	1.7	4.9	1.7	1.0	0.0	0.3	16.4	2.8	9.8	2.4
70～74歳	1.5	6.5	1.5	0.0	1.5	0.0	20.3	2.4	8.8	2.6
75～79歳	2.7	7.9	1.2	0.6	0.0	2.1	25.0	3.7	7.0	4.0
80～84歳	3.7	13.6	0.6	0.6	1.2	0.0	21.6	4.9	9.9	3.1
85～89歳	0.0	4.0	1.3	0.0	1.3	1.3	22.7	8.0	5.3	5.3
90歳以上	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	9.1	9.1	9.1

【(9)で「治療中、または後遺症のある病気がある」と回答した方のみ】

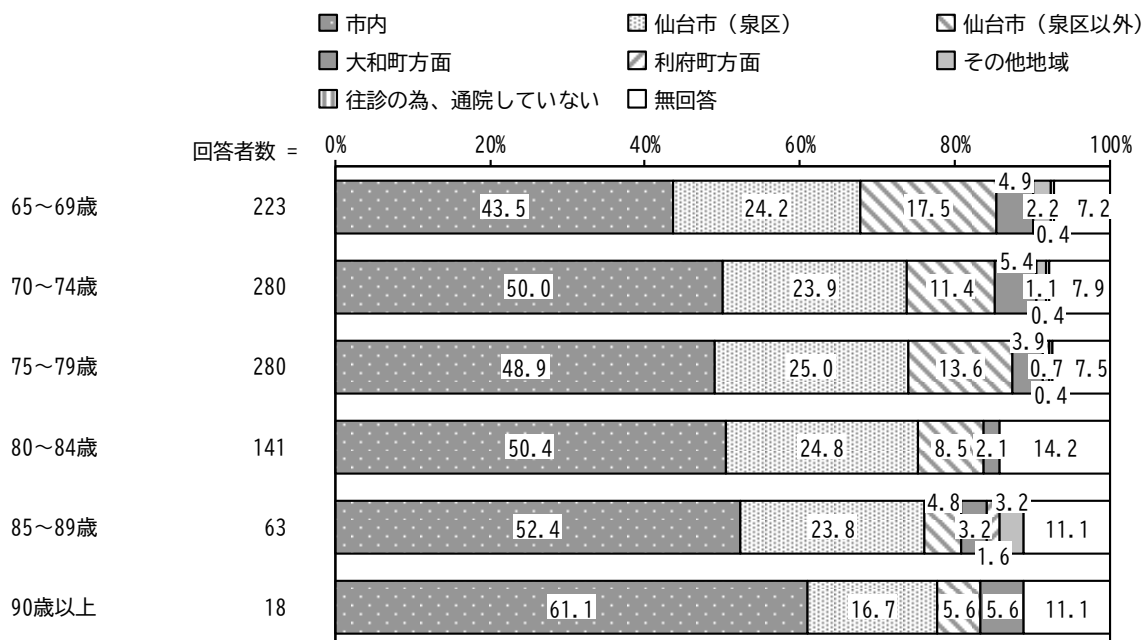
① 主に通院している医療機関のある地域はどちらですか（○は1つ）

「市内」の割合が48.9%と最も高く、次いで「仙台市（泉区）」の割合が24.0%、「仙台市（泉区以外）」の割合が12.3%となっています。令和4年度調査と比較すると、「市内」の割合が増加しています。



【年齢別】

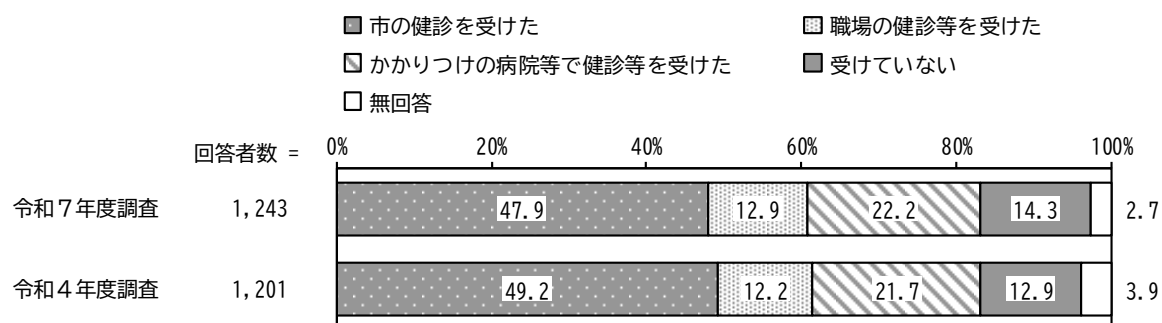
年齢別にみると、年齢が上がるほど「市内」の割合が高い傾向にあり、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「仙台市（泉区以外）」の割合が高い傾向にあります。



(10) 過去1年以内に健診や人間ドックを受けましたか（○は1つ）

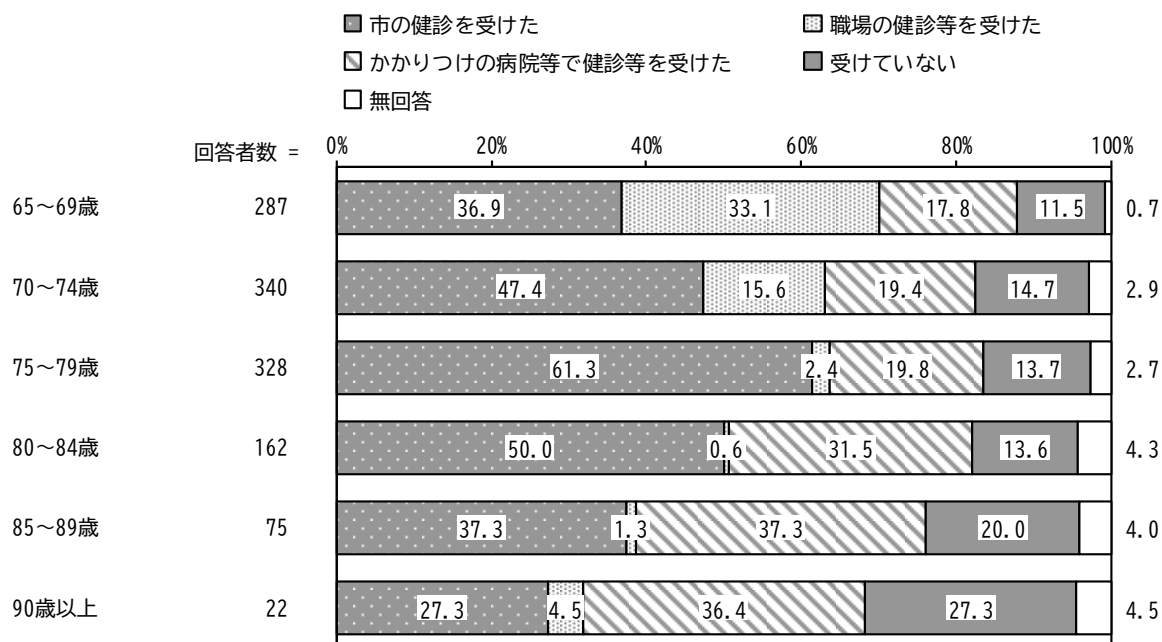
「市の健診を受けた」の割合が47.9%と最も高く、次いで「かかりつけの病院等で健診等を受けた」の割合が22.2%、「受けていない」の割合が14.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

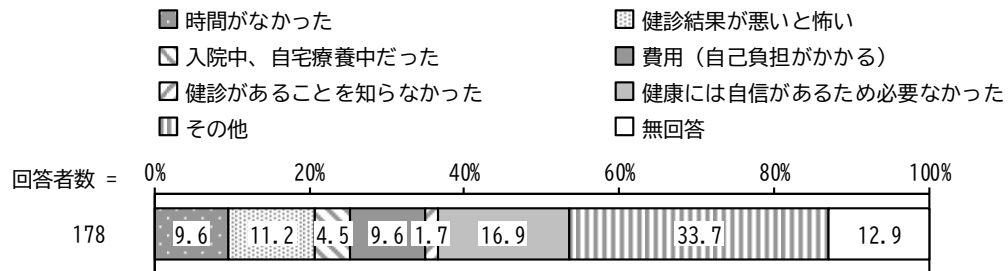
年齢別にみると、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「かかりつけの病院等で健診等を受けた」の割合が高く、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「市の健診を受けた」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「職場の健診等を受けた」、90歳以上で「受けていない」の割合が高くなっています。



【(10) で「受けていない」と回答した方のみ】

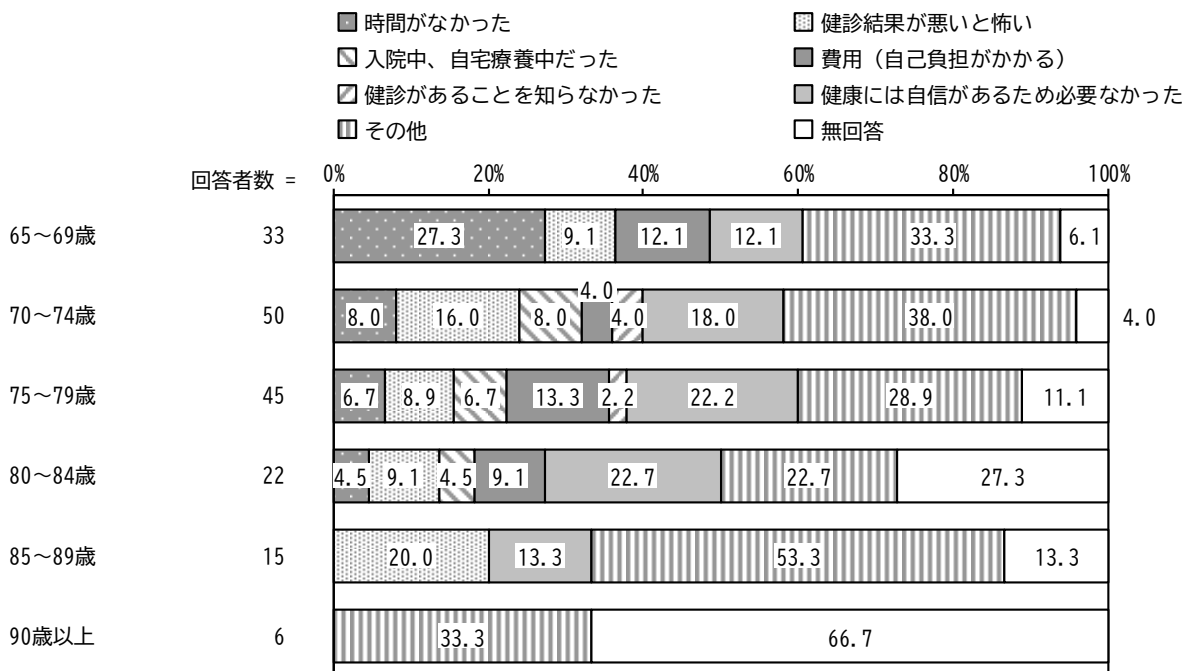
① 健診や人間ドックを受けなかった（受けない）最も大きな理由は何ですか（○は1つ）

「健康には自信があるため必要なかった」の割合が 16.9%と最も高く、次いで「健診結果が悪いと怖い」の割合が 11.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「時間がなかった」の割合が高い傾向にあり、65～69 歳から 80～84 歳まで年齢が上がるほど「健康には自信があるため必要なかった」の割合が高くなっています。



【調査結果のまとめ】

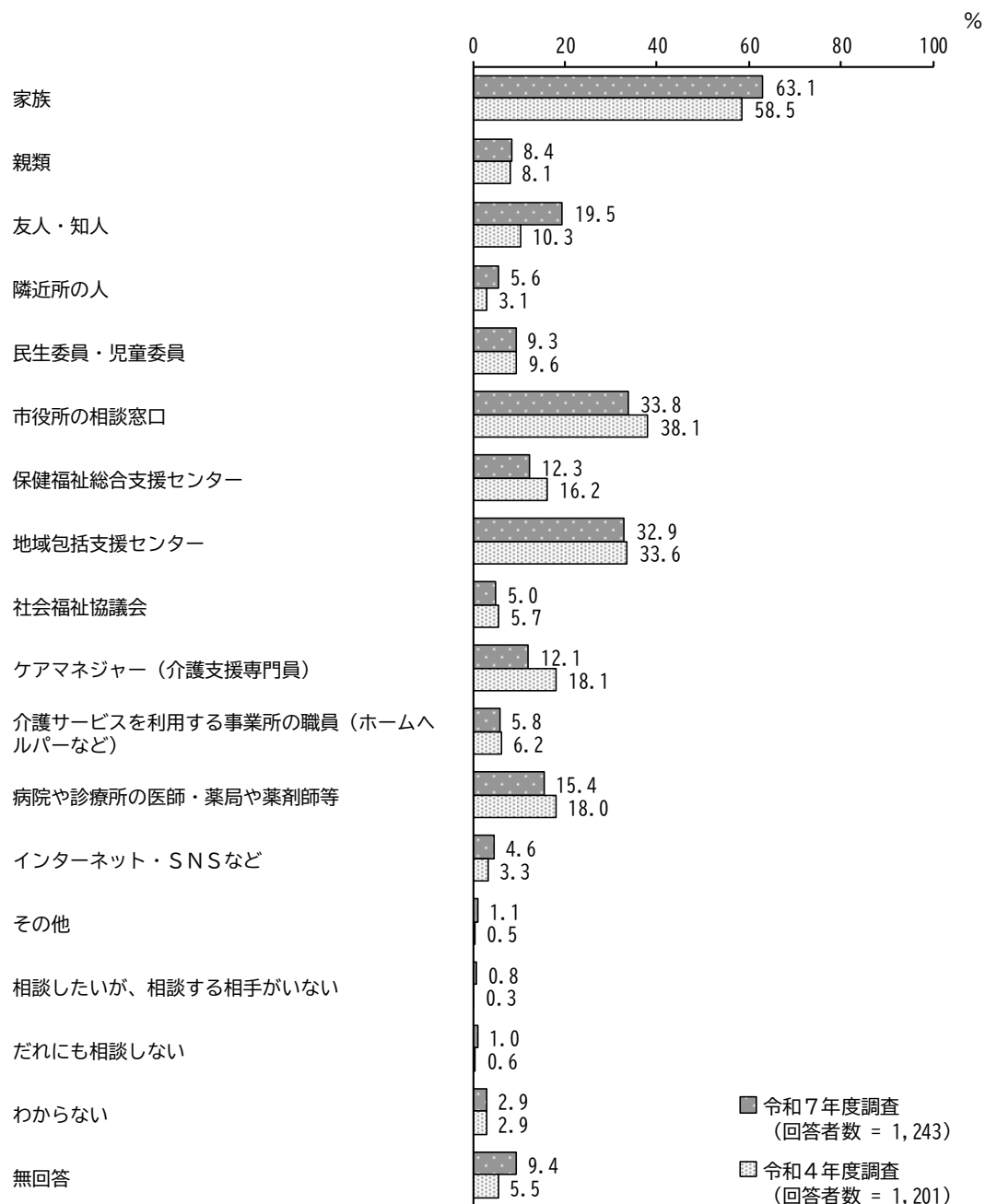
- 健康状態が「よい」とする人は 80.5%と高い一方、気分が沈むことが「ある」人が 34.8%見られます。
- 治療中の病気は「高血圧」が 47.2%で最多です。
- 市の健診受診率は 47.9%ですが、未受診の理由として「健康に自信がある」ことが挙げられています。
- 生活習慣病の既往歴を持つ人が多い中、健康過信による健診未受診層への働きかけと、気分の沈みなどメンタルヘルス面のケアが課題であると考えられます。

問9 介護の相談窓口について

(1) 介護の相談や悩みについて、「どこに」もしくは「誰に」相談したいと思いますか。
(○はいくつでも)

「家族」の割合が63.1%と最も高く、次いで「市役所の相談窓口」の割合が33.8%、「地域包括支援センター」の割合が32.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「友人・知人」の割合が増加しています。一方、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が減少しています。



【家族構成別】

家族構成別にみると、1人暮らしで「民生委員・児童委員」、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で「市役所の相談窓口」「インターネット・SNSなど」の割合が高くなっています。

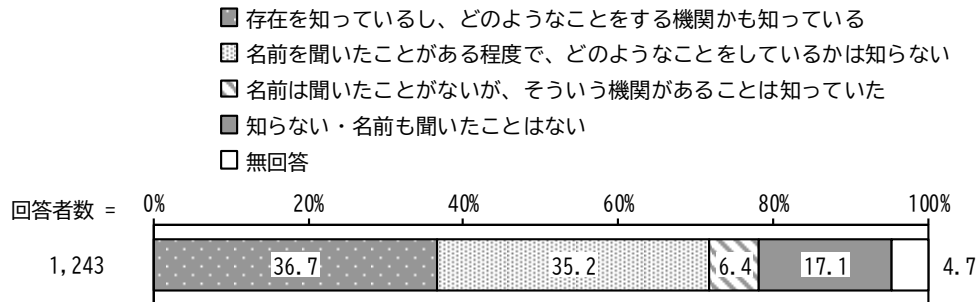
単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	親類	友人・知人	隣近所の人	民生委員・児童委員	市役所の相談窓口	保健福祉総合支援センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会
全 体	1,243	63.1	8.4	19.5	5.6	9.3	33.8	12.3	32.9	5.0
1人暮らし	137	43.8	7.3	22.6	5.1	24.1	29.9	13.1	29.9	5.1
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	516	66.5	11.0	20.5	6.2	10.5	34.9	11.6	33.3	4.3
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	60	65.0	10.0	23.3	1.7	3.3	41.7	13.3	33.3	6.7
息子・娘との2世代	320	63.1	5.9	17.5	5.6	5.3	33.4	12.2	31.3	6.6
その他	168	69.6	5.4	17.3	7.1	5.4	32.1	13.7	39.3	4.2

区分	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護サービスを利用する事業所の職員（ホームヘルパーなど）	病院や診療所の医師・薬局や薬剤師等	インターネット・SNSなど	その他	相談したいが、相談する相手がいない	だれにも相談しない	わからない	無回答
全 体	12.1	5.8	15.4	4.6	1.1	0.8	1.0	2.9	9.4
1人暮らし	6.6	1.5	13.1	1.5	0.7	0.7	0.0	3.6	13.9
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	12.0	5.8	14.9	5.0	1.7	0.8	0.4	3.3	7.4
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	15.0	3.3	10.0	10.0	0.0	1.7	1.7	5.0	8.3
息子・娘との2世代	10.9	6.6	17.5	3.8	0.9	0.3	1.9	2.8	11.3
その他	17.9	8.9	18.5	6.0	0.6	1.8	2.4	1.2	6.0

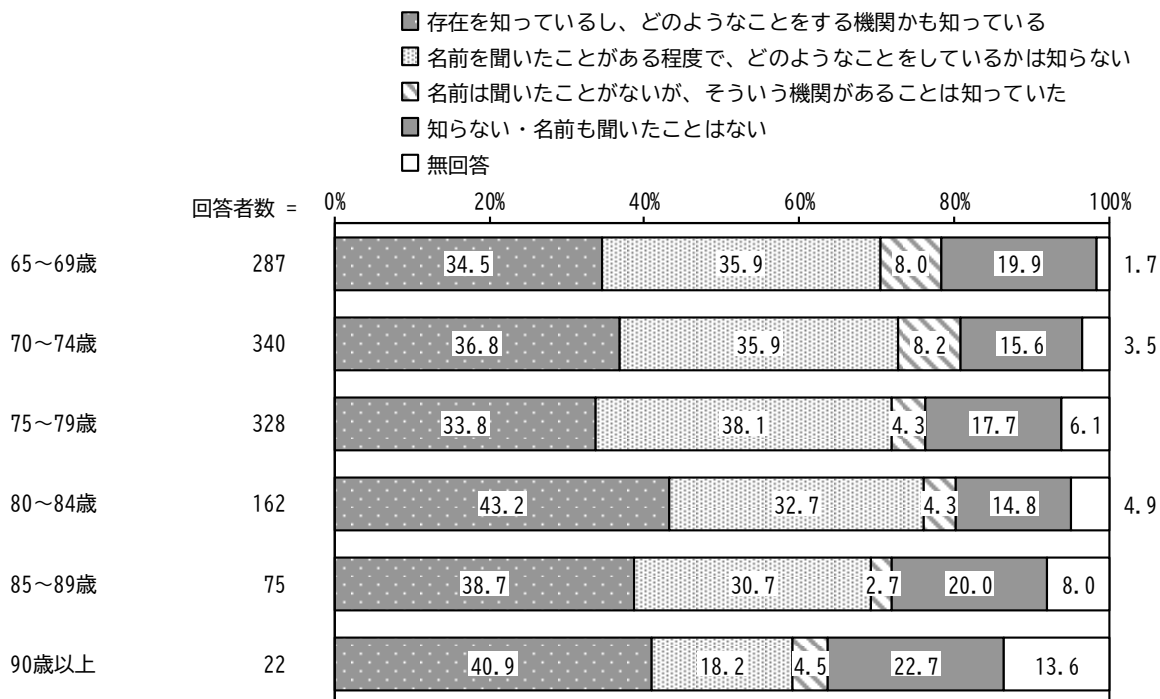
(2) あなたの地域には、「地域包括支援センター」があること、相談や必要に応じたサービスを提供してくれることを知っていますか。(〇は1つ)

「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」の割合が 36.7%と最も高くなっています。



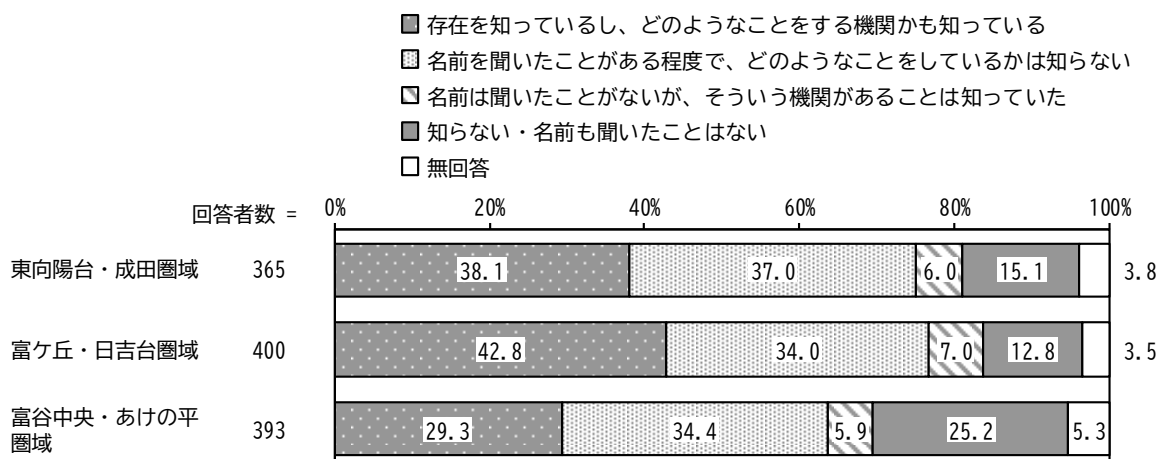
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から75～79歳まで年齢が下がるほど「名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない」の割合が高くなっています。



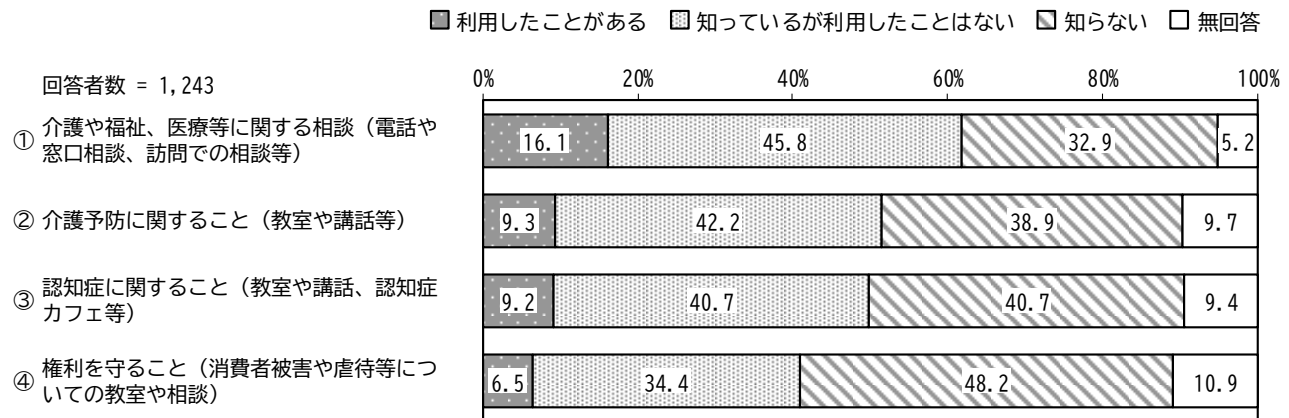
【圏域別】

圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」、富谷中央・あけの平圏域で「知らない・名前も聞いたことはない」の割合が高くなっています。



(3) 地域包括支援センターで実施している主な事業の利用状況について伺います。

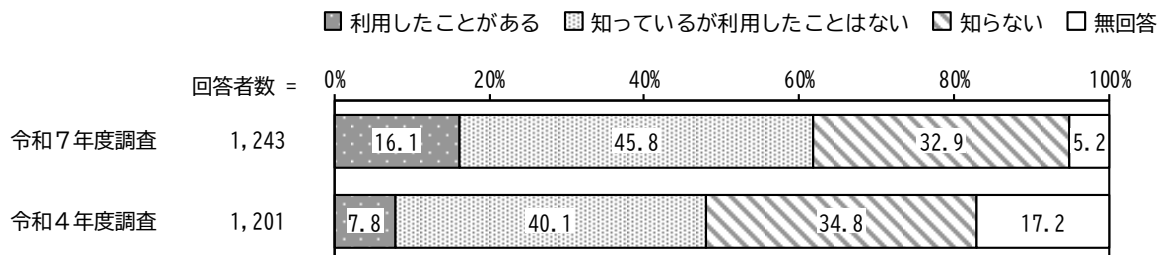
『① 介護や福祉、医療等に関する相談（電話や窓口相談、訪問での相談等）』で「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」が、『④ 権利を守ること（消費者被害や虐待等についての教室や相談）』で「知らない」が高くなっています。



① 介護や福祉、医療等に関する相談（電話や窓口相談、訪問での相談等）

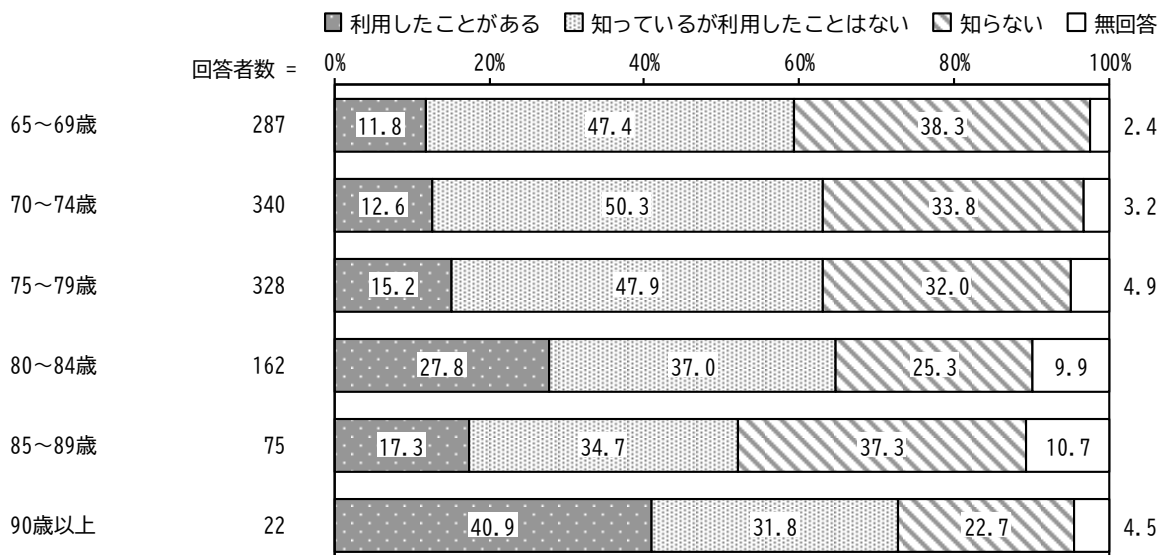
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」の割合が増加しています。



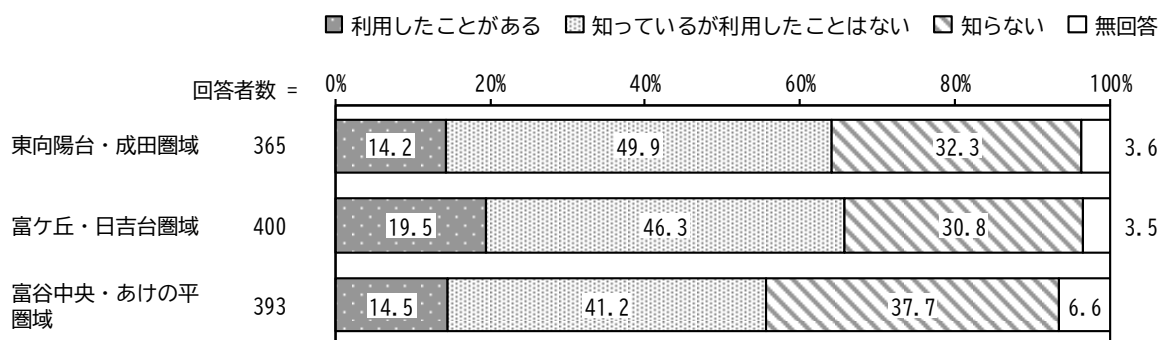
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっています。



【圏域別】

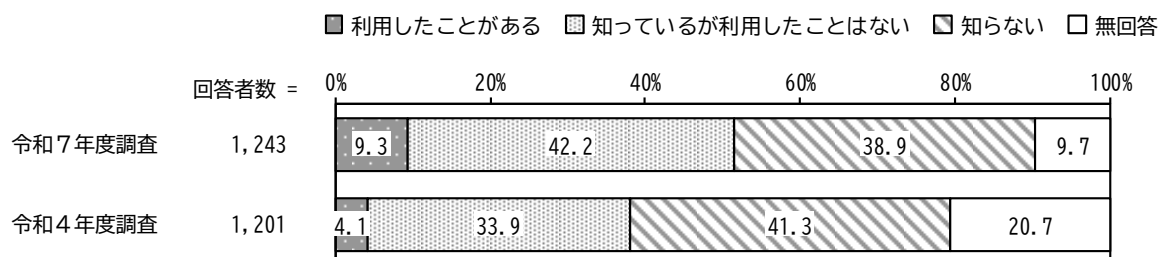
圏域別にみると、大きな差はみられません。



② 介護予防に関すること（教室や講話等）

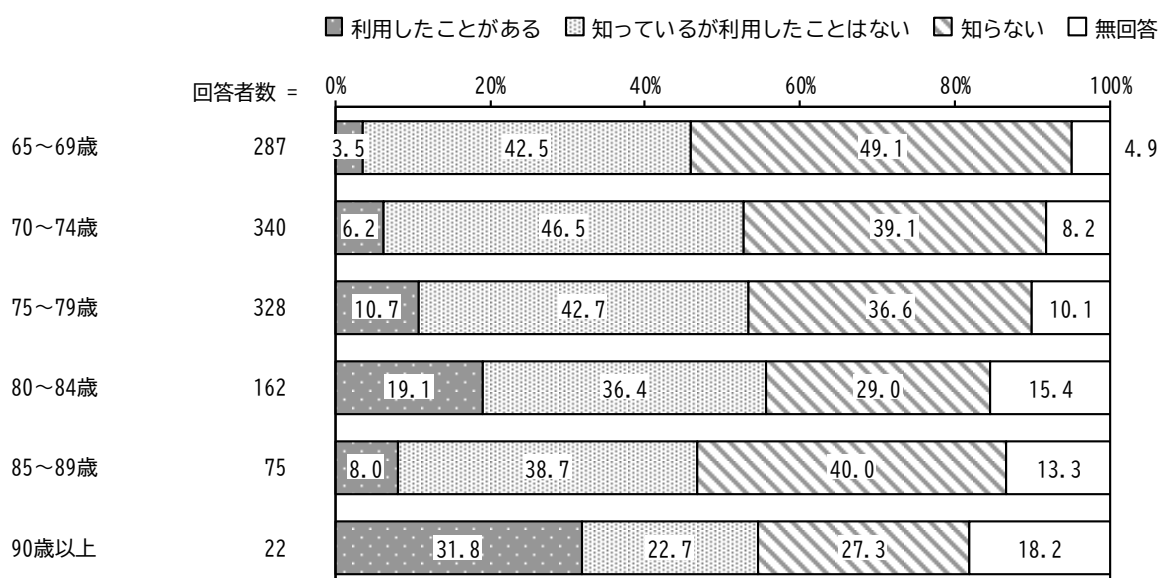
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」の割合が増加しています。



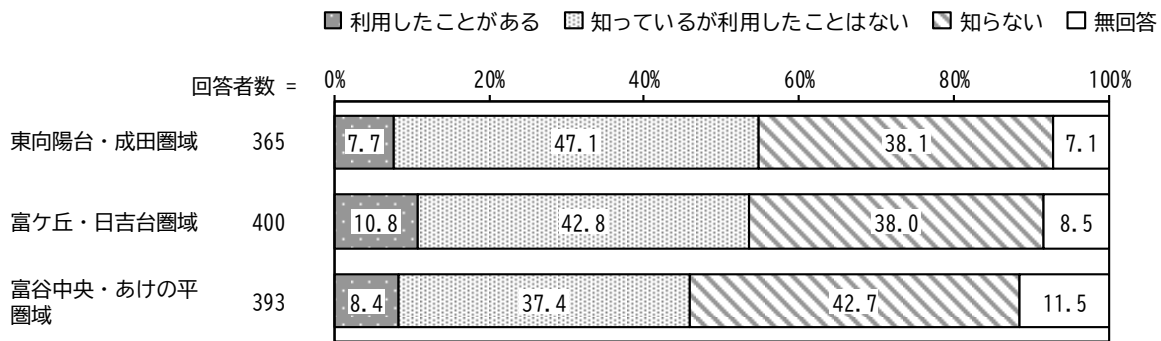
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「知っているが利用したことはない」の割合が高い傾向にあります。また、65～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【圏域別】

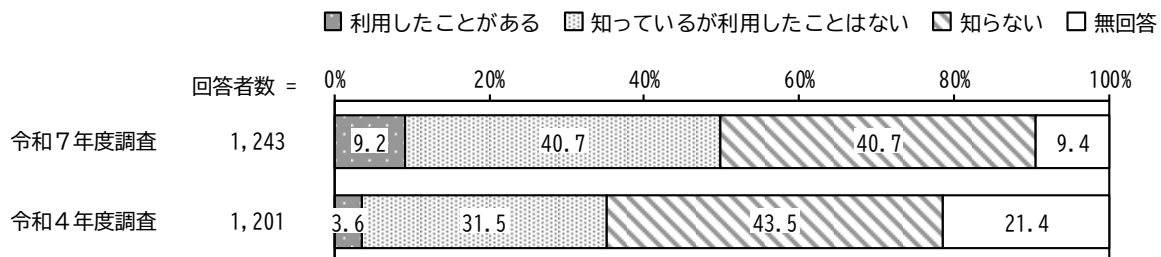
圏域別にみると、大きな差はみられません。



③ 認知症に関すること（教室や講話、認知症カフェ等）

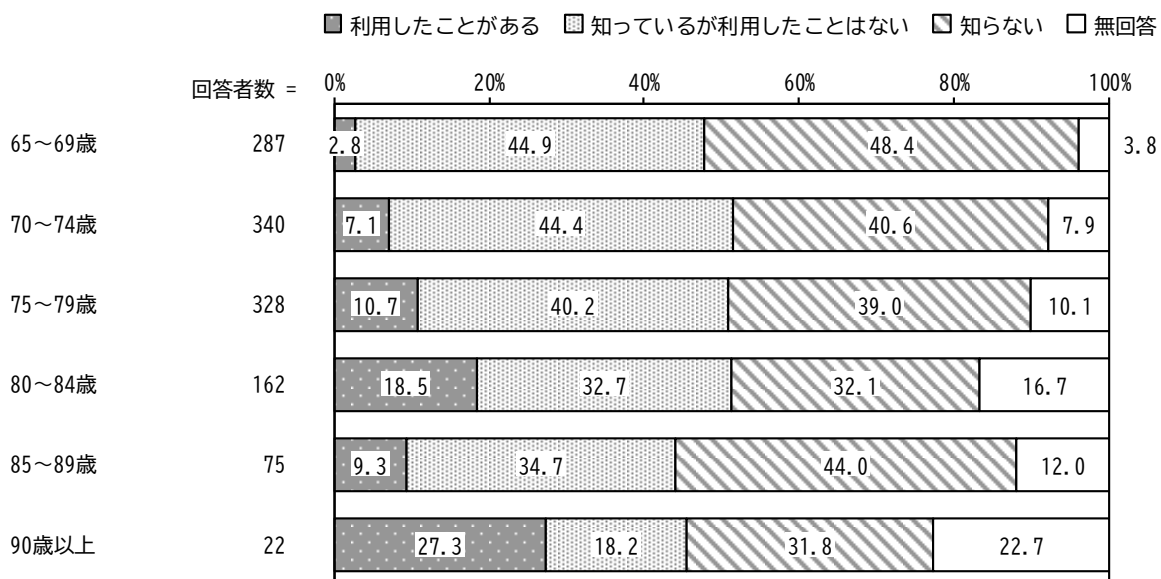
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」の割合が増加しています。



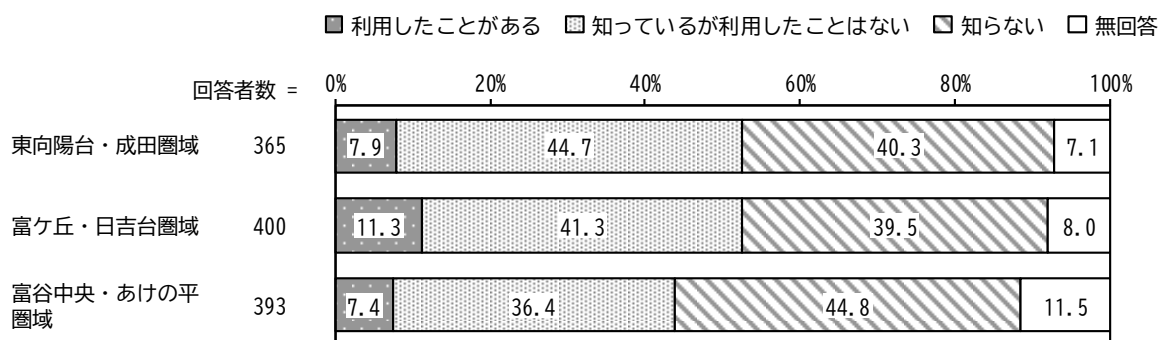
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っているが利用したことはない」の割合が高い傾向にあります。



【圏域別】

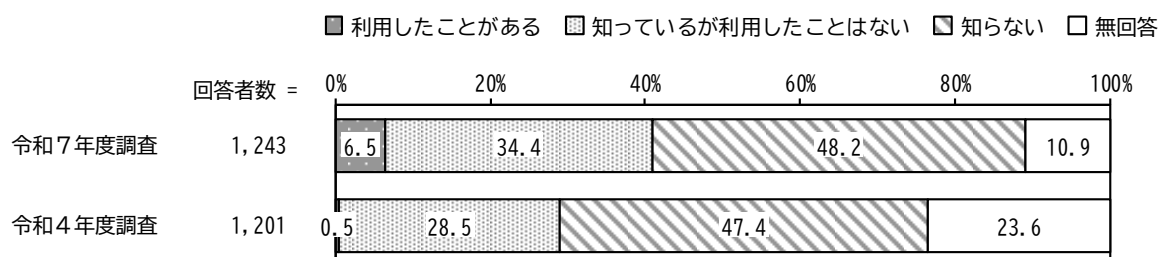
圏域別にみると、大きな差はみられません。



④ 権利を守ること（消費者被害や虐待等についての教室や相談）

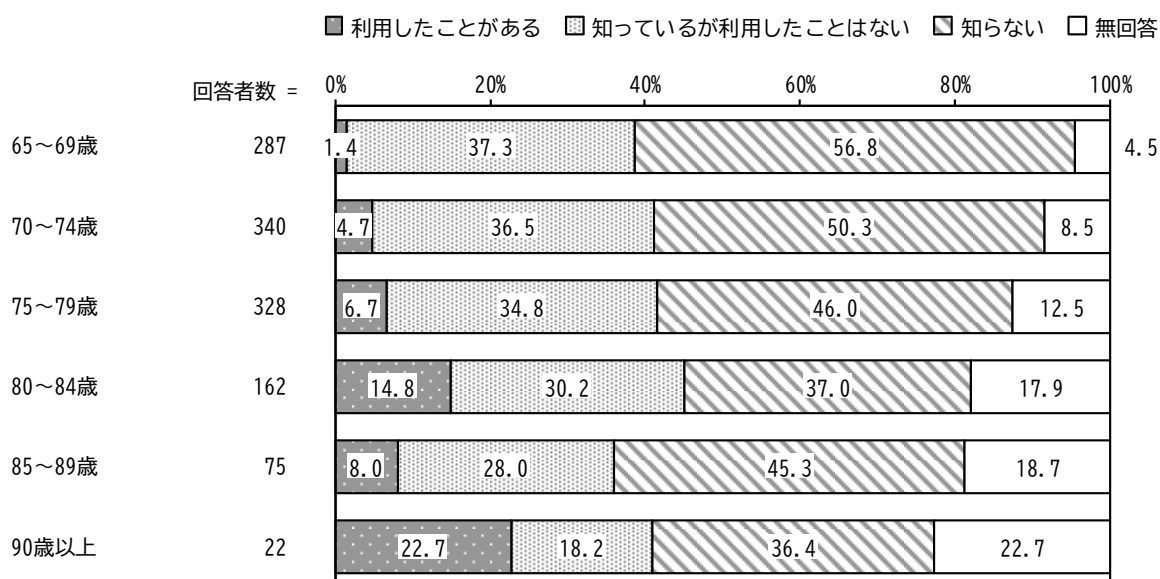
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」の割合が増加しています。



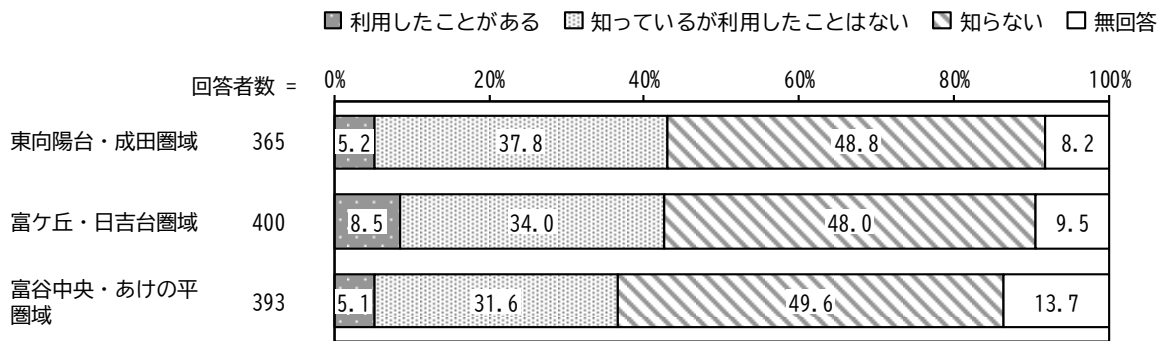
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっています。また、80～84歳、90歳以上で「知らない」の割合が低くなっています。



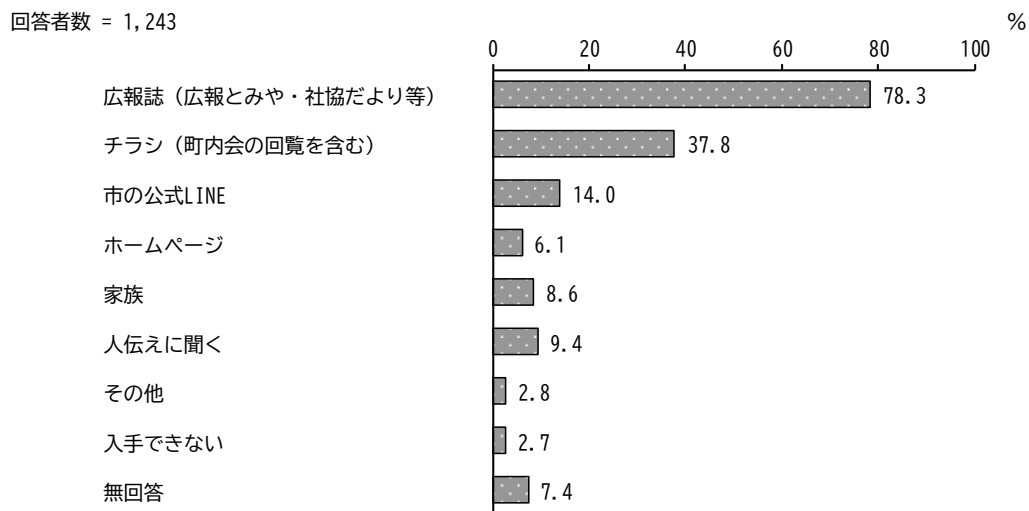
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



(4) あなたは、市、福祉健康センター、地域包括支援センター等で実施している介護予防事業や研修会などの情報を、どういう方法で入手することが多いですか (〇は3つまで)

「広報誌 (広報とみや・社協だより等)」の割合が 78.3%と最も高く、次いで「チラシ (町内会の回覧を含む)」の割合が 37.8%、「市の公式 LINE」の割合が 14.0%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「広報誌（広報とみや・社協だより等）」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数（件）	広報誌（広報とみや・社協だより等）	チラシ（町内会の回覧を含む）	市の公式LINE	ホームページ	家族	人伝えに聞く	その他	入手できない	無回答
全 体	1,243	78.3	37.8	14.0	6.1	8.6	9.4	2.8	2.7	7.4
65～69歳	287	74.6	31.7	24.4	9.4	6.3	6.3	3.5	4.9	6.3
70～74歳	340	86.5	36.8	12.1	6.8	7.6	7.6	2.4	1.8	4.4
75～79歳	328	76.5	44.2	9.5	5.5	8.8	12.5	3.0	3.0	8.2
80～84歳	162	75.9	38.3	8.6	3.1	13.0	10.5	2.5	1.9	8.6
85～89歳	75	78.7	40.0	13.3	1.3	9.3	12.0	1.3	0.0	13.3
90歳以上	22	63.6	22.7	18.2	4.5	13.6	13.6	9.1	0.0	13.6

【圏域別】

圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で「チラシ（町内会の回覧を含む）」の割合が高くなっています。

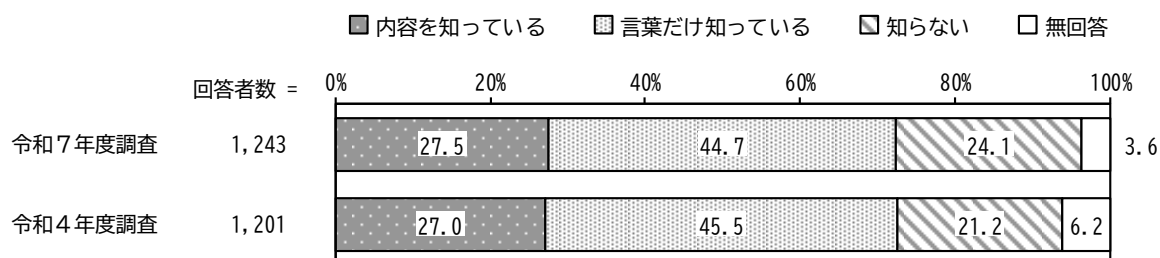
単位：％

区分	回答者数（件）	広報誌（広報とみや・社協だより等）	チラシ（町内会の回覧を含む）	市の公式LINE	ホームページ	家族	人伝えに聞く	その他	入手できない	無回答
全 体	1,243	78.3	37.8	14.0	6.1	8.6	9.4	2.8	2.7	7.4
東向陽台・成田圏域	365	81.9	33.7	15.1	9.3	8.8	6.0	3.6	3.3	6.0
富ヶ丘・日吉台圏域	400	80.0	42.8	13.0	4.8	6.8	12.8	2.8	1.5	7.0
富谷中央・あけの平圏域	393	73.8	35.1	14.0	5.1	10.2	9.7	2.5	3.8	7.9

（５）「成年後見制度」について、知っていますか（○は１つ）

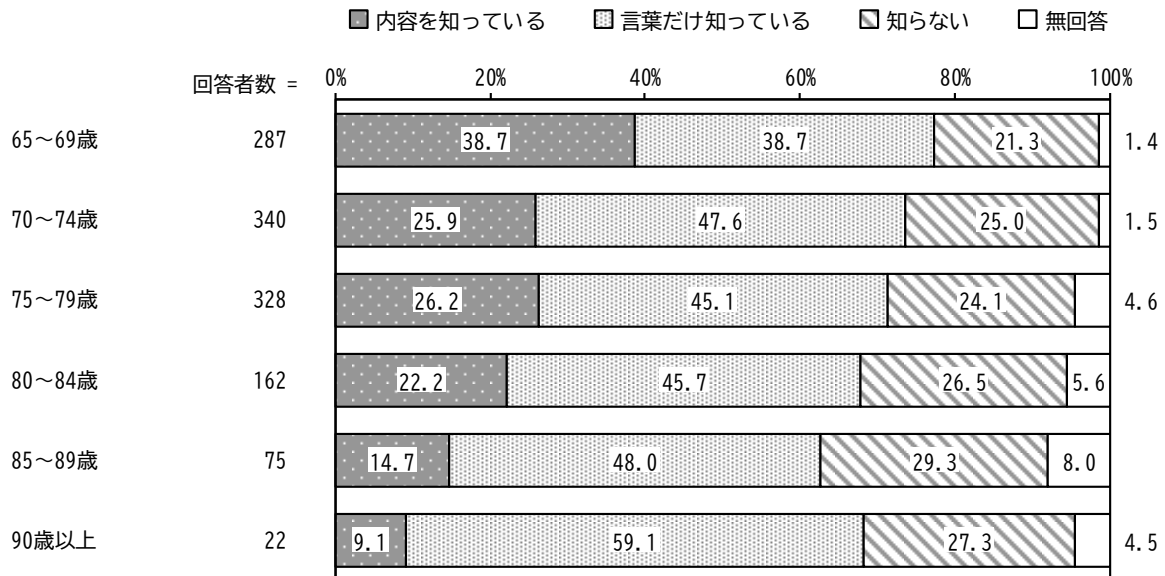
「内容を知っている」の割合が27.5%、「言葉だけ知っている」の割合が44.7%、「知らない」の割合が24.1%となっています。

令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



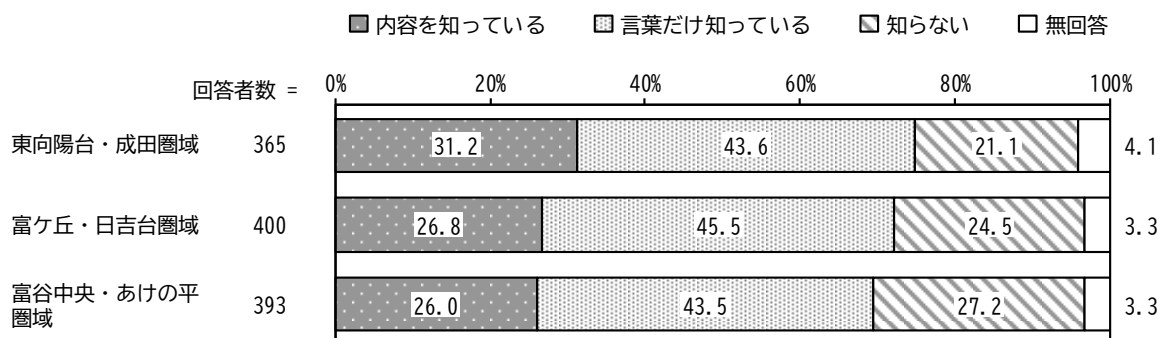
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「内容を知っている」の割合が高い傾向にあります。また、90歳以上で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



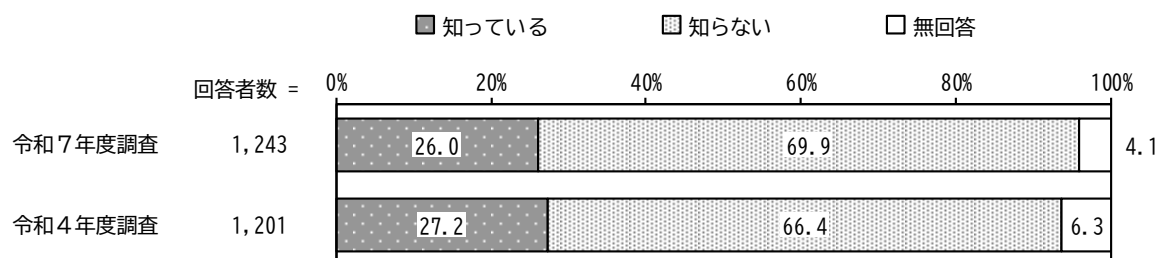
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



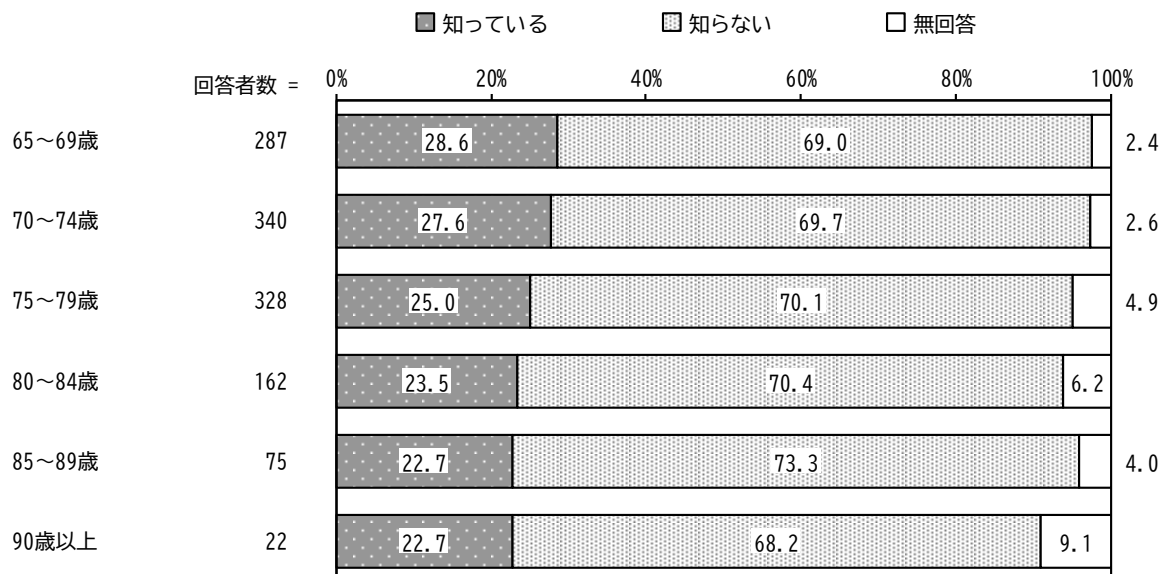
(6) 「成年後見制度」の相談先を知っていますか (○は1つ)

「知っている」の割合が26.0%、「知らない」の割合が69.9%となっています。



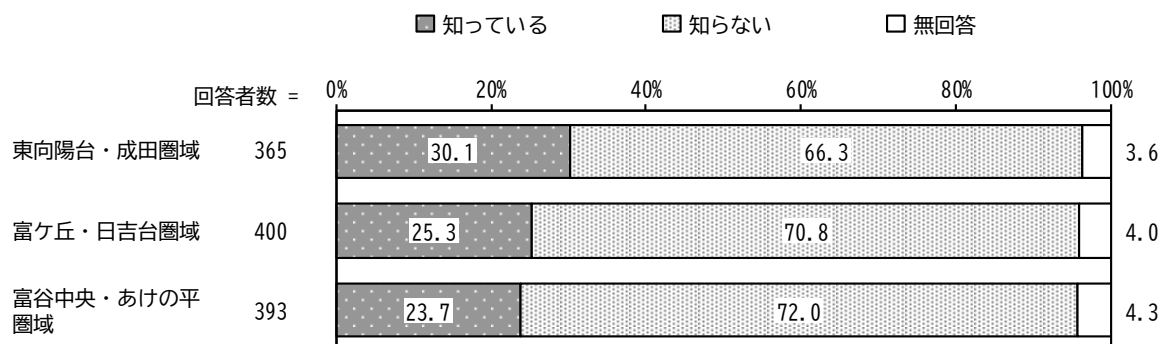
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



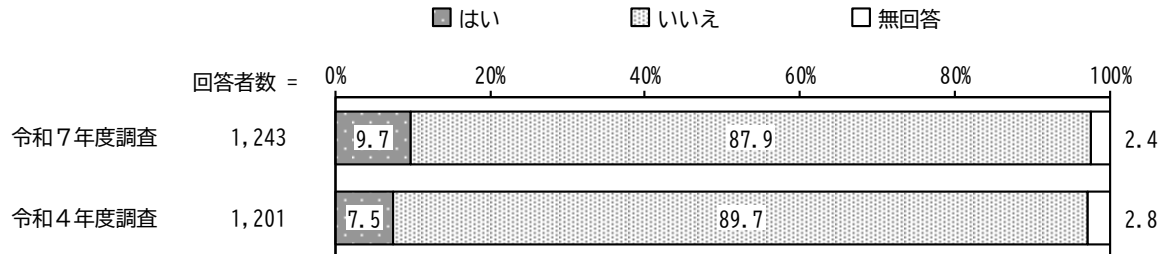
【調査結果のまとめ】

- 介護の相談先は「家族」(63.1%)に次いで「市役所の相談窓口」(33.8%)、「地域包括支援センター」(32.9%)が高くなっています。
- 地域包括支援センターについては「内容も知っている」人が36.7%にとどまっています。
- 情報入手先は「広報誌」が78.3%と依然として高い状況です。
- 専門相談機関である地域包括支援センターの機能について、広報誌等を活用したさらなる周知と、家族の負担軽減に向けた早期相談の促進が課題です。

問 10 認知症について

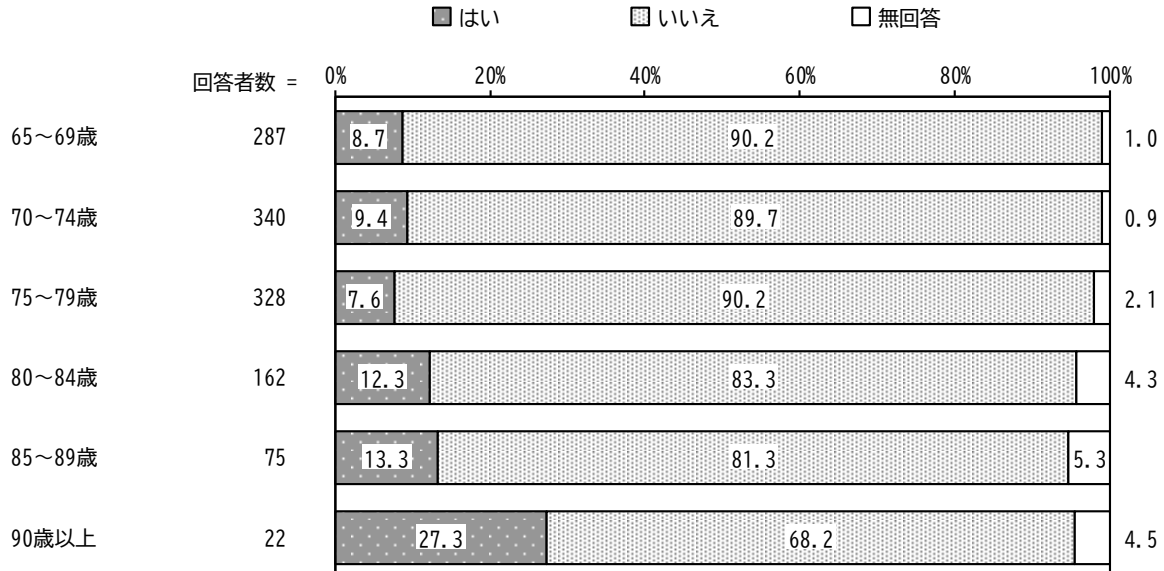
（１）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がありますか（○は１つ）

「はい」の割合が9.7%、「いいえ」の割合が87.9%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



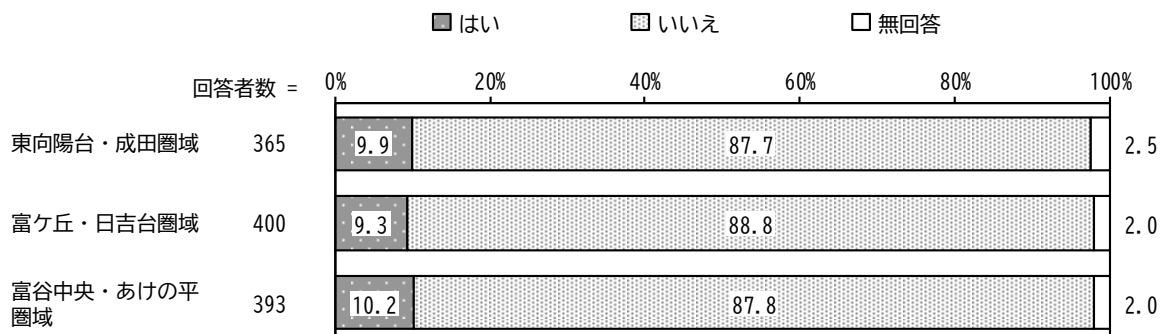
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「いいえ」の割合が高い傾向にあります。



【圏域別】

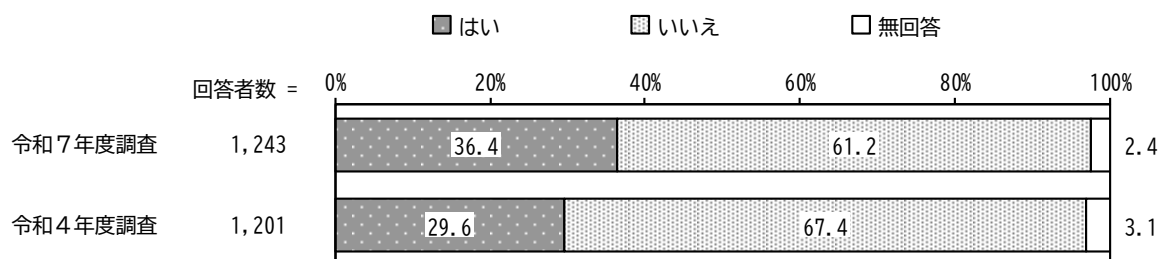
圏域別にみると、大きな差はみられません。



（２）認知症に関する相談窓口を知っていますか（○は１つ）

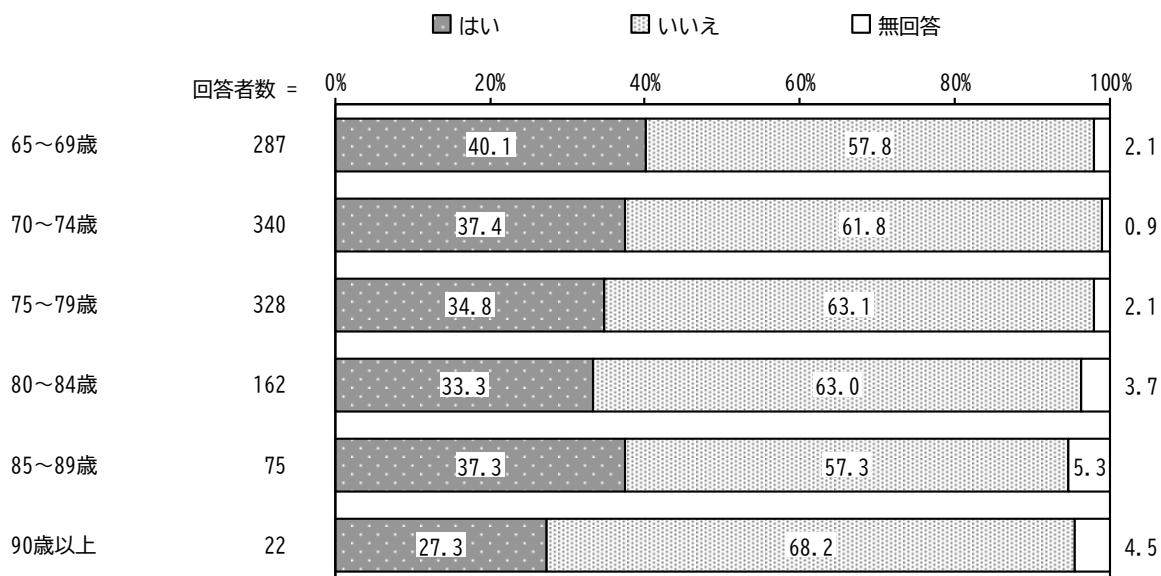
「はい」の割合が36.4%、「いいえ」の割合が61.2%となっています。

令和４年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



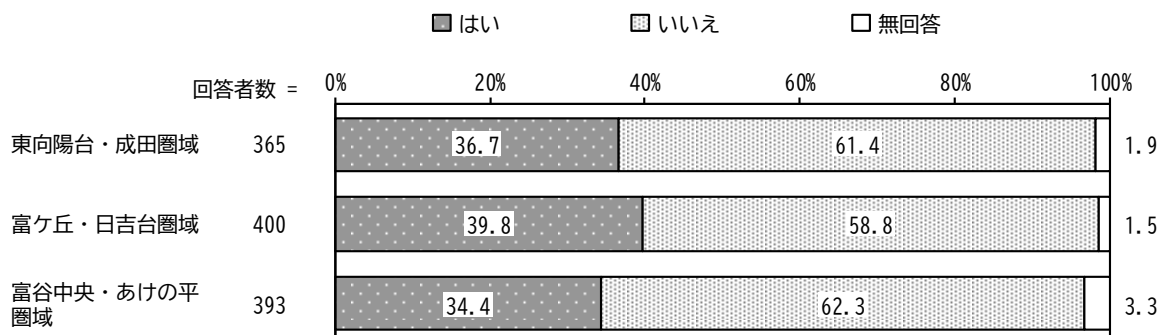
【年齢別】

年齢別にみると、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「はい」の割合が高くなっています。



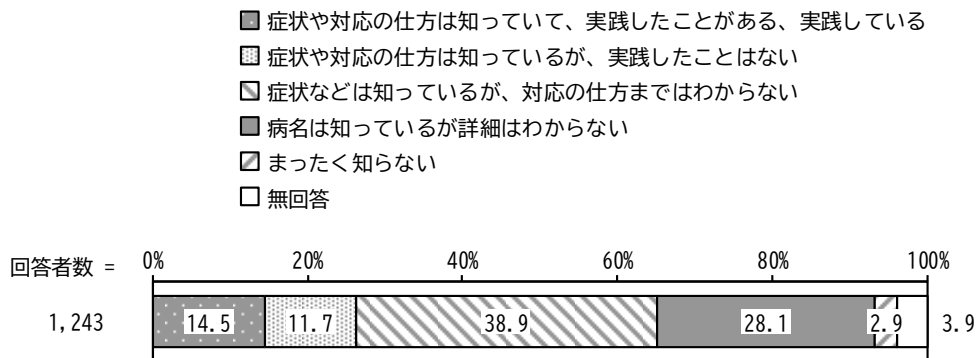
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



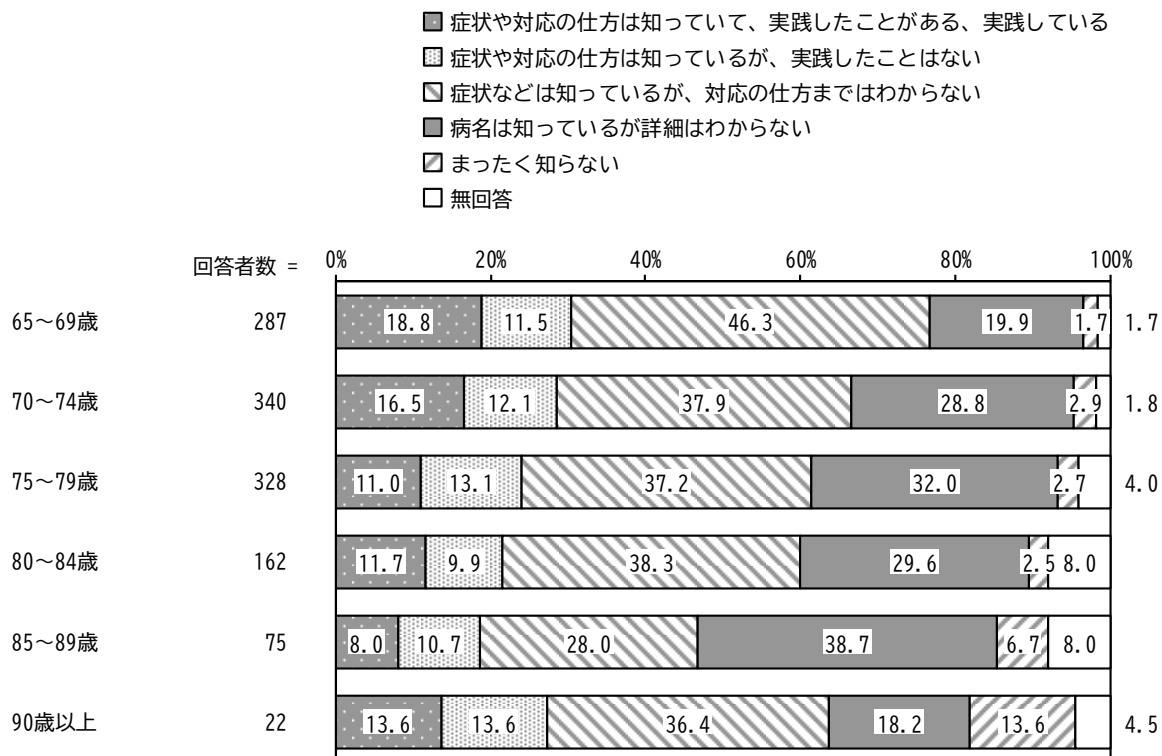
(3) あなたは「認知症」についてどの程度知っていますか (○は1つ)

「症状などは知っているが、対応の仕方まではわからない」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「病名は知っているが詳細はわからない」の割合が 28.1%、「症状や対応の仕方は知っていて、実践したことがある、実践している」の割合が 14.5%となっています。



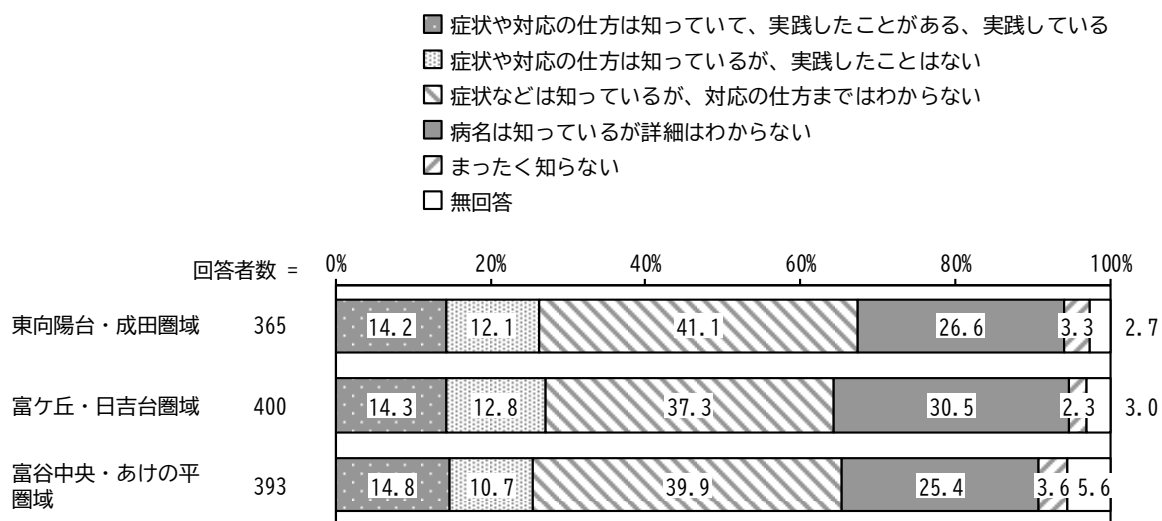
【年齢別】

年齢別にみると、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「症状や対応の仕方は知っていて、実践したことがある、実践している」「症状などは知っているが、対応の仕方まではわからない」の割合が高い傾向にあり、「病名は知っているが詳細はわからない」の割合が低い傾向にあります。



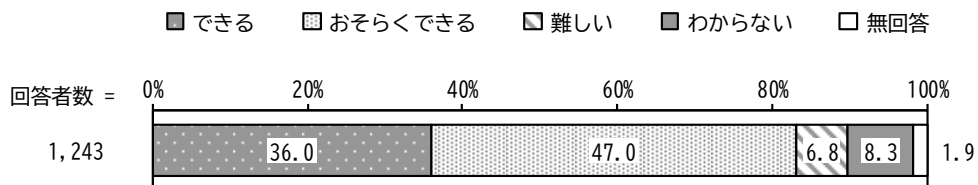
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



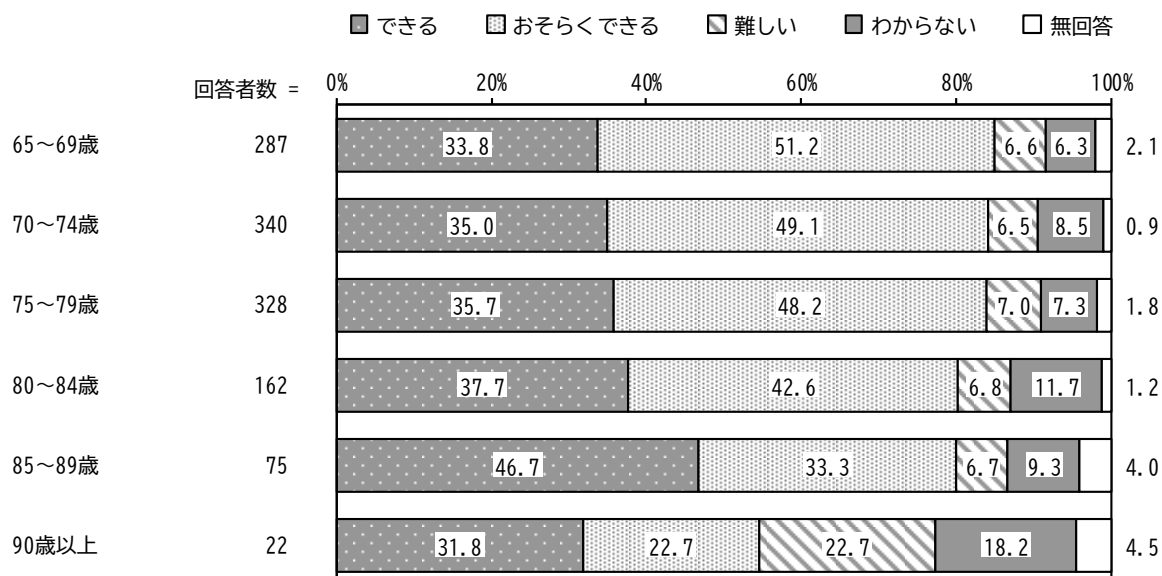
(4) 自分や家族が「認知症かもしれない」と思った場合、一人で抱え込まずに打ち明けたり、誰かに相談することができますか (○は1つ)

「できる」の割合が 36.0%、「おそらくできる」の割合が 47.0%、「難しい」の割合が 6.8%となっています。



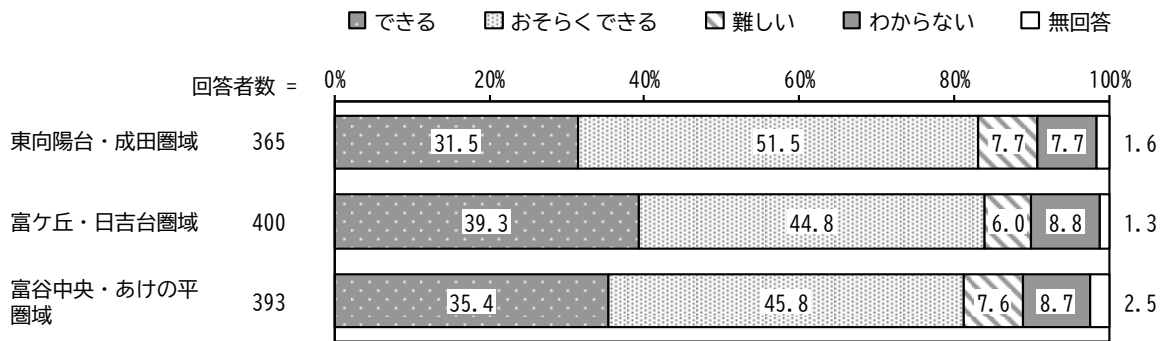
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「おそらくできる」の割合が高くなっています。また、85～89 歳で「できる」の割合が高くなっています。



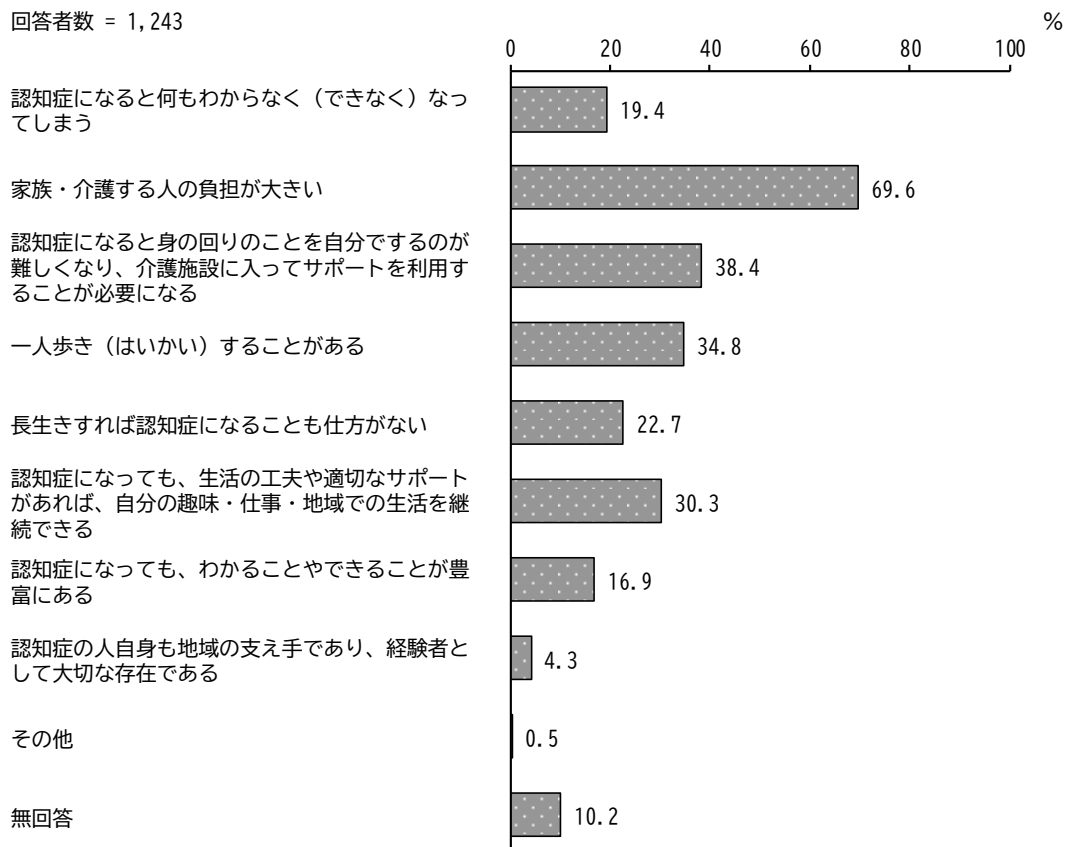
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



(5) あなたが思う認知症のイメージを教えてください。(○は3つまで)

「家族・介護する人の負担が大きい」の割合が69.6%と最も高く、次いで「認知症になると身の回りのことを自分でするのが難しくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合が38.4%、「一人歩き（はいかい）することがある」の割合が34.8%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「認知症になると身の回りのことを自分でするのが難しくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合が高い傾向にあり、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「認知症になると何もわからなく（できなく）になってしまう」の割合が高く、「認知症になっても、生活の工夫や適切なサポートがあれば、自分の趣味・仕事・地域での生活を継続できる」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	認知症になると何もわからなく (できなく) なってしまう	家族・介護する人の負担が大き い	認知症になると身の回りのこ とを自分でするのが難しくな り、介護施設に入ってサポート を利用することが必要になる	一人歩き(はいかい)すること がある	長生きすれば認知症になるこ とも仕方がない
全 体	1,243	19.4	69.6	38.4	34.8	22.7
65～69歳	287	18.5	71.4	36.6	33.8	23.7
70～74歳	340	20.0	72.6	40.0	37.6	25.0
75～79歳	328	16.5	71.0	39.6	39.0	22.0
80～84歳	162	21.0	67.3	39.5	31.5	18.5
85～89歳	75	25.3	54.7	33.3	21.3	25.3
90歳以上	22	36.4	72.7	31.8	22.7	22.7

区分	認知症になっても、生活の工夫 や適切なサポートがあれば、自 分の趣味・仕事・地域での生活 を継続できる	認知症になっても、わかること やできることが豊富にある	認知症の人自身も地域の支え 手であり、経験者として大切な 存在である	その他	無回答
全 体	30.3	16.9	4.3	0.5	10.2
65～69歳	27.2	19.9	3.5	0.0	10.1
70～74歳	31.8	15.0	3.2	0.6	7.4
75～79歳	34.1	15.5	6.4	0.3	8.5
80～84歳	30.9	21.0	3.7	0.6	13.0
85～89歳	24.0	14.7	2.7	2.7	17.3
90歳以上	13.6	4.5	4.5	0.0	18.2

【圏域別】

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で「認知症になっても、生活の工夫や適切なサポートがあれば、自分の趣味・仕事・地域での生活を継続できる」の割合が高くなっています。

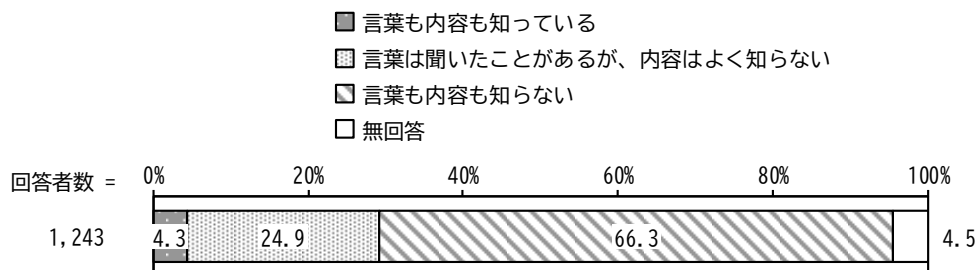
単位：％

区分	回答者数 (件)	認知症になると何もわからなく (できなく) なってしまう	家族介護する人の負担が大き い	認知症になると身の回りのこ とを自分でするのが難しくな り、介護施設に入ってサポート を利用することが必要になる	一人歩き(はいかい)すること がある	長生きすれば認知症になるこ とも仕方がない
全 体	1,243	19.4	69.6	38.4	34.8	22.7
東向陽台・成田圏域	365	16.7	69.9	39.2	36.4	21.9
富ヶ丘・日吉台圏域	400	21.0	71.0	36.3	33.5	24.0
富谷中央・あけの平圏域	393	19.1	68.4	39.4	35.6	23.7

区分	認知症になっても、生活の工夫 や適切なサポートがあれば、自 分の趣味・仕事・地域での生活 を継続できる	認知症になっても、わかること やできることが豊富にある	認知症の人自身も地域の支え 手であり、経験者として大切な 存在である	その他	無回答
全 体	30.3	16.9	4.3	0.5	10.2
東向陽台・成田圏域	35.3	17.5	4.1	0.5	10.1
富ヶ丘・日吉台圏域	29.3	18.0	3.8	0.3	11.3
富谷中央・あけの平圏域	27.2	15.5	5.3	0.8	8.7

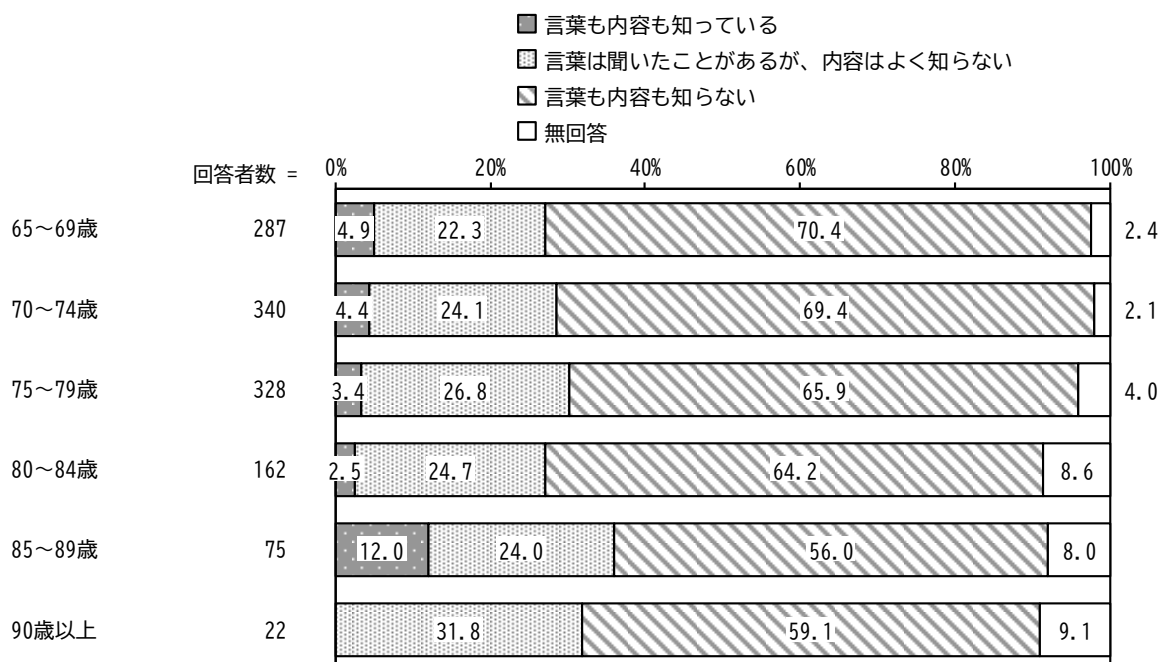
(6) 認知症基本法に基づき、国では、「認知症とともに希望を持って生きる」という「新しい認知症観」を示しています。あなたは、「新しい認知症観」という言葉を聞いたことがありますか。また、その内容について知っていますか。(〇は1つ)

「言葉も内容も知っている」の割合が4.3%、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」の割合が24.9%、「言葉も内容も知らない」の割合が66.3%となっています。



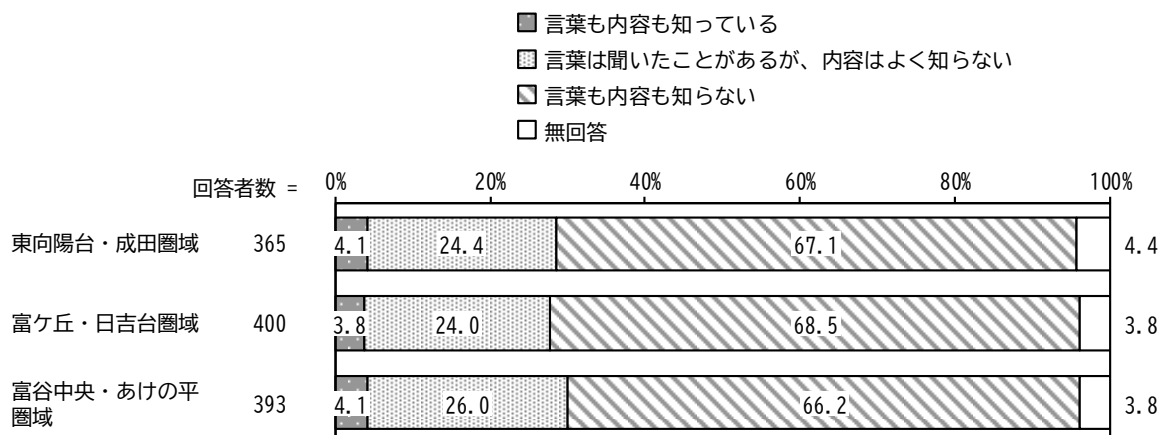
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「言葉も内容も知らない」の割合が高くなっています。



【圏域別】

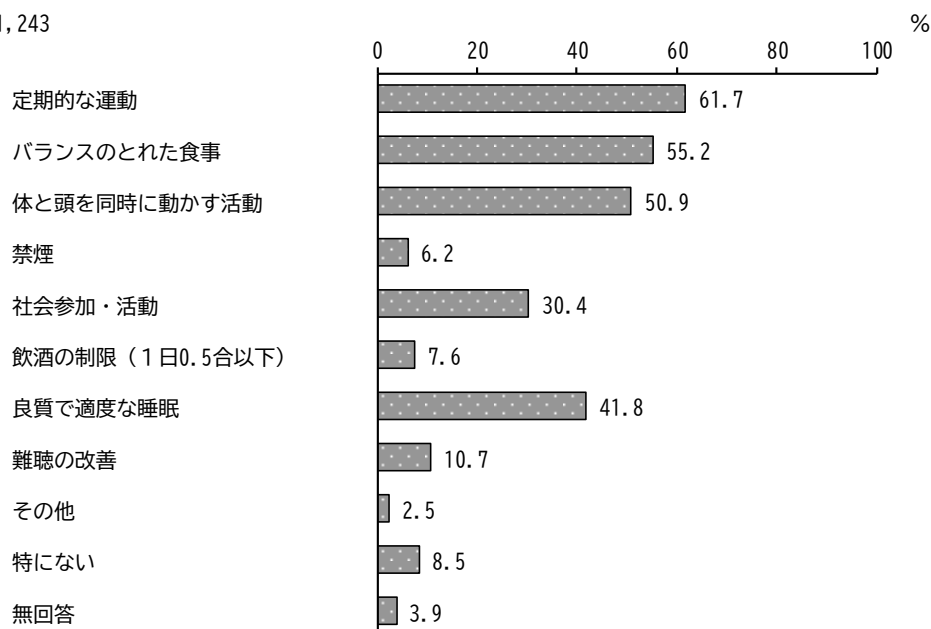
圏域別にみると、大きな差はみられません。



(7) 認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を穏やかにするために効果があると考えられるものの中で、ご自身で取り組んでいきたい（現在取り組んでいるものを含む）ことはありますか。（○はいくつでも）

「定期的な運動」の割合が61.7%と最も高く、次いで「バランスのとれた食事」の割合が55.2%、「体と頭を同時に動かす活動」の割合が50.9%となっています。

回答者数 = 1,243



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「定期的な運動」「社会参加・活動」の割合が高い傾向にあり、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「バランスのとれた食事」の割合が高い傾向にあります。

単位：%

区分	回答者数（件）	定期的な運動	食事 バランスのとれた	体と頭を同時に動かす活動	禁煙	社会参加・活動	飲酒の制限（1日0.5合以下）	良質で適度な睡眠	難聴の改善	その他	特にない	無回答
全 体	1,243	61.7	55.2	50.9	6.2	30.4	7.6	41.8	10.7	2.5	8.5	3.9
65～69歳	287	66.2	58.9	53.3	7.7	32.8	8.7	41.8	9.4	3.1	8.4	1.7
70～74歳	340	64.4	63.2	52.9	6.2	30.0	7.4	45.3	10.0	2.9	7.1	2.1
75～79歳	328	63.4	50.3	49.7	7.3	29.3	8.8	42.7	11.3	1.8	9.8	3.4
80～84歳	162	56.2	52.5	53.1	4.9	30.2	6.2	35.8	13.0	2.5	4.9	6.8
85～89歳	75	44.0	42.7	42.7	2.7	25.3	4.0	37.3	14.7	2.7	17.3	8.0
90歳以上	22	40.9	31.8	36.4	0.0	22.7	4.5	36.4	9.1	0.0	9.1	18.2

【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。

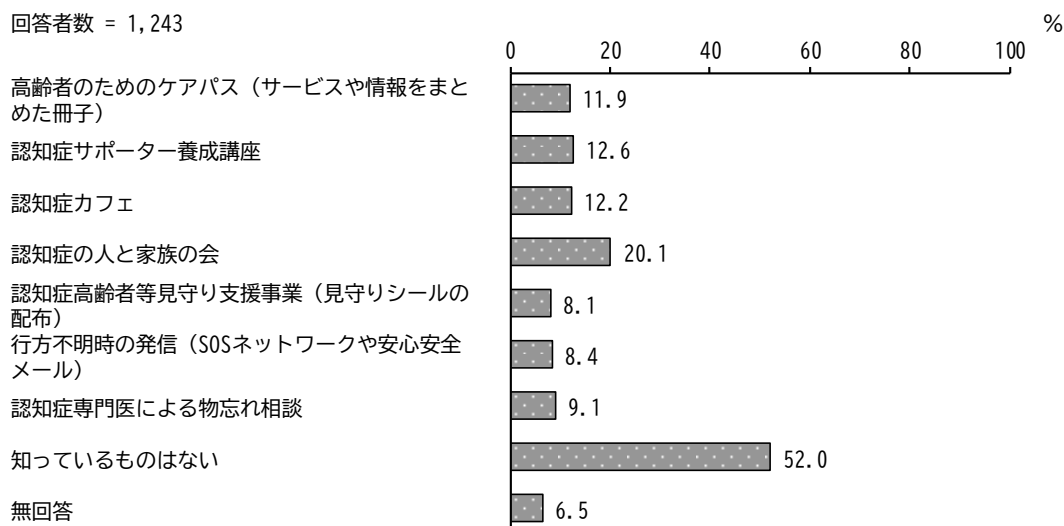
単位：％

区分	回答者数 (件)	定期的な運動	食事 バランスのとれた	体と頭を同時に動 かす活動	禁煙	社会参加・活動	飲酒の制限(1日 0.5合以下)	良質で適度な睡眠	難聴の改善	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	1,243	61.7	55.2	50.9	6.2	30.4	7.6	41.8	10.7	2.5	8.5	3.9
東向陽台・成田圏域	365	66.0	56.2	54.8	6.0	34.8	6.0	44.1	11.5	4.1	7.1	2.5
富ヶ丘・日吉台圏域	400	59.5	56.5	51.8	7.5	27.5	8.5	41.8	11.5	2.0	7.3	5.0
富谷中央・あけの平 圏域	393	59.8	54.2	48.1	5.6	28.5	8.1	39.4	9.7	1.5	10.9	3.1

(8) 市が実施している認知症施策を知っていますか(○はいくつでも)

「認知症の人と家族の会」の割合が 20.1%と最も高く、次いで「認知症サポーター養成講座」の割合が 12.6%、「認知症カフェ」の割合が 12.2%となっています。

回答者数 = 1,243



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「行方不明時の発信（SOS ネットワークや安心安全メール）」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数（件）	高齢者のためのケアパス（サービスや情報をまとめた冊子）	認知症サポーター養成講座	認知症力フェ	認知症の人と家族の会	認知症高齢者等見守り支援事業（見守りシールの配布）	認知症高齢者等見守り支援事業（見守りシールの配布）	行方不明時の発信（SOS ネットワークや安心安全メール）	認知症専門医による物忘れ相談	知っているものはない	無回答
全 体	1,243	11.9	12.6	12.2	20.1	8.1	8.4	9.1	52.0	6.5	
65～69歳	287	8.4	11.8	12.2	14.6	5.9	13.6	8.4	60.3	3.1	
70～74歳	340	12.9	14.7	11.8	21.5	9.7	10.3	8.5	52.4	3.2	
75～79歳	328	12.2	12.2	12.5	20.1	7.6	5.8	7.9	53.0	6.4	
80～84歳	162	12.3	16.7	16.0	27.2	11.1	3.7	12.3	41.4	11.7	
85～89歳	75	13.3	4.0	9.3	26.7	5.3	4.0	10.7	49.3	9.3	
90歳以上	22	9.1	4.5	13.6	13.6	9.1	0.0	13.6	40.9	27.3	

【圏域別】

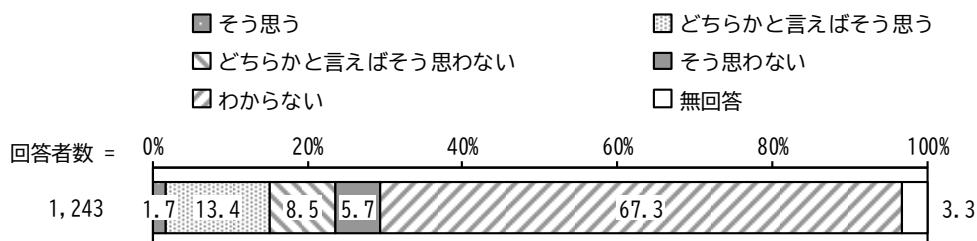
圏域別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	高齢者のためのケアパス（サービスや情報をもとめた冊子）	認知症サポーター養成講座	認知症力フェ	認知症の人と家族の会	認知症高齢者等見守り支援事業（見守りシールの配布）	認知症高齢者等見守り支援事業（見守りシールの配布）	認知症専門医による物忘れ相談	知っているものはない	無回答
全 体	1,243	11.9	12.6	12.2	20.1	8.1	8.4	9.1	52.0	6.5
東向陽台・成田圏域	365	11.5	12.6	11.0	18.1	8.5	10.4	8.8	52.9	6.0
富ヶ丘・日吉台圏域	400	11.0	11.3	13.0	20.5	7.0	7.5	8.3	53.8	6.0
富谷中央・あけの平圏域	393	12.2	14.5	13.5	22.4	8.7	8.7	10.2	52.4	5.1

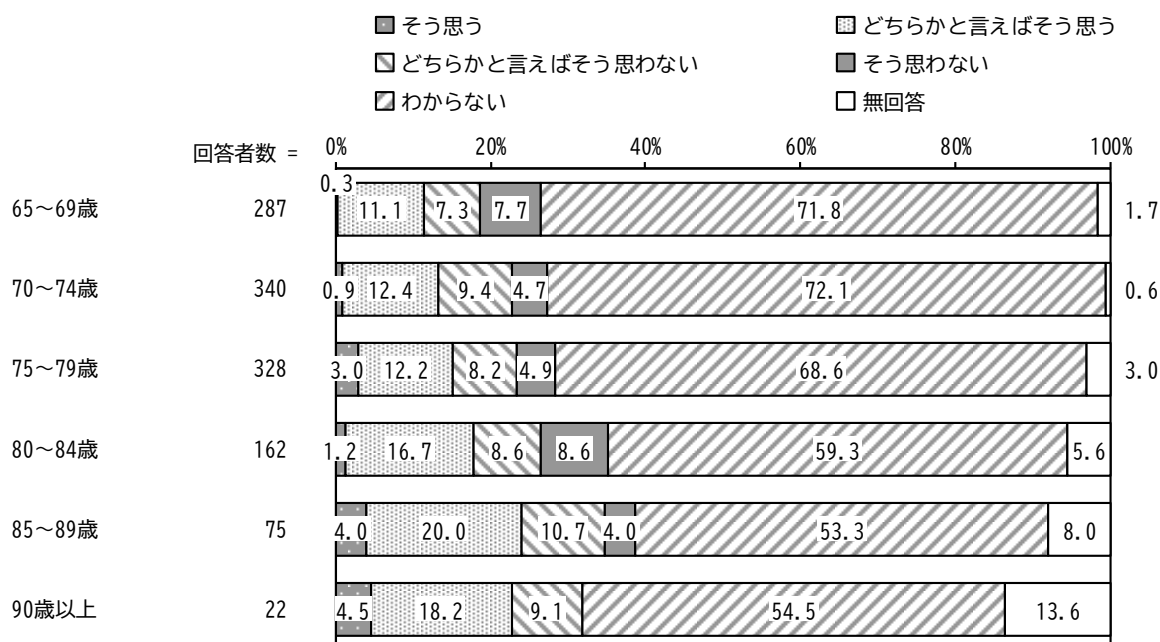
(9) 現在の富谷市は、認知症の人が自分らしく暮らせるまちになっていると思いますか
(○は1つ)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が15.1%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が14.2%となっています。



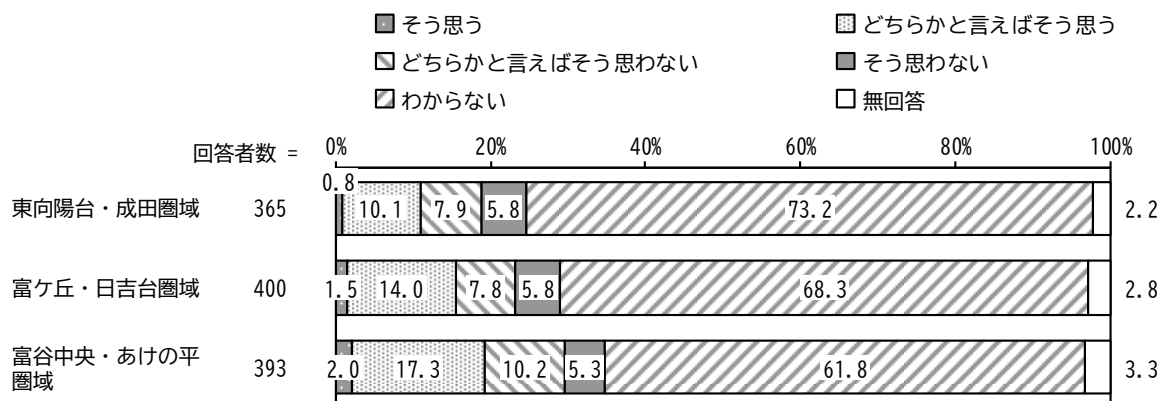
【年齢別】

年齢別にみると65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど“そう思う”の割合が高くなっています。



【圏域別】

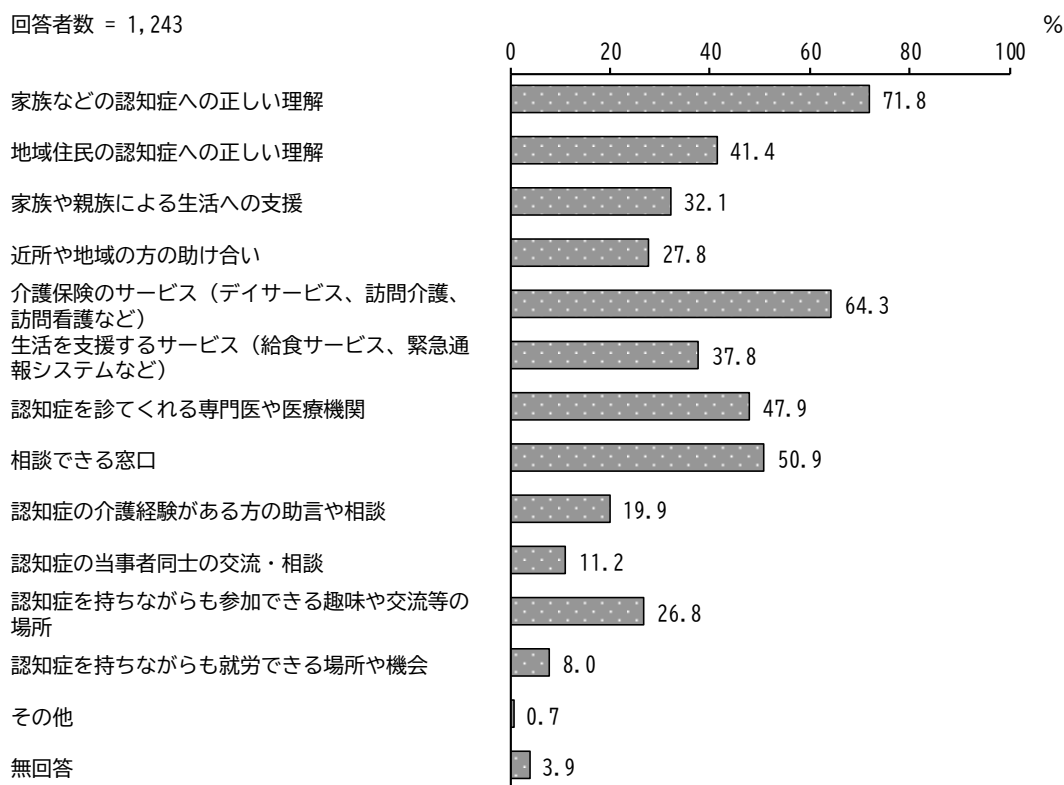
圏域別にみると、大きな差はみられません。



(10) 認知症になっても住み慣れた地域で生活をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「家族などの認知症への正しい理解」の割合が71.8%と最も高く、次いで「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」の割合が64.3%、「相談できる窓口」の割合が50.9%となっています。

回答者数 = 1,243



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「生活を支援するサービス（給食サービス、緊急通報システムなど）」「認知症を診てくれる専門医や医療機関」「相談できる窓口」の割合が高い傾向にあり、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「家族や親族による生活への支援」「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」「認知症の当事者同士の交流・相談」「認知症を持ちながらも参加できる趣味や交流等の場所」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族などの認知症への 正しい理解	地域住民の認知症への 正しい理解	家族や親族による生活 への支援	近所や地域の方の助け 合い	介護保険のサービス (デイサービス、訪問 介護、訪問看護など)	生活を支援するサービ ス(給食サービス、緊急 通報システムなど)	認知症を診てくれる専 門医や医療機関
全 体	1,243	71.8	41.4	32.1	27.8	64.3	37.8	47.9
65～69歳	287	75.3	41.1	40.1	27.2	73.5	44.3	53.3
70～74歳	340	72.9	40.0	32.1	23.8	70.9	40.0	52.1
75～79歳	328	70.7	41.2	30.2	27.7	58.8	36.6	46.0
80～84歳	162	69.8	50.0	27.8	35.8	58.6	32.7	44.4
85～89歳	75	72.0	33.3	20.0	32.0	45.3	26.7	40.0
90歳以上	22	50.0	31.8	22.7	18.2	50.0	18.2	22.7

区分	相談できる窓口	認知症の介護経験があ る方の助言や相談	認知症の当事者同士の 交流・相談	認知症を持ちながらも 参加できる趣味や交流 等の場所	認知症を持ちながらも 就労できる場所や機会	その他	無回答
全 体	50.9	19.9	11.2	26.8	8.0	0.7	3.9
65～69歳	57.1	20.2	13.2	29.6	11.5	1.0	1.4
70～74歳	56.2	21.8	10.6	25.6	9.4	0.3	2.4
75～79歳	46.0	20.1	12.8	27.4	5.2	0.6	4.0
80～84歳	44.4	20.4	8.6	24.1	7.4	0.0	6.2
85～89歳	46.7	10.7	4.0	21.3	5.3	2.7	6.7
90歳以上	36.4	18.2	18.2	27.3	4.5	4.5	18.2

【圏域別】

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で「地域住民の認知症への正しい理解」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族などの認知症への 正しい理解	地域住民の認知症への 正しい理解	家族や親族による生活 への支援	近所や地域の方の助け 合い	介護保険のサービス (デイサービス、訪問 介護、訪問看護など)	生活を支援するサービ ス(給食サービス、緊急 通報システムなど)	認知症を診てくれる専 門医や医療機関
全 体	1,243	71.8	41.4	32.1	27.8	64.3	37.8	47.9
東向陽台・成田圏域	365	71.5	48.8	31.8	28.2	63.6	40.0	51.8
富ヶ丘・日吉台圏域	400	72.0	39.8	32.0	25.0	65.5	40.3	48.8
富谷中央・あけの平圏域	393	70.7	36.6	32.6	29.0	64.6	35.6	44.8

区分	相談できる窓口	認知症の介護経験があ る方の助言や相談	認知症の当事者同士の 交流・相談	認知症を持ちながらも 参加できる趣味や交流 等の場所	認知症を持ちながらも 就労できる場所や機会	その他	無回答
全 体	50.9	19.9	11.2	26.8	8.0	0.7	3.9
東向陽台・成田圏域	52.6	19.5	11.8	29.9	10.1	1.4	3.0
富ヶ丘・日吉台圏域	51.5	20.5	11.3	24.8	7.5	0.5	3.5
富谷中央・あけの平圏域	52.2	19.3	10.2	26.5	6.9	0.5	4.8

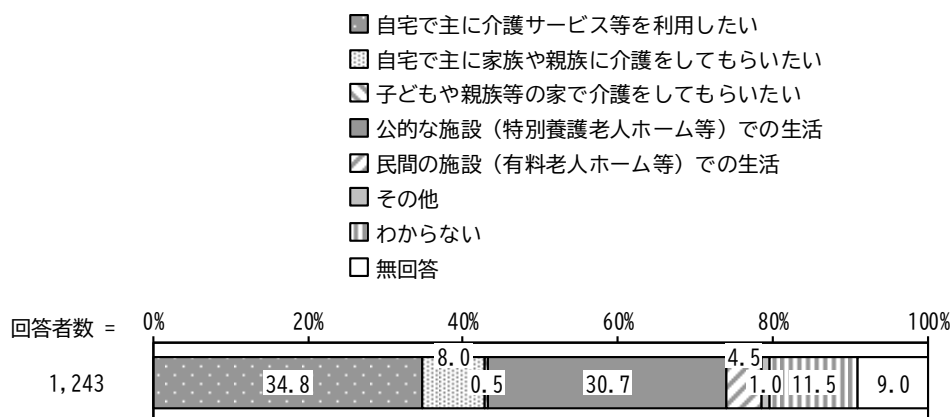
【調査結果のまとめ】

- 認知症に関する相談窓口を「知っている」人は 36.4％で、令和5年度より増加しています。
- 認知症へのイメージは「家族・介護する人の負担が大きい」が 69.6％と極めて高い一方、「新しい認知症観」の内容まで知っている人は 4.3％にとどまっています。
- 認知症予防への取組意向は「定期的な運動」(61.7％) が最も高くなっています。
- 介護負担への強い不安を解消するため、「共生」を目指す新しい認知症観の普及啓発とともに、身近な認知症予防活動の場を充実させることが重要です。

問 11 今後の生活について

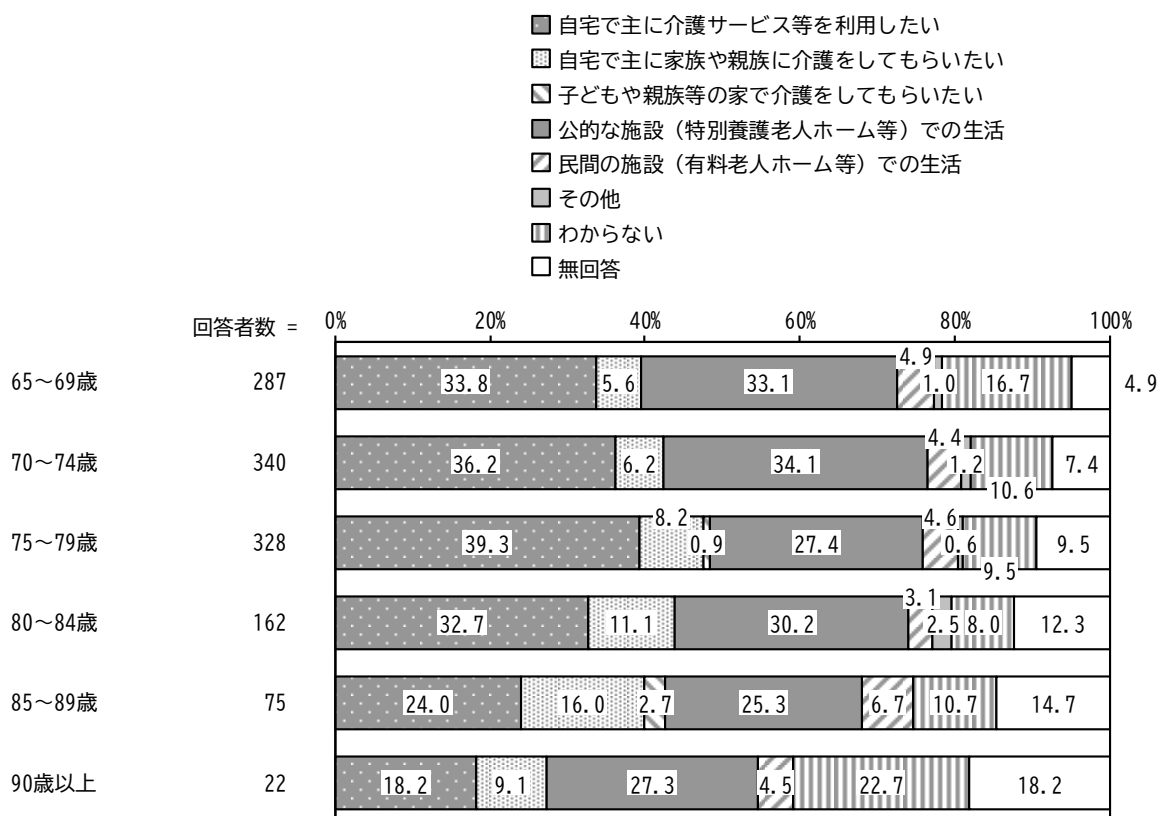
(1) あなた自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか (○は1つ)

「自宅で主に介護サービス等を利用したい」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が 30.7%となっています。



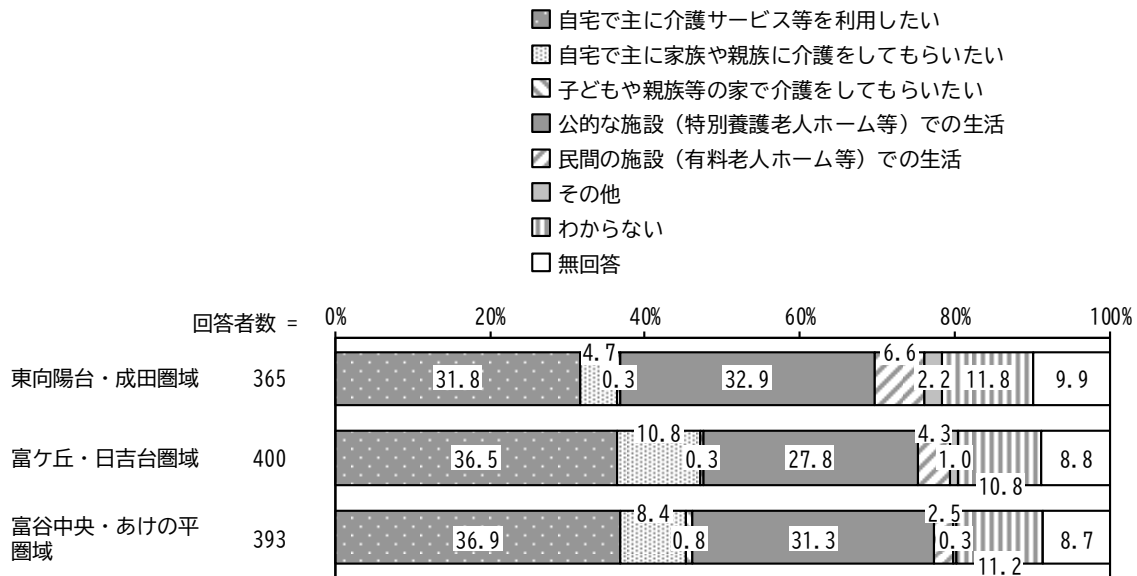
【年齢別】

年齢別にみると、65～69 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「自宅で主に家族や親族に介護をしてもらいたい」の割合が高く、90 歳以上から 75～79 歳まで年齢が下がるほど「自宅で主に介護サービス等を利用したい」の割合が高くなっています。



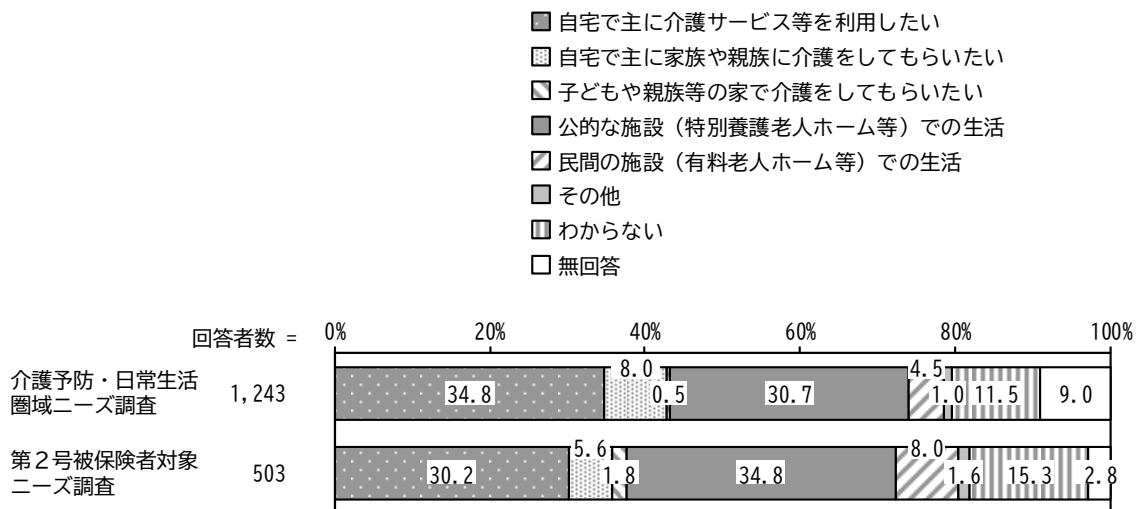
【圏域別】

圏域別にみると、大きな差はみられません。



【第2号被保険者対象二一ズ調査との比較】

第2号被保険者調査との比較をみると、大きな差はみられません。

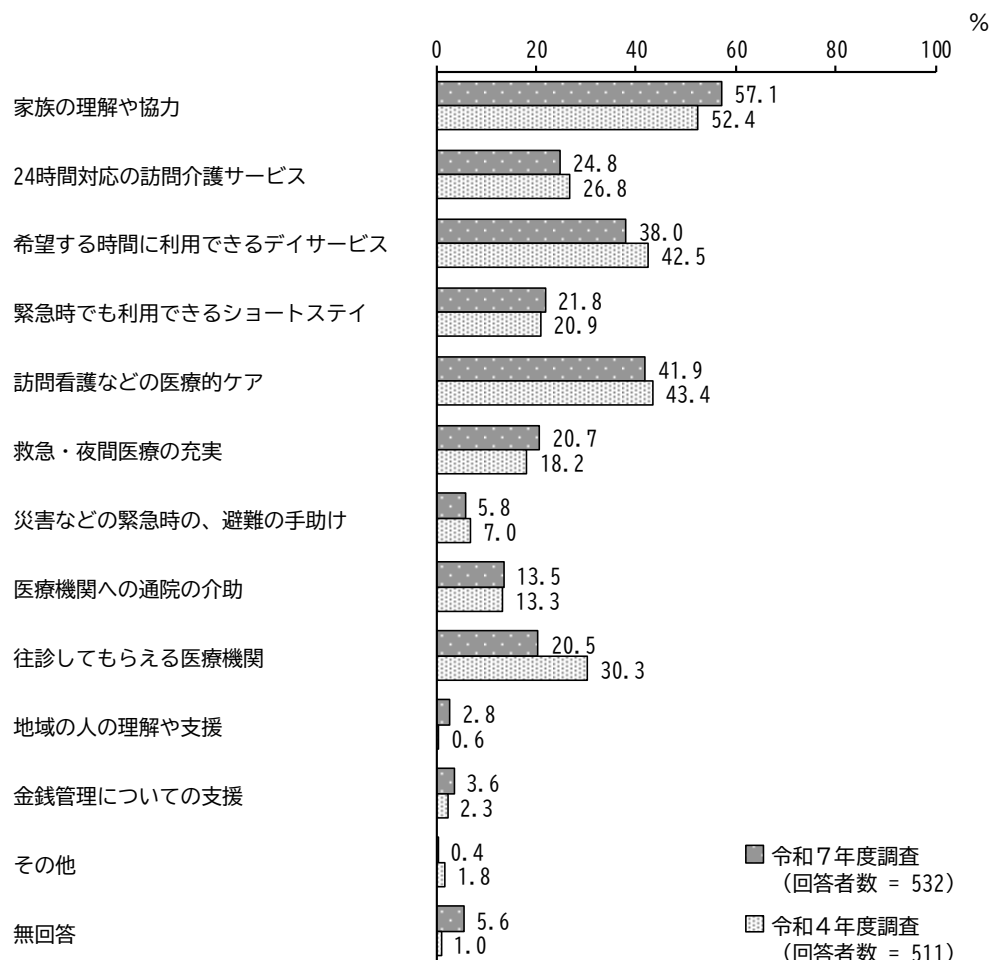


【(1)で「自宅で主に介護サービス等を利用したい」「自宅で主に家族や親族に介護をしてもらいたい」と回答した方のみ】

① 自宅で生活続けるために、どのような支援やサービスが必要だと思いますか（〇は3つまで）

「家族の理解や協力」の割合が57.1%と最も高く、次いで「訪問看護などの医療的ケア」の割合が41.9%、「希望する時間に利用できるデイサービス」の割合が38.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「往診してもらえる医療機関」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「家族の理解や協力」が「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」、「地域の人の理解や支援」が「地域の人からの支援」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「救急・夜間医療の充実」「金銭管理についての支援」の割合が高い傾向にあり、「家族の理解や協力」「24 時間対応の訪問介護サービス」の割合が低く、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「希望する時間に利用できるデイサービス」の割合が高くなっています。また、80～84 歳で「往診してもらえる医療機関」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の理解や協力	24時間対応の訪問介護サービス	希望する時間に利用できるデイサービス	緊急時でも利用できるショートステイ	訪問看護などの医療的ケア	救急・夜間医療の充実	災害などの緊急時の、避難の手助け	医療機関への通院の介助	往診してもらえる医療機関	地域の人の理解や支援	金銭管理についての支援	その他	無回答
全 体	532	57.1	24.8	38.0	21.8	41.9	20.7	5.8	13.5	20.5	2.8	3.6	0.4	5.6
65～69歳	113	57.5	25.7	48.7	31.0	41.6	21.2	7.1	13.3	15.9	3.5	3.5	0.9	0.9
70～74歳	144	60.4	30.6	40.3	24.3	47.9	18.1	2.8	12.5	18.8	3.5	2.1	0.0	5.6
75～79歳	156	57.1	22.4	33.3	16.7	42.9	19.9	6.4	11.5	19.9	2.6	3.8	0.0	6.4
80～84歳	71	53.5	21.1	31.0	12.7	43.7	21.1	8.5	21.1	36.6	2.8	2.8	0.0	5.6
85～89歳	30	53.3	20.0	30.0	20.0	16.7	23.3	6.7	13.3	13.3	0.0	6.7	0.0	16.7
90歳以上	6	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3

【家族構成別】

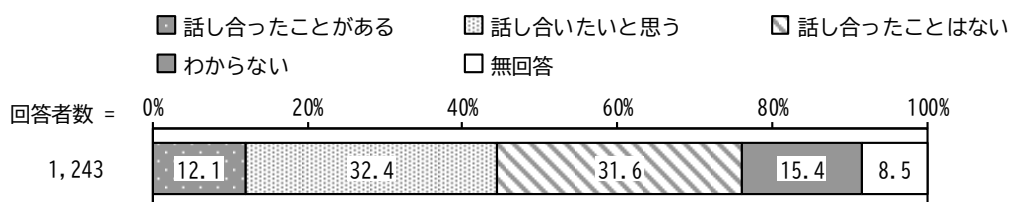
家族構成別にみると、息子・娘との2世代で「家族の理解や協力」、夫婦2人暮らし（配偶者 64 歳以下）で「緊急時でも利用できるショートステイ」「訪問看護などの医療的ケア」、1人暮らしで「災害などの緊急時の、避難の手助け」「医療機関への通院の介助」「往診してもらえる医療機関」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の理解や協力	24時間対応の訪問介護サービス	希望する時間に利用できるデイサービス	緊急時でも利用できるショートステイ	訪問看護などの医療的ケア	救急・夜間医療の充実	災害などの緊急時の、避難の手助け	医療機関への通院の介助	往診してもらえる医療機関	地域の人の理解や支援	金銭管理についての支援	その他	無回答
全 体	532	57.1	24.8	38.0	21.8	41.9	20.7	5.8	13.5	20.5	2.8	3.6	0.4	5.6
1人暮らし	48	27.1	29.2	35.4	12.5	50.0	12.5	20.8	18.8	27.1	6.3	4.2	0.0	6.3
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	233	56.7	25.8	42.1	23.2	44.2	20.6	5.6	14.6	19.7	2.6	1.7	0.4	4.7
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	28	57.1	17.9	39.3	28.6	53.6	17.9	10.7	3.6	21.4	0.0	3.6	0.0	3.6
息子・娘との2世代	140	70.7	25.0	35.7	21.4	40.0	22.9	2.9	15.0	17.1	1.4	4.3	0.0	5.0
その他	66	51.5	24.2	34.8	24.2	34.8	24.2	0.0	9.1	21.2	4.5	7.6	0.0	7.6

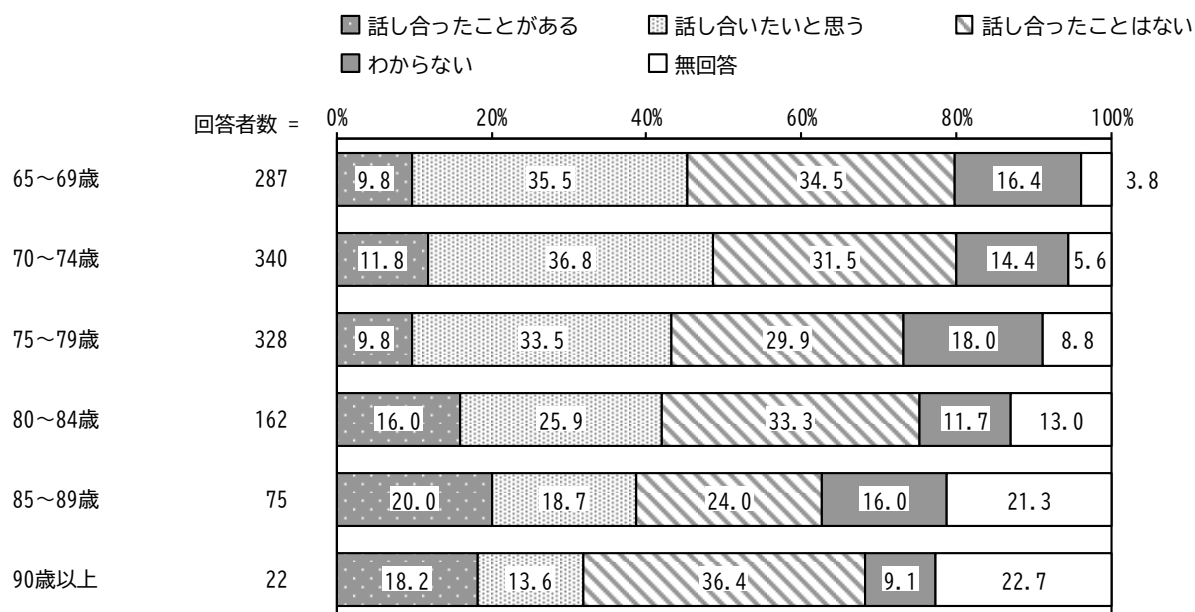
(2) あなたは「人生会議」で、人生の最終段階の医療やケアについて、あらかじめ家族や医療・介護関係者と話し合いたいと思いますか。(〇は1つ)

「話し合ったことがある」の割合が12.1%、「話し合いたいと思う」の割合が32.4%、「話し合ったことはない」の割合が31.6%となっています。



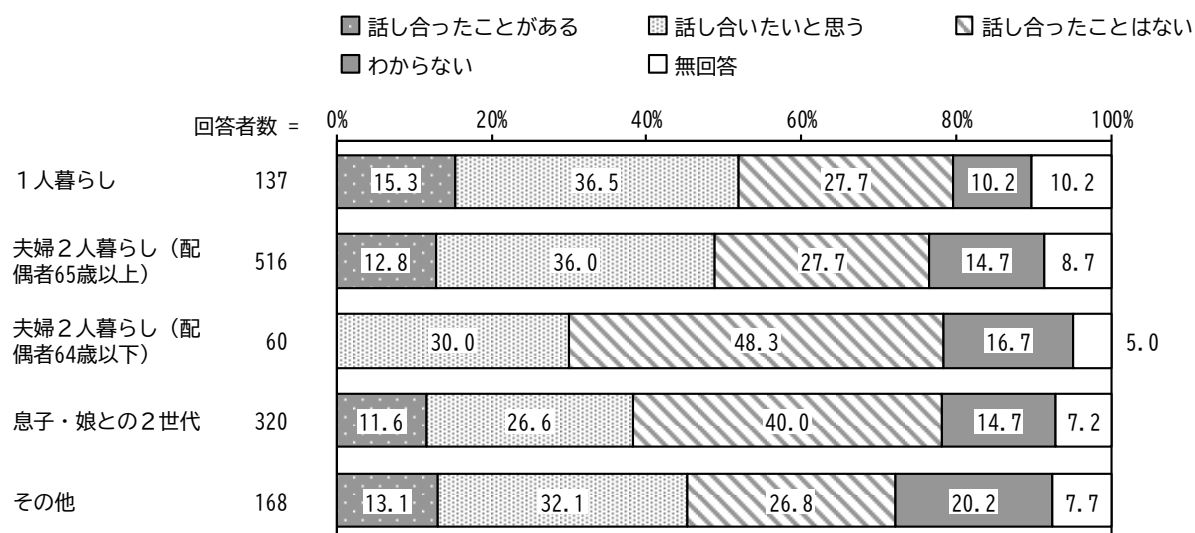
【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「話し合いたいと思う」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

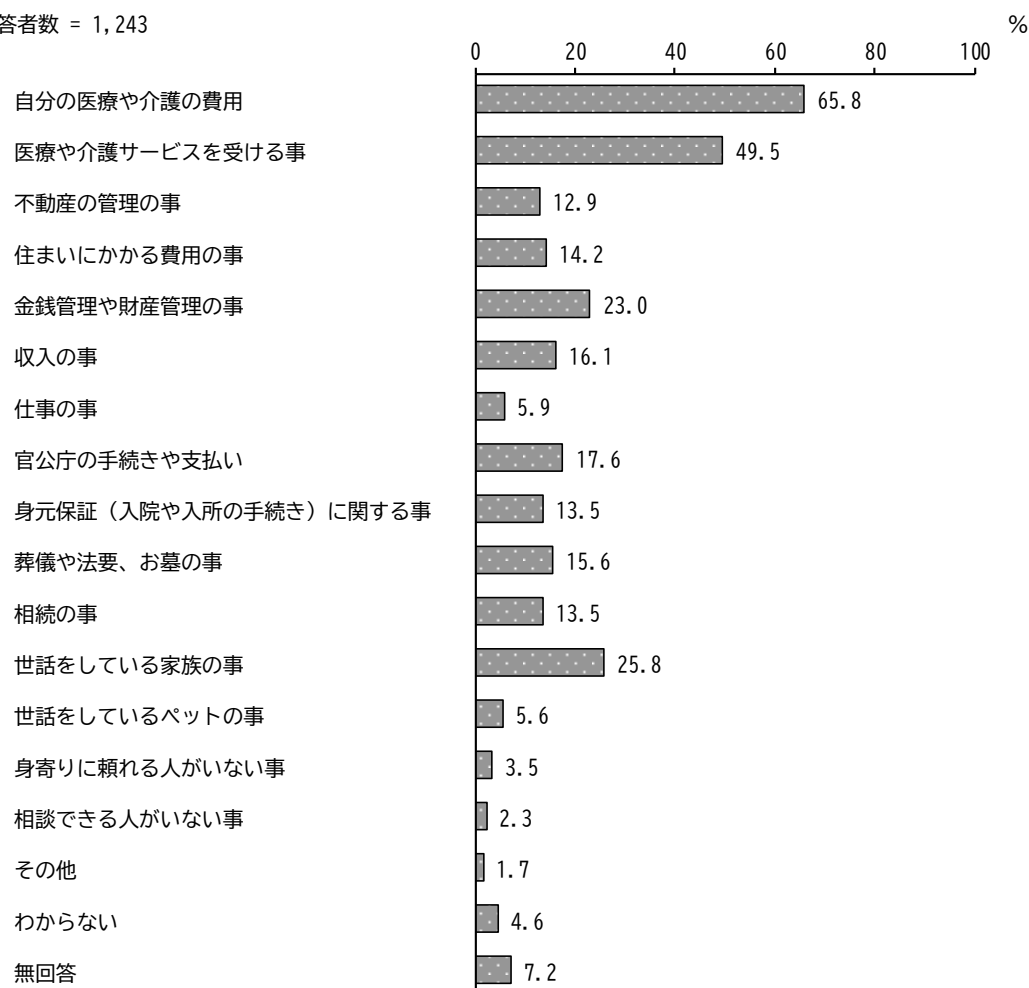
家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で「話し合ったことはない」の割合が高くなっています。



(3) もしあなたが病気や加齢により判断能力が低下した時、安心した生活を送るうえで、気になっていることや心配なことがあれば、教えてください。(〇はいくつでも)

「自分の医療や介護の費用」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「医療や介護サービスを受ける事」の割合が 49.5%、「世話をしている家族の事」の割合が 25.8%となっています。

回答者数 = 1,243



【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「自分の医療や介護の費用」の割合が高く、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「金銭管理や財産管理の事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにかか る費用	金銭管理や財 産管理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の手 続きや支払い	身元保証（入 院や入所の手 続き）に関 する事
全 体	1,243	65.8	49.5	12.9	14.2	23.0	16.1	5.9	17.6	13.5
65～69歳	287	67.9	49.5	15.0	16.4	30.7	19.9	9.4	19.5	12.5
70～74歳	340	70.3	50.3	15.6	16.2	26.8	15.6	7.4	16.2	13.5
75～79歳	328	65.5	52.1	11.3	13.4	20.4	14.3	4.0	17.1	14.9
80～84歳	162	64.8	52.5	9.3	11.7	15.4	14.8	1.2	18.5	12.3
85～89歳	75	56.0	44.0	6.7	12.0	9.3	16.0	2.7	18.7	13.3
90歳以上	22	31.8	22.7	13.6	9.1	13.6	9.1	9.1	18.2	13.6

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているペ ットの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	15.6	13.5	25.8	5.6	3.5	2.3	1.7	4.6	7.2
65～69歳	17.8	16.0	25.4	8.4	2.4	1.7	1.0	5.6	2.4
70～74歳	15.9	12.6	26.5	5.6	4.4	3.5	0.9	5.0	5.6
75～79歳	14.3	15.9	26.5	4.0	3.4	2.4	1.5	3.4	6.7
80～84歳	13.6	13.0	27.2	4.3	1.9	1.2	2.5	2.5	10.5
85～89歳	16.0	4.0	25.3	5.3	2.7	0.0	2.7	5.3	18.7
90歳以上	13.6	9.1	13.6	9.1	13.6	4.5	9.1	22.7	18.2

【調査結果のまとめ】

- 介護が必要になった場合、「自宅で主に介護サービス等を利用したい」が34.8%で最多です。
- 自宅継続のために必要な支援は「家族の理解や協力」が57.1%と高い一方、「訪問看護などの医療的ケア」も41.9%と高くなっています。
- 安心した生活を送るうえで、気になっていることや心配なことについて、自身の医療・介護の費用についてが65.8%と最も高くなっています。
- 在宅での生活を維持するため、医療・介護の連携強化に加え、将来の経済的備えに関する情報の提供や、家族を孤立させない支援体制の構築が課題です。

Ⅲ 生活機能評価等に関する分析

Ⅲ 生活機能評価等に関する分析

1 機能別リスク該当者割合の分析

(1) 運動器の機能低下

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

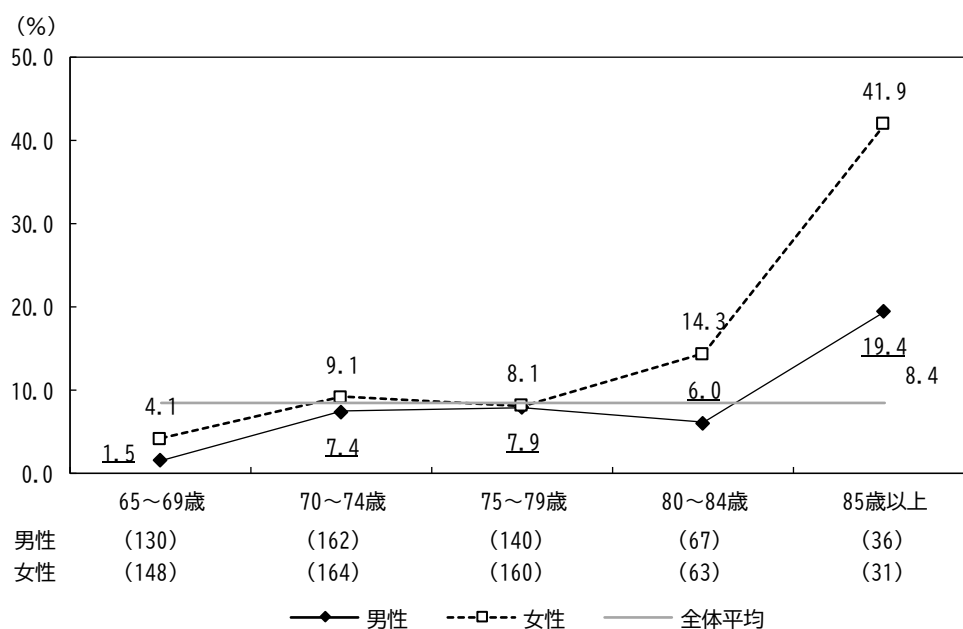
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(○は1つ)	3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(○は1つ)	3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか(○は1つ)	3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか(○は1つ)	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか(○は1つ)	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で8.4%が運動器の機能低下該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上で41.9%と80～84歳に比べ27.6ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上で19.4%と80～84歳に比べ13.4ポイント上昇しています。

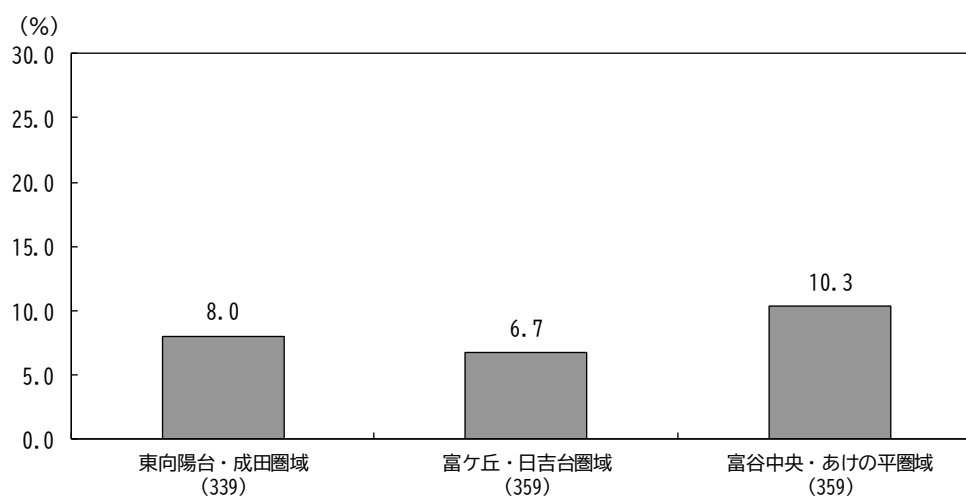
【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の8.4%を超えています。

また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で10.3%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で6.7%となっており、3.6ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

(2) 閉じこもり傾向

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

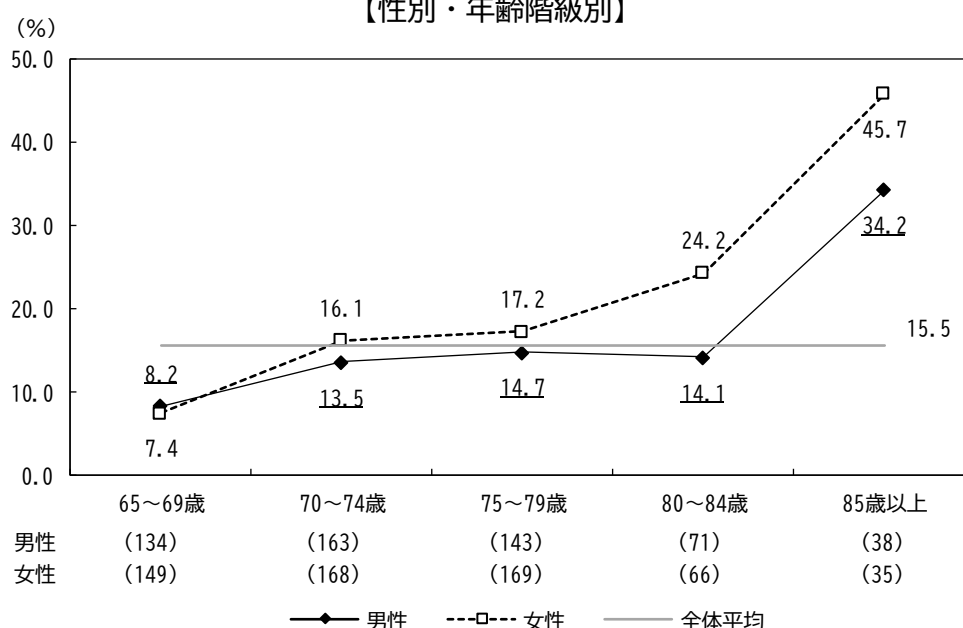
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか (○は1つ)	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で 15.5%が閉じこもりのリスク該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、女性では、65～69 歳以外の年代で男性に比べ該当者割合が高く、85 歳以上で 45.7%と 80～84 歳に比べ 21.5 ポイント上昇しています。一方、男性では、85 歳以上で 34.2%と 80～84 歳に比べ 20.1 ポイント上昇しています。

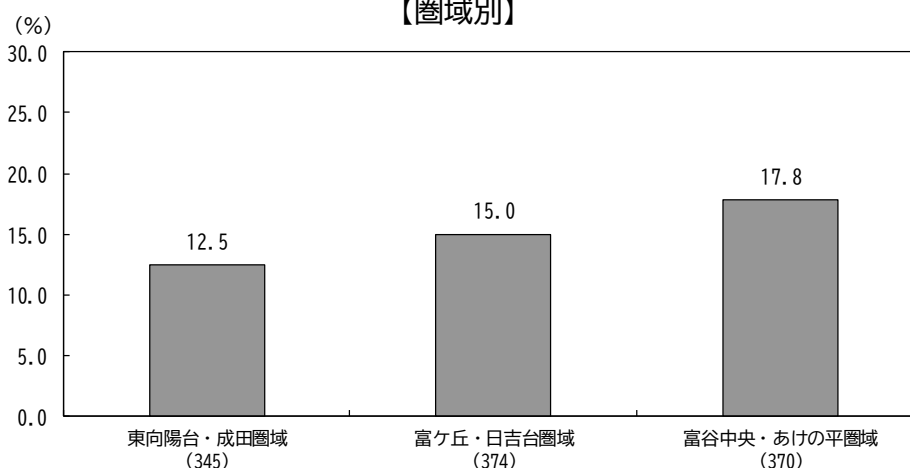
【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の 15.5%を超えています。

また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で 17.8%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で 12.5%となっており、5.3 ポイントの差となっています。

【圏域別】



(3) 転倒リスク

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

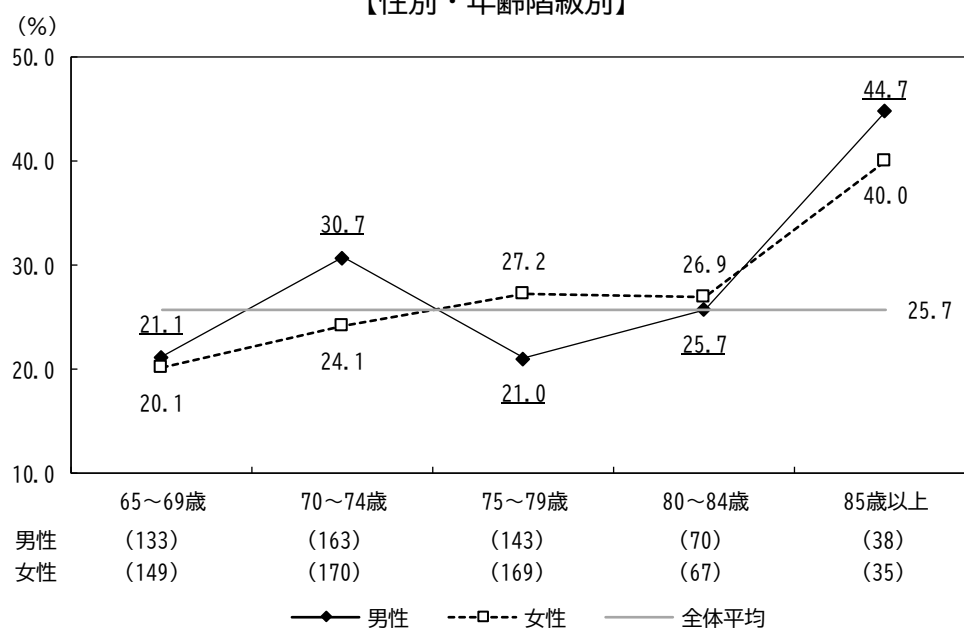
問番号	設問	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか(○は1つ)	1. 何度もある 2. 1度ある

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で25.7%が転倒リスクの該当者となっています。

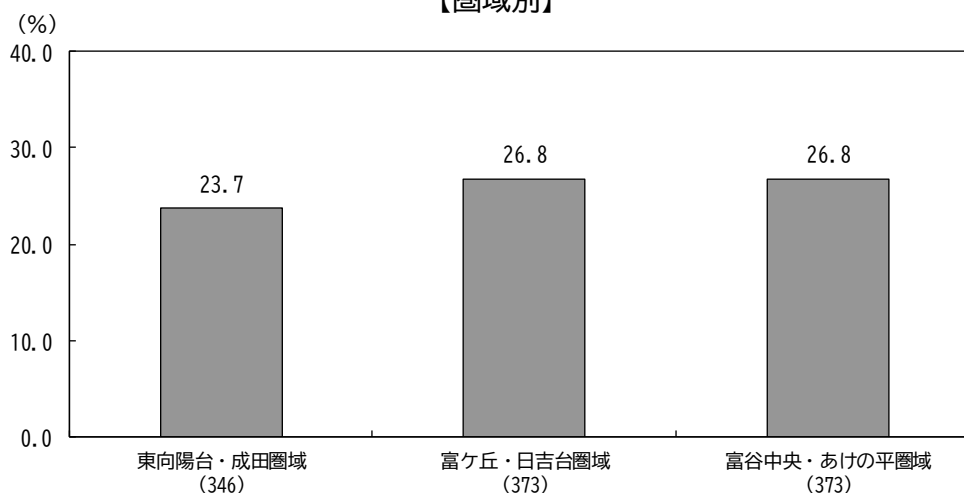
性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で40.0%と80～84歳に比べ13.1ポイント上昇しています。一方、男性では、65～69歳、70～74歳、85歳以上で女性に比べ該当者割合が高く、85歳以上で44.7%と80～84歳に比べ19.0ポイント上昇しています。

【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の25.7%を超えています。また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域、富谷中央・あけの平圏域で26.8%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で23.7%となっており、3.1ポイントの差となっています。

【圏域別】



(4) 低栄養の傾向

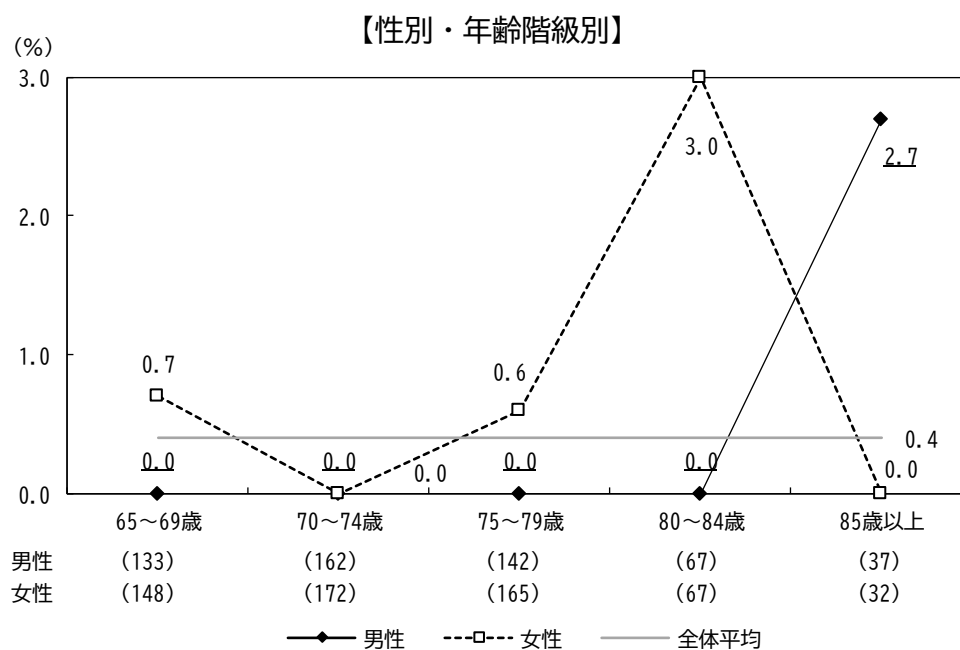
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3(1)	身長・体重(最近測定した数字を記入)	BMI 18.5未満
問3(7)	6か月間で2～3kgの体重減少がありましたか(○は1つ)	1. はい

【リスク該当状況】

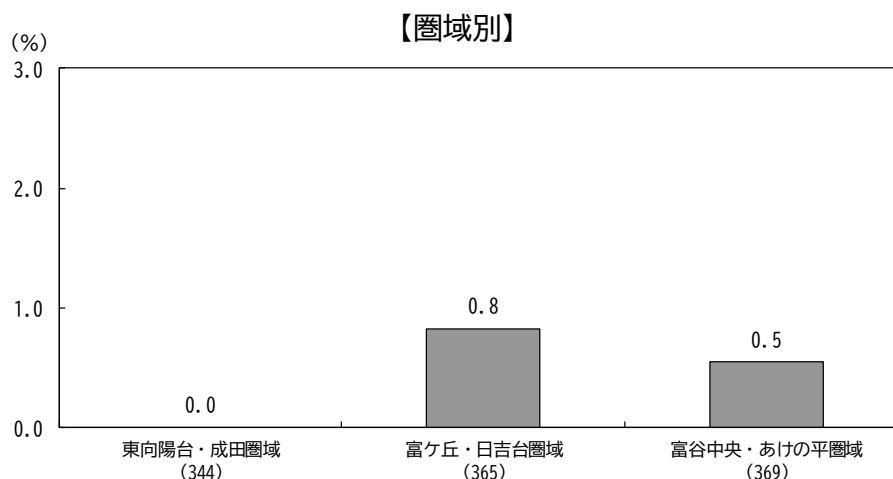
国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、全体平均で0.4%が低栄養リスクの該当者となっています。性別・年齢階級別にみると女性では、65～69歳、75～79歳、80～84歳で男性に比べ該当者割合が高く、80～84歳で3.0%と75～79歳に比べ2.4ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上で2.7%と80～84歳に比べ2.7ポイント上昇しています。



※要支援認定者を除く

() 内は有効回答数

圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の0.4%を超えています。また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で0.8%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で0.0%となっており、0.8ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(5) 口腔機能の低下

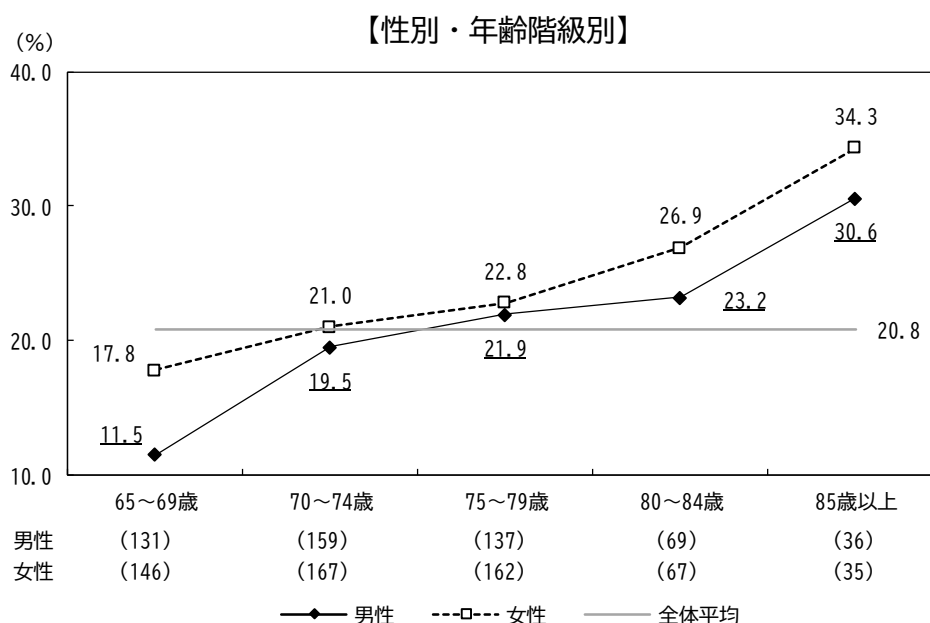
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか(○は1つ)	1. はい
問3(3)	お茶や汁物等でむせることはありますか(○は1つ)	1. はい
問3(4)	口の渇きが気になりますか(○は1つ)	1. はい

【リスク該当状況】

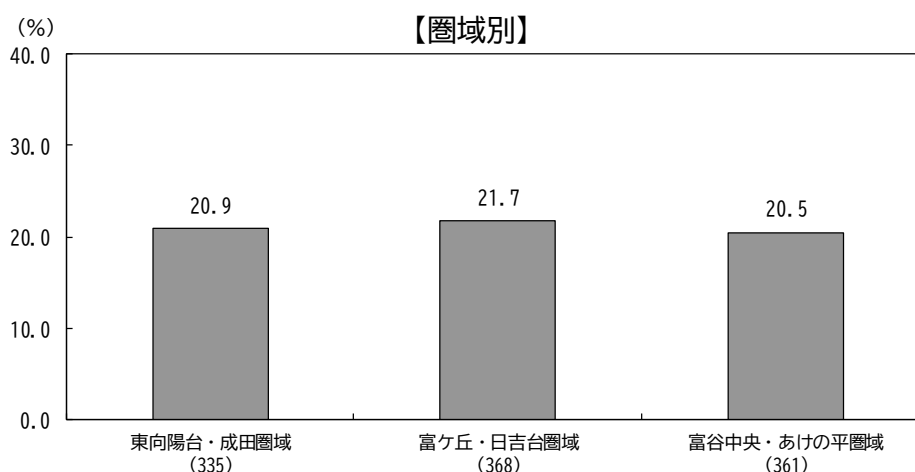
国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、全体平均で 20.8%が口腔機能低下のリスク該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上で 34.3%と 80～84歳に比べ 7.4 ポイント上昇しています。一方、男性では、70～74歳で 19.5%と 65～69歳に比べ 8.0 ポイント上昇しています。



※要支援認定者を除く

() 内は有効回答数

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域、富ヶ丘・日吉台圏域で該当者割合が全体平均の 20.8%を超えています。また、最も高い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で 21.7%、最も低い圏域は富谷中央・あけの平圏域で 20.5%となっており、1.2 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(6) 認知機能

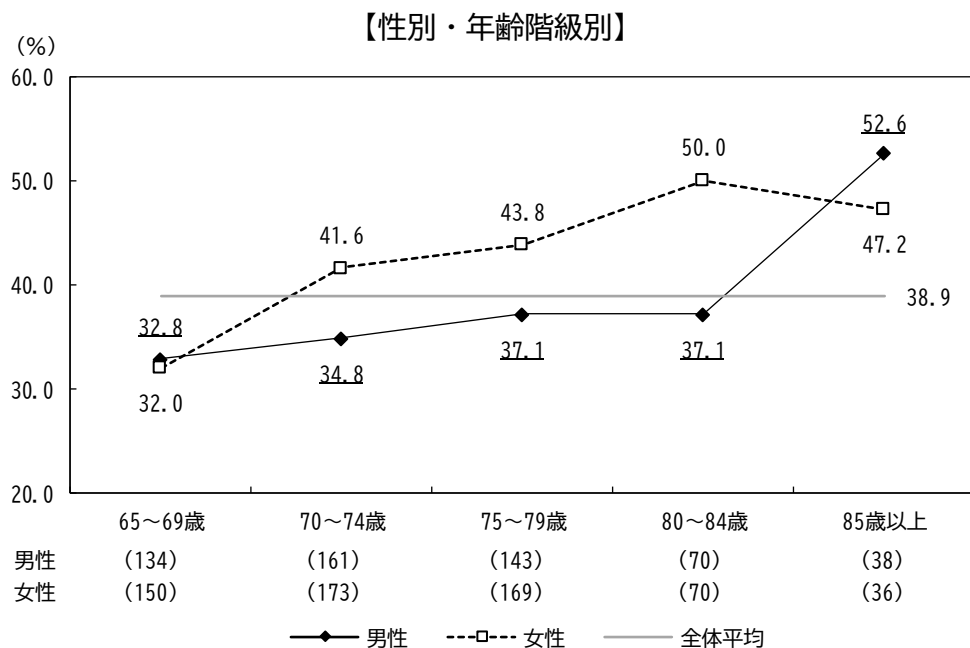
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか (○は1つ)	1. はい

【リスク該当状況】

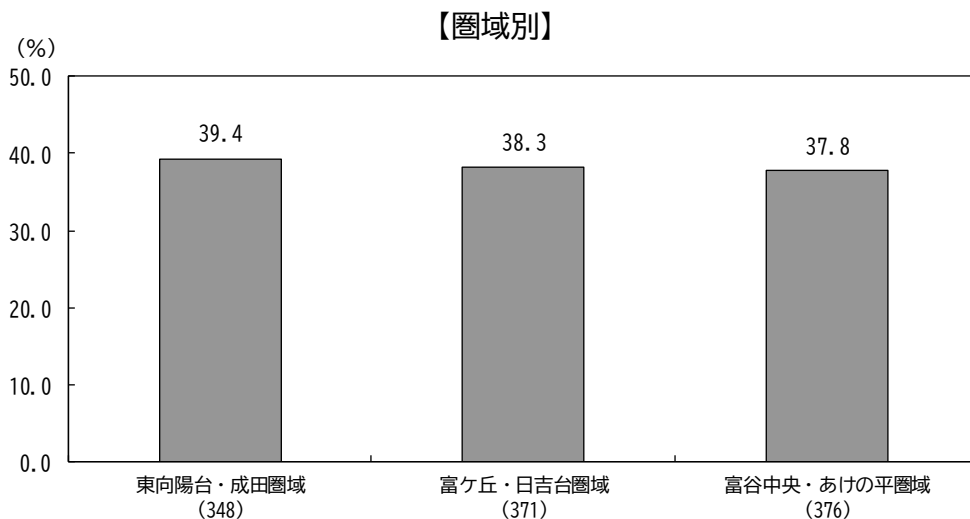
国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、全体平均で 38.9%が該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、女性では、70～74 歳、75～79 歳、80～84 歳で男性に比べ該当者割合が高く、70～74 歳で 41.6%と 65～69 歳に比べ 9.6 ポイント上昇しています。一方、男性では、85 歳以上で 52.6%と 80～84 歳に比べ 15.5 ポイント上昇しています。



※要支援認定者を除く

() 内は有効回答数

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で該当者割合が全体平均の 38.9%を超えています。また、最も高い圏域は東向陽台・成田圏域で 39.4%、最も低い圏域は富谷中央・あけの平圏域で 37.8%となっており、1.6 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(7) うつ傾向

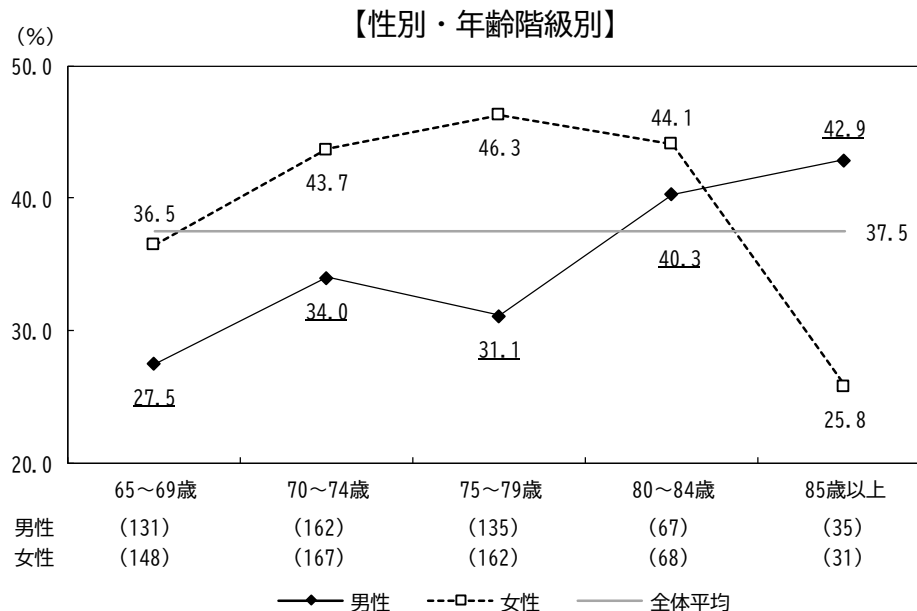
国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○は1つ)	1. はい
問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○は1つ)	1. はい

【リスク該当状況】

国の手引きに基づきうつの評価結果をみると、全体平均で 37.5%が該当者となっています。性別・年齢階級別にみると、女性では、85 歳以上以外の年代で男性に比べ該当者割合が高く、70～74 歳で 43.7%と 65～69 歳に比べ 7.2 ポイント上昇しています。一方、男性では、80～84 歳で 40.3%と 75～79 歳に比べ 9.2 ポイント上昇しています。

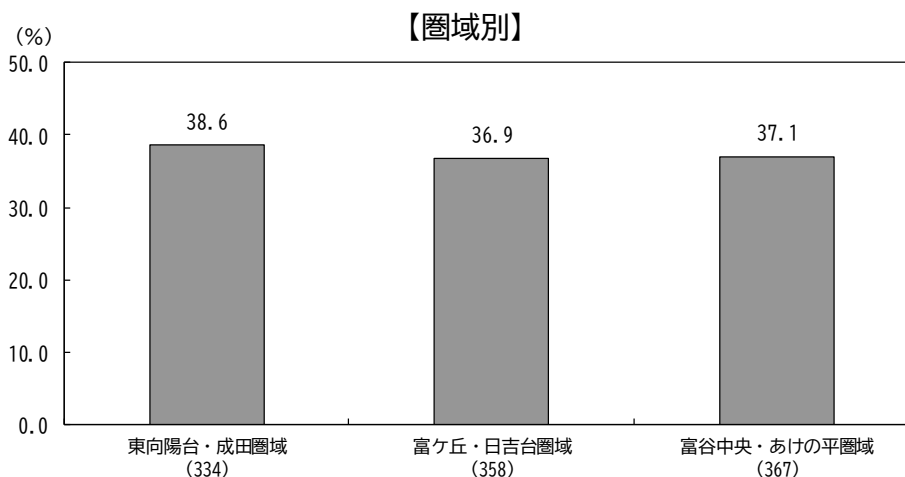


※要支援認定者を除く

() 内は有効回答数

圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で該当者割合が全体平均の 37.5%を超えています。

また、最も高い圏域は東向陽台・成田圏域で 38.6%、最も低い圏域は富ヶ丘・日吉台圏域で 36.9%となっており、1.7 ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

(8) IADL (手段的自立度)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度（IADL）に関する設問が5問あり、「手段的自立度（IADL）」として尺度化されています。評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

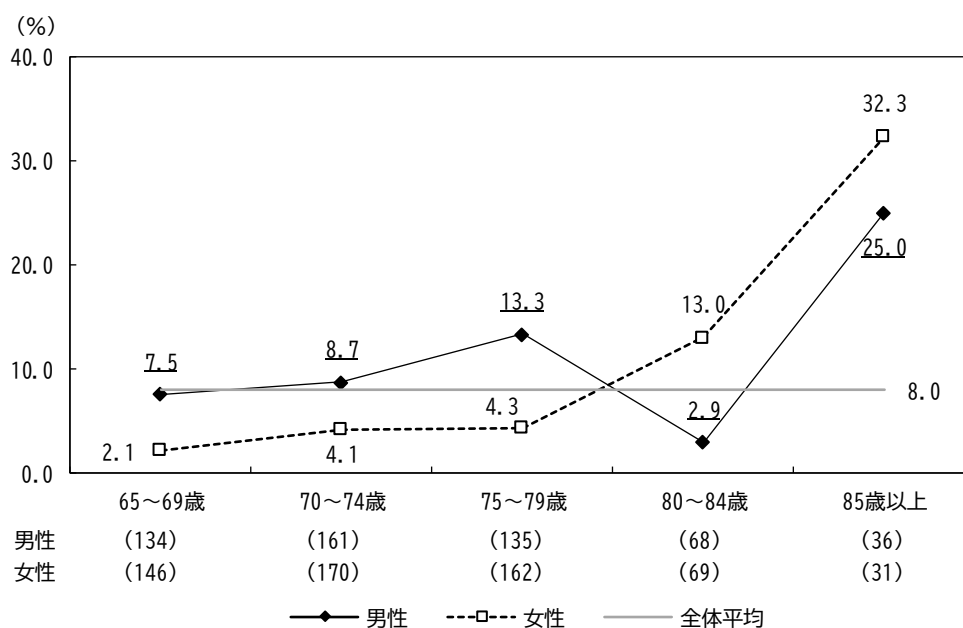
問番号	設問	該当する選択肢
問4 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○は1つ）	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか（○は1つ）	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (4)	自分で食事の用意をしていますか（○は1つ）	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか（○は1つ）	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問4 (6)	自分で預貯金のおし入れをしていますか（○は1つ）	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

【リスク該当状況】

全体平均では8.0%が手段的自立度の低下者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で32.3%と80～84歳に比べ19.3ポイント上昇しています。一方、男性では、65～69歳、70～74歳、75～79歳で女性に比べ該当者割合が高く、85歳以上で25.0%と80～84歳に比べ22.1ポイント上昇しています。

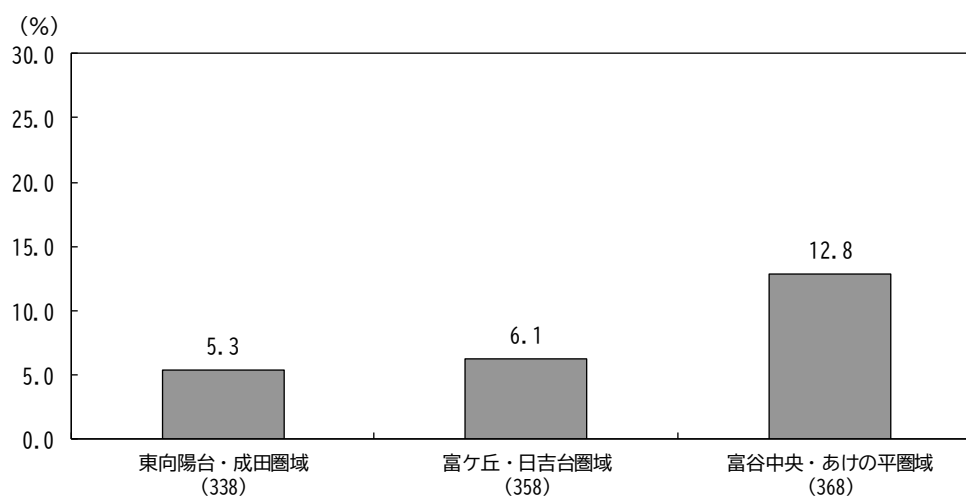
【性別・年齢階級別】



圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で該当者割合が全体平均の8.0%を超えています。

また、最も高い圏域は富谷中央・あけの平圏域で12.8%、最も低い圏域は東向陽台・成田圏域で5.3%となっており、7.5ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

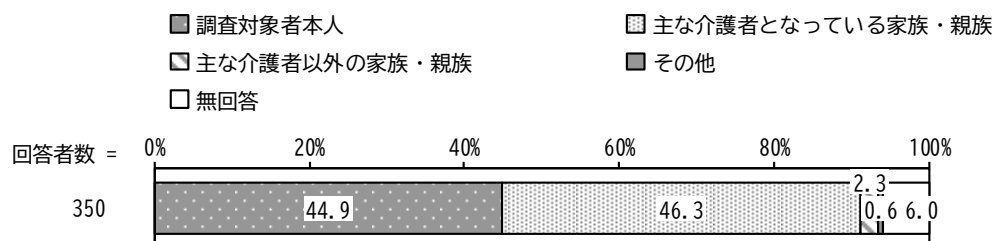
IV 在宅介護実態調査結果

IV 在宅介護実態調査結果

A票 調査対象者様ご本人について

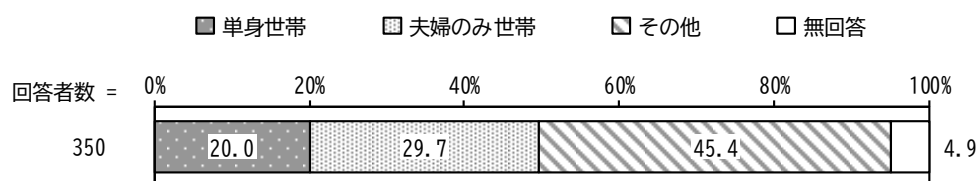
問1 現在、この調査票に回答されているのはどなたですか。

「調査対象者本人」の割合が 44.9%、「主な介護者となっている家族・親族」の割合が 46.3%、「主な介護者以外の家族・親族」の割合が 2.3%となっています。



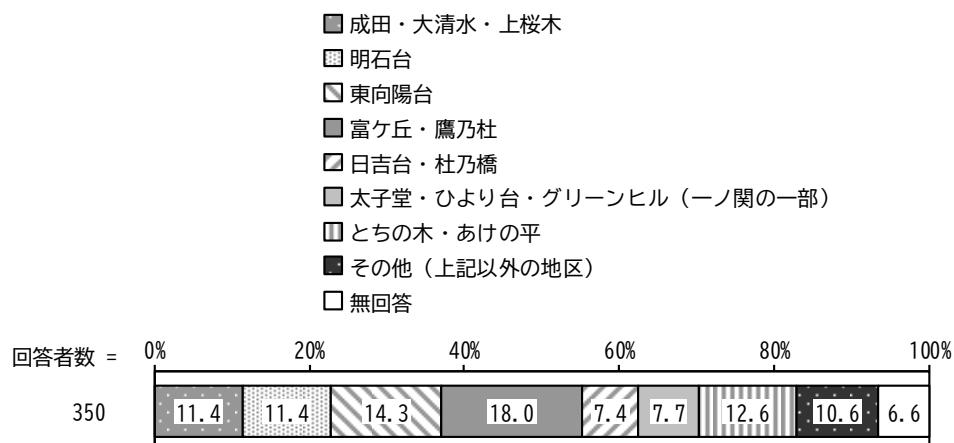
問2 世帯類型について、ご回答ください。(○は1つ)

「単身世帯」の割合が 20.0%、「夫婦のみ世帯」の割合が 29.7%となっています。



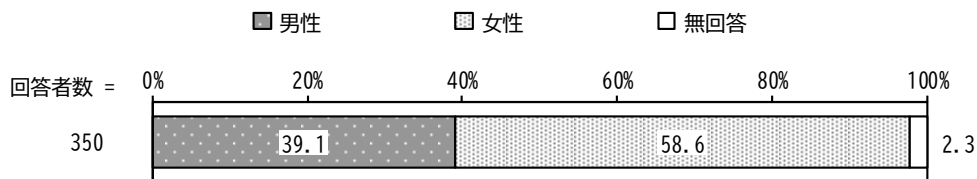
問3 ご本人のお住まいの地区は、どちらですか。(○は1つ)

「富ヶ丘・鷹乃杜」の割合が 18.0%と最も高く、次いで「東向陽台」の割合が 14.3%、「とちの木・あけの平」の割合が 12.6%となっています。



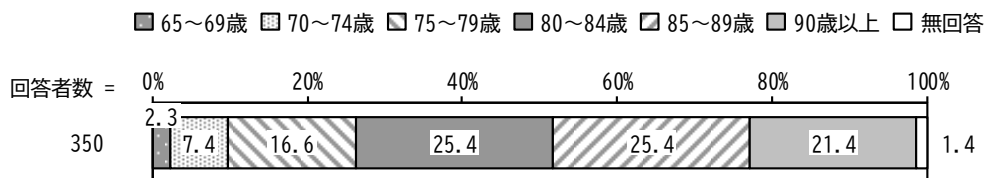
問4 ご本人の性別について、ご回答ください。(○は1つ)

「男性」の割合が 39.1%、「女性」の割合が 58.6%となっています。



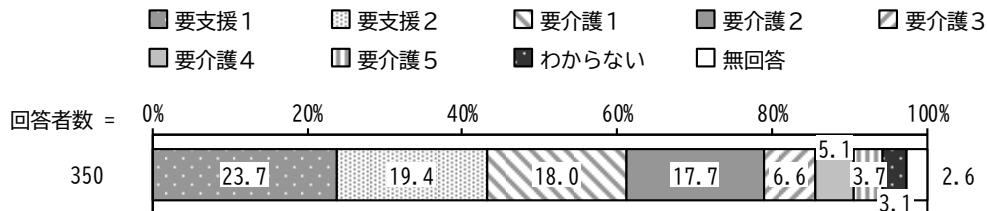
問5 ご本人の年齢について、ご回答ください。(○は1つ)

「80～84 歳」、「85～89 歳」の割合が 25.4%と最も高く、次いで「90 歳以上」の割合が 21.4%となっています。



問6 ご本人の要介護度について、ご回答ください。(○は1つ)

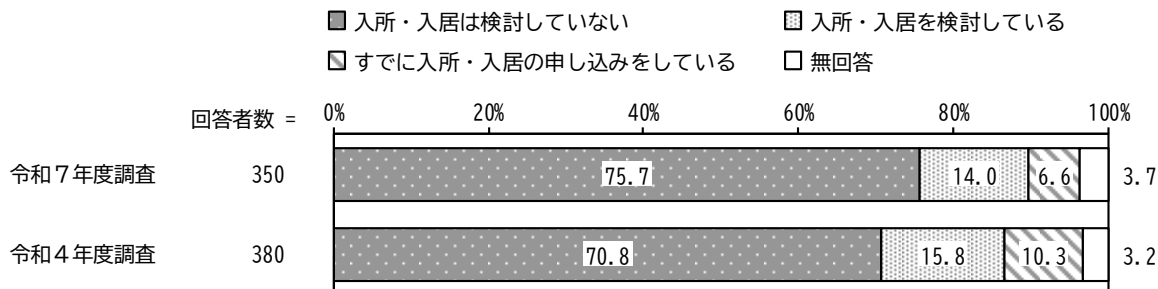
「要支援1」の割合が 23.7%と最も高く、次いで「要支援2」の割合が 19.4%、「要介護1」の割合が 18.0%となっています。



問7 現時点での施設等への入所・入居の検討状況についてご回答ください。(○は1つ)

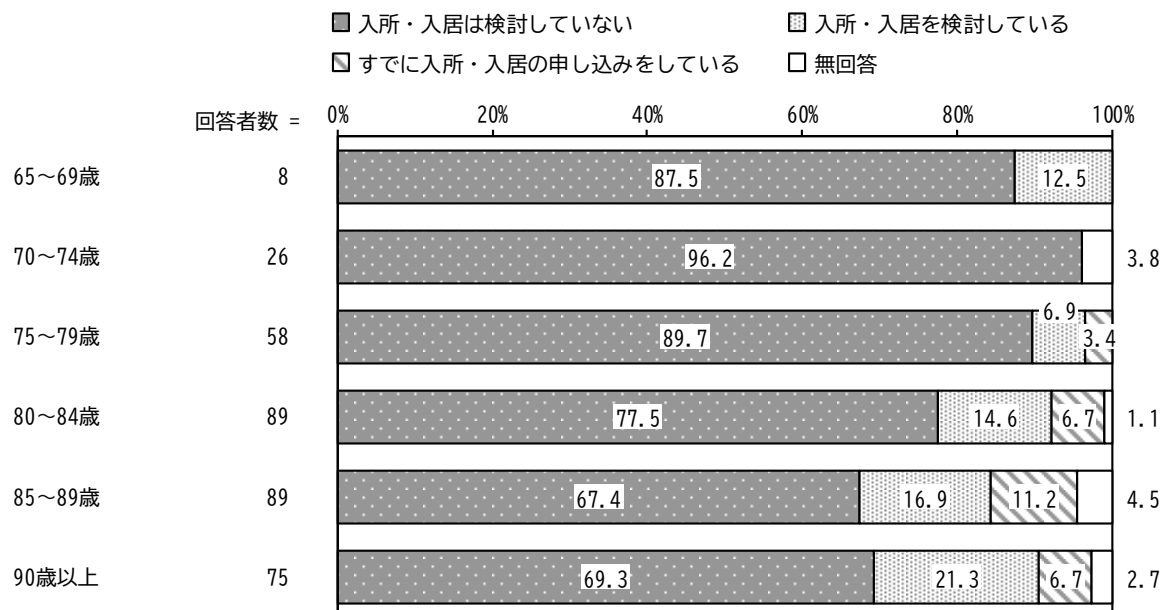
「入所・入居は検討していない」の割合が 75.7%、「入所・入居を検討している」の割合が 14.0%、「すでに入所・入居の申し込みをしている」の割合が 6.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



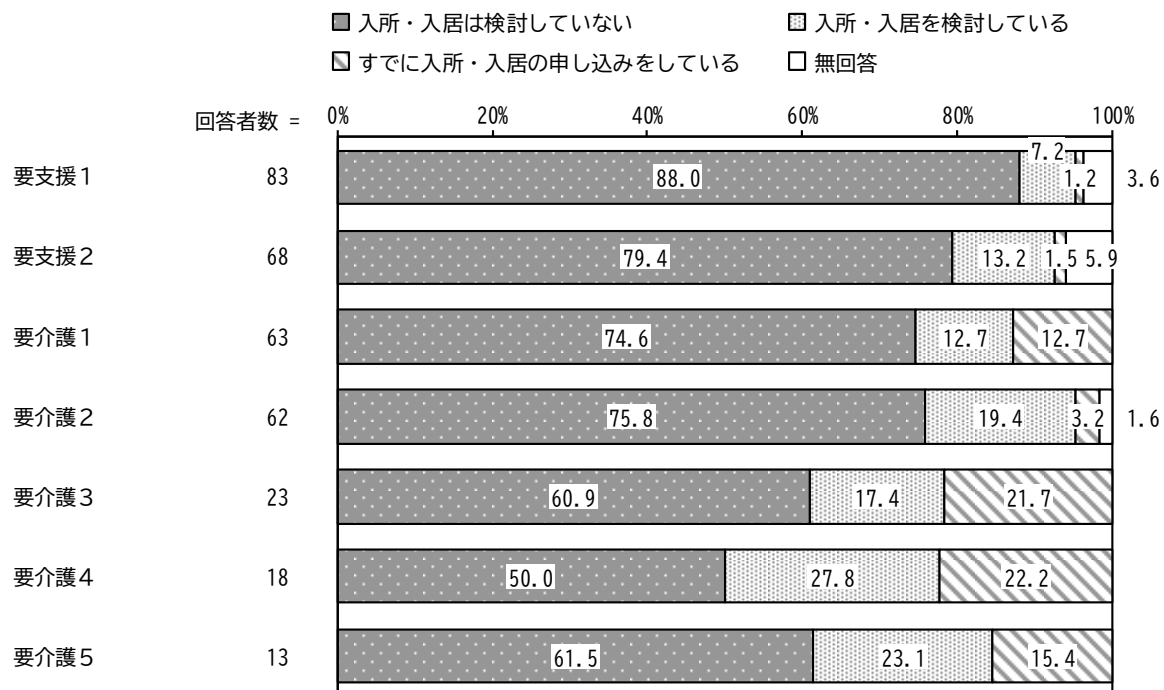
【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「入所・入居を検討している」の割合が高くなっています。また、70～74 歳で「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

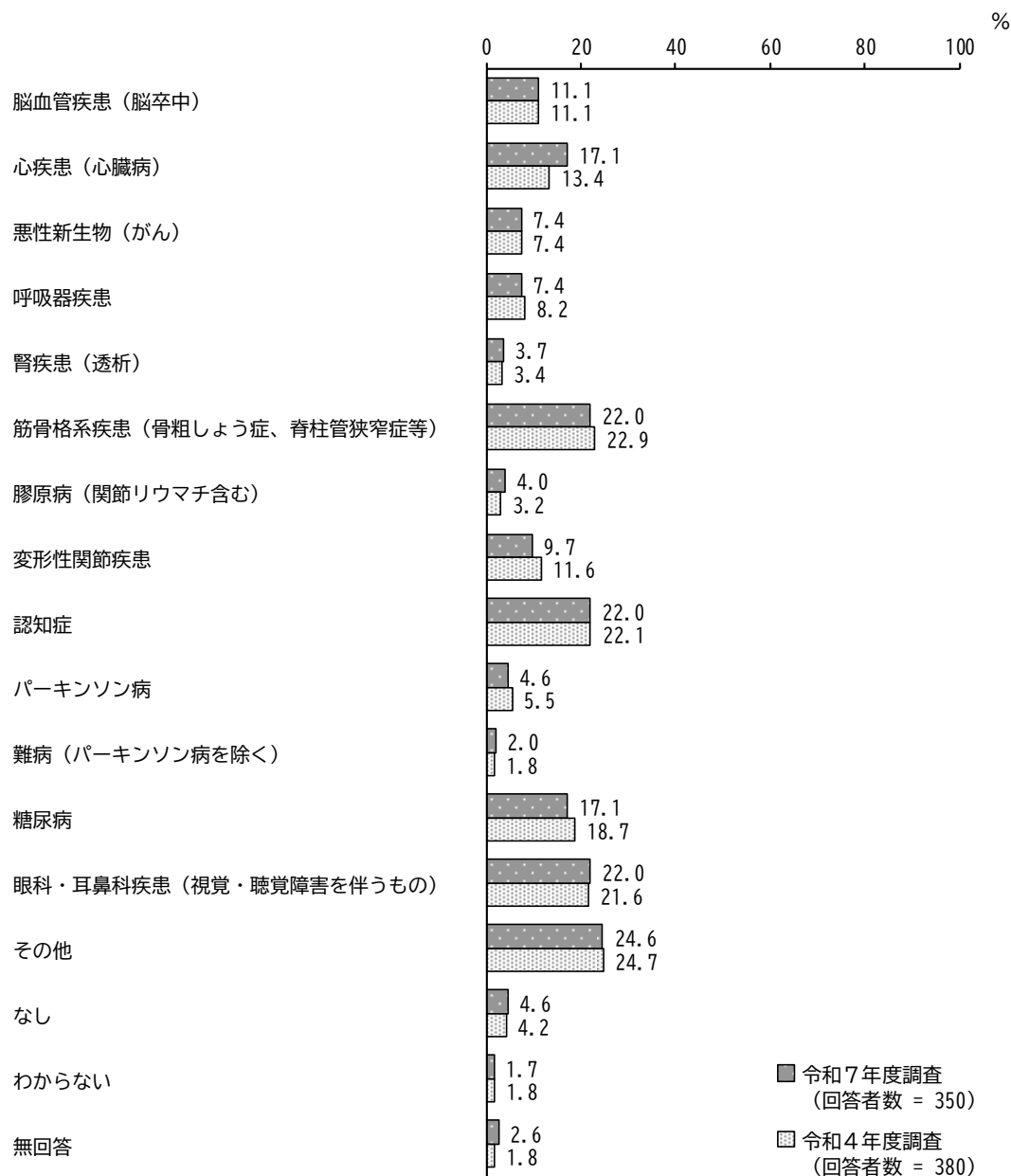
要介護度別にみると、要介護4から要支援1まで要介護度が下がるほど「入所・入居は検討していない」の割合が高い傾向にあります。



問8 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（〇はいくつでも）

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「認知症」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が22.0%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【その他意見】

- ・慢性腎臓病
- ・心不全
- ・慢性膀胱炎
- ・頸椎神経症
- ・前立腺ガン

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「パーキンソン病」の割合が高く、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「認知症」の割合が高い傾向にあります。また、85～89 歳で「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含む)	変形性関節疾患
全 体	350	11.1	17.1	7.4	7.4	3.7	22.0	4.0	9.7
65～69歳	8	37.5	0.0	25.0	0.0	12.5	37.5	12.5	0.0
70～74歳	26	7.7	15.4	15.4	11.5	15.4	23.1	3.8	7.7
75～79歳	58	13.8	13.8	3.4	12.1	5.2	31.0	5.2	6.9
80～84歳	89	10.1	13.5	9.0	4.5	1.1	13.5	1.1	10.1
85～89歳	89	14.6	19.1	4.5	9.0	3.4	21.3	6.7	9.0
90歳以上	75	5.3	25.3	8.0	5.3	1.3	25.3	2.7	14.7

区分	認知症	パーキンソン病	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	無回答
全 体	22.0	4.6	2.0	17.1	22.0	24.6	4.6	1.7	2.6
65～69歳	12.5	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	0.0	7.7	3.8	23.1	19.2	34.6	3.8	3.8	0.0
75～79歳	15.5	6.9	1.7	19.0	15.5	22.4	5.2	0.0	1.7
80～84歳	24.7	6.7	2.2	14.6	15.7	23.6	3.4	1.1	2.2
85～89歳	24.7	2.2	1.1	21.3	36.0	25.8	4.5	1.1	0.0
90歳以上	30.7	1.3	1.3	12.0	20.0	26.7	6.7	4.0	1.3

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護４で「脳血管疾患（脳卒中）」、要介護１で「心疾患（心臓病）」、要介護３で「呼吸器疾患」「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、要介護５で「腎疾患（透析）」、要支援２で「変形性関節疾患」「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」、要介護１、要介護４で「認知症」、要介護２で「糖尿病」の割合が高くなっています。

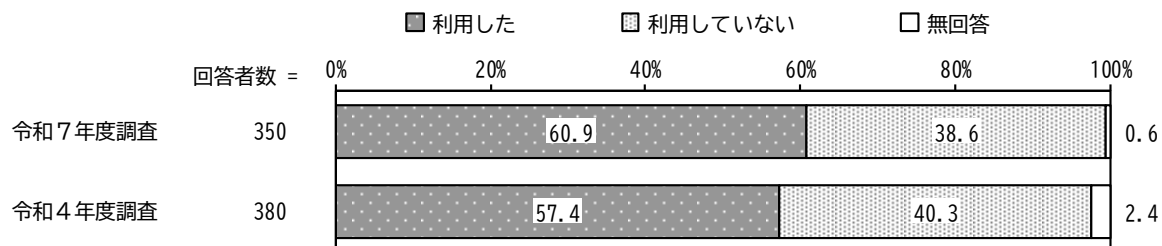
単位：％

区分	回答者数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含む)	変形性関節疾患
全 体	350	11.1	17.1	7.4	7.4	3.7	22.0	4.0	9.7
要支援１	83	7.2	12.0	4.8	9.6	1.2	24.1	3.6	8.4
要支援２	68	5.9	20.6	13.2	5.9	4.4	26.5	7.4	27.9
要介護１	63	9.5	30.2	7.9	7.9	1.6	20.6	1.6	4.8
要介護２	62	21.0	12.9	9.7	6.5	4.8	22.6	4.8	4.8
要介護３	23	17.4	17.4	0.0	17.4	4.3	34.8	4.3	4.3
要介護４	18	27.8	11.1	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6
要介護５	13	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0

区分	認知症	パーキンソン病	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	無回答
全 体	22.0	4.6	2.0	17.1	22.0	24.6	4.6	1.7	2.6
要支援１	7.2	2.4	1.2	15.7	31.3	24.1	6.0	2.4	2.4
要支援２	4.4	5.9	2.9	17.6	32.4	20.6	1.5	2.9	0.0
要介護１	44.4	4.8	0.0	11.1	11.1	22.2	4.8	0.0	0.0
要介護２	27.4	8.1	0.0	32.3	22.6	30.6	4.8	0.0	0.0
要介護３	34.8	4.3	4.3	0.0	4.3	26.1	4.3	0.0	0.0
要介護４	44.4	0.0	5.6	16.7	5.6	38.9	0.0	5.6	5.6
要介護５	30.8	7.7	7.7	15.4	15.4	30.8	15.4	7.7	0.0

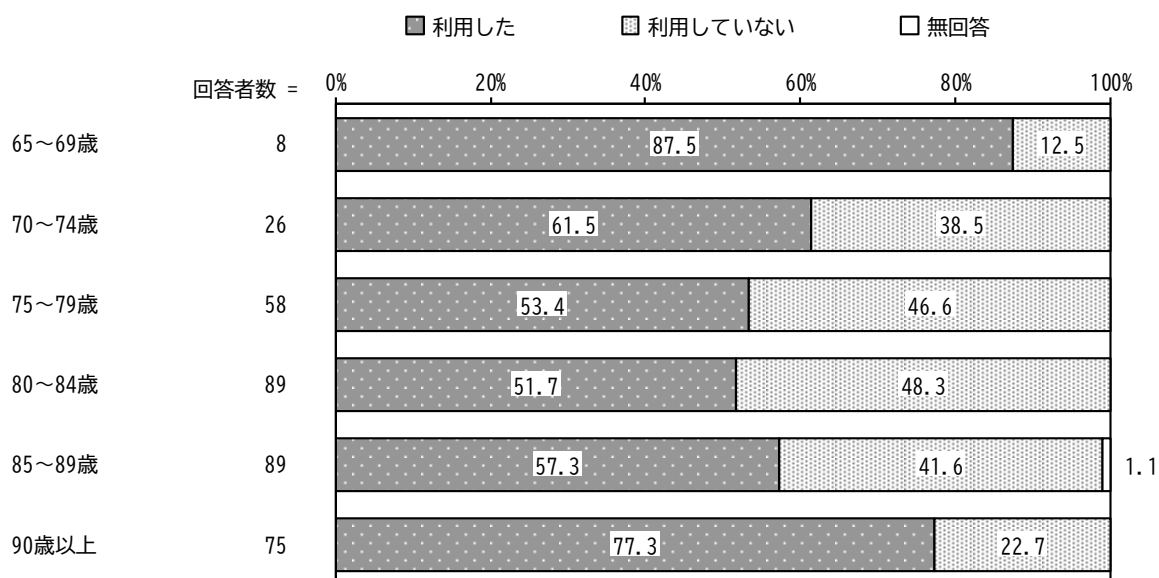
問9 令和7年12月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。(〇は1つ)

「利用した」の割合が60.9%、「利用していない」の割合が38.6%となっています。



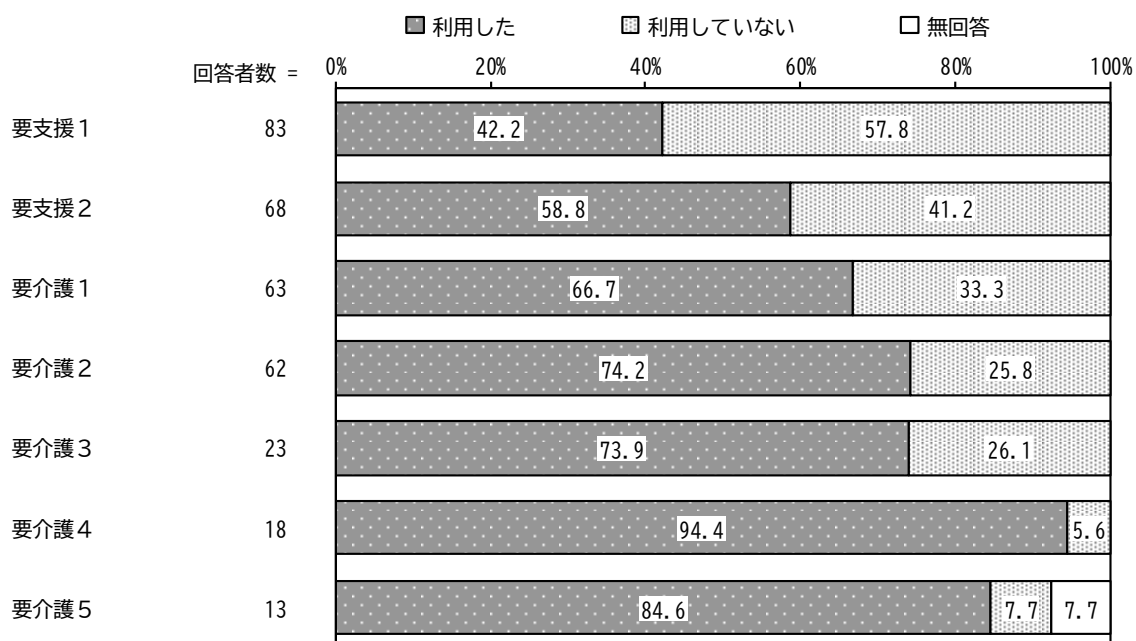
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「利用していない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

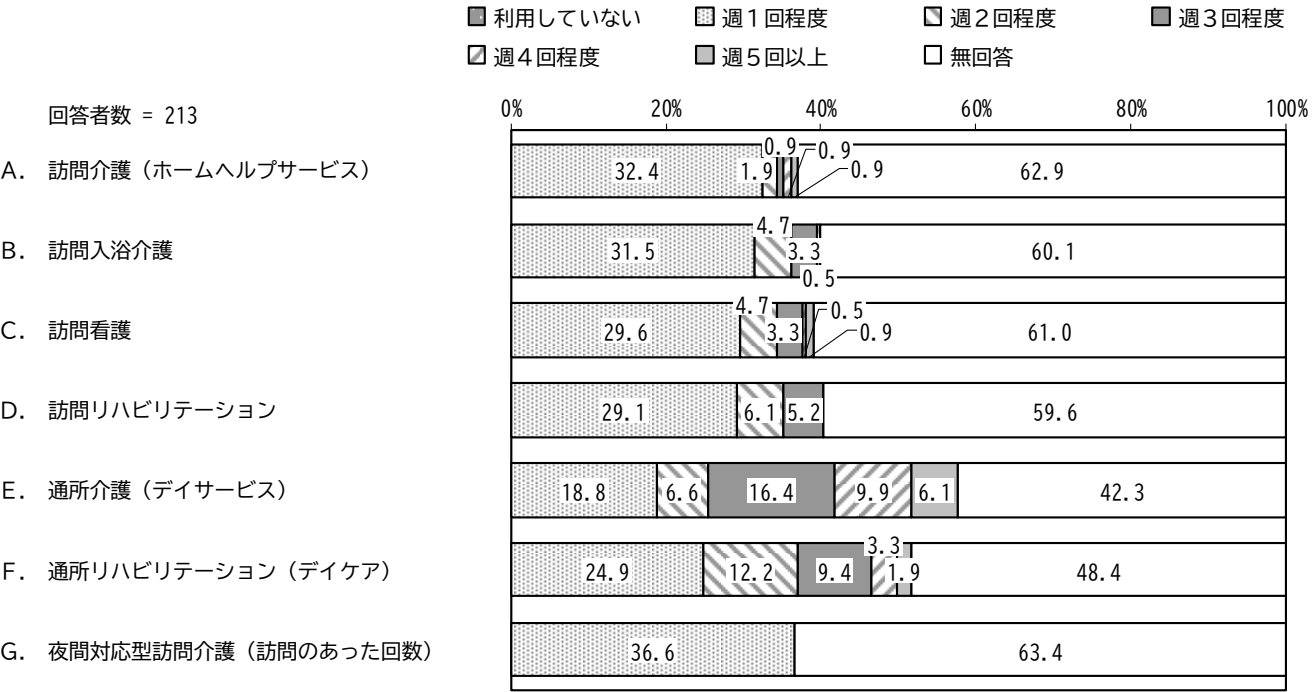
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「利用した」の割合が高い傾向にあります。



問10 問9で「利用した」と回答した方にお伺いします。
以下の介護保険サービスについて。令和7年12月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は「利用していない」を選択してください。（それぞれ〇は1つ）

1週間あたりの利用回数（それぞれ〇は1つ）

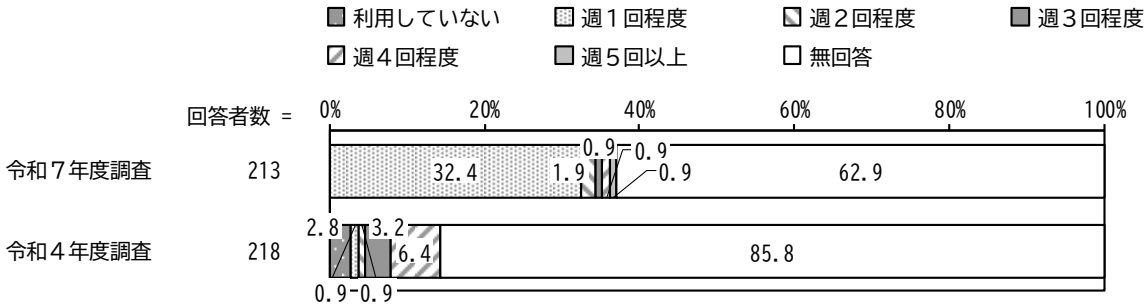
『G. 夜間対応型訪問介護（訪問のあった回数）』で「週1回程度」が、『F. 通所リハビリテーション（デイケア）』で「週2回程度」が、『E. 通所介護（デイサービス）』で「週3回程度」「週4回程度」「週5回以上」が高くなっています。



A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）

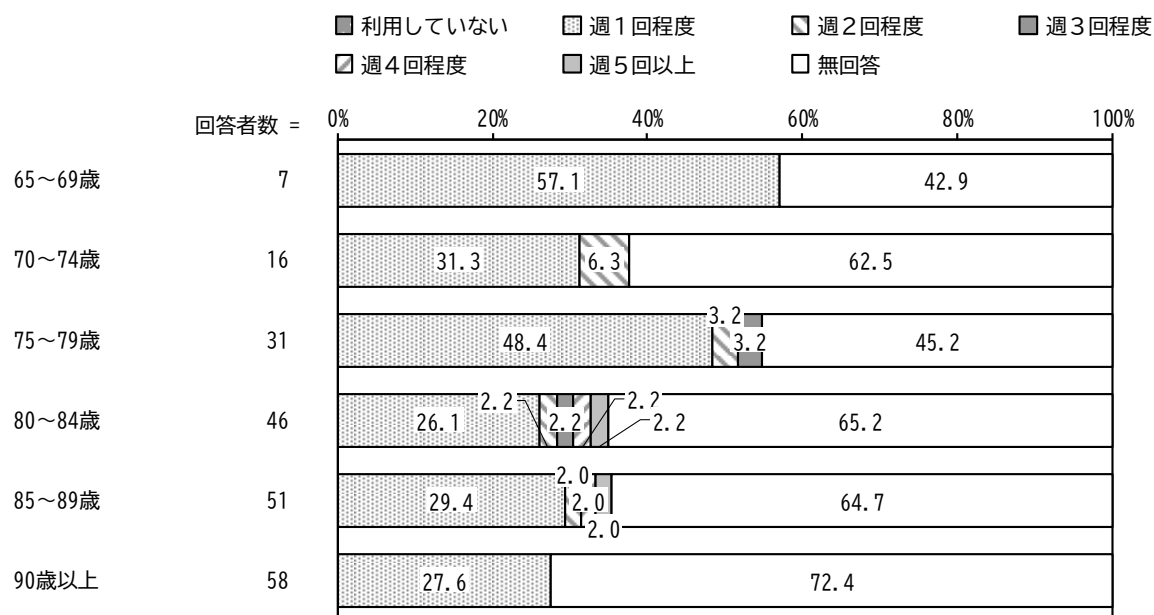
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」の割合が増加しています。一方、「週4回程度」の割合が減少しています。



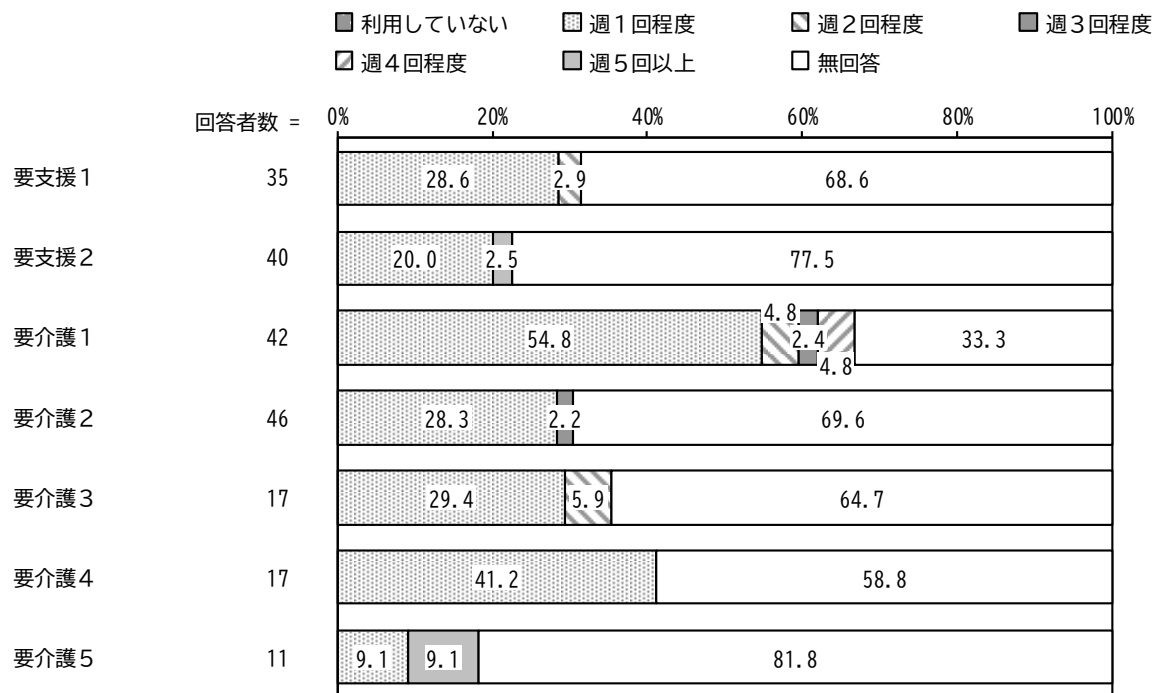
【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳で「週1回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

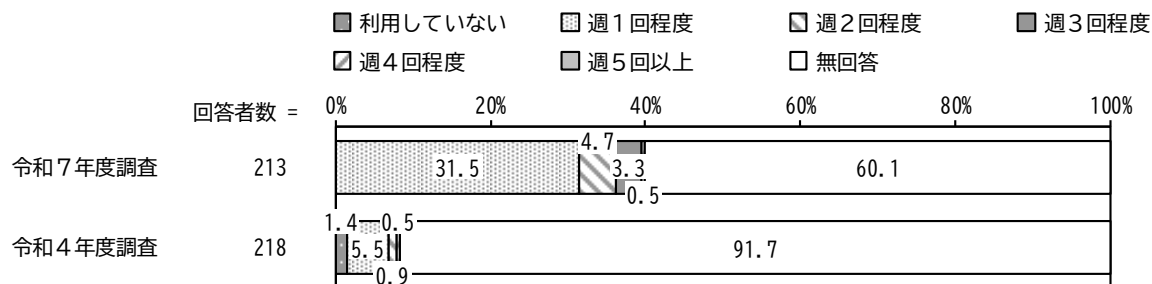
要介護度別にみると、要介護1で「週1回程度」、要介護5で「週5回以上」の割合が高くなっています。



B. 訪問入浴介護

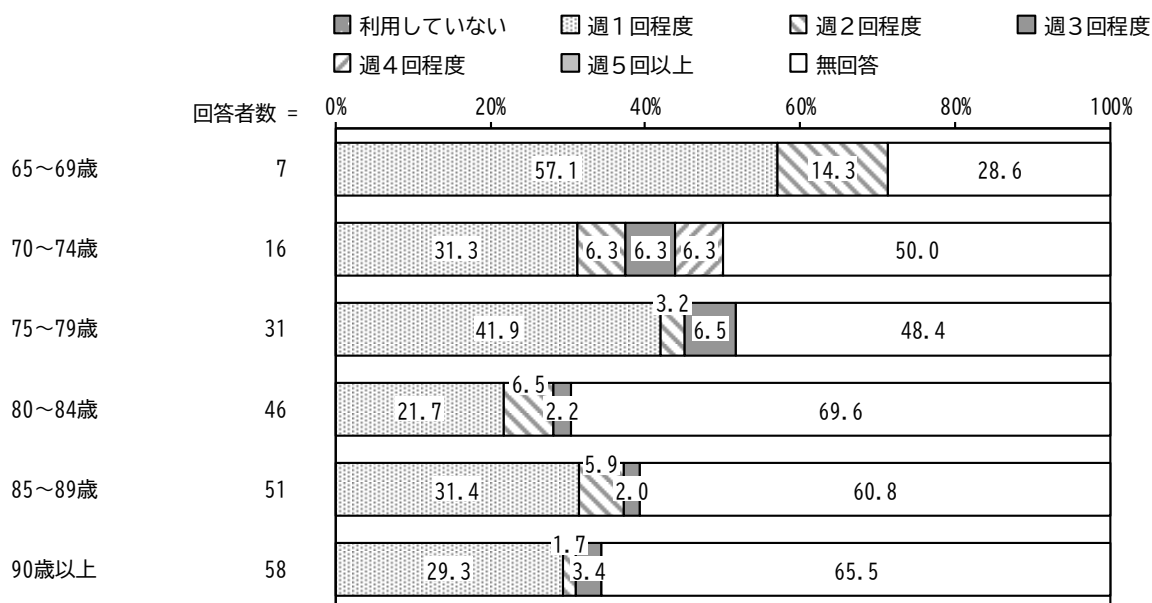
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」の割合が増加しています。



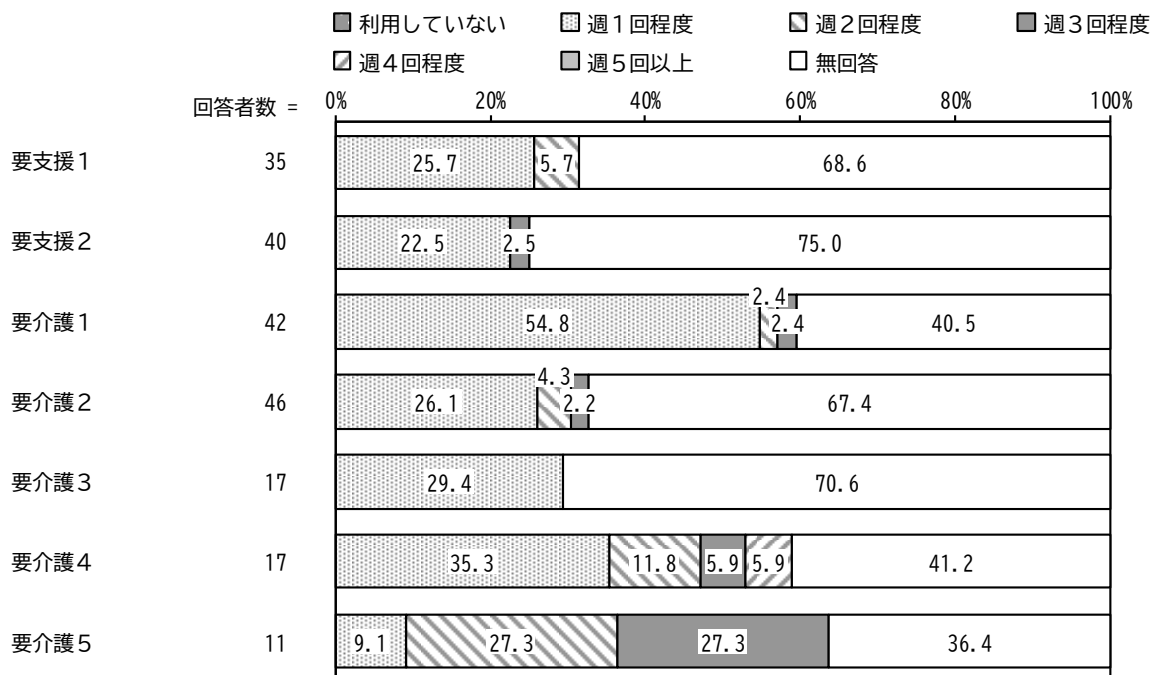
【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳で「週1回程度」、70～74歳で「週4回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

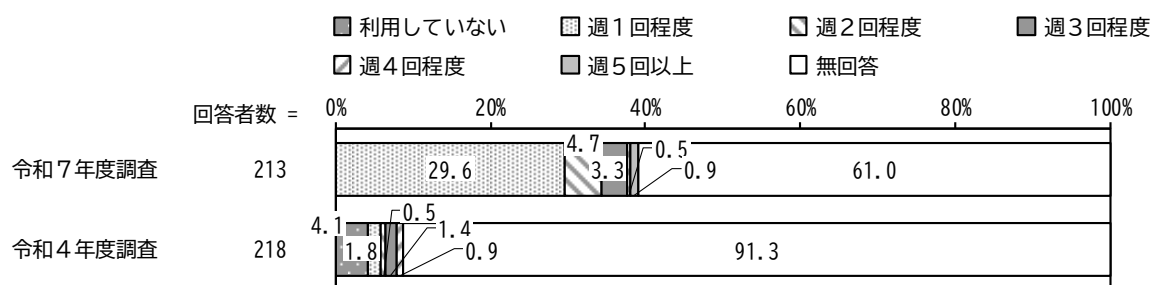
要介護度別にみると、要介護1で「週1回程度」の割合が高くなっています。



C. 訪問看護

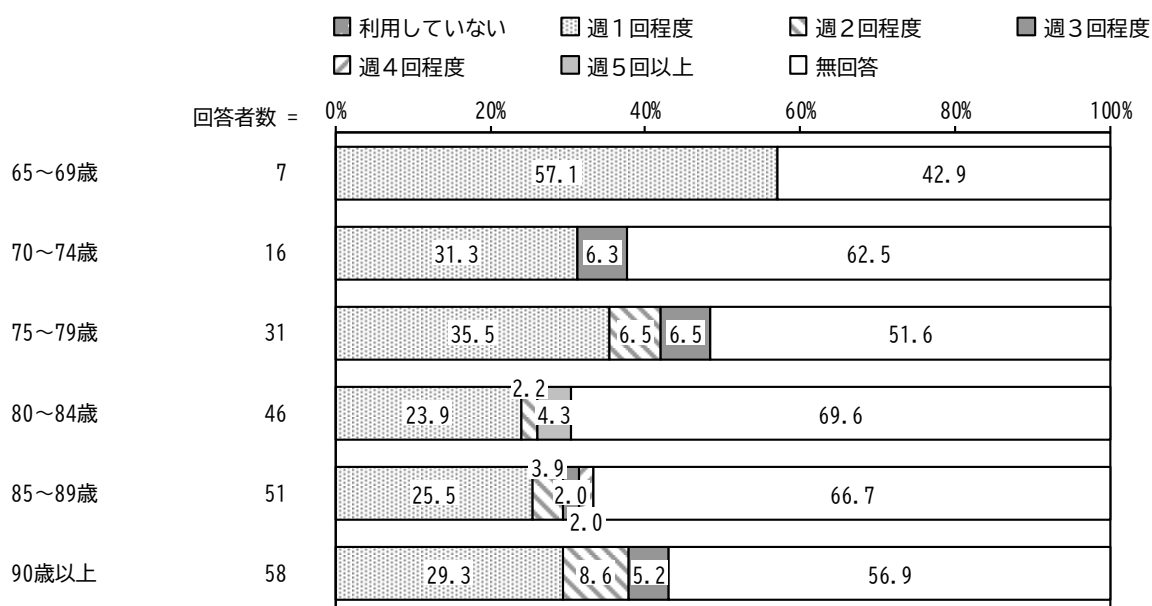
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」の割合が増加しています。



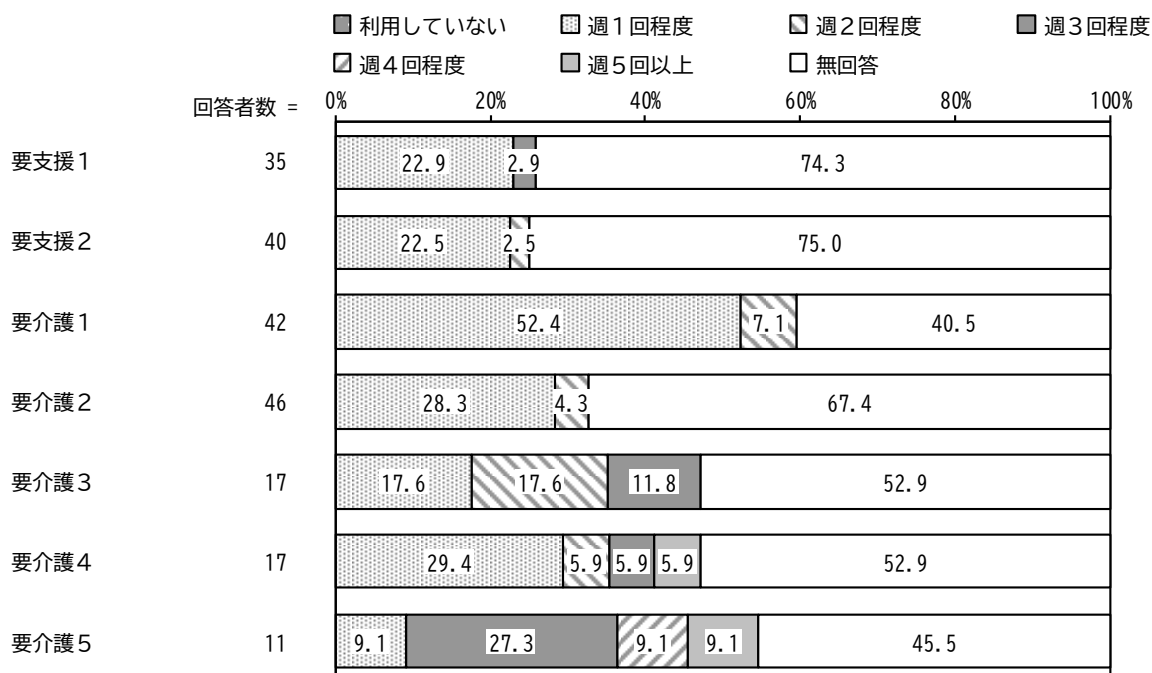
【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳で「週1回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

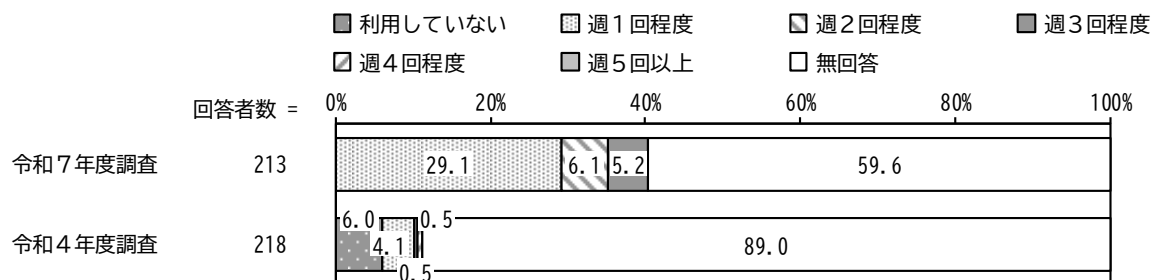
要介護度別にみると、要介護1で「週1回程度」の割合が高くなっています。



D. 訪問リハビリテーション

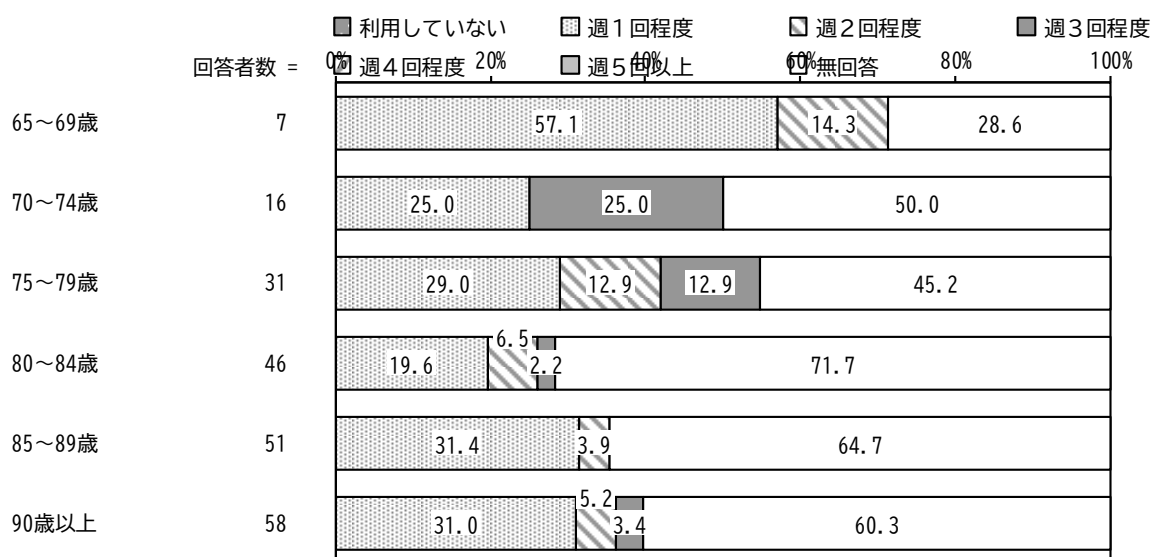
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」「週2回程度」の割合が増加しています。



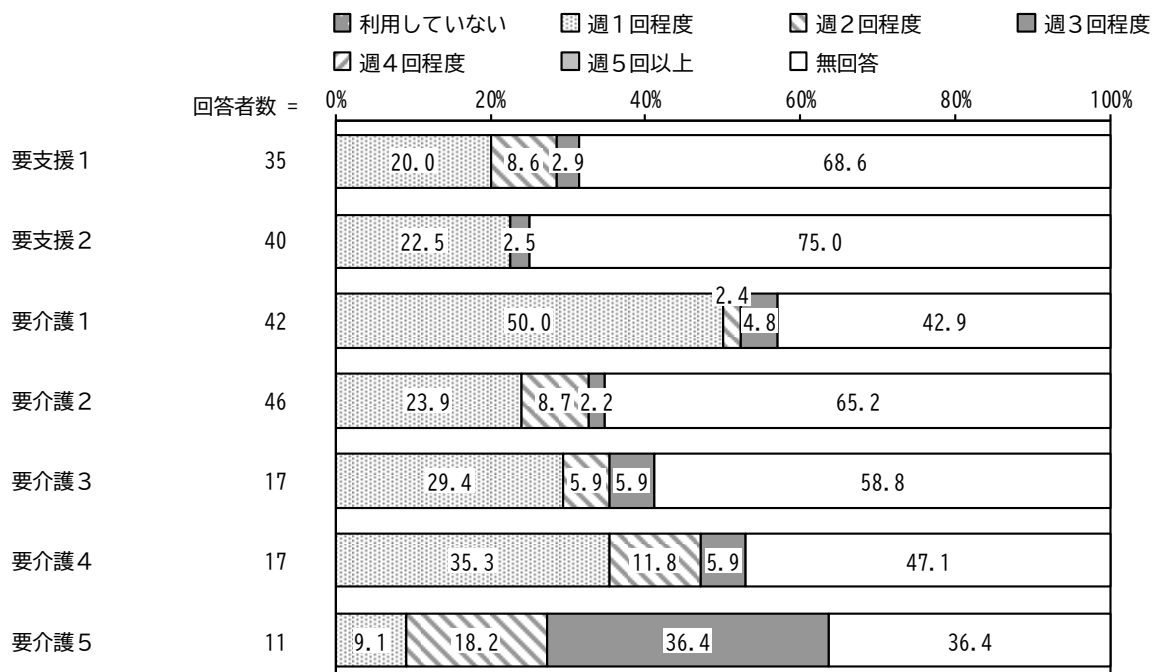
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から年齢が下がるほど「週3回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

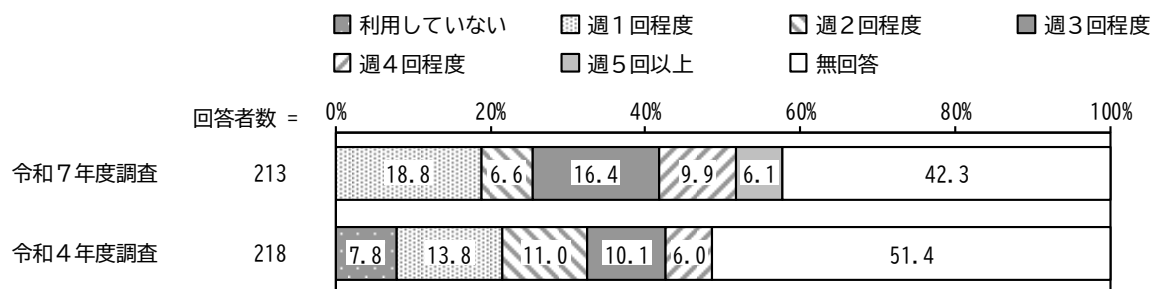
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「週2回程度」の割合が高い傾向にあります。



E. 通所介護（デイサービス）

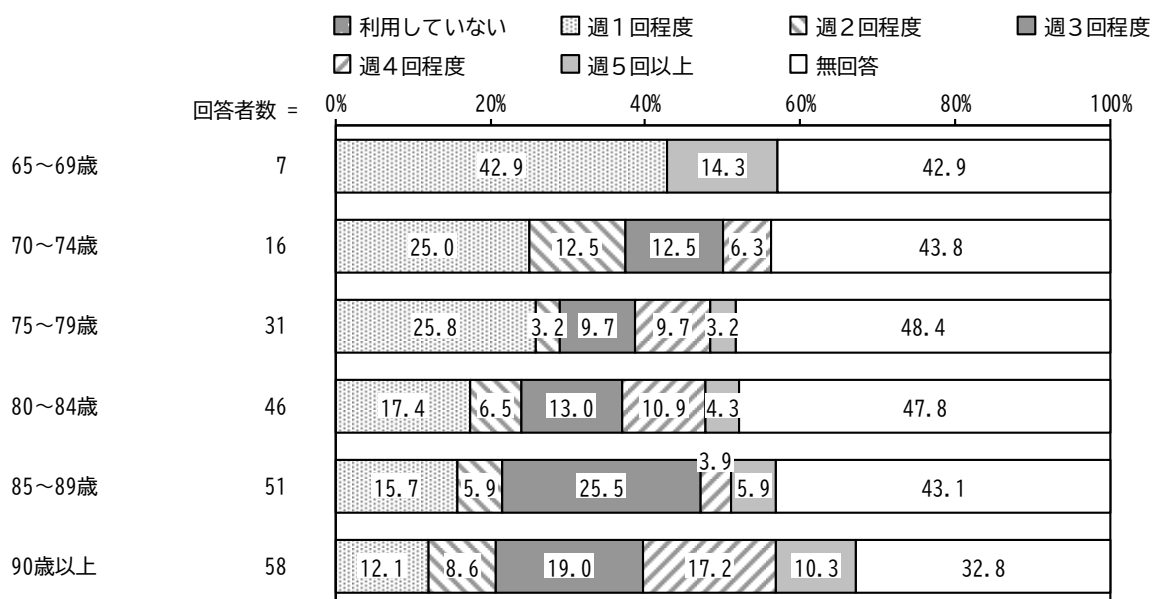
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週3回程度」「週5回以上」の割合が増加しています。



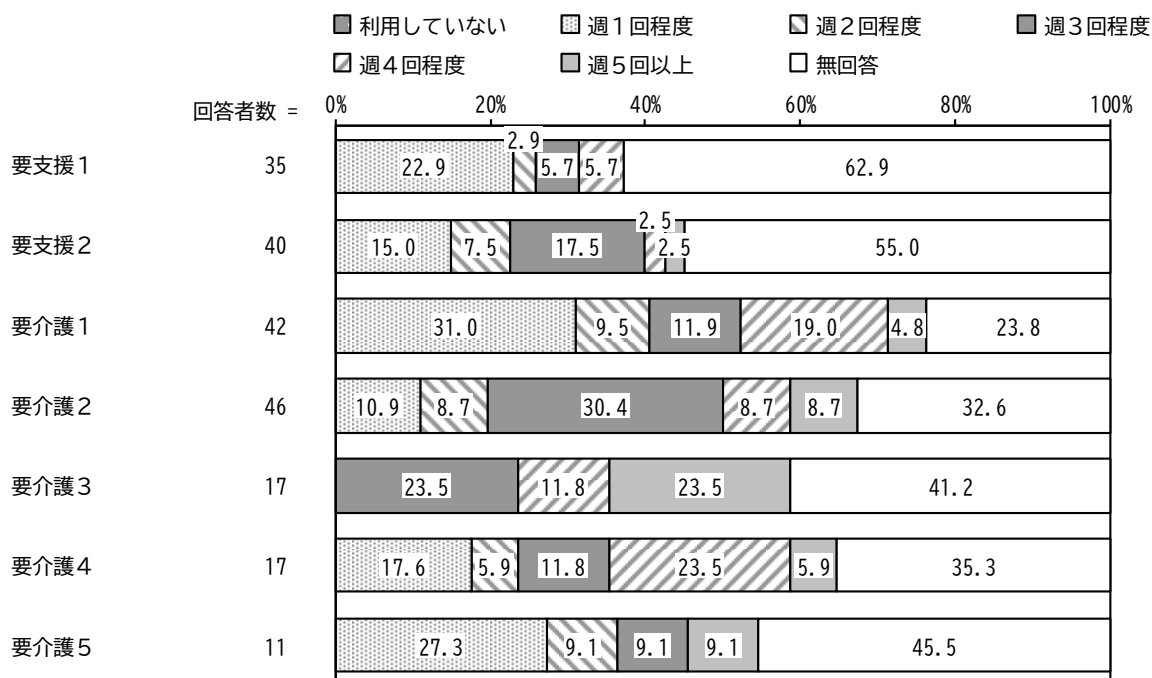
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「週1回程度」の割合が高い傾向にあります。



【要介護度別】

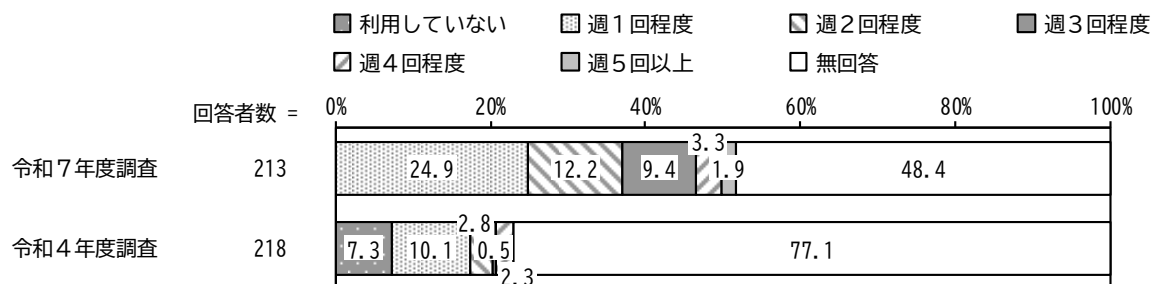
要介護度別にみると要介護度が上がるほど「週5回以上」の割合が高くなっています。



F. 通所リハビリテーション（デイケア）

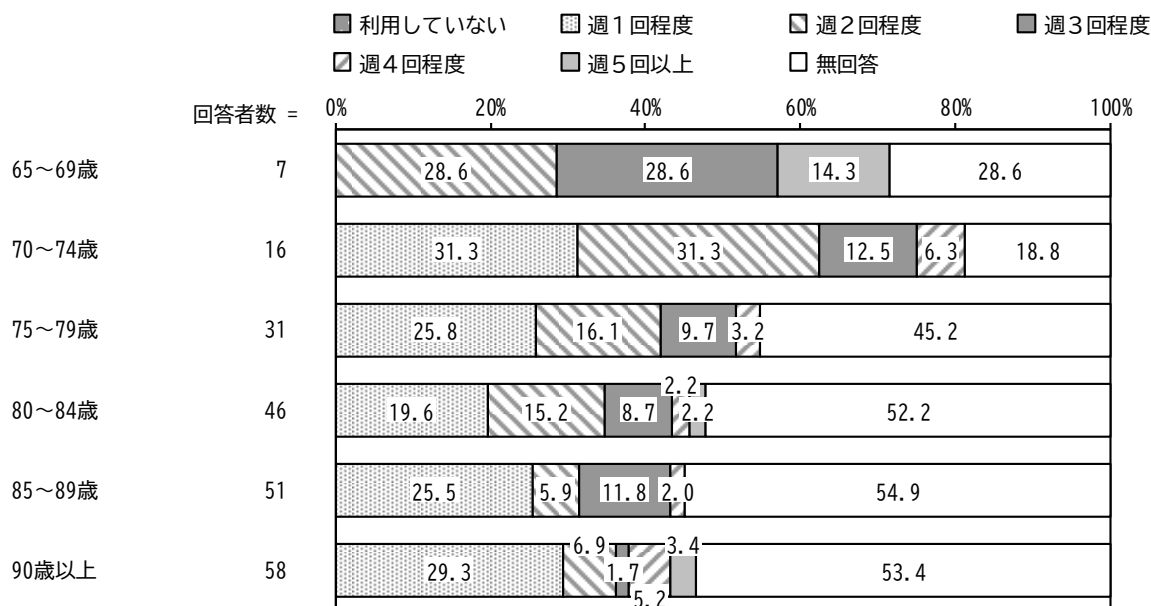
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」「週2回程度」「週3回程度」の割合が増加しています。



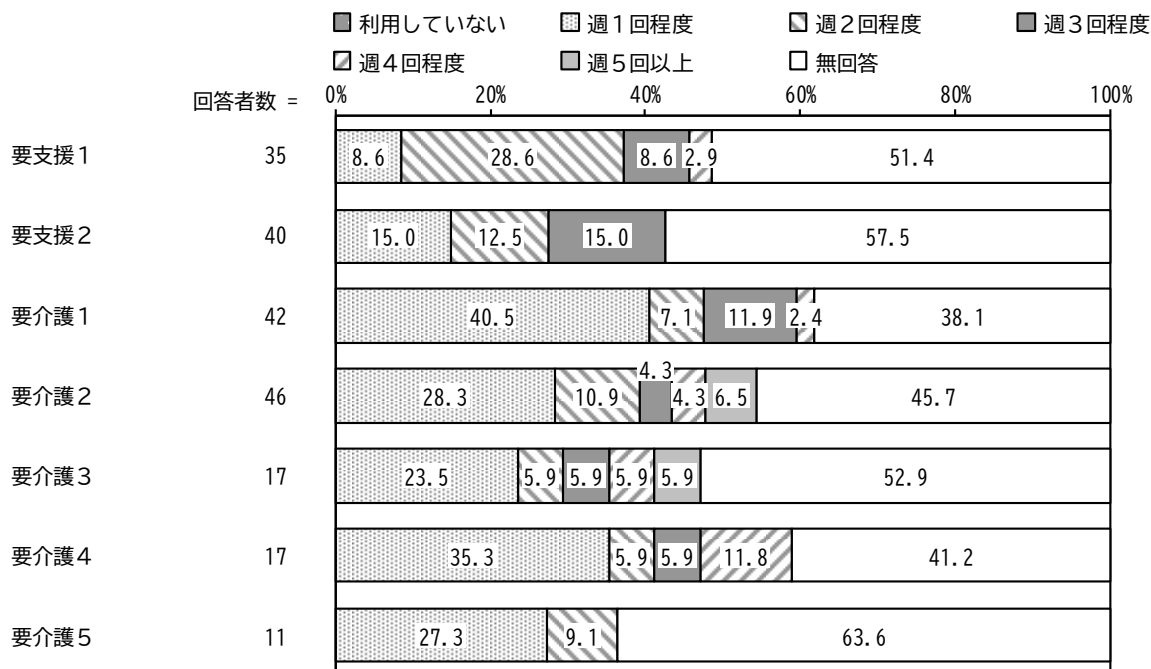
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「週2回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

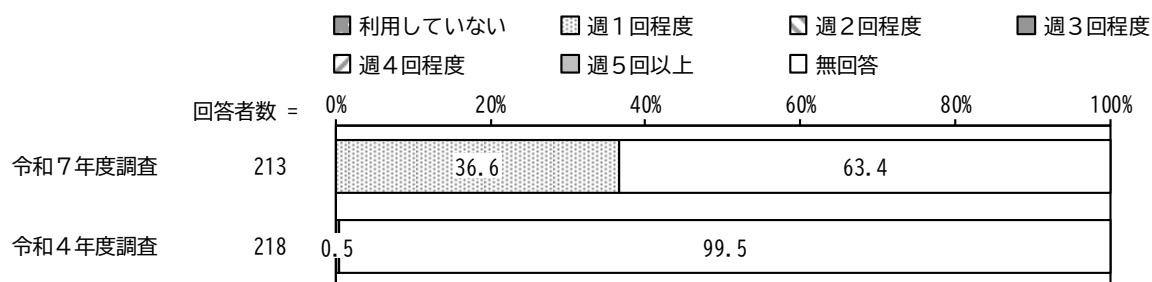
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「週4回程度」の割合が高くなっています。



G. 夜間対応型訪問介護（訪問のあった回数）

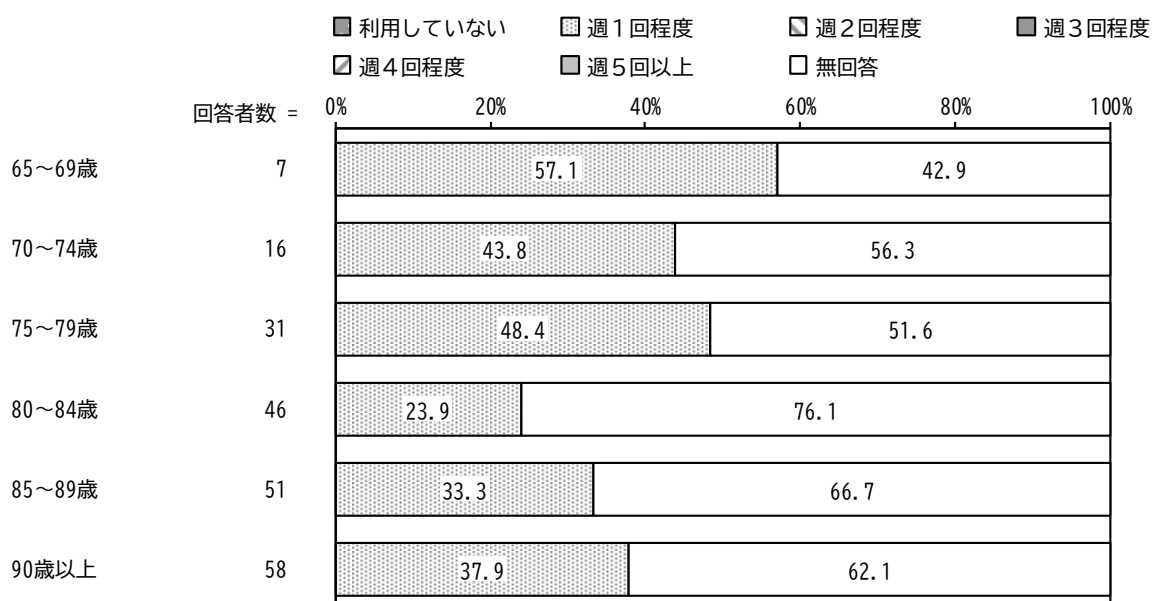
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「週1回程度」の割合が増加しています。



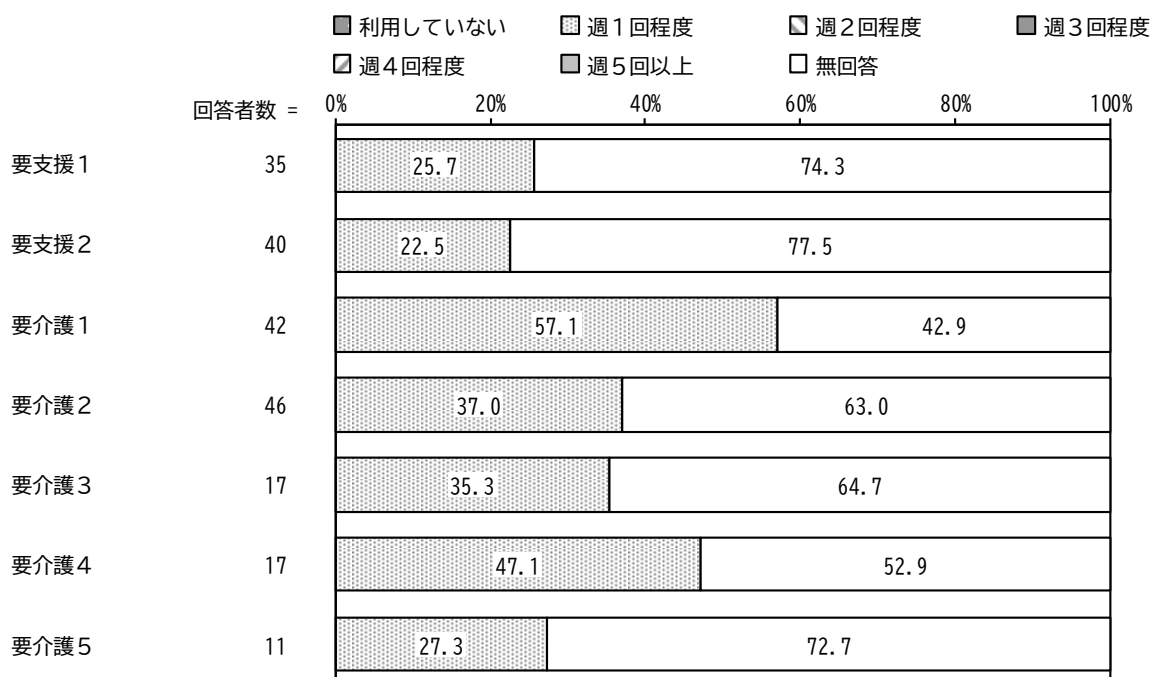
【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳で「週1回程度」の割合が高くなっています。



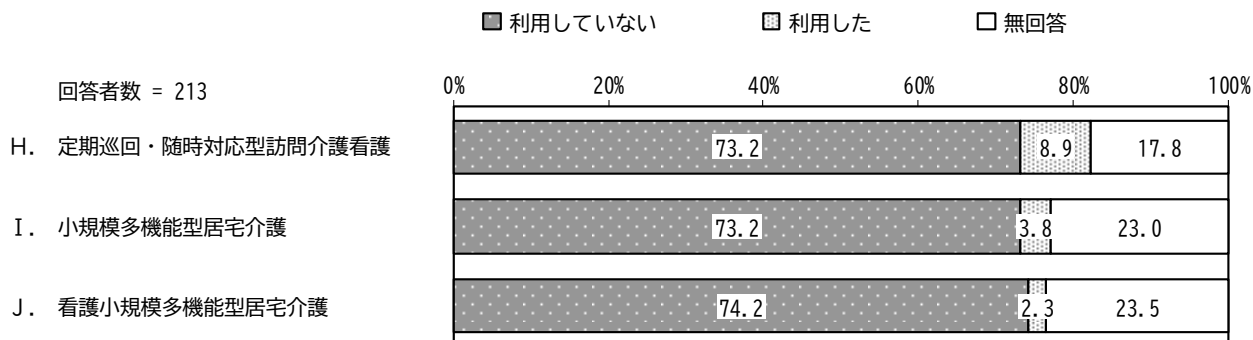
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護1で「週1回程度」の割合が高くなっています。



利用の有無（それぞれ○は1つ）

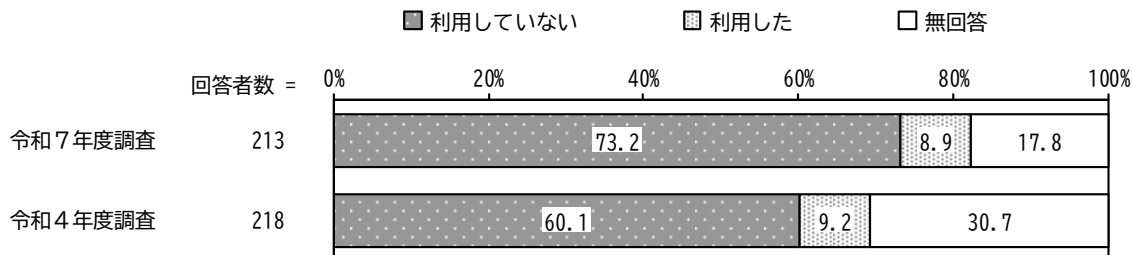
『H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護』、『I. 小規模多機能型居宅介護』、『J. 看護小規模多機能型居宅介護』の3サービスとも「利用していない」の割合が高くなっています。



H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

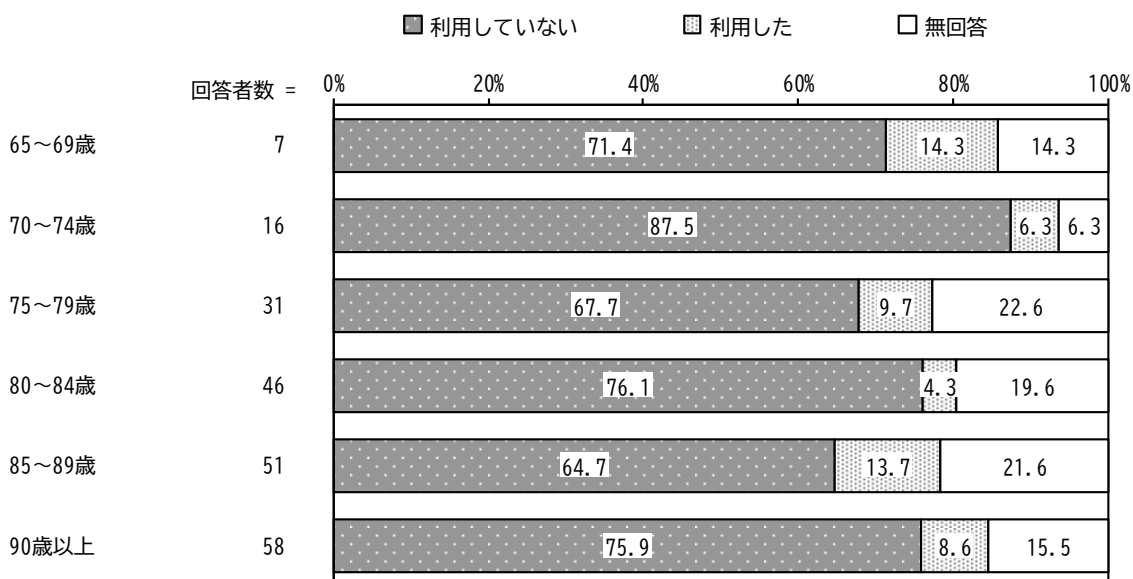
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



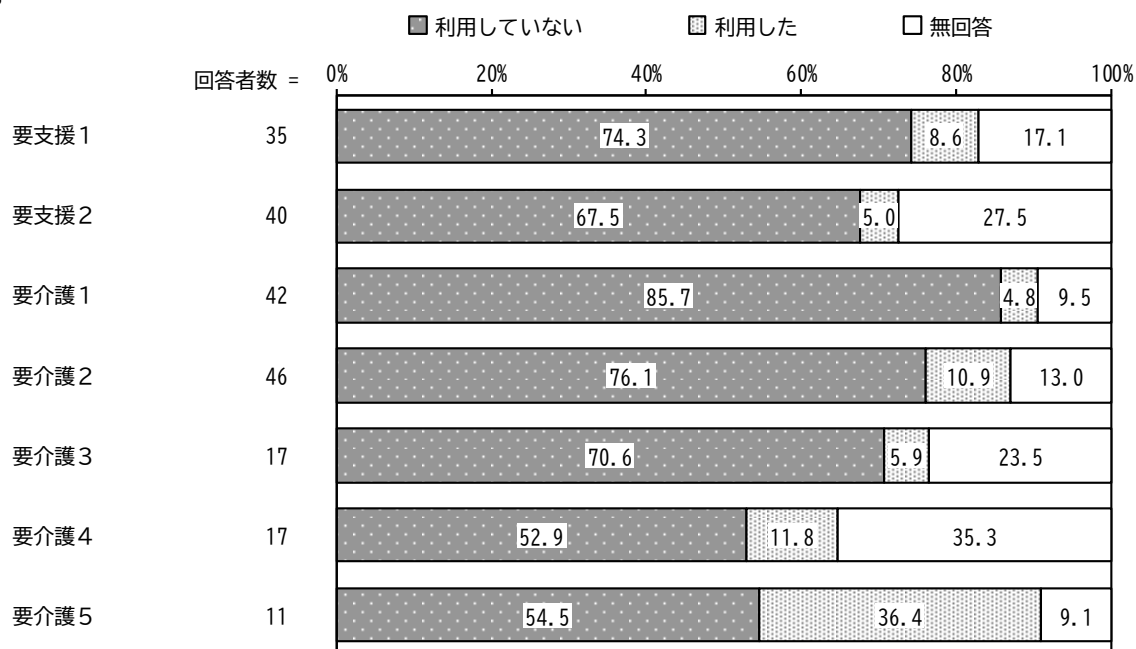
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「利用していない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

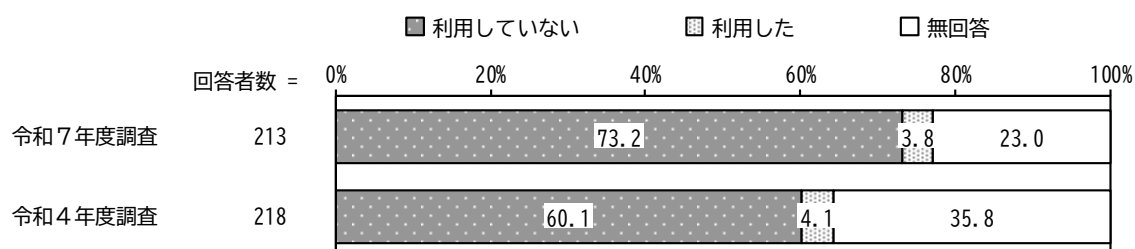
要介護度別にみると、要介護1で「利用していない」、要介護5で「利用した」の割合が高くなっています。



I. 小規模多機能型居宅介護

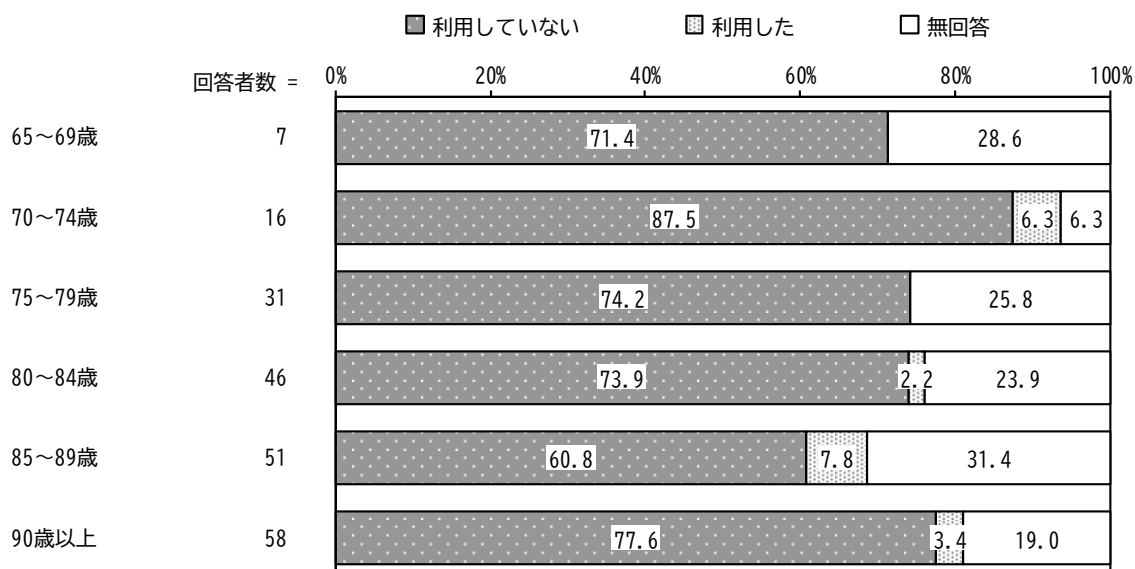
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



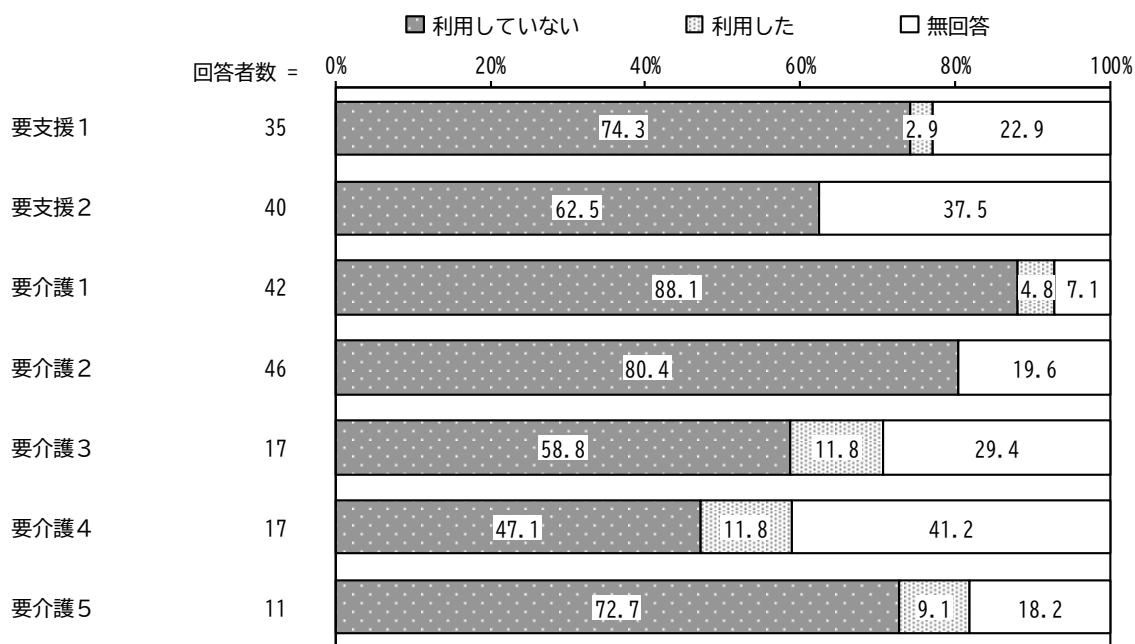
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「利用していない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

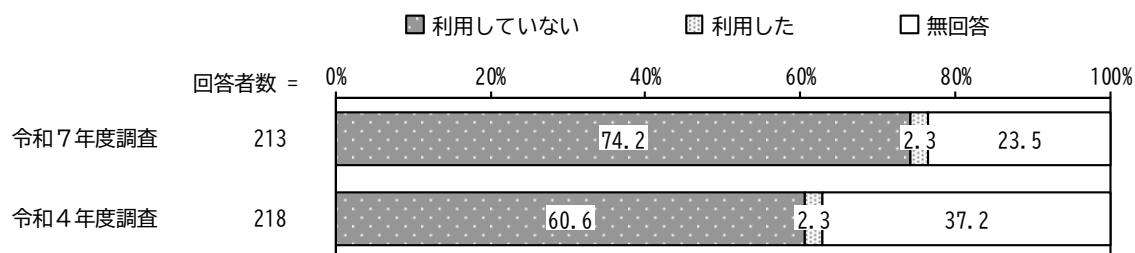
要介護度別にみると、要介護1で「利用していない」の割合が高くなっています。



J. 看護小規模多機能型居宅介護

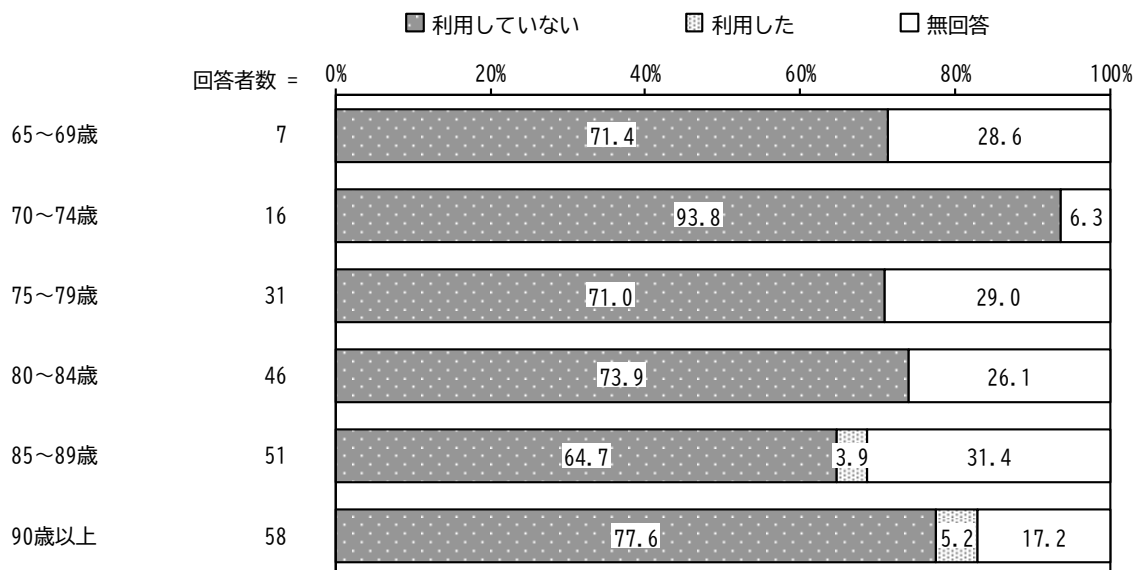
【経年比較】

令和4年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。



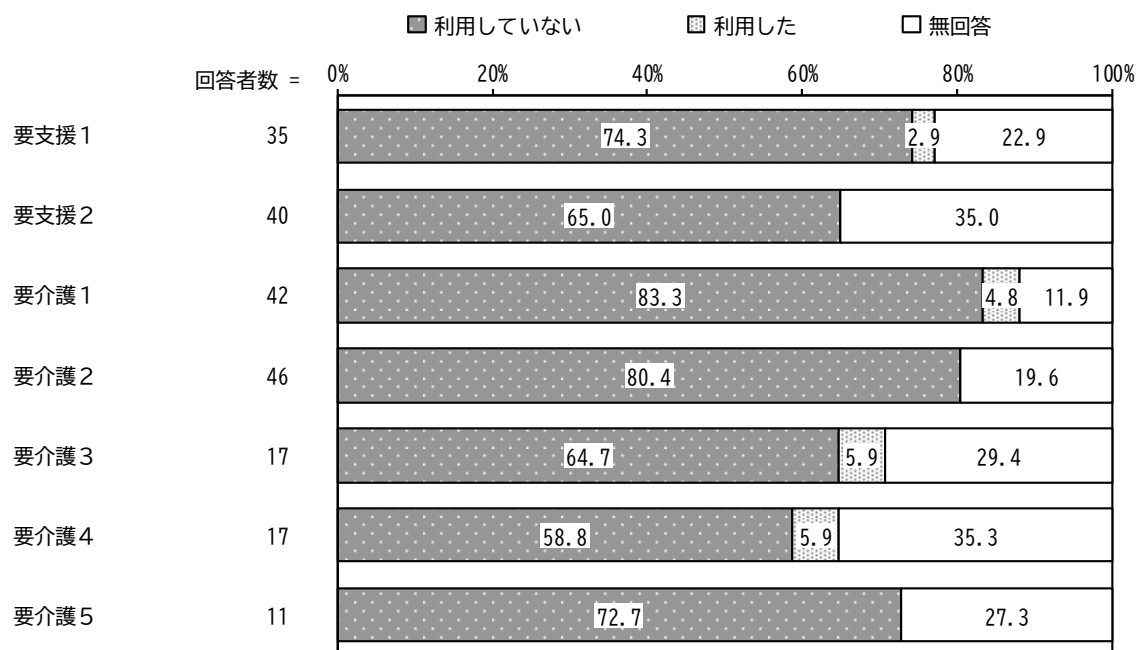
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「利用していない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護4で「利用していない」の割合が低くなっています。

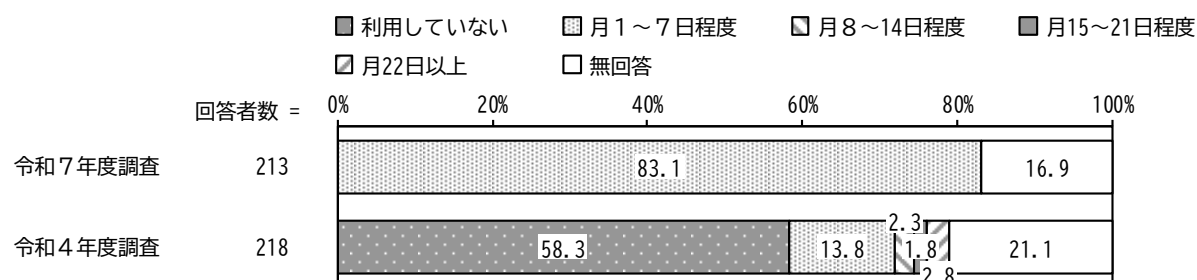


1 か月あたりの利用日数 (○は1つ)

K. 短期入所生活介護 (ショートステイ)

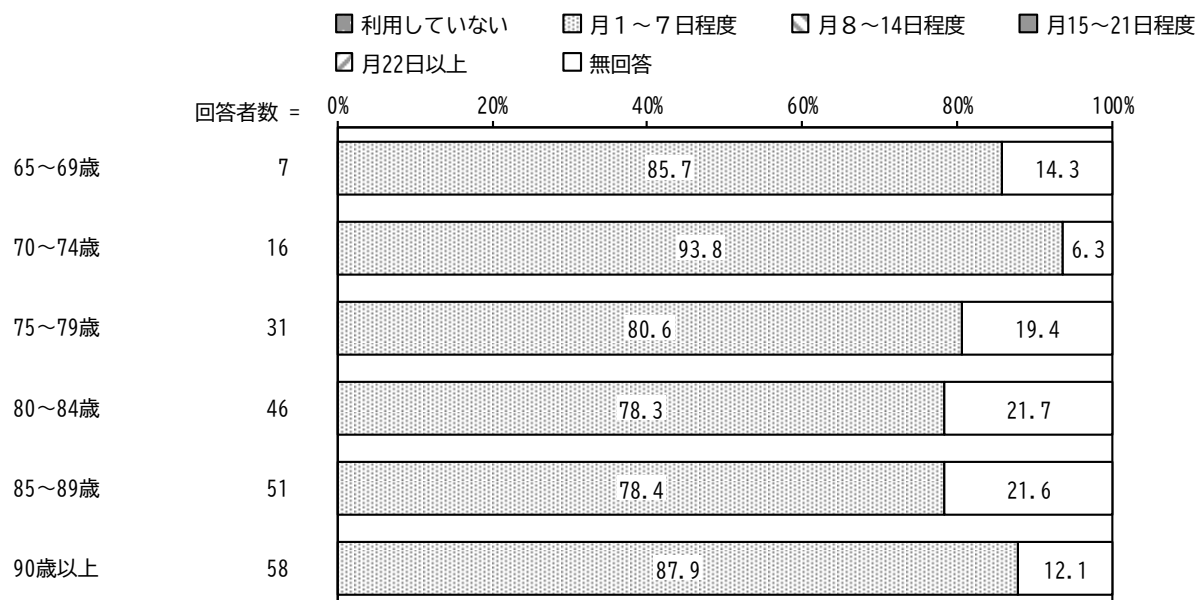
「月1～7日程度」の割合が83.1%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「月1～7日程度」の割合が増加しています。



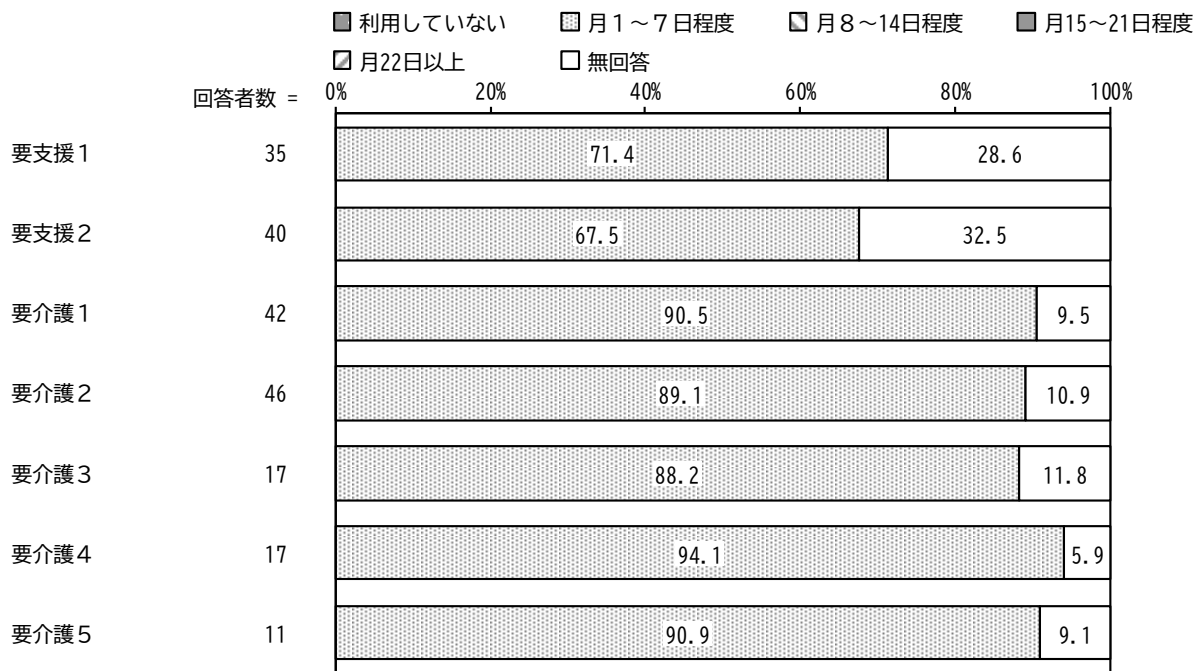
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「月1～7日程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護4で「月1～7日程度」の割合が高くなっています。

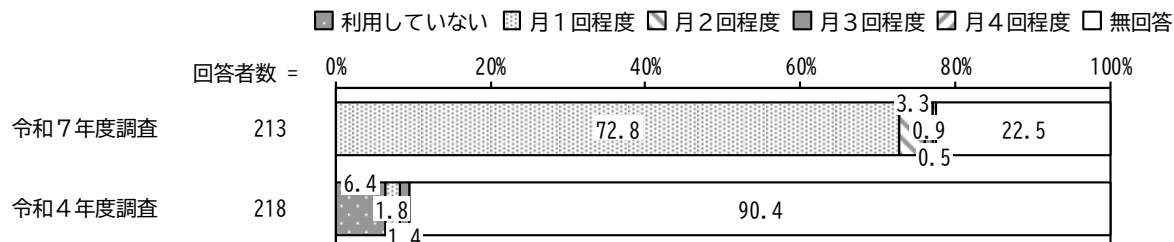


1か月あたりの利用回数（〇は1つ）

L. 居宅療養管理指導

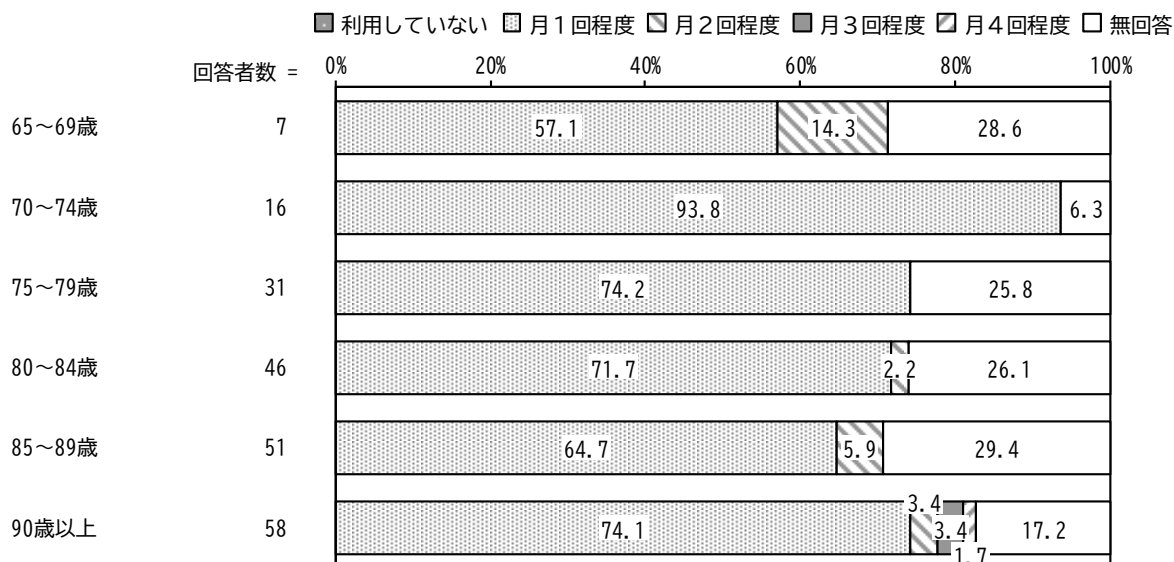
「月1回程度」の割合が72.8%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「月1回程度」の割合が増加しています。一方、「利用していない」の割合が減少しています。



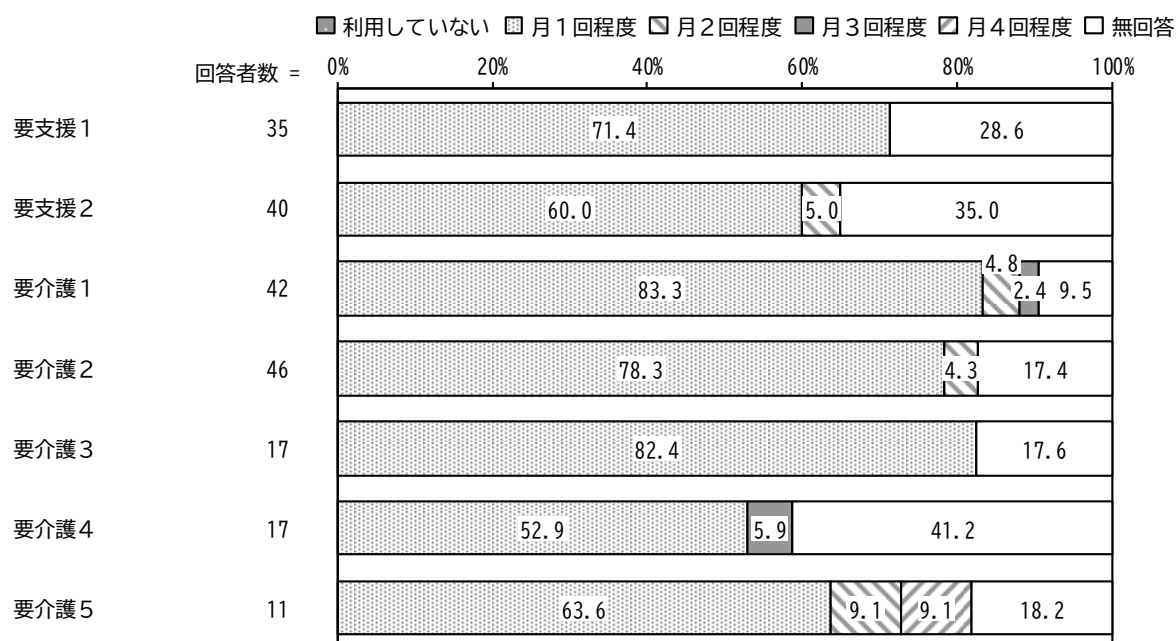
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「月1回程度」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護1、要介護3で「月1回程度」、要介護5で「月2回程度」「月4回程度」、要介護4で「月3回程度」の割合が高くなっています。

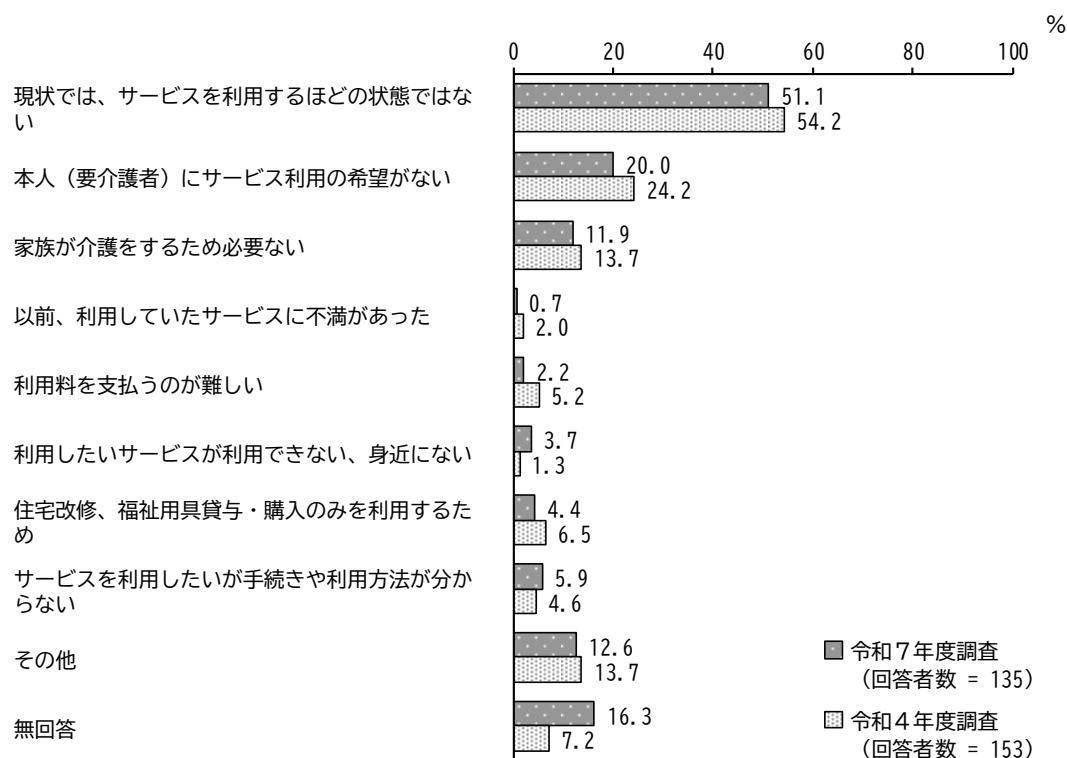


問11 問9で「利用していない」と回答した方にお伺いします。

介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が51.1%と最も高く、次いで「本人（要介護者）にサービス利用の希望がない」の割合が20.0%、「家族が介護をするため必要ない」の割合が11.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「家族が介護をするため必要ない」の割合が高い傾向にあり、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「利用したいサービスが利用できない、身近にない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数(件)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人(要介護者)にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを利用したいが手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
全 体	135	51.1	20.0	11.9	0.7	2.2	3.7	4.4	5.9	12.6	16.3
65～69歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	10	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	40.0
75～79歳	27	48.1	29.6	3.7	0.0	0.0	7.4	7.4	7.4	14.8	14.8
80～84歳	43	60.5	7.0	11.6	0.0	2.3	2.3	4.7	4.7	11.6	14.0
85～89歳	37	54.1	29.7	16.2	2.7	5.4	2.7	2.7	5.4	8.1	16.2
90歳以上	17	29.4	29.4	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	23.5	11.8

【要介護度別】

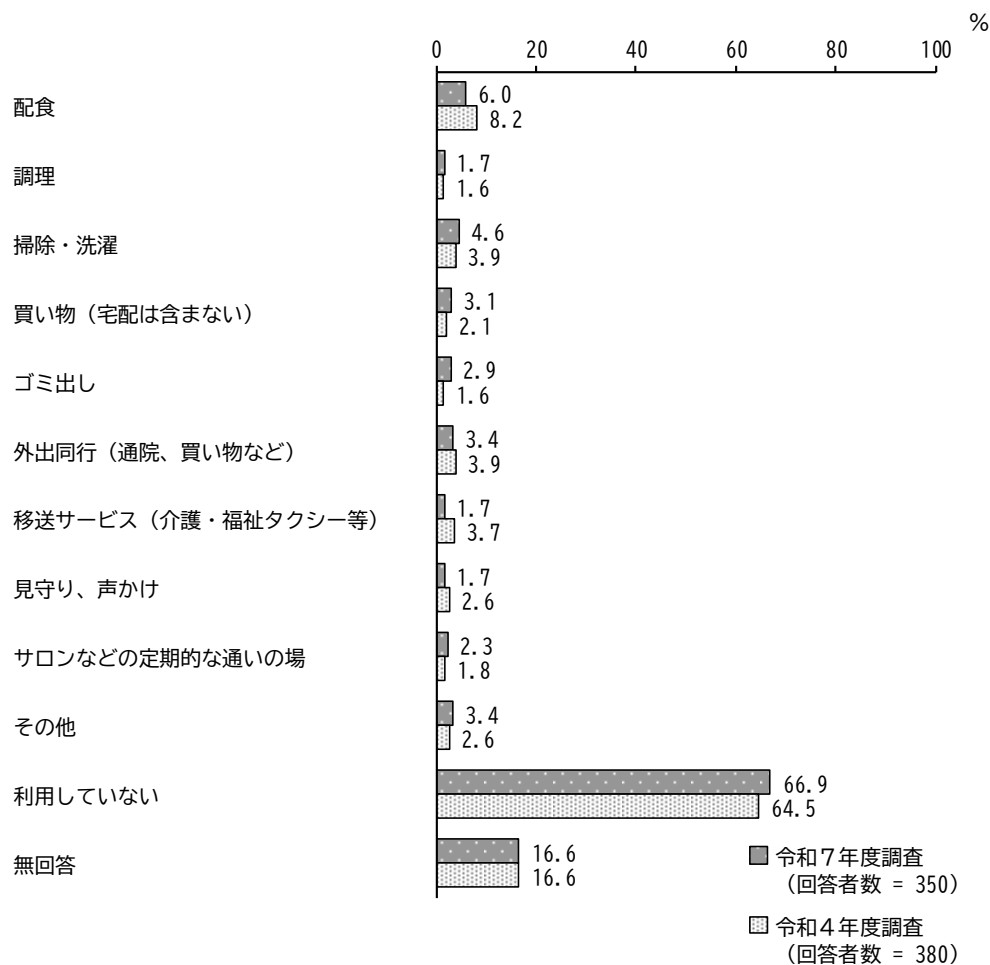
要介護度別にみると、要支援2から要介護4まで要介護度が上がるほど「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない」の割合が高い傾向にあり、要支援1から要介護2まで要介護度が上がるほど「家族が介護をするため必要ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人(要介護者)にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを利用したいが手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
全 体	135	51.1	20.0	11.9	0.7	2.2	3.7	4.4	5.9	12.6	16.3
要支援1	48	56.3	16.7	6.3	0.0	0.0	4.2	4.2	4.2	8.3	18.8
要支援2	28	60.7	10.7	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	10.7	7.1	17.9
要介護1	21	33.3	19.0	14.3	0.0	0.0	4.8	0.0	9.5	19.0	14.3
要介護2	16	50.0	25.0	31.3	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	18.8	18.8
要介護3	6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
要介護4	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護5	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 12 現在、「介護保険サービス以外」の支援・サービスは、何を利用していますか。
(〇はいくつでも)

「配食」の割合が 6.0%と最も高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「移送サービス (介護・福祉タクシー等)」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)	移送サービス (介護・福祉タクシー等)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全 体	350	6.0	1.7	4.6	3.1	2.9	3.4	1.7	1.7	2.3	3.4	66.9	16.6
65～69歳	8	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	0.0
70～74歳	26	3.8	0.0	7.7	3.8	3.8	7.7	11.5	3.8	0.0	0.0	69.2	11.5
75～79歳	58	6.9	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4	67.2	19.0
80～84歳	89	4.5	1.1	3.4	2.2	3.4	4.5	1.1	1.1	0.0	3.4	69.7	16.9
85～89歳	89	6.7	4.5	7.9	5.6	2.2	5.6	1.1	2.2	3.4	3.4	60.7	19.1
90歳以上	75	6.7	1.3	4.0	2.7	4.0	1.3	1.3	1.3	6.7	5.3	66.7	14.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護2で「配食」「掃除・洗濯」、要介護5で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が高くなっています。

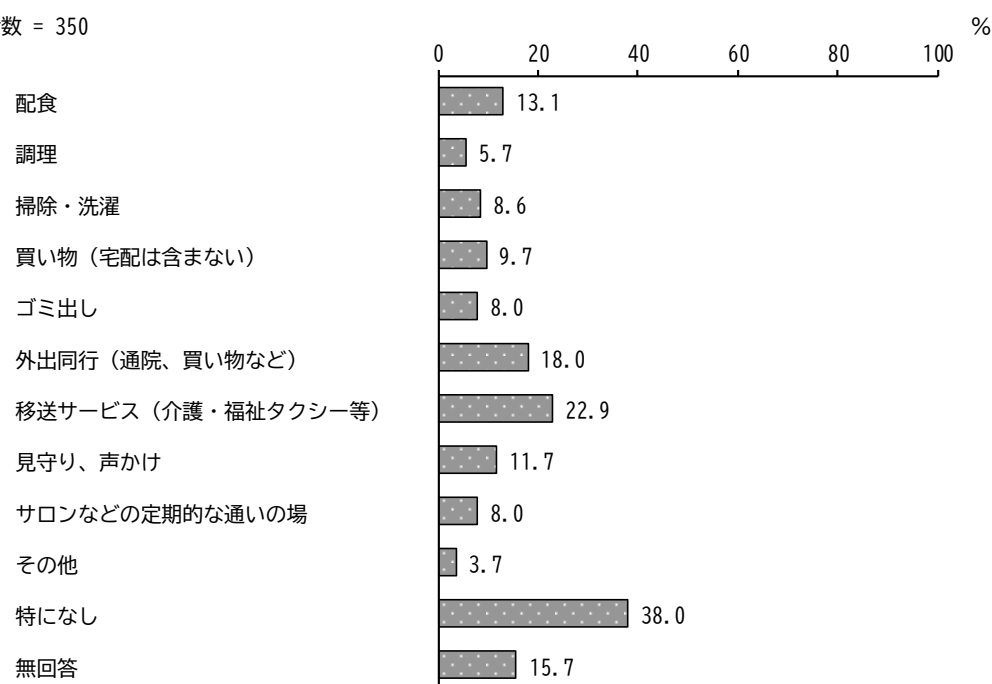
単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含 まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買 物など)	移送サ ービス (介護・ 福祉タ クシー 等)	見守り、 声かけ	サロンな どの定 期的な 通いの 場	その他	利用 してい ない	無回 答
全 体	350	6.0	1.7	4.6	3.1	2.9	3.4	1.7	1.7	2.3	3.4	66.9	16.6
要支援1	83	7.2	1.2	3.6	1.2	2.4	2.4	0.0	1.2	2.4	7.2	62.7	20.5
要支援2	68	4.4	2.9	7.4	4.4	4.4	5.9	0.0	0.0	2.9	0.0	66.2	16.2
要介護1	63	6.3	0.0	1.6	3.2	1.6	6.3	1.6	3.2	0.0	3.2	74.6	11.1
要介護2	62	12.9	3.2	9.7	6.5	3.2	3.2	4.8	3.2	4.8	1.6	62.9	11.3
要介護3	23	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	8.7	69.6	17.4
要介護4	18	0.0	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	77.8	16.7
要介護5	13	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	69.2	15.4

問13 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。
（○はいくつでも）

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が22.9%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」の割合が18.0%、「配食」の割合が13.1%となっています。

回答者数 = 350



【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高く、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「掃除・洗濯」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含 まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買 物など)	移送サービス (介護・ 福祉タクシ ー等)	見守り、声 かけ	サロンなど の定期的 な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	350	13.1	5.7	8.6	9.7	8.0	18.0	22.9	11.7	8.0	3.7	38.0	15.7
65～69歳	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	12.5
70～74歳	26	15.4	3.8	15.4	7.7	7.7	7.7	34.6	3.8	11.5	0.0	38.5	11.5
75～79歳	58	12.1	5.2	5.2	6.9	6.9	17.2	22.4	3.4	6.9	1.7	34.5	19.0
80～84歳	89	12.4	6.7	5.6	12.4	5.6	18.0	19.1	14.6	4.5	4.5	38.2	18.0
85～89歳	89	15.7	6.7	10.1	11.2	12.4	21.3	22.5	14.6	12.4	3.4	37.1	18.0
90歳以上	75	12.0	4.0	12.0	9.3	8.0	20.0	28.0	16.0	6.7	6.7	37.3	9.3

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護2で「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、要介護5で「調理」「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」、要介護4で「ゴミ出し」「見守り、声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」、要介護1で「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含 まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買 物など)	移送サービス (介護・ 福祉タクシ ー等)	見守り、声 かけ	サロンなど の定期的 な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	350	13.1	5.7	8.6	9.7	8.0	18.0	22.9	11.7	8.0	3.7	38.0	15.7
要支援1	83	12.0	6.0	7.2	10.8	8.4	14.5	16.9	9.6	6.0	1.2	37.3	19.3
要支援2	68	7.4	2.9	11.8	8.8	10.3	20.6	19.1	10.3	7.4	4.4	30.9	20.6
要介護1	63	14.3	4.8	6.3	7.9	4.8	23.8	27.0	14.3	7.9	6.3	36.5	12.7
要介護2	62	22.6	8.1	12.9	12.9	9.7	19.4	33.9	16.1	11.3	1.6	37.1	11.3
要介護3	23	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	13.0	26.1	8.7	4.3	13.0	39.1	13.0
要介護4	18	16.7	11.1	11.1	16.7	16.7	22.2	22.2	16.7	16.7	0.0	44.4	11.1
要介護5	13	15.4	23.1	15.4	23.1	7.7	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7	46.2	7.7

【圏域別】

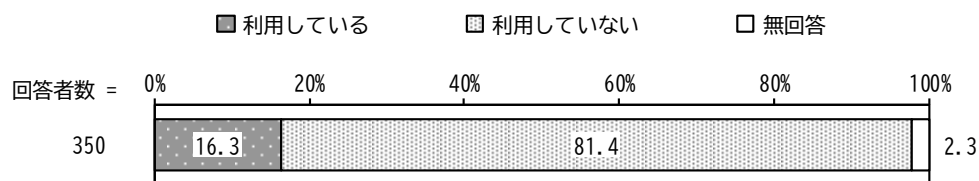
圏域別にみると、富谷中央・あけの平圏域で「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含ま ない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買 物など)	移送サービス (介護・ 福祉タクシー等)	見守り、声かけ	サロンなどの定期的 な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	350	13.1	5.7	8.6	9.7	8.0	18.0	22.9	11.7	8.0	3.7	38.0	15.7
東向陽台・成 田圏域	130	13.8	6.9	7.7	10.8	6.9	17.7	23.8	13.1	10.8	3.8	31.5	17.7
富ヶ丘・日吉 台圏域	89	11.2	4.5	9.0	4.5	10.1	12.4	23.6	9.0	7.9	3.4	44.9	16.9
富谷中央・あ けの平圏域	108	13.9	6.5	10.2	13.0	8.3	24.1	23.1	13.0	5.6	3.7	41.7	9.3

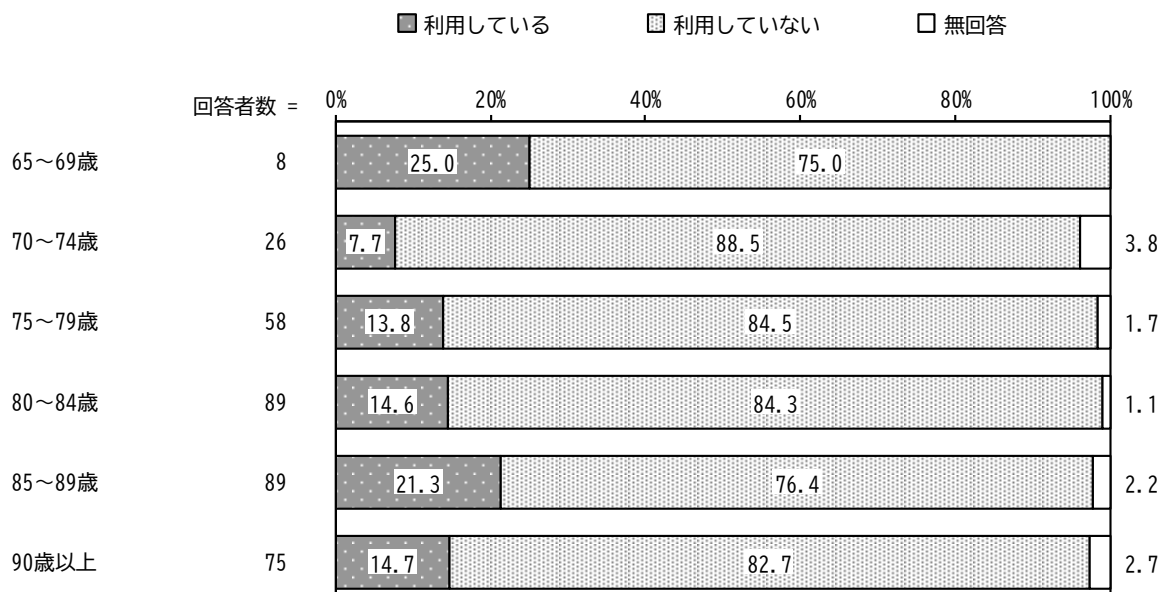
問 14 ご本人（認定調査対象者）は現在、訪問診療を利用していますか。（○は1つ）

「利用している」の割合が 16.3%、「利用していない」の割合が 81.4%となっています。



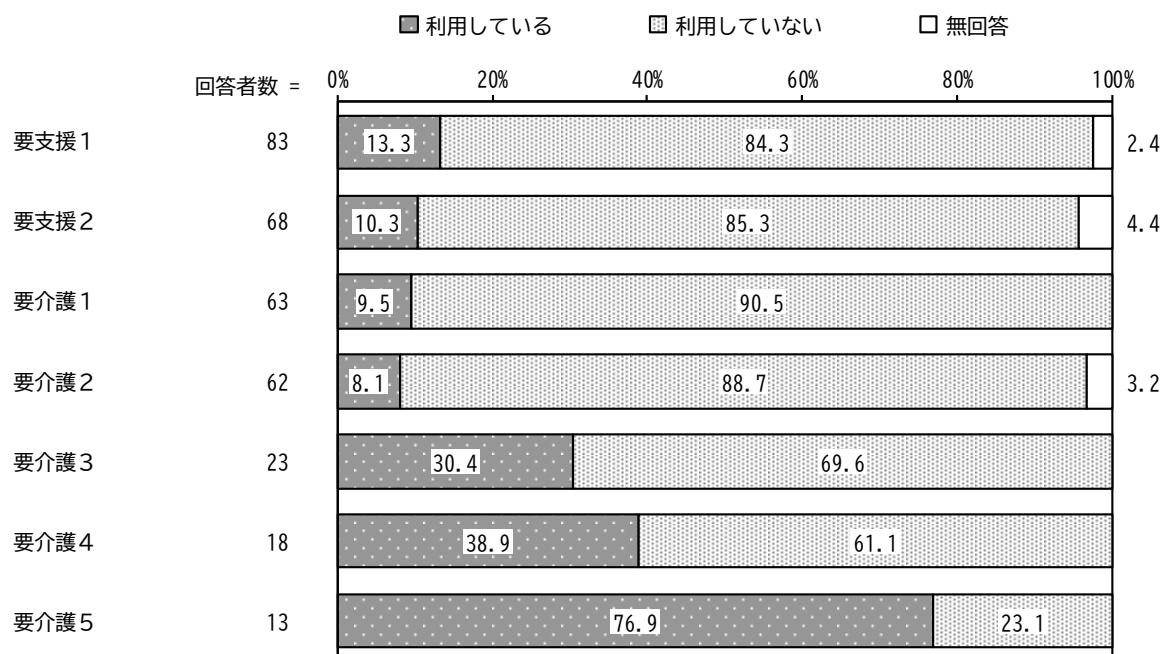
【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「利用している」の割合が高くなっています。



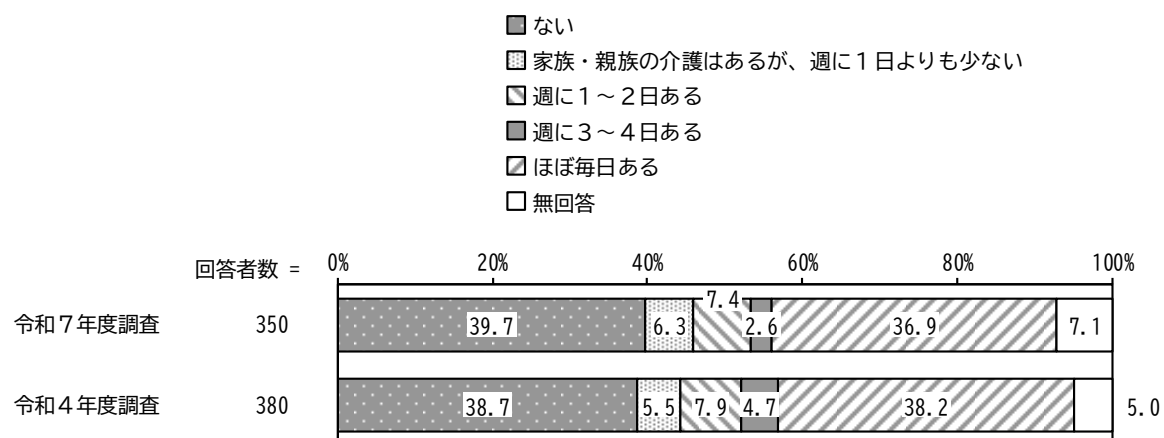
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護5から要介護1まで要介護度が下がるほど「利用していない」の割合が高くなっています。



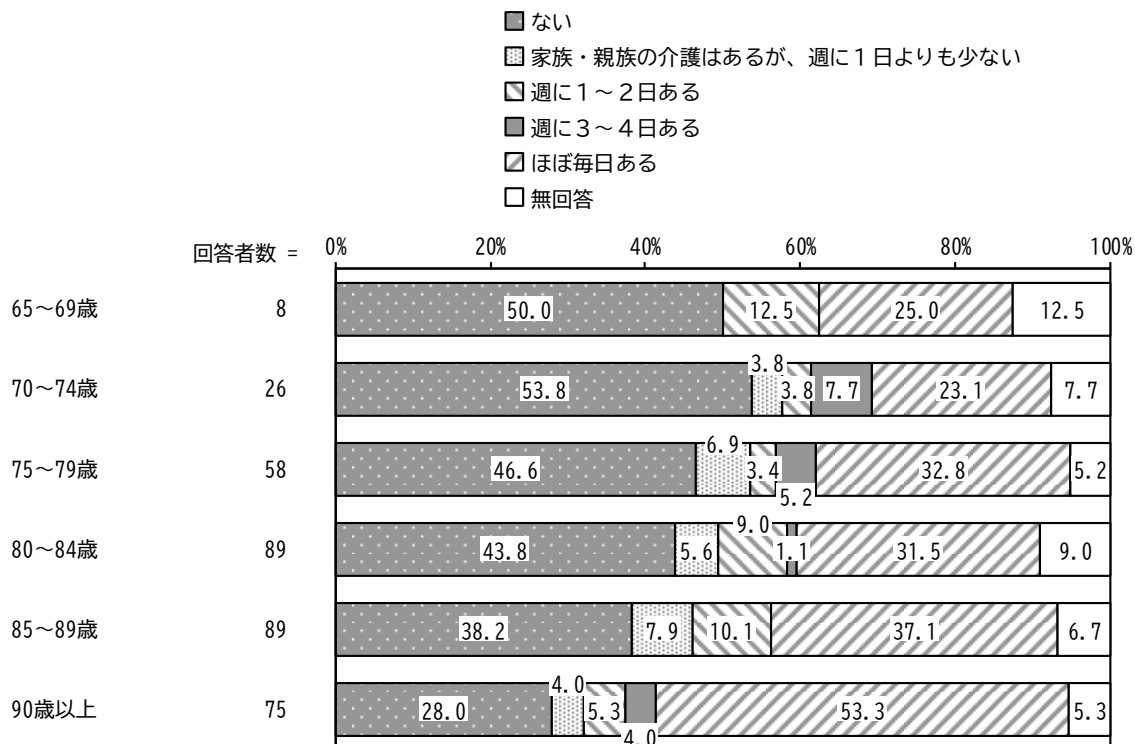
問 15 ご家族やご親族の方から介護してもらう日は、週にどのくらいありますか。
(○は1つ) (同居していない子どもや親族の方等からの介護も含みます。)

「ない」の割合が39.7%と最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」の割合が36.9%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



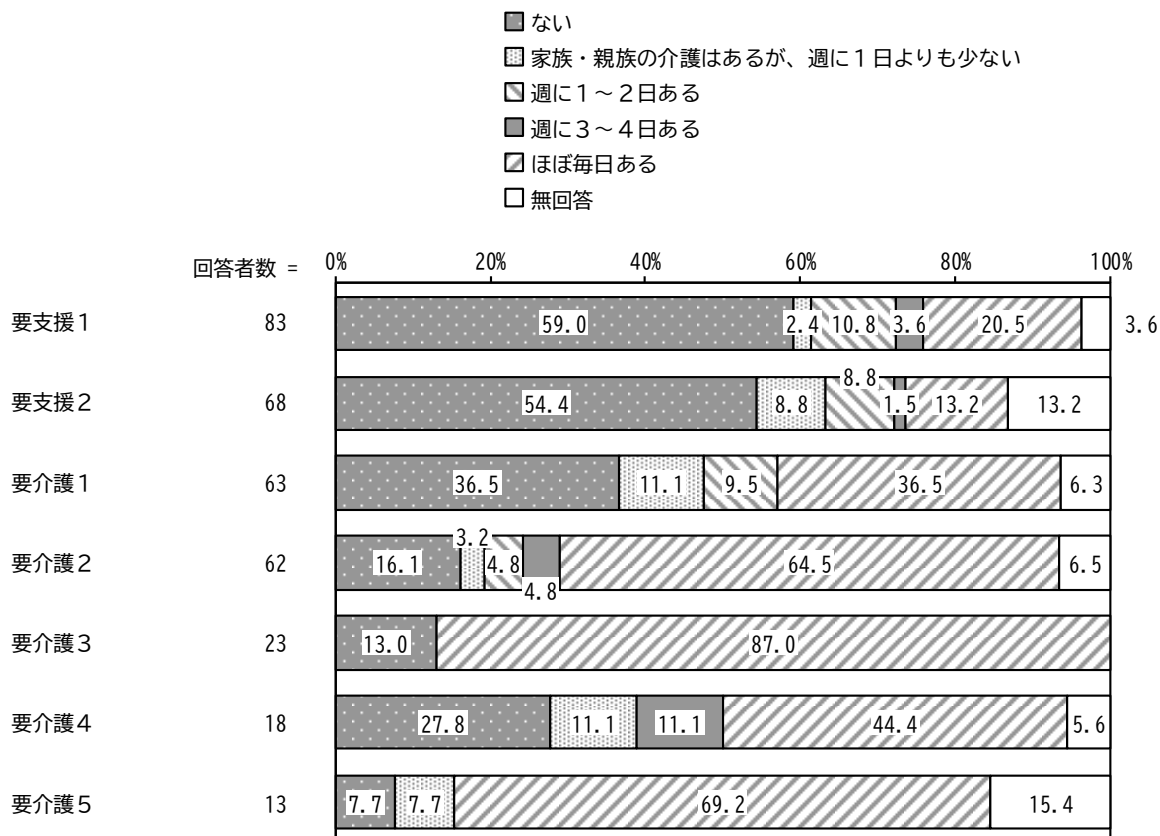
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「ほぼ毎日ある」の割合が高い傾向にあり、「ない」の割合が低くなっています。



【要介護度別】

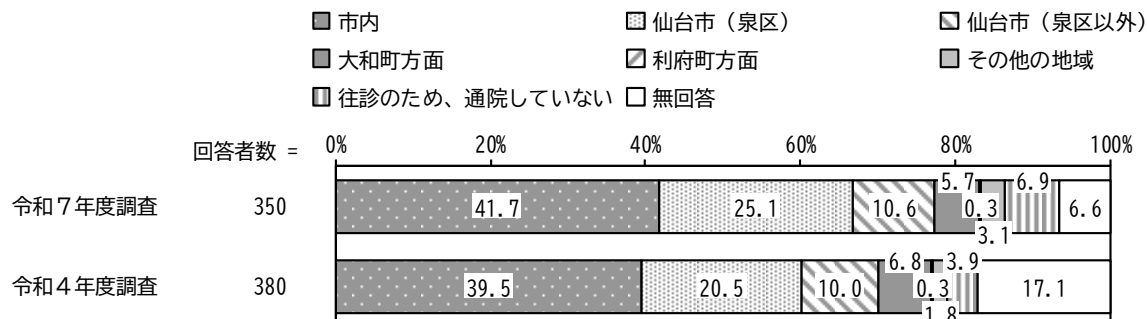
要介護度別にみると、要介護3から要支援1まで要介護度が下がるほど「ない」「週に1～2日ある」の割合が高い傾向にあります。また、要介護3で「ほぼ毎日ある」の割合が高くなっています。



問16 ご本人（要介護者）が、主に通院している医療機関の地域はどちらですか。
（○は1つ）

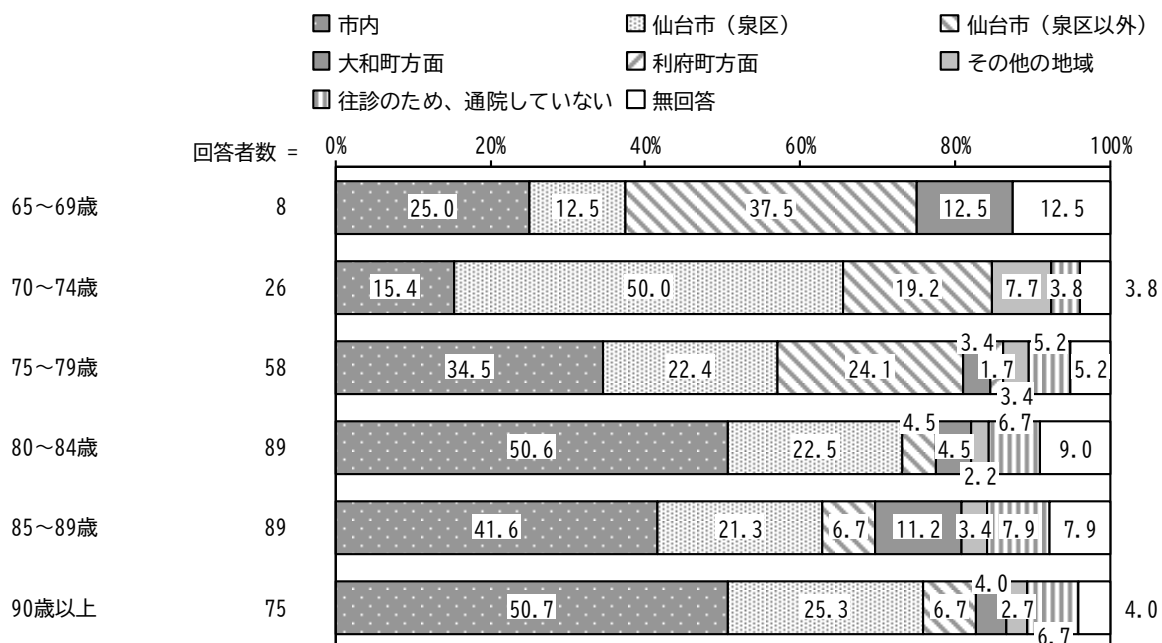
「市内」の割合が41.7%と最も高く、次いで「仙台市（泉区）」の割合が25.1%、「仙台市（泉区以外）」の割合が10.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



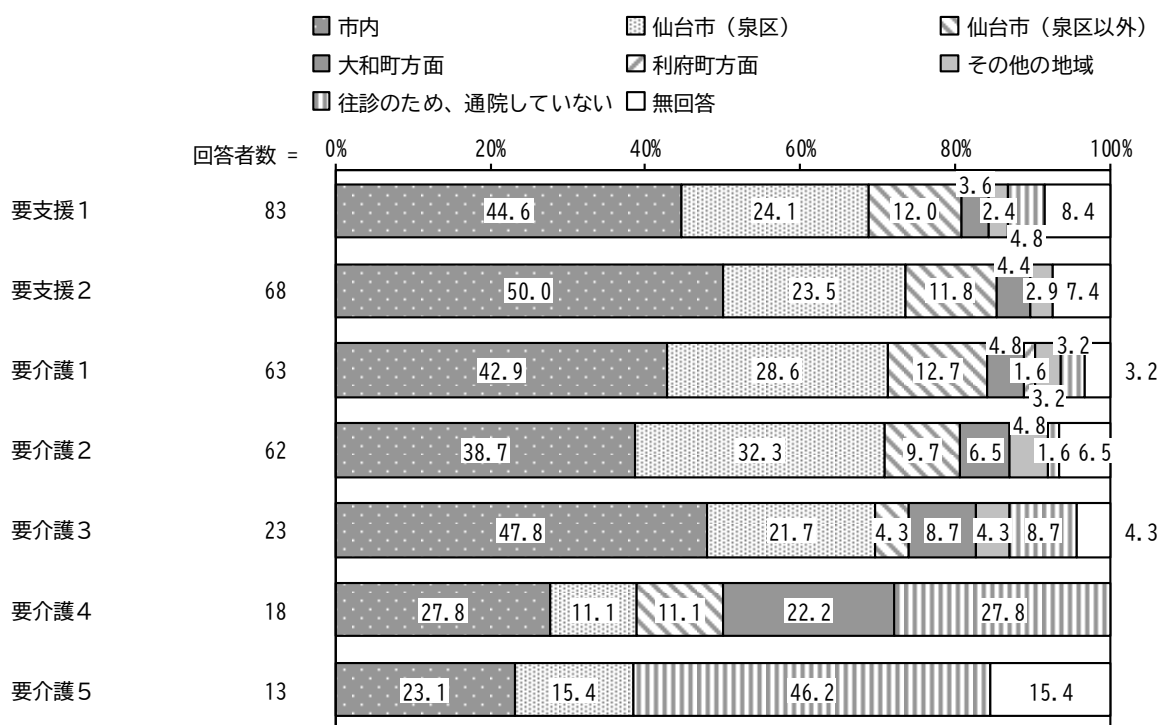
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「大和町方面」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「仙台市（泉区）」、75～79歳で「仙台市（泉区以外）」の割合が高く、70～74歳で「市内」の割合が低くなっています。



【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2から要介護5まで要介護度が上がるほど「往診のため、通院していない」の割合が高い傾向にあり、要支援1から要介護4まで要介護度が上がるほど「大和町方面」の割合が高い傾向にあります。

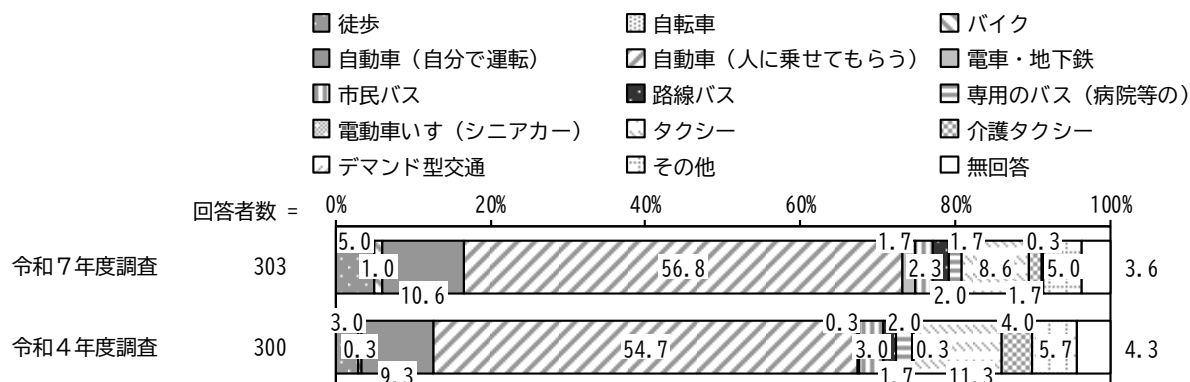


問17 問16で「市内」～「その他の地域」のいずれかの地域の医療機関に通院していると回答した方にお伺いします。

医療機関への主な移動手段は何ですか。（○は1つ）

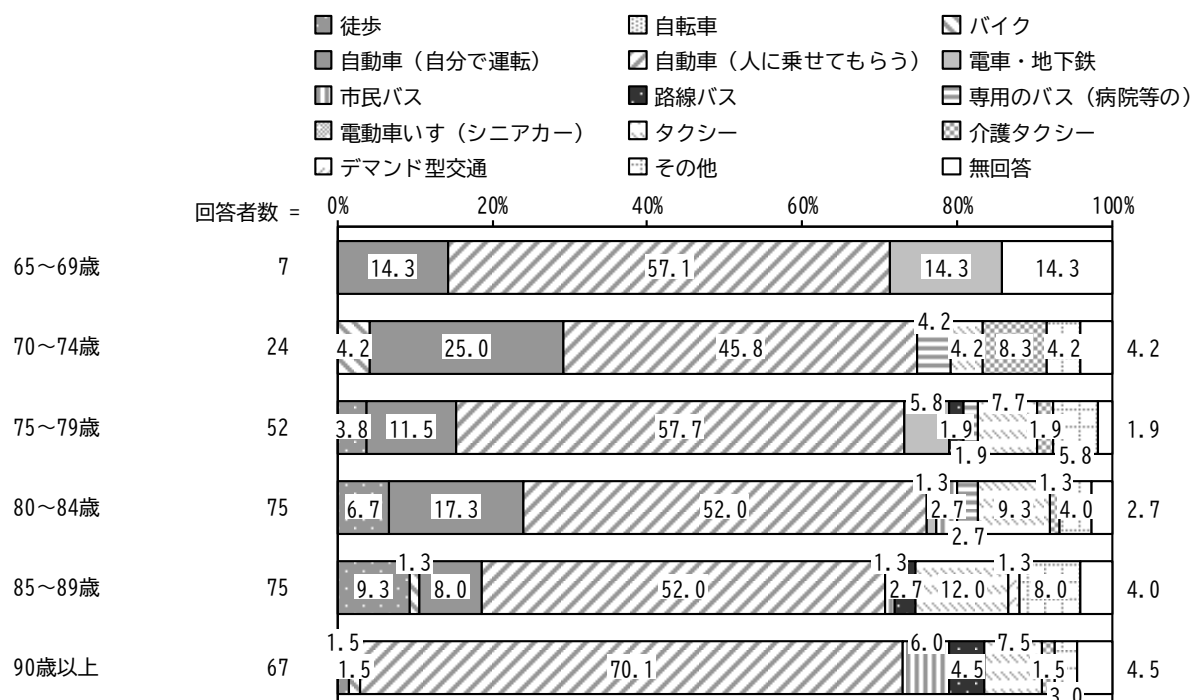
「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が56.8%と最も高く、次いで「自動車（自分で運転）」の割合が10.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



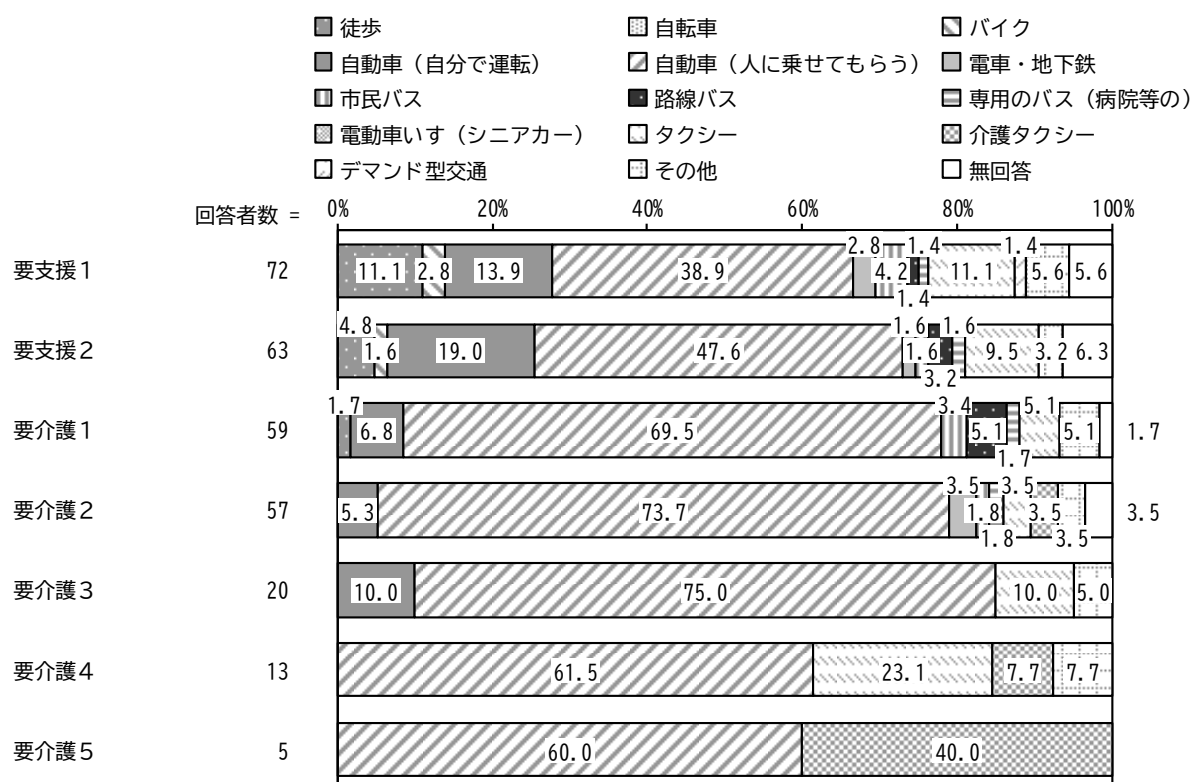
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「自動車（自分で運転）」「介護タクシー」、90歳以上で「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が高くなっています。



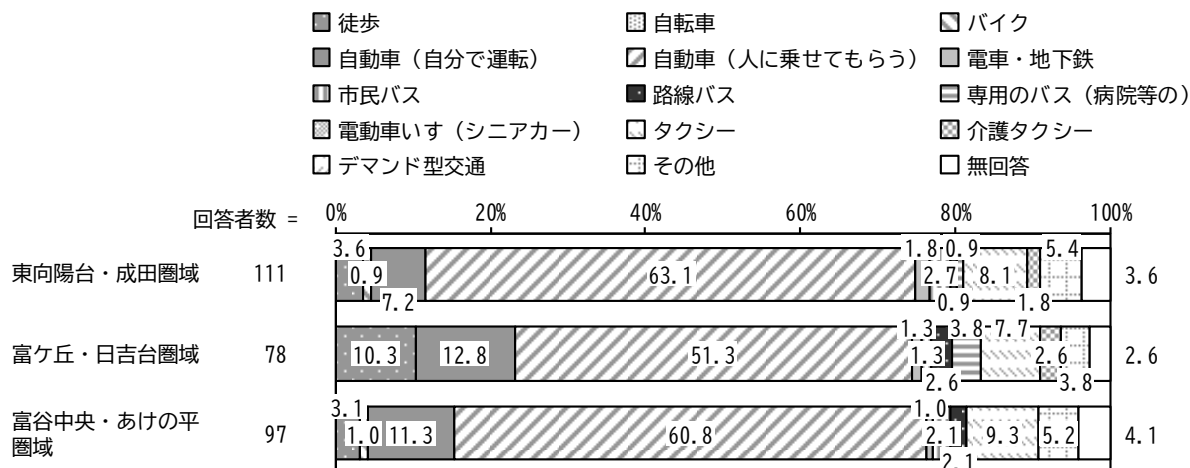
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が高く、「徒歩」の割合が低い傾向にあり、要介護2から要支援1まで要介護度が下がるほど「タクシー」の割合が高くなっています。



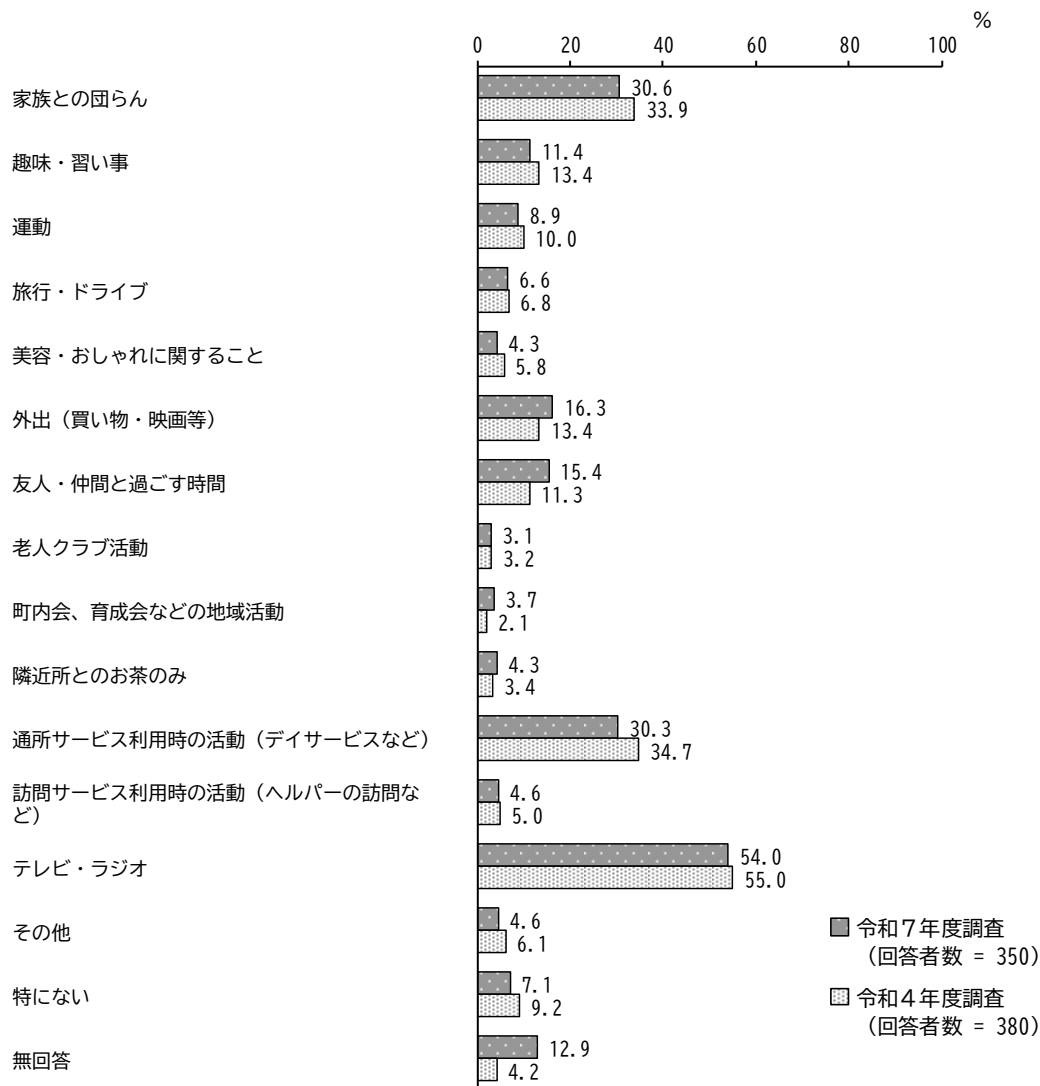
【圏域別】

圏域別にみると、富ヶ丘・日吉台圏域で「徒歩」、東向陽台・成田圏域で「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が高くなっています。



問 18 ご本人（要介護者）が、生きがいや楽しみのある生活のためにやっていることは何ですか。（○はいくつでも）

「テレビ・ラジオ」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「家族との団らん」の割合が 30.6%、「通所サービス利用時の活動（デイサービスなど）」の割合が 30.3%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「通所サービス利用時の活動（デイサービスなど）」の割合が高い傾向にあり、「友人・仲間と過ごす時間」の割合が低く、70～74歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「家族との団らん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族との団らん	趣味・習い事	運動	旅行・ドライブ	美容・おしゃれに関する こと	外出（買い物・映画等）	友人・仲間と過ごす 時間	老人クラブ活動
全 体	350	30.6	11.4	8.9	6.6	4.3	16.3	15.4	3.1
65～69歳	8	50.0	0.0	0.0	37.5	12.5	37.5	25.0	0.0
70～74歳	26	23.1	11.5	0.0	15.4	7.7	19.2	23.1	0.0
75～79歳	58	25.9	17.2	12.1	1.7	3.4	10.3	19.0	0.0
80～84歳	89	28.1	10.1	10.1	6.7	5.6	16.9	15.7	4.5
85～89歳	89	37.1	12.4	11.2	4.5	3.4	20.2	14.6	7.9
90歳以上	75	30.7	8.0	6.7	6.7	2.7	12.0	8.0	0.0

区分	町内会、育成会などの 地域活動	隣近所とお茶のみ	通所サービス利用 時の活動（デイサ ビスなど）	訪問サービス利用 時の活動（ヘルパ ーの訪問など）	テレビ・ラジオ	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	3.7	4.3	30.3	4.6	54.0	4.6	7.1	12.9
65～69歳	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0
70～74歳	7.7	0.0	19.2	3.8	53.8	0.0	7.7	23.1
75～79歳	1.7	3.4	17.2	1.7	51.7	0.0	13.8	15.5
80～84歳	3.4	4.5	22.5	2.2	53.9	5.6	7.9	11.2
85～89歳	5.6	6.7	36.0	7.9	56.2	7.9	3.4	10.1
90歳以上	2.7	4.0	49.3	4.0	57.3	5.3	6.7	9.3

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2から要介護4まで要介護度が上がるほど「家族との団らん」の割合が高く、「外出（買い物・映画等）」の割合が低く、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「通所サービス利用時の活動（デイサービスなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

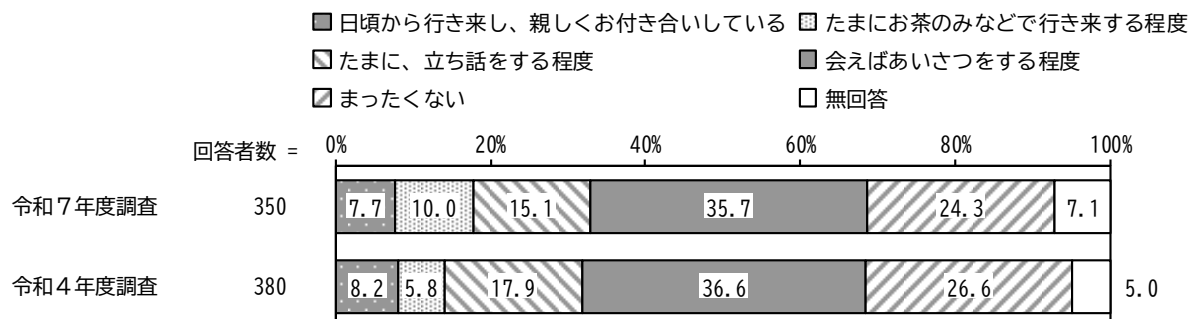
区分	回答者数 (件)	家族との団らん	趣味・習い事	運動	旅行・ドライブ	美容・おしゃれに 関すること	外出（買い物・映画 等）	友人・仲間と過ごす 時間	老人クラブ活動
全 体	350	30.6	11.4	8.9	6.6	4.3	16.3	15.4	3.1
要支援1	83	26.5	12.0	7.2	6.0	2.4	16.9	21.7	3.6
要支援2	68	23.5	13.2	10.3	8.8	4.4	23.5	16.2	7.4
要介護1	63	30.2	11.1	6.3	4.8	6.3	17.5	7.9	0.0
要介護2	62	35.5	11.3	11.3	6.5	6.5	14.5	16.1	3.2
要介護3	23	47.8	13.0	13.0	13.0	0.0	8.7	17.4	0.0
要介護4	18	55.6	0.0	0.0	5.6	11.1	5.6	5.6	0.0
要介護5	13	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0

区分	町内会、育成会など の地域活動	隣近所とお茶の み	通所サービス利用 時の活動（デイサ ービスなど）	訪問サービス利用 時の活動（ヘルパ ーの訪問など）	テレビ・ラジオ	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	3.7	4.3	30.3	4.6	54.0	4.6	7.1	12.9
要支援1	4.8	4.8	16.9	2.4	56.6	3.6	8.4	13.3
要支援2	4.4	10.3	23.5	2.9	52.9	10.3	2.9	13.2
要介護1	0.0	1.6	33.3	1.6	52.4	3.2	9.5	11.1
要介護2	8.1	3.2	46.8	4.8	58.1	1.6	6.5	11.3
要介護3	0.0	0.0	60.9	13.0	47.8	8.7	8.7	8.7
要介護4	0.0	5.6	55.6	16.7	66.7	5.6	5.6	0.0
要介護5	0.0	0.0	0.0	15.4	46.2	0.0	7.7	38.5

問 19 ご本人（要介護者）は、隣近所または地域の方と、どのようなお付き合いをしていますか。（○は1つ）

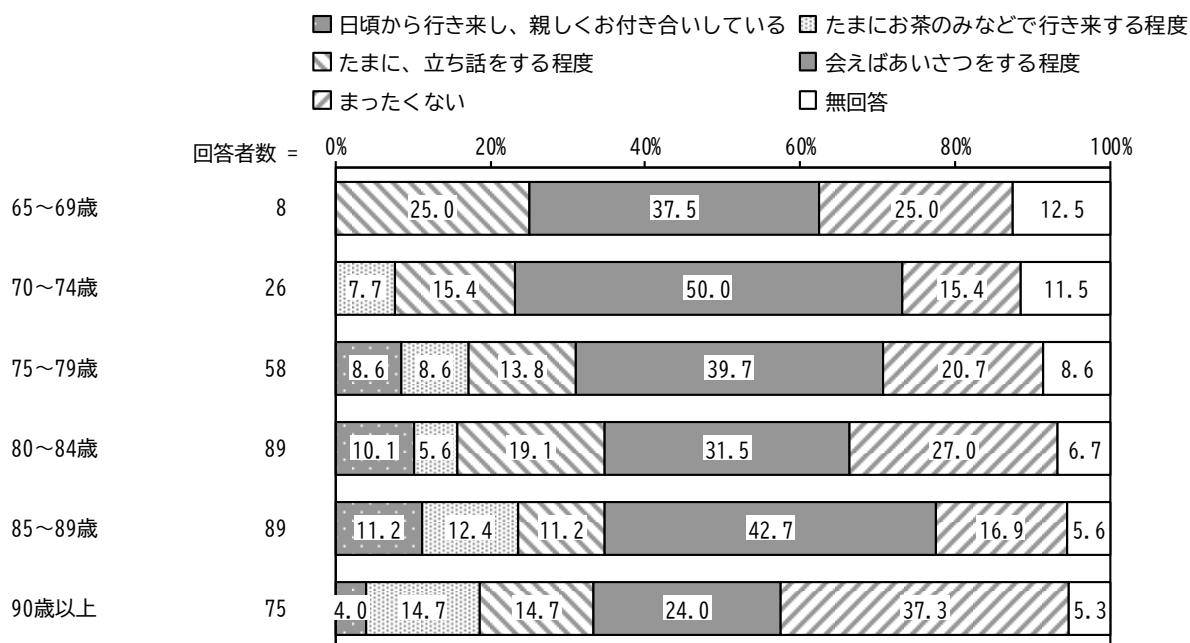
「会えばあいさつをする程度」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「まったくない」の割合が 24.3%、「たまに、立ち話をする程度」の割合が 15.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



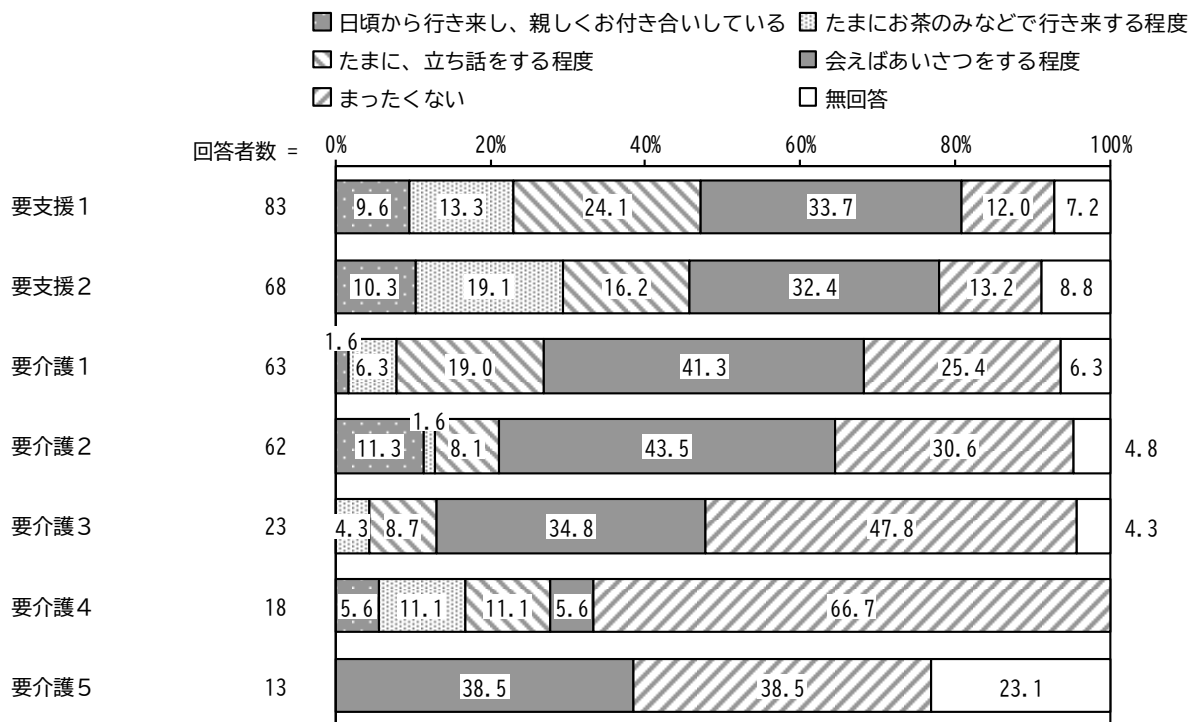
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「たまにお茶のみなどで行き来する程度」の割合が高い傾向にあり、70～74歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「日頃から行き来し、親しくお付き合いしている」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「会えばあいさつをする程度」、90歳以上で「まったくない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

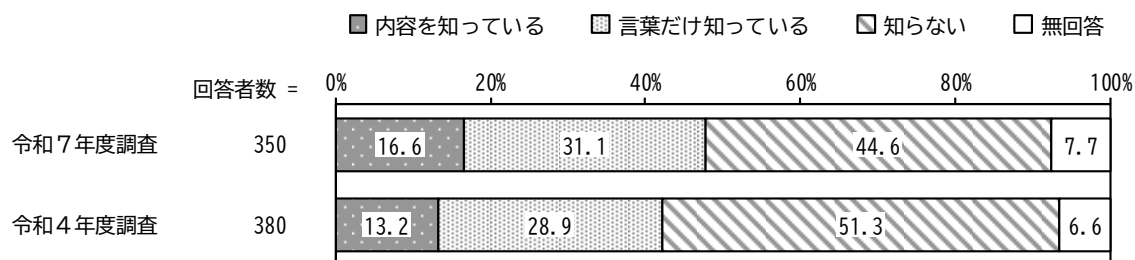
要介護度別にみると、要支援1から要介護4まで要介護度が上がるほど「まったくない」の割合が高くなっています。



問 20 ご本人（要介護者）は、「成年後見制度」について、知っていますか。（○は1つ）

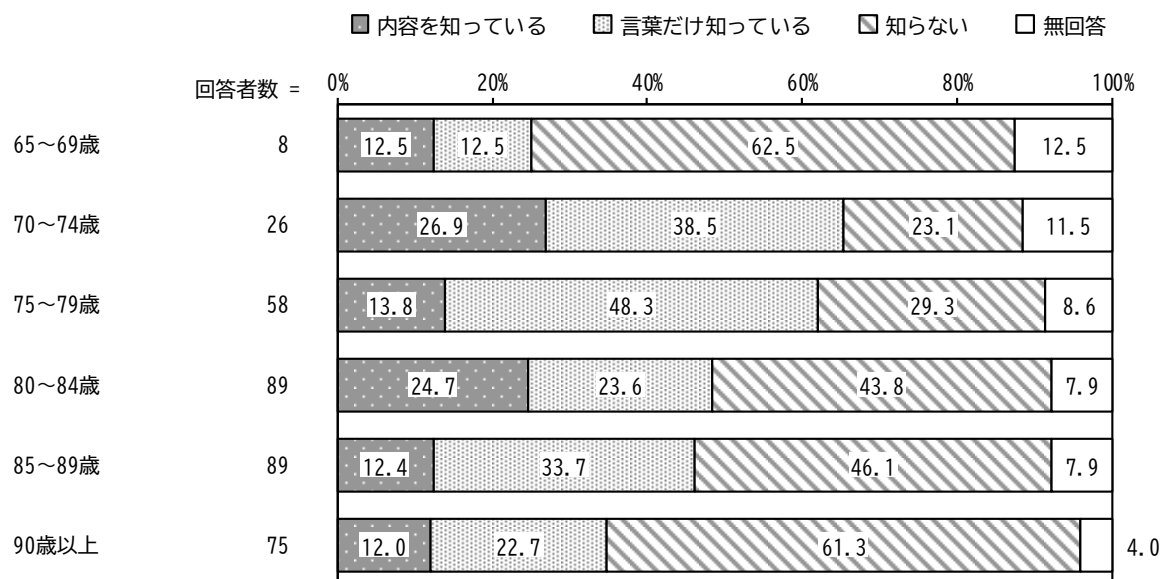
「内容を知っている」の割合が 16.6%、「言葉だけ知っている」の割合が 31.1%、「知らない」の割合が 44.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



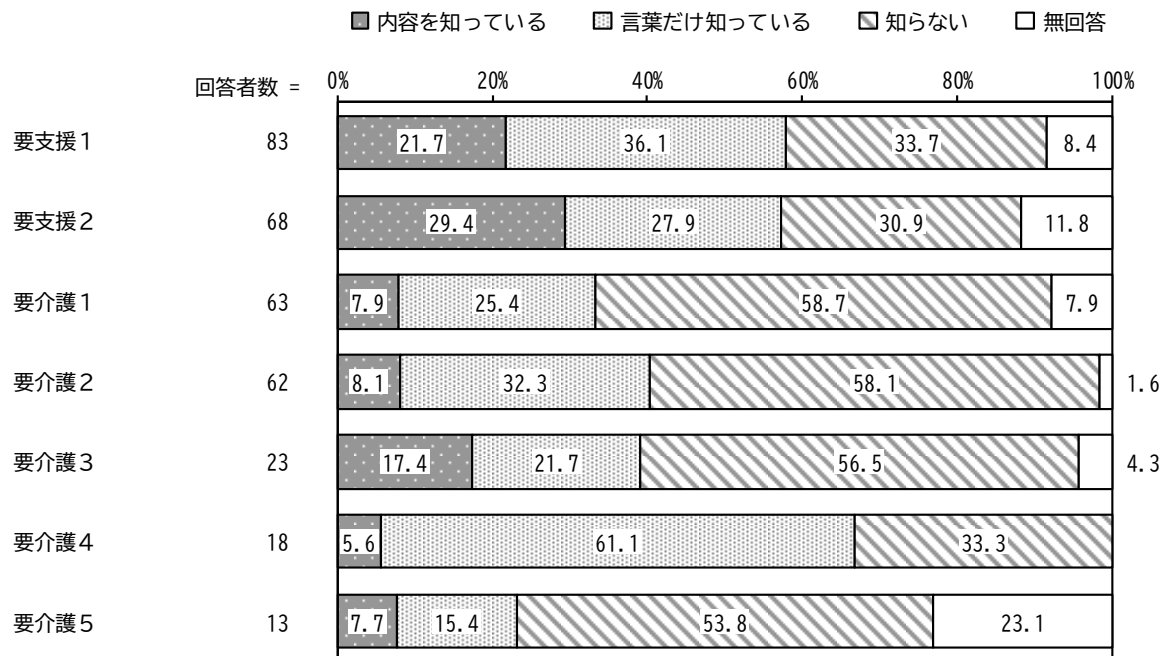
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「知らない」の割合が高くなっています。
また、70～74歳で「内容を知っている」、75～79歳で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



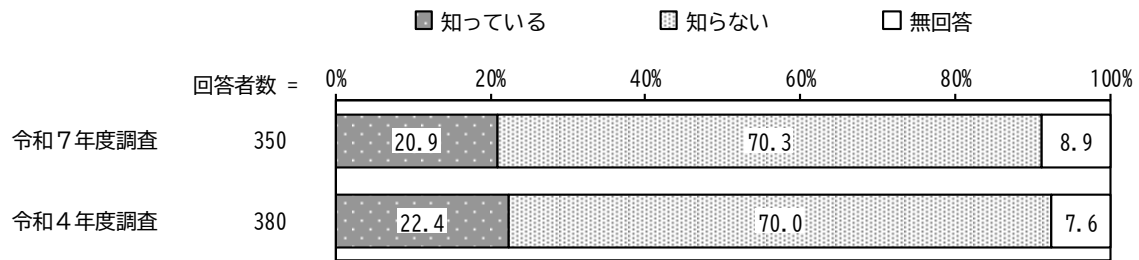
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2で「内容を知っている」、要介護4で「言葉だけ知っている」、要介護1、要介護2、要介護3で「知らない」の割合が高くなっています。



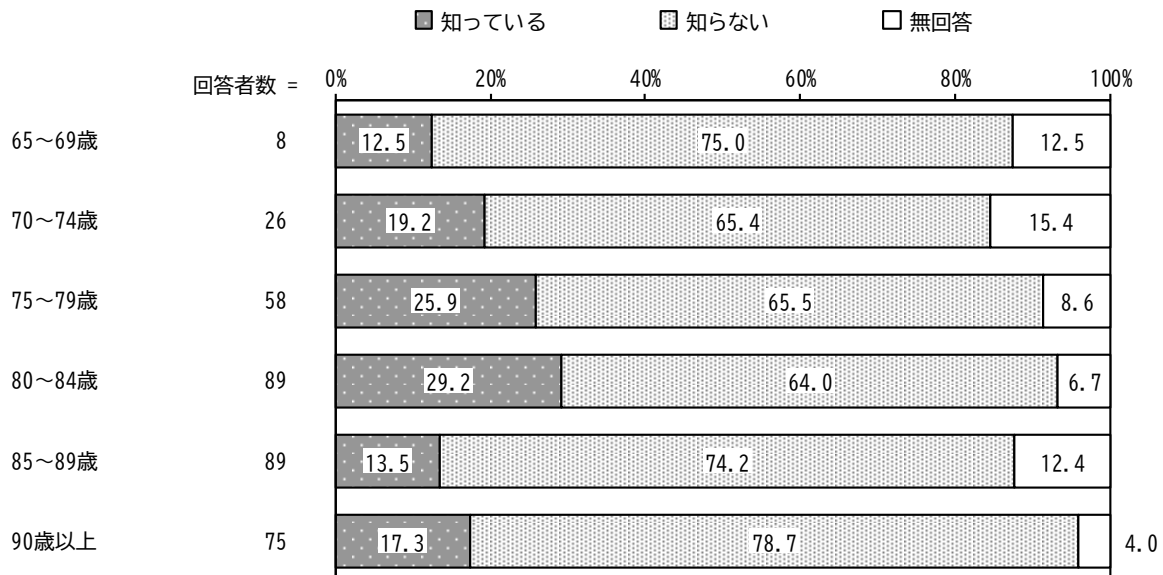
問 21 「成年後見制度」の相談先を、知っていますか。(○は1つ)

「知っている」の割合が 20.9%、「知らない」の割合が 70.3%となっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

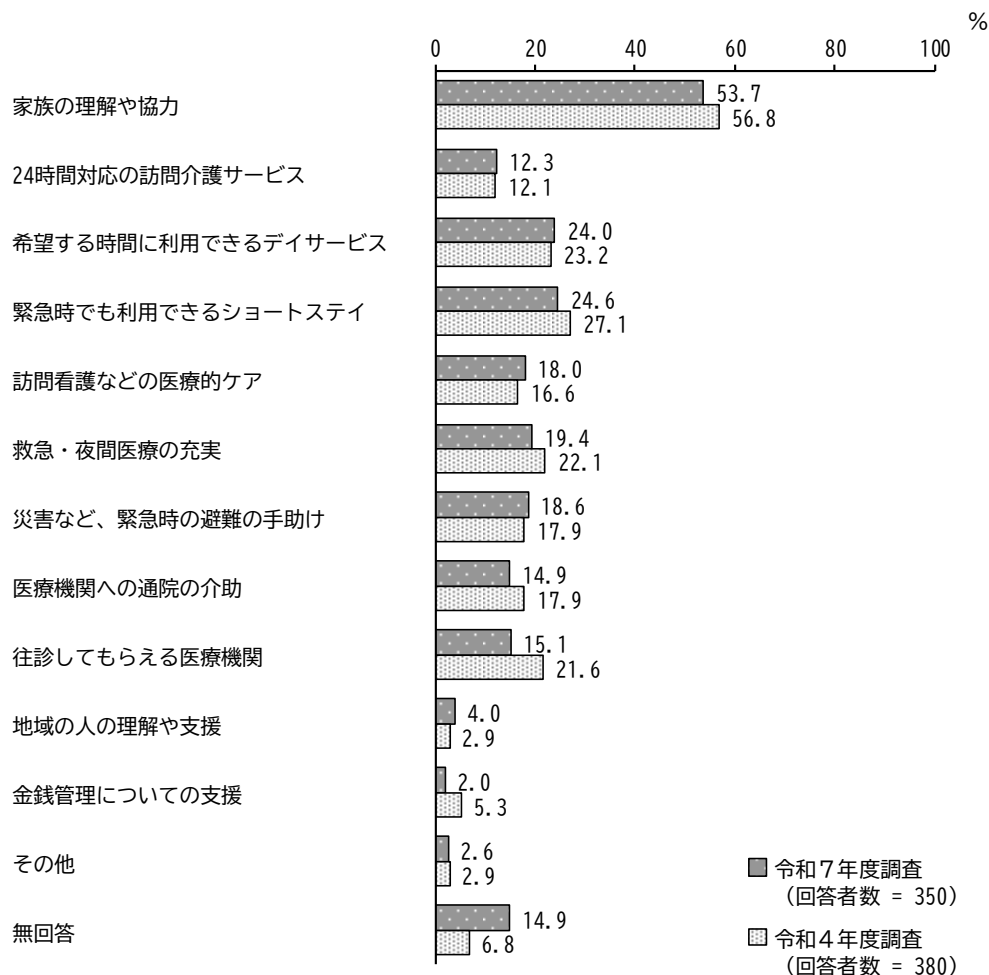
年齢別にみると、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「知っている」の割合が高くなっています。



問 22 ご本人（要介護者）が、ご自宅で生活をするために、どのような支援やサービスが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「家族の理解や協力」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「緊急時でも利用できるショートステイ」の割合が 24.6%、「希望する時間に利用できるデイサービス」の割合が 24.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「往診してもらえ医療機関」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「希望する時間に利用できるデイサービス」「訪問看護などの医療的ケア」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の 理解や協力	24時間 対応の訪問 介護サービス	希望する 時間に利用 できるデイ サービス	緊急時でも 利用できる ショートステイ	訪問看護 などの医療 的ケア	救急・夜間 医療の充 実	災害など、 緊急時の 避難の手 助け	医療機関 への通院 の介助	往診して もらえる医 療機関	地域の人の 理解や支 援	金銭管理 についての 支援	その他	無回答
全 体	350	53.7	12.3	24.0	24.6	18.0	19.4	18.6	14.9	15.1	4.0	2.0	2.6	14.9
65～69歳	8	62.5	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0
70～74歳	26	38.5	11.5	7.7	19.2	11.5	26.9	15.4	7.7	15.4	3.8	0.0	11.5	26.9
75～79歳	58	48.3	10.3	20.7	25.9	13.8	15.5	22.4	19.0	19.0	3.4	1.7	3.4	17.2
80～84歳	89	56.2	12.4	18.0	25.8	18.0	21.3	19.1	9.0	9.0	7.9	2.2	2.2	13.5
85～89歳	89	56.2	7.9	30.3	20.2	20.2	20.2	15.7	23.6	15.7	3.4	2.2	0.0	12.4
90歳以上	75	56.0	20.0	32.0	32.0	22.7	18.7	18.7	13.3	20.0	1.3	1.3	2.7	10.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1から要介護4まで要介護度が上がるほど「往診してもらえる医療機関」の割合が高く、要介護度が上がるほど「家族の理解や協力」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の理解や協力	24時間対応の訪問介護サービス	希望する時間に利用できる デイサービス	緊急時でも利用できる ショートステイ	訪問看護などの医療 的ケア	救急・夜間医療の充 実	災害など、緊急時の 避難の手助け	医療機関への通院の 介助	往診してもらえる医 療機関	地域の人の理解や支 援	金銭管理についての 支援	その他	無回答
全 体	350	53.7	12.3	24.0	24.6	18.0	19.4	18.6	14.9	15.1	4.0	2.0	2.6	14.9
要支援1	83	50.6	6.0	20.5	14.5	14.5	22.9	19.3	16.9	6.0	8.4	3.6	3.6	18.1
要支援2	68	54.4	13.2	19.1	16.2	14.7	22.1	19.1	16.2	11.8	4.4	1.5	1.5	16.2
要介護1	63	58.7	14.3	28.6	34.9	17.5	17.5	19.0	11.1	14.3	3.2	0.0	1.6	11.1
要介護2	62	56.5	12.9	33.9	33.9	21.0	12.9	16.1	19.4	21.0	1.6	1.6	0.0	9.7
要介護3	23	60.9	8.7	30.4	34.8	17.4	13.0	26.1	17.4	21.7	0.0	0.0	4.3	13.0
要介護4	18	50.0	33.3	27.8	50.0	33.3	33.3	11.1	5.6	27.8	0.0	0.0	5.6	0.0
要介護5	13	30.8	23.1	0.0	0.0	46.2	7.7	23.1	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0	38.5

【圏域別】

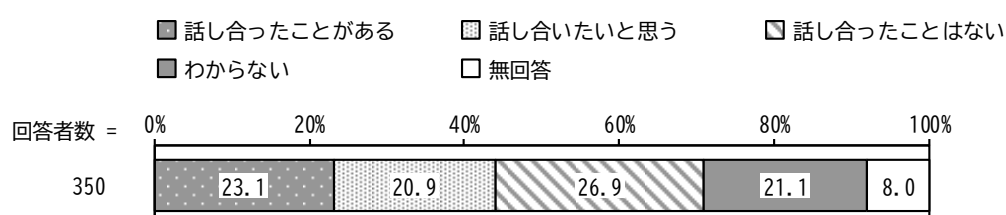
圏域別にみると、東向陽台・成田圏域で「救急・夜間医療の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族の理解や協力	24時間対応の訪問介護サービス	希望する時間に利用できるデイサービス	緊急時でも利用できるショートステイ	訪問看護などの医療的ケア	救急・夜間医療の充実	避難の手助け	災害など、緊急時の介助	医療機関への通院の介助	往診してもらえる医療機関	地域の人の理解や支援	金銭管理についての支援	その他	無回答
全 体	350	53.7	12.3	24.0	24.6	18.0	19.4	18.6	14.9	15.1	4.0	2.0	2.6	14.9	
東向陽台・成田圏域	130	53.8	8.5	27.7	26.2	20.8	25.4	14.6	16.9	14.6	2.3	1.5	1.5	15.4	
富ヶ丘・日吉台圏域	89	52.8	13.5	22.5	29.2	18.0	19.1	22.5	12.4	14.6	6.7	1.1	5.6	7.9	
富谷中央・あけの平圏域	108	55.6	16.7	23.1	20.4	13.9	13.0	19.4	13.9	16.7	3.7	2.8	1.9	18.5	

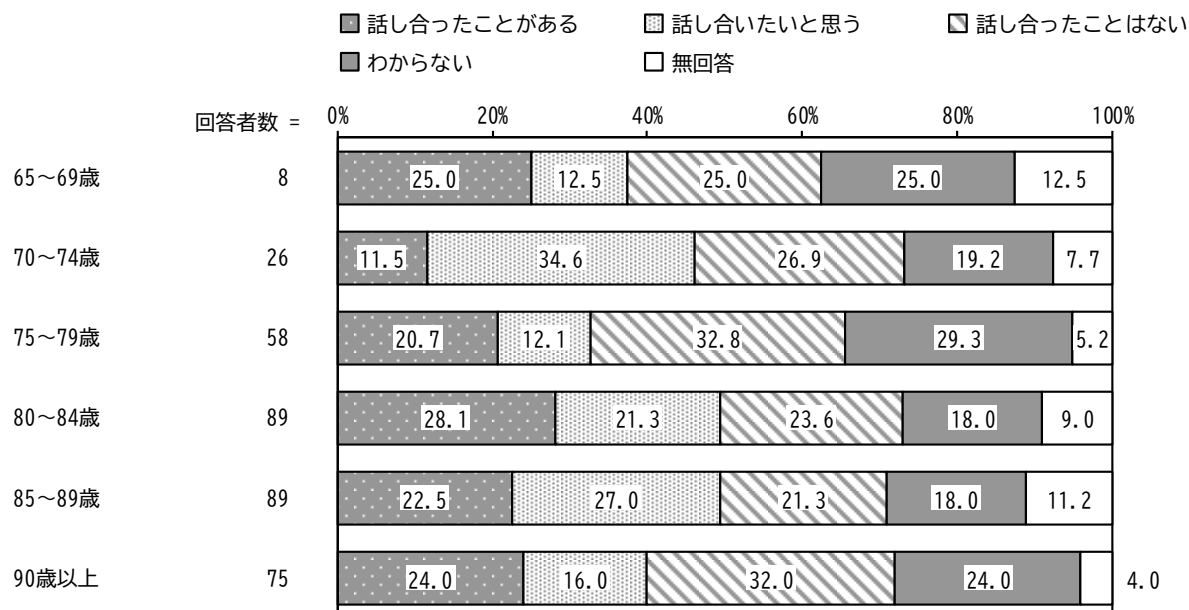
問 23 ご本人（要介護者）は「人生会議」で、人生の最終段階の医療やケアについて、あらかじめ家族や医療・介護関係者と話し合いたいと思いますか。（○は1つ）

「話し合ったことがある」の割合が23.1%、「話し合いたいと思う」の割合が20.9%、「話し合ったことはない」の割合が26.9%となっています。



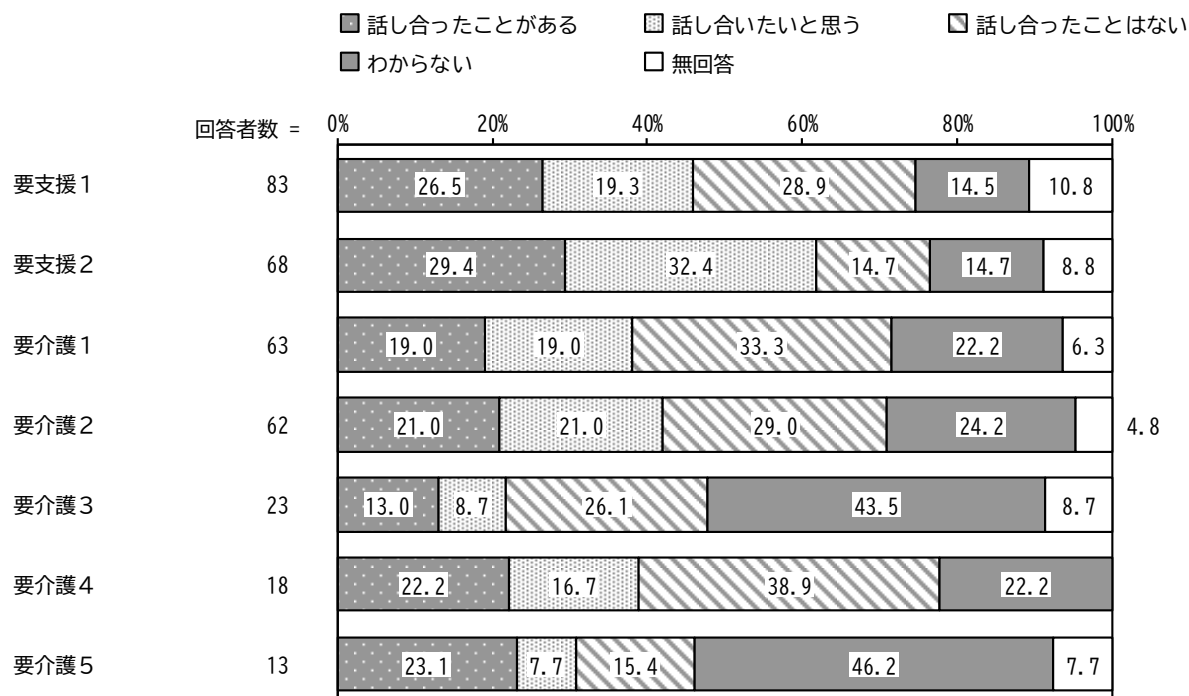
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「話し合いたいと思う」の割合が高く、「話し合ったことがある」の割合が低くなっています。



【要介護度別】

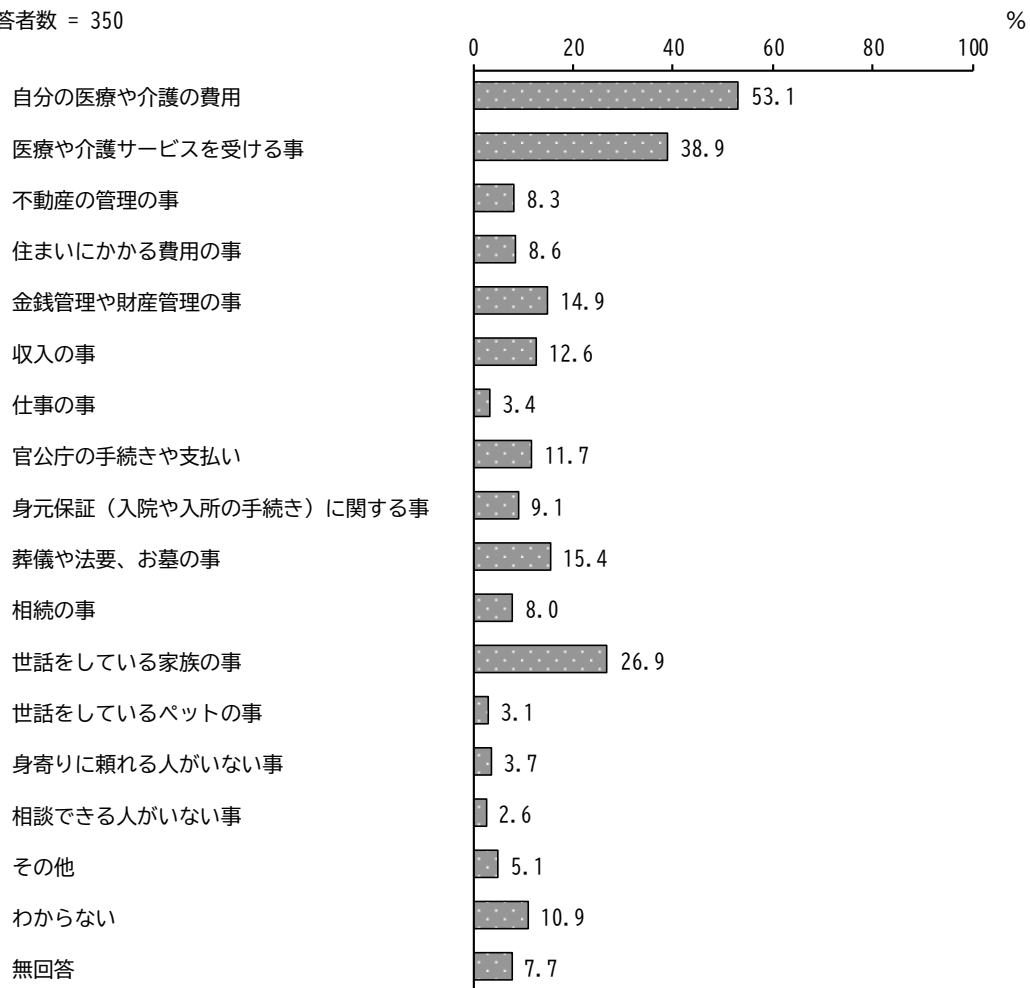
要介護度別にみると、要支援2で「話し合いたいと思う」、要介護4で「話し合ったことはない」の割合が高くなっています。



問 24 もしあなたが病気や加齢により判断能力が低下した時、安心した生活を送るうえで、気になっていることや心配なことがあれば、教えてください。(〇はいくつでも)

「自分の医療や介護の費用」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「医療や介護サービスを受ける事」の割合が 38.9%、「世話をしている家族の事」の割合が 26.9%となっています。

回答者数 = 350



【年齢別】

年齢別にみると、90歳以上から70～74歳まで年齢が下がるほど「金銭管理や財産管理の事」「相続の事」の割合が高い傾向にあり、80～84歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「医療や介護サービスを受ける事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにか かる費用の事	金銭管理 や財産管 理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の手続き や支払い	身元保証(入院や入 所の手続き)に関 する事
全 体	350	53.1	38.9	8.3	8.6	14.9	12.6	3.4	11.7	9.1
65～69歳	8	50.0	50.0	0.0	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0
70～74歳	26	50.0	42.3	23.1	3.8	19.2	15.4	7.7	15.4	11.5
75～79歳	58	51.7	34.5	6.9	12.1	15.5	15.5	5.2	12.1	13.8
80～84歳	89	51.7	30.3	9.0	7.9	18.0	9.0	2.2	13.5	7.9
85～89歳	89	59.6	43.8	5.6	10.1	14.6	12.4	2.2	7.9	5.6
90歳以上	75	49.3	42.7	8.0	4.0	9.3	10.7	4.0	12.0	10.7

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているパ ートの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	15.4	8.0	26.9	3.1	3.7	2.6	5.1	10.9	7.7
65～69歳	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5
70～74歳	23.1	15.4	19.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
75～79歳	12.1	10.3	25.9	5.2	5.2	5.2	6.9	15.5	6.9
80～84歳	15.7	6.7	31.5	4.5	3.4	1.1	6.7	11.2	5.6
85～89歳	15.7	7.9	29.2	3.4	4.5	2.2	4.5	6.7	11.2
90歳以上	16.0	5.3	24.0	0.0	4.0	4.0	4.0	14.7	6.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護3で「自分の医療や介護の費用」「身元保証（入院や入所の手続き）に関する事」「相続の事」「身寄りに頼れる人がいない事」、要介護1、要介護2、要介護5で「医療や介護サービスを受ける事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにかか る費用	金銭管理や財産管 理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の手続きや 支払い	身元保証（入院や入 所の手続き）に関す る事
全 体	350	53.1	38.9	8.3	8.6	14.9	12.6	3.4	11.7	9.1
要支援1	83	55.4	30.1	9.6	6.0	14.5	13.3	1.2	8.4	7.2
要支援2	68	55.9	36.8	10.3	10.3	14.7	13.2	0.0	14.7	5.9
要介護1	63	46.0	46.0	6.3	7.9	20.6	7.9	1.6	11.1	9.5
要介護2	62	54.8	45.2	3.2	3.2	8.1	12.9	8.1	6.5	11.3
要介護3	23	60.9	43.5	13.0	8.7	17.4	13.0	4.3	8.7	17.4
要介護4	18	44.4	27.8	0.0	5.6	11.1	5.6	0.0	11.1	5.6
要介護5	13	38.5	46.2	15.4	15.4	7.7	15.4	7.7	23.1	7.7

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているペ ットの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	15.4	8.0	26.9	3.1	3.7	2.6	5.1	10.9	7.7
要支援1	10.8	7.2	28.9	3.6	1.2	1.2	4.8	3.6	10.8
要支援2	10.3	8.8	26.5	2.9	1.5	2.9	2.9	8.8	7.4
要介護1	20.6	9.5	11.1	4.8	4.8	0.0	1.6	22.2	6.3
要介護2	22.6	4.8	38.7	0.0	3.2	1.6	6.5	11.3	3.2
要介護3	8.7	13.0	26.1	0.0	13.0	8.7	4.3	17.4	4.3
要介護4	16.7	0.0	27.8	0.0	0.0	0.0	16.7	11.1	11.1
要介護5	15.4	7.7	30.8	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	15.4

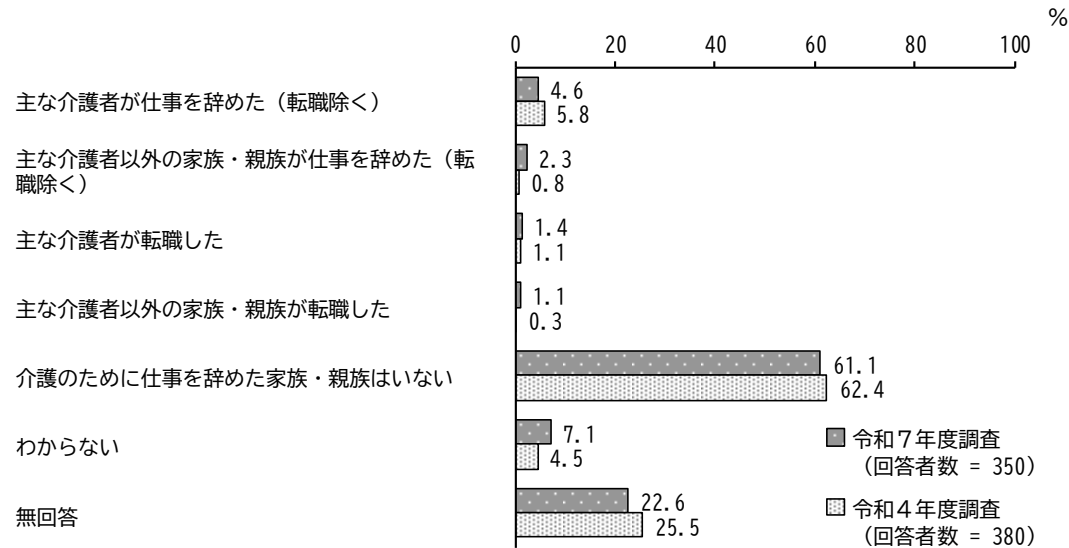
【調査結果のまとめ】

- 要介護度は「要支援1」が23.7%と最多で、軽度者が多く含まれています。
- 約75.7%が「施設等への入所は検討していない」とし、在宅継続の意向が強い状況です。
- 生活を続けるために必要な支援は「家族の理解や協力」(53.7%)に次いで、「緊急時のショートステイ」(24.6%)や「希望する時間のデイサービス」(24.0%)といった利便性の高いサービスが求められています。
- 特に、短期入所生活介護（ショートステイ）の利用状況をみると、令和4年度調査と比較して「月1～7日程度」の利用割合が増加しており、家族の休息や一時的な負担軽減を目的としたレスパイトの需要が増えていることがうかがえます。
- 医療・介護の連携による在宅療養体制の充実とともに、軽度期からの在宅生活継続を支えるため、家族のレスパイトを目的とした緊急時受入体制の拡充や、通所サービスの柔軟な運用の推進が課題です。
- あわせて、地域包括支援センターの機能を多角的に周知し、家族を孤立させない早期相談・早期支援の体制を強化していくことが必要です。

B票 主な介護者の方について、お伺いします

問1 ご家族や親族の方で、ご本人（要介護者）の介護のために、過去1年の間に仕事を辞めた方・転職された方はいますか。（〇はいくつでも）
（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が61.1%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全 体	350	4.6	2.3	1.4	1.1	61.1	7.1	22.6
65～69歳	8	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	25.0
70～74歳	26	7.7	0.0	0.0	0.0	61.5	15.4	15.4
75～79歳	58	6.9	0.0	1.7	0.0	70.7	1.7	19.0
80～84歳	89	3.4	2.2	1.1	1.1	56.2	3.4	32.6
85～89歳	89	2.2	2.2	0.0	1.1	58.4	9.0	27.0
90歳以上	75	5.3	5.3	4.0	1.3	66.7	8.0	10.7

【要介護度別】

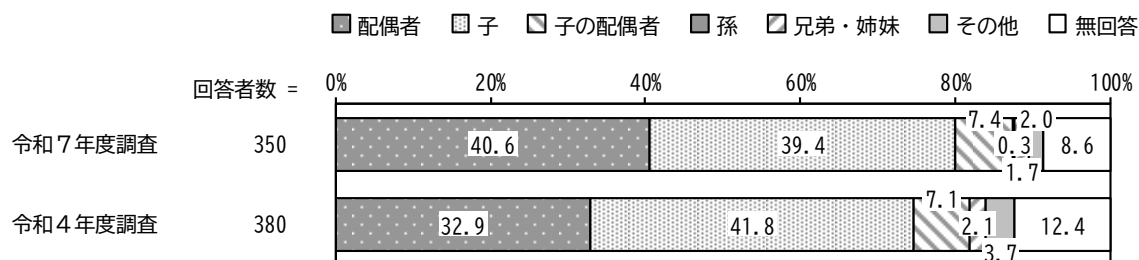
要介護度別にみると、要支援2から要介護4まで要介護度が上がるほど「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数（件）	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答
全 体	350	4.6	2.3	1.4	1.1	61.1	7.1	22.6
要支援1	83	3.6	0.0	0.0	0.0	60.2	6.0	30.1
要支援2	68	8.8	0.0	1.5	1.5	57.4	7.4	23.5
要介護1	63	0.0	1.6	3.2	1.6	73.0	6.3	14.3
要介護2	62	6.5	4.8	1.6	0.0	71.0	3.2	12.9
要介護3	23	8.7	4.3	4.3	0.0	52.2	8.7	21.7
要介護4	18	0.0	11.1	0.0	0.0	55.6	11.1	22.2
要介護5	13	7.7	7.7	0.0	7.7	53.8	15.4	15.4

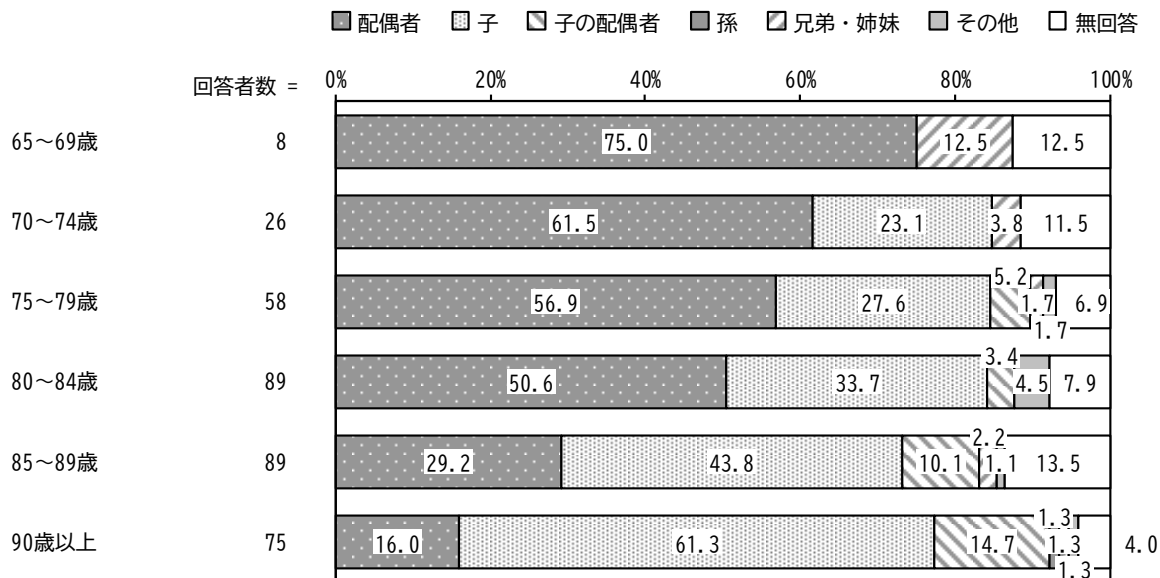
問2 主な介護者の方は、ご本人（要介護者）から見てどなたですか。（○は1つ）

「配偶者」の割合が40.6%と最も高く、次いで「子」の割合が39.4%となっています。



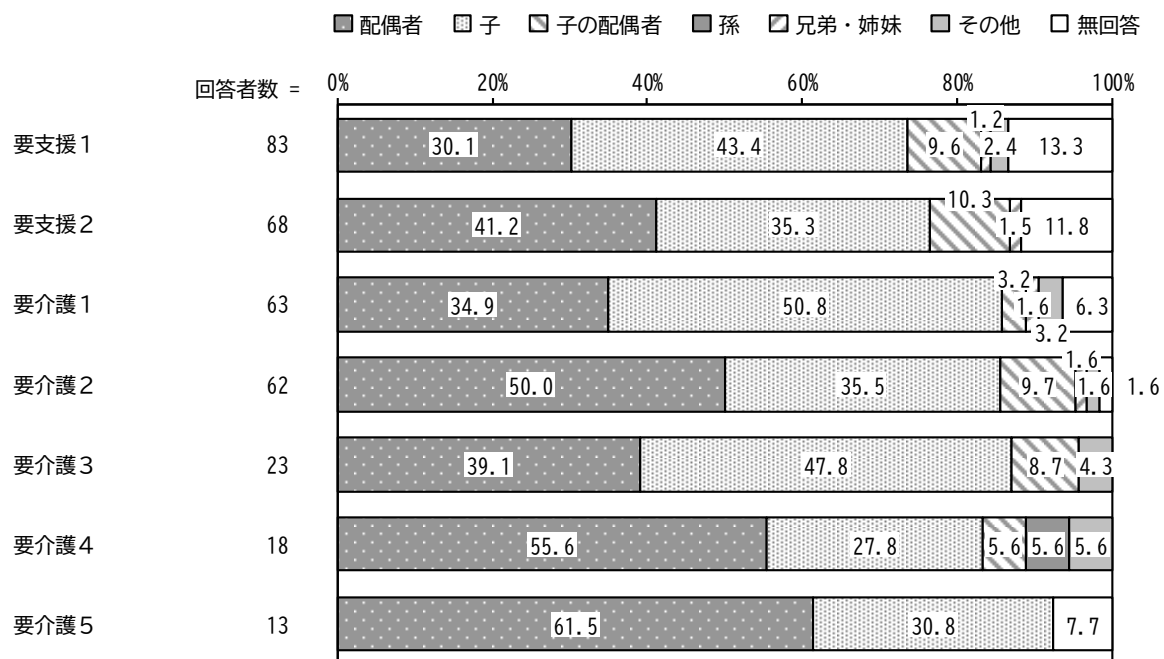
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「子」の割合が高く、「配偶者」の割合が低く、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「子の配偶者」の割合が高い傾向にあります。



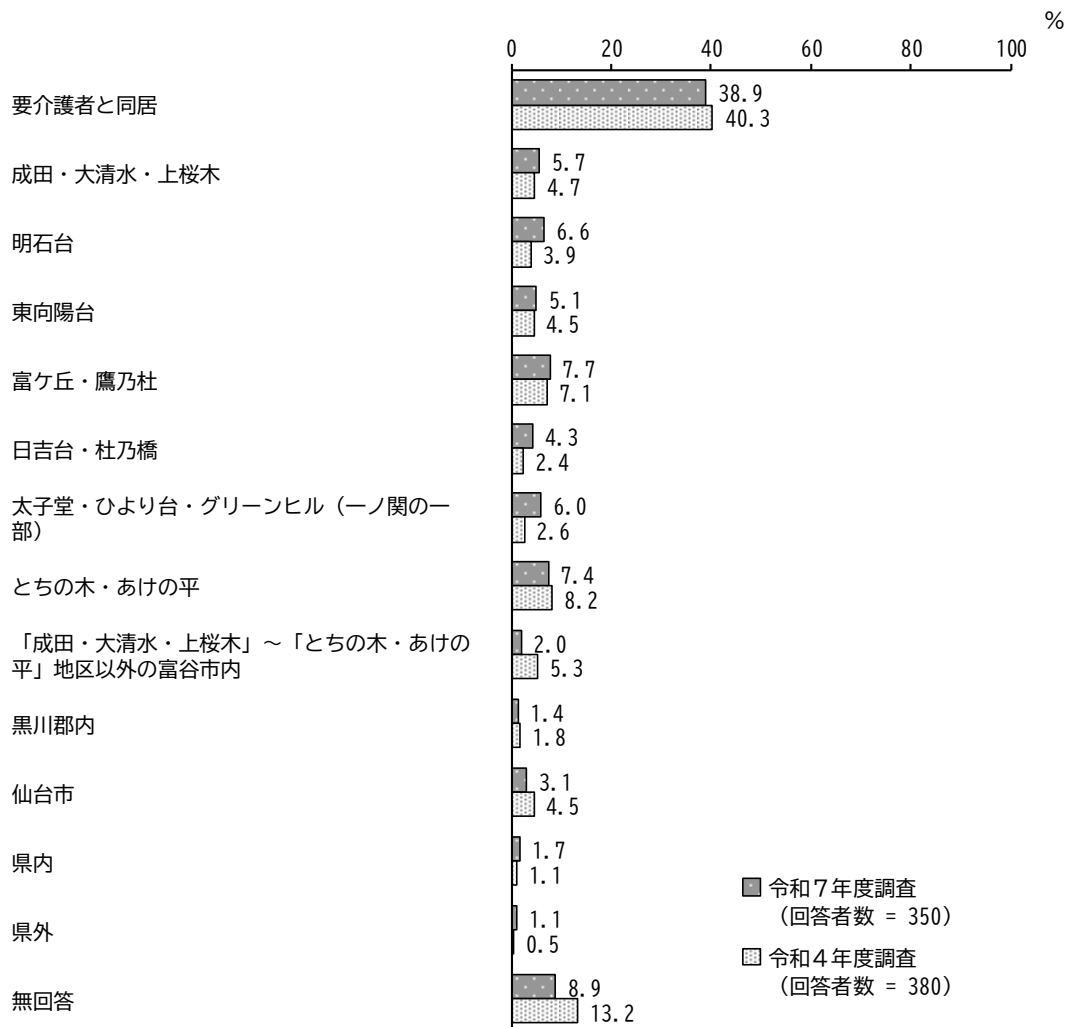
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護5で「配偶者」、要介護1、要介護3で「子」、要介護4で「孫」の割合が高くなっています。



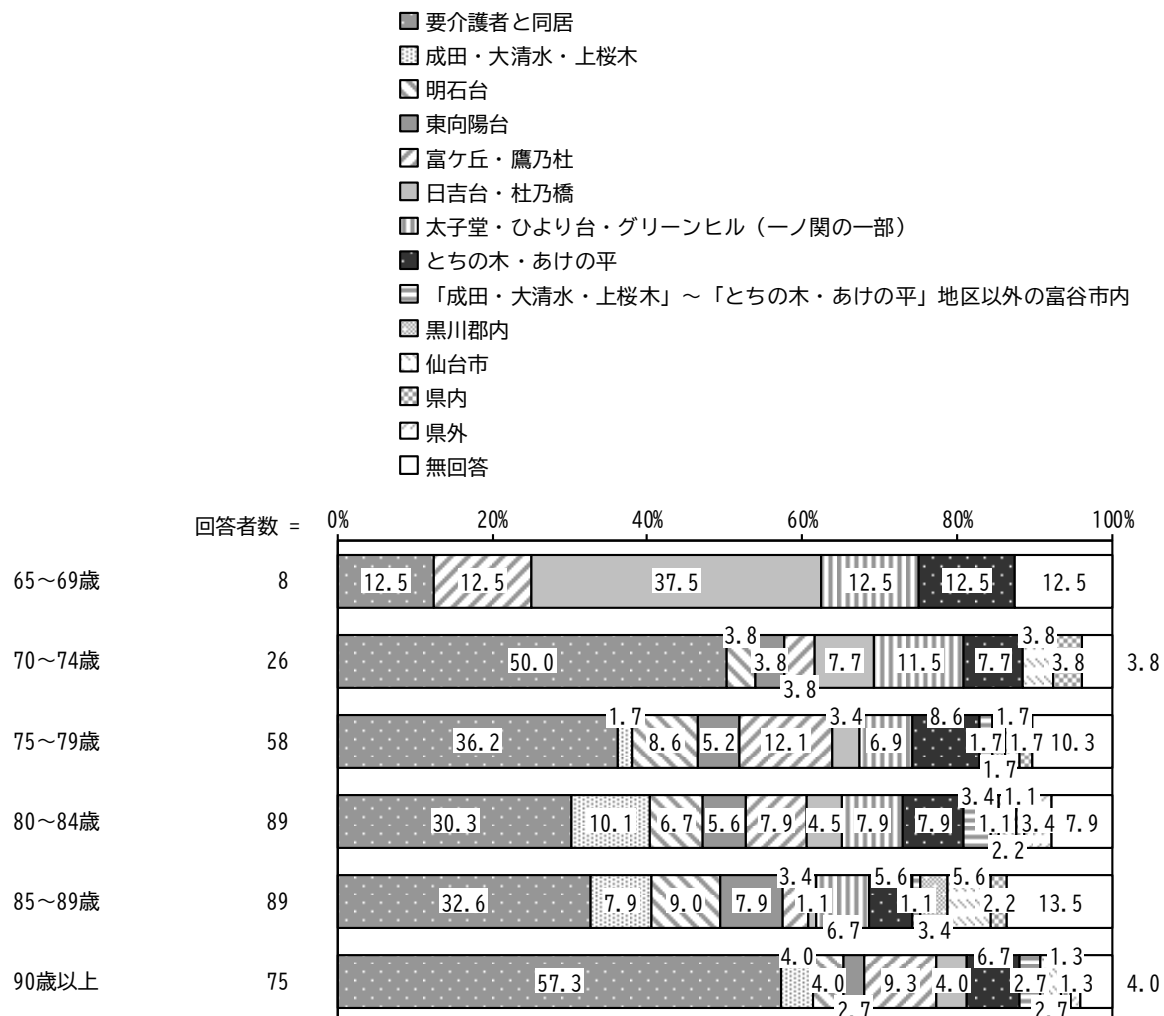
問3 主な介護者の方のお住まいの地区はどちらですか。(〇は1つ)

「要介護者と同居」の割合が 38.9%と最も高くなっています。
令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



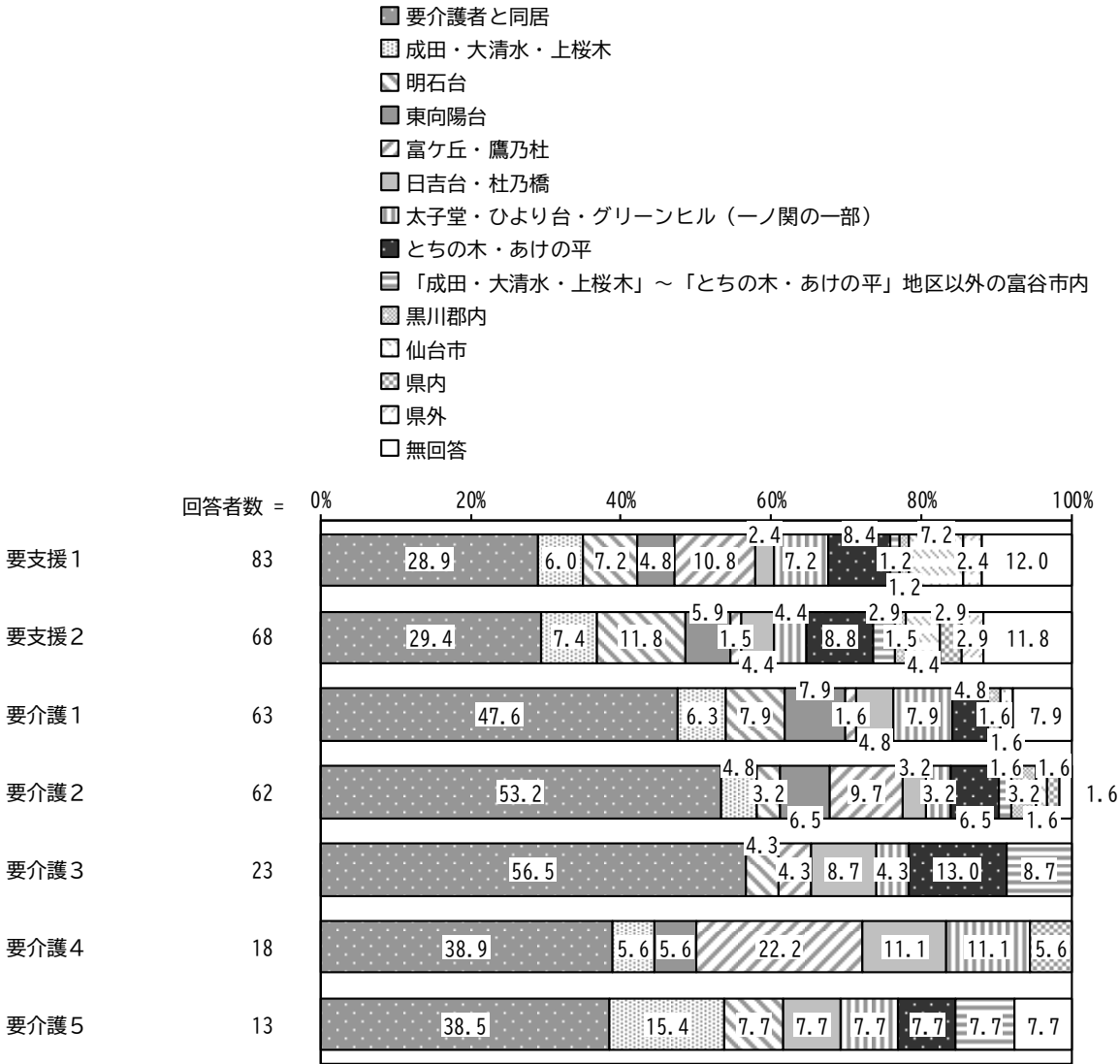
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「太子堂・ひより台・グリーンヒル（一ノ関の一部）」の割合が高い傾向にあります。また、90歳以上で「要介護者と同居」の割合が高くなっています。



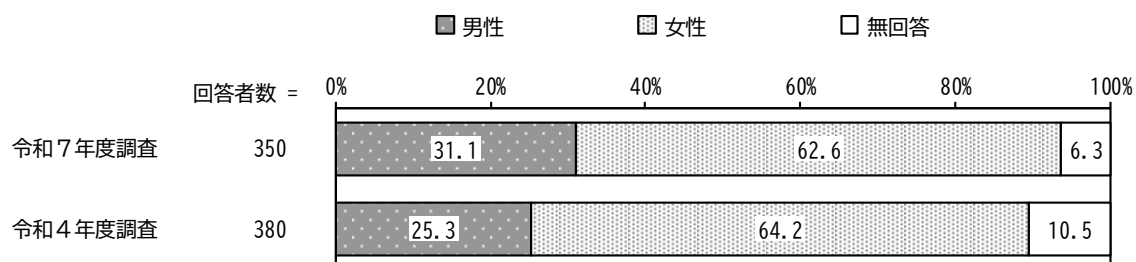
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護4から要支援2まで要介護度が下がるほど「明石台」の割合が高い傾向にあり、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「要介護者と同居」の割合が高くなっています。



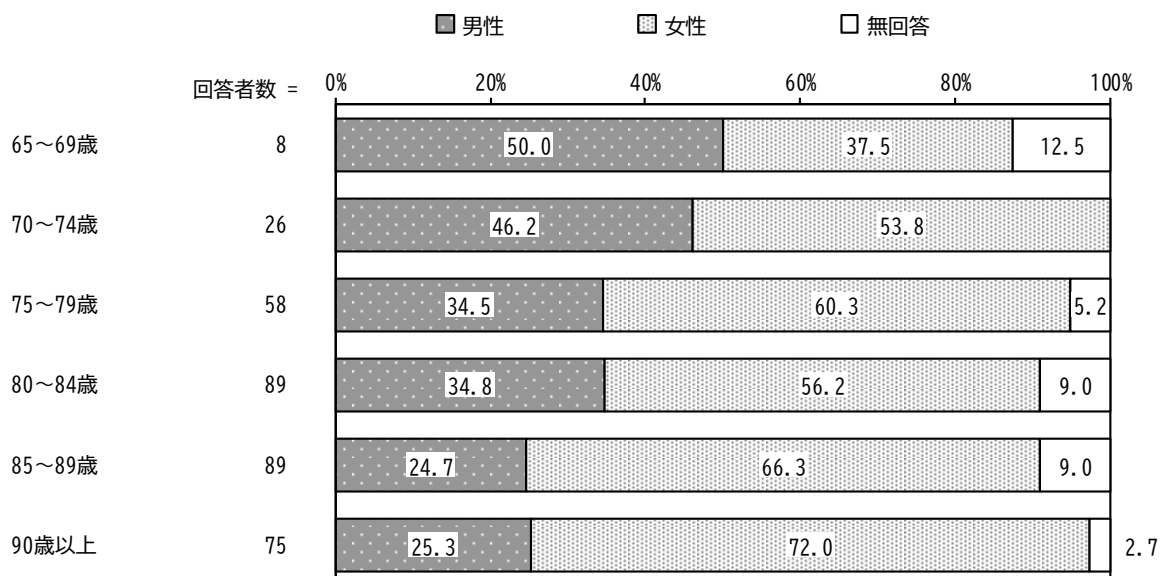
問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(〇は1つ)

「男性」の割合が 31.1%、「女性」の割合が 62.6%となっています。



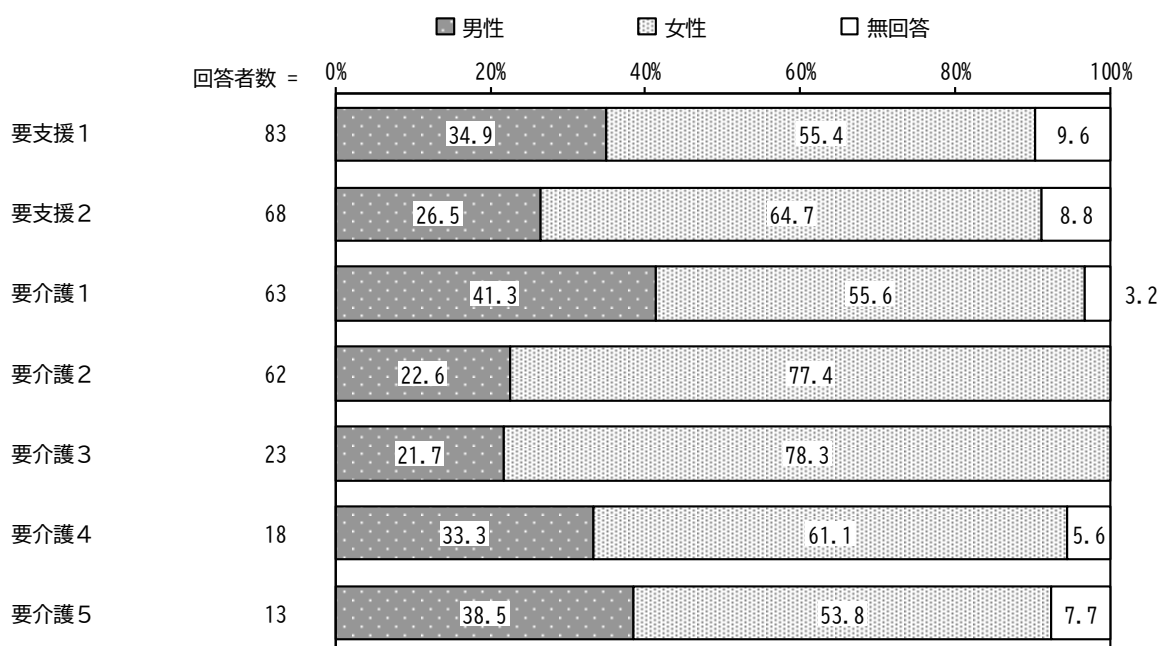
【年齢別】

年齢別にみると、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「男性」の割合が高い傾向にあります。



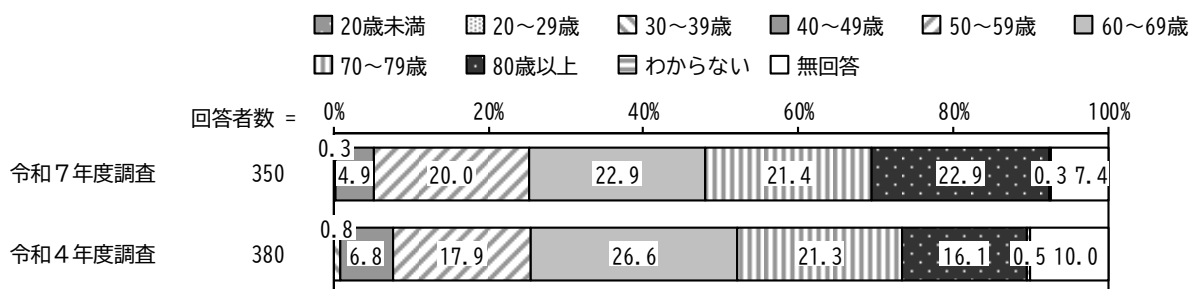
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護1で「男性」、要介護2、要介護3で「女性」の割合が高くなっています。



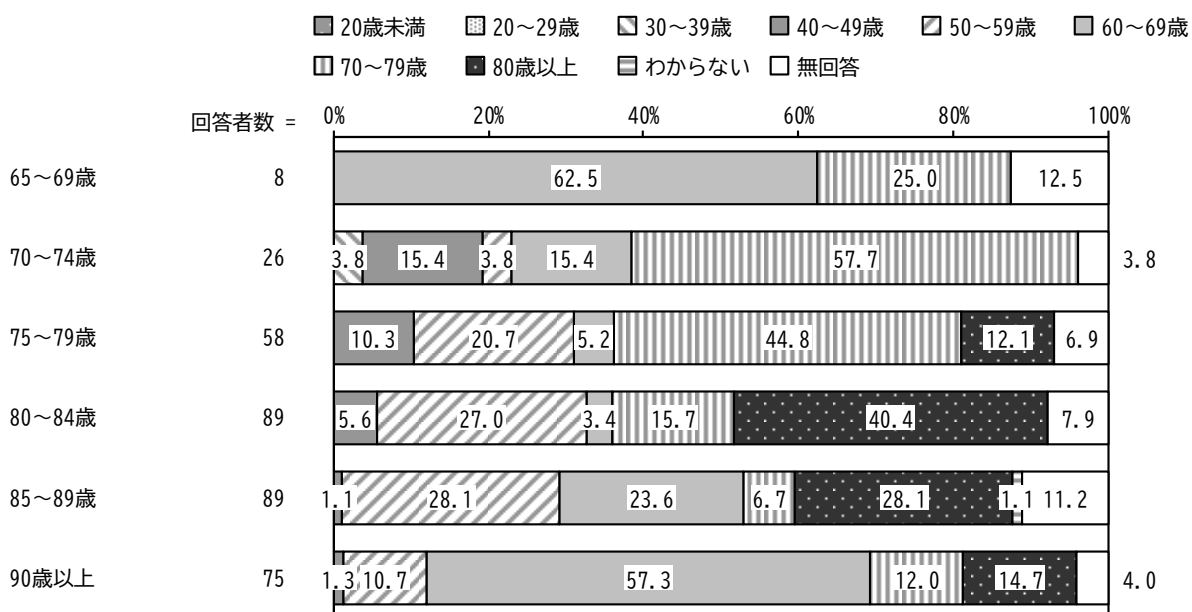
問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(〇は1つ)

「60～69 歳」、「80 歳以上」の割合が 22.9%と最も高く、次いで「70～79 歳」の割合が 21.4%となっています。令和4年度調査と比較すると、「80 歳以上」の割合が増加しています。



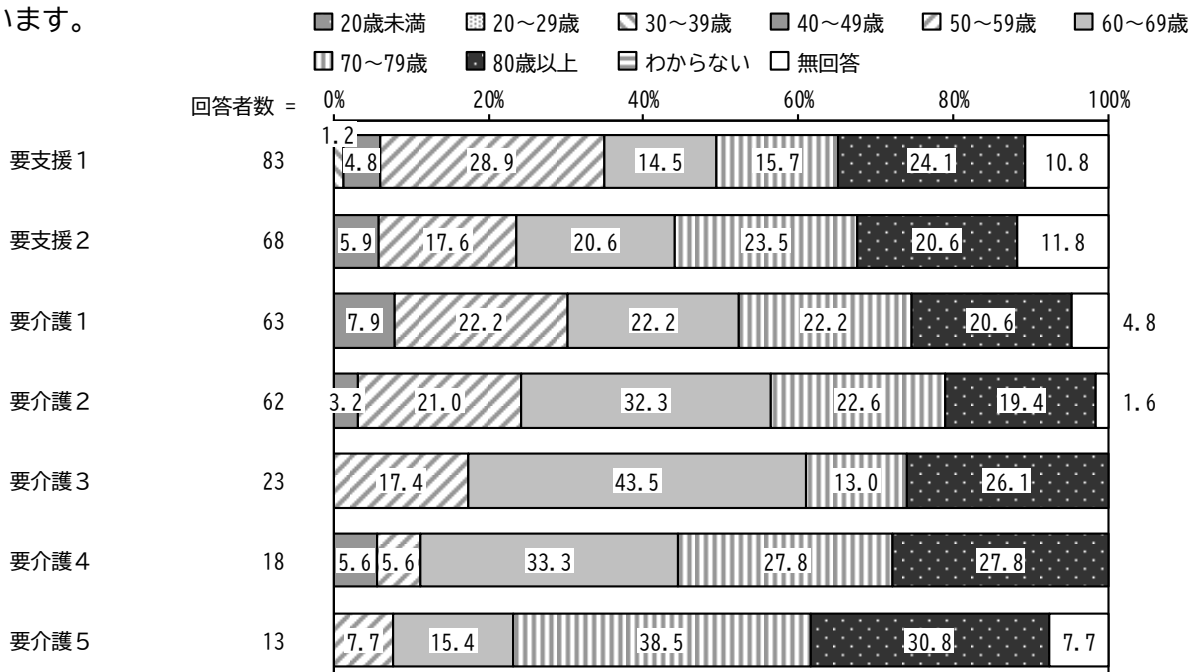
【年齢別】

年齢別にみると、65～69 歳から 85～89 歳まで年齢が上がるほど「50～59 歳」の割合が高く、85～89 歳から 70～74 歳まで年齢が下がるほど「40～49 歳」「70～79 歳」の割合が高くなっています。



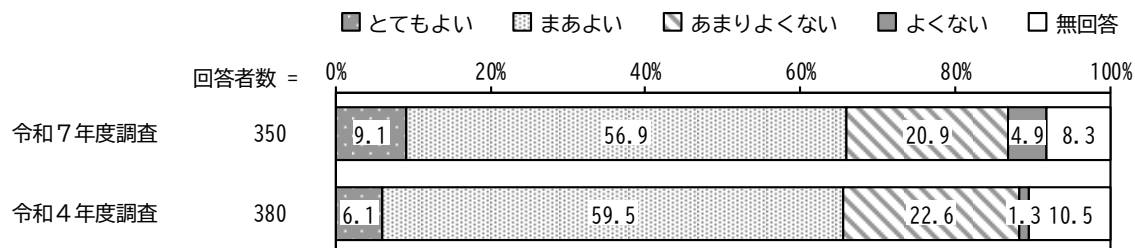
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1 から要介護3 まで要介護度が上がるほど「60～69 歳」の割合が高くなっています。



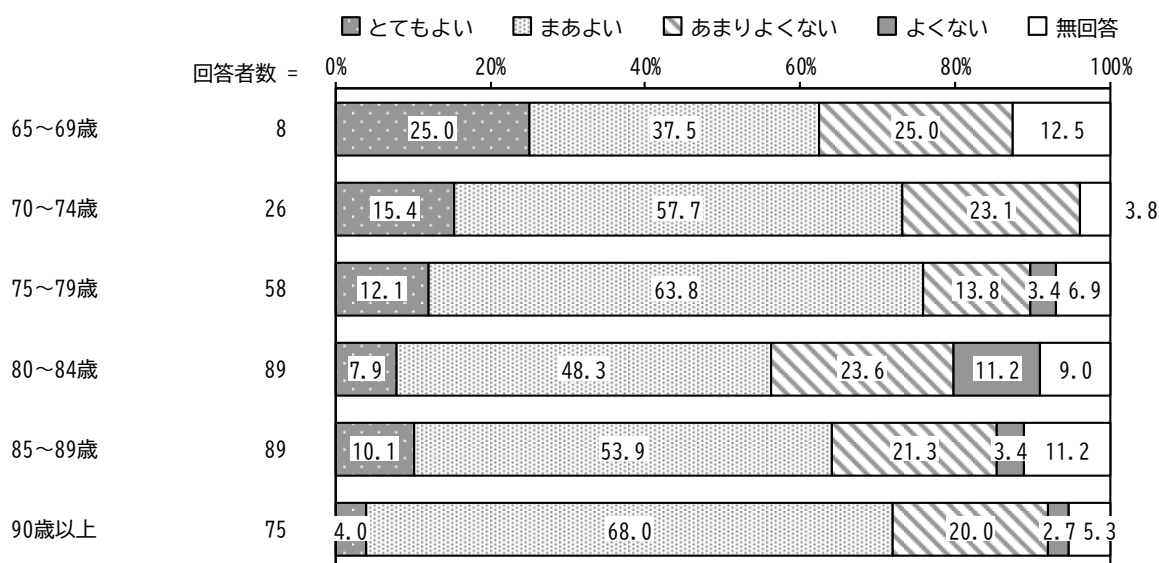
問6 現在の主な介護者の方の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”の割合が66.0%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”の割合が25.8%となっています。



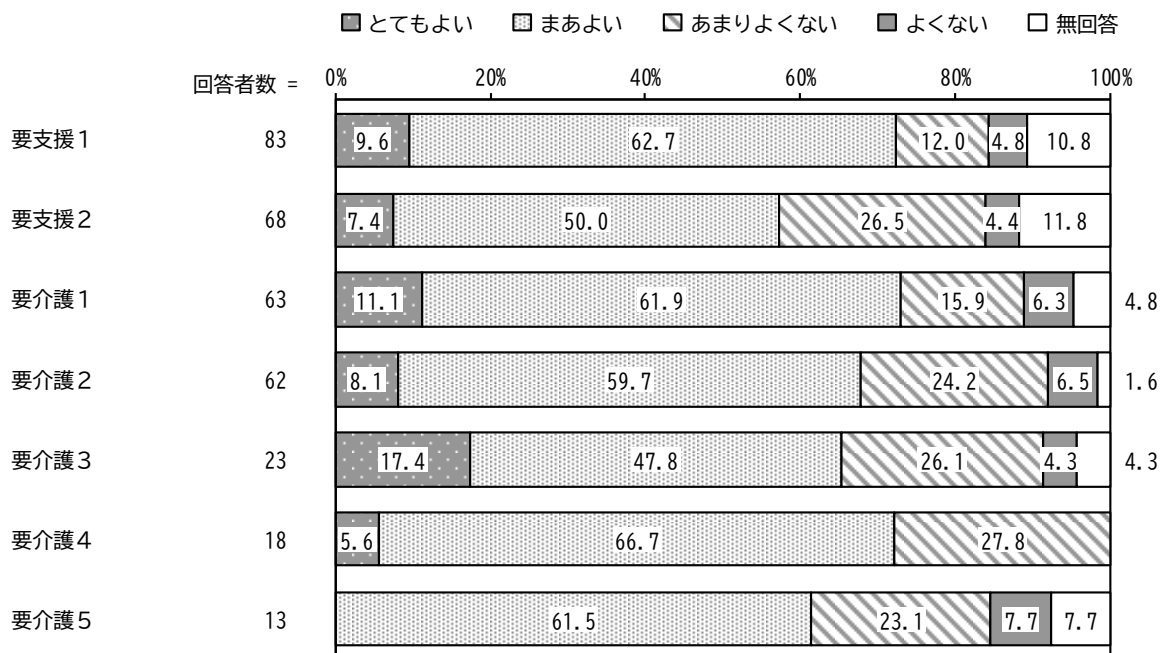
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「とてもよい」の割合が高い傾向にあります。また、90歳以上で「まあよい」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

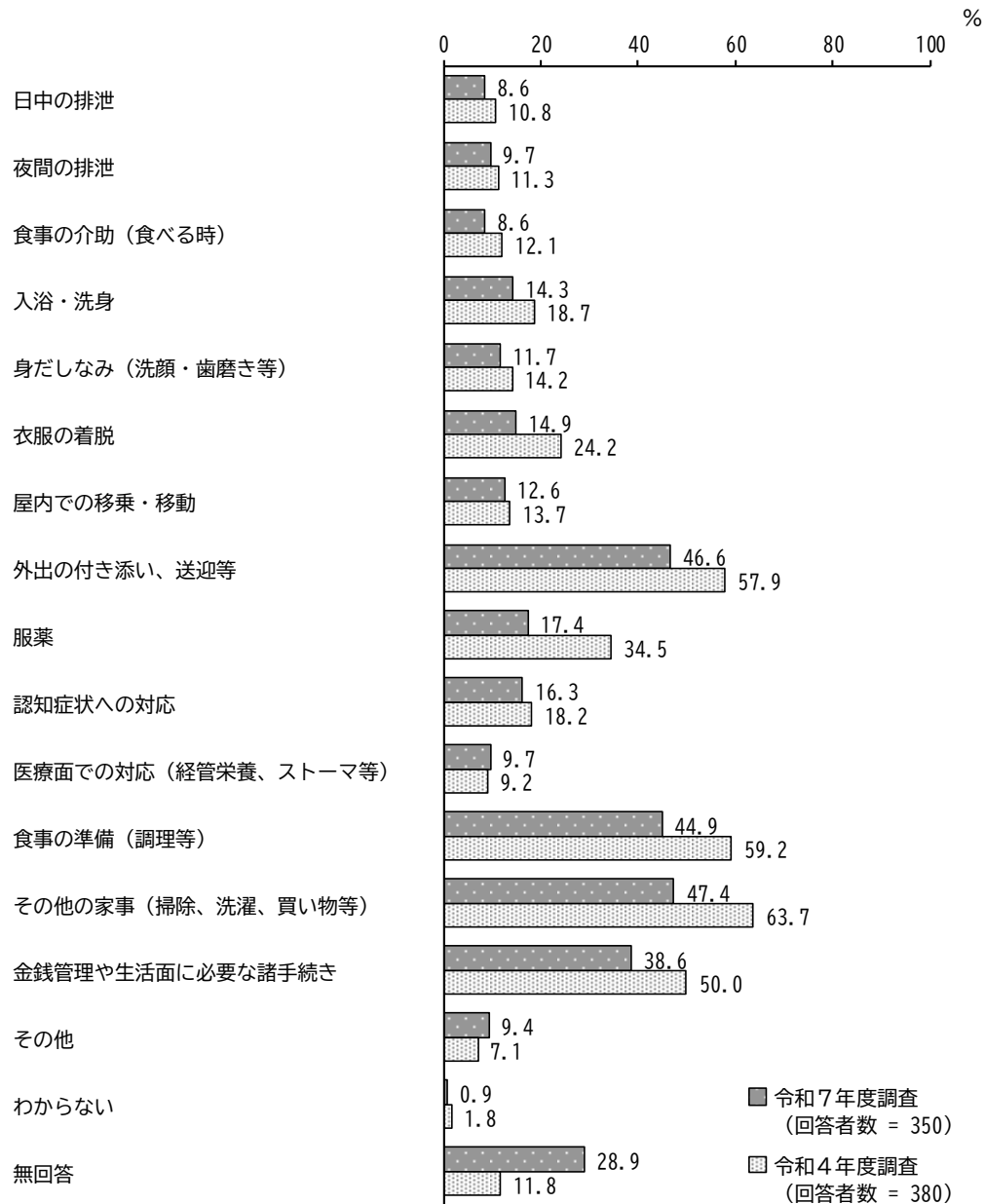
要介護度別にみると、要支援1、要介護1、要介護4で“よい”、要支援2、要介護5で“よくない”の割合が高くなっています。



問7 現在主な介護者の方が行っている介護等についてご回答ください。(〇はいくつでも)

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が47.4%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が46.6%、「食事の準備（調理等）」の割合が44.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「衣服の着脱」「外出の付き添い、送迎等」「服薬」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「服薬」の割合が高い傾向にあり、75～79 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「衣服の着脱」「外出の付き添い、送迎等」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」の割合が高くなっています。また、70～74 歳で「屋内での移乗・移動」、90 歳以上で「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内での移乗・移動	外出の付き添い、送迎等
全 体	350	8.6	9.7	8.6	14.3	11.7	14.9	12.6	46.6
65～69歳	8	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	25.0	50.0
70～74歳	26	11.5	11.5	3.8	15.4	15.4	26.9	23.1	61.5
75～79歳	58	5.2	6.9	3.4	12.1	6.9	6.9	10.3	36.2
80～84歳	89	7.9	10.1	11.2	9.0	7.9	10.1	6.7	38.2
85～89歳	89	4.5	4.5	4.5	13.5	9.0	14.6	10.1	47.2
90歳以上	75	14.7	14.7	14.7	21.3	20.0	20.0	17.3	58.7

区分	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	無回答
全 体	17.4	16.3	9.7	44.9	47.4	38.6	9.4	0.9	28.9
65～69歳	12.5	12.5	25.0	50.0	62.5	50.0	12.5	0.0	37.5
70～74歳	11.5	11.5	11.5	46.2	46.2	26.9	7.7	3.8	23.1
75～79歳	12.1	10.3	3.4	34.5	41.4	22.4	6.9	0.0	37.9
80～84歳	18.0	18.0	4.5	39.3	46.1	36.0	12.4	0.0	28.1
85～89歳	16.9	16.9	11.2	37.1	38.2	36.0	7.9	2.2	31.5
90歳以上	24.0	21.3	16.0	66.7	62.7	60.0	10.7	0.0	20.0

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「食事の介助（食べる時）」の割合が高い傾向にあり、要支援2から要介護5まで要介護度が上がるほど「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の割合が高くなっています。また、要介護2で「入浴・洗身」、要介護1で「外出の付き添い、送迎等」、要介護3で「服薬」「認知症状への対応」の割合が高くなっています。

単位：％

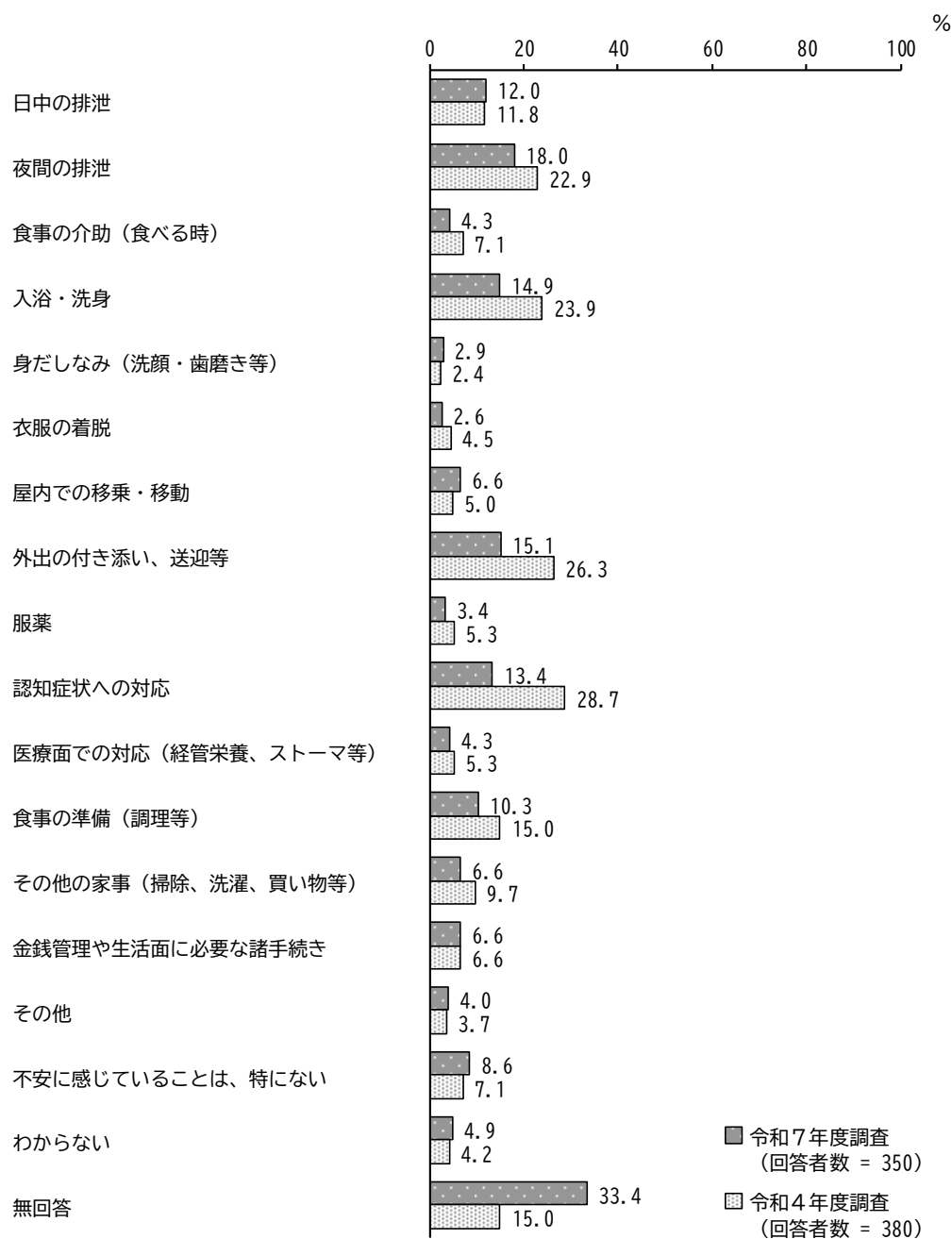
区分	回答者数 (件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・ 歯磨き等)	衣服の着脱	屋内での移乗・移動	外出の付き添い、送 迎等
全 体	350	8.6	9.7	8.6	14.3	11.7	14.9	12.6	46.6
要支援1	83	2.4	4.8	2.4	8.4	3.6	3.6	3.6	37.3
要支援2	68	1.5	2.9	5.9	5.9	1.5	4.4	5.9	45.6
要介護1	63	4.8	4.8	3.2	17.5	7.9	11.1	4.8	57.1
要介護2	62	6.5	8.1	6.5	29.0	19.4	21.0	22.6	56.5
要介護3	23	17.4	21.7	26.1	17.4	34.8	34.8	26.1	52.2
要介護4	18	50.0	50.0	33.3	11.1	38.9	55.6	50.0	38.9
要介護5	13	46.2	30.8	38.5	23.1	23.1	38.5	23.1	38.5

区分	服薬	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、ストーマ 等)	食事の準備 (調理等)	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き	その他	わからない	無回答
全 体	17.4	16.3	9.7	44.9	47.4	38.6	9.4	0.9	28.9
要支援1	8.4	7.2	2.4	31.3	33.7	28.9	14.5	1.2	33.7
要支援2	5.9	7.4	5.9	38.2	47.1	23.5	7.4	0.0	27.9
要介護1	20.6	27.0	7.9	49.2	49.2	47.6	6.3	0.0	23.8
要介護2	30.6	21.0	17.7	61.3	62.9	48.4	9.7	0.0	22.6
要介護3	43.5	30.4	13.0	52.2	52.2	52.2	4.3	0.0	39.1
要介護4	27.8	33.3	22.2	66.7	66.7	61.1	22.2	0.0	11.1
要介護5	15.4	15.4	23.1	61.5	61.5	61.5	7.7	0.0	30.8

問8 (在宅生活を送る要介護者を介護している) 現在の生活を今後も続けていくためには、主な介護者の方が不安に感じる介護等はどれですか。(〇は3つまで)
(現在行っているかどうかは問いません。)

「夜間の排泄」の割合が18.0%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が15.1%、「入浴・洗身」の割合が14.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、85～89 歳から 65～69 歳まで年齢が下がるほど「食事の介助（食べる時）」の割合が高い傾向にあり、75～79 歳から 90 歳以上まで年齢が上がるほど「夜間の排泄」の割合が高く、「食事の準備（調理等）」の割合が低くなっています。また、90 歳以上で「日中の排泄」、70～74 歳で「入浴・洗身」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・ 歯磨き等)	衣服の着脱	屋内での移乗・移動	外出の付き添い、送 迎等	服薬
全 体	350	12.0	18.0	4.3	14.9	2.9	2.6	6.6	15.1	3.4
65～69歳	8	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0
70～74歳	26	7.7	15.4	7.7	30.8	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0
75～79歳	58	8.6	10.3	5.2	12.1	1.7	3.4	8.6	20.7	8.6
80～84歳	89	6.7	11.2	2.2	11.2	2.2	1.1	3.4	12.4	4.5
85～89歳	89	12.4	19.1	2.2	11.2	3.4	1.1	2.2	15.7	2.2
90歳以上	75	22.7	32.0	6.7	16.0	4.0	4.0	12.0	13.3	1.3

区分	認知症状への対応	医療面での対応（経 管栄養、ストーマ 等）	食事の準備（調理 等）	その他の家事（掃 除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面 に必要な諸手続き	その他	不安に感じている ことは、特にな い	わからない	無回答
全 体	13.4	4.3	10.3	6.6	6.6	4.0	8.6	4.9	33.4
65～69歳	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5
70～74歳	11.5	3.8	7.7	15.4	3.8	7.7	11.5	15.4	15.4
75～79歳	8.6	1.7	15.5	8.6	5.2	5.2	10.3	1.7	37.9
80～84歳	12.4	3.4	12.4	9.0	9.0	3.4	10.1	5.6	37.1
85～89歳	12.4	3.4	9.0	3.4	7.9	1.1	7.9	6.7	39.3
90歳以上	21.3	6.7	8.0	4.0	5.3	6.7	5.3	1.3	24.0

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1から要介護4まで要介護度が上がるほど「夜間の排泄」の割合が高く、要支援2から要介護4まで要介護度が上がるほど「日中の排泄」の割合が高くなっています。また、要介護1で「認知症状への対応」の割合が高くなっています。

単位：％

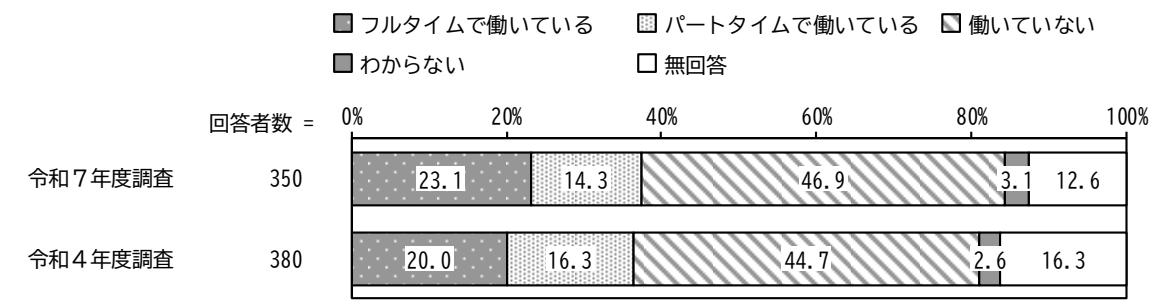
区分	回答者数 (件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内での移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬
全 体	350	12.0	18.0	4.3	14.9	2.9	2.6	6.6	15.1	3.4
要支援1	83	6.0	8.4	3.6	12.0	1.2	0.0	4.8	20.5	2.4
要支援2	68	4.4	10.3	1.5	14.7	1.5	0.0	2.9	17.6	4.4
要介護1	63	14.3	20.6	0.0	15.9	3.2	3.2	6.3	12.7	11.1
要介護2	62	19.4	27.4	9.7	24.2	4.8	6.5	14.5	12.9	0.0
要介護3	23	26.1	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0
要介護4	18	33.3	55.6	27.8	16.7	0.0	5.6	16.7	27.8	0.0
要介護5	13	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	0.0

区分	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、ストーマ等)	食事の準備 (調理等)	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない	無回答
全 体	13.4	4.3	10.3	6.6	6.6	4.0	8.6	4.9	33.4
要支援1	7.2	4.8	13.3	8.4	9.6	2.4	7.2	6.0	38.6
要支援2	7.4	1.5	14.7	14.7	7.4	5.9	16.2	2.9	29.4
要介護1	27.0	3.2	12.7	3.2	6.3	1.6	6.3	6.3	30.2
要介護2	16.1	4.8	4.8	3.2	3.2	4.8	3.2	1.6	32.3
要介護3	21.7	8.7	8.7	0.0	8.7	4.3	13.0	0.0	39.1
要介護4	5.6	0.0	11.1	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6	11.1
要介護5	15.4	23.1	0.0	15.4	0.0	7.7	15.4	7.7	30.8

問9 主な介護者の方の現在の勤務形態はどれに該当しますか。(○は1つ)

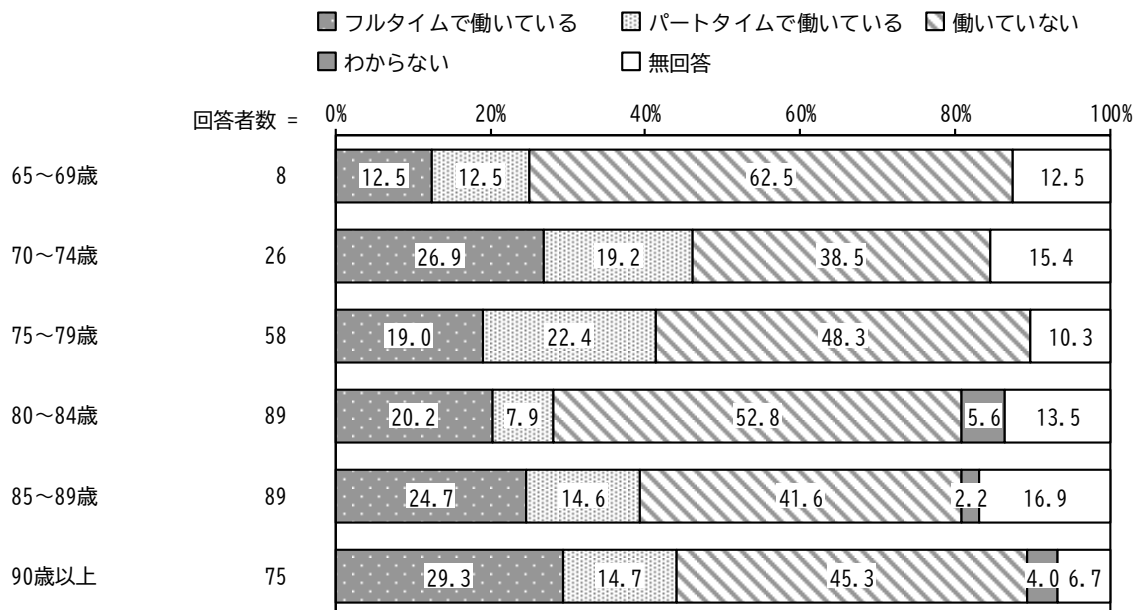
「フルタイムで働いている」の割合が23.1%、「パートタイムで働いている」の割合が14.3%、「働いていない」の割合が46.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



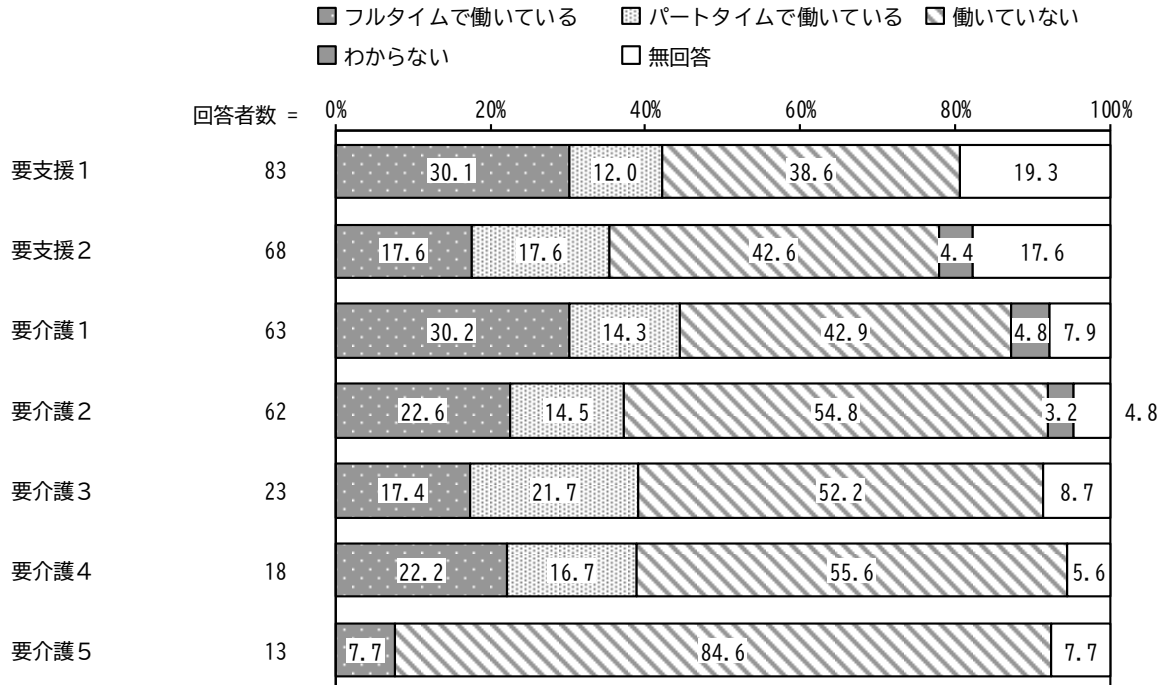
【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「フルタイムで働いている」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

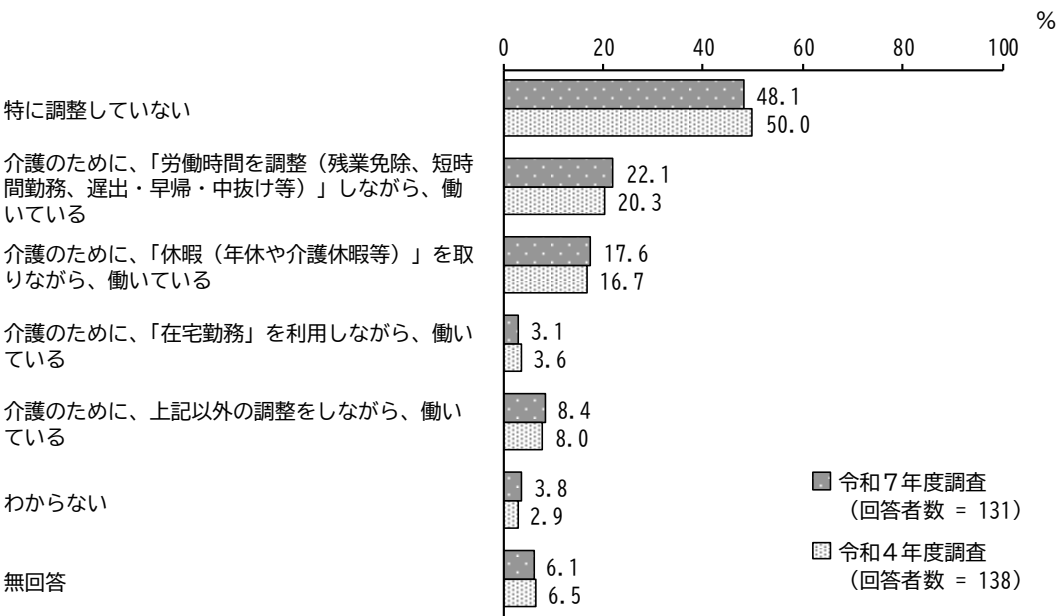
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「働いていない」の割合が高い傾向にあります。



問10 問9で「フルタイムで働いている」・「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
(○はいくつでも)

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が22.1%と最も高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が17.6%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、65～69 歳から 80～84 歳まで年齢が上がるほど「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が高く、65～69 歳から 80～84 歳まで年齢が上がるほど「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	特に調整していない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている	わからない	無回答
全 体	131	48.1	22.1	17.6	3.1	8.4	3.8	6.1
65～69歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
70～74歳	12	66.7	8.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
75～79歳	24	54.2	12.5	8.3	0.0	8.3	4.2	12.5
80～84歳	25	44.0	28.0	24.0	4.0	0.0	8.0	4.0
85～89歳	35	45.7	25.7	20.0	5.7	8.6	0.0	5.7
90歳以上	33	42.4	27.3	18.2	3.0	12.1	3.0	6.1

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2から要介護3まで要介護度が上がるほど「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が高く、要支援2から要介護3まで要介護度が上がるほど「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	特に調整していない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている	わからない	無回答
全 体	131	48.1	22.1	17.6	3.1	8.4	3.8	6.1
要支援1	35	57.1	14.3	14.3	2.9	8.6	2.9	8.6
要支援2	24	41.7	8.3	20.8	4.2	8.3	12.5	4.2
要介護1	28	53.6	21.4	21.4	3.6	0.0	0.0	7.1
要介護2	23	34.8	43.5	13.0	4.3	13.0	0.0	4.3
要介護3	9	11.1	44.4	33.3	0.0	22.2	11.1	11.1
要介護4	7	85.7	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護5	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

IV

【介護保険サービス利用別】

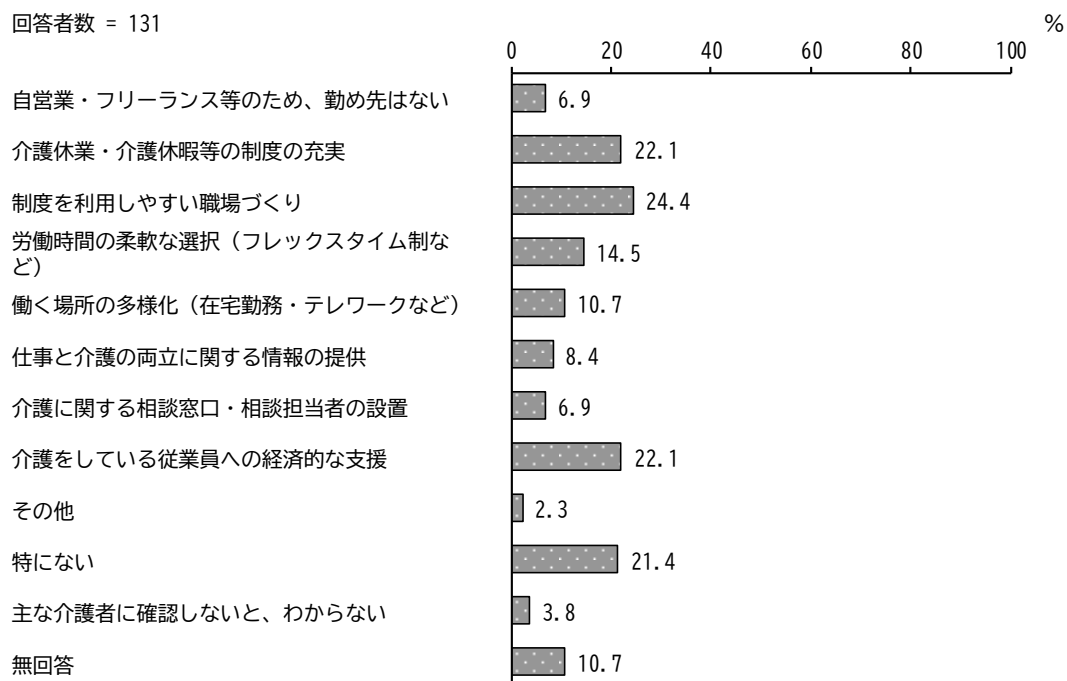
介護保険サービス利用別にみると、利用したで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	特に調整していない	介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている	わからない	無回答
全 体	131	48.1	22.1	17.6	3.1	8.4	3.8	6.1
利用した	75	41.3	28.0	21.3	4.0	10.7	2.7	2.7
利用していない	56	57.1	14.3	12.5	1.8	5.4	5.4	10.7

問 11 問9で「フルタイムで働いている」・「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が24.4%と最も高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が22.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、70～74歳で「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、90歳以上で「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」、80～84歳、85～89歳で「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」、75～79歳で「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全 体	131	6.9	22.1	24.4	14.5	10.7	8.4	6.9	22.1	2.3	21.4	3.8	10.7
65～69歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
70～74歳	12	8.3	16.7	50.0	25.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0	8.3
75～79歳	24	8.3	25.0	12.5	8.3	4.2	4.2	0.0	29.2	0.0	25.0	4.2	16.7
80～84歳	25	4.0	16.0	36.0	20.0	16.0	0.0	16.0	20.0	8.0	20.0	8.0	4.0
85～89歳	35	8.6	28.6	25.7	14.3	0.0	11.4	14.3	22.9	0.0	17.1	2.9	11.4
90歳以上	33	6.1	21.2	15.2	12.1	21.2	18.2	0.0	21.2	3.0	24.2	0.0	9.1

IV

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護5から要介護2まで要介護度が下がるほど「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が高く、要介護3から要介護5まで要介護度が上がるほど「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」の割合が高くなっています。また、要介護1で「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が高くなっています。

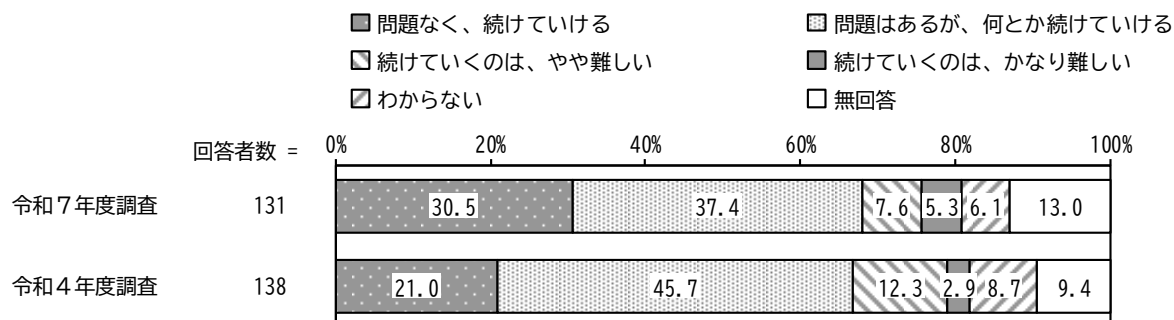
単位：％

区分	回答者数（件）	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的な支援	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全 体	131	6.9	22.1	24.4	14.5	10.7	8.4	6.9	22.1	2.3	21.4	3.8	10.7
要支援1	35	14.3	28.6	22.9	17.1	5.7	2.9	8.6	17.1	2.9	14.3	5.7	11.4
要支援2	24	4.2	4.2	20.8	12.5	8.3	20.8	4.2	16.7	4.2	25.0	4.2	8.3
要介護1	28	3.6	28.6	39.3	17.9	17.9	7.1	7.1	25.0	0.0	14.3	0.0	10.7
要介護2	23	4.3	30.4	26.1	17.4	13.0	8.7	8.7	39.1	4.3	13.0	8.7	13.0
要介護3	9	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	55.6	0.0	11.1
要介護4	7	0.0	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	57.1	0.0	0.0
要介護5	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 問9で「フルタイムで働いている」・「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。
(○は1つ)

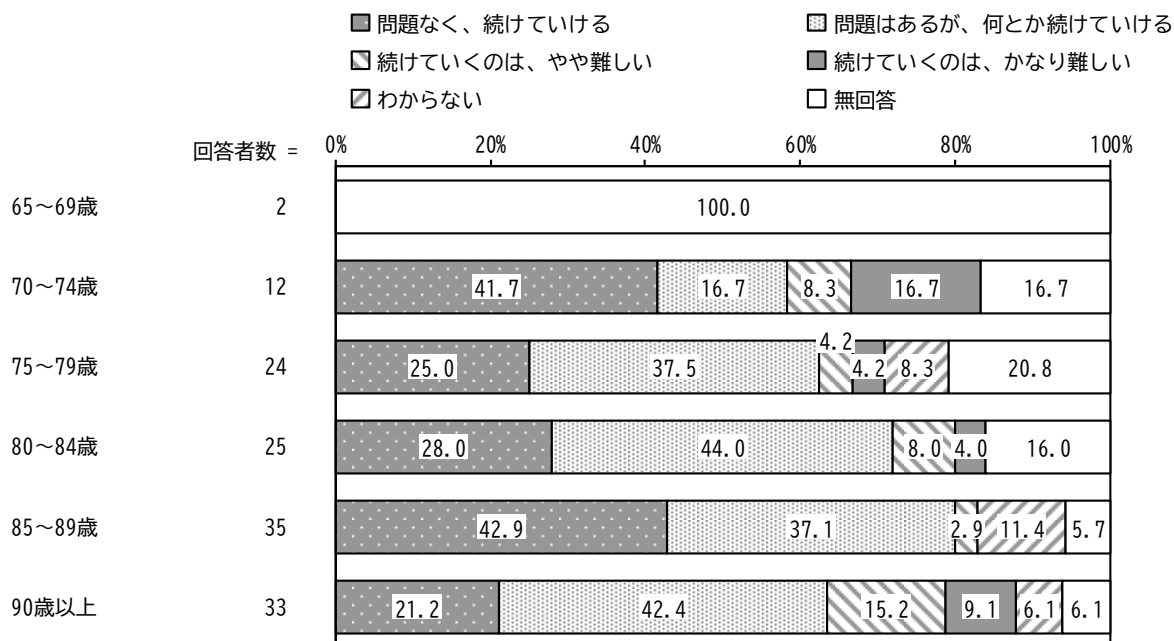
「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が37.4%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が30.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「問題なく、続けていける」の割合が増加しています。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が減少しています。



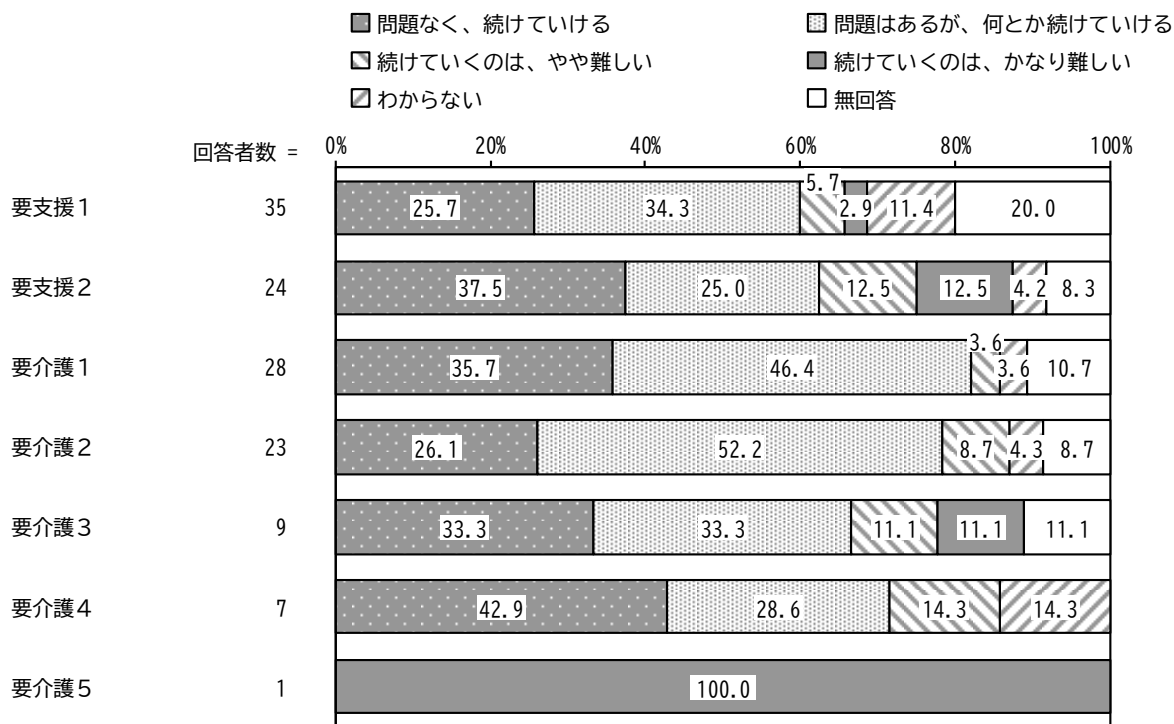
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「続けていくのは、かなり難しい」の割合が高く、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高くなっています。また、85～89歳で「問題なく、続けていける」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

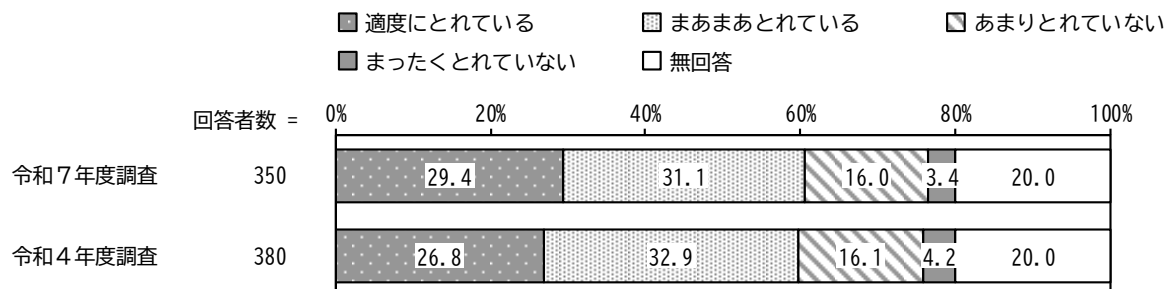
要介護度別にみると、要介護5から要介護2まで要介護度が下がるほど「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が高く、要介護1から要介護4まで要介護度が上がるほど「続けていくのは、やや難しい」の割合が高くなっています。



問13 主な介護者の方は、ご自身の自由な時間がとれていますか。(○は1つ)

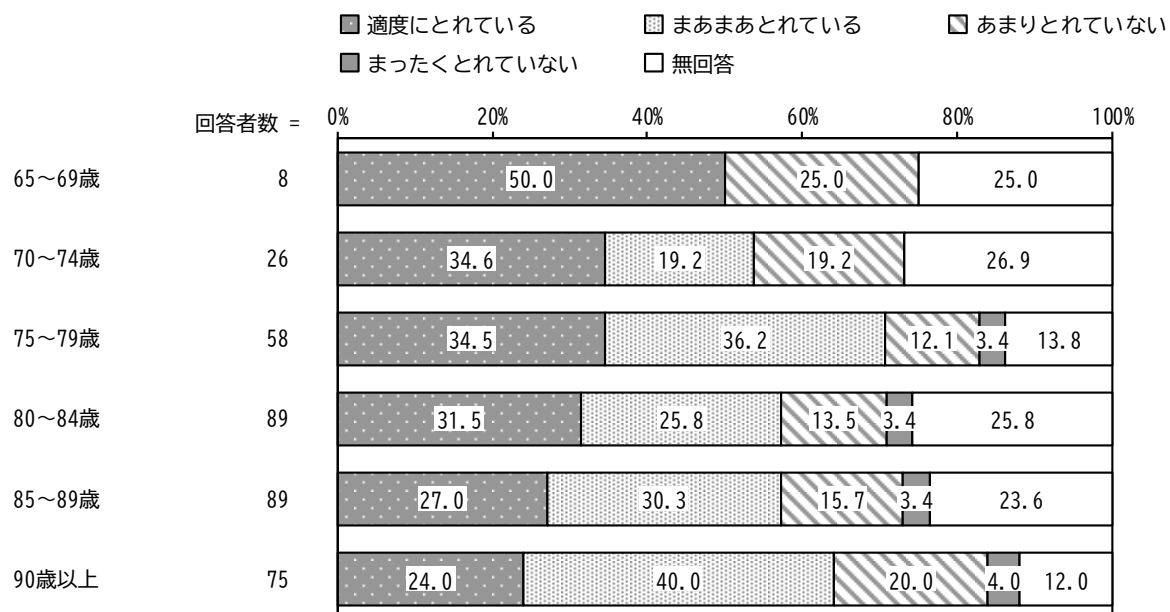
「まあまあとれている」の割合が31.1%と最も高く、次いで「適度にとれている」の割合が29.4%、「あまりとれていない」の割合が16.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



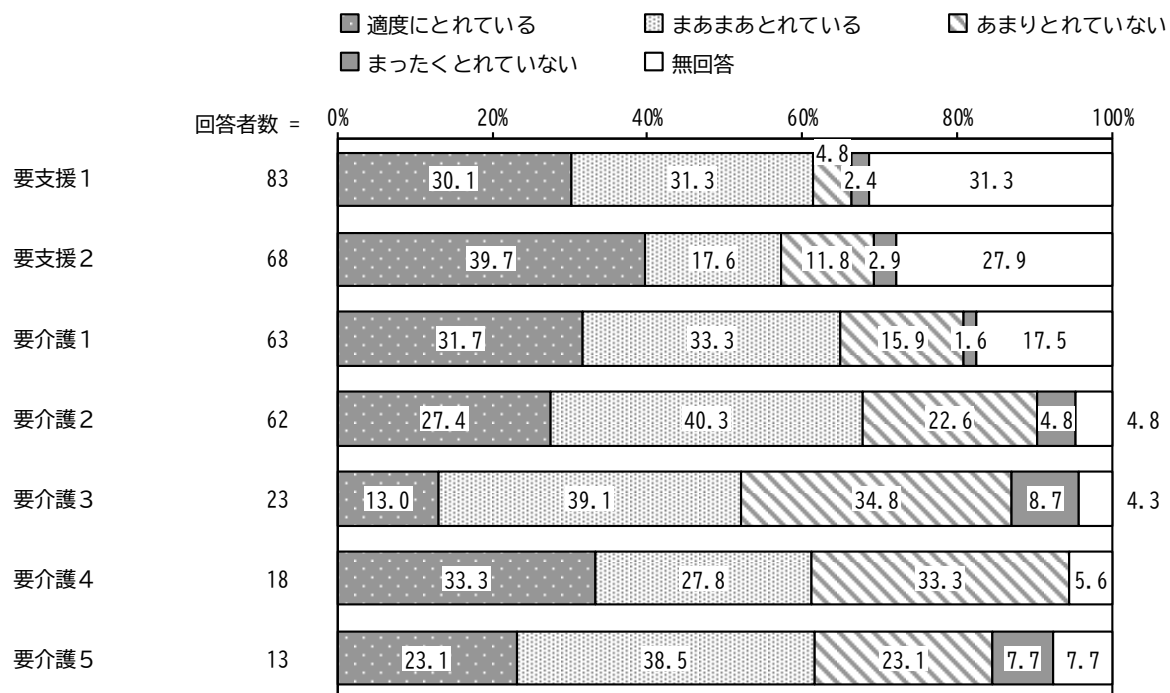
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「適度にとれている」の割合が高く、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「あまりとれていない」の割合が高くなっています。また、70～74歳で「まあまあとれている」の割合が低くなっています。



【要介護度別】

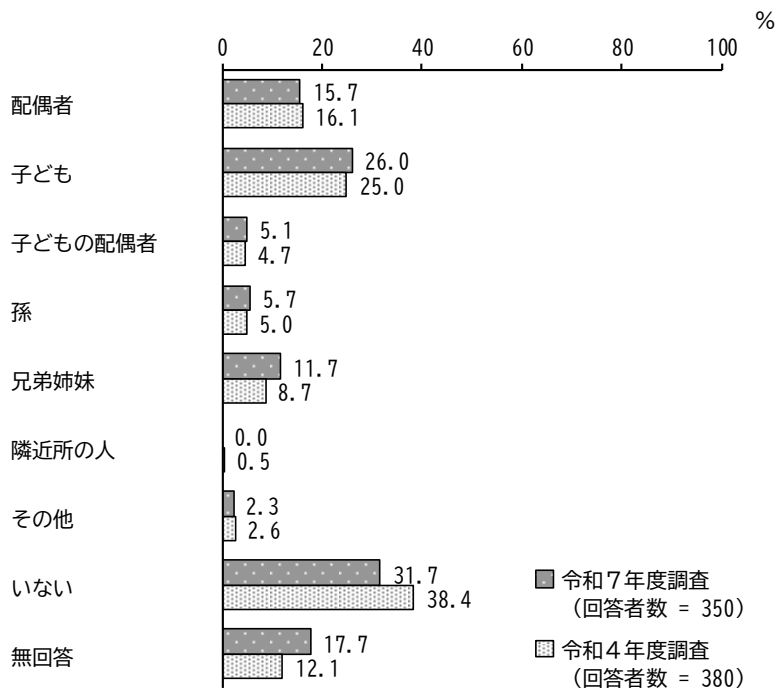
要介護度別にみると、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「あまりとれていない」の割合が高くなっています。また、要支援2で「適度にとれている」の割合が高く、「まあまあとれている」の割合が低くなっています。



問 14 主な介護者の方が介護をできない場合、代わってくれる方はいますか。
(○はいくつでも)

「子ども」の割合が 26.0%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が 15.7%、「兄弟姉妹」の割合が 11.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

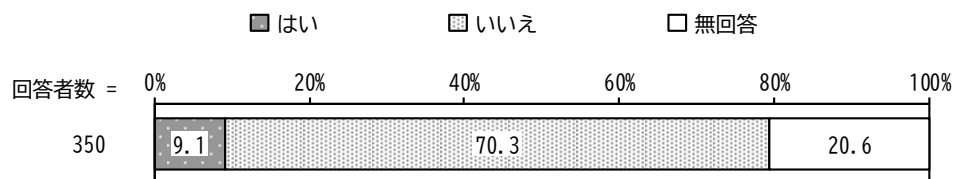
年齢別にみると、年齢が下がるほど「子ども」の割合が高い傾向にあり、70～74歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「配偶者」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	子ども	子どもの配偶者	孫	兄弟姉妹	隣近所の人	その他	いない	無回答
全 体	350	15.7	26.0	5.1	5.7	11.7	0.0	2.3	31.7	17.7
65～69歳	8	12.5	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	25.0
70～74歳	26	3.8	30.8	3.8	3.8	15.4	0.0	0.0	38.5	19.2
75～79歳	58	6.9	31.0	0.0	5.2	15.5	0.0	1.7	34.5	12.1
80～84歳	89	13.5	28.1	5.6	5.6	4.5	0.0	4.5	27.0	23.6
85～89歳	89	19.1	24.7	9.0	6.7	13.5	0.0	1.1	23.6	23.6
90歳以上	75	25.3	18.7	5.3	5.3	14.7	0.0	2.7	42.7	8.0

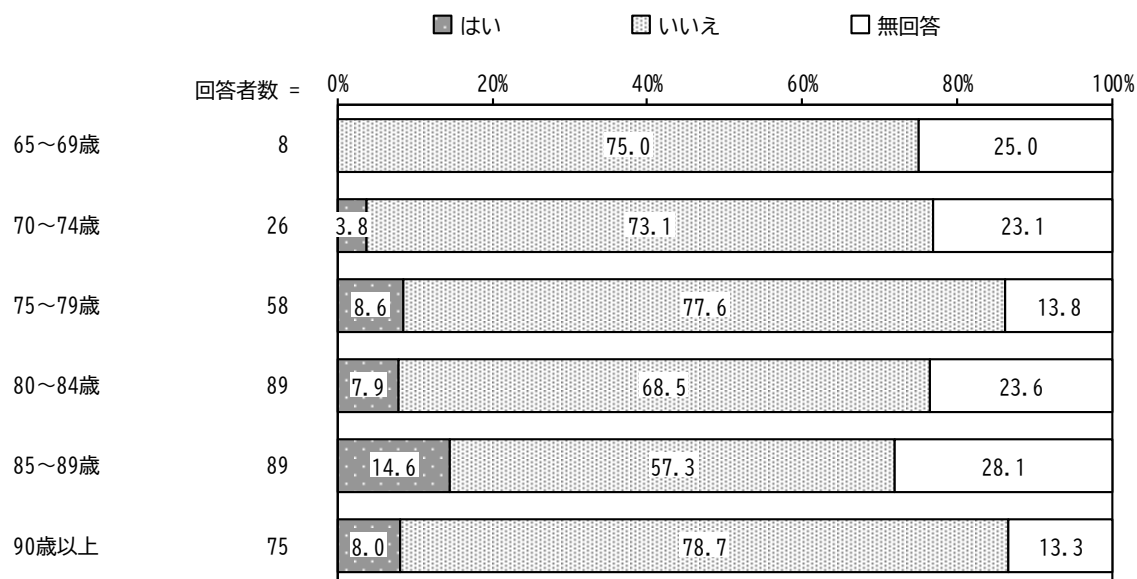
問 15 主な介護者の方は、ご本人（要介護者）以外に、育児などを含めたご家族のお世話（ダブルケア）をしていますか。（○は1つ）

「はい」の割合が9.1%、「いいえ」の割合が70.3%となっています。



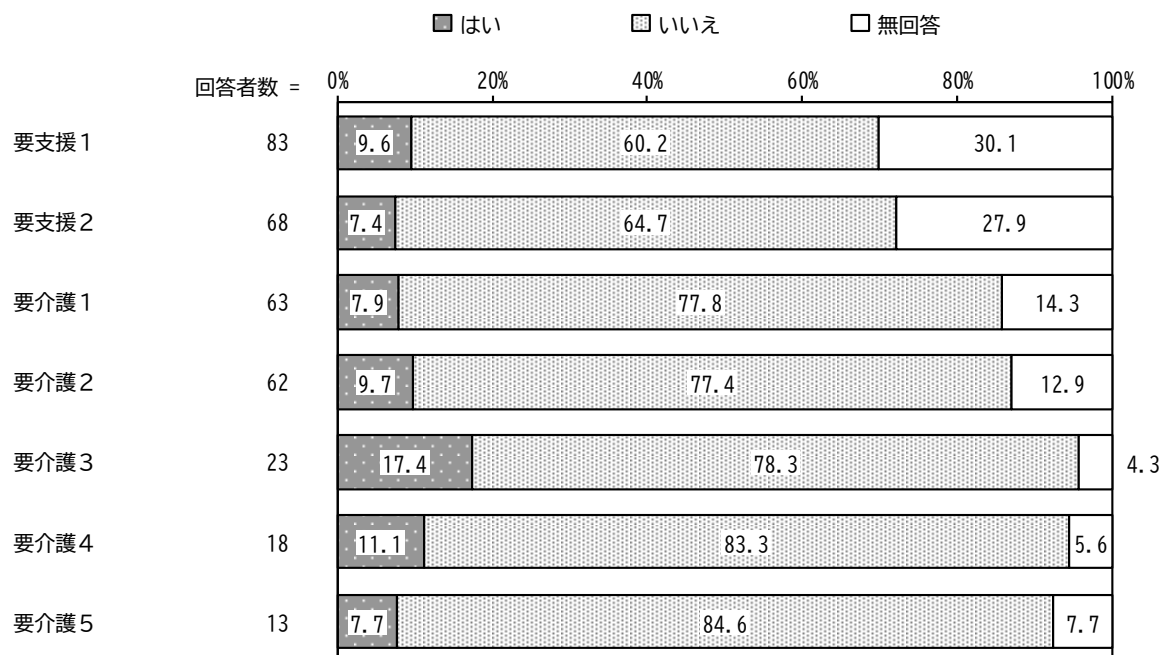
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「はい」の割合が高い傾向にあります。



【要介護度別】

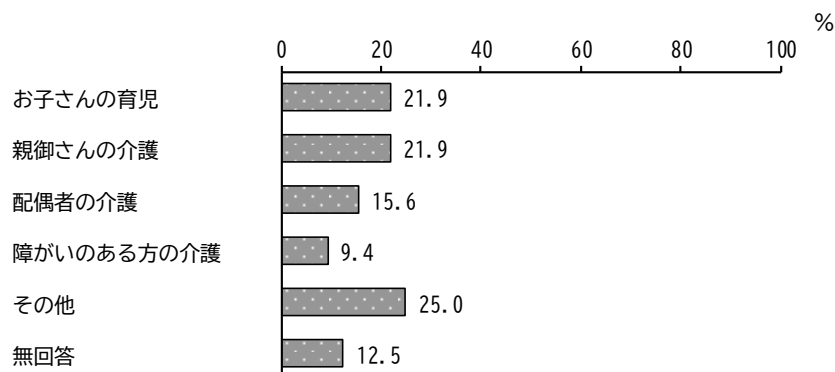
要介護度別にみると、要介護度が上がるほど「いいえ」の割合が高い傾向にあります。



問16 問15で「はい」と回答した方にお伺いします。どなたのお世話をしていますか。
(〇はいくつでも)

「お子さんの育児」、「親御さんの介護」の割合が21.9%と最も高く、次いで「配偶者の介護」の割合が15.6%となっています。

回答者数 = 32



【年齢別】

有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。

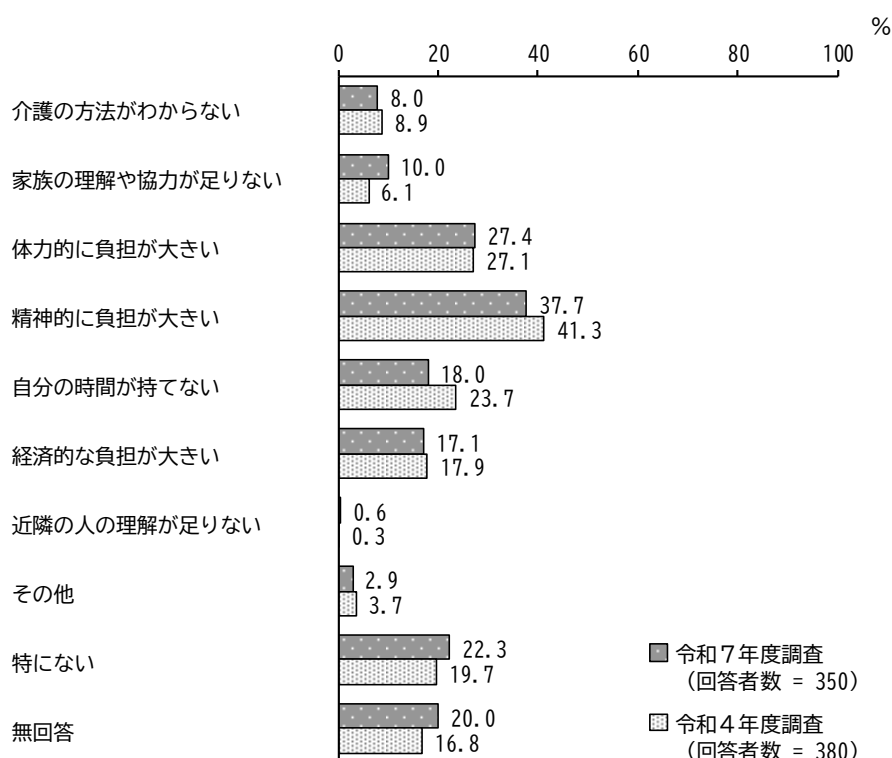
単位：%

区分	回答者数(件)	お子さんの育児	親御さんの介護	配偶者の介護	障がいのある方の介護	その他	無回答
全 体	32	21.9	21.9	15.6	9.4	25.0	12.5
65～69歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
75～79歳	5	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0
80～84歳	7	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3
85～89歳	13	30.8	30.8	7.7	7.7	38.5	0.0
90歳以上	6	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7

問 17 主な介護者の方が特に負担に感じていることは何ですか。(〇は3つまで)

「精神的に負担が大きい」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「体力的に負担が大きい」の割合が 27.4%、「自分の時間が持てない」の割合が 18.0%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「自分の時間が持てない」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「介護の方法がわからない」の割合が高く、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「体力的に負担が大きい」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「精神的に負担が大きい」、70～74歳で「自分の時間が持てない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	介護の方法がわからない	家族の理解や協力が足りない	体力的に負担が大きい	精神的に負担が大きい	自分の時間が持てない	経済的な負担が大きい	近隣の人の理解が足りない	その他	特にない	無回答
全 体	350	8.0	10.0	27.4	37.7	18.0	17.1	0.6	2.9	22.3	20.0
65～69歳	8	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	37.5	37.5
70～74歳	26	3.8	3.8	26.9	34.6	30.8	19.2	0.0	0.0	23.1	19.2
75～79歳	58	5.2	13.8	29.3	36.2	12.1	22.4	0.0	1.7	29.3	15.5
80～84歳	89	6.7	10.1	31.5	33.7	19.1	11.2	1.1	0.0	24.7	22.5
85～89歳	89	10.1	11.2	25.8	31.5	15.7	12.4	1.1	3.4	21.3	28.1
90歳以上	75	12.0	9.3	24.0	56.0	17.3	21.3	0.0	8.0	13.3	10.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2から要介護4まで要介護度が上がるほど「介護の方法がわからない」「経済的な負担が大きい」の割合が高い傾向にあります。また、要介護3で「精神的に負担が大きい」「自分の時間が持てない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	介護の方法がわからない	家族の理解や協力が足りない	体力的に負担が大きい	精神的に負担が大きい	自分の時間が持てない	経済的な負担が大きい	近隣の人の理解が足りない	その他	特になし	無回答
全 体	350	8.0	10.0	27.4	37.7	18.0	17.1	0.6	2.9	22.3	20.0
要支援1	83	6.0	6.0	16.9	27.7	8.4	14.5	0.0	2.4	22.9	33.7
要支援2	68	4.4	14.7	20.6	25.0	11.8	5.9	1.5	1.5	35.3	23.5
要介護1	63	11.1	4.8	27.0	50.8	25.4	7.9	0.0	4.8	25.4	15.9
要介護2	62	11.3	14.5	38.7	46.8	17.7	25.8	1.6	3.2	14.5	9.7
要介護3	23	8.7	4.3	34.8	56.5	34.8	34.8	0.0	8.7	13.0	0.0
要介護4	18	16.7	27.8	50.0	38.9	27.8	38.9	0.0	0.0	11.1	0.0
要介護5	13	0.0	0.0	53.8	38.5	30.8	30.8	0.0	0.0	30.8	7.7

【介護保険サービス利用別】

介護保険サービス利用別にみると、利用したで「家族の理解や協力が足りない」「体力的に負担が大きい」「精神的に負担が大きい」「自分の時間が持てない」の割合が高くなっています。

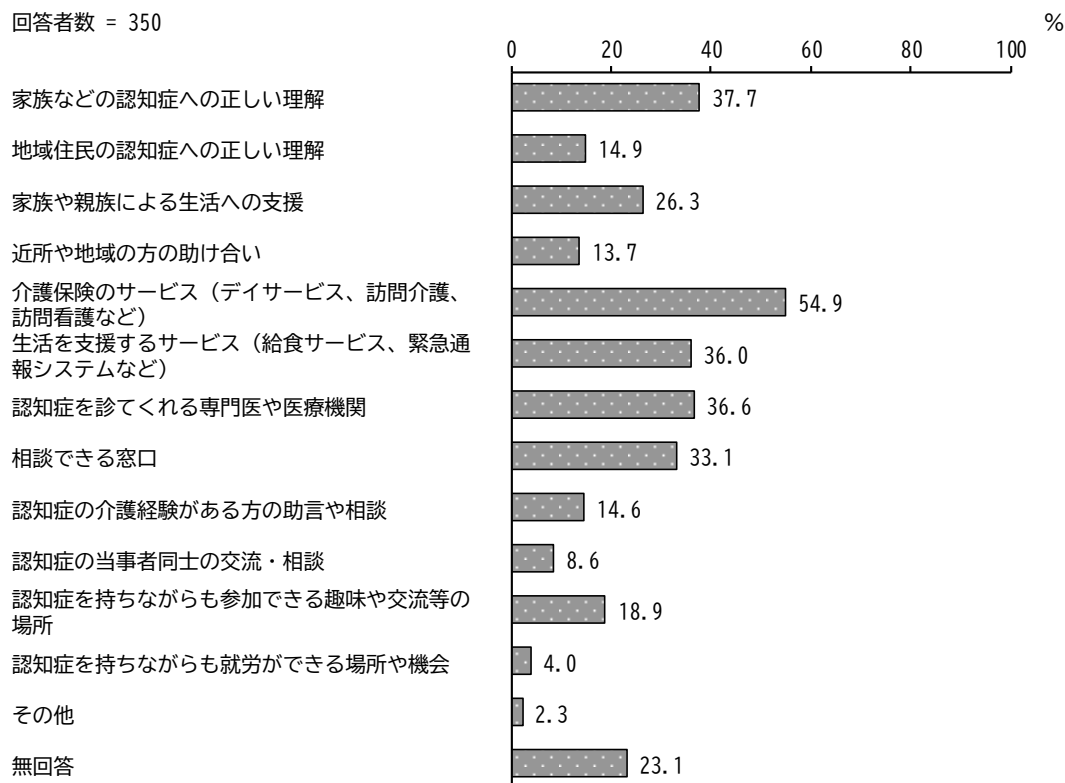
単位：％

区分	回答者数 (件)	介護の方法がわからない	家族の理解や協力が足りない	体力的に負担が大きい	精神的に負担が大きい	自分の時間が持てない	経済的な負担が大きい	近隣の人の理解が足りない	その他	特になし	無回答
全 体	350	8.0	10.0	27.4	37.7	18.0	17.1	0.6	2.9	22.3	20.0
利用した	213	7.5	12.7	31.9	40.8	22.1	18.3	0.9	3.3	23.9	11.7
利用していない	135	8.9	5.9	20.0	32.6	11.9	14.8	0.0	2.2	20.0	32.6

問 18 主な介護者の方は、認知症になっても住み慣れた地域で生活を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」の割合が 54.9%と最も高く、次いで「家族などの認知症への正しい理解」の割合が 37.7%、「認知症を診てくれる専門医や医療機関」の割合が 36.6%となっています。

回答者数 = 350



【年齢別】

年齢別にみると、75～79歳から90歳以上まで年齢が上がるほど「認知症を持ちながらも参加できる趣味や交流等の場所」の割合が高く、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「相談できる窓口」の割合が高くなっています。また、90歳以上で「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」、75～79歳で「生活を支援するサービス（給食サービス、緊急通報システムなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族などの認知症への 正しい理解	地域住民の認知症への 正しい理解	家族や親族による生活 への支援	近所や地域の方の助け 合い	介護保険のサービス (デイサービス、訪問 介護、訪問看護など)	生活を支援するサービ ス(給食サービス、緊急 通報システムなど)	認知症を診てくれる専 門医や医療機関
全 体	350	37.7	14.9	26.3	13.7	54.9	36.0	36.6
65～69歳	8	62.5	0.0	37.5	37.5	50.0	62.5	37.5
70～74歳	26	23.1	15.4	15.4	7.7	57.7	30.8	30.8
75～79歳	58	44.8	19.0	29.3	19.0	55.2	48.3	39.7
80～84歳	89	29.2	13.5	25.8	14.6	46.1	31.5	40.4
85～89歳	89	43.8	14.6	23.6	7.9	51.7	28.1	30.3
90歳以上	75	37.3	16.0	30.7	14.7	68.0	40.0	40.0

区分	相談できる窓口	認知症の介護経験があ る方の助言や相談	認知症の当事者同士の 交流・相談	認知症を持ちながらも 参加できる趣味や交流 等の場所	認知症を持ちながらも 就労ができる場所や機 会	その他	無回 答
全 体	33.1	14.6	8.6	18.9	4.0	2.3	23.1
65～69歳	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
70～74歳	46.2	15.4	15.4	23.1	11.5	0.0	30.8
75～79歳	32.8	10.3	6.9	13.8	0.0	3.4	20.7
80～84歳	30.3	15.7	7.9	19.1	4.5	2.2	24.7
85～89歳	23.6	15.7	7.9	20.2	2.2	1.1	32.6
90歳以上	44.0	14.7	9.3	21.3	5.3	4.0	9.3

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護１から要介護５まで要介護度が上がるほど「相談できる窓口」の割合が高い傾向にあり、要支援２から要介護４まで要介護度が上がるほど「認知症の介護経験がある方の助言や相談」の割合が高い傾向にあります。また、要介護３で「家族などの認知症への正しい理解」「地域住民の認知症への正しい理解」「家族や親族による生活への支援」「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」「生活を支援するサービス（給食サービス、緊急通報システムなど）」「認知症を診てくれる専門医や医療機関」の割合が高くなっています。

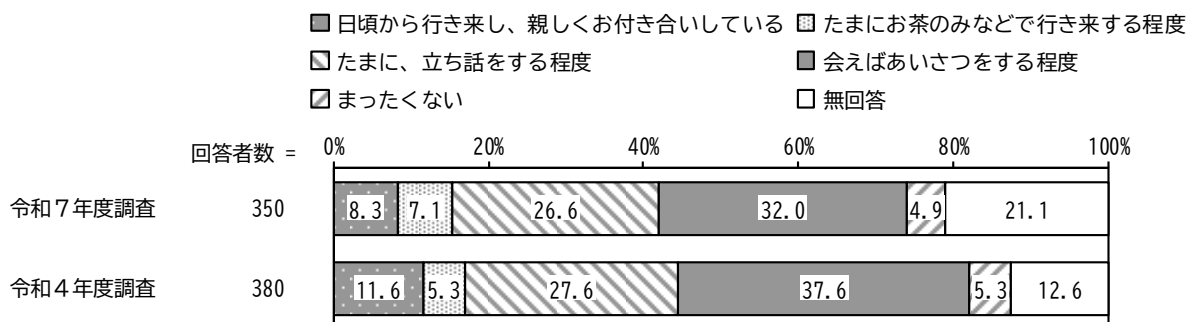
単位：％

区分	回答者数 (件)	家族などの認知症への 正しい理解	地域住民の認知症への 正しい理解	家族や親族による生活 への支援	近所や地域の方の助け 合い	介護保険のサービス (デイサービス、訪問 介護、訪問看護など)	生活を支援するサービ ス(給食サービス、緊急 通報システムなど)	認知症を診てくれる専 門医や医療機関
全 体	350	37.7	14.9	26.3	13.7	54.9	36.0	36.6
要支援１	83	30.1	12.0	27.7	13.3	36.1	24.1	31.3
要支援２	68	36.8	16.2	20.6	13.2	48.5	27.9	30.9
要介護１	63	33.3	15.9	22.2	11.1	63.5	46.0	36.5
要介護２	62	46.8	14.5	30.6	12.9	74.2	48.4	43.5
要介護３	23	52.2	26.1	43.5	17.4	78.3	52.2	60.9
要介護４	18	44.4	16.7	16.7	22.2	61.1	27.8	44.4
要介護５	13	53.8	23.1	46.2	15.4	69.2	53.8	38.5

区分	相談できる窓口	認知症の介護経験があ る方の助言や相談	認知症の当事者同士の 交流・相談	認知症を持ちながらも 参加できる趣味や交流 等の場所	認知症を持ちながらも 就労ができる場所や機 会	その他	無回答
全 体	33.1	14.6	8.6	18.9	4.0	2.3	23.1
要支援１	19.3	12.0	4.8	13.3	2.4	2.4	38.6
要支援２	30.9	7.4	11.8	20.6	4.4	0.0	27.9
要介護１	30.2	19.0	7.9	20.6	1.6	3.2	14.3
要介護２	43.5	17.7	8.1	25.8	3.2	3.2	9.7
要介護３	52.2	21.7	8.7	17.4	8.7	4.3	4.3
要介護４	50.0	27.8	16.7	27.8	5.6	0.0	16.7
要介護５	61.5	15.4	15.4	15.4	15.4	0.0	15.4

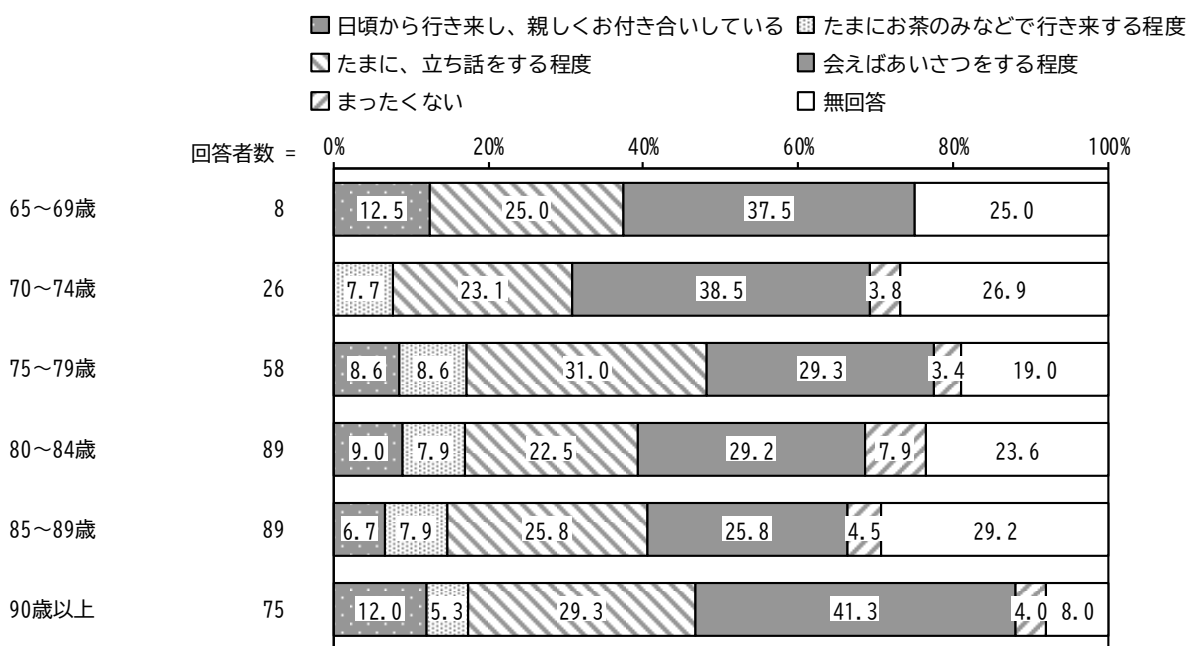
問 19 主な介護者の方は、隣近所や地域の方と、どのようなお付き合いをしていますか。 (○は1つ)

「会えばあいさつをする程度」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」の割合が 26.6%となっています。



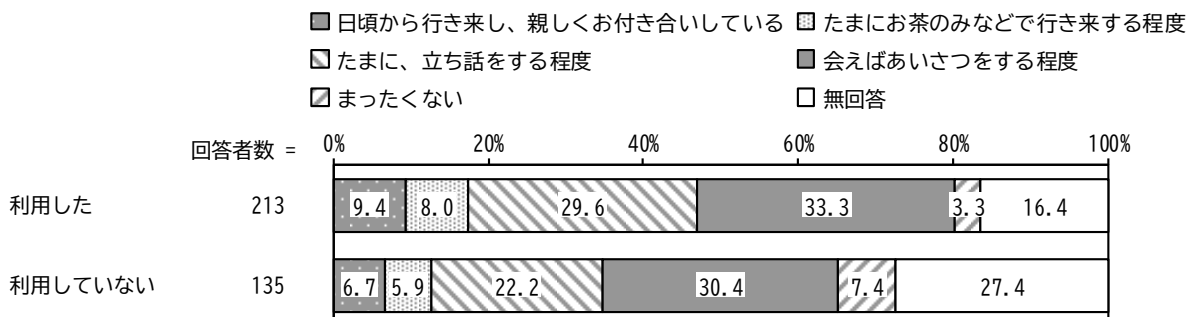
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳、90歳以上で「会えばあいさつをする程度」の割合が高くなっています。



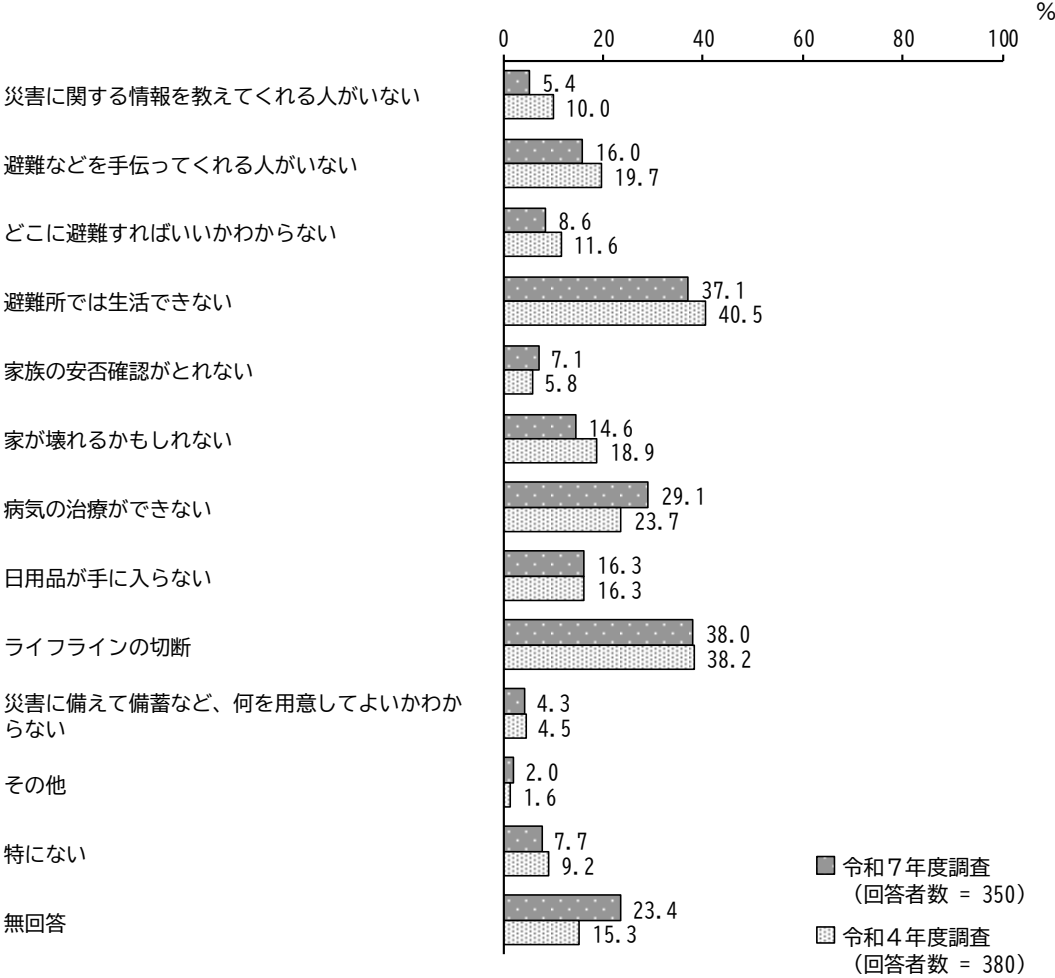
【介護保険サービス利用別】

介護保険サービス利用別にみると、利用したで「たまに、立ち話をする程度」の割合が高くなっています。



問 20 主な介護者の方が、災害時に、不安に感じることはどのようなことですか。
(○はいくつでも)

「ライフラインの切断」の割合が 38.0%と最も高く、次いで「避難所では生活できない」の割合が 37.1%、
「病気の治療ができない」の割合が 29.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳で「どこに避難すればいいかわからない」「病気の治療ができない」、90 歳以上で「日用品が手に入らない」「ライフラインの切断」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	災害に関する情報を教えてくれる人がいない	避難などを手伝ってくれる人がいない	どこに避難すればいいかわからない	避難所では生活できない	家族の安否確認がとれない	家が壊れるかもしれない	病気の治療ができない	日用品が手に入らない	ライフラインの切断	災害に備えて備蓄など、何を用意してよいかわからない	その他	特にない	無回答
全 体	350	5.4	16.0	8.6	37.1	7.1	14.6	29.1	16.3	38.0	4.3	2.0	7.7	23.4
65～69歳	8	0.0	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0
70～74歳	26	7.7	11.5	19.2	38.5	7.7	15.4	42.3	15.4	23.1	3.8	0.0	7.7	26.9
75～79歳	58	5.2	20.7	6.9	32.8	5.2	24.1	25.9	15.5	39.7	1.7	3.4	5.2	20.7
80～84歳	89	3.4	15.7	6.7	36.0	6.7	11.2	31.5	9.0	30.3	3.4	2.2	12.4	24.7
85～89歳	89	5.6	13.5	6.7	32.6	5.6	7.9	28.1	14.6	31.5	4.5	1.1	7.9	33.7
90歳以上	75	8.0	17.3	12.0	45.3	12.0	20.0	26.7	26.7	57.3	8.0	2.7	5.3	10.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「避難所では生活できない」の割合が高くなっています。また、要介護3で「家が壊れるかもしれない」「日用品が手に入らない」「ライフラインの切断」の割合が高くなっています。

単位：％

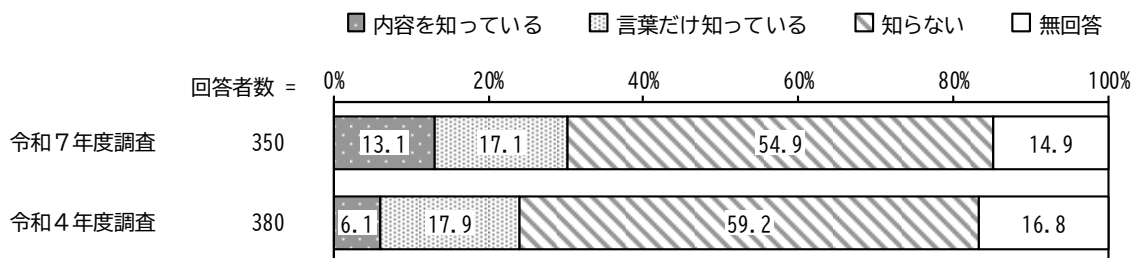
区分	回答者数（件）	災害に関する情報を教えてくれる人がいない	避難などを手伝ってくれる人がいない	どこに避難すればいいかわからない	避難所では生活できない	家族の安否確認がとれない	家が壊れるかもしれない	病気の治療ができない	日用品が手に入らない	ライフラインの切断	災害に備えて備蓄など、何を留意してよいかわからない	その他	特になし	無回答
全 体	350	5.4	16.0	8.6	37.1	7.1	14.6	29.1	16.3	38.0	4.3	2.0	7.7	23.4
要支援1	83	3.6	9.6	6.0	20.5	7.2	12.0	18.1	9.6	34.9	4.8	2.4	6.0	39.8
要支援2	68	4.4	10.3	5.9	23.5	1.5	13.2	22.1	14.7	27.9	1.5	1.5	10.3	29.4
要介護1	63	7.9	20.6	6.3	39.7	12.7	14.3	36.5	19.0	42.9	4.8	0.0	7.9	14.3
要介護2	62	8.1	22.6	12.9	54.8	4.8	11.3	41.9	16.1	46.8	3.2	1.6	9.7	8.1
要介護3	23	4.3	17.4	8.7	60.9	13.0	30.4	34.8	39.1	56.5	13.0	4.3	8.7	8.7
要介護4	18	0.0	33.3	16.7	55.6	11.1	11.1	22.2	16.7	33.3	5.6	0.0	5.6	11.1
要介護5	13	15.4	23.1	15.4	61.5	15.4	23.1	46.2	23.1	30.8	7.7	15.4	0.0	15.4

IV

問 21 主な介護者の方は、福祉避難所を知っていますか。（○は1つ）

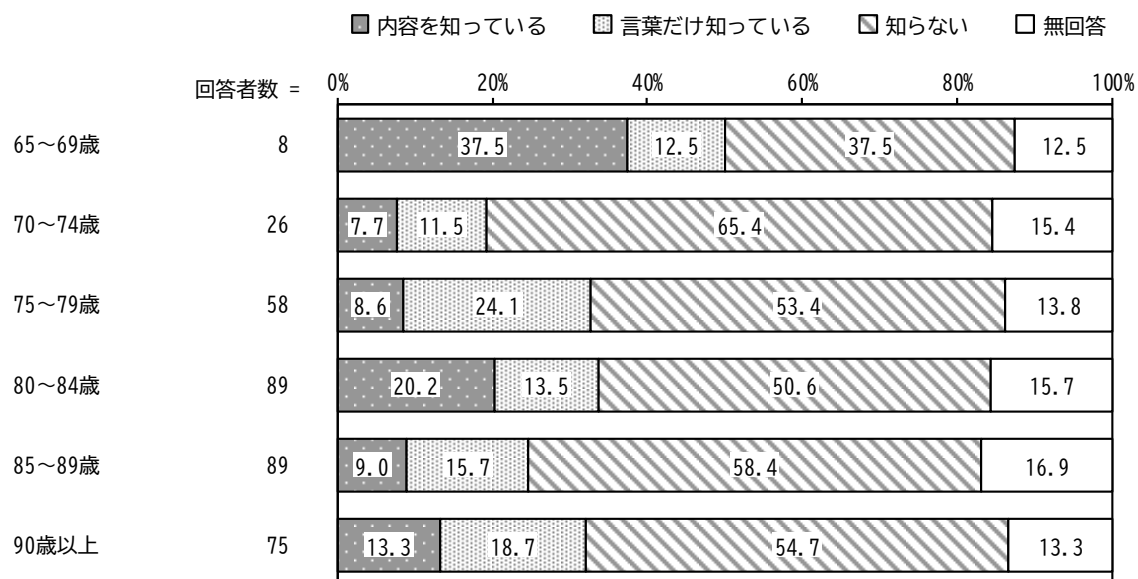
「内容を知っている」の割合が13.1%、「言葉だけ知っている」の割合が17.1%、「知らない」の割合が54.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「内容を知っている」の割合が増加しています。



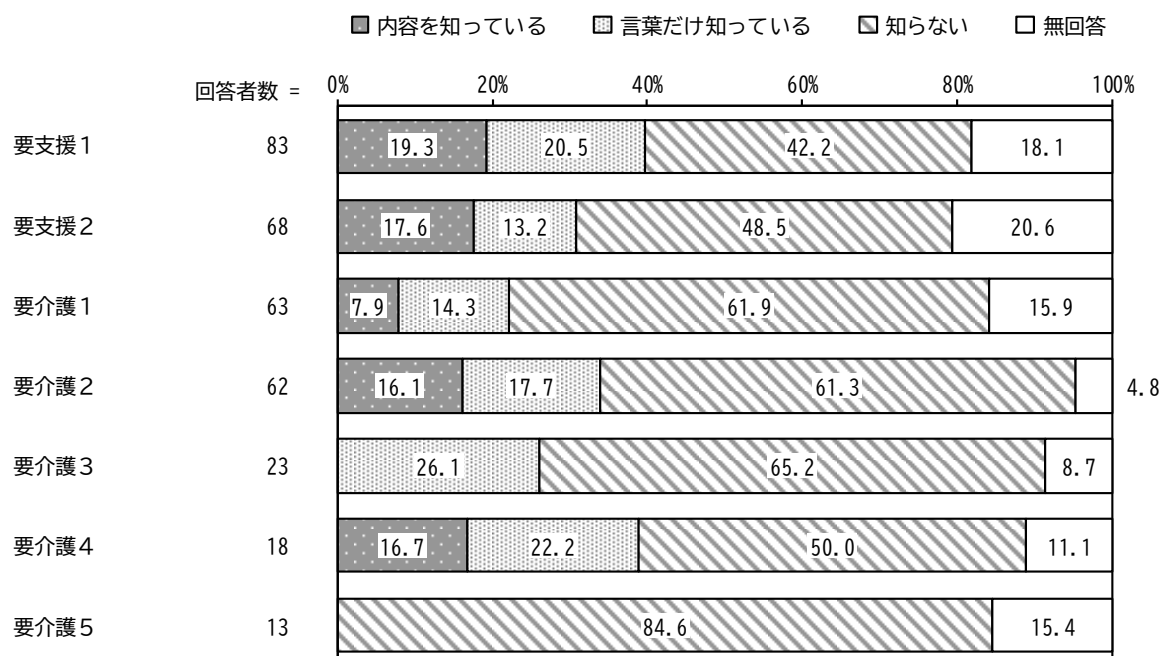
【年齢別】

年齢別にみると、80～84歳で「内容を知っている」、75～79歳で「言葉だけ知っている」、70～74歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

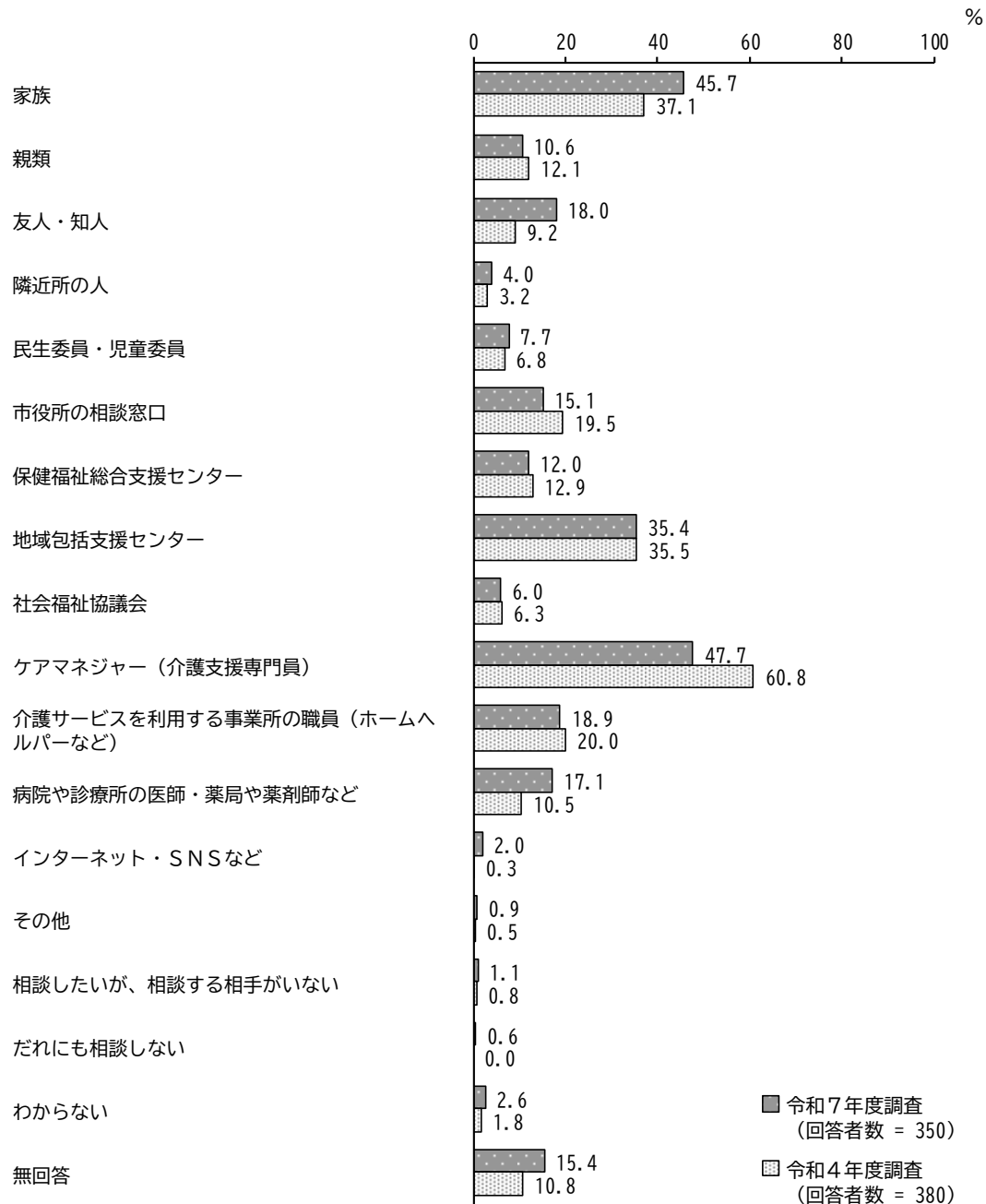
要介護度別にみると、要支援1から要介護3まで要介護度が上がるほど「知らない」の割合が高い傾向にあります。



問 22 主な介護者の方は、介護の悩みや相談について、「どこに」もしくは「誰に」相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が47.7%と最も高く、次いで「家族」の割合が45.7%、「地域包括支援センター」の割合が35.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族」「友人・知人」「病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など」の割合が増加しています。一方、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「友人・知人」の割合が高い傾向にあり、「保健福祉総合支援センター」の割合が低い傾向にあり、65～69歳から85～89歳まで年齢が上がるほど「民生委員・児童委員」の割合が高い傾向にあります。また、70～74歳で「市役所の相談窓口」「地域包括支援センター」、90歳以上で「ケアマネジャー（介護支援専門員）」「病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	親類	友人・知人	隣近所の人	民生委員・児童委員	市役所の相談窓口	保健福祉総合支援センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会
全 体	350	45.7	10.6	18.0	4.0	7.7	15.1	12.0	35.4	6.0
65～69歳	8	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	25.0	25.0	25.0
70～74歳	26	50.0	11.5	15.4	3.8	3.8	26.9	15.4	46.2	11.5
75～79歳	58	44.8	10.3	15.5	3.4	5.2	12.1	10.3	37.9	3.4
80～84歳	89	44.9	9.0	14.6	5.6	11.2	12.4	10.1	33.7	5.6
85～89歳	89	51.7	10.1	19.1	1.1	11.2	18.0	12.4	37.1	6.7
90歳以上	75	40.0	13.3	22.7	6.7	4.0	13.3	9.3	32.0	2.7

区分	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護サービスを利用する事業所の職員（ホームヘルパーなど）	病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など	S インターネット・SNS など	その他	相談したいが、相談する相手がいない	だれにも相談しない	わからない	無回答
全 体	47.7	18.9	17.1	2.0	0.9	1.1	0.6	2.6	15.4
65～69歳	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0
70～74歳	42.3	23.1	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	15.4
75～79歳	50.0	20.7	19.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.7	13.8
80～84歳	39.3	18.0	13.5	2.2	1.1	1.1	1.1	3.4	18.0
85～89歳	43.8	16.9	12.4	2.2	0.0	1.1	0.0	2.2	18.0
90歳以上	62.7	22.7	28.0	2.7	2.7	0.0	0.0	1.3	10.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護5から要支援2まで要介護度が下がるほど「民生委員・児童委員」の割合が高い傾向にあり、要介護4から要支援2まで要介護度が下がるほど「保健福祉総合支援センター」の割合が高い傾向にあります。また、要支援2で「地域包括支援センター」の割合が高くなっています。

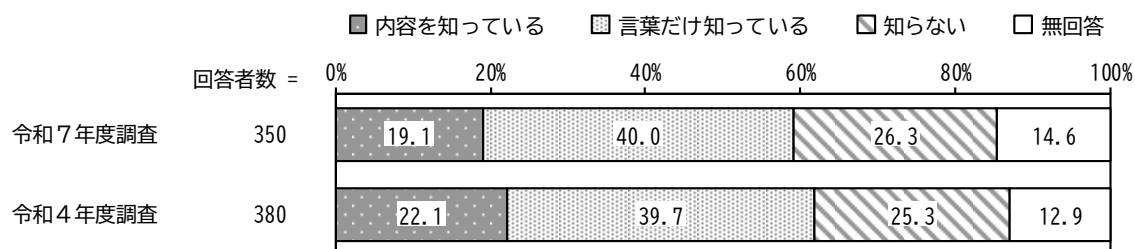
単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	親類	友人・知人	隣近所の人	民生委員・児童委員	市役所の相談窓口	保健福祉総合支援センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会
全 体	350	45.7	10.6	18.0	4.0	7.7	15.1	12.0	35.4	6.0
要支援1	83	47.0	15.7	13.3	6.0	6.0	13.3	8.4	37.3	1.2
要支援2	68	44.1	2.9	14.7	5.9	11.8	13.2	16.2	48.5	7.4
要介護1	63	44.4	9.5	19.0	3.2	11.1	19.0	12.7	41.3	12.7
要介護2	62	40.3	11.3	27.4	3.2	6.5	17.7	14.5	29.0	9.7
要介護3	23	52.2	17.4	17.4	4.3	4.3	13.0	8.7	13.0	0.0
要介護4	18	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	22.2	0.0	16.7	0.0
要介護5	13	53.8	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	38.5	0.0

区分	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護サービスを利用する事業所の職員（ホームヘルパーなど）	病院や診療所の医師・薬局や薬剤師など	S インターネット・SNS など	その他	相談したいが、相談する相手がいない	だれにも相談しない	わからない	無回答
全 体	47.7	18.9	17.1	2.0	0.9	1.1	0.6	2.6	15.4
要支援1	27.7	16.9	18.1	1.2	1.2	0.0	0.0	1.2	27.7
要支援2	30.9	13.2	10.3	1.5	0.0	1.5	0.0	7.4	17.6
要介護1	55.6	17.5	15.9	1.6	1.6	3.2	1.6	0.0	12.7
要介護2	69.4	21.0	17.7	1.6	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5
要介護3	60.9	34.8	26.1	8.7	4.3	4.3	0.0	0.0	8.7
要介護4	88.9	27.8	22.2	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0
要介護5	61.5	46.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4

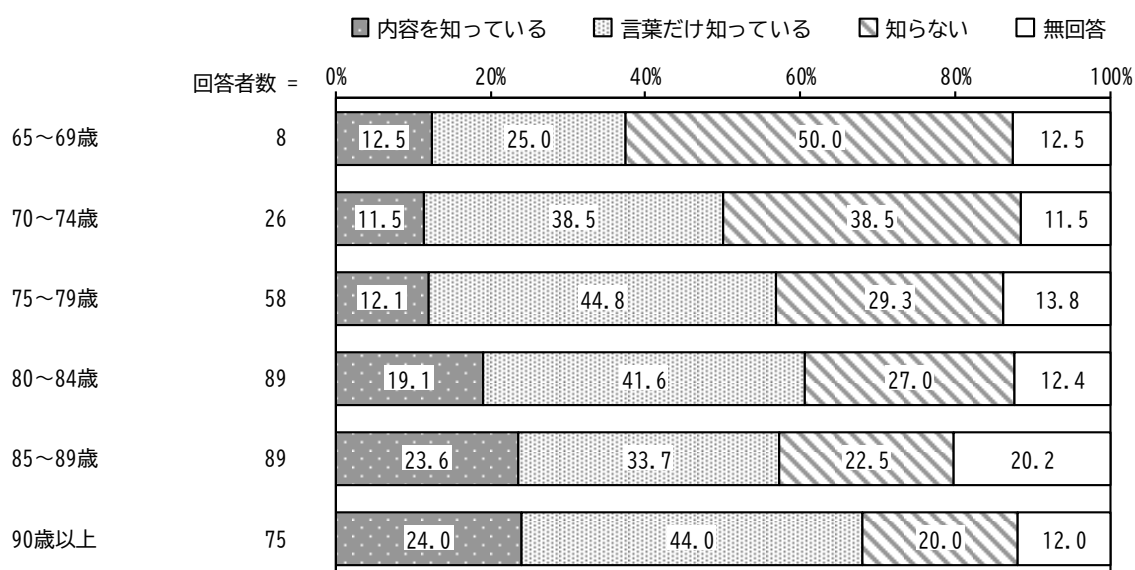
問 23 主な介護者の方は、「成年後見制度」について、どのような制度か知っていますか。
(○は1つ)

「内容を知っている」の割合が 19.1%、「言葉だけ知っている」の割合が 40.0%、「知らない」の割合が 26.3%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



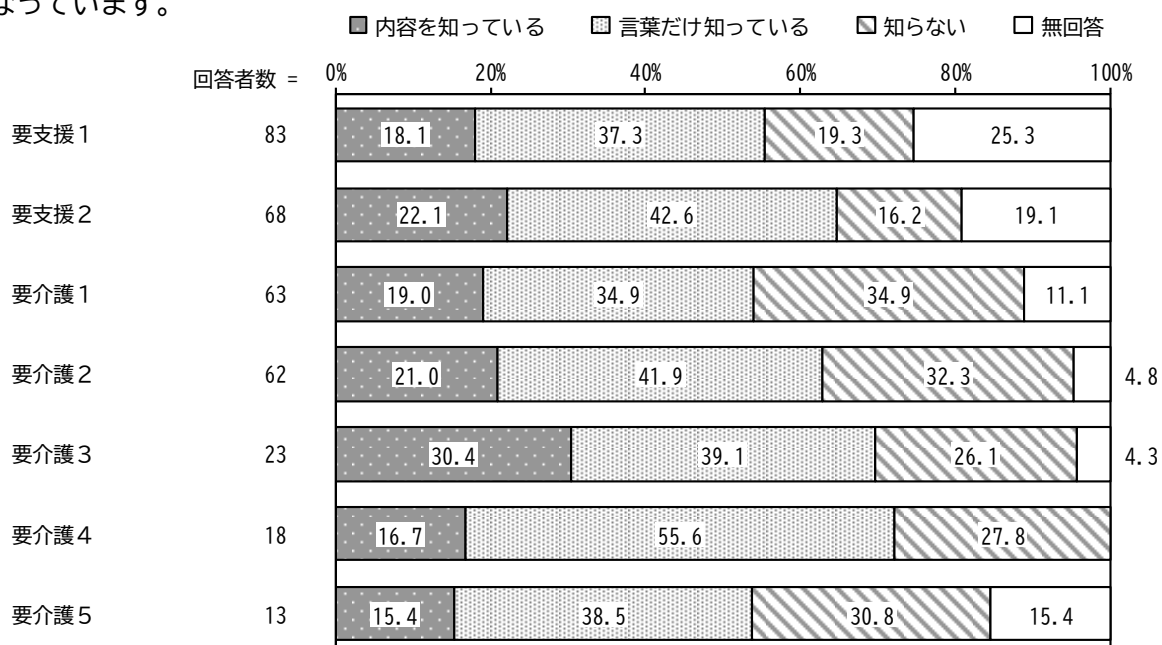
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



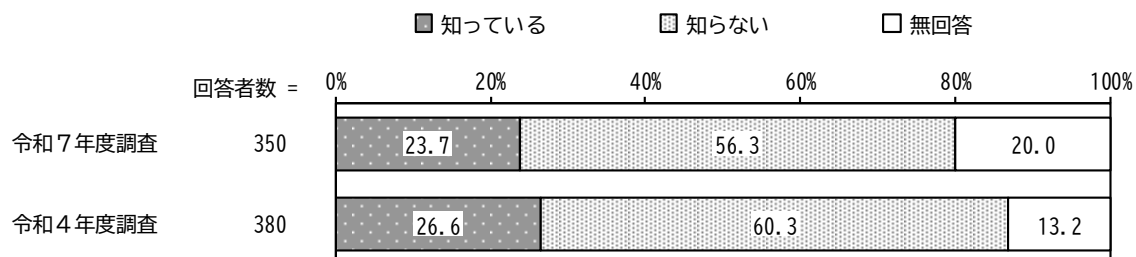
【要介護度別】

要介護度別にみると、要介護3で「内容を知っている」、要介護4で「言葉だけ知っている」の割合が高くなっています。



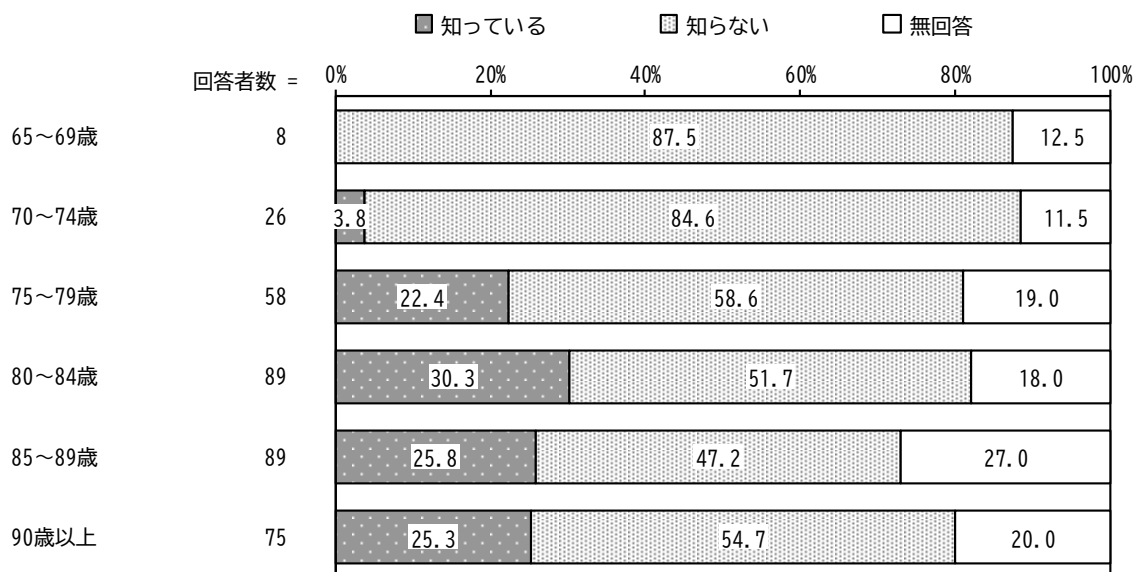
問 24 「成年後見制度」の相談先を、知っていますか。(○は1つ)

「知っている」の割合が 23.7%、「知らない」の割合が 56.3%となっています。



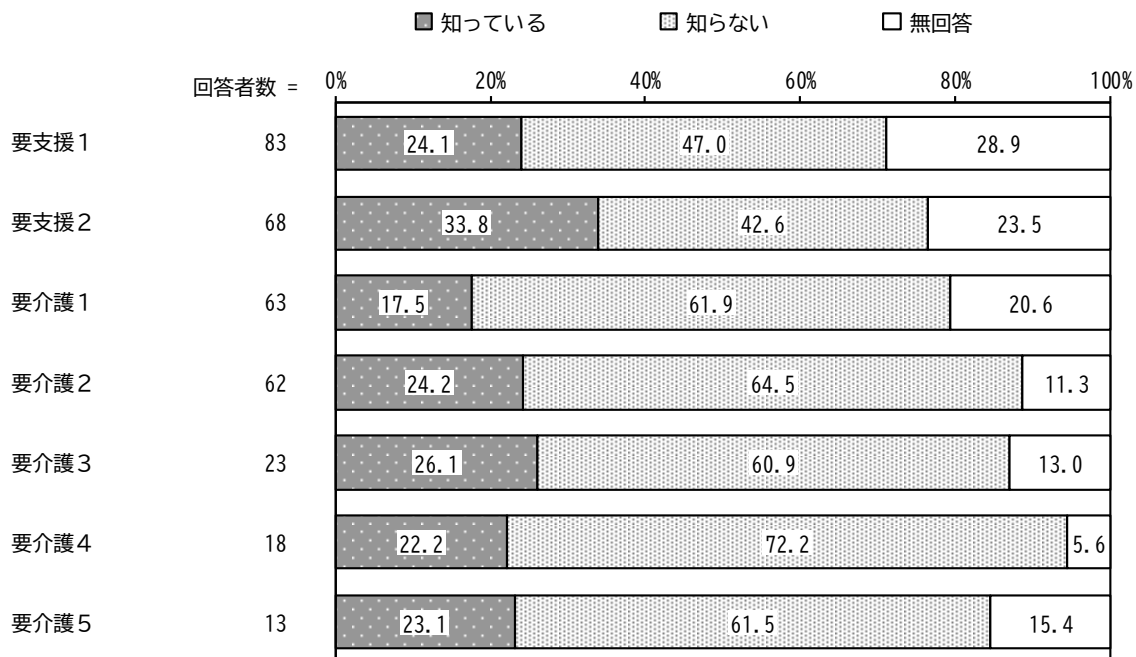
【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から65～69歳まで年齢が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



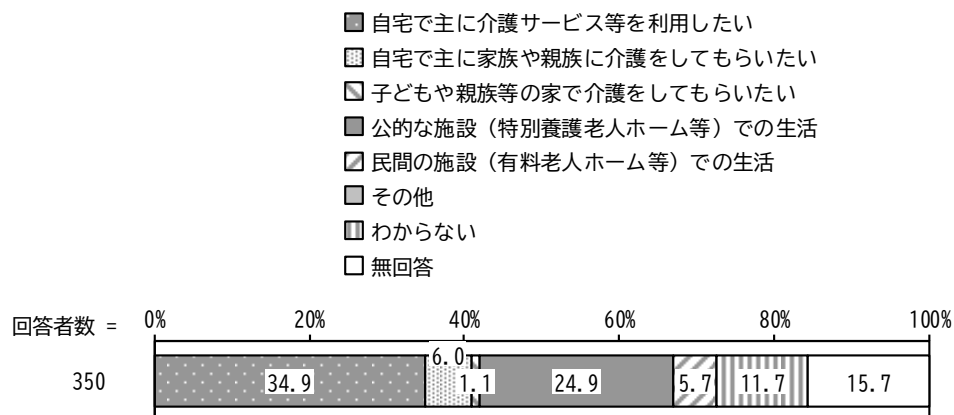
【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2で「知っている」、要介護4で「知らない」の割合が高くなっています。



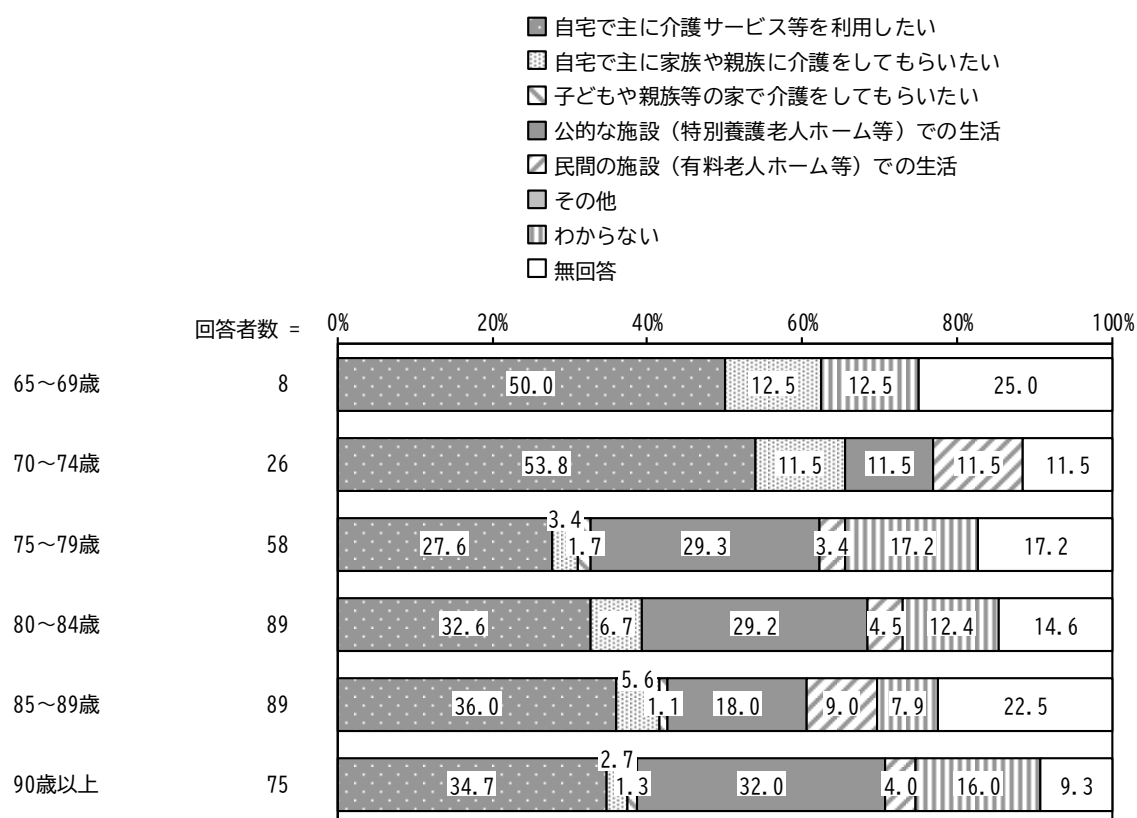
問 25 主な介護者の方ご自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか。(〇は1つ)

「自宅で主に介護サービス等を利用したい」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が 24.9%となっています。



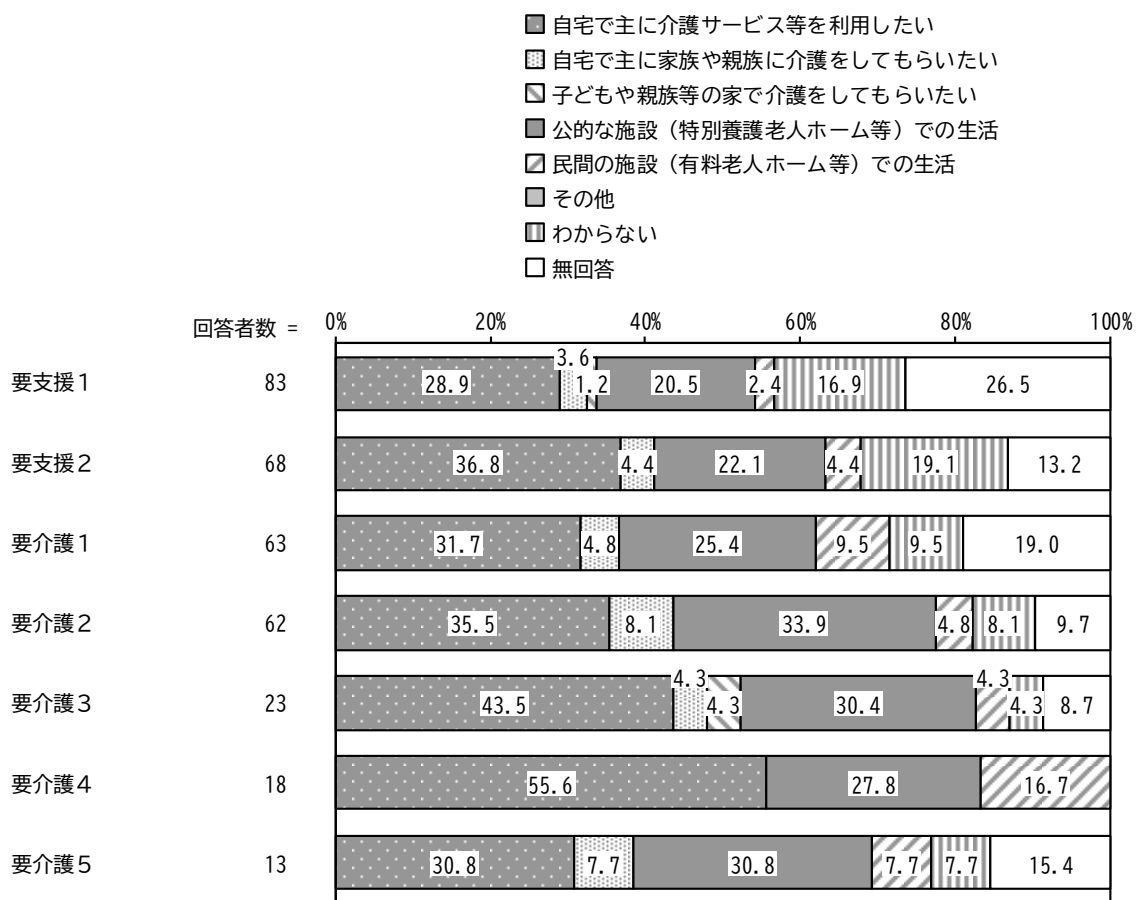
【年齢別】

年齢別にみると、70～74歳で「自宅で主に介護サービス等を利用したい」「自宅で主に家族や親族に介護をしてもらいたい」「民間の施設（有料老人ホーム等）での生活」、90歳以上で「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

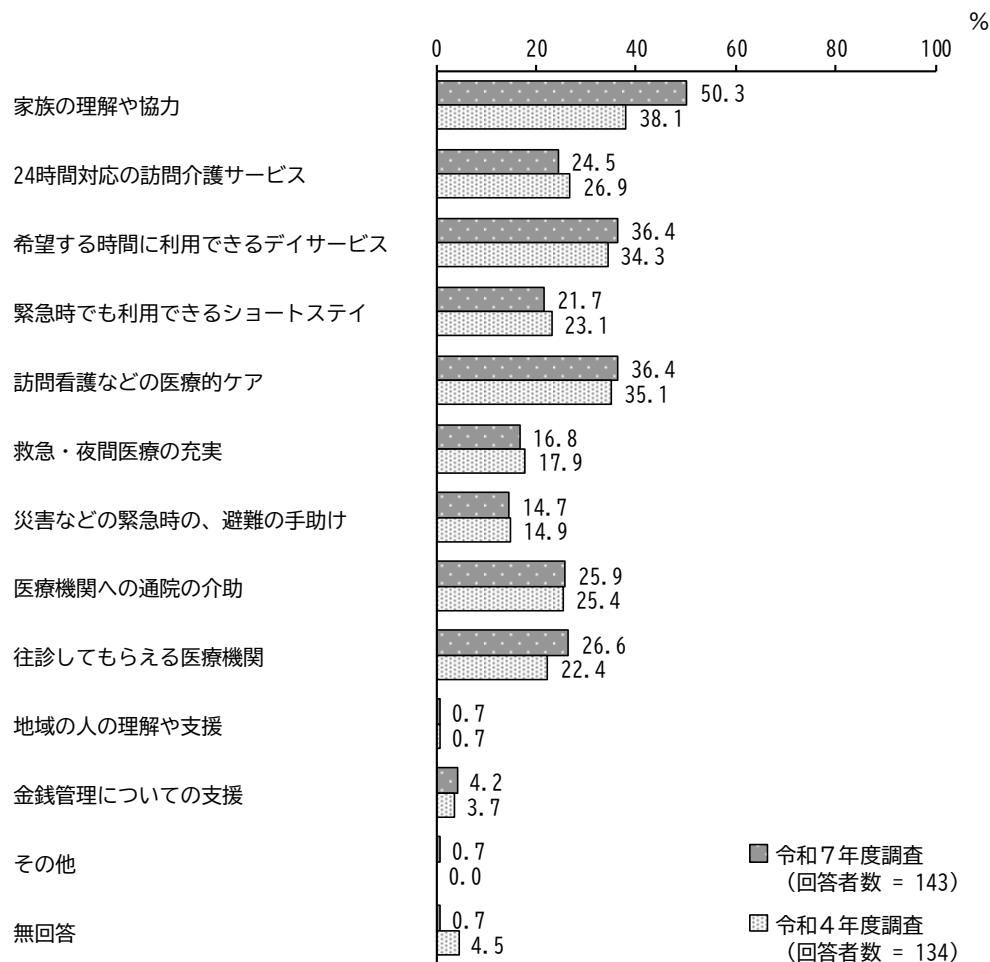
要介護度別にみると、要介護4で「自宅で主に介護サービス等を利用したい」「民間の施設（有料老人ホーム等）での生活」、要介護2で「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が高くなっています。



問 26 問 25 で「自宅で主に介護サービス等を利用したい」「自宅で主に家族や親族に介護をしてもらいたい」と回答した方にお伺いします。
 自宅で生活するために、どのような支援やサービスが必要だと思いますか。
 (〇は3つまで)

「家族の理解や協力」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「希望する時間に利用できるデイサービス」、
 「訪問看護などの医療的ケア」の割合が 36.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族の理解や協力」の割合が増加しています。



※令和4年度調査では、「家族の理解や協力」が「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「救急・夜間医療の充実」の割合が高く、65～69歳から80～84歳まで年齢が上がるほど「家族の理解や協力」の割合が高く、「24時間対応の訪問介護サービス」の割合が低くなっています。また、85～89歳で「医療機関への通院の介助」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の理解や協力	24時間対応の訪問 介護サービス	希望する時間に利用 できるデイサービス	緊急時でも利用できる ショートステイ	訪問看護などの医療 的ケア	救急・夜間医療の充 実	災害などの緊急時 の、避難の手助け	医療機関への通院の 介助	往診してもらえる医 療機関	地域の人の理解や支 援	金銭管理についての 支援	その他	無回答
全 体	143	50.3	24.5	36.4	21.7	36.4	16.8	14.7	25.9	26.6	0.7	4.2	0.7	0.7
65～69歳	5	40.0	40.0	20.0	40.0	80.0	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70～74歳	17	41.2	35.3	41.2	29.4	29.4	35.3	11.8	29.4	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
75～79歳	18	44.4	16.7	44.4	16.7	50.0	33.3	16.7	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
80～84歳	35	57.1	11.4	34.3	22.9	34.3	14.3	8.6	22.9	22.9	2.9	2.9	0.0	2.9
85～89歳	37	48.6	21.6	37.8	21.6	29.7	8.1	18.9	40.5	21.6	0.0	8.1	2.7	0.0
90歳以上	28	53.6	39.3	32.1	17.9	35.7	10.7	17.9	10.7	32.1	0.0	3.6	0.0	0.0

【要介護度別】

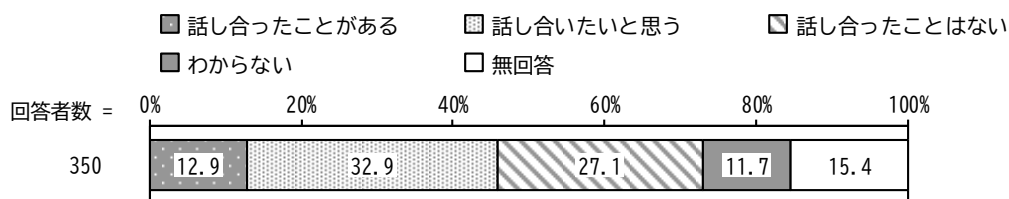
要介護度別にみると、要介護5から要介護2まで要介護度が下がるほど「医療機関への通院の介助」の割合が高くなっています。また、要支援1で「家族の理解や協力」、要支援2で「希望する時間に利用できるデイサービス」「災害などの緊急時の、避難の手助け」、要介護1で「緊急時でも利用できるショートステイ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族の理解や協力	24時間対応の訪問 介護サービス	希望する時間に利用 できるデイサービス	緊急時でも利用できる ショートステイ	訪問看護などの医療 的ケア	救急・夜間医療の充 実	災害などの緊急時 の、避難の手助け	医療機関への通院の 介助	往診してもらえる医 療機関	地域の人の理解や支 援	金銭管理についての 支援	その他	無回答
全 体	143	50.3	24.5	36.4	21.7	36.4	16.8	14.7	25.9	26.6	0.7	4.2	0.7	0.7
要支援1	27	70.4	22.2	29.6	11.1	33.3	22.2	7.4	33.3	29.6	3.7	7.4	0.0	0.0
要支援2	28	32.1	32.1	50.0	17.9	39.3	17.9	28.6	28.6	14.3	0.0	3.6	0.0	0.0
要介護1	23	52.2	13.0	34.8	39.1	39.1	21.7	13.0	26.1	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護2	27	40.7	33.3	33.3	22.2	37.0	7.4	14.8	29.6	22.2	0.0	0.0	3.7	0.0
要介護3	11	45.5	0.0	36.4	27.3	27.3	18.2	9.1	27.3	54.5	0.0	18.2	0.0	0.0
要介護4	10	50.0	20.0	50.0	30.0	40.0	20.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護5	5	40.0	80.0	20.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0

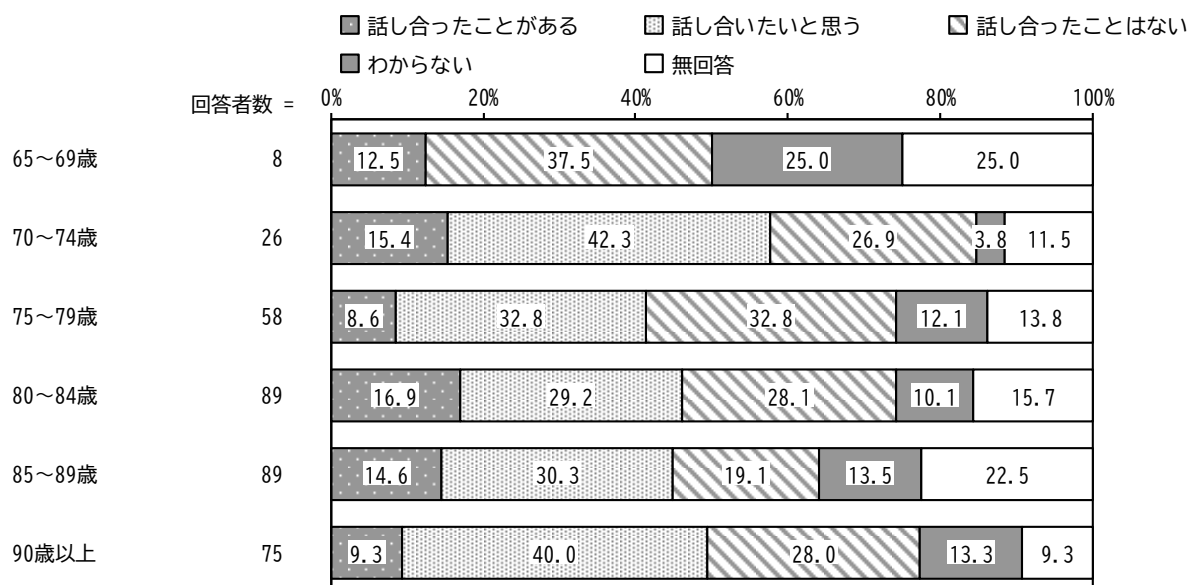
問 27 主な介護者の方は「人生会議」で、人生の最終段階の医療やケアについて、あらかじめ家族や医療・介護関係者と話し合いたいと思いますか。(〇は1つ)

「話し合ったことがある」の割合が 12.9%、「話し合いたいと思う」の割合が 32.9%、「話し合ったことはない」の割合が 27.1%となっています。



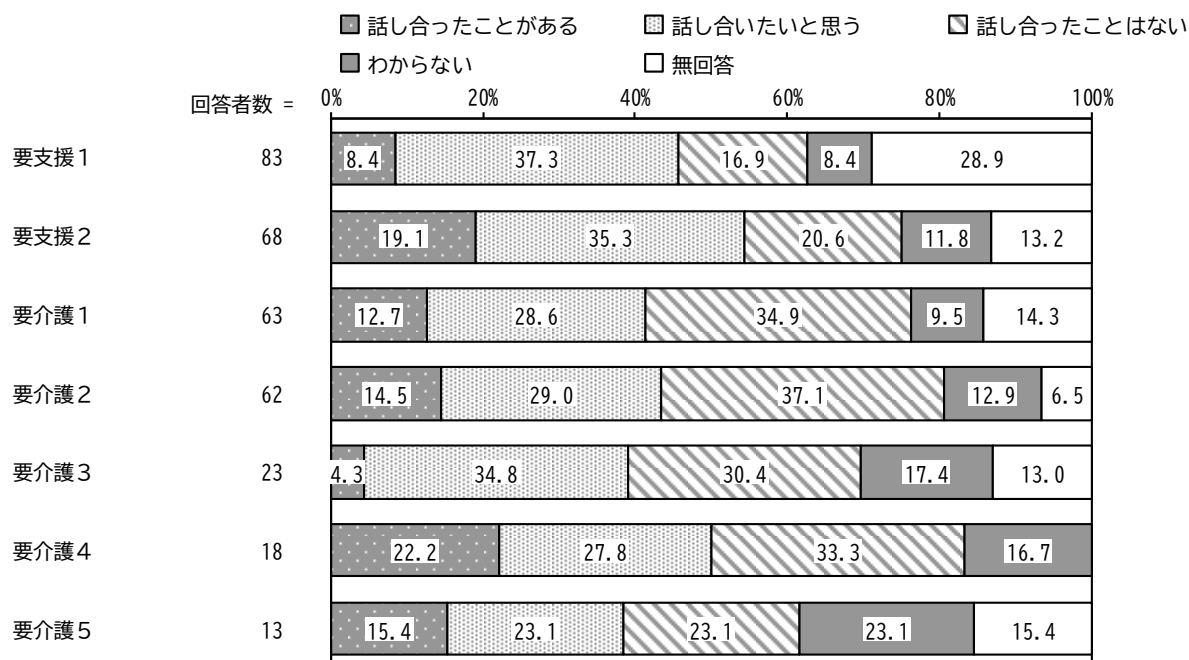
【年齢別】

年齢別にみると、70～74 歳、90 歳以上で「話し合いたいと思う」、75～79 歳で「話し合ったことはない」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

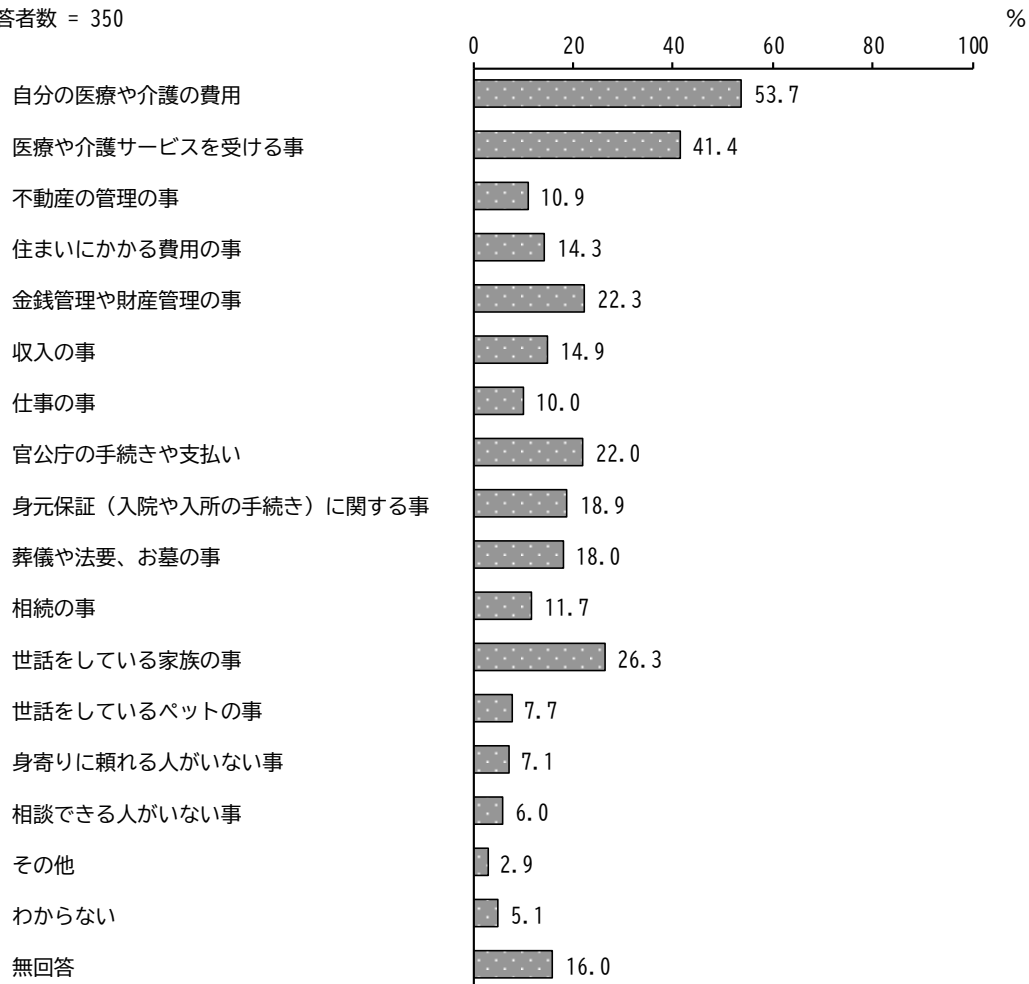
要介護度別にみると、要介護4で「話し合ったことがある」、要介護1、要介護2で「話し合ったことはない」の割合が高くなっています。



問 28 もし主な介護者の方が病気や加齢により判断能力が低下した時、安心した生活を送るうえで、気になっていることや心配なことがあれば、教えてください。
(〇はいくつでも)

「自分の医療や介護の費用」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「医療や介護サービスを受ける事」の割合が 41.4%、「世話をしている家族の事」の割合が 26.3%となっています。

回答者数 = 350



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「世話をしている家族の事」の割合が高い傾向にあり、85～89歳から70～74歳まで年齢が下がるほど「身元保証（入院や入所の手続き）に関する事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにかか る費用	金銭管理や財 産管理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の手続 きや支払い	身元保証（入 院や入所の手 続き）に関す る事
全 体	350	53.7	41.4	10.9	14.3	22.3	14.9	10.0	22.0	18.9
65～69歳	8	37.5	50.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0
70～74歳	26	46.2	50.0	19.2	11.5	30.8	11.5	15.4	23.1	23.1
75～79歳	58	51.7	39.7	6.9	20.7	25.9	15.5	10.3	20.7	20.7
80～84歳	89	56.2	40.4	10.1	12.4	20.2	7.9	5.6	20.2	16.9
85～89歳	89	53.9	39.3	11.2	14.6	21.3	15.7	11.2	20.2	14.6
90歳以上	75	54.7	41.3	12.0	12.0	24.0	22.7	13.3	25.3	22.7

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているペ ットの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	18.0	11.7	26.3	7.7	7.1	6.0	2.9	5.1	16.0
65～69歳	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0
70～74歳	26.9	11.5	19.2	7.7	3.8	7.7	3.8	3.8	15.4
75～79歳	22.4	15.5	24.1	10.3	6.9	5.2	1.7	3.4	15.5
80～84歳	12.4	6.7	23.6	4.5	2.2	3.4	2.2	4.5	15.7
85～89歳	18.0	11.2	30.3	7.9	7.9	4.5	1.1	4.5	21.3
90歳以上	18.7	13.3	33.3	10.7	13.3	10.7	6.7	8.0	10.7

【要介護度別】

要介護度別にみると、要支援2から要介護5まで要介護度が上がるほど「世話をしている家族の事」の割合が高い傾向にあります。また、要介護3で「自分の医療や介護の費用」「医療や介護サービスを受ける事」「住まいにかかる費用の事」「官公庁の手続きや支払い」「身元保証（入院や入所の手続き）に関する事」、要介護1で「金銭管理や財産管理の事」「葬儀や法要、お墓の事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにか かる費用の事	金銭管理 や財産管 理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の 手続きや 支払い	身元保証（入 院や入所の手 続き）に関 する事
全 体	350	53.7	41.4	10.9	14.3	22.3	14.9	10.0	22.0	18.9
要支援1	83	54.2	39.8	8.4	19.3	15.7	14.5	10.8	24.1	15.7
要支援2	68	47.1	25.0	5.9	8.8	19.1	16.2	8.8	13.2	10.3
要介護1	63	42.9	44.4	12.7	6.3	39.7	12.7	11.1	23.8	20.6
要介護2	62	56.5	53.2	14.5	16.1	17.7	19.4	8.1	22.6	22.6
要介護3	23	82.6	56.5	17.4	26.1	34.8	13.0	8.7	34.8	30.4
要介護4	18	55.6	50.0	11.1	11.1	16.7	16.7	11.1	11.1	22.2
要介護5	13	61.5	46.2	15.4	23.1	15.4	15.4	7.7	23.1	23.1

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているペ ットの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	18.0	11.7	26.3	7.7	7.1	6.0	2.9	5.1	16.0
要支援1	15.7	10.8	26.5	8.4	4.8	4.8	3.6	3.6	24.1
要支援2	8.8	11.8	19.1	5.9	4.4	4.4	0.0	8.8	23.5
要介護1	28.6	12.7	28.6	11.1	9.5	4.8	1.6	6.3	9.5
要介護2	17.7	9.7	25.8	4.8	6.5	8.1	4.8	3.2	8.1
要介護3	17.4	17.4	30.4	4.3	17.4	13.0	4.3	4.3	0.0
要介護4	27.8	22.2	33.3	16.7	11.1	5.6	5.6	5.6	11.1
要介護5	23.1	7.7	53.8	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4

【調査結果のまとめ】

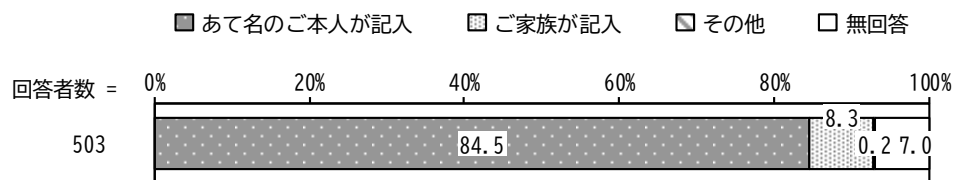
- 主な介護者は「配偶者」が40.6%、「子」が39.4%で、介護者の年齢も「80歳以上」が22.9%と高齢化傾向にあります。
- 介護者の負担は「精神的に負担が大きい」(37.7%)、「体力的に負担が大きい」(27.4%)が高く、不安な介助として「夜間の排泄」(18.0%)が挙げられています。
- 働いている介護者の22.1%が「労働時間を調整」しています。
- 老老介護の進行による共倒れリスクが懸念されることから、精神的・体力的負担の大きい夜間介助の軽減支援や、仕事と介護の両立を可能にする柔軟なサービス提供が必要です。

V 第2号被保険者対象二一ズ調査結果

V 第2号被保険者対象ニーズ調査結果

※調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

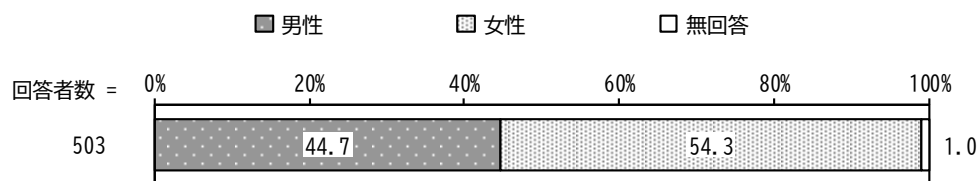
「あて名のご本人が記入」の割合が84.5%、「ご家族が記入」の割合が8.3%となっています。



1 あなたご自身のことについて

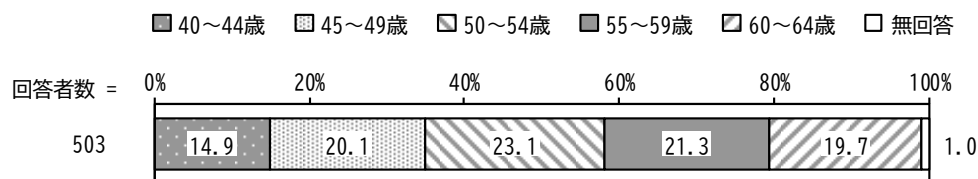
問1 あて名のご本人（以下、「あなた」という）の性別について、ご回答ください。（○は1つ）

「男性」の割合が44.7%、「女性」の割合が54.3%となっています。



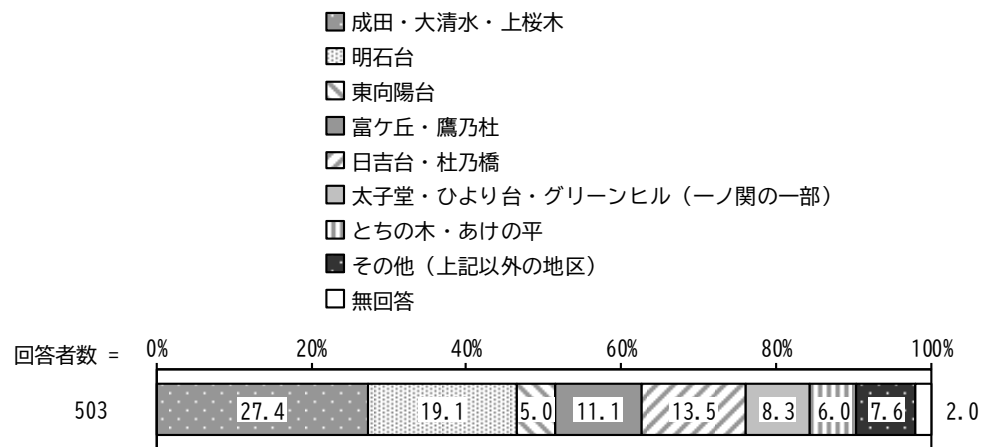
問2 あなたの年齢について、ご回答ください。（○は1つ）

「50～54歳」の割合が23.1%と最も高く、次いで「55～59歳」の割合が21.3%、「45～49歳」の割合が20.1%となっています。



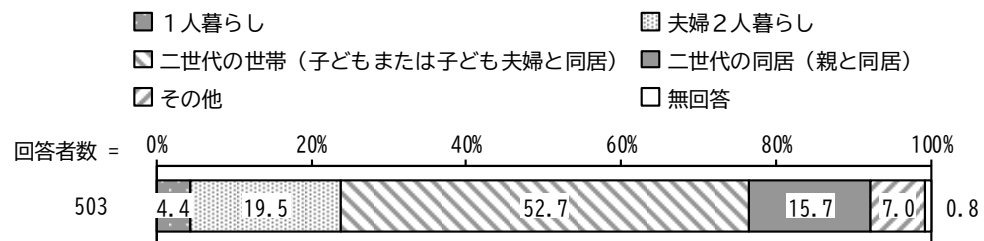
問3 あなたのお住まいの地区は、どちらですか。(〇は1つ)

「成田・大清水・上桜木」の割合が27.4%と最も高く、次いで「明石台」の割合が19.1%、「日吉台・杜乃橋」の割合が13.5%となっています。



問4 家族構成を教えてください。(〇は1つ)

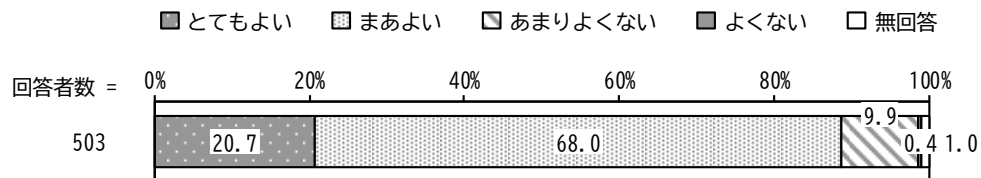
「二世代の世帯（子どもまたは子ども夫婦と同居）」の割合が52.7%と最も高く、次いで「夫婦2人暮らし」の割合が19.5%、「二世代の同居（親と同居）」の割合が15.7%となっています。



2 あなた自身の健康状況について

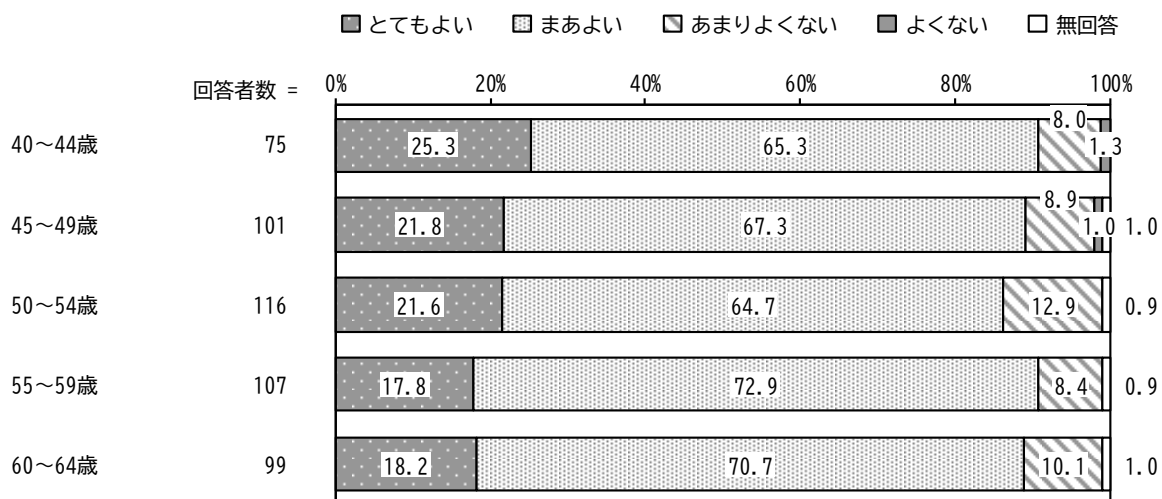
問5 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”の割合が88.7%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”の割合が10.3%となっています。



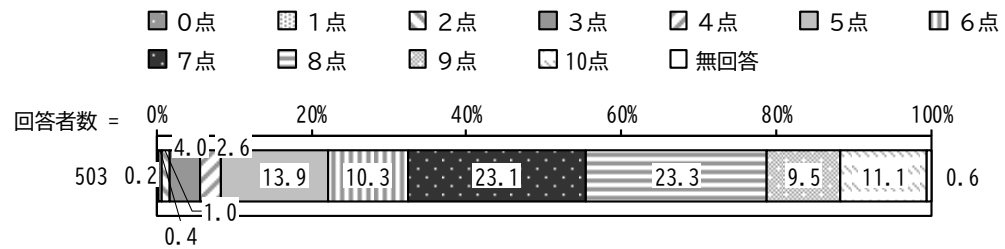
【年齢別】

年齢別にみると、55～59歳から40～44歳まで年齢が下がるほど「とてもよい」の割合が高くなっています。



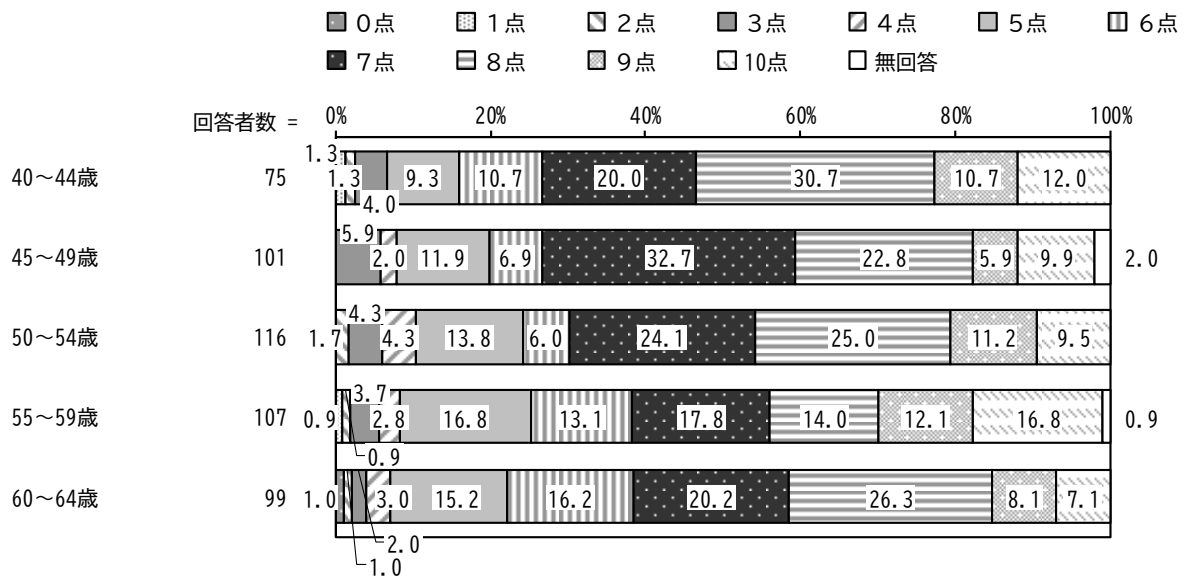
問6 あなたは、現在どの程度幸せですか。(○は1つ)
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

「8点」の割合が23.3%と最も高く、次いで「7点」の割合が23.1%、「5点」の割合が13.9%となっています。



【年齢別】

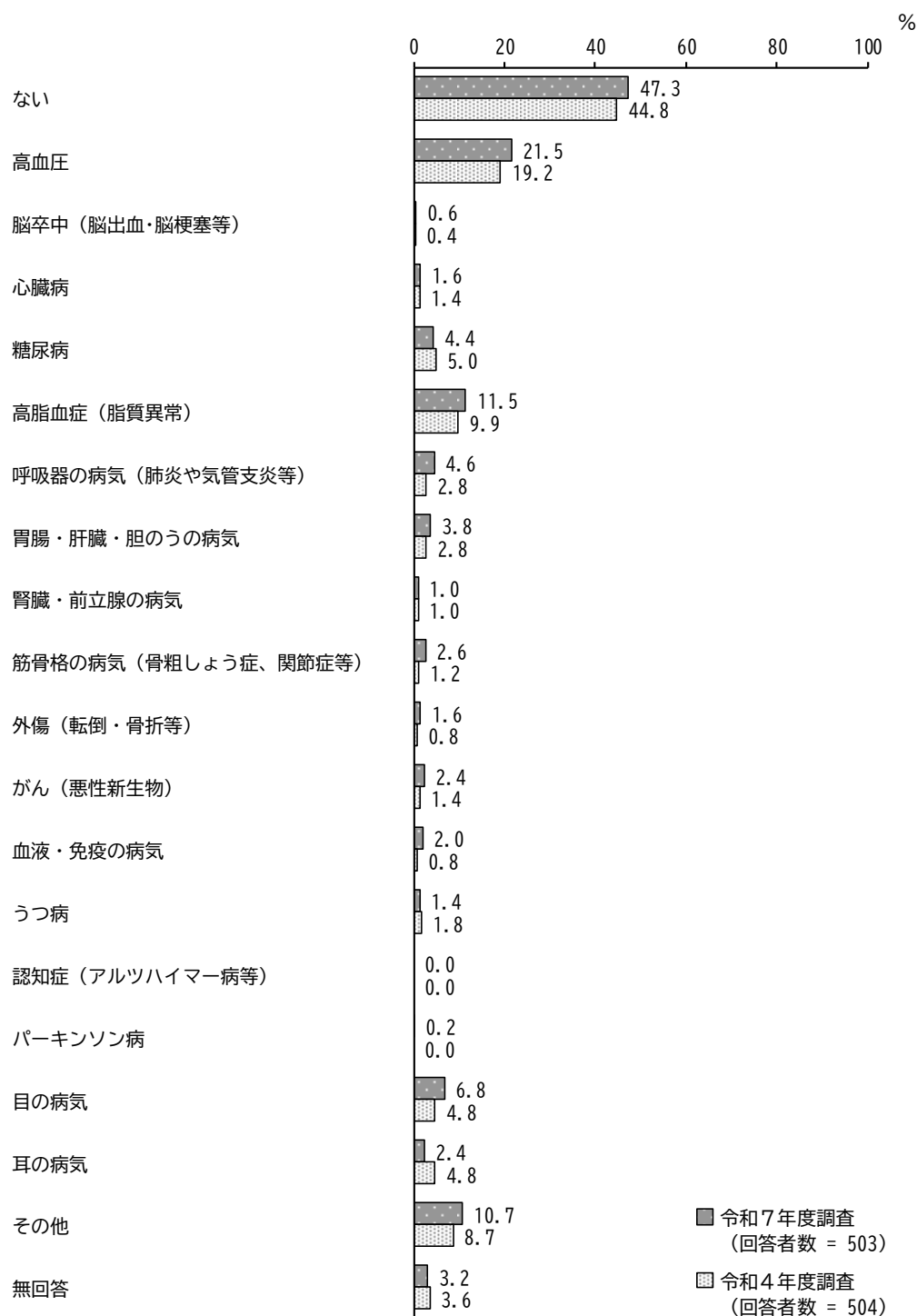
年齢別にみると、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「5点」の割合が高く、「8点」の割合が低い傾向にあります。



問7 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

「ない」の割合が47.3%と最も高く、次いで「高血圧」の割合が21.5%、「高脂血症（脂質異常）」の割合が11.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和4年度調査では、「耳の病気」が「耳と鼻の病気」となっていました。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「高血圧」の割合が高く、「ない」の割合が低く、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「糖尿病」「高脂血症（脂質異常）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳 梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異 常)	呼吸器の病気 (肺炎 や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆の うの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気(骨粗 しょう症、関節症 等)
全 体	503	47.3	21.5	0.6	1.6	4.4	11.5	4.6	3.8	1.0	2.6
40～44歳	75	62.7	6.7	0.0	0.0	4.0	9.3	2.7	2.7	0.0	1.3
45～49歳	101	58.4	12.9	0.0	0.0	0.0	5.0	5.9	0.0	1.0	1.0
50～54歳	116	51.7	19.8	1.7	2.6	2.6	9.5	5.2	4.3	1.7	0.9
55～59歳	107	41.1	21.5	0.9	0.9	3.7	13.1	2.8	4.7	0.0	1.9
60～64歳	99	27.3	44.4	0.0	4.0	12.1	21.2	6.1	7.1	2.0	8.1

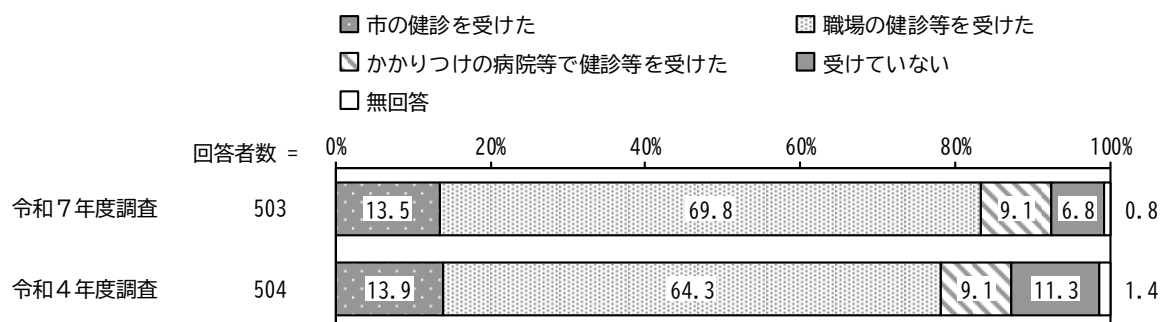
区分	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	認知症(アルツハイ マー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全 体	1.6	2.4	2.0	1.4	0.0	0.2	6.8	2.4	10.7	3.2
40～44歳	0.0	1.3	4.0	0.0	0.0	0.0	5.3	1.3	6.7	4.0
45～49歳	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0	1.0	4.0	2.0	14.9	1.0
50～54歳	1.7	5.2	0.9	0.9	0.0	0.0	5.2	2.6	8.6	2.6
55～59歳	0.0	0.9	1.9	2.8	0.0	0.0	6.5	2.8	13.1	4.7
60～64歳	4.0	4.0	2.0	1.0	0.0	0.0	13.1	3.0	9.1	1.0

V

問8 過去1年以内に健診や人間ドックを受けましたか。(○は1つ)

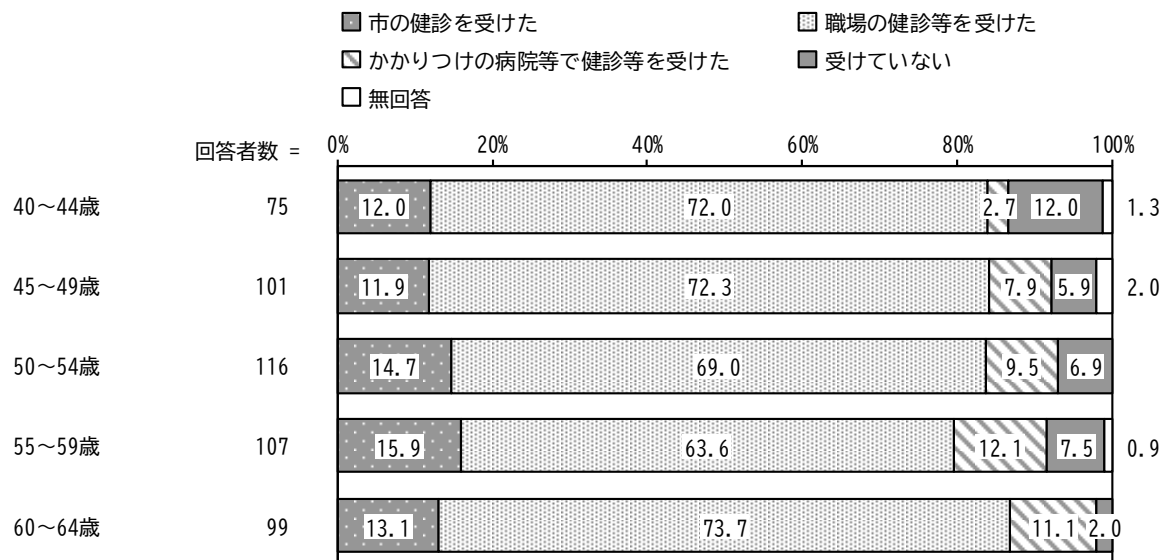
「職場の健診等を受けた」の割合が69.8%と最も高く、次いで「市の健診を受けた」の割合が13.5%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「職場の健診等を受けた」の割合が増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「かかりつけの病院等で健診等を受けた」の割合が高くなっています。

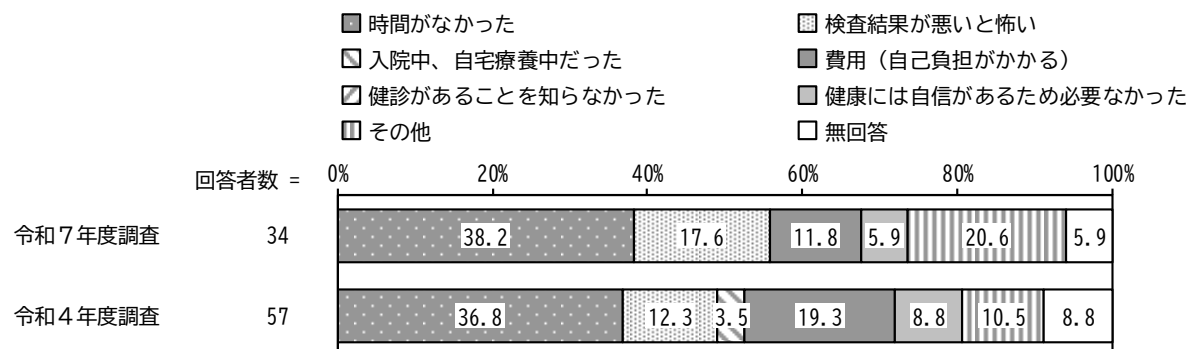


【問8で「受けていない」と回答した方のみ】

① 健診や人間ドックを受けなかった（受けない）最も大きな理由は何ですか。（○は1つ）

「時間がなかった」の割合が38.2%と最も高く、次いで「検査結果が悪いと怖い」の割合が17.6%、「費用（自己負担がかかる）」の割合が11.8%となっています。

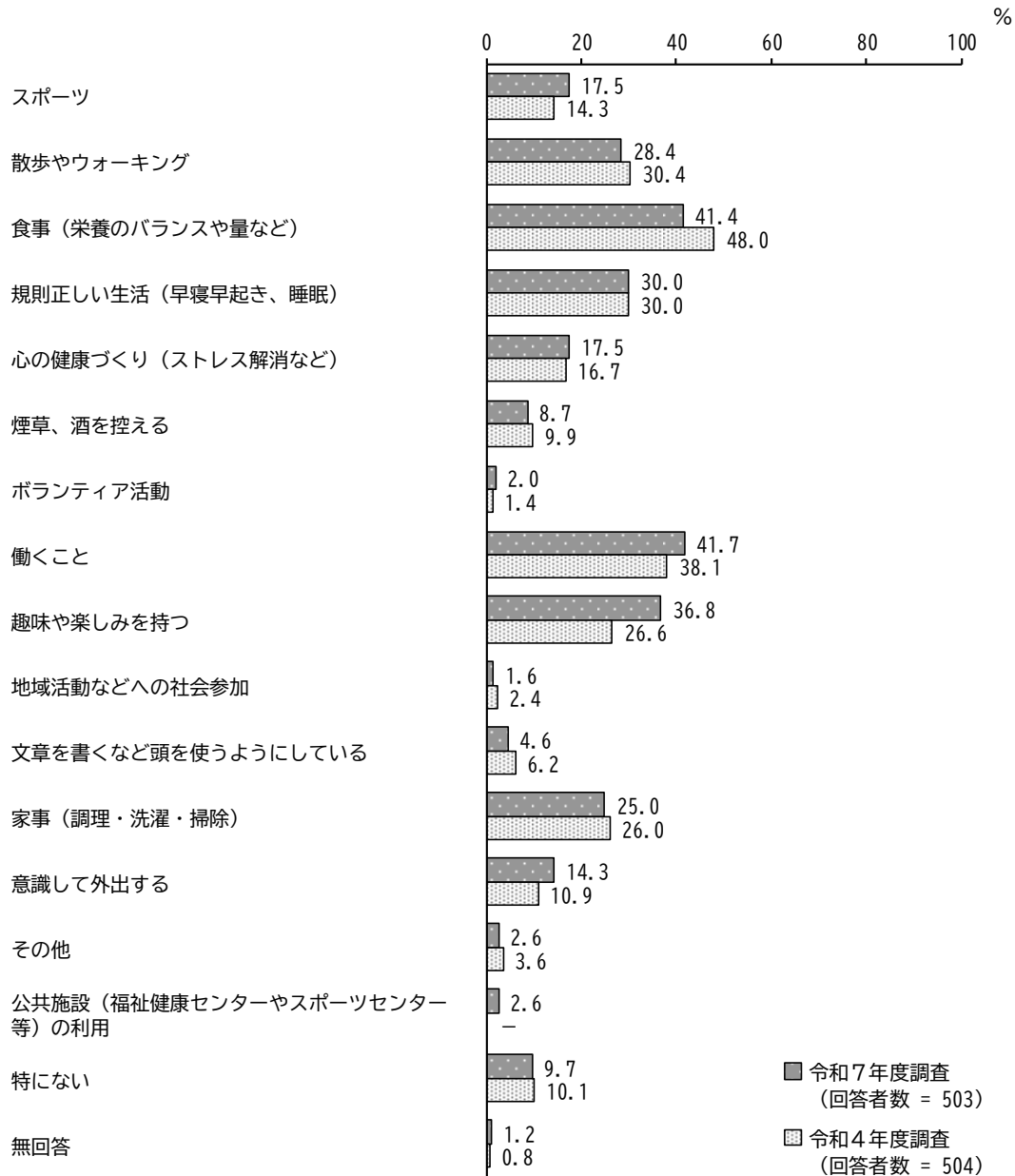
令和4年度調査と比較すると、「検査結果が悪いと怖い」の割合が増加しています。一方、「費用（自己負担がかかる）」の割合が減少しています。



問9 健康づくりや介護予防のため、取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

「働くこと」の割合が41.7%と最も高く、次いで「食事（栄養のバランスや量など）」の割合が41.4%、「趣味や楽しみを持つ」の割合が36.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「趣味や楽しみを持つ」の割合が増加しています。一方、「食事（栄養のバランスや量など）」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「スポーツ」「散歩やウォーキング」「煙草、酒を控える」の割合が高く、女性で「食事（栄養のバランスや量など）」「規則正しい生活（早寝早起き、睡眠）」「心の健康づくり（ストレス解消など）」「働くこと」「家事（調理・洗濯・掃除）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツ	散歩やウォーキング	食事（栄養のバランスや量など）	規則正しい生活 (早寝早起き、睡眠)	心の健康づくり (ストレス解消など)	煙草、酒を控える	ボランティア活動	働くこと
全 体	503	17.5	28.4	41.4	30.0	17.5	8.7	2.0	41.7
男性	225	24.0	31.6	34.2	25.8	11.6	12.9	1.8	34.7
女性	273	12.5	26.4	47.6	33.7	22.7	5.1	2.2	48.0

区分	趣味や楽しみを持つ	地域活動などへの社会参加	文章を書くなど頭を使うようにしている	家事（調理・洗濯・掃除）	意識して外出する	その他	公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用	特にない	無回答
全 体	36.8	1.6	4.6	25.0	14.3	2.6	2.6	9.7	1.2
男性	37.3	1.8	2.2	10.2	14.7	0.9	2.2	8.9	1.8
女性	37.0	1.5	6.6	37.4	14.3	4.0	2.9	10.3	0.7

【年齢別】

年齢別にみると、45～49 歳から 60～64 歳まで年齢が上がるほど「働くこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツ	散歩やウォーキング	食事（栄養のバランスや量など）	規則正しい生活 (早寝早起き、睡眠)	心の健康づくり (ストレス解消など)	煙草、酒を控える	ボランティア活動	働くこと
全 体	503	17.5	28.4	41.4	30.0	17.5	8.7	2.0	41.7
40～44歳	75	14.7	18.7	37.3	22.7	21.3	12.0	1.3	36.0
45～49歳	101	18.8	25.7	34.7	21.8	14.9	7.9	0.0	31.7
50～54歳	116	23.3	32.8	43.1	33.6	19.0	6.9	1.7	40.5
55～59歳	107	11.2	30.8	45.8	39.3	23.4	7.5	5.6	47.7
60～64歳	99	19.2	32.3	44.4	30.3	10.1	9.1	1.0	52.5

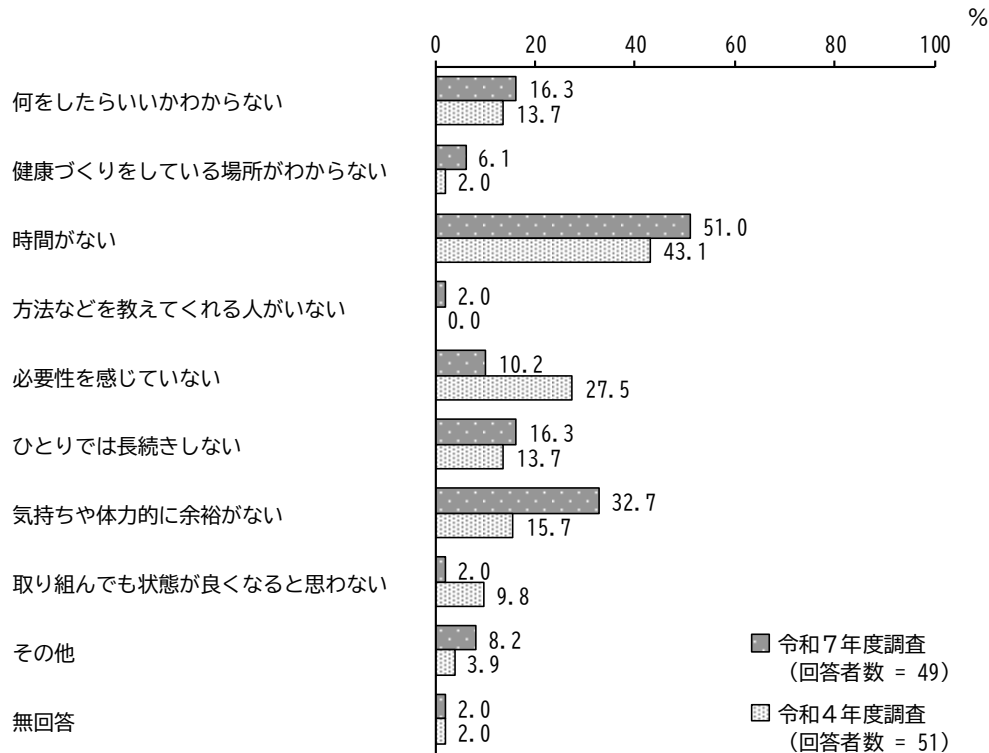
区分	趣味や楽しみを持つ	地域活動などへの社会参加	文章を書くなど頭を使うようにしている	家事（調理・洗濯・掃除）	意識して外出する	その他	公共施設（福祉健康センターやスポーツセンター等）の利用	特にない	無回答
全 体	36.8	1.6	4.6	25.0	14.3	2.6	2.6	9.7	1.2
40～44歳	40.0	0.0	5.3	20.0	17.3	4.0	4.0	12.0	0.0
45～49歳	38.6	0.0	5.0	16.8	12.9	4.0	2.0	12.9	1.0
50～54歳	35.3	0.9	2.6	22.4	12.9	1.7	4.3	9.5	0.9
55～59歳	36.4	2.8	6.5	33.6	15.0	0.9	1.9	10.3	2.8
60～64歳	35.4	4.0	4.0	31.3	14.1	2.0	1.0	5.1	1.0

【問9で「特になし」と回答した方のみ】

① 取り組んでいない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「時間がない」の割合が51.0%と最も高く、次いで「気持ちや体力的に余裕がない」の割合が32.7%、「何をしたらいいかわからない」、「ひとりでは長続きしない」の割合が16.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「時間がない」「気持ちや体力的に余裕がない」の割合が増加しています。一方、「必要性を感じていない」「取り組んでも状態が良くなると思わない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「健康づくりをしている場所がわからない」「方法などを教えてくれる人がいない」「ひとりでは長続きしない」「気持ちや体力的に余裕がない」「取り組んでも状態が良くなると思わない」の割合が高く、女性で「時間がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	何をしたらいいかわからない	健康づくりをしている場所がわからない	時間がない	方法などを教えてくれる人がいない	必要性を感じていない	ひとりでは長続きしない	気持ちや体力的に余裕がない	取り組んでも状態が良くなると思わない	その他	無回答
全 体	49	16.3	6.1	51.0	2.0	10.2	16.3	32.7	2.0	8.2	2.0
男性	20	15.0	10.0	45.0	5.0	10.0	30.0	45.0	5.0	10.0	0.0
女性	28	17.9	3.6	57.1	0.0	10.7	7.1	25.0	0.0	7.1	0.0

【年齢別】

年齢別にみると、55～59 歳から 40～44 歳まで年齢が下がるほど「必要性を感じていない」の割合が高い傾向にあり、55～59 歳から 45～49 歳まで年齢が下がるほど「何をしたらいいかわからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	何をしたらいいかわからない	健康づくりをしていない場所がわからない	時間がない	方法などを教えてくれる人がいない	必要性を感じていない	ひとりでは長続きしない	気持ちや体力的に余裕がない	取り組んでも状態が良くなると思わない	その他	無回答
全 体	49	16.3	6.1	51.0	2.0	10.2	16.3	32.7	2.0	8.2	2.0
40～44歳	9	0.0	0.0	55.6	0.0	22.2	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0
45～49歳	13	30.8	15.4	46.2	0.0	7.7	15.4	30.8	7.7	0.0	0.0
50～54歳	11	18.2	0.0	72.7	0.0	9.1	9.1	27.3	0.0	9.1	0.0
55～59歳	11	0.0	0.0	36.4	0.0	0.0	27.3	36.4	0.0	27.3	9.1
60～64歳	5	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

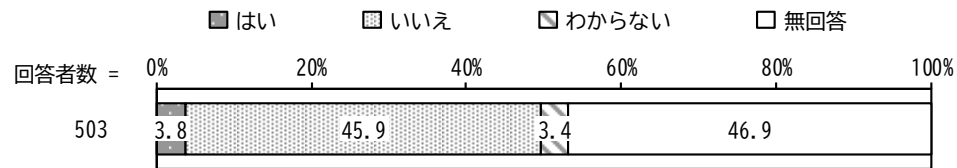
【調査結果のまとめ】

- 健康状態は「よい」が 88.7%と高いですが、生活習慣病予備軍となる「高血圧」が 21.5%、「高脂血症」が 11.5%見られます。
- 健康づくりに取り組めない理由として「時間がない」が 51.0%で最多です（問9①）。
- 主観的健康観は高い一方、疾病リスクが潜在化しており、多忙な現役世代が短時間で取り組める健康増進プログラムの提供が必要です。

3 認知症について

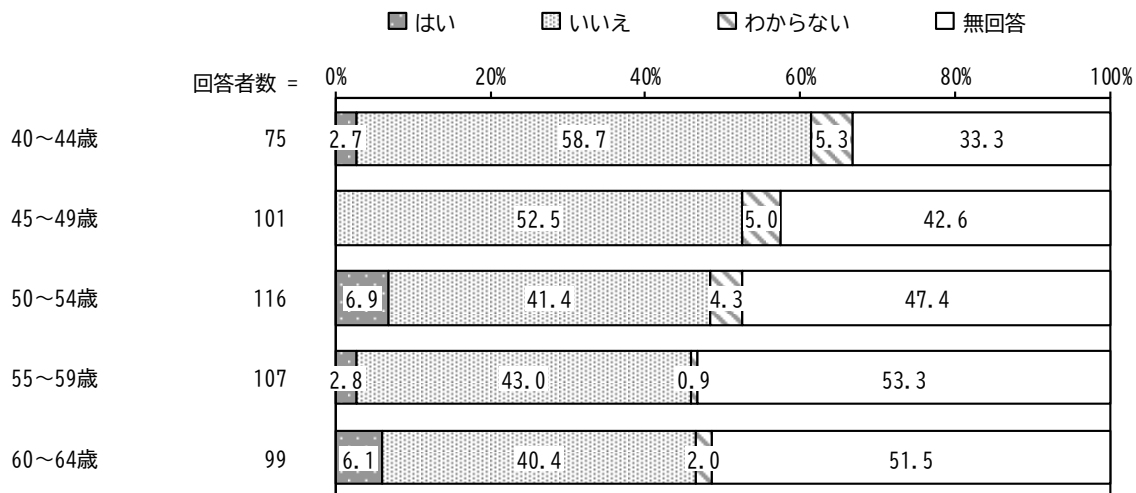
問10 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか（○は1つ）

「はい」の割合が3.8%、「いいえ」の割合が45.9%となっています。



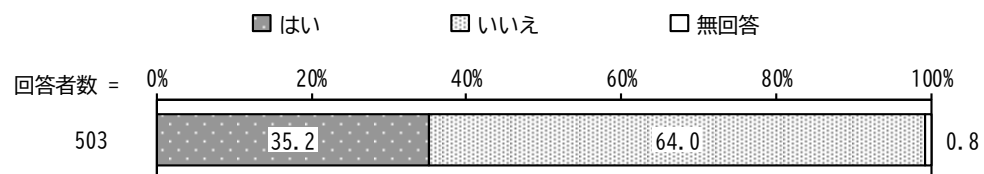
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「いいえ」の割合が高い傾向にあります。



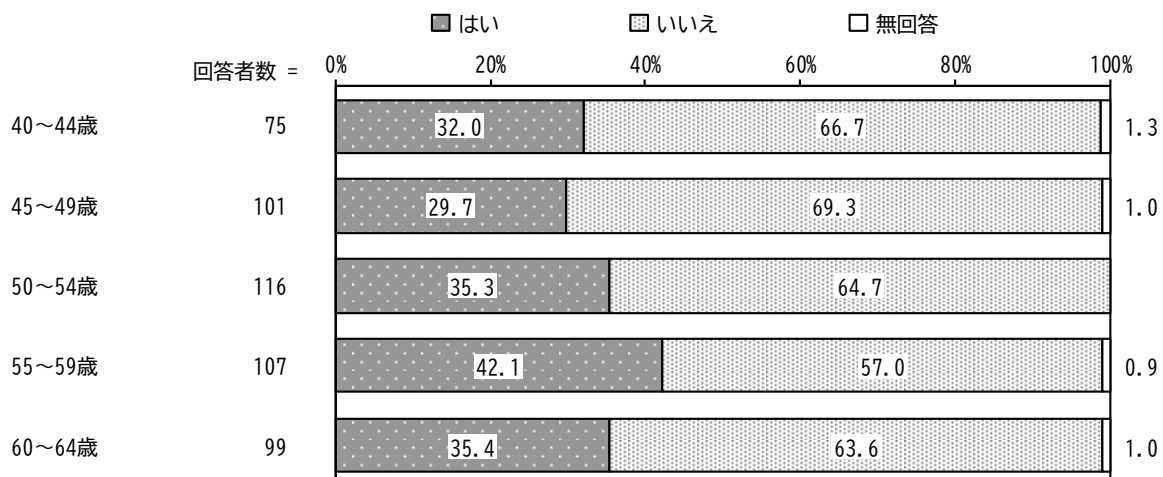
問11 認知症に関する相談窓口を知っていますか。（○は1つ）

「はい」の割合が35.2%、「いいえ」の割合が64.0%となっています。



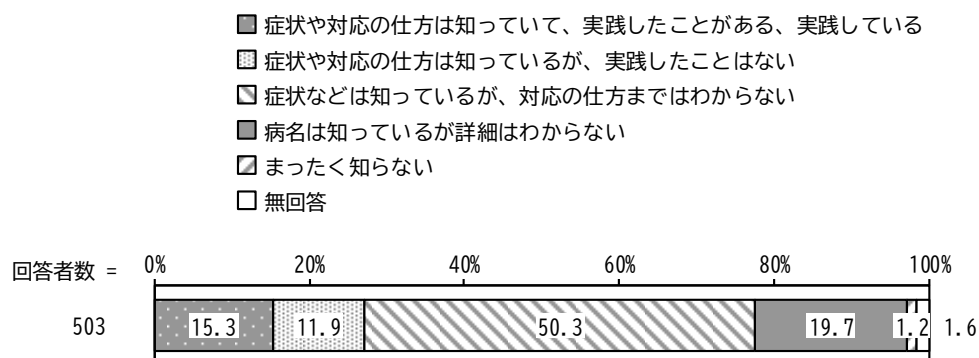
【年齢別】

年齢別にみると、55~59歳で「はい」、45~49歳で「いいえ」の割合が高くなっています。



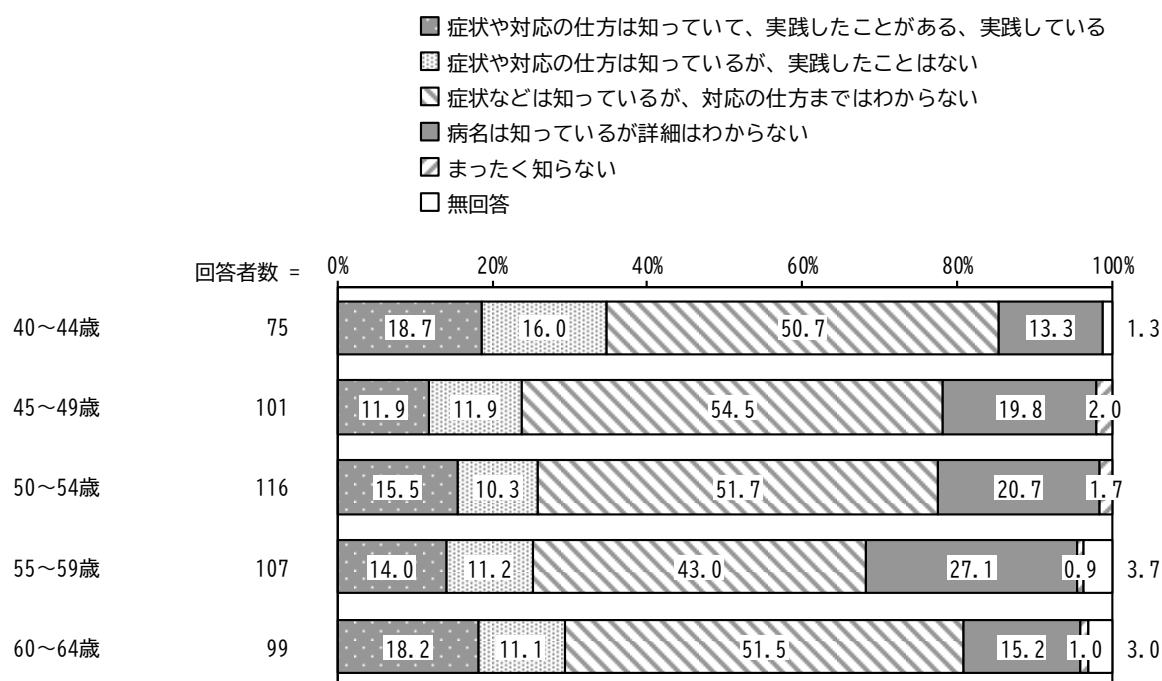
問 12 あなたは「認知症」についてどの程度知っていますか。(○は1つ)

「症状などは知っているが、対応の仕方まではわからない」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「病名は知っているが詳細はわからない」の割合が 19.7%、「症状や対応の仕方は知っていて、実践したことがある、実践している」の割合が 15.3%となっています。



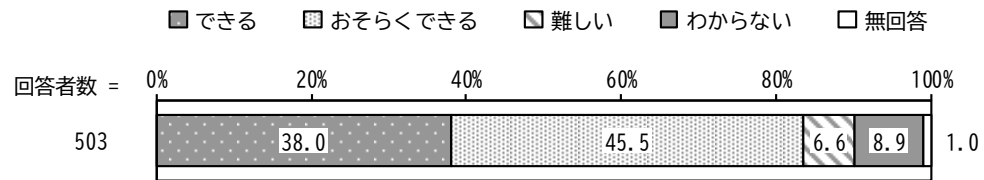
【年齢別】

年齢別にみると、45～49 歳から 60～64 歳まで年齢が上がるほど「症状や対応の仕方は知っていて、実践したことがある、実践している」の割合が高い傾向にあり、40～44 歳から 55～59 歳まで年齢が上がるほど「病名は知っているが詳細はわからない」の割合が高くなっています。



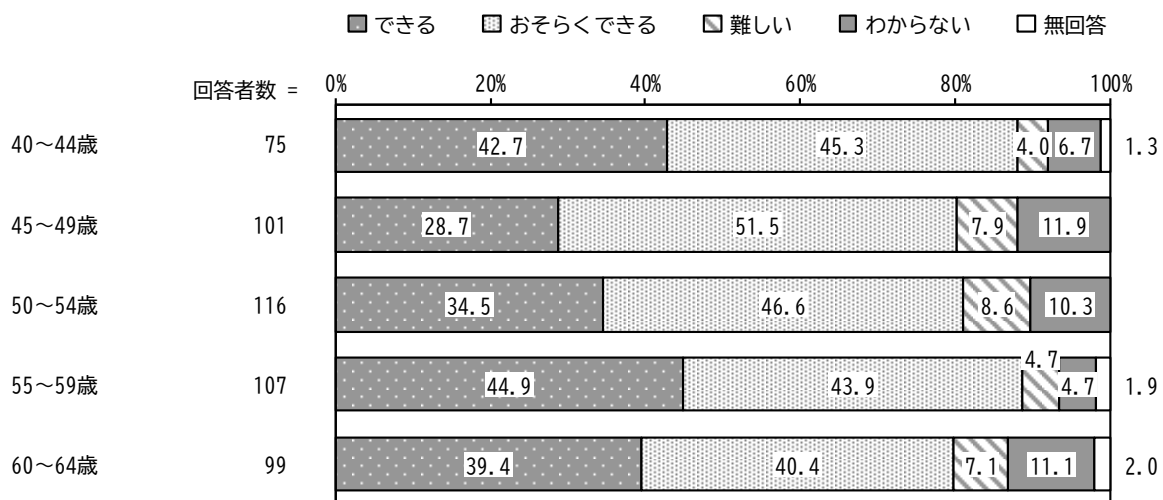
問13 自分や家族が「認知症かもしれない」と思った場合、一人で抱え込まずに打ち明けた
り、誰かに相談することができますか。(○は1つ)

「できる」の割合が38.0%、「おそらくできる」の割合が45.5%、「難しい」の割合が6.6%となっています。



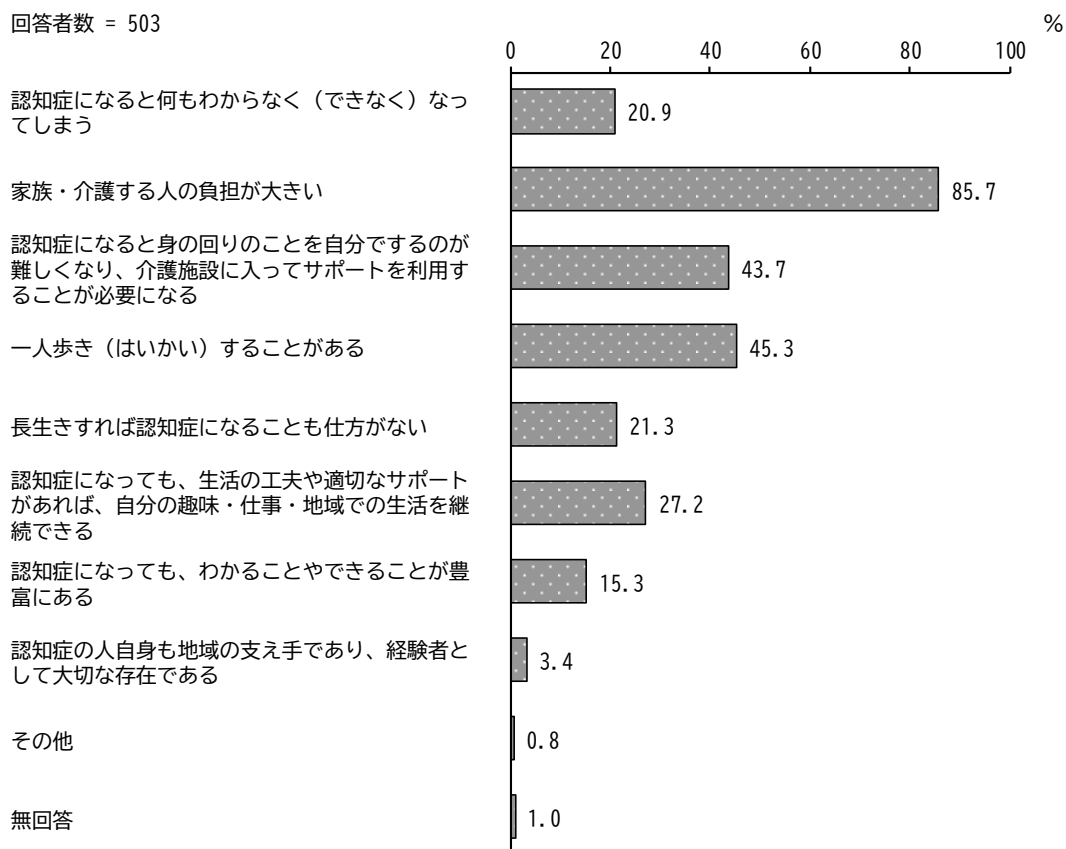
【年齢別】

年齢別にみると、60～64歳から45～49歳まで年齢が下がるほど「おそらくできる」の割合が高くなっています。



問 14 あなたが思う認知症のイメージを教えてください。(○は3つまで)

「家族・介護する人の負担が大きい」の割合が 85.7%と最も高く、次いで「一人歩き（はいかい）することがある」の割合が 45.3%、「認知症になると身の回りのことを自分でするのが難しくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」の割合が 43.7%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、60～64歳から45～49歳まで年齢が下がるほど「一人歩き（はいかい）することがある」の割合が高くなっています。また、55～59歳で「認知症になっても、生活の工夫や適切なサポートがあれば、自分の趣味・仕事・地域での生活を継続できる」の割合が高くなっています。

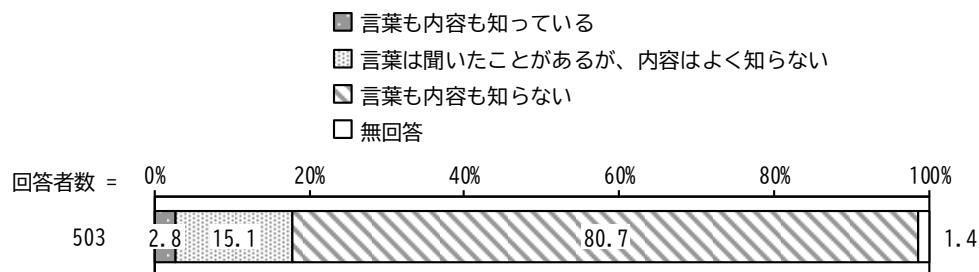
単位：％

区分	回答者数（件）	認知症になると何もわからなく（できなく）なってしまう	家族・介護する人の負担が大きい	認知症になると身の回りのことを自分でするのが難しくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	一人歩き（はいかい）することがある	長生きすれば認知症になることも仕方がない
全 体	503	20.9	85.7	43.7	45.3	21.3
40～44歳	75	24.0	85.3	41.3	48.0	26.7
45～49歳	101	17.8	89.1	47.5	55.4	19.8
50～54歳	116	20.7	94.0	37.1	47.4	19.0
55～59歳	107	18.7	77.6	48.6	42.1	19.6
60～64歳	99	22.2	81.8	45.5	33.3	23.2

区分	認知症になっても、生活の工夫や適切なサポートがあれば、自分の趣味・仕事・地域での生活を継続できる	認知症になっても、わかることやできることが豊富にある	認知症の人自身も地域の支え手であり、経験者として大切な存在である	その他	無回答
全 体	27.2	15.3	3.4	0.8	1.0
40～44歳	21.3	14.7	5.3	1.3	1.3
45～49歳	20.8	6.9	1.0	0.0	0.0
50～54歳	20.7	17.2	2.6	0.9	0.0
55～59歳	38.3	20.6	4.7	0.9	1.9
60～64歳	34.3	17.2	4.0	1.0	2.0

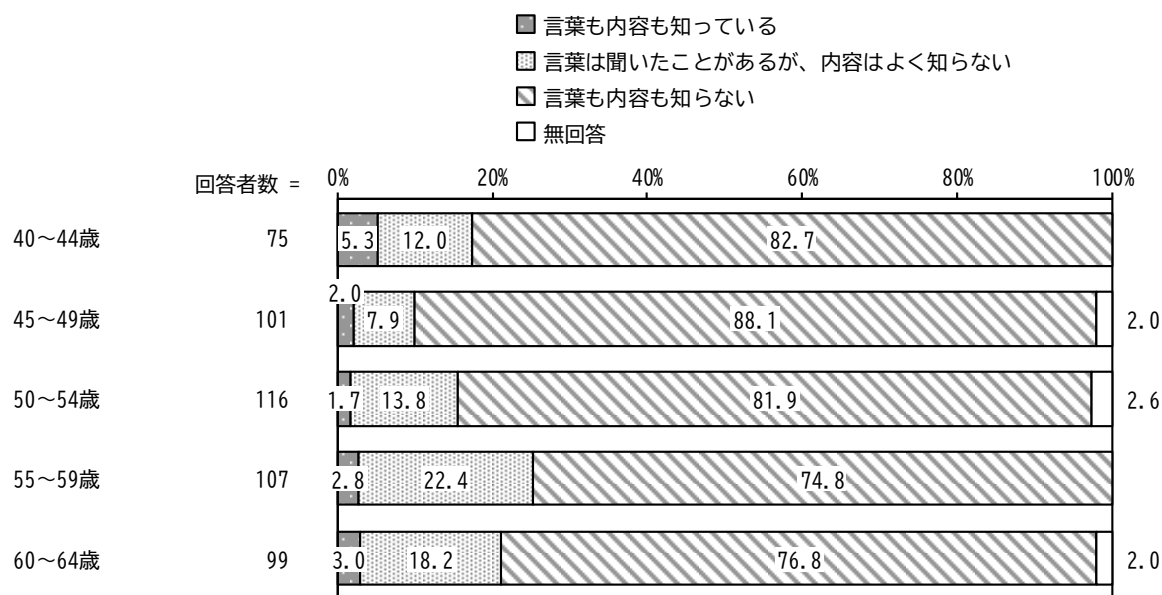
問 15 認知症基本法に基づき、国では、「認知症とともに希望を持って生きる」という「新しい認知症観」を示しています。あなたは、「新しい認知症観」という言葉を聞いたことがありますか。また、その内容について知っていますか。(〇は1つ)

「言葉も内容も知っている」の割合が 2.8%、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」の割合が 15.1%、「言葉も内容も知らない」の割合が 80.7%となっています。



【年齢別】

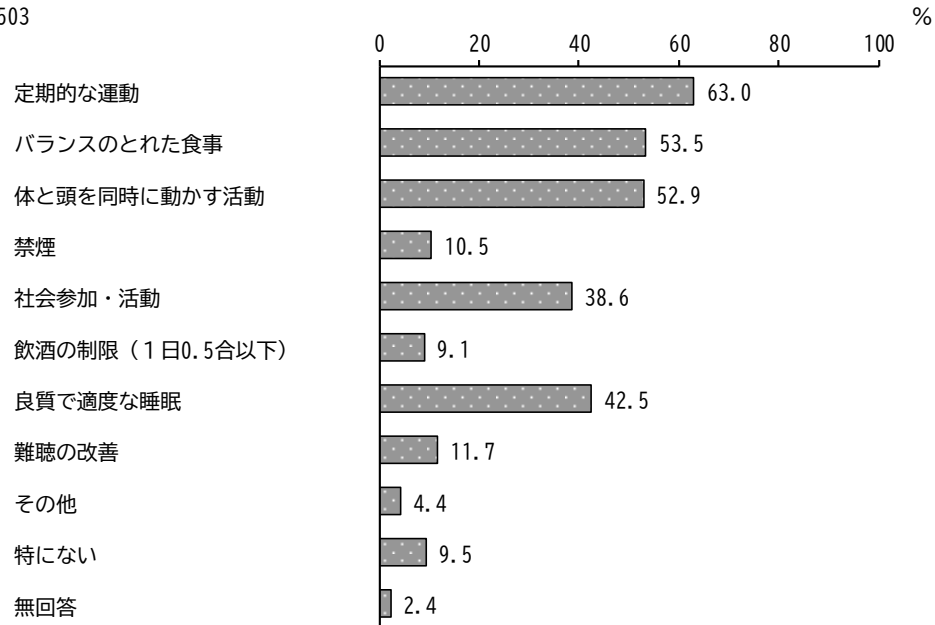
年齢別にみると、55～59 歳で「言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」、45～49 歳で「言葉も内容も知らない」の割合が高くなっています。



問16 認知症になるのを遅らせる、認知症になっても進行を穏やかにするために効果があると考えられるものの中で、ご自身で取り組んでいきたい（現在取り組んでいるものを含む）ことはありますか。（〇はいくつでも）

「定期的な運動」の割合が63.0%と最も高く、次いで「バランスのとれた食事」の割合が53.5%、「体と頭を同時に動かす活動」の割合が52.9%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「難聴の改善」の割合が高く、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「社会参加・活動」の割合が高くなっています。

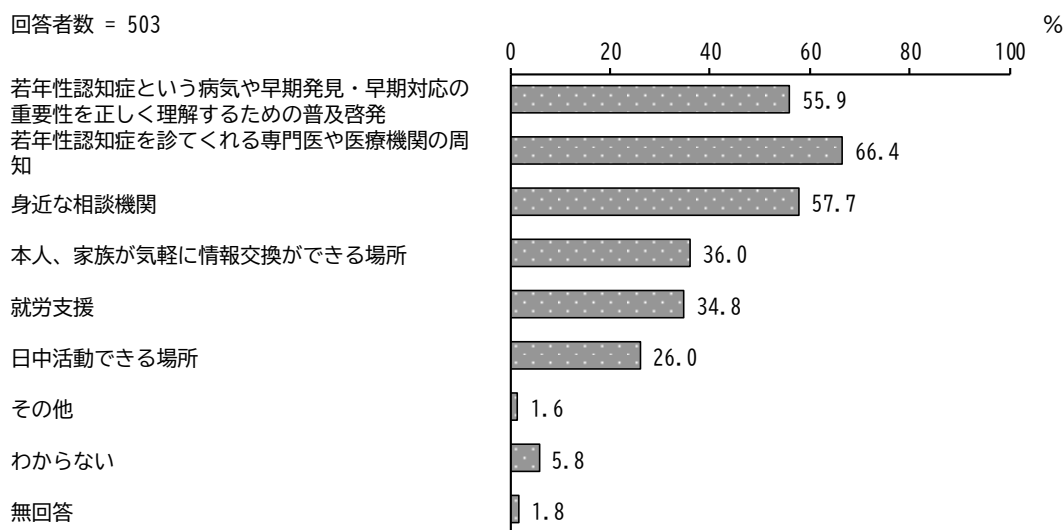
単位：％

区分	回答者数 (件)	定期的な運動	食事 バランスのとれた	体と頭を同時に動かす活動	禁煙	社会参加・活動	飲酒の制限 (1日0.5合以下)	良質で適度な睡眠	難聴の改善	その他	特にない	無回答
全 体	503	63.0	53.5	52.9	10.5	38.6	9.1	42.5	11.7	4.4	9.5	2.4
40～44歳	75	53.3	46.7	56.0	17.3	40.0	16.0	46.7	6.7	5.3	14.7	0.0
45～49歳	101	66.3	49.5	50.5	8.9	27.7	5.0	32.7	6.9	2.0	9.9	4.0
50～54歳	116	66.4	50.9	56.0	9.5	38.8	7.8	35.3	9.5	6.9	9.5	2.6
55～59歳	107	64.5	61.7	51.4	12.1	41.1	9.3	51.4	15.9	1.9	5.6	3.7
60～64歳	99	62.6	57.6	52.5	7.1	46.5	10.1	47.5	19.2	6.1	9.1	1.0

問 17 あなたは若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「若年性認知症を診てくれる専門医や医療機関の周知」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「身近な相談機関」の割合が 57.7%、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」の割合が 55.9%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

年齢別にみると、40～44 歳から 55～59 歳まで年齢が上がるほど「身近な相談機関」「本人、家族が気軽に情報交換ができる場所」の割合が高くなっています。

単位：%

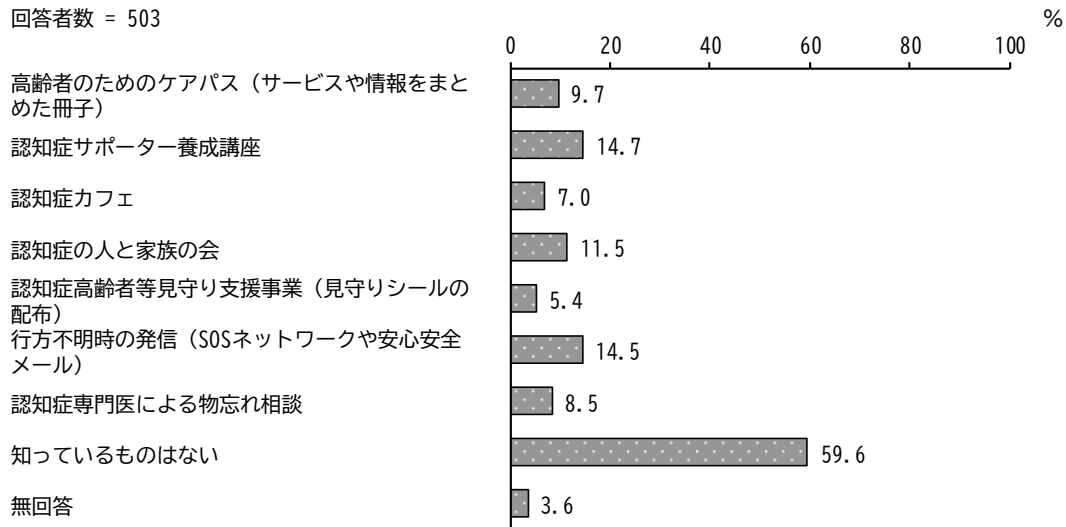
区分	回答者数 (件)	若年性認知症という病 気や早期発見・早期対 応の重要性を正しく理 解するための普及啓発	若年性認知症を診てく れる専門医や医療機関 の周知	身近な相談機関	本人、家族が気軽に情 報交換ができる場所
全 体	503	55.9	66.4	57.7	36.0
40～44歳	75	57.3	66.7	50.7	30.7
45～49歳	101	53.5	65.3	53.5	33.7
50～54歳	116	57.8	67.2	56.9	37.9
55～59歳	107	58.9	65.4	65.4	44.9
60～64歳	99	51.5	68.7	62.6	31.3

区分	就労支 援	日中活動できる場所	その他	わからない	無回 答
全 体	34.8	26.0	1.6	5.8	1.8
40～44歳	40.0	29.3	4.0	6.7	0.0
45～49歳	29.7	17.8	1.0	8.9	3.0
50～54歳	32.8	24.1	2.6	2.6	2.6
55～59歳	37.4	31.8	0.0	5.6	1.9
60～64歳	35.4	28.3	1.0	5.1	1.0

問18 市が実施している認知症施策を知っていますか。(〇はいくつでも)

「認知症サポーター養成講座」の割合が14.7%と最も高く、次いで「行方不明時の発信（SOS ネットワークや安心安全メール）」の割合が14.5%、「認知症の人と家族の会」の割合が11.5%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

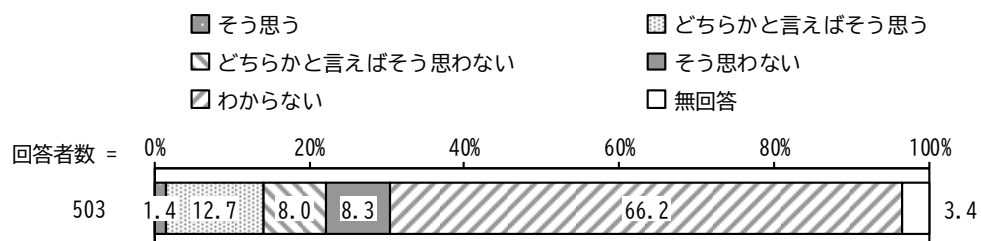
年齢別にみると、55～59歳で「認知症サポーター養成講座」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	高齢者のためのケアパス (サービスや情報をまとめた冊子)	認知症サポーター養成講座	認知症カフェ	認知症の人と家族の会	認知症高齢者等見守り支援事業 (見守りシールの配布)	行方不明時の発信 (SOSネットワークや安心安全メール)	認知症専門医による物忘れ相談	知っているものはない	無回答
全 体	503	9.7	14.7	7.0	11.5	5.4	14.5	8.5	59.6	3.6
40～44歳	75	5.3	14.7	10.7	10.7	8.0	18.7	8.0	62.7	0.0
45～49歳	101	1.0	7.9	10.9	14.9	3.0	6.9	5.0	71.3	4.0
50～54歳	116	13.8	18.1	5.2	9.5	6.0	19.0	7.8	54.3	4.3
55～59歳	107	14.0	22.4	4.7	12.1	2.8	13.1	11.2	57.0	1.9
60～64歳	99	13.1	10.1	5.1	11.1	8.1	16.2	11.1	54.5	5.1

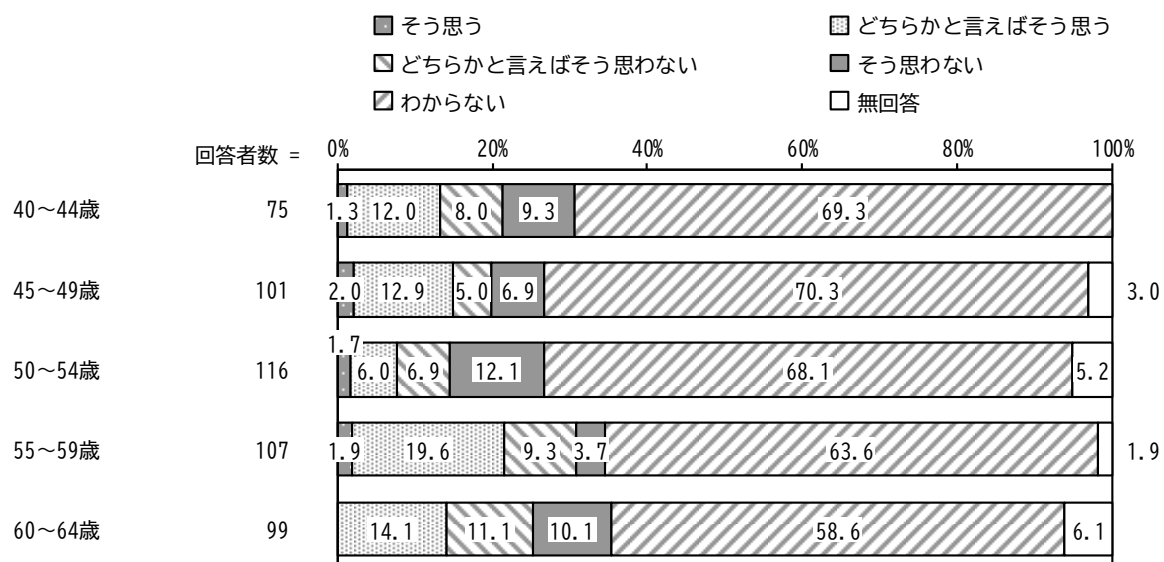
問 19 現在の富谷市は、認知症の人が自分らしく暮らせるまちになっていると思いますか。
(○は1つ)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が14.1%、「どちらかと言えば
そう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が16.3%となっています。



【年齢別】

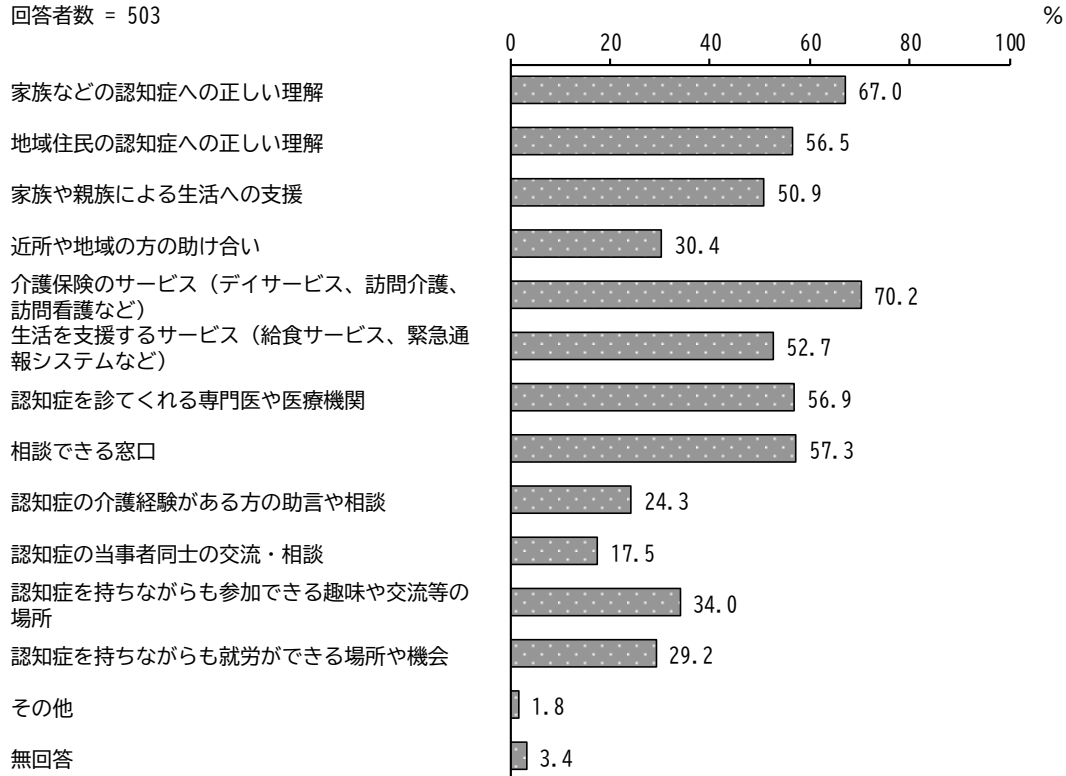
年齢別にみると、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「どちらかと言えばそう思わない」の割合が高くなっています。



問 20 認知症になっても住み慣れた地域で生活をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「介護保険のサービス（デイサービス、訪問介護、訪問看護など）」の割合が 70.2%と最も高く、次いで「家族などの認知症への正しい理解」の割合が 67.0%、「相談できる窓口」の割合が 57.3%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「家族や親族による生活への支援」の割合が高い傾向にあり、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「相談できる窓口」の割合が高くなっています。また、55～59歳で「近所や地域の方の助け合い」、40～44歳で「生活を支援するサービス（給食サービス、緊急通報システムなど）」「認知症を持ちながらも就労ができる場所や機会」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族などの認知症への 正しい理解	地域住民の認知症への 正しい理解	家族や親族による生活 への支援	近所や地域の方の助け 合い	介護保険のサービス (デイサービス、訪問 介護、訪問看護など)	生活を支援するサービ ス(給食サービス、緊急 通報システムなど)	認知症を診てくれる専 門医や医療機関
全 体	503	67.0	56.5	50.9	30.4	70.2	52.7	56.9
40～44歳	75	72.0	61.3	57.3	36.0	74.7	69.3	57.3
45～49歳	101	70.3	51.5	53.5	21.8	64.4	44.6	57.4
50～54歳	116	62.9	48.3	50.0	25.0	64.7	46.6	52.6
55～59歳	107	73.8	66.4	52.3	42.1	75.7	56.1	57.9
60～64歳	99	56.6	57.6	42.4	27.3	72.7	54.5	61.6

区分	相談できる窓口	認知症の介護経験があ る方の助言や相談	認知症の当事者同士の 交流・相談	認知症を持ちながらも 参加できる趣味や交流 等の場所	認知症を持ちながらも 就労ができる場所や機 会	その他	無回答
全 体	57.3	24.3	17.5	34.0	29.2	1.8	3.4
40～44歳	52.0	21.3	20.0	36.0	44.0	0.0	0.0
45～49歳	55.4	26.7	18.8	30.7	20.8	4.0	4.0
50～54歳	56.9	19.8	13.8	25.9	25.9	1.7	4.3
55～59歳	69.2	32.7	24.3	43.0	39.3	0.9	2.8
60～64歳	51.5	20.2	12.1	36.4	21.2	2.0	5.1

【調査結果のまとめ】

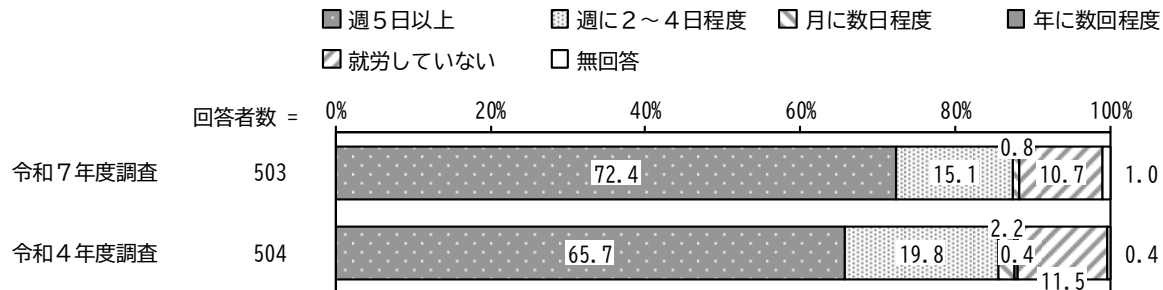
- 認知症へのイメージは「家族・介護する人の負担が大きい」が85.7%と非常に高く、若年性認知症の支援として「専門医療機関の周知」(66.4%)や「身近な相談機関」(57.7%)が必要とされています。
- 認知症に関して、介護負担への不安感が大きいことから、正しい知識の提供と若年性認知症を含めた早期相談体制の見える化が課題であると考えられます。

4 生活状況について

問 21 あなたの就労日数についてお答えください。(○は1つ)

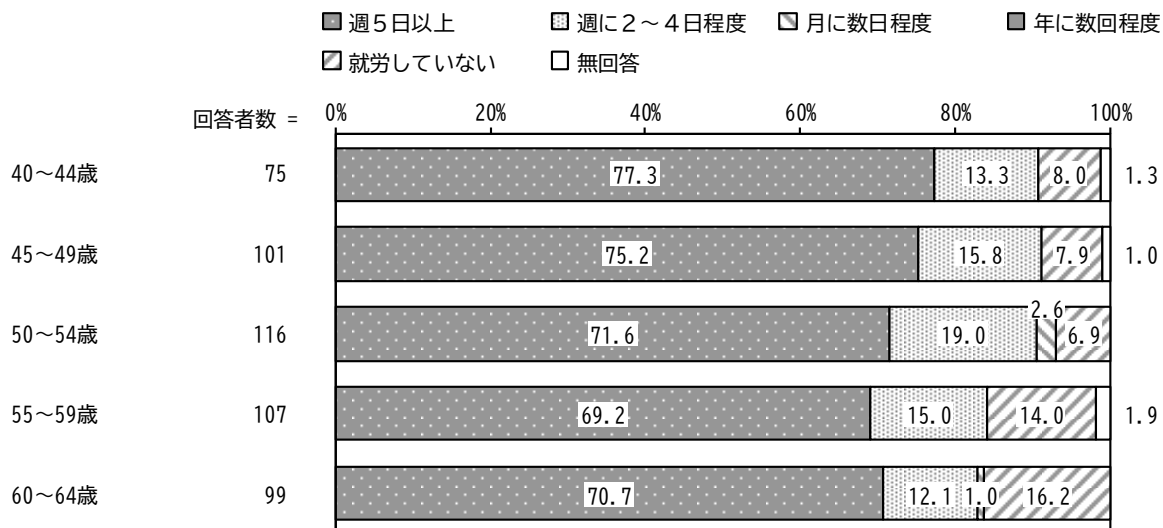
「週5日以上」の割合が72.4%と最も高く、次いで「週に2～4日程度」の割合が15.1%、「就労していない」の割合が10.7%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「週5日以上」の割合が増加しています。



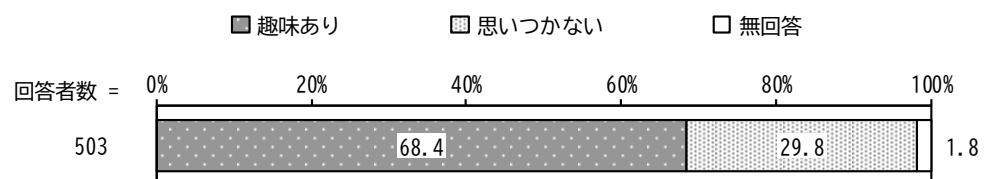
【年齢別】

年齢別にみると、55～59歳から40～44歳まで年齢が下がるほど「週5日以上」の割合が高くなっています。



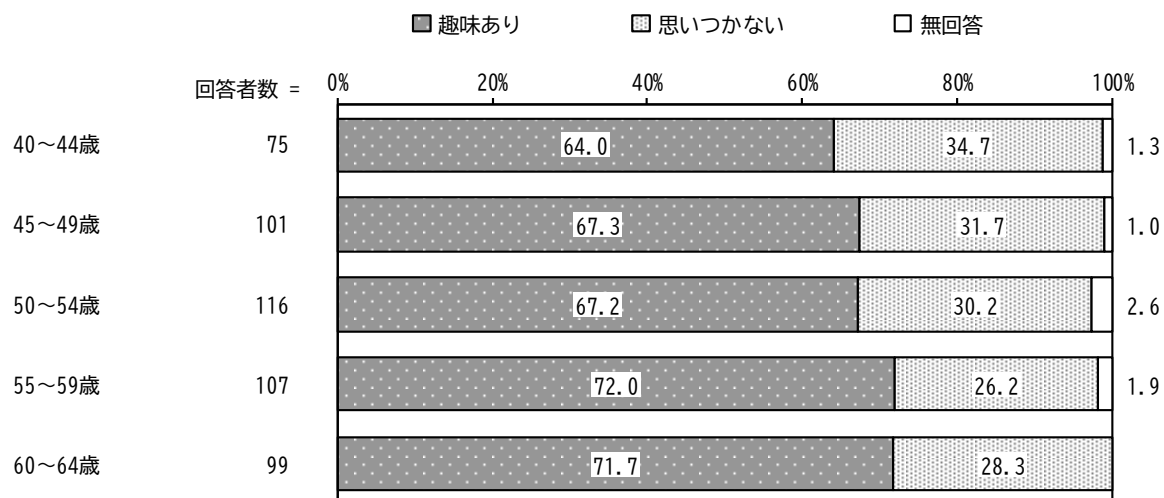
問 22 趣味はありますか。

「趣味あり」の割合が68.4%、「思いつかない」の割合が29.8%となっています。



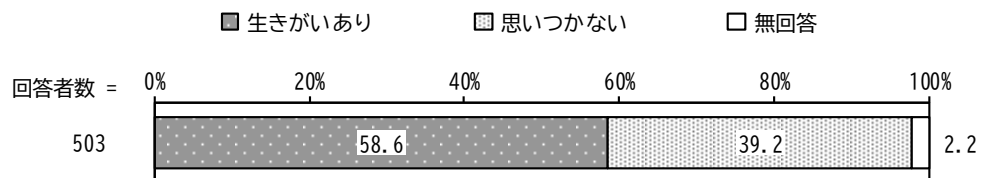
【年齢別】

年齢別にみると、40～44 歳から 55～59 歳まで年齢が上がるほど「趣味あり」の割合が高い傾向にあります。



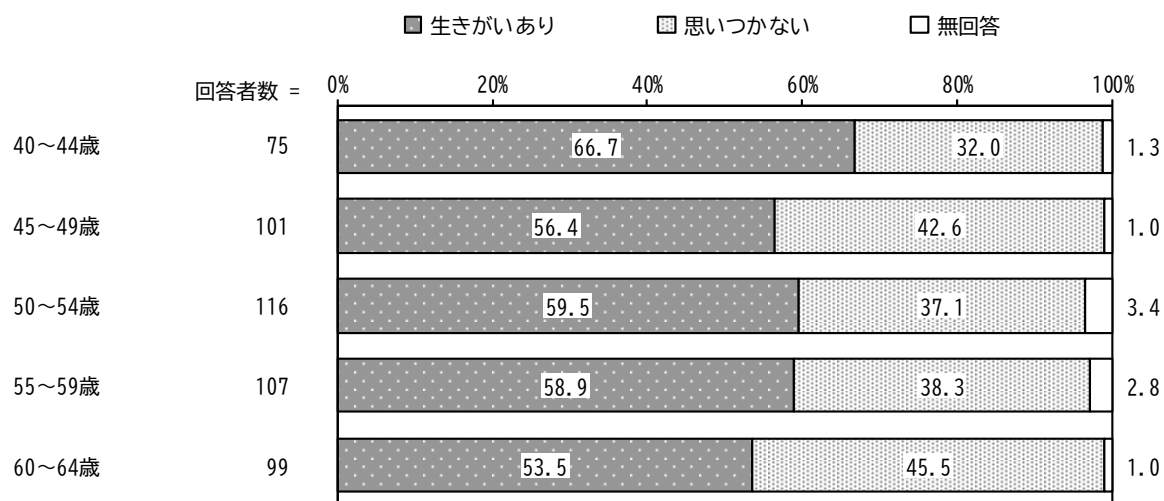
問 23 生きがいがありますか。

「生きがいあり」の割合が 58.6%、「思いつかない」の割合が 39.2%となっています。



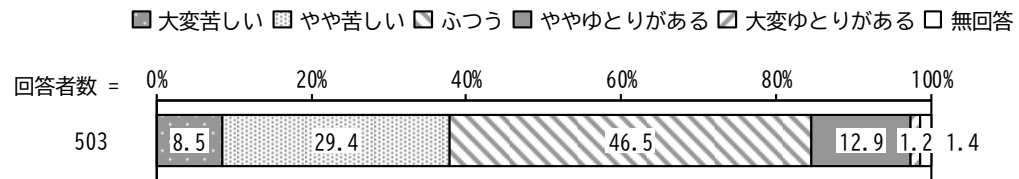
【年齢別】

年齢別にみると、40～44 歳で「生きがいあり」、60～64 歳で「思いつかない」の割合が高くなっています。



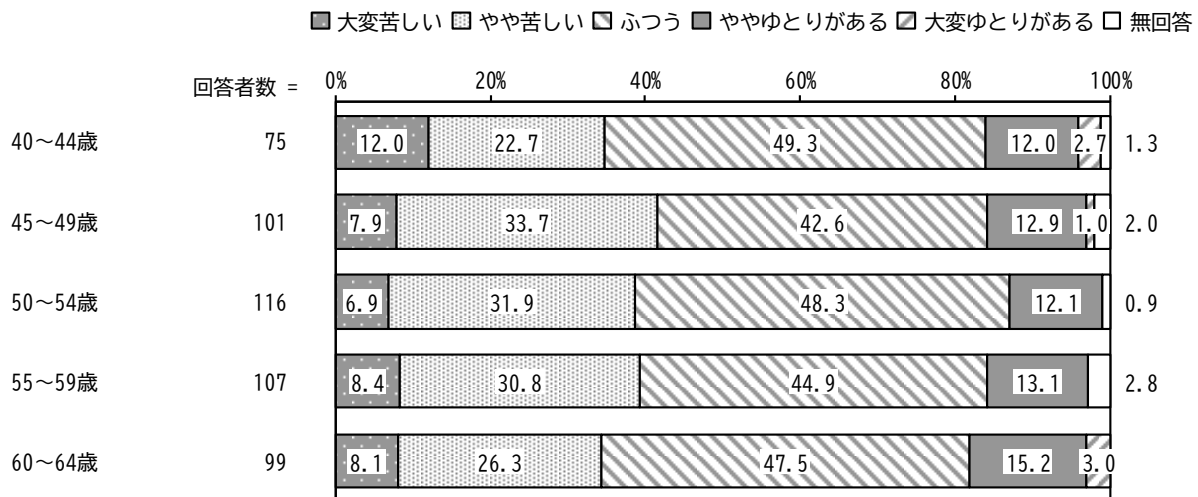
問 24 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”の割合が37.9%、「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」を合わせた“ゆとりがある”の割合が14.1%となっています。



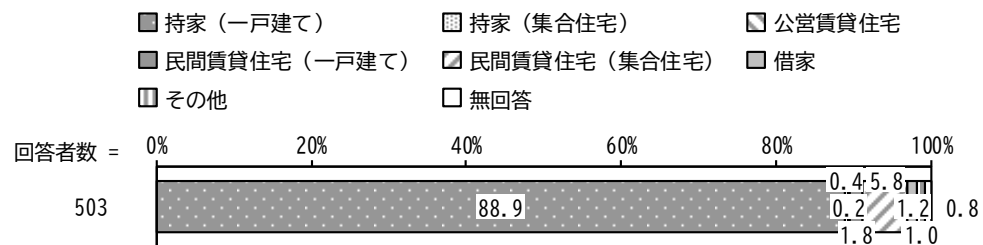
【年齢別】

年齢別にみると、60～64 歳から 45～49 歳まで年齢が下がるほど“苦しい”の割合が高い傾向にあります。



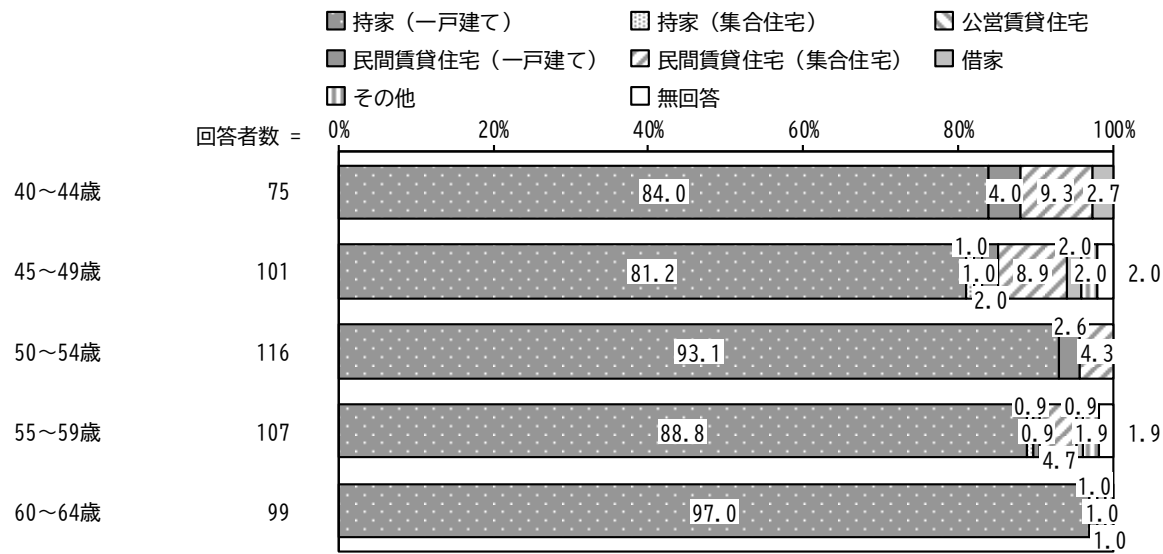
問 25 お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか。(○は1つ)

「持家（一人建て）」の割合が88.9%と最も高くなっています。



【年齢別】

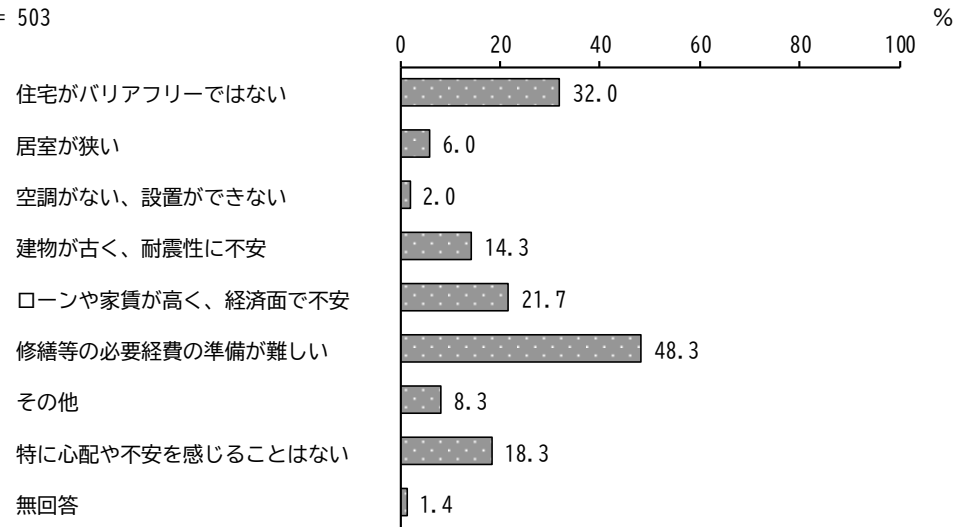
年齢別にみると、60～64 歳で「持家（一戸建て）」の割合が高くなっています。



問 26 現在のお住まいについて、今後も住み続けるにあたり、将来的に心配や不安に思うことはありますか。（○はいいくつでも）

「修繕等の必要経費の準備が難しい」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「住宅がバリアフリーではない」の割合が 32.0%、「ローンや家賃が高く、経済面で不安」の割合が 21.7%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

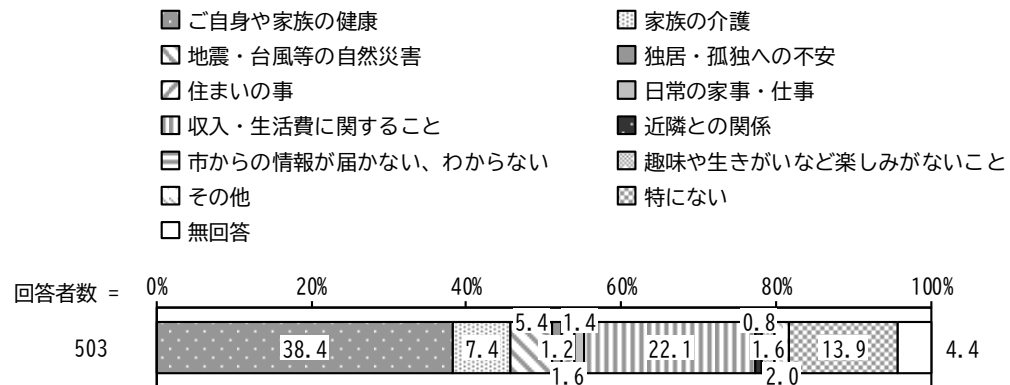
年齢別にみると、40～44 歳、50～54 歳で「ローンや家賃が高く、経済面で不安」、50～54 歳で「修繕等の必要経費の準備が難しい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数	住宅がバリアフリーではない	居室が狭い	空調がない、設置ができない	建物が古く、耐震性に不安	ローンや家賃が高く、経済面で不安	修繕等の必要経費の準備が難しい	その他	特に心配や不安を感じることはない	無回答
全 体	503	32.0	6.0	2.0	14.3	21.7	48.3	8.3	18.3	1.4
40～44歳	75	28.0	6.7	0.0	9.3	26.7	48.0	13.3	20.0	0.0
45～49歳	101	32.7	5.9	3.0	12.9	18.8	42.6	4.0	18.8	2.0
50～54歳	116	35.3	5.2	1.7	16.4	28.4	55.2	6.0	14.7	0.0
55～59歳	107	26.2	5.6	2.8	12.1	18.7	46.7	10.3	17.8	2.8
60～64歳	99	35.4	4.0	2.0	18.2	17.2	49.5	9.1	22.2	2.0

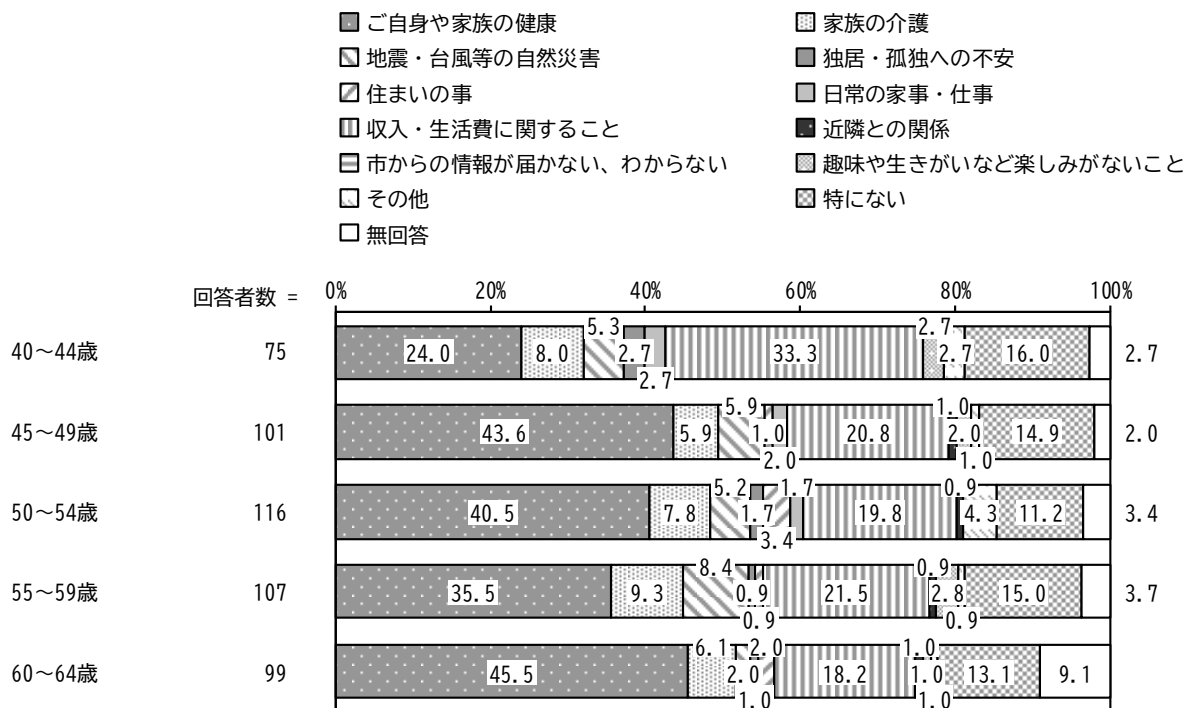
問 27 日常生活での心配ごとはありませんか。(○は1つ)

「ご自身や家族の健康」の割合が 38.4%と最も高く、次いで「収入・生活費に関すること」の割合が 22.1%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、45～49 歳、60～64 歳で「ご自身や家族の健康」、40～44 歳で「収入・生活費に関すること」の割合が高くなっています。



【調査結果のまとめ】

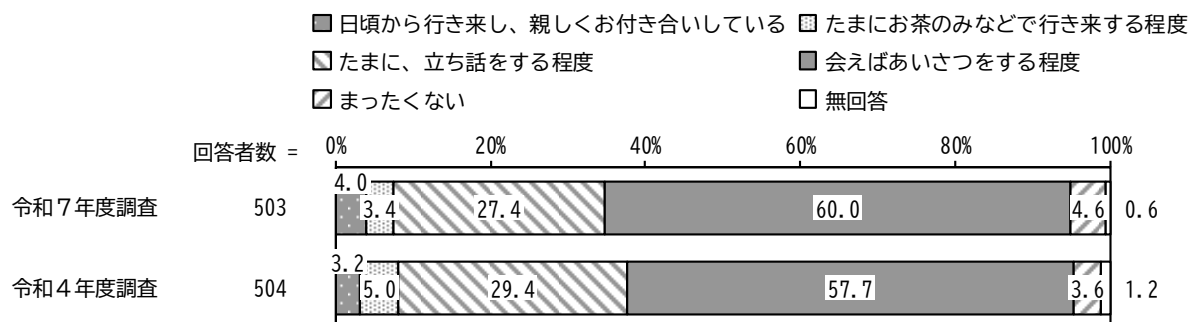
- 72.4%が「週5日以上」働いており、将来の住まいについて「修繕費の準備が難しい」(48.3%) ことに強い不安を抱いています。
- 日常生活での心配事については「自身や家族の健康」(38.4%) や「収入・生活費」(22.1%) が高くなっています。
- 就労中心の生活の中で、将来の経済的安定と親族の健康維持に対する不安が交錯しており、ライフプラン全体を見据えた情報提供が必要です。

5 地域との関わりについて

問 28 隣近所や地域の方と、どのようなお付き合いをしていますか。(○は1つ)

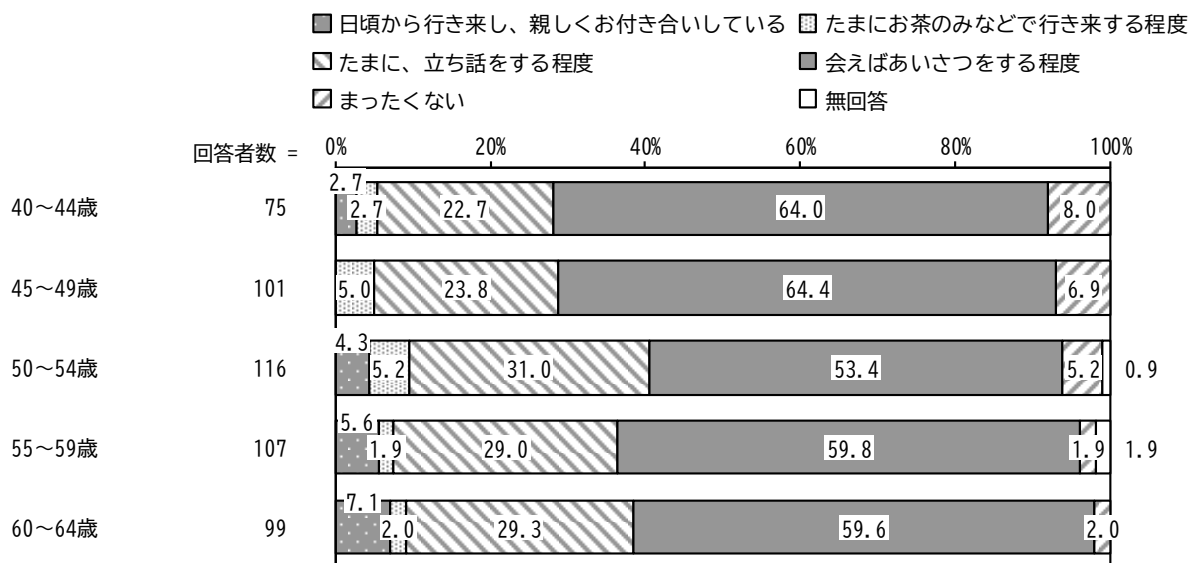
「会えばあいさつをする程度」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「たまに、立ち話をする程度」の割合が 27.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



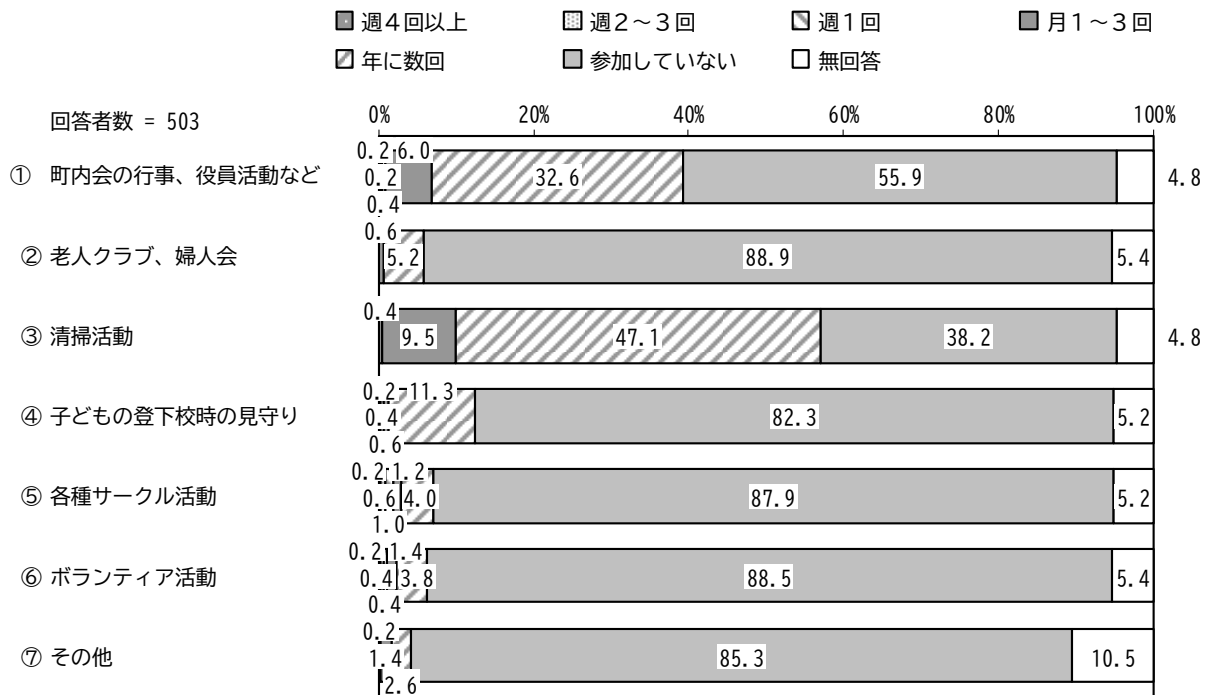
【年齢別】

年齢別にみると、50～54歳で「会えばあいさつをする程度」の割合が低くなっています。



問 29 あなたは町内会やサークル活動、ボランティア活動などの地域活動にどのくらいの頻度で参加していますか。※①～⑦それぞれに回答してください。(それぞれ○は1つ)

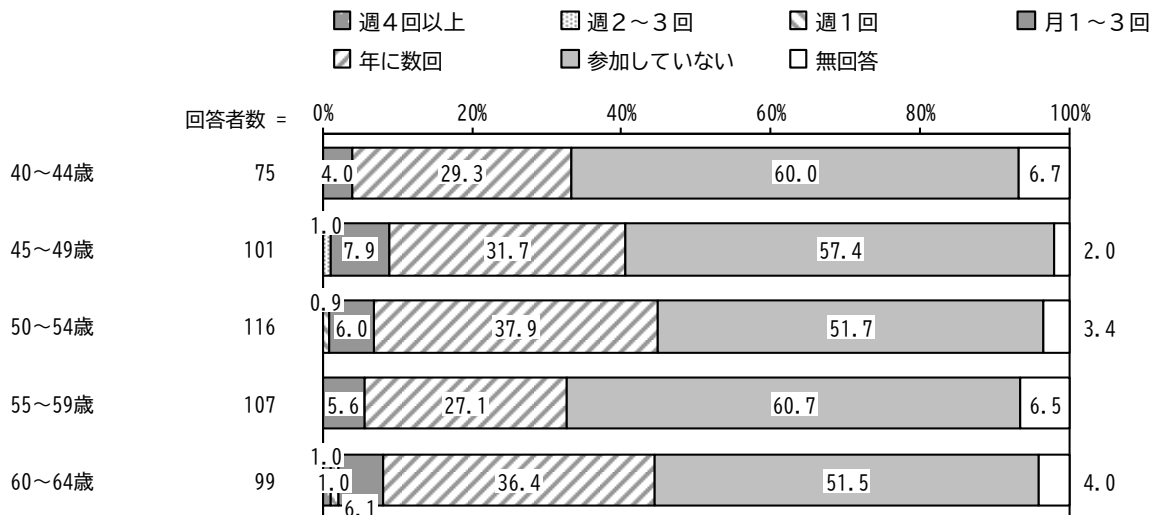
『③ 清掃活動』で「週4回以上」「月1～3回」「年に数回」が、『⑤ 各種サークル活動』で「週2～3回」「週1回」が、『② 老人クラブ、婦人会』で「参加していない」が高くなっています。



① 町内会の行事、役員活動など

【年齢別】

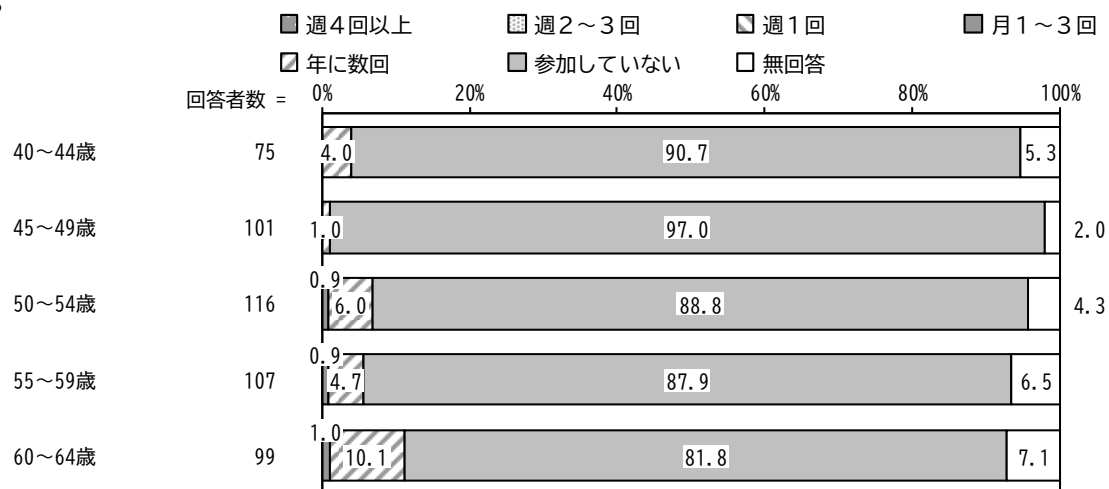
年齢別にみると、50～54歳で「年に数回」の割合が高くなっています。



② 老人クラブ、婦人会

【年齢別】

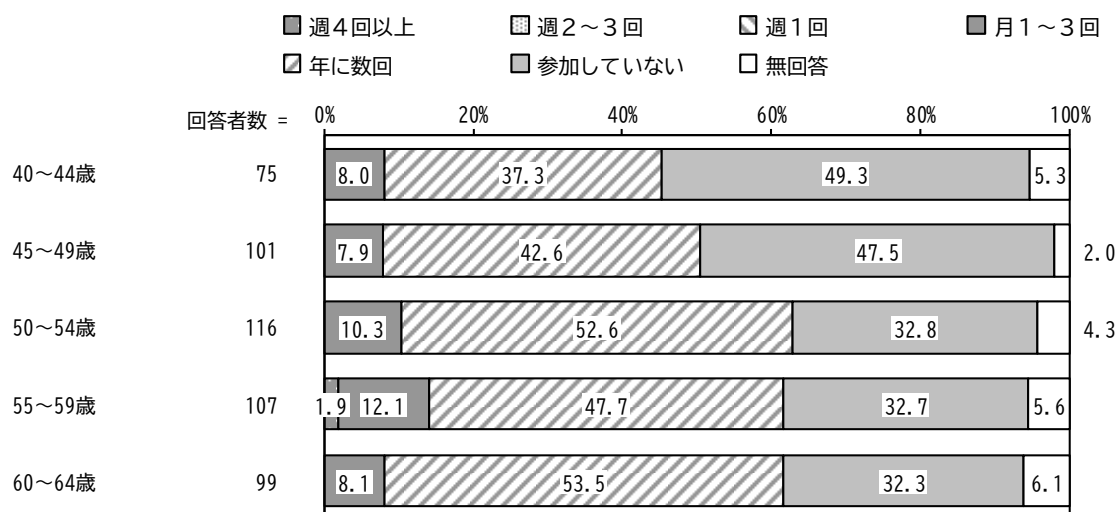
年齢別にみると、60～64 歳から 45～49 歳まで年齢が下がるほど「参加していない」の割合が高くなっていきます。



③ 清掃活動

【年齢別】

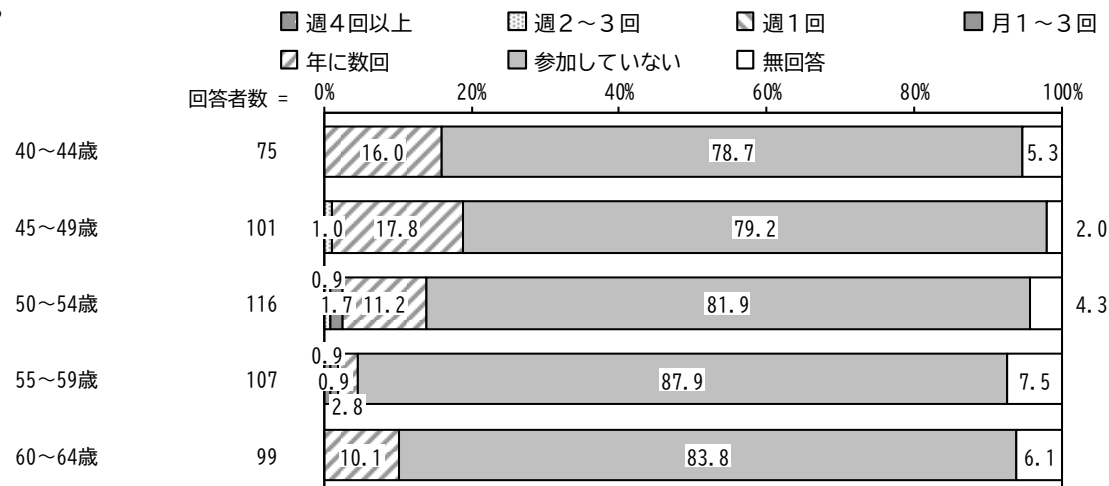
年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加していない」の割合が高い傾向にあります。



④ 子どもの登下校時の見守り

【年齢別】

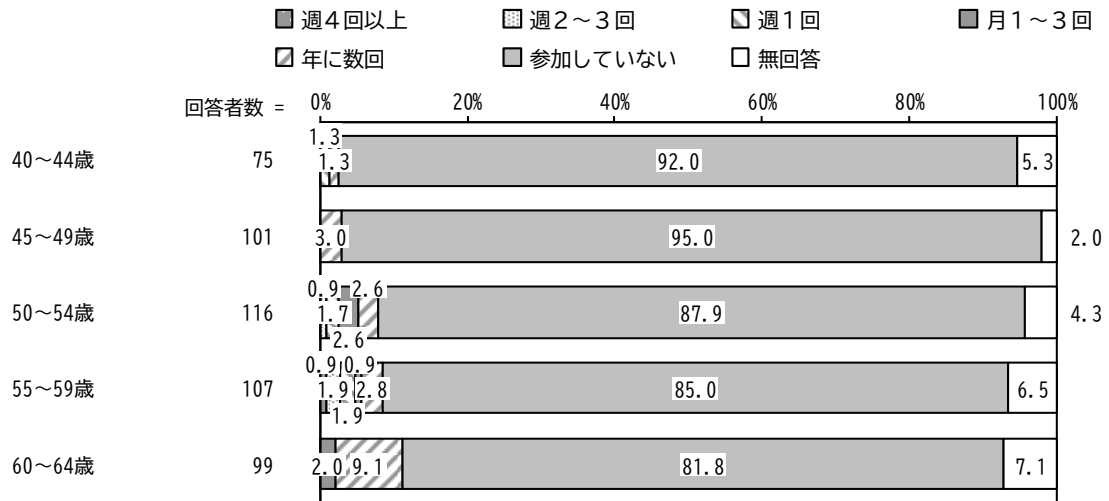
年齢別にみると、40～44 歳から 55～59 歳まで年齢が上がるほど「参加していない」の割合が高くなっていきます。



⑤ 各種サークル活動

【年齢別】

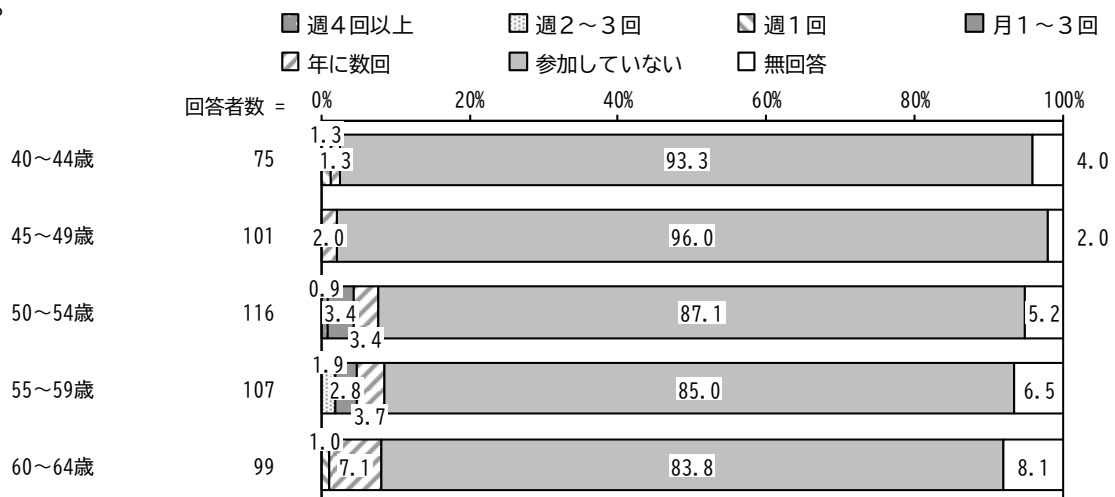
年齢別にみると、60～64歳から45～49歳まで年齢が下がるほど「参加していない」の割合が高くなっていきます。



⑥ ボランティア活動

【年齢別】

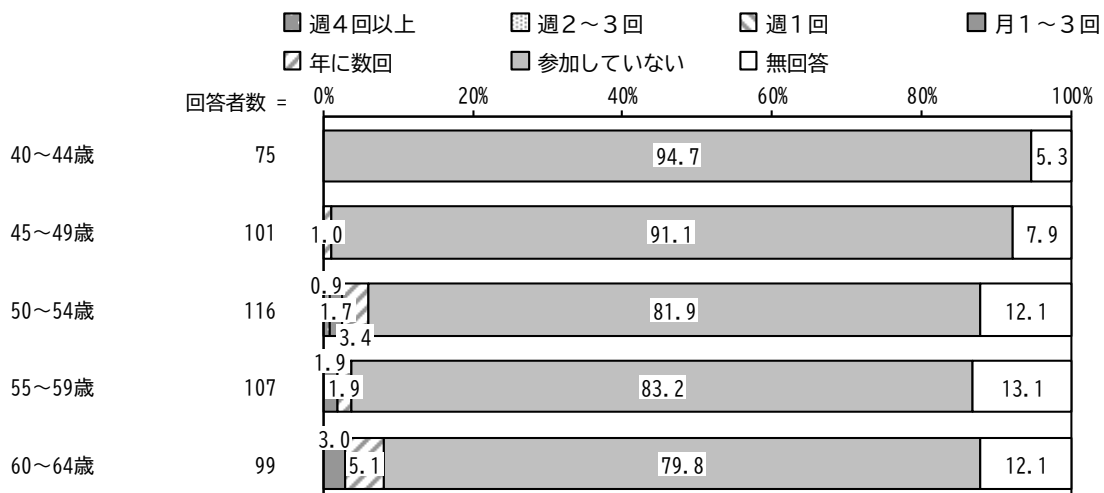
年齢別にみると、60～64歳から45～49歳まで年齢が下がるほど「参加していない」の割合が高くなっていきます。



⑦ その他

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加していない」の割合が高い傾向にあります。

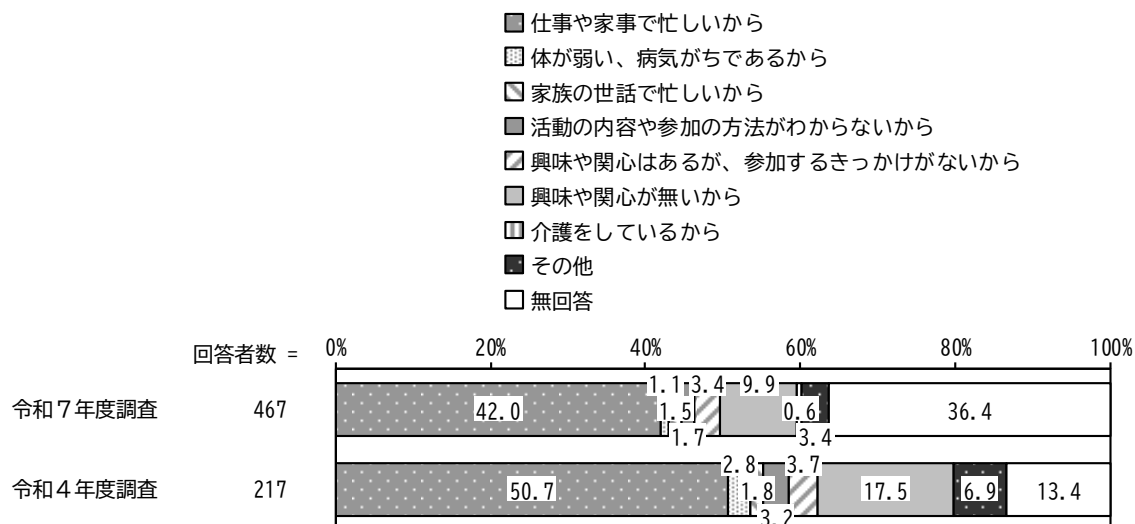


【問 29 で「⑧ 地域活動に参加していない」の方のみ】

① あなたが地域活動に参加していない最も大きな理由は何ですか。（○は1つ）

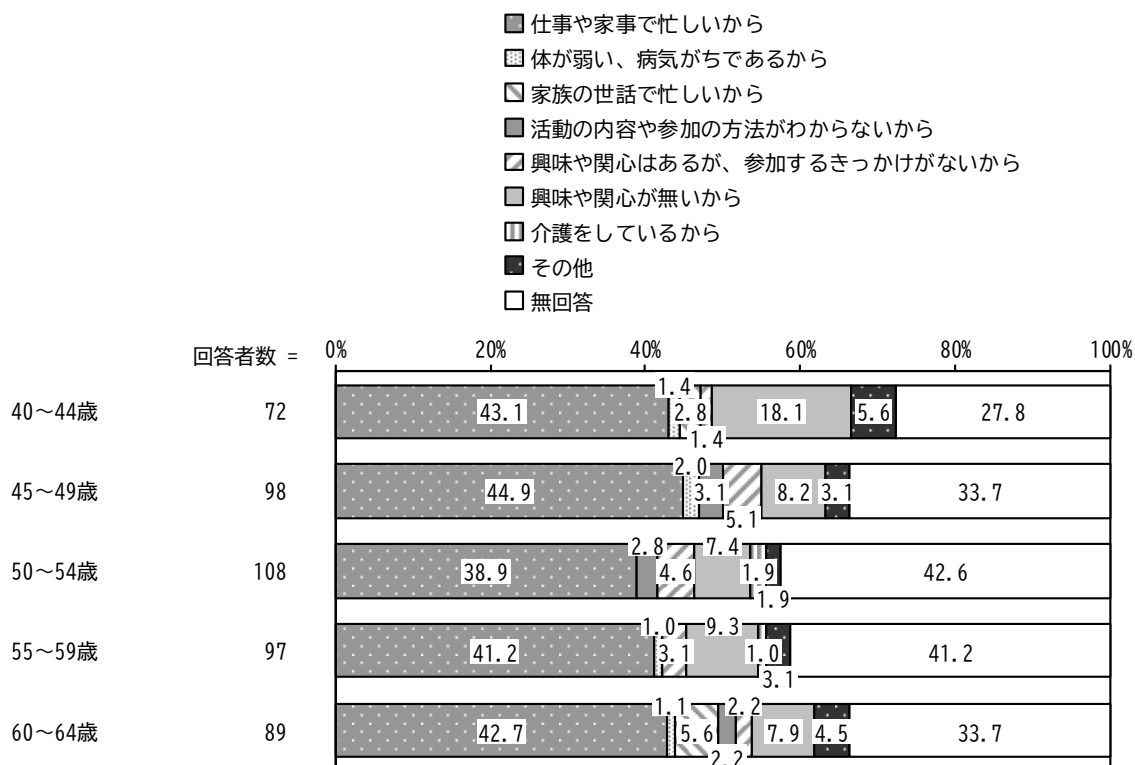
「仕事や家事で忙しいから」の割合が 42.0%と最も高くなっています。

令和4年度調査と比較すると、「仕事や家事で忙しいから」「興味や関心が無いから」の割合が減少しています。



【年齢別】

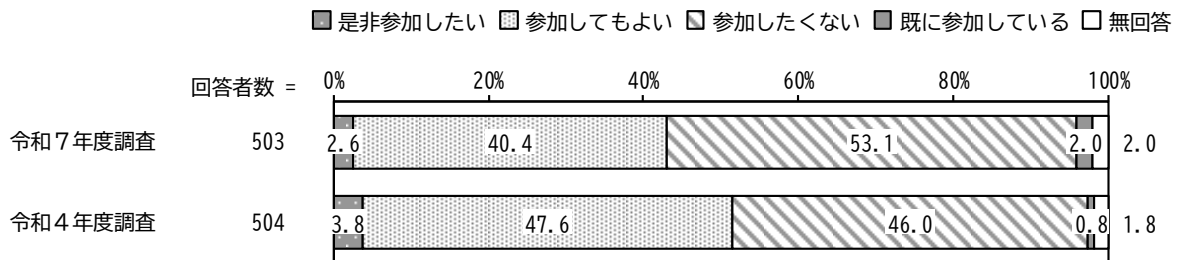
年齢別にみると、40～44歳で「興味や関心が無いから」の割合が高くなっています。



問 30 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

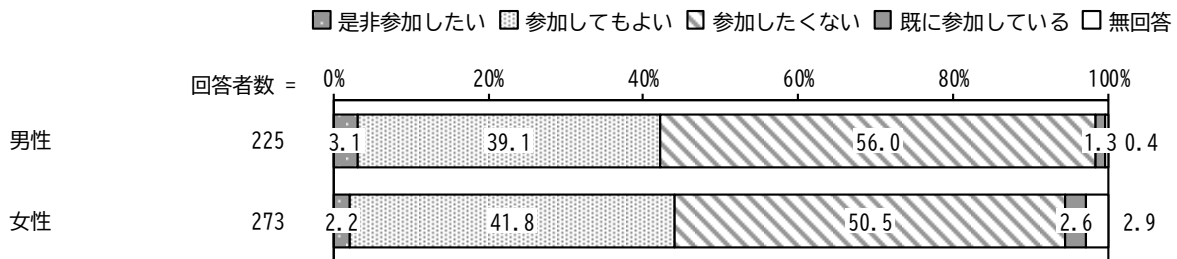
「参加したくない」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 40.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「参加したくない」の割合が増加しています。一方、「参加してもよい」の割合が減少しています。



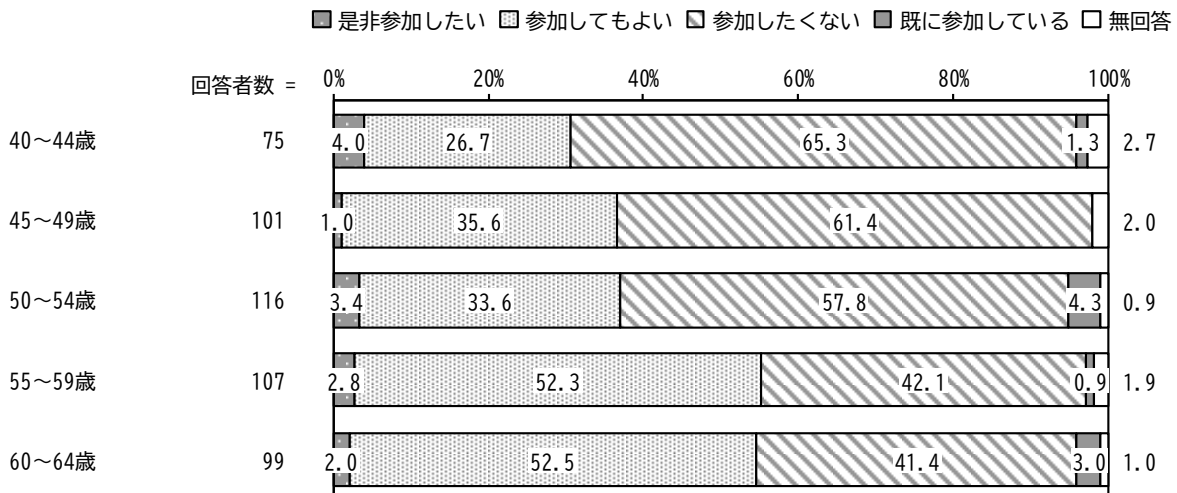
【性別】

性別にみると、男性で「参加したくない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加したくない」の割合が高く、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「参加してもよい」の割合が高い傾向にあります。

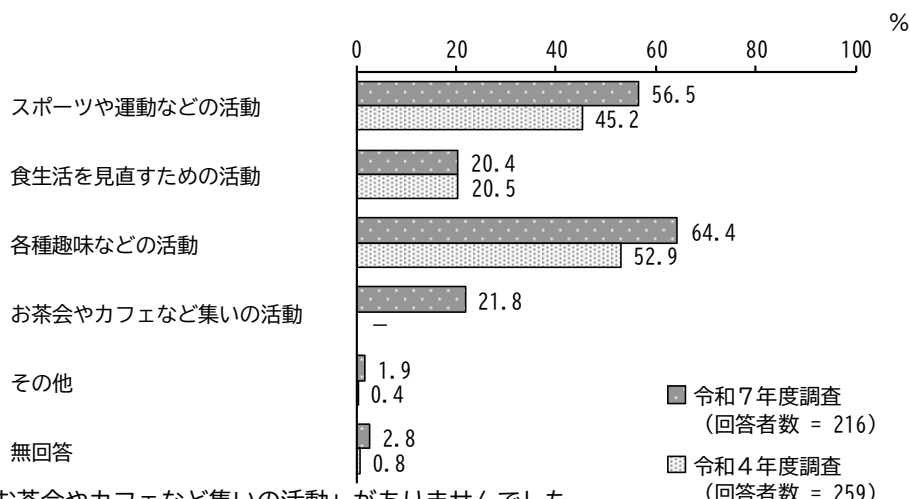


【問 30 で「是非参加したい」「参加してもよい」の方のみ】

① どのような地域活動に参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

「各種趣味などの活動」の割合が 64.4%と最も高く、次いで「スポーツや運動などの活動」の割合が 56.5%、「お茶会やカフェなど集いの活動」の割合が 21.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「スポーツや運動などの活動」「各種趣味などの活動」の割合が増加しています。



※令和4年度調査では、「お茶会やカフェなど集いの活動」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、男性で「スポーツや運動などの活動」の割合が高く、女性で「食生活を見直すための活動」「お茶会やカフェなど集いの活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツや運動などの活動	食生活を見直すための活動	各種趣味などの活動	お茶会やカフェなど集いの活動	その他	無回答
全 体	216	56.5	20.4	64.4	21.8	1.9	2.8
男性	95	61.1	14.7	64.2	9.5	1.1	2.1
女性	120	52.5	25.0	64.2	30.8	2.5	3.3

【年齢別】

年齢別にみると、45～49 歳、60～64 歳で「スポーツや運動などの活動」、60～64 歳で「食生活を見直すための活動」、40～44 歳で「各種趣味などの活動」の割合が高くなっています。

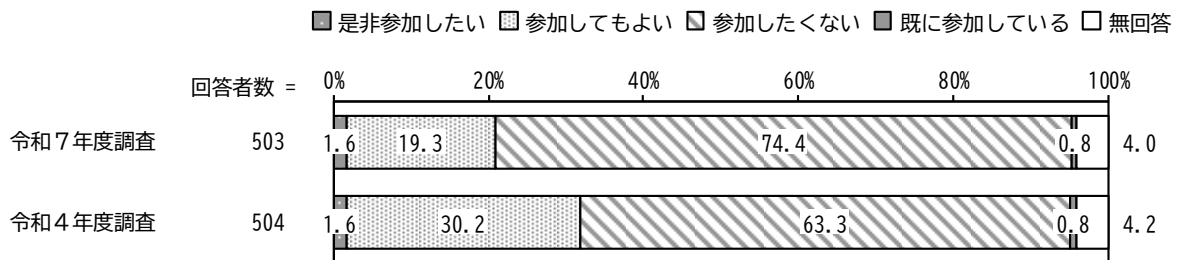
単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツや運動などの活動	食生活を見直すための活動	各種趣味などの活動	お茶会やカフェなど集いの活動	その他	無回答
全 体	216	56.5	20.4	64.4	21.8	1.9	2.8
40～44歳	23	47.8	17.4	78.3	21.7	0.0	4.3
45～49歳	37	64.9	18.9	62.2	24.3	0.0	0.0
50～54歳	43	53.5	16.3	60.5	20.9	0.0	7.0
55～59歳	59	49.2	18.6	64.4	18.6	6.8	0.0
60～64歳	54	64.8	27.8	63.0	24.1	0.0	3.7

問 31 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（〇は1つ）

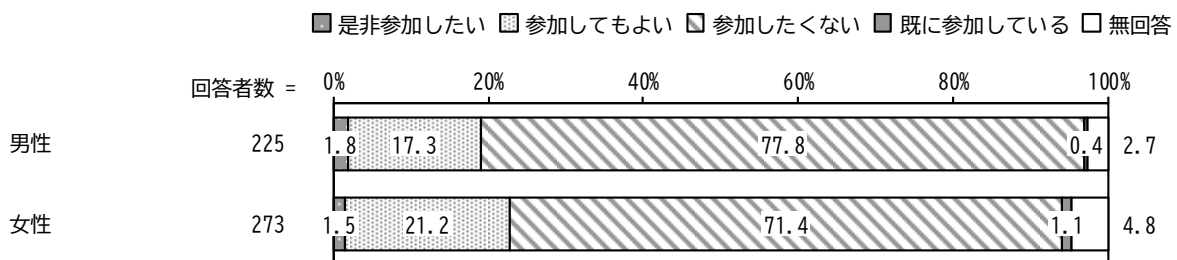
「参加したくない」の割合が74.4%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が19.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「参加したくない」の割合が増加しています。一方、「参加してもよい」の割合が減少しています。



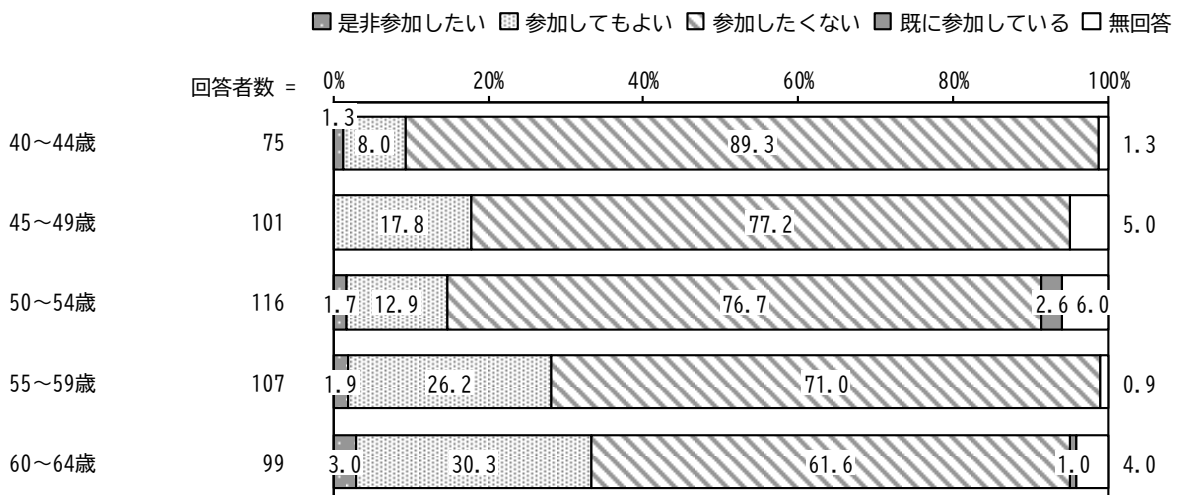
【性別】

性別にみると、男性で「参加したくない」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「参加したくない」の割合が高くなっています。また、60～64歳で「参加してもよい」の割合が高くなっています。

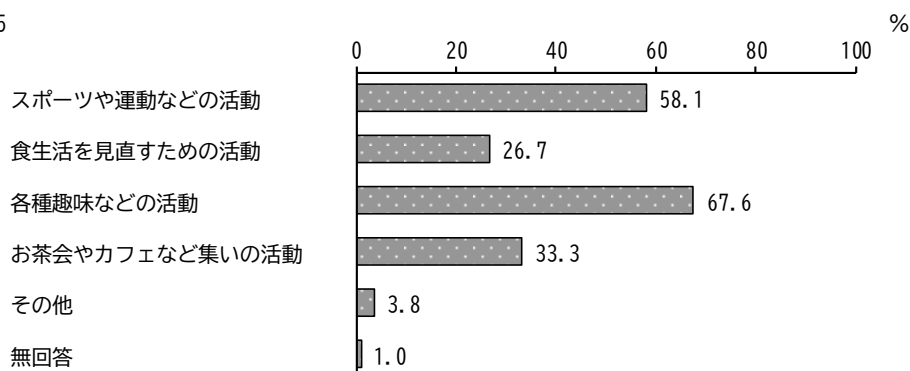


【問 31 で「是非参加したい」「参加してもよい」の方のみ】

① どのような地域活動に参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

「各種趣味などの活動」の割合が 67.6%と最も高く、次いで「スポーツや運動などの活動」の割合が 58.1%、「お茶会やカフェなど集いの活動」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 105



【性別】

性別にみると、男性で「スポーツや運動などの活動」「各種趣味などの活動」の割合が高く、女性で「食生活を見直すための活動」「お茶会やカフェなど集いの活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツや運動などの活動	食生活を見直すための活動	各種趣味などの活動	お茶会やカフェなど集いの活動	その他	無回答
全 体	105	58.1	26.7	67.6	33.3	3.8	1.0
男性	43	62.8	14.0	76.7	14.0	2.3	0.0
女性	62	54.8	35.5	61.3	46.8	4.8	1.6

【年齢別】

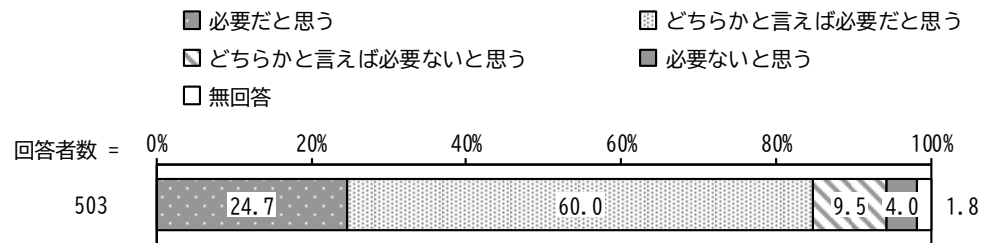
年齢別にみると、50～54 歳から 60～64 歳まで年齢が上がるほど「食生活を見直すための活動」「各種趣味などの活動」の割合が高く、55～59 歳から 45～49 歳まで年齢が下がるほど「スポーツや運動などの活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	スポーツや運動などの活動	食生活を見直すための活動	各種趣味などの活動	お茶会やカフェなど集いの活動	その他	無回答
全 体	105	58.1	26.7	67.6	33.3	3.8	1.0
40～44歳	7	42.9	57.1	71.4	28.6	0.0	0.0
45～49歳	18	72.2	22.2	61.1	55.6	5.6	0.0
50～54歳	17	64.7	11.8	58.8	17.6	0.0	5.9
55～59歳	30	40.0	26.7	63.3	36.7	6.7	0.0
60～64歳	33	66.7	30.3	78.8	27.3	3.0	0.0

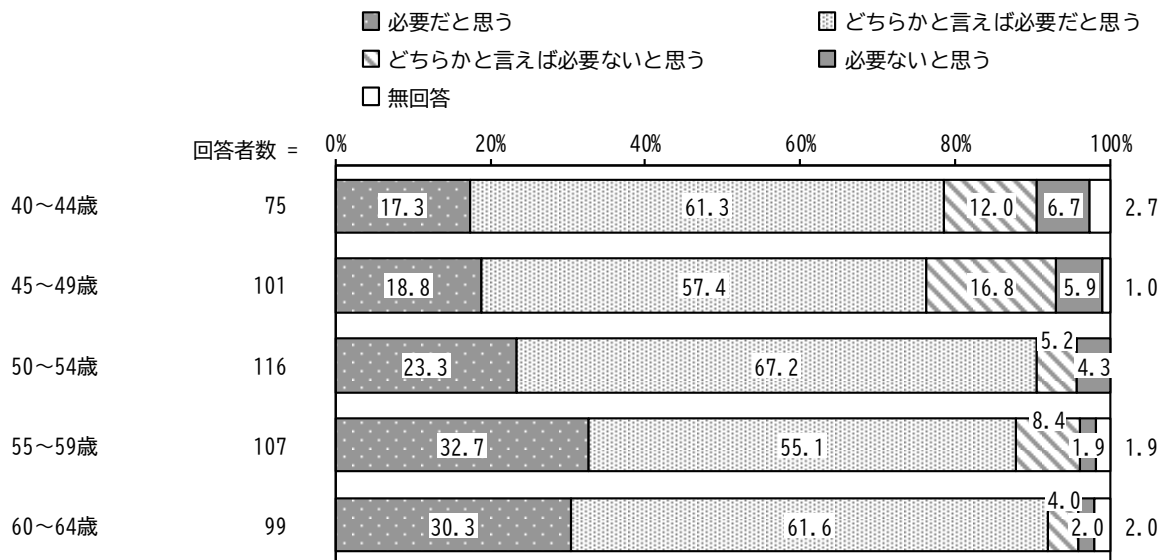
問 32 あなたは日々の暮らしの中で地域のつながり（住民同士の助け合いや支えあい等）の必要性についてどう感じていますか。（○は1つ）

「必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」を合わせた“必要だと思う”の割合が84.7%、「どちらかと言えば必要ないと思う」「必要ないと思う」を合わせた“必要ないと思う”の割合が13.5%となっています。



【年齢別】

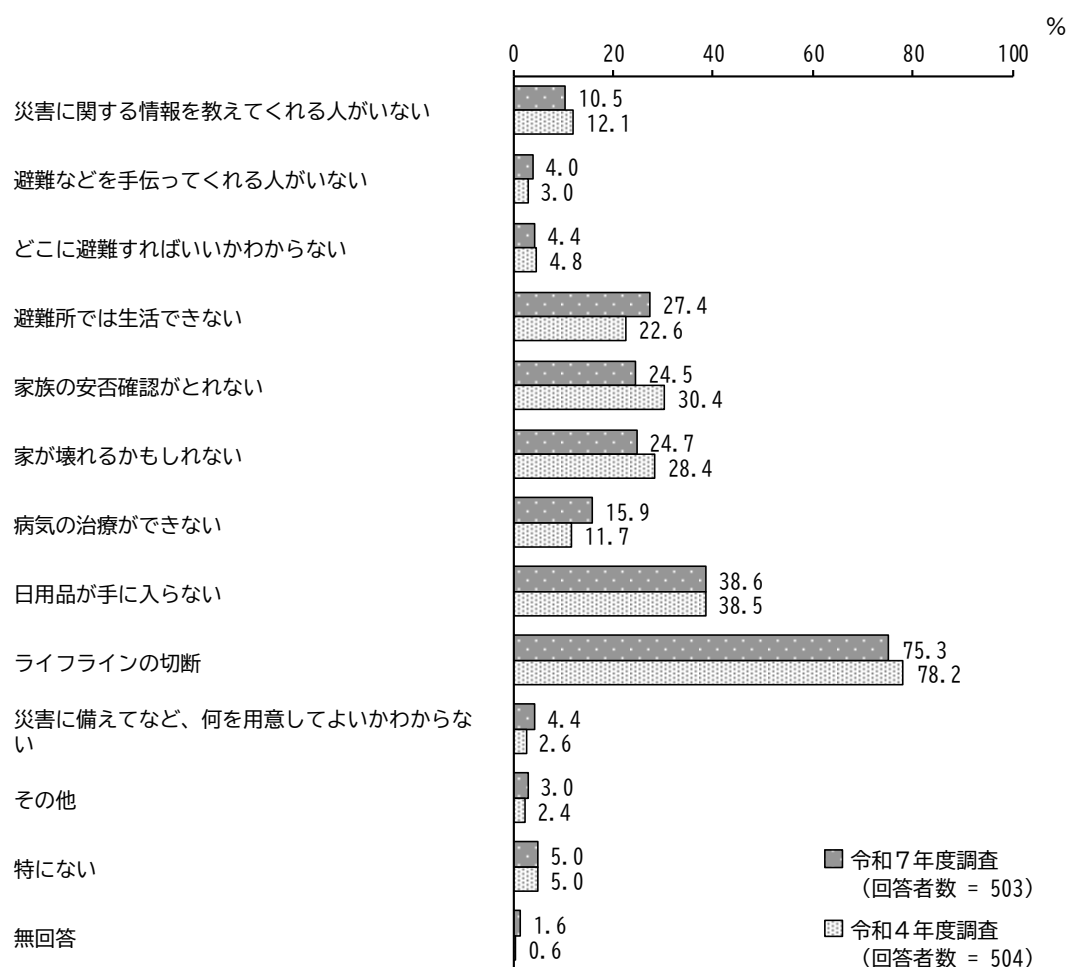
年齢別にみると、60～64歳から45～49歳まで年齢が下がるほど“必要ないと思う”の割合が高い傾向にあります。



問 33 災害時に、不安に感じることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

「ライフラインの切断」の割合が 75.3%と最も高く、次いで「日用品が手に入らない」の割合が 38.6%、「避難所では生活できない」の割合が 27.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「家族の安否確認がとれない」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、60～64歳で「災害に関する情報を教えてくれる人がいない」「病気の治療ができない」、40～44歳で「どこに避難すればいいかわからない」「日用品が手に入らない」の割合が高くなっています。

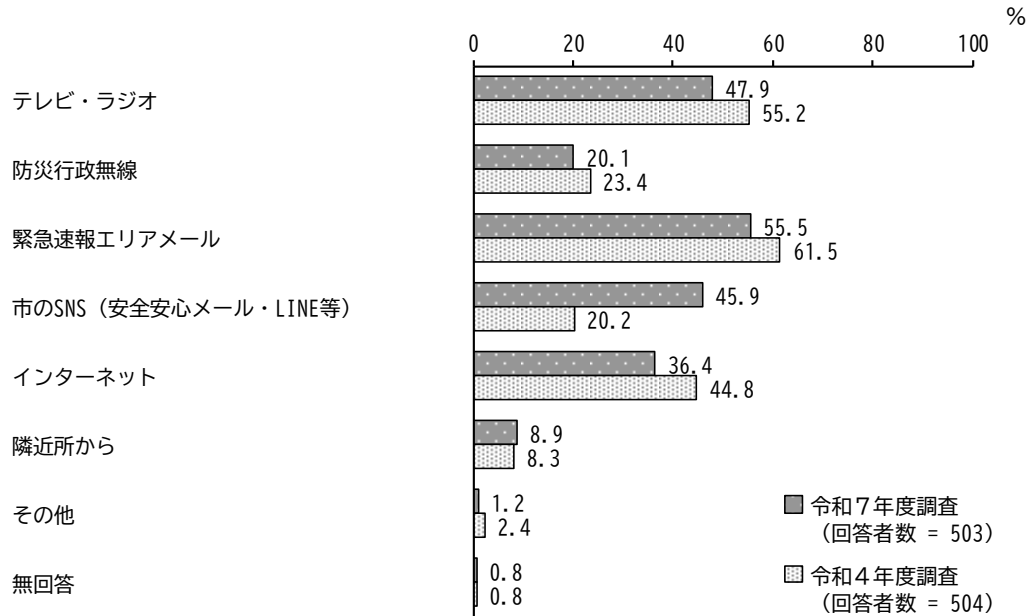
単位：％

区分	回答者数(件)	災害に関する情報を教えてくれる人がいない	避難などを手伝ってくれる人がいない	どこに避難すればいいかわからない	避難所では生活できない	家族の安否確認がとれない	家が壊れるかもしれない	病気の治療ができない	日用品が手に入らない	ライフラインの切断	災害に備えてなど、何を用意してよいかわからない	その他	特にない	無回答
全 体	503	10.5	4.0	4.4	27.4	24.5	24.7	15.9	38.6	75.3	4.4	3.0	5.0	1.6
40～44歳	75	6.7	4.0	10.7	32.0	24.0	25.3	13.3	46.7	77.3	8.0	2.7	4.0	1.3
45～49歳	101	5.9	4.0	3.0	25.7	25.7	24.8	13.9	37.6	71.3	0.0	2.0	5.0	1.0
50～54歳	116	12.9	6.9	2.6	29.3	26.7	25.0	12.1	41.4	79.3	6.0	3.4	3.4	1.7
55～59歳	107	8.4	2.8	3.7	26.2	26.2	24.3	16.8	31.8	72.0	4.7	2.8	6.5	2.8
60～64歳	99	18.2	2.0	4.0	25.3	19.2	25.3	22.2	38.4	77.8	4.0	4.0	6.1	0.0

問 34 市からの災害に関する情報をどのように得ていますか。(〇は3つまで)

「緊急速報エリアメール」の割合が55.5%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」の割合が47.9%、「市のSNS（安全安心メール・LINE等）」の割合が45.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「市のSNS（安全安心メール・LINE等）」の割合が増加しています。一方、「テレビ・ラジオ」「緊急速報エリアメール」「インターネット」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「市のSNS（安全安心メール・LINE等）」の割合が高くなっています。また、60～64歳で「テレビ・ラジオ」の割合が高くなっています。

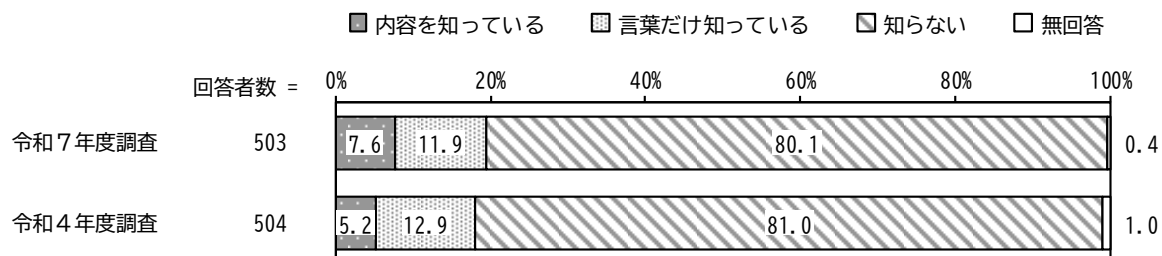
単位：％

区分	回答者数 (件)	テレビ・ラジオ	防災行政無線	緊急速報エリアメール	市のSNS (安全安心メール・LINE等)	インターネット	隣近所から	その他	無回答
全 体	503	47.9	20.1	55.5	45.9	36.4	8.9	1.2	0.8
40～44歳	75	33.3	13.3	64.0	54.7	41.3	2.7	2.7	1.3
45～49歳	101	49.5	16.8	55.4	48.5	42.6	10.9	0.0	0.0
50～54歳	116	44.8	25.0	51.7	47.4	32.8	7.8	0.9	0.9
55～59歳	107	50.5	19.6	53.3	42.1	33.6	12.1	0.0	1.9
60～64歳	99	58.6	24.2	56.6	38.4	33.3	9.1	3.0	0.0

問 35 あなたは、福祉避難所を知っていますか。(〇は1つ)

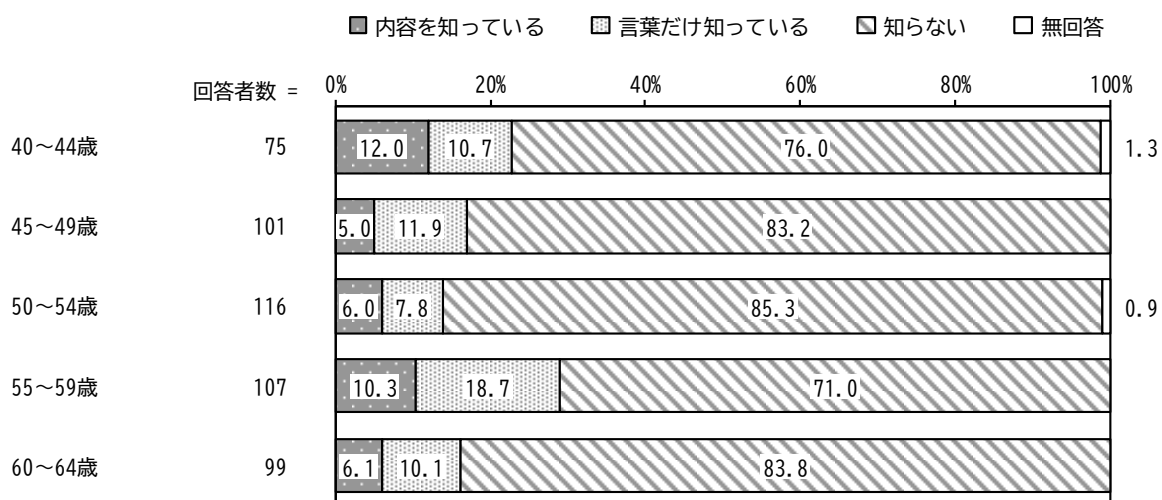
「内容を知っている」の割合が 7.6%、「言葉だけ知っている」の割合が 11.9%、「知らない」の割合が 80.1%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



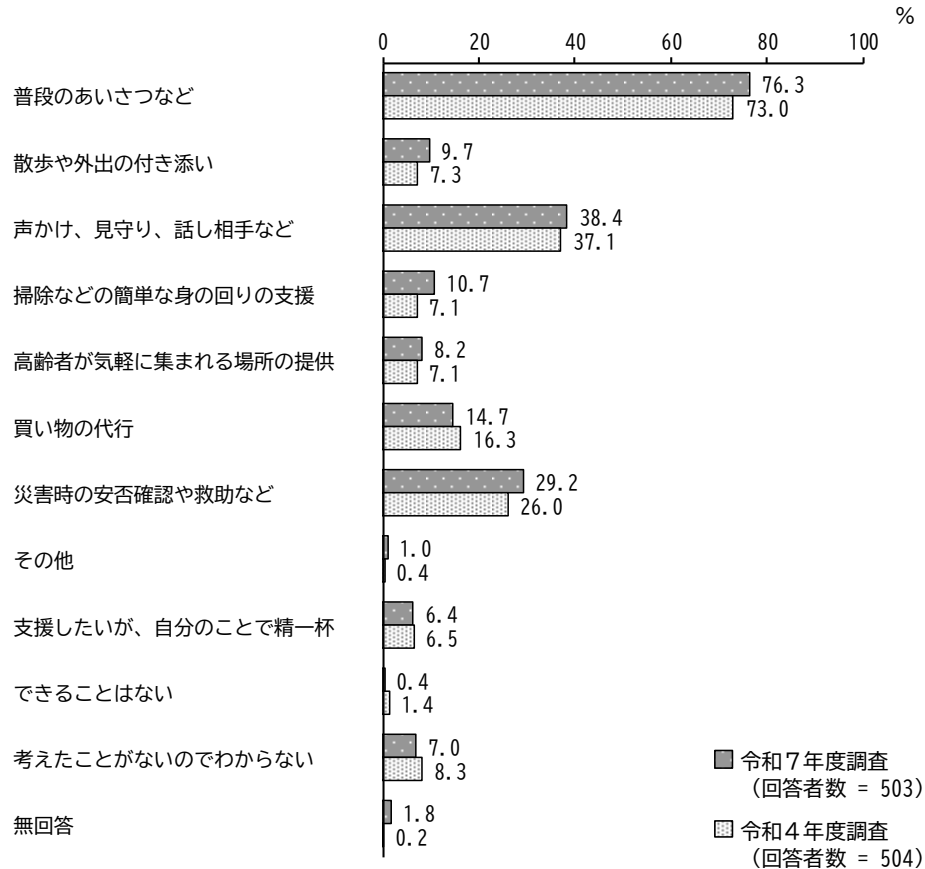
【年齢別】

年齢別にみると、55～59歳で「言葉だけ知っている」、50～54歳で「知らない」の割合が高くなっています。



問 36 高齢者が安心して自分らしく生活できる地域をつくるために、あなたが地域の一員としてできそうなことは何ですか。(〇はいくつでも)

「普段のあいさつなど」の割合が76.3%と最も高く、次いで「声かけ、見守り、話し相手など」の割合が38.4%、「災害時の安否確認や救助など」の割合が29.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「普段のあいさつなど」「掃除などの簡単な身の回りの支援」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数(件)	ど 普段のあいさつな	添い 散歩や外出の付き	し 声かけ、見守り、話し相手など	身の 掃除などの簡単な回りの支援	ま 高齢者が気軽に集まれる場所の提供	買 買い物の代行	災 災害時の安否確認や救助など	そ 他	分 支援したいが、自分のことで精一杯	で できることはない	考 考えたことがないのでわからない	無 回答
全 体	503	76.3	9.7	38.4	10.7	8.2	14.7	29.2	1.0	6.4	0.4	7.0	1.8
40～44歳	75	76.0	8.0	28.0	12.0	5.3	14.7	33.3	1.3	6.7	1.3	8.0	2.7
45～49歳	101	71.3	7.9	41.6	3.0	8.9	16.8	26.7	1.0	8.9	1.0	8.9	0.0
50～54歳	116	77.6	11.2	35.3	10.3	6.0	14.7	26.7	0.9	5.2	0.0	5.2	4.3
55～59歳	107	78.5	9.3	43.9	12.1	10.3	14.0	29.9	0.9	6.5	0.0	6.5	1.9
60～64歳	99	78.8	12.1	42.4	17.2	10.1	13.1	32.3	1.0	4.0	0.0	6.1	0.0

【調査結果のまとめ】

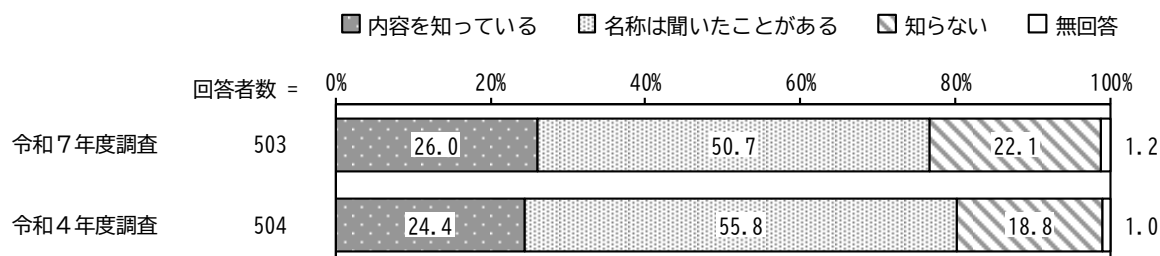
○隣近所とは「挨拶程度」が60.0%と高くなっています。

○地域活動に参加していない理由の42.0%が「仕事や家事で忙しい」と高くなっている一方で、地域活動への参加意向は「参加してもよい」が40.4%あり、内容は「趣味」や「スポーツ」が上位にあげられています。また、リフレッシュを兼ねた趣味等の活動へのニーズは高く、現役世代を巻き込む「ゆるやかな地域とのつながり」づくりが必要です。

6 相談窓口などについて

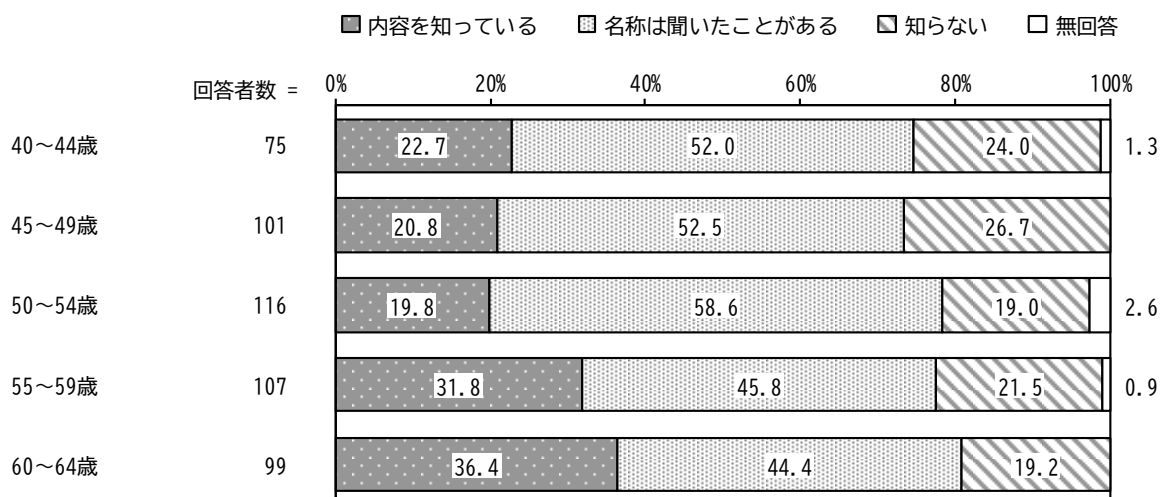
問 37 あなたは介護保険制度の内容について、知っていますか。(○は1つ)

「内容を知っている」の割合が 26.0%、「名称は聞いたことがある」の割合が 50.7%、「知らない」の割合が 22.1%となっています。令和4年度調査と比較すると、「名称は聞いたことがある」の割合が減少しています。



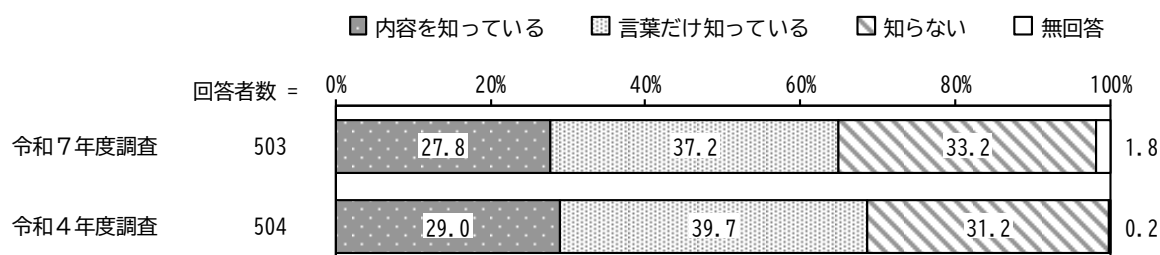
【年齢別】

年齢別にみると、60～64歳で「内容を知っている」、50～54歳で「名称は聞いたことがある」の割合が高くなっています。



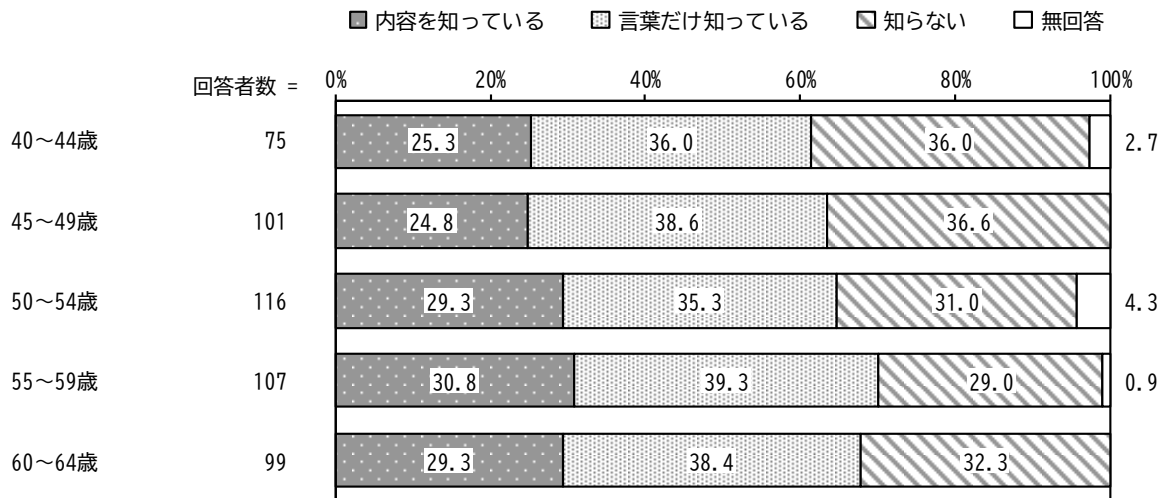
問 38 「成年後見制度」について、知っていますか。(○は1つ)

「内容を知っている」の割合が 27.8%、「言葉だけ知っている」の割合が 37.2%、「知らない」の割合が 33.2%となっています。令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



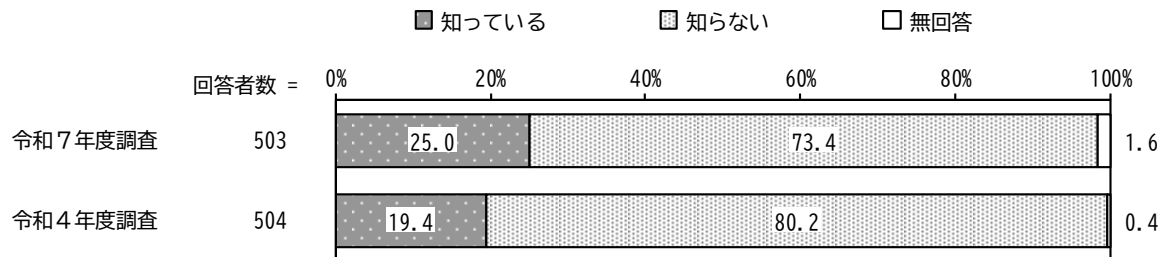
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



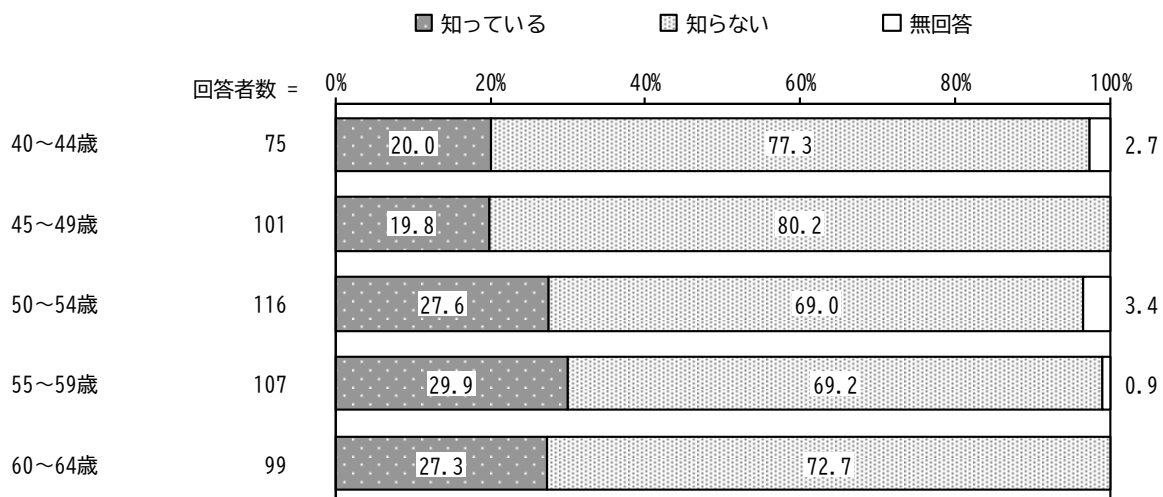
問 39 「成年後見制度」の相談先を、知っていますか。(○は1つ)

「知っている」の割合が25.0%、「知らない」の割合が73.4%となっています。
令和4年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



【年齢別】

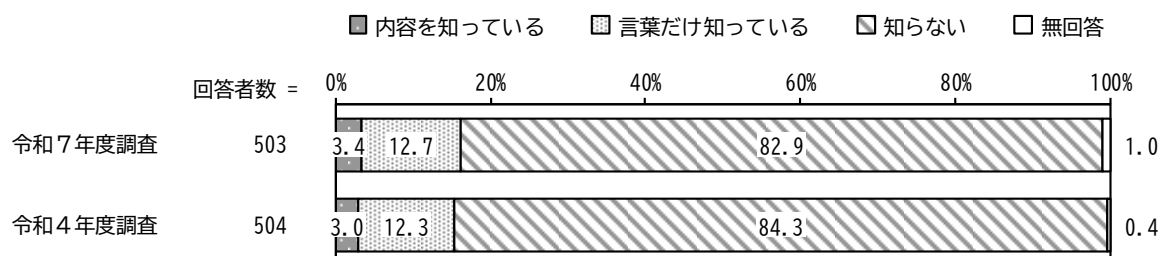
年齢別にみると、45～49歳で「知らない」の割合が高くなっています。



問 40 「市民後見人」について、知っていますか。(〇は1つ)

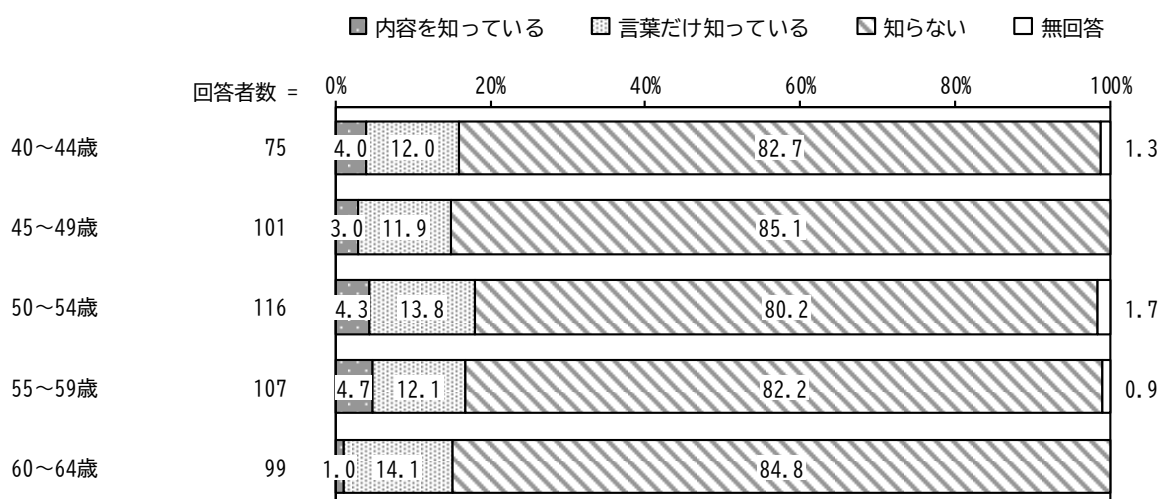
「内容を知っている」の割合が 3.4%、「言葉だけ知っている」の割合が 12.7%、「知らない」の割合が 82.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。

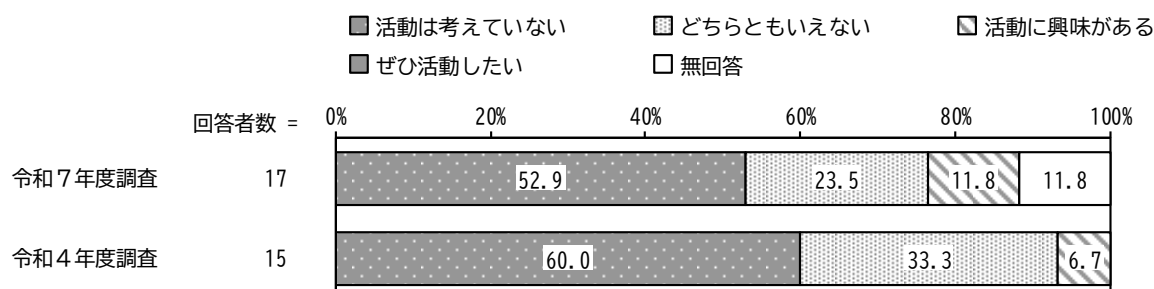


【問 40 で「内容を知っている」と回答した方のみ】

① 「市民後見人」として活動したいと思いますか。(〇は1つ)

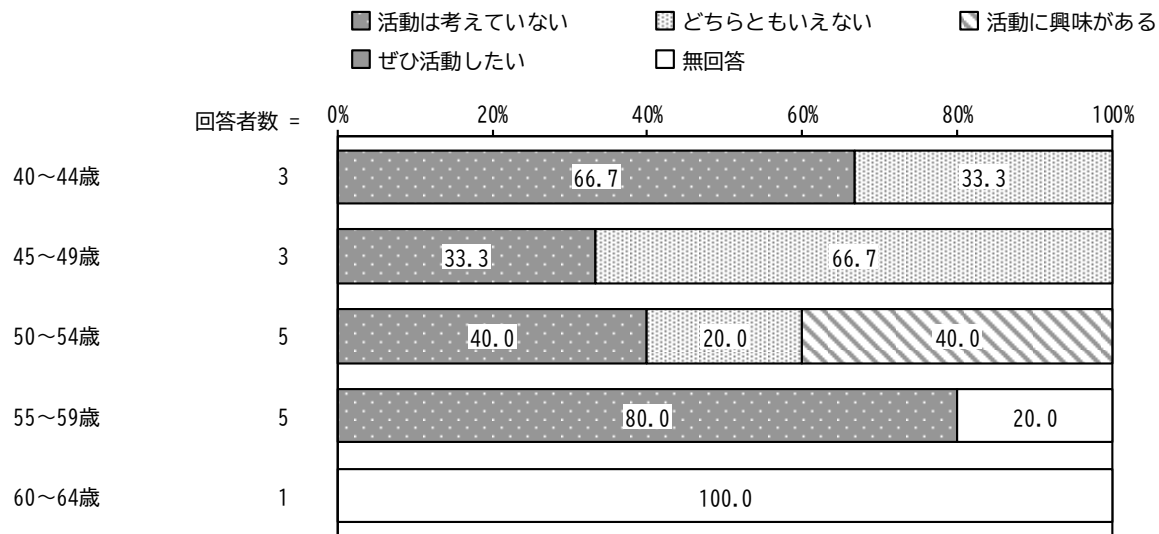
「活動は考えていない」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 23.5%、「活動に興味がある」の割合が 11.8%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「活動に興味がある」の割合が増加しています。一方、「活動は考えていない」「どちらともいえない」の割合が減少しています。



【年齢別】

有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。



【調査結果のまとめ】

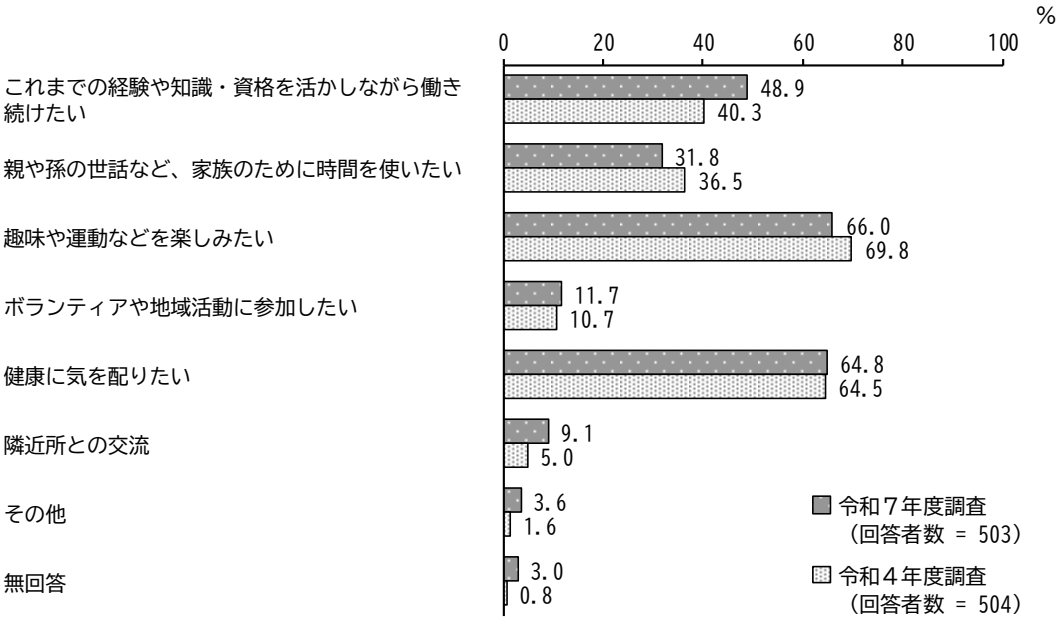
- 介護保険制度の内容を「名称は聞いたことがある」程度とする人が50.7%となっています。
- 成年後見制度の相談先を「知らない」人は73.4%と高くなっています。
- 介護が直面する前の段階での制度理解が不足しており、将来のリスクに備えた制度周知や権利擁護に関する啓発を、若年期から進める必要があります。

7 将来の生活（介護の考え方を含む）について

問 41 あなたは 65 歳以降の生活をどのように過ごしたいと考えていますか。
（〇はいくつでも）

「趣味や運動などを楽しみたい」の割合が 66.0%と最も高く、次いで「健康に気を配りたい」の割合が 64.8%、「これまでの経験や知識・資格を活かしながら働きたい」の割合が 48.9%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「これまでの経験や知識・資格を活かしながら働きたい」の割合が増加しています。



【年齢別】

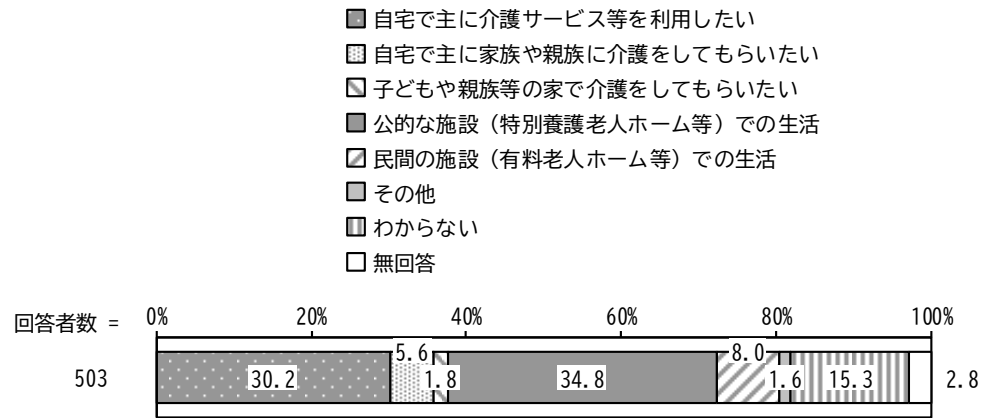
年齢別にみると、年齢が上がるほど「これまでの経験や知識・資格を活かしながら働きたい」の割合が高く、60～64 歳から 45～49 歳まで年齢が下がるほど「趣味や運動などを楽しみたい」の割合が高くなっています。また、40～44 歳で「親や孫の世話など、家族のために時間を使いたい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	これまでの経験や知識・資格を活かしながら働きたい	親や孫の世話など、家族のために時間を使いたい	趣味や運動などを楽しみたい	ボランティアや地域活動に参加したい	健康に気を配りたい	隣近所との交流	その他	無回答
全 体	503	48.9	31.8	66.0	11.7	64.8	9.1	3.6	3.0
40～44歳	75	40.0	45.3	69.3	16.0	65.3	9.3	6.7	5.3
45～49歳	101	46.5	37.6	68.3	7.9	61.4	6.9	2.0	4.0
50～54歳	116	49.1	27.6	66.4	14.7	67.2	9.5	4.3	2.6
55～59歳	107	51.4	24.3	65.4	11.2	66.4	10.3	1.9	1.9
60～64歳	99	57.6	28.3	61.6	10.1	64.6	9.1	4.0	2.0

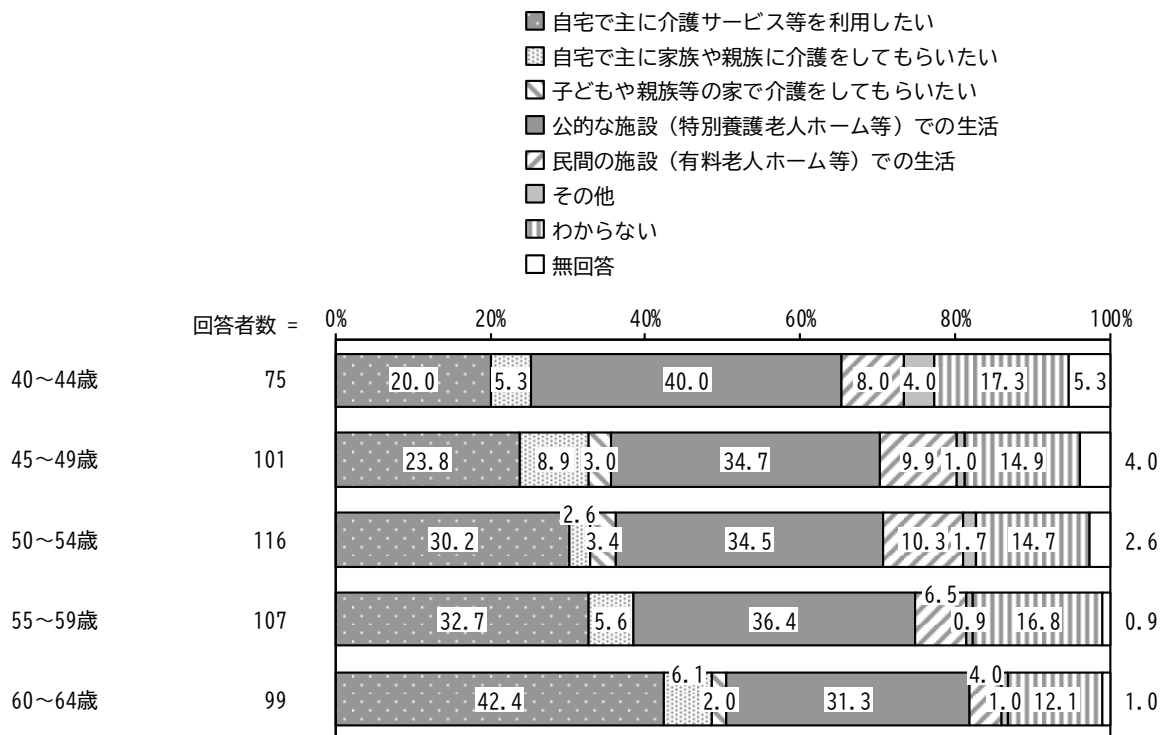
問 42 あなた自身に介護が必要となった場合に、どのような介護を受けながら生活したいと思いますか。(○は1つ)

「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「自宅で主に介護サービス等を利用したい」の割合が 30.2%となっています。



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「自宅で主に介護サービス等を利用したい」の割合が高く、「公的な施設（特別養護老人ホーム等）での生活」の割合が低い傾向にあります。

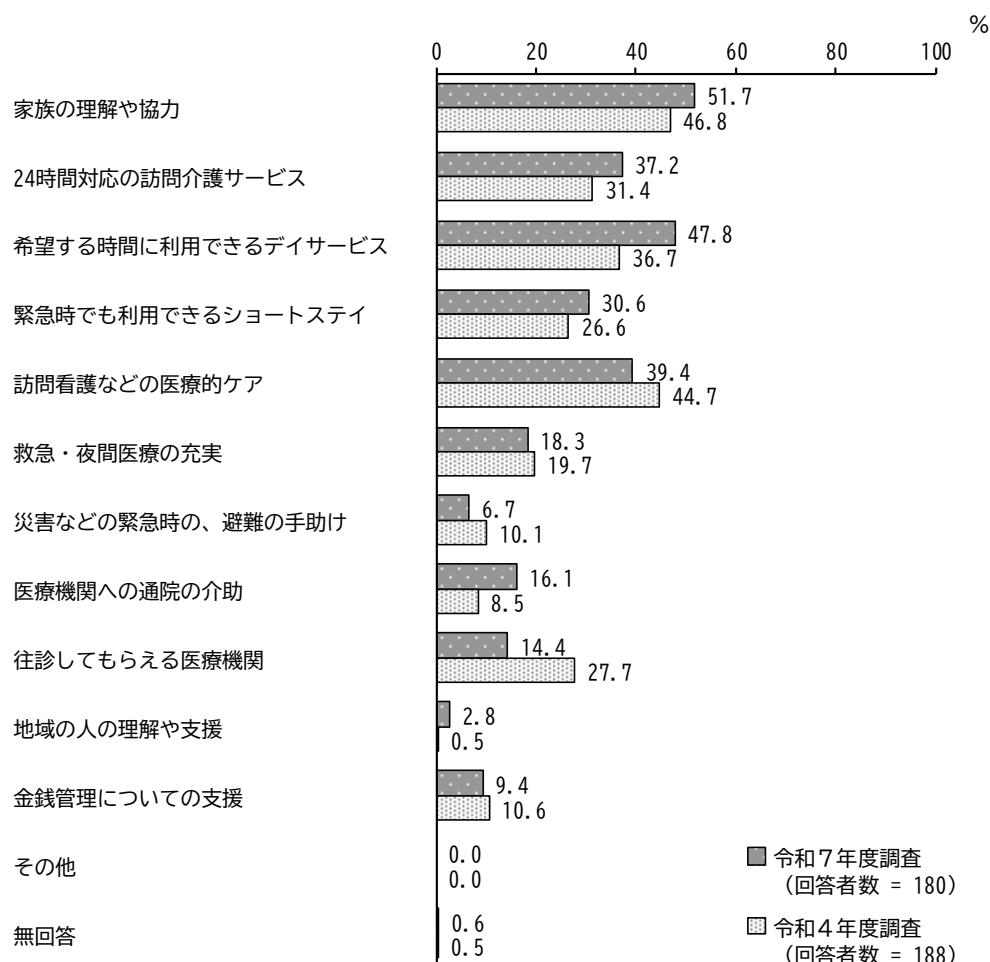


【問 42 で「自宅で主に介護サービス等を利用したい」「自宅で主に家族や親族に介護をしてもらいたい」と回答した方のみ】

① 自宅で生活続けるために、どのような支援やサービスが必要だと思いますか。(○は3つまで)

「家族の理解や協力」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「希望する時間に利用できるデイサービス」の割合が 47.8%、「訪問看護などの医療的ケア」の割合が 39.4%となっています。

令和4年度調査と比較すると、「24 時間対応の訪問介護サービス」「希望する時間に利用できるデイサービス」「医療機関への通院の介助」の割合が増加しています。一方、「訪問看護などの医療的ケア」「往診してもらえる医療機関」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「家族の理解や協力」が「自宅で面倒を見てくれる家族がいる」となっていました。

【年齢別】

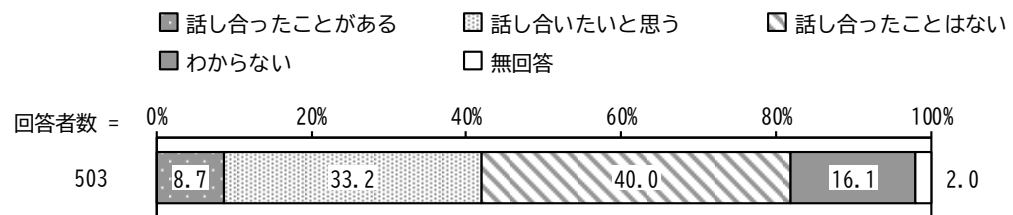
年齢別にみると、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「救急・夜間医療の充実」の割合が高く、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「訪問看護などの医療的ケア」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族の理解や協力	24時間対応の訪問介護サービス	希望する時間に利用できるデイサービス	緊急時でも利用できるショートステイ	訪問看護などの医療的ケア	救急・夜間医療の充実	災害などの緊急時の、避難の手助け	医療機関への通院の介助	療養機関	往診してもらえる医療機関	地域の人の理解や支援	金銭管理についての支援	その他	無回答
全 体	180	51.7	37.2	47.8	30.6	39.4	18.3	6.7	16.1	14.4	2.8	9.4	0.0	0.6	
40～44歳	19	42.1	36.8	42.1	21.1	31.6	26.3	15.8	15.8	26.3	5.3	15.8	0.0	0.0	
45～49歳	33	66.7	39.4	45.5	27.3	33.3	9.1	3.0	15.2	6.1	6.1	9.1	0.0	0.0	
50～54歳	38	47.4	31.6	50.0	31.6	39.5	10.5	10.5	21.1	15.8	2.6	13.2	0.0	2.6	
55～59歳	41	53.7	41.5	43.9	24.4	56.1	17.1	0.0	12.2	22.0	2.4	7.3	0.0	0.0	
60～64歳	48	47.9	35.4	54.2	39.6	31.3	29.2	8.3	16.7	8.3	0.0	6.3	0.0	0.0	

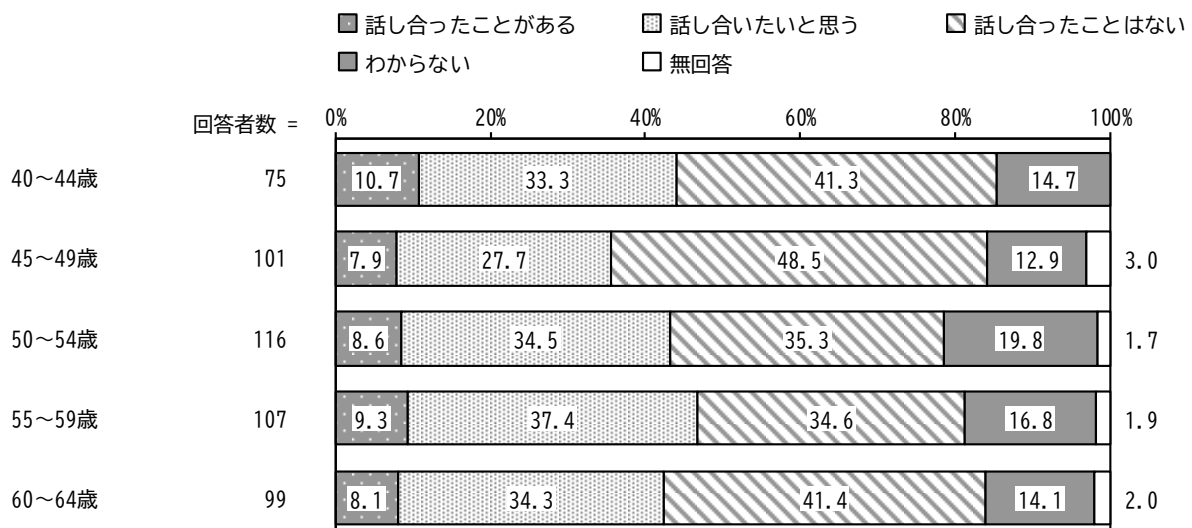
問 43 あなたは「人生会議」で、人生の最終段階の医療やケアについて、あらかじめ家族や医療・介護関係者と話し合いたいと思いますか。（○は1つ）

「話し合ったことがある」の割合が8.7%、「話し合いたいと思う」の割合が33.2%、「話し合ったことはない」の割合が40.0%となっています。



【年齢別】

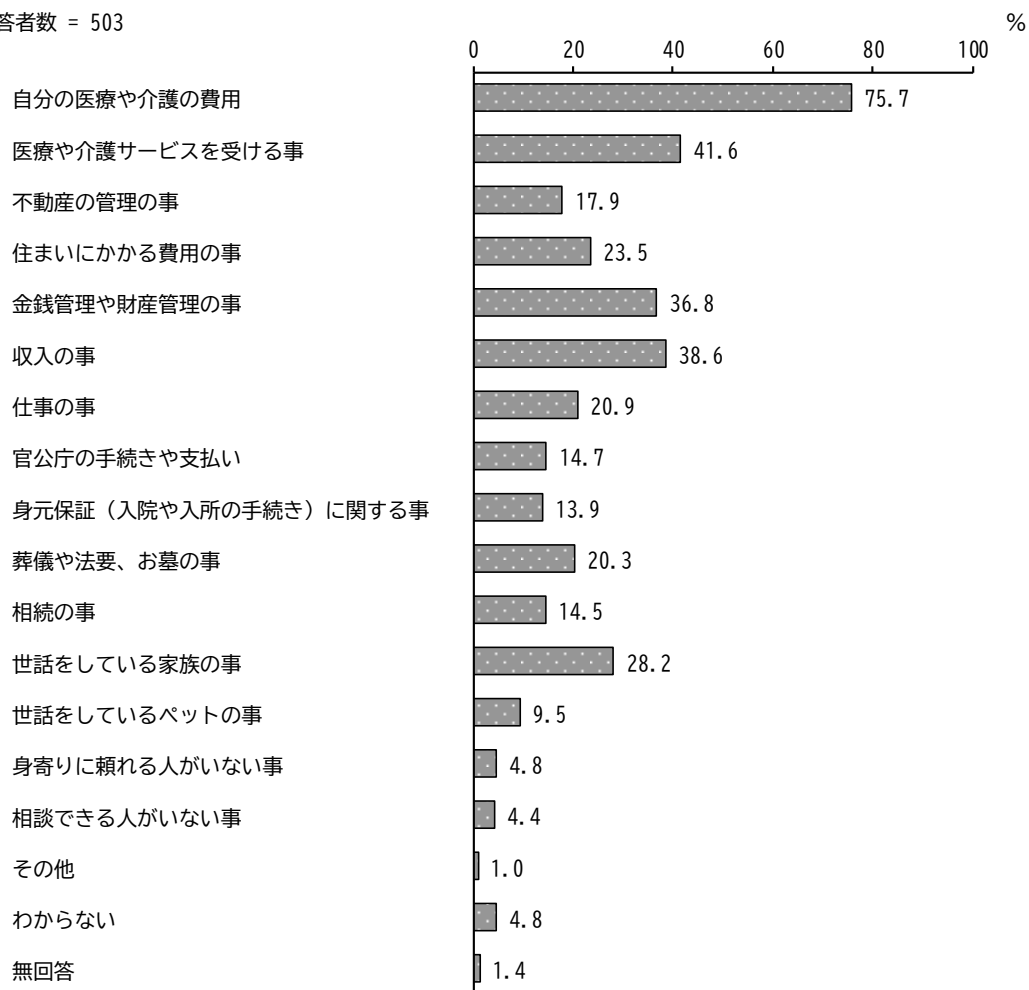
年齢別にみると、45～49歳で「話し合ったことはない」の割合が高く、「話し合いたいと思う」の割合が低くなっています。



問 44 もしあなたが病気や加齢により判断能力が低下した時、安心した生活を送るうえで、気になっていることや心配なことがあれば、教えてください。(〇はいくつでも)

「自分の医療や介護の費用」の割合が 75.7%と最も高く、次いで「医療や介護サービスを受ける事」の割合が 41.6%、「収入の事」の割合が 38.6%となっています。

回答者数 = 503



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「医療や介護サービスを受ける事」の割合が高く、「収入の事」の割合が低い傾向にあります。また、40～44歳で「仕事の事」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分の医療や介護 の費用	医療や介護サ ービスを受ける事	不動産の管理の事	住まいにかか る費用の事	金銭管理や財 産管理の事	収入の事	仕事の事	官公庁の手 続きや支払い	身元保証(入 院や入所の手 続き)に関す る事
全 体	503	75.7	41.6	17.9	23.5	36.8	38.6	20.9	14.7	13.9
40～44歳	75	74.7	36.0	22.7	33.3	45.3	60.0	38.7	16.0	17.3
45～49歳	101	73.3	38.6	18.8	24.8	36.6	41.6	22.8	8.9	11.9
50～54歳	116	80.2	38.8	12.9	18.1	31.9	35.3	12.1	12.1	14.7
55～59歳	107	81.3	43.9	15.9	23.4	35.5	36.4	21.5	19.6	15.9
60～64歳	99	70.7	50.5	22.2	21.2	37.4	25.3	16.2	18.2	11.1

区分	葬儀や法要、お墓の 事	相続の事	世話をしている家 族の事	世話をしているペ ットの事	身寄りに頼れる人 がいない事	相談できる人がい ない事	その他	わからない	無回答
全 体	20.3	14.5	28.2	9.5	4.8	4.4	1.0	4.8	1.4
40～44歳	28.0	16.0	37.3	9.3	10.7	6.7	0.0	9.3	1.3
45～49歳	14.9	10.9	21.8	8.9	3.0	5.9	2.0	5.0	3.0
50～54歳	21.6	10.3	31.0	7.8	5.2	3.4	0.0	4.3	0.0
55～59歳	19.6	15.0	22.4	13.1	2.8	3.7	1.9	4.7	0.9
60～64歳	19.2	21.2	29.3	9.1	3.0	2.0	1.0	2.0	1.0

【調査結果のまとめ】

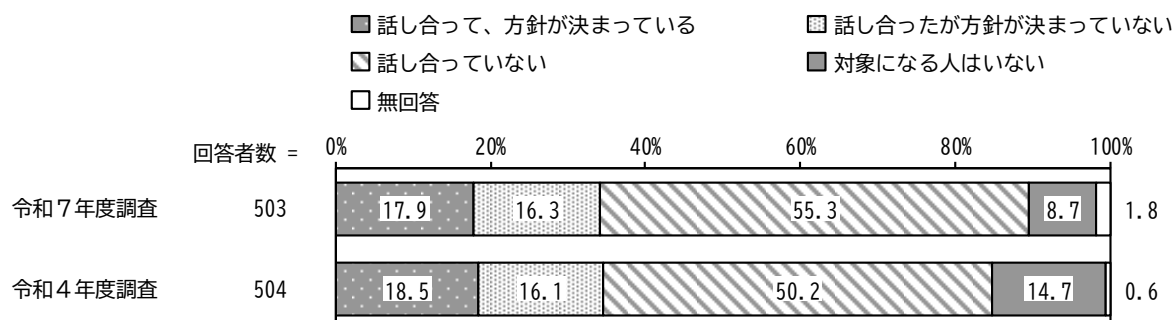
- 65歳以降は「趣味や運動」とともに「これまでの経験を活かして働きたい」(48.9%)とする意欲が見られます。
- 自身に介護が必要な場合は「公的な施設での生活」が34.8%で最も高くなっていますが、在宅継続のために「訪問看護」や「24時間訪問介護」を求める声も高くなっています。
- 退職後の社会貢献への意欲を地域資源につなげる工夫とともに、中重度化しても自宅で暮らせる高度な介護サービスの整備が求められています。

8 親御さんの介護について

問 45 家族や兄弟等の間で、親御さんの介護について話し合いをしていますか。(○は1つ)

「話し合っていない」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「話し合って、方針が決まっている」の割合が 17.9%、「話し合ったが方針が決まっていない」の割合が 16.3%となっています。

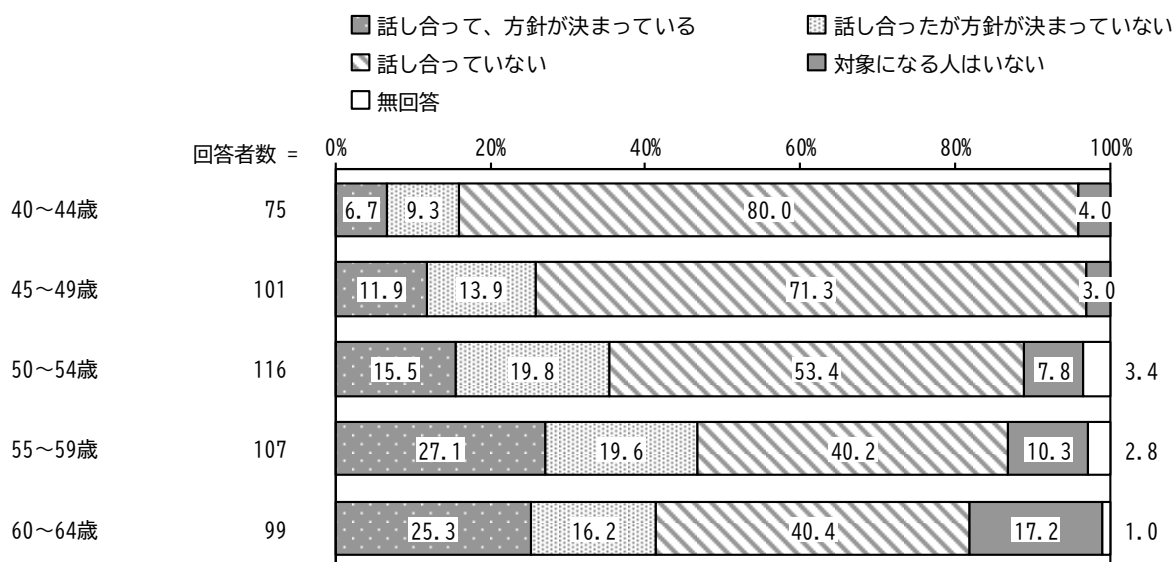
令和4年度調査と比較すると、「話し合っていない」の割合が増加しています。一方、「対象になる人はいない」の割合が減少しています。



※令和4年度調査では、「話し合って、方針が決まっている」が「話し合って結論が出た」、「話し合ったが方針が決まっていない」が「話し合ったが結論が出ない」となっていました。

【年齢別】

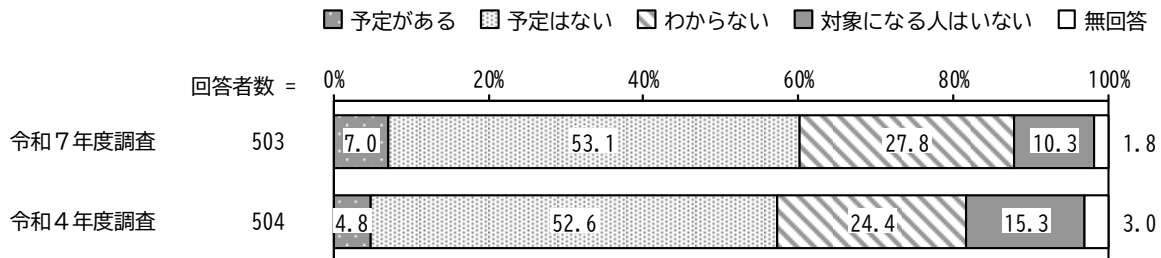
年齢別にみると、45～49歳から60～64歳まで年齢が上がるほど「対象になる人はいない」の割合が高く、40～44歳から55～59歳まで年齢が上がるほど「話し合って、方針が決まっている」の割合が高く、「話し合っていない」の割合が低くなっています。



問 46 あなたは近い将来（今後2～3年の間）に、親御さんと呼び寄せて介護をする予定はありますか。（○は1つ）

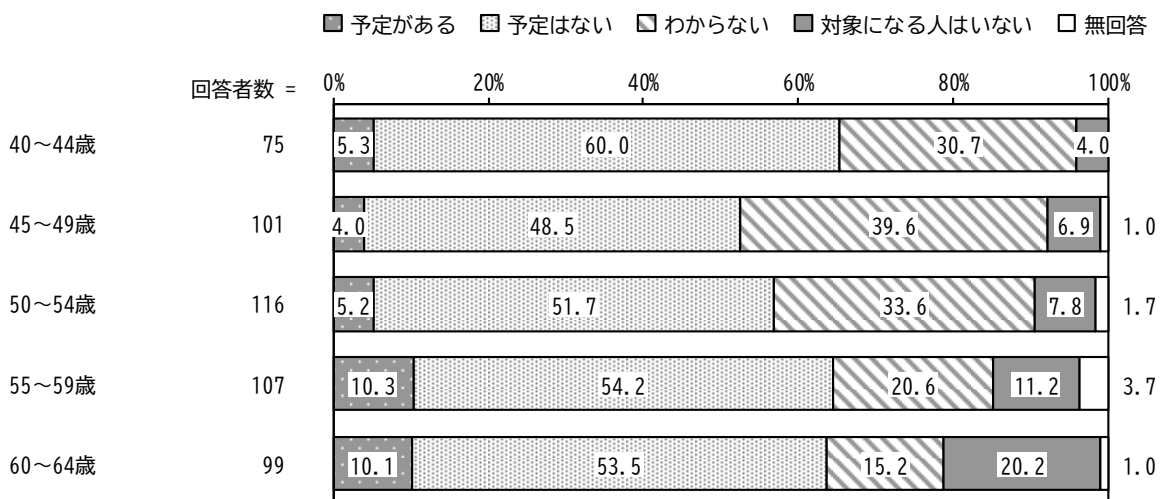
「予定がある」の割合が7.0%、「予定はない」の割合が53.1%、「対象になる人はいない」の割合が10.3%となっています。

令和4年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



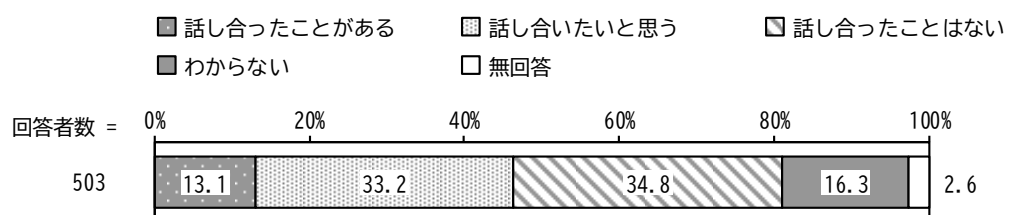
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「対象になる人はいない」の割合が高くなっています。



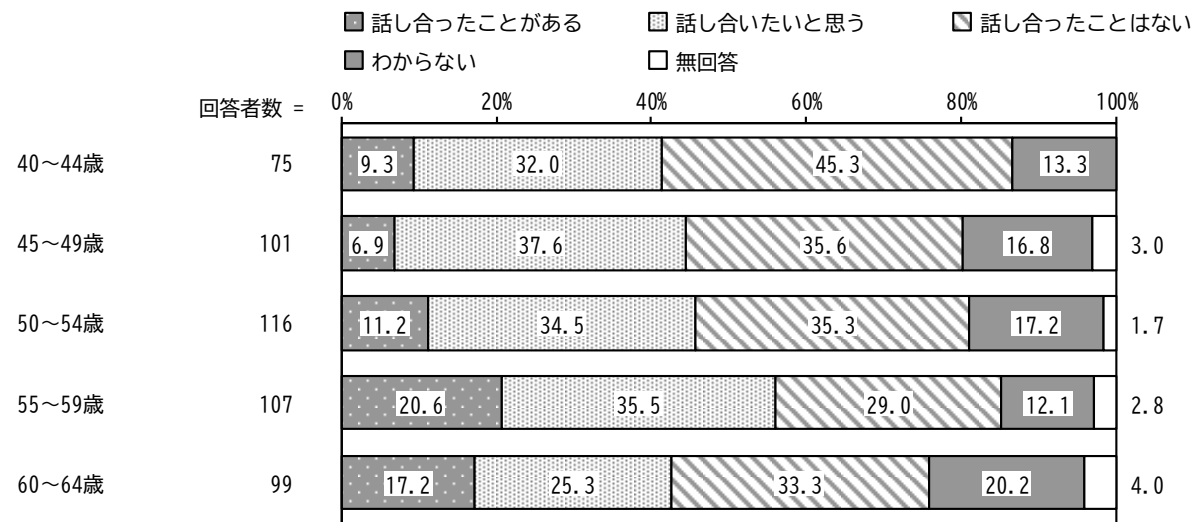
問 47 あなたは、あなたの親御さんについて、「人生会議」で、人生の最終段階の医療やケアについて、あらかじめご本人や医療・介護関係者と話し合いたいと思いますか。（○は1つ）

「話し合ったことがある」の割合が13.1%、「話し合いたいと思う」の割合が33.2%、「話し合ったことはない」の割合が34.8%となっています。



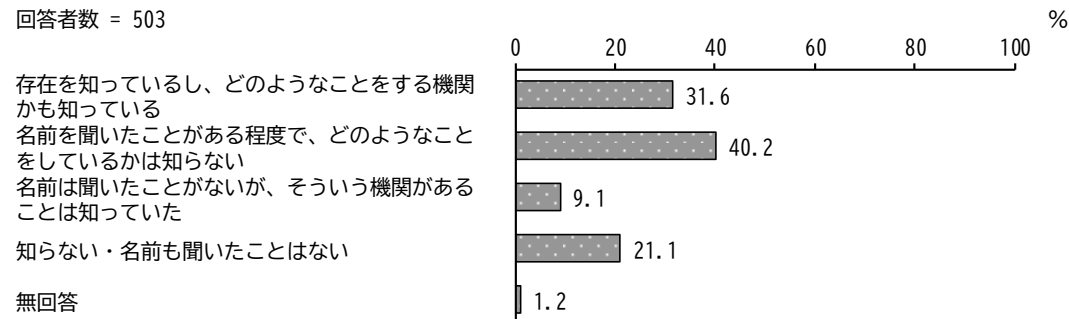
【年齢別】

年齢別にみると、55～59 歳から 40～44 歳まで年齢が下がるほど「話し合ったことはない」の割合が高くなっています。



問 48 高齢者に関する相談先として、「地域包括支援センター」があること、相談や必要に応じたサービスを提供してくれることを知っていますか。(〇はいくつでも)

「名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」の割合が 31.6%、「知らない・名前も聞いたことはない」の割合が 21.1%となっています。



【年齢別】

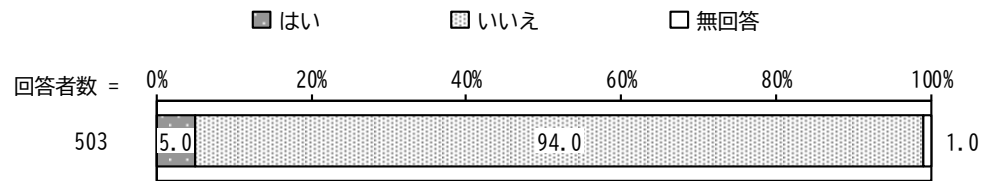
年齢別にみると、45～49 歳から 60～64 歳まで年齢が上がるほど「存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている」の割合が高い傾向にあります。

単位：％

区分	回答者数 (件)	存在を知っているし、どのようなことをする機関かも知っている	名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない	名前は聞いたことがないが、そういう機関があることは知っていた	知らない・名前も聞いたことはない	無回答
全 体	503	31.6	40.2	9.1	21.1	1.2
40～44歳	75	24.0	40.0	13.3	29.3	0.0
45～49歳	101	20.8	48.5	9.9	21.8	1.0
50～54歳	116	26.7	41.4	9.5	22.4	1.7
55～59歳	107	43.0	40.2	3.7	15.9	2.8
60～64歳	99	43.4	28.3	11.1	18.2	0.0

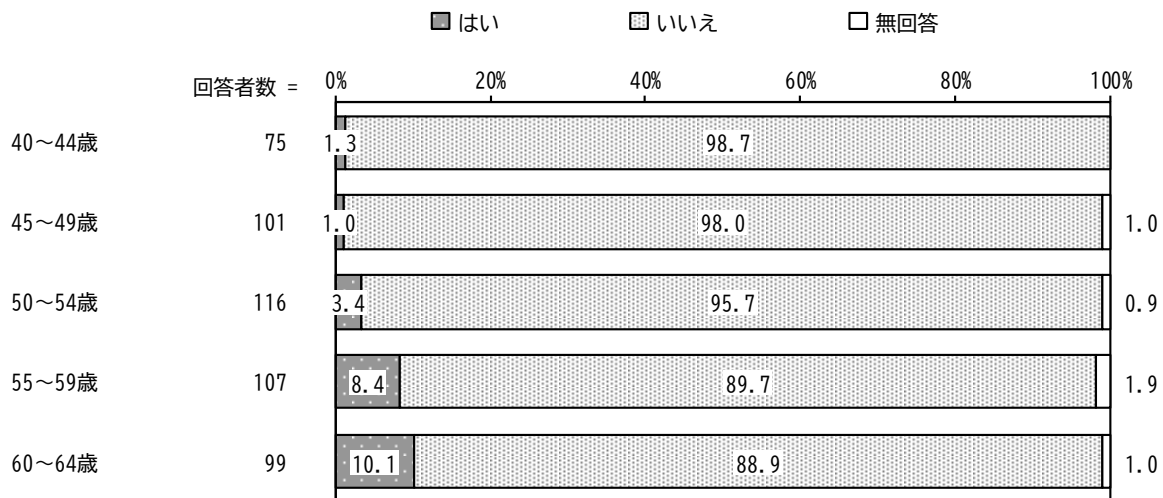
問 49 あなたは、複数名のご家族のお世話（ダブルケア）をしていますか。（○は1つ）

「はい」の割合が5.0%、「いいえ」の割合が94.0%となっています。



【年齢別】

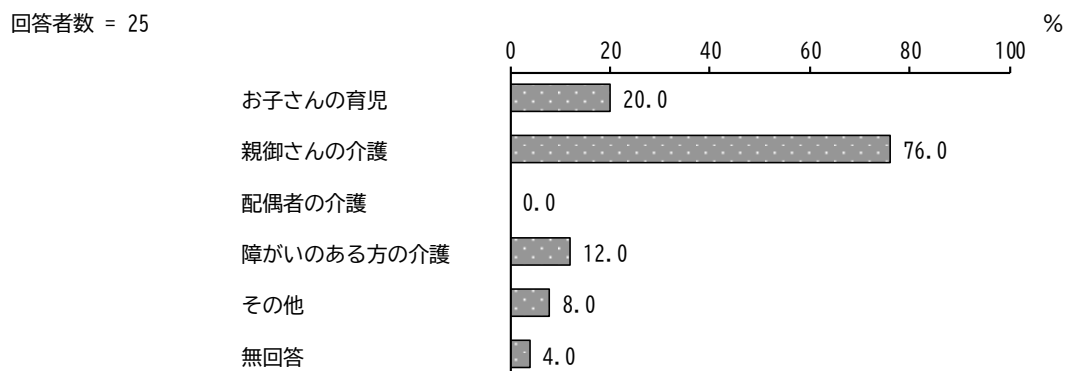
年齢別にみると、年齢が下がるほど「いいえ」の割合が高くなっています。



【問 49 で「はい」と回答した方のみ】

① どのようなお世話をしていますか。（○はいくつでも）

「親御さんの介護」の割合が76.0%と最も高く、次いで「お子さんの育児」の割合が20.0%、「障がいのある方の介護」の割合が12.0%となっています。



【年齢別】

有効回答数が少ないため、回答結果のみ示します。

単位：％

区分	回答者数 (件)	お子さんの育児	親御さんの介護	配偶者の介護	障がいのある方の 介護	その他	無回答
全 体	25	20.0	76.0	0.0	12.0	8.0	4.0
40～44歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
45～49歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
50～54歳	4	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
55～59歳	9	0.0	88.9	0.0	11.1	0.0	11.1
60～64歳	10	10.0	80.0	0.0	20.0	10.0	0.0

【調査結果のまとめ】

- 親の介護について「話し合っていない」が 55.3%と半数を超えています。
- 人生会議（ACP）についても「話し合いたい」が 33.2%に上る一方で、実際に行ったことがある人は少なくなっています。
- 地域包括支援センターの認知度は「知らない・名前も聞いたことがない」が 21.1%となっています。
- 親の介護が現実味を帯びる世代に対し、早期の家族間対話を促すきっかけ作りと、地域包括支援センター等の公的機関を身近にするための周知が必要です。

VI 共通設問等の分析

VI 共通設問等の分析

1 健康状況について

(1) 治療中、または後遺症のある病気や要介護者が現在抱えている傷病名

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「高血圧」が 47.2%で最も高く、次いで「目の病気 (20.9%)」「高脂血症 (脂質異常) (20.2%)」の順となっています【ニーズ：問8 (9)】。
- 在宅介護実態調査では「筋骨格系疾患」「認知症」「眼科・耳鼻科疾患」がそれぞれ 22.0%と最多で並んでいます【在宅：問8】。
- 40～64 歳の第2号被保険者では「ない」が 47.3%と半数近いものの、疾患がある場合は「高血圧 (21.5%)」「高脂血症 (脂質異常) (11.5%)」の割合が上位に挙げられています【第2号：問7】。

(2) 健診や人間ドックについて

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の過去1年以内の受診状況は「市の健診を受けた」が 47.9%と最も高い一方、「受けていない」層も 14.3%見られます【ニーズ：問8 (10)】。また、未受診理由では「健康には自信があるため必要なかった (16.9%)」が最も高くなっています【ニーズ：問8 (10) ①】。
- 第2号被保険者では「職場の健診等を受けた」が 69.8%と大半を占めますが、未受診の理由として「時間がなかった (38.2%)」が最多となっています【第2号：問8、問8①】。

(3) 健康のために意識していることや取り組んでいること

- 健康づくりの取り組みとして、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「散歩やウォーキング (35.0%)」「食事 (34.1%)」「家事 (33.4%)」が上位となっています【ニーズ：問2 (11)】。
- 第2号被保険者では「働くこと (41.7%)」「食事 (41.4%)」「趣味や楽しみを持つ (36.8%)」の割合が高くなっています【第2号：問9】。

【課題分析】

- 全世代を通じて「高血圧」や「高脂血症」といった生活習慣病が共通の課題として見られますが、在宅介護実態調査においては認知症や感覚器疾患、筋骨格系疾患が生活上の大きな制約となっている傾向がうかがえます。
- 特に第2号被保険者の段階から生活習慣病の兆候が見られることから、早期の重症化予防およびフレイル対策を強化し、将来的な要介護状態への移行を抑制することが課題であると考えられます。
- 働く世代では時間的制約が、高齢世代では健康への過信が受診の阻害要因となっている傾向がうかがえます。無症状のうちに進行する生活習慣病のリスクを鑑みると、現役世代への受診勧奨に加え、高齢者に対しては自身の健康状態を客観的に把握することの重要性を再認識させる啓発活動が、引き続き重要であると考えられます。
- 高齢層では日常生活の中での身体活動を意識する傾向がある一方、第2号被保険者層では就労そのものを健康維持の要素と捉えている傾向が見られます。一方で、取り組んでいることが「特になし」理由として、両調査ともに「必要性を感じていない」「時間がない」といった回答が上位にあることから、個々のライフスタイルに合わせた無理のない健康づくりの定着支援が課題であると考えられます。

2 生きがいづくりについて

(1) 生きがいや余暇の過ごし方

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の趣味・生きがいの有無については「趣味あり」が 68.1%、「生きがいあり」が 51.6%となっています【ニーズ：問4（9）（10）】。
- 在宅介護実態調査の楽しみは「テレビ・ラジオ（54.0%）」が最も高く、次いで「家族との団らん（30.6%）」「通所サービス利用時の活動（30.3%）」となっています【在宅：問18】。
- 第2号被保険者の65歳以降の希望は「趣味や運動などを楽しみたい（66.0%）」「健康に気を配りたい（64.8%）」の割合が特に高くなっています【第2号：問41】。

【課題分析】

- 身体機能や認定状況により過ごし方に差が見られ、在宅介護実態調査では家庭内や介護サービス内での活動が中心となる傾向がうかがえます。健康な時期に抱く「趣味を楽しみたい」という意向を、介護が必要な状態になっても維持・実現できるよう、通所サービスの内容充実や、外出を支援する移動手段の確保といったソフト・ハード両面での支援継続が課題であると考えられます。

3 認知症について

(1) 認知症に関する相談窓口の認知度

- 認知症の相談窓口を「知っている」割合は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 36.4%【ニーズ：問10（2）】、第2号被保険者で 35.2%にとどまっています【第2号：問11】。
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査においては前回調査より認知度が向上しているものの、依然として約6割が「知らない」と回答しています。

(2) 認知症のイメージ

- 認知症のイメージについて、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の 69.6%が「家族・介護する人の負担が大きい」と回答し、第2号被保険者ではその割合が 85.7%にまで達しています【ニーズ：問10（5）、第2号：問14】。また、「介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」というイメージも約4割に見られます。

(3) 安心して生活するために必要なこと

- 住み慣れた地域で生活をするために必要なこととして、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「家族などの認知症への正しい理解（71.8%）」「介護保険のサービス（64.3%）」が上位を占めています【ニーズ：問10（10）】。
- 在宅介護実態調査の介護者からも「介護保険のサービス（54.9%）」の必要性が最も高く挙げられています【在宅：問18】。
- 第2号被保険者も同様に「介護保険のサービス（70.2%）」「家族などの正しい理解（67.0%）」を重視しています【第2号：問20】。

【課題分析】

- 全世代において認知度が4割を下回っており、いざという時の相談先が十分に浸透していない状況が見られます。特に認知症は早期発見・早期対応が重要であるため、地域包括支援センター等の具体的な相談機能について、より身近で分かりやすい広報活動を展開していくことが必要であると考えられます。
- 「負担」というネガティブなイメージが先行している傾向が顕著であり、これが「認知症かもしれない」と思った際の相談を躊躇させる要因になる可能性もうかがえます。認知症になっても自分らしく暮らせるというポジティブな側面や、適切なサポート体制の情報を周知し、地域全体で支える意識を醸成する「新しい認知症観」の普及が急務であると考えられます。
- すべての層において、介護サービスの充実と並んで、家族や周囲の「正しい理解」が不可欠であると認識されている傾向がうかがえます。サービス基盤の整備はもとより、認知症サポーター養成講座等を通じて、住民一人ひとりが認知症を正しく理解し、見守りや支え合いに参加できる環境を整えていくことが課題であると考えられます。

4 地域とのつながり

(1) 隣近所との関わり

- 隣近所との付き合い方について、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「たまに、立ち話をする程度(39.0%)」が最も多く、第2号被保険者では「会えばあいさつをする程度(60.0%)」が主流となっています【ニーズ：問7(7)、第2号：問28】。
- 一方で、在宅介護実態調査では「会えばあいさつをする程度(35.7%)」に次いで「まったくない」が24.3%と、約4人に1人が孤立に近い状態にあります【在宅：問19】。

【課題分析】

- 加齢や身体機能の低下に伴い、地域住民との交流が希薄化していく傾向がうかがえます。特に在宅介護実態調査において交流が「まったくない」層が一定数見られることは、災害時の安否確認や孤立死防止の観点から懸念されます。
- 緩やかな見守り活動や、誰もが立ち寄りやすい「通いの場」の創出など、地域との接点を維持し続けるための仕組みづくりが重要であると考えられます。

5 災害時の対応について

(1) 福祉避難所の周知状況

- 福祉避難所について、「内容を知っている」割合は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で9.8%【ニーズ：問7(10)】、要介護者の介護者で13.1%【在宅：問21】、第2号被保険者で7.6%と、いずれも1割程度と極めて低い水準にあります【第2号：問35】。大多数が「知らない」と回答している現状があります。

(2) 災害時に不安に感じること

- 災害時の不安要素として、全調査で「ライフラインの切断」が最も高く挙げられています(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査52.3%、介護者38.0%、第2号75.3%)【ニーズ：問7(8)、在宅：問20、第2号：問33】。次いで、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査や第2号では「日用品が手に入らない」、介護者では「避難所では生活できない(37.1%)」といった回答が上位に見られます。

【課題分析】

- 要配慮者が避難生活を送る上で重要な施設であるにもかかわらず、その対象者や介護者への周知が不十分である傾向がうかがえます。
- 災害時に適切な避難行動をとるためには、平時から福祉避難所の役割や利用対象について周知を徹底し、個別の避難計画作成を推進していくことが喫緊の課題であると考えられます。
- 要介護者を抱える世帯では、避難所という慣れない環境での生活そのものに強い不安を感じている傾向がうかがえます。
- ライフライン停止への備えを啓発するとともに、避難所における要配慮者への受入体制整備や、在宅避難を継続する場合の支援体制の検討など、具体的な不安に応じた多角的な防災対策が求められます。

6 相談窓口について

(1) 介護に関する相談窓口を求めるもの

○介護の相談先について、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は「家族（63.1%）」に次いで「市役所の相談窓口（33.8%）」「地域包括支援センター（32.9%）」を挙げています【ニーズ：問9（1）】。要介護者の介護者では「ケアマネジャー（47.7%）」が最多で、次いで「家族（45.7%）」となっています【在宅：問22】。

(2) 成年後見制度について

○成年後見制度の認知度は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で「内容を知っている」が27.5%【ニーズ：問9（5）】、介護者で19.1%【在宅：問23】、第2号被保険者で27.8%となっています【第2号：問38】。「知らない」と回答した割合は、いずれの調査でも2割から4割程度見られます。

○制度の名称は一定程度浸透しているものの、具体的な内容や相談先については理解が進んでいない傾向がうかがえます【ニーズ：問9（6）、在宅：問21、第2号：問39】。

【課題分析】

- 認定の有無により相談相手が増える傾向にあり、認定後はケアマネジャーが重要な支えとなっていることがうかがえます。一方で、認定前の層では家族以外では公的な窓口への期待が高いことから、初期段階での相談に丁寧に対応できるよう、相談窓口のワンストップ機能の強化や、相談員の専門性の向上が引き続き課題であると考えられます。
- 判断能力が低下した後の権利擁護を支える重要な制度であるため、市民後見人の育成や、制度のメリット・利用方法に関する積極的な広報が課題であると考えられます。

7 今後の生活について

(1) どのような介護を受けながら生活したいか

○将来介護が必要になった際の希望は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では「自宅で主に介護サービス等を利用したい（34.8%）」が最も高く、次いで「公的な施設での生活（30.7%）」となっています【ニーズ：問11（1）】。

○一方、第2号被保険者では「公的な施設での生活（34.8%）」が「自宅で主に介護サービス利用（30.2%）」を上回っています【第2号：問42】。

○若い世代ほど、家族への負担を考慮してか施設入所を希望する割合が高い傾向がうかがえます。しかし、高齢層では住み慣れた自宅での生活継続を望む意向が強まっており、そのために「家族の理解や協力」や

「医療的ケアの充実」を求めています【ニーズ：問 11（1）①】。

（2）終末期に関しての話し合いの意向

○人生の最終段階の医療やケア（人生会議）について、「話し合いたいと思う」割合は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で 32.4%【ニーズ：問 11（2）】、第 2 号被保険者で 33.2%【第 2 号：問 43】、介護者自身についても 32.9%と同水準で見られます【在宅：問 27】。しかし、実際に「話し合ったことがある」割合は 1 割前後にとどまり、「話し合ったことはない」層が約 3 割～4 割存在します。

（3）判断能力が低下したときに心配なこと

○判断能力が低下した際の心配事は、すべての層で「自分の医療や介護の費用」が圧倒的に高く（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 65.8%、介護者 53.7%、第 2 号 75.7%）、次いで「医療や介護サービスを受ける事」が挙げられています【ニーズ：問 11（3）、在宅：問 28、第 2 号：問 44】。

【課題分析】

- 話し合いの必要性は感じつつも、具体的に着手できていない現状がうかがえます。本人の意思が尊重される終末期を実現するためには、人生会議の重要性を普及啓発するとともに、家族間で話し合いを始めるきっかけとなるようなエンディングノートの活用促進などの支援が課題であると考えられます。
- 在宅生活を支えるためのサービス提供体制の強化と、家族介護者の負担軽減策の充実が、今後も重要な課題であると考えられます。
- 経済的な不安が将来の安心を損なう大きな要因となっている傾向が顕著です。介護保険制度の仕組みや利用者負担の軽減制度等についての正確な情報提供を行うとともに、金銭管理や日常生活自立支援事業などの権利擁護支援を、必要とする人に確実に届ける体制を維持・強化していくことが重要であると考えられます。

VII 事業所調査（共通設問）

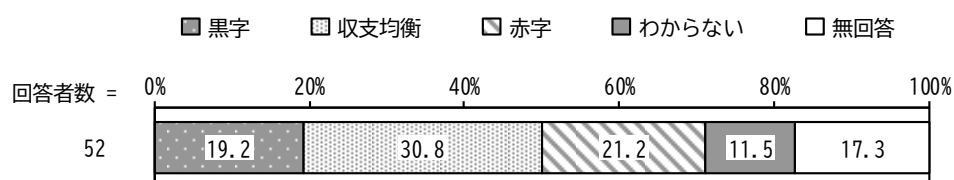
VII 事業所調査（共通設問）

《第10期》介護人材実態調査票①【事業所票（全事業共通）】

問1 貴事業所における、令和3（2021）年度及び令和6（2024）年度の事業収支について教えてください。（それぞれ〇は1つ）

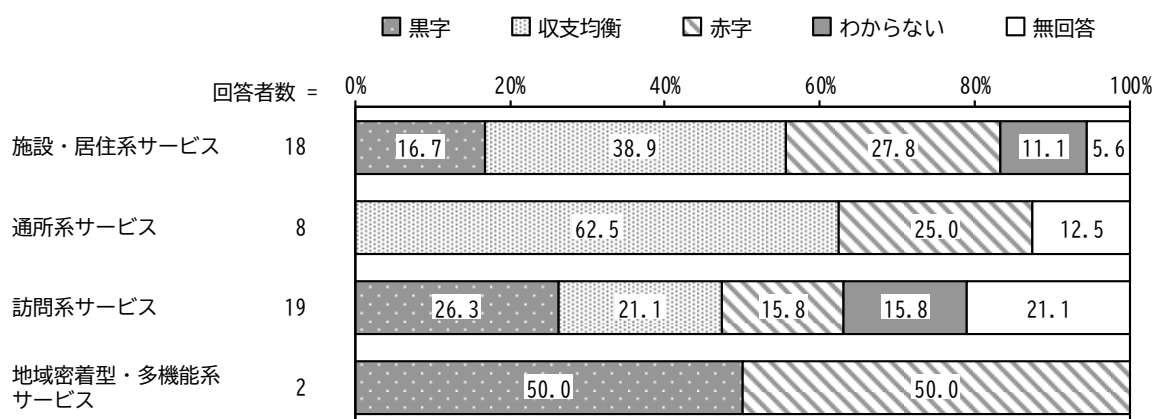
令和3（2021）年度

「黒字」の割合が19.2%、「収支均衡」の割合が30.8%、「赤字」の割合が21.2%となっています。



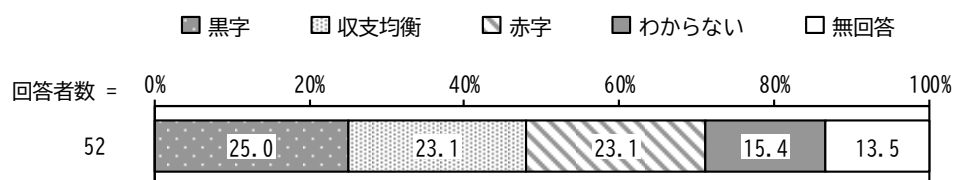
【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「収支均衡」「赤字」の割合が高く、訪問系サービスで「黒字」の割合が高くなっています。



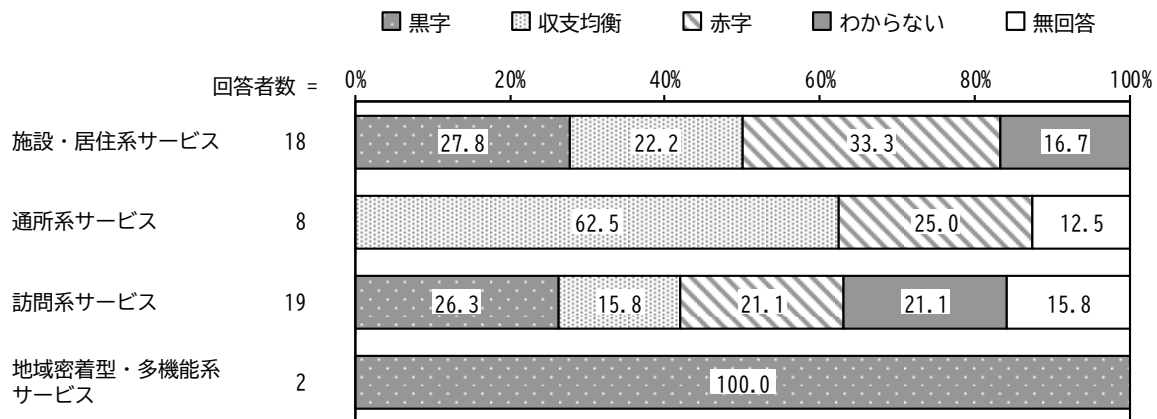
令和6（2024）年度

「黒字」の割合が25.0%、「収支均衡」「赤字」の割合が23.1%となっています。



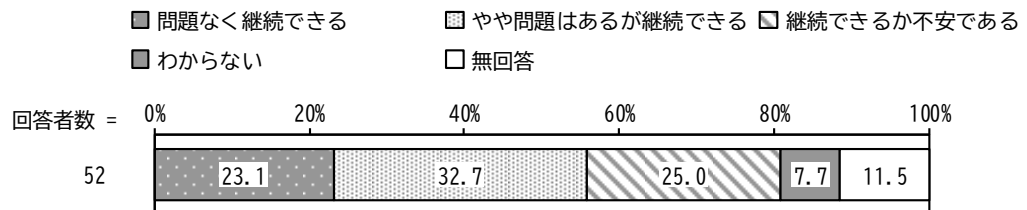
【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「収支均衡」「赤字」の割合が高くなっています。



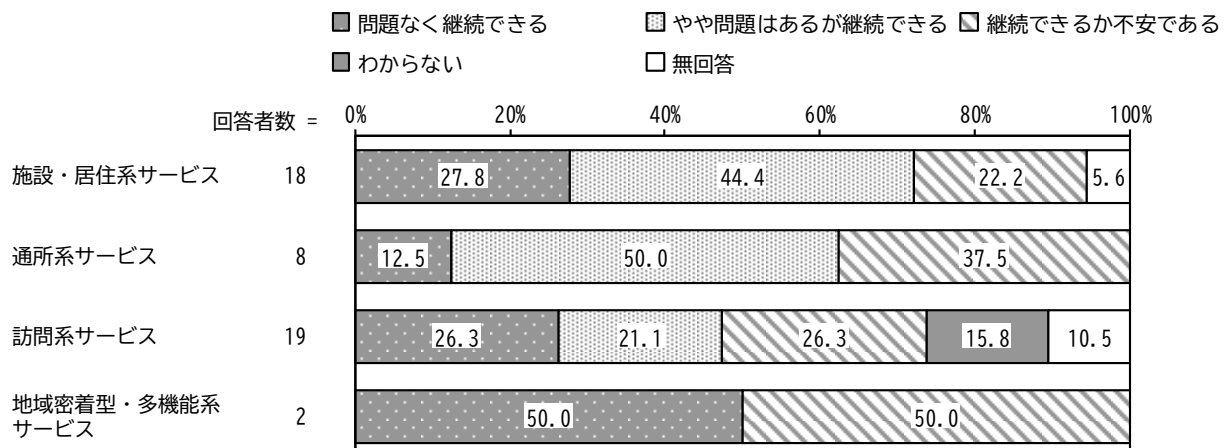
問2 今後のサービス提供の継続に関してどのように感じますか。（○は1つ）

「問題なく継続できる」「やや問題はあるが継続できる」を合わせた“継続できる”の割合が55.8%となっています。



【サービス種別】

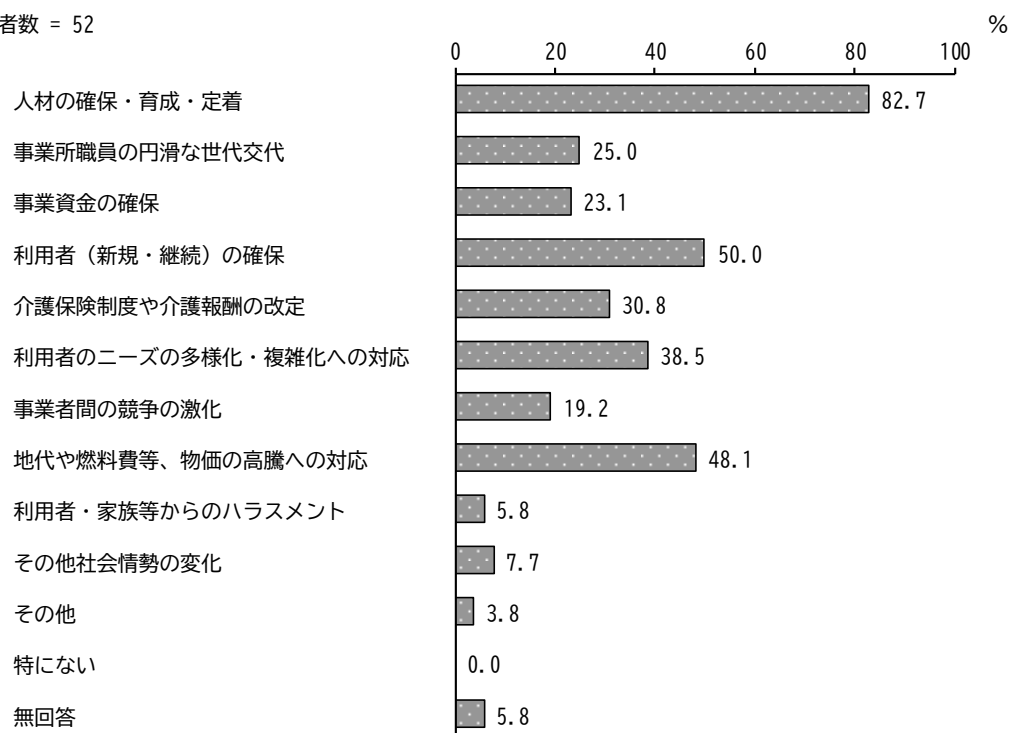
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで“継続できる”の割合が高くなっています。



問3 今後の事業継続に関して不安なことや課題と感じていることはどのようなことですか。 (〇はいくつでも)

「人材の確保・育成・定着」の割合が82.7%と最も高く、次いで「利用者（新規・継続）の確保」の割合が50.0%、「地代や燃料費等、物価の高騰への対応」の割合が48.1%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

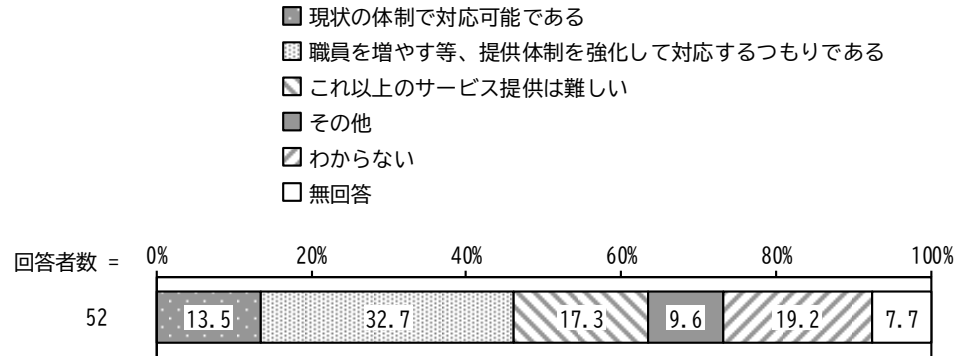
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「人材の確保・育成・定着」「事業資金の確保」「利用者（新規・継続）の確保」「介護保険制度や介護報酬の改定」「利用者のニーズの多様化・複雑化への対応」「事業者間の競争の激化」「地代や燃料費等、物価の高騰への対応」「利用者・家族等からのハラスメント」「その他社会情勢の変化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	着 人材の確保・育成・定	世 事業所職員の円滑な 交代	事業資金の確保	利用者（新規・継続）の確保	介護保険制度や介護報酬の改定	利用者のニーズの多様化・複雑化への対応	事業者間の競争の激化	地代や燃料費等、物価の高騰への対応	利用者・家族等からのハラスメント	その他社会情勢の変化	その他	特にない	無回答
全 体	52	82.7	25.0	23.1	50.0	30.8	38.5	19.2	48.1	5.8	7.7	3.8	0.0	5.8
施設・居住系サービス	18	100.0	27.8	38.9	61.1	38.9	38.9	27.8	83.3	11.1	11.1	5.6	0.0	0.0
通所系サービス	8	75.0	12.5	37.5	62.5	37.5	62.5	37.5	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	19	84.2	31.6	5.3	42.1	21.1	31.6	5.3	10.5	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

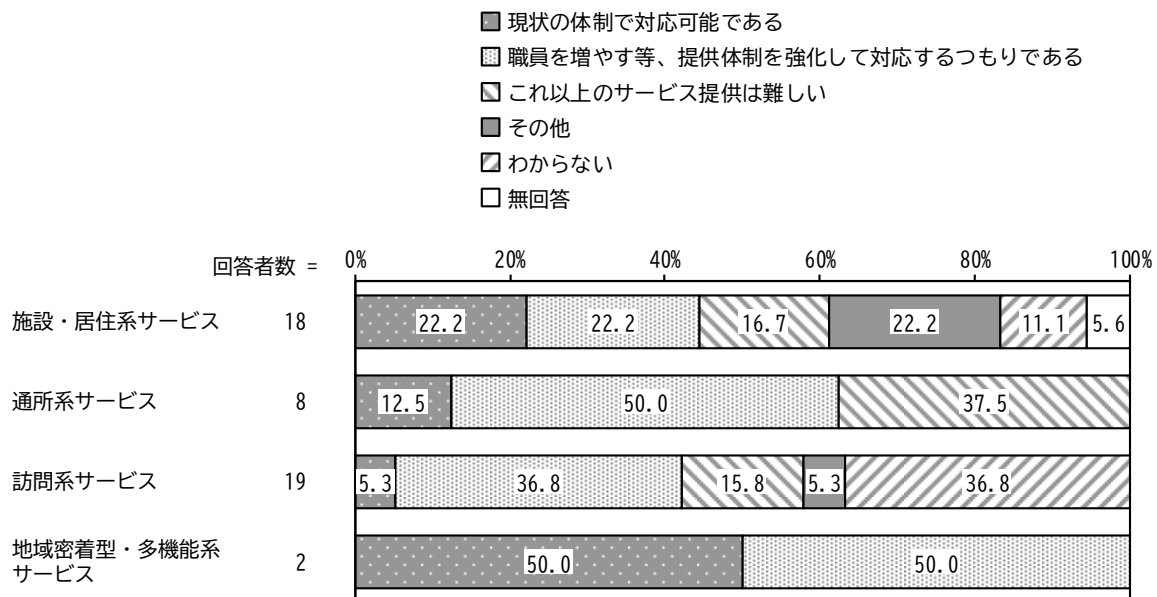
問4 今後も高齢化の進展に伴い、介護サービスの需要が増加することが見込まれます。令和12（2030）年頃を見越して、貴事業所で提供している介護サービスの需要増加に対応してサービス提供を増やすことは可能だと思いますか。（○はひとつ）

「現状の体制で対応可能である」の割合が13.5%、「職員を増やす等、提供体制を強化して対応するつもりである」の割合が32.7%、「これ以上のサービス提供は難しい」の割合が17.3%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「現状の体制で対応可能である」の割合が高く、訪問系サービスで「職員を増やす等、提供体制を強化して対応するつもりである」の割合が高くなっています。

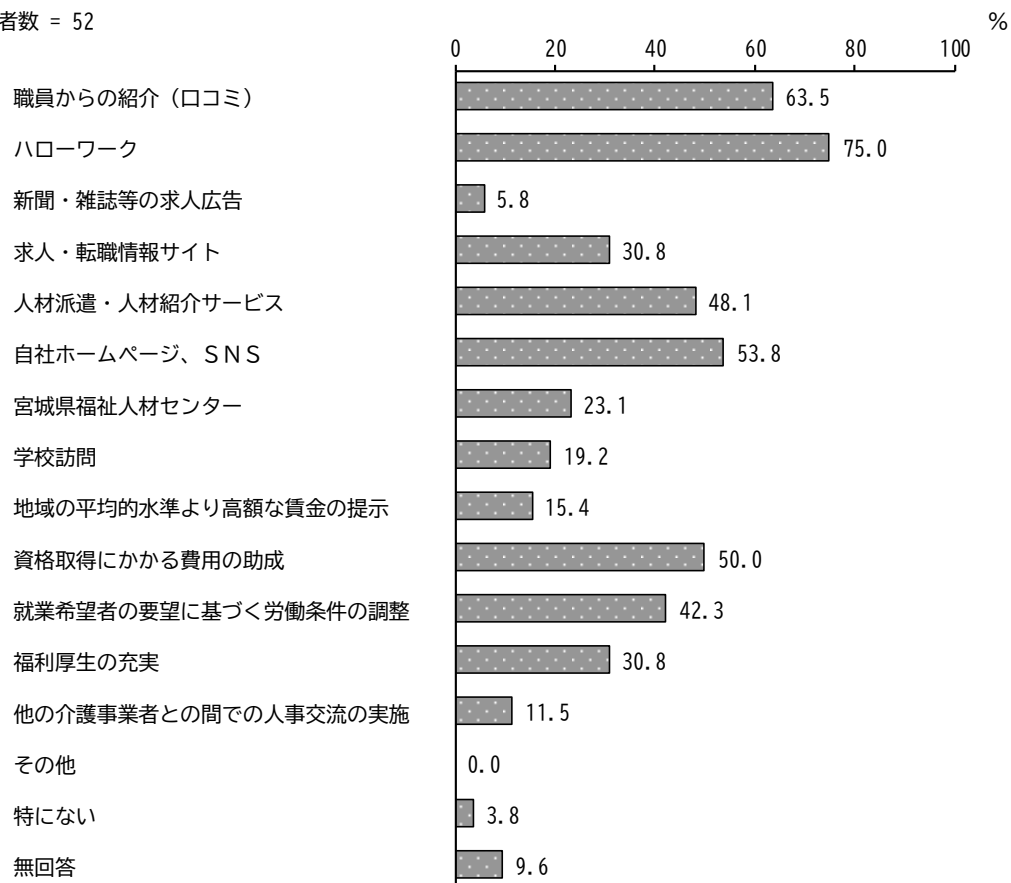


問5 貴事業所における人材確保のため、(1) 実際に行っている取組と(2) 今後必要とする取組について伺います。(〇はいくつでも)

(1) 実際に行っている取組

「ハローワーク」の割合が75.0%と最も高く、次いで「職員からの紹介(口コミ)」の割合が63.5%、「自社ホームページ、SNS」の割合が53.8%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「職員からの紹介（口コミ）」「ハローワーク」「求人・転職情報サイト」「人材派遣・人材紹介サービス」「宮城県福祉人材センター」「学校訪問」「地域の平均的水準より高額な賃金の提示」「資格取得にかかる費用の助成」「就業希望者の要望に基づく労働条件の調整」「福利厚生の実施」の割合が高くなっています。

単位：％

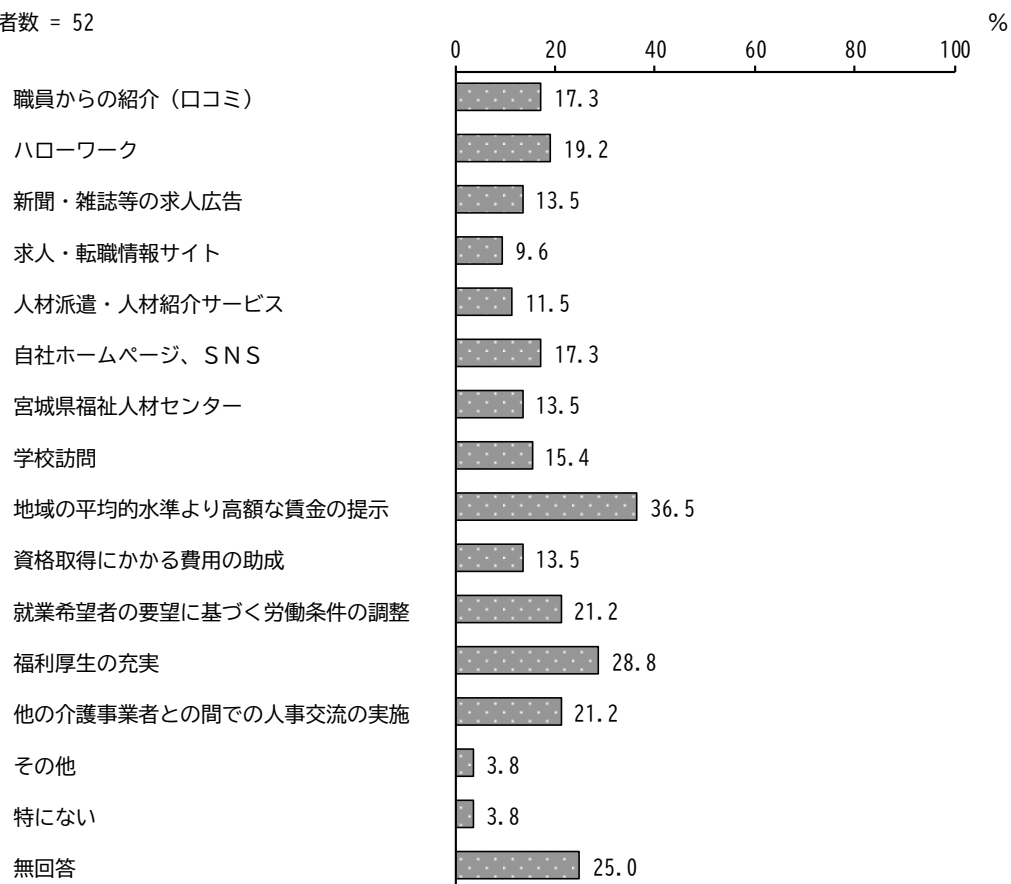
区分	回答者数 (件)	職員からの紹介 (口コミ)	ハローワーク	新聞・雑誌等の求人 広告	求人・転職情報サイ ト	人材派遣・人材紹介 サービス	自社ホームページ、 SNS	宮城県福祉人材セ ンター	学校訪問
全 体	52	63.5	75.0	5.8	30.8	48.1	53.8	23.1	19.2
施設・居住系サービス	18	77.8	100.0	5.6	44.4	66.7	61.1	33.3	33.3
通所系サービス	8	50.0	75.0	12.5	12.5	25.0	37.5	25.0	12.5
訪問系サービス	19	63.2	63.2	5.3	31.6	42.1	57.9	10.5	10.5
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	100.0	0.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0

区分	地域の水 準より高 額な賃金 の提示	資格取得に かかる 費用の助 成	就業希望者の要 望に基 づく労働 条件の 調整	福利厚生 の充実	他の介護事業 者との 人事交流 の実施	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	15.4	50.0	42.3	30.8	11.5	0.0	3.8	9.6
施設・居住系サービス	33.3	66.7	55.6	50.0	11.1	0.0	0.0	0.0
通所系サービス	12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0
訪問系サービス	0.0	42.1	36.8	21.1	5.3	0.0	5.3	0.0
地域密着型・多機能系サービス	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

（２）今後必要と考える取組

「地域の平均的水準より高額な賃金の提示」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「福利厚生の充実」の割合が 28.8%、「就業希望者の要望に基づく労働条件の調整」、「他の介護事業者との間での人事交流の実施」の割合が 21.2%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「新聞・雑誌等の求人広告」「求人・転職情報サイト」「人材派遣・人材紹介サービス」「自社ホームページ、SNS」「宮城県福祉人材センター」「学校訪問」「地域の平均的水準より高額な賃金の提示」「他の介護事業者との間での人事交流の実施」の割合が高く、訪問系サービスで「福利厚生充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	職員からの紹介 (口コミ)	ハローワーク	新聞・雑誌等の求人 広告	求人・転職情報サイ ト	人材派遣・人材紹介 サービス	自社ホームページ、 SNS	宮城県福祉人材セ ンター	学校訪問
全 体	52	17.3	19.2	13.5	9.6	11.5	17.3	13.5	15.4
施設・居住系サービス	18	22.2	22.2	33.3	16.7	16.7	16.7	38.9	33.3
通所系サービス	8	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	50.0	0.0	12.5
訪問系サービス	19	26.3	26.3	5.3	10.5	10.5	10.5	0.0	0.0
地域密着型・多機能系サービス	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

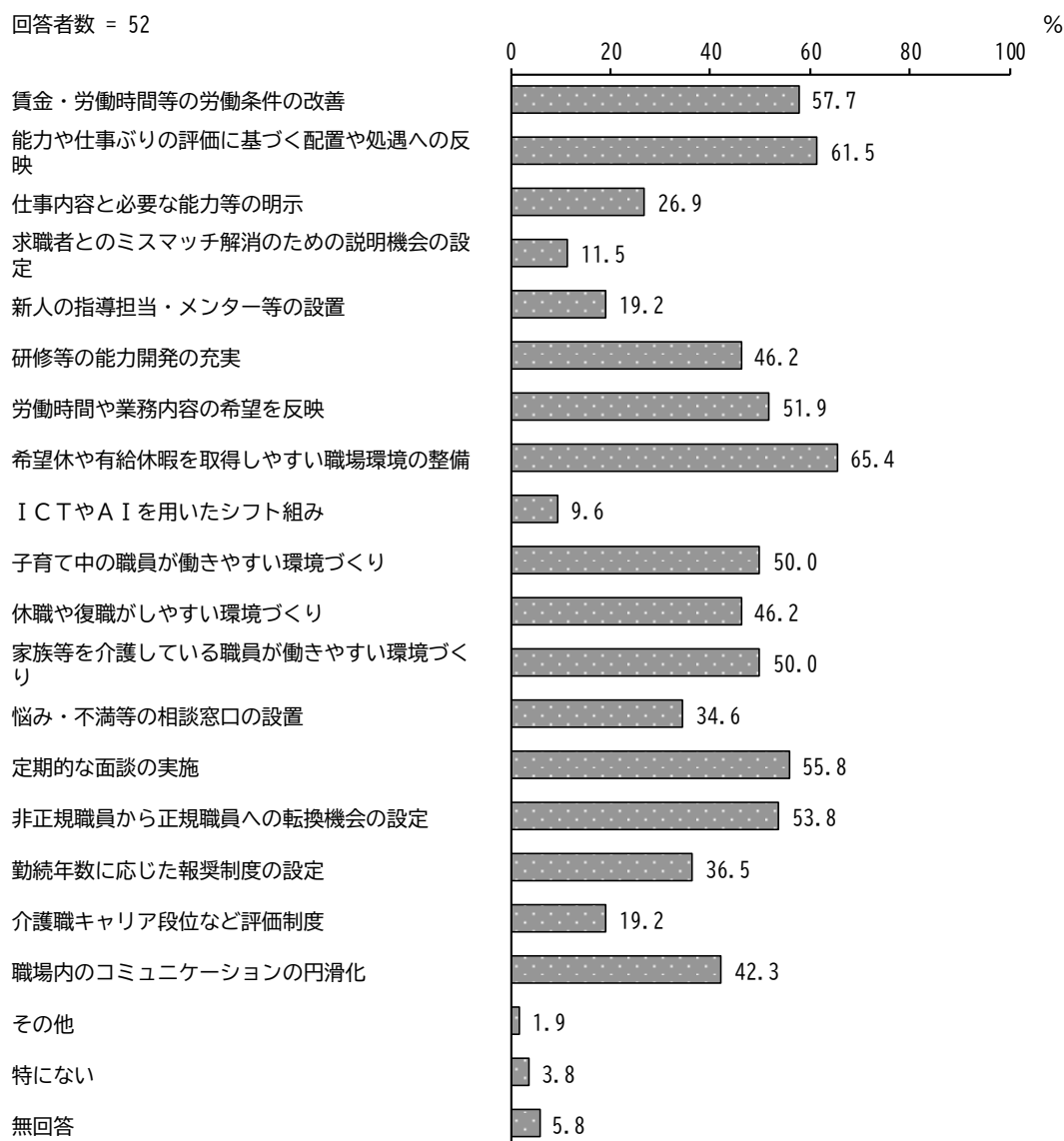
区分	地域平均的水準より 提示 高額な賃金の 提示	資格取得にかかる 費用の助成	就業希望者の要望 に基づく労働条件 の調整	福利厚生の充実	他の介護事業者と の間での人事交流 の実施	その他	特にな い	無回 答
全 体	36.5	13.5	21.2	28.8	21.2	3.8	3.8	25.0
施設・居住系サービス	66.7	16.7	22.2	27.8	44.4	11.1	0.0	16.7
通所系サービス	37.5	12.5	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5
訪問系サービス	15.8	15.8	21.1	36.8	5.3	0.0	5.3	26.3
地域密着型・多機能系サービス	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0

問6 貴事業所における人材定着のため、(1) 実際に行っている取組と(2) 今後必要とする取組についてうかがいます。(〇はいくつでも)

(1) 実際に行っている取組

「希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境の整備」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「能力や仕事ぶりの評価に基づく配置や処遇への反映」の割合が 61.5%、「賃金・労働時間等の労働条件の改善」の割合が 57.7%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「賃金・労働時間等の労働条件の改善」「仕事内容と必要な能力等の明示」「求職者とのミスマッチ解消のための説明機会の設定」「研修等の能力開発の充実」「子育て中の職員が働きやすい環境づくり」「定期的な面談の実施」「非正規職員から正規職員への転換機会の設定」「勤続年数に応じた報奨制度の設定」の割合が高く、訪問系サービスで「新人の指導担当・メンター等の設置」「労働時間や業務内容の希望を反映」「希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境の整備」「休職や復職がしやすい環境づくり」「悩み・不満等の相談窓口の設置」「介護職キャリア段位など評価制度」「職場内のコミュニケーションの円滑化」の割合が高くなっています。

単位：％

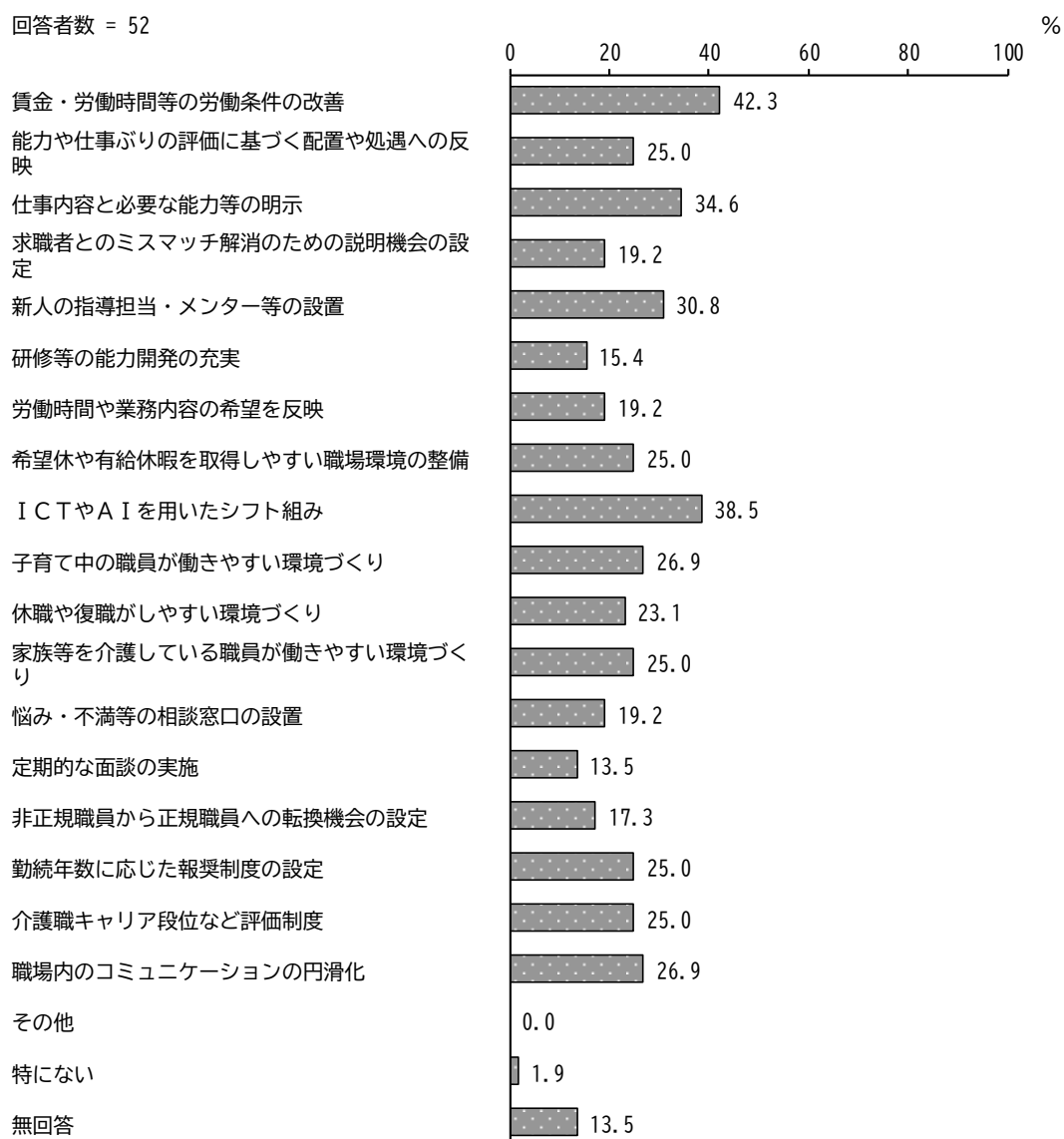
区分	回答者数（件）	賃金・労働時間等の労働条件の改善	能力や仕事ぶりの評価に基づく配置や処遇への反映	仕事内容と必要な能力等の明示	求職者とのミスマッチ解消のための説明機会の設定	新人の指導担当・メンター等の設置	研修等の能力開発の充実	労働時間や業務内容の希望を反映	希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境の整備	ICTやAIを用いたシフト組み	子育て中の職員が働きやすい環境づくり
全 体	52	57.7	61.5	26.9	11.5	19.2	46.2	51.9	65.4	9.6	50.0
施設・居住系サービス	18	77.8	66.7	27.8	16.7	16.7	66.7	44.4	61.1	11.1	72.2
通所系サービス	8	87.5	62.5	50.0	12.5	12.5	37.5	75.0	75.0	12.5	25.0
訪問系サービス	19	42.1	63.2	21.1	5.3	31.6	42.1	57.9	78.9	10.5	47.4
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	100.0	0.0	100.0

区分	休職や復職がしやすい環境づくり	家族等を介護している職員が働きやすい環境づくり	悩み・不満等の相談窓口の設置	定期的な面談の実施	非正規職員から正規職員への転換機会の設定	勤続年数に応じた報奨制度の設定	介護職キャリア段位など評価制度	職場内のコミュニケーションの円滑化	その他	特にない	無回答
全 体	46.2	50.0	34.6	55.8	53.8	36.5	19.2	42.3	1.9	3.8	5.8
施設・居住系サービス	44.4	50.0	16.7	72.2	72.2	50.0	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0
通所系サービス	50.0	50.0	37.5	37.5	50.0	25.0	12.5	62.5	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	52.6	52.6	52.6	52.6	47.4	31.6	31.6	52.6	5.3	5.3	0.0
地域密着型・多機能系サービス	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

(2) 今後必要と考える取組

「賃金・労働時間等の労働条件の改善」の割合が42.3%と最も高く、次いで「ＩＣＴやＡＩを用いたシフト組み」の割合が38.5%、「仕事内容と必要な能力等の明示」の割合が34.6%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「仕事内容と必要な能力等の明示」「求職者とのミスマッチ解消のための説明機会の設定」「新人の指導担当・メンター等の設置」「労働時間や業務内容の希望を反映」「希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境の整備」「ＩＣＴやＡＩを用いたシフト組み」「悩み・不満等の相談窓口の設置」「非正規職員から正規職員への転換機会の設定」「勤続年数に応じた報奨制度の設定」「介護職キャリア段位など評価制度」「職場内のコミュニケーションの円滑化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	賃金・労働時間等の労働条件の改善	能力や仕事ぶりの評価に基づく配置や処遇への反映	仕事内容と必要な能力等の明示	求職者とのミスマッチ解消のための説明機会の設定	新人の指導担当・メンター等の設置	研修等の能力開発の充実	労働時間や業務内容の希望を反映	希望休や有給休暇を取得しやすい職場環境の整備	ＩＣＴやＡＩを用いたシフト組み	子育て中の職員が働きやすい環境づくり
全 体	52	42.3	25.0	34.6	19.2	30.8	15.4	19.2	25.0	38.5	26.9
施設・居住系サービス	18	44.4	27.8	50.0	27.8	44.4	16.7	33.3	33.3	66.7	33.3
通所系サービス	8	37.5	25.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	25.0	12.5
訪問系サービス	19	47.4	26.3	26.3	21.1	26.3	21.1	15.8	21.1	26.3	31.6
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

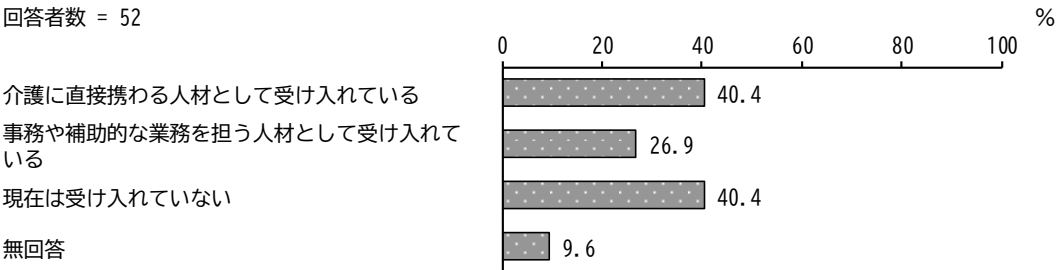
区分	休職や復職がしやすい環境づくり	家族等を介護している職員が働きやすい環境づくり	悩み・不満等の相談窓口の設置	定期的な面談の実施	非正規職員から正規職員への転換機会の設定	勤続年数に応じた報奨制度の設定	介護職キャリア段位など評価制度	職場内のコミュニケーションの円滑化	その他	特にない	無回答
全 体	23.1	25.0	19.2	13.5	17.3	25.0	25.0	26.9	0.0	1.9	13.5
施設・居住系サービス	27.8	33.3	27.8	16.7	27.8	27.8	33.3	33.3	0.0	0.0	5.6
通所系サービス	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	50.0	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5
訪問系サービス	26.3	31.6	15.8	15.8	10.5	21.1	15.8	26.3	0.0	0.0	10.5
地域密着型・多機能系サービス	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

問7 貴事業所における、以下の人材の、(1) 令和7(2025)年12月1日現在の受入状況を教えてください。また(2) 今後の活用に関する考えを教えてください。(それぞれ〇はいくつでも)

(1) 現在の受入状況

①高齢者(65歳以上)

「介護に直接携わる人材として受け入れている」、「現在は受け入れていない」の割合が40.4%、「事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている」の割合が26.9%となっています。



【サービス種別】

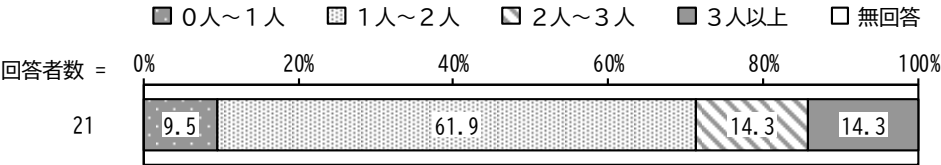
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「介護に直接携わる人材として受け入れている」「事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている」の割合が高く、訪問系サービスで「現在は受け入れていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	介護に直接携わる人材として受け入れている	事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている	現在は受け入れていない	無回答
全体	52	40.4	26.9	40.4	9.6
施設・居住系サービス	18	50.0	50.0	27.8	0.0
通所系サービス	8	50.0	12.5	50.0	0.0
訪問系サービス	19	26.3	10.5	57.9	10.5
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	50.0	0.0	0.0

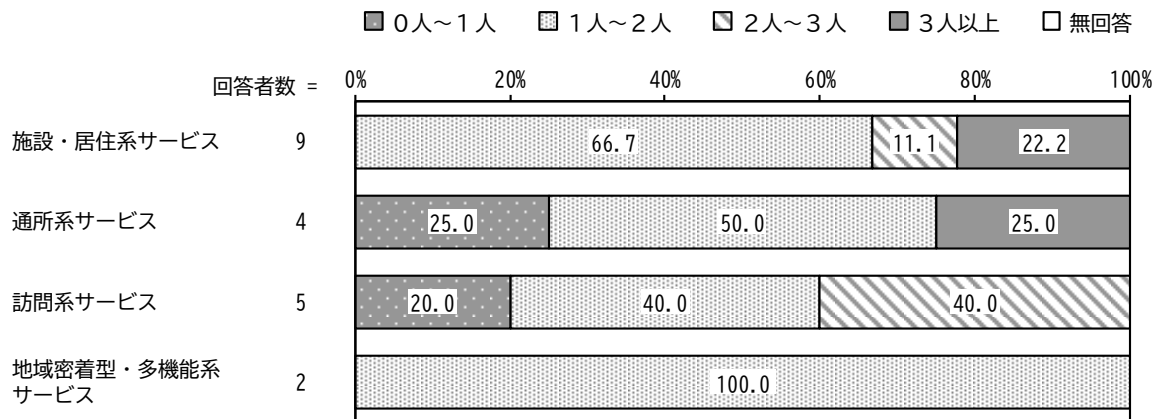
高齢者(65歳以上) 介護に直接携わる人材として受け入れている

「1人～2人」の割合が61.9%と最も高く、次いで「2人～3人」、「3人以上」の割合が14.3%となっています。



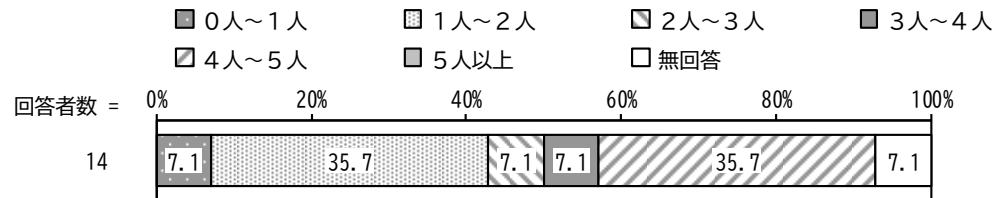
【サービス種別】

有効回答者数が少ないため、回答結果のみ示します。



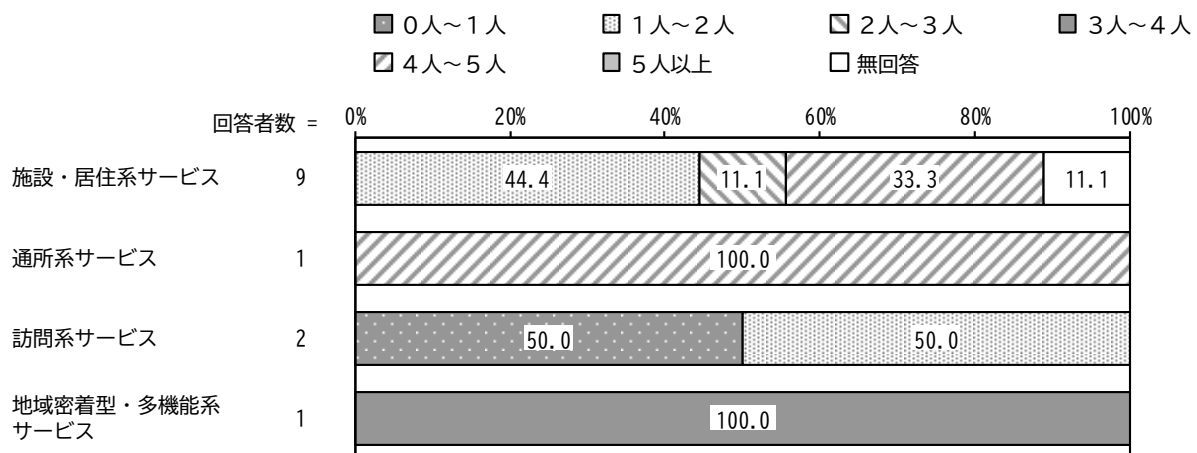
高齢者(65歳以上) 事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている

「1人～2人」、「4人～5人」の割合が35.7%と最も高くなっています。



【サービス種別】

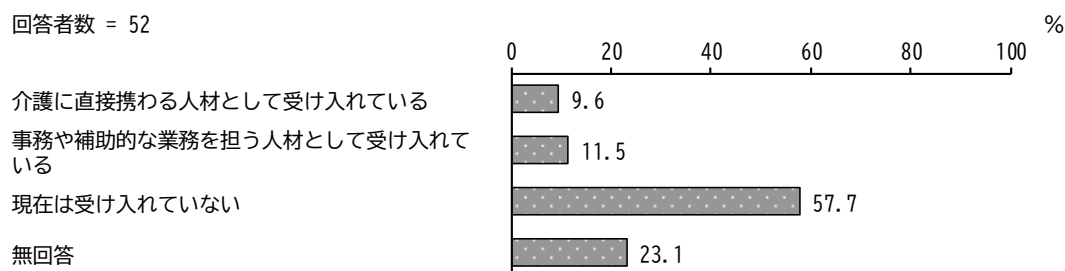
有効回答者数が少ないため、回答結果のみ示します。



②障害者

「介護に直接携わる人材として受け入れている」の割合が 9.6%、「事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている」の割合が 11.5%、「現在は受け入れていない」の割合が 57.7%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

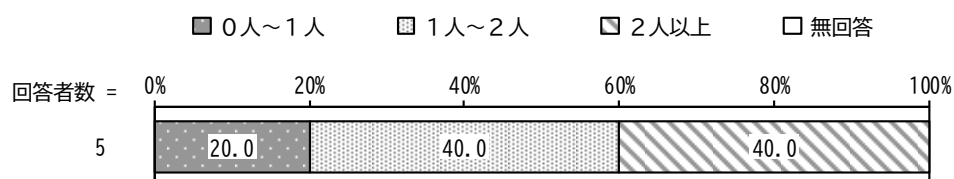
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている」の割合が高く、訪問系サービスで「現在は受け入れていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	介護に直接携わる人材として受け入れている	事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている	現在は受け入れていない	無回答
全 体	52	9.6	11.5	57.7	23.1
施設・居住系サービス	18	5.6	27.8	50.0	22.2
通所系サービス	8	12.5	0.0	75.0	12.5
訪問系サービス	19	10.5	0.0	68.4	21.1
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	0.0	50.0	0.0

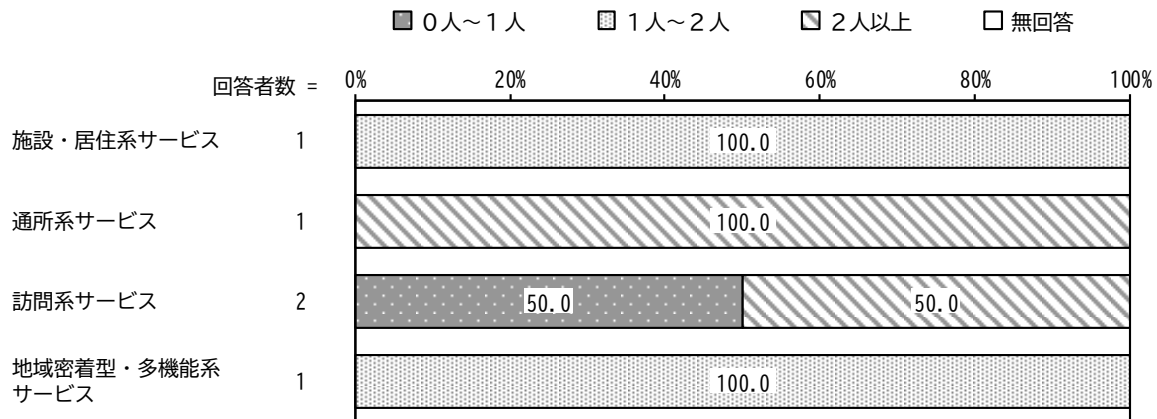
障害者 介護に直接携わる人材として受け入れている

「0人～1人」が1件、「1人～2人」、「2人以上」が2件となっています。



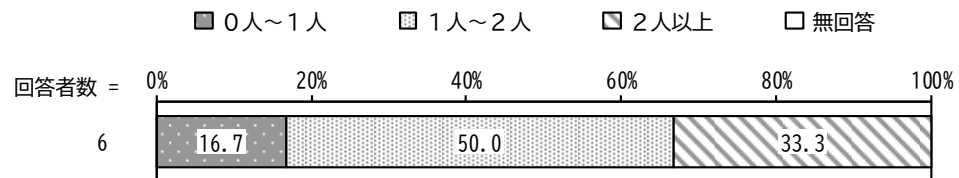
【サービス種別】

有効回答者数が少ないため、回答結果のみ示します。



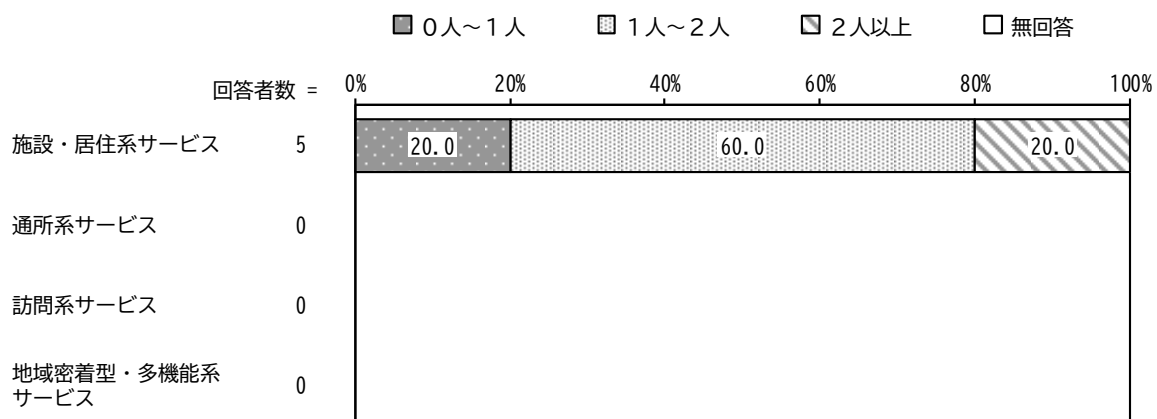
障害者 事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている

「0人～1人」が1件、「1人～2人」が3件、「2人以上」が2件となっています。



【サービス種別】

有効回答者数が少ないため、回答結果のみ示します。

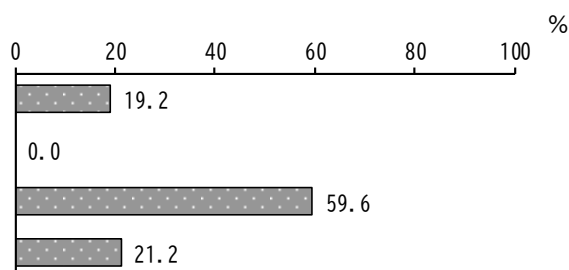


③外国人

「介護に直接携わる人材として受け入れている」の割合が 19.2%、「現在は受け入れていない」の割合が 59.6%となっています。

回答者数 = 52

介護に直接携わる人材として受け入れている
事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている
現在は受け入れていない
無回答



【サービス種別】

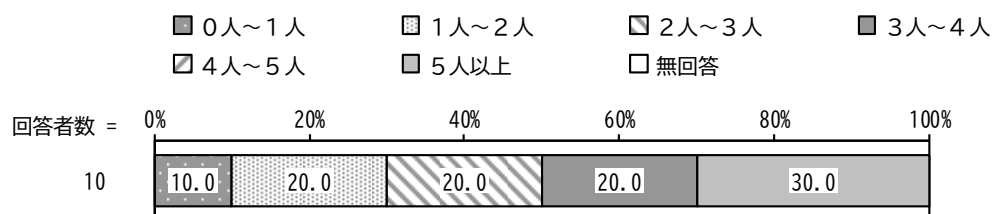
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「介護に直接携わる人材として受け入れている」の割合が高く、訪問系サービスで「現在は受け入れていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	介護に直接携わる人材として受け入れている	事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている	現在は受け入れていない	無回答
全 体	52	19.2	0.0	59.6	21.2
施設・居住系サービス	18	38.9	0.0	44.4	16.7
通所系サービス	8	0.0	0.0	87.5	12.5
訪問系サービス	19	5.3	0.0	73.7	21.1
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	0.0	50.0	0.0

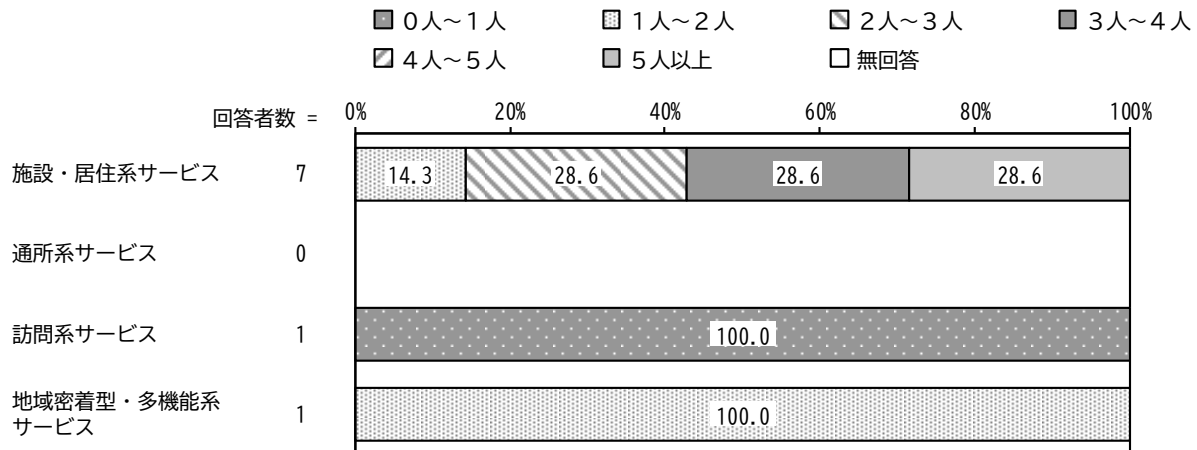
外国人 介護に直接携わる人材として受け入れている

「5人以上」の割合が 30.0%と最も高く、次いで「1人～2人」、「2人～3人」、「3人～4人」の割合が 20.0%となっています。



【サービス種別】

有効回答者数が少ないため、回答結果のみ示します。



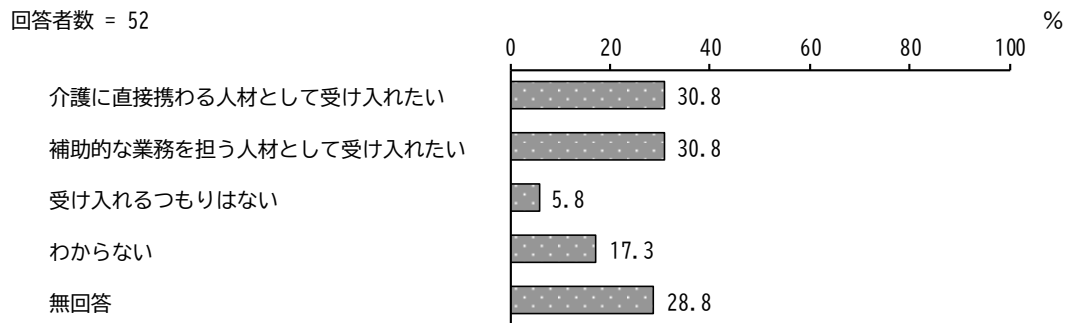
外国人 事務や補助的な業務を担う人材として受け入れている補助的な業務を担う人材

有効回答がありませんでした。

（２）今後の活用に関する考え

①高齢者（65歳以上）

「介護に直接携わる人材として受け入れたい」、「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が30.8%、「受け入れるつもりはない」の割合が5.8%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「介護に直接携わる人材として受け入れたい」「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が高く、訪問系サービスで「受け入れるつもりはない」の割合が高くなっています。

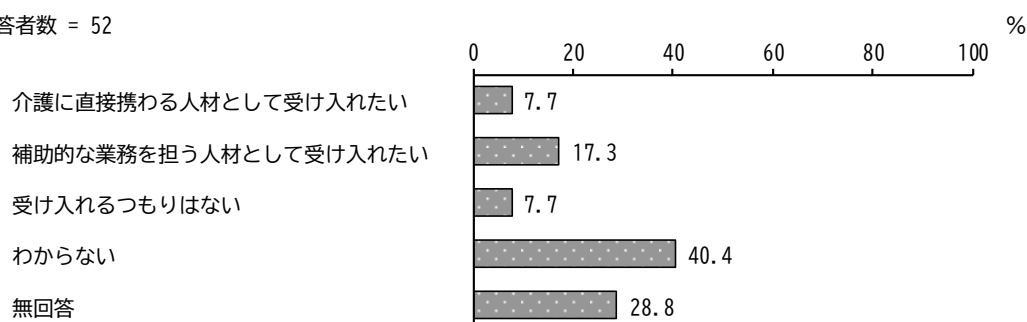
単位：％

区分	回答者数 (件)	介護に直接携わる 人材として受け入 れたい	補助的な業務を担 う人材として受け 入れたい	受け入れるつも りはない	わからない	無回 答
全 体	52	30.8	30.8	5.8	17.3	28.8
施設・居住系サービス	18	33.3	44.4	0.0	5.6	33.3
通所系サービス	8	37.5	62.5	12.5	0.0	25.0
訪問系サービス	19	26.3	5.3	10.5	36.8	21.1
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0

②障害者

「介護に直接携わる人材として受け入れたい」、「受け入れるつもりはない」の割合が 7.7%、「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が 17.3%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が高く、訪問系サービスで「受け入れるつもりはない」の割合が高くなっています。

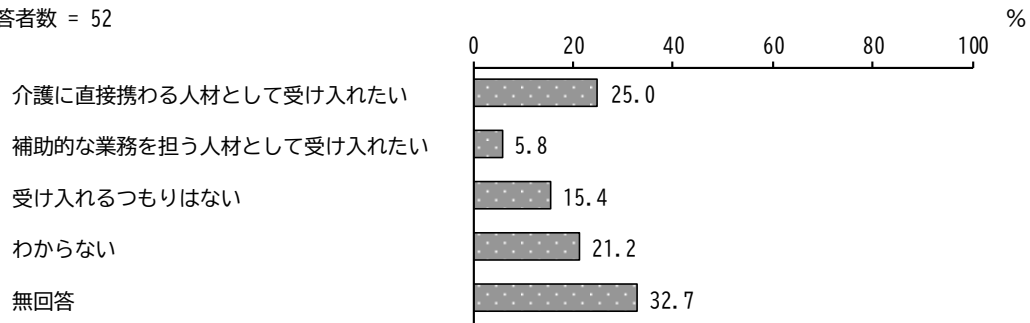
単位：％

区分	回答者数 (件)	介護に直接携わる 人材として受け入 れたい	補助的な業務を担 う人材として受け 入れたい	受け入れるつも りはない	わからない	無回 答
全 体	52	7.7	17.3	7.7	40.4	28.8
施設・居住系サービス	18	5.6	27.8	0.0	44.4	22.2
通所系サービス	8	12.5	25.0	25.0	12.5	37.5
訪問系サービス	19	5.3	5.3	10.5	52.6	26.3
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

③外国人

「介護に直接携わる人材として受け入れたい」の割合が25.0%、「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が5.8%、「受け入れるつもりはない」の割合が15.4%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「介護に直接携わる人材として受け入れたい」「補助的な業務を担う人材として受け入れたい」の割合が高く、訪問系サービスで「受け入れるつもりはない」の割合が高くなっています。

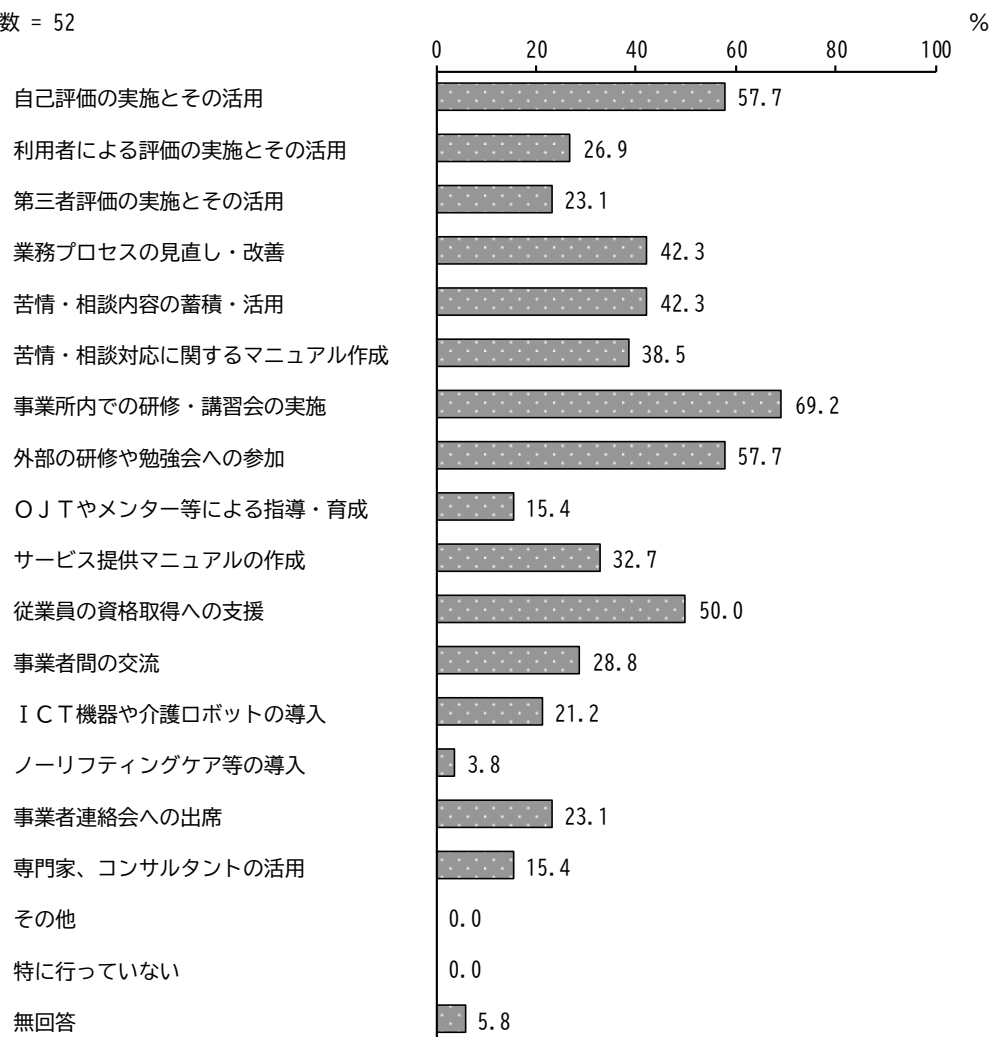
単位：%

区分	回答者数 (件)	介護に直接携わる 人材として受け入 れたい	補助的な業務を担 う人材として受け 入れたい	受け入れるつも りはない	わからない	無 回 答
全 体	52	25.0	5.8	15.4	21.2	32.7
施設・居住系サービス	18	44.4	11.1	5.6	5.6	33.3
通所系サービス	8	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5
訪問系サービス	19	10.5	0.0	21.1	42.1	26.3
地域密着型・多機能系サービス	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

問8 貴事業所では、サービスの質の向上や業務効率の改善に向けて、どのような取組を行っていますか。(〇はいくつでも)

「事業所内での研修・講習会の実施」の割合が 69.2%と最も高く、次いで「自己評価の実施とその活用」、「外部の研修や勉強会への参加」の割合が 57.7%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「利用者による評価の実施とその活用」「第三者評価の実施とその活用」「業務プロセスの見直し・改善」「外部の研修や勉強会への参加」「OJTやメンター等による指導・育成」「従業員の資格取得への支援」「事業者間の交流」「ICT機器や介護ロボットの導入」「ノーリフティングケア等の導入」「専門家、コンサルタントの活用」の割合が高く、訪問系サービスで「苦情・相談内容の蓄積・活用」「苦情・相談対応に関するマニュアル作成」「事業者連絡会への出席」の割合が高くなっています。

単位：％

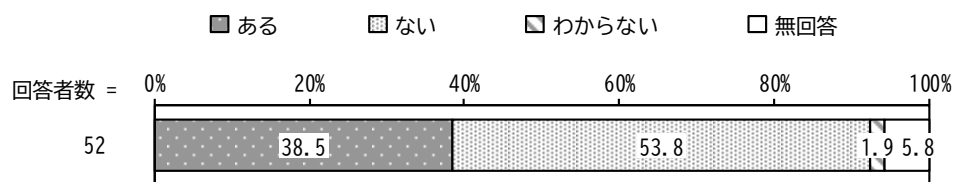
区分	回答者数 (件)	自己評価の実施とその活用	利用者による評価の実施とその活用	第三者評価の実施とその活用	業務プロセスの見直し・改善	苦情・相談内容の蓄積・活用	苦情・相談対応に関するマニュアル作成	事業所内での研修・講習会の実施	外部の研修や勉強会への参加	OJTやメンター等による指導・育成
全 体	52	57.7	26.9	23.1	42.3	42.3	38.5	69.2	57.7	15.4
施設・居住系サービス	18	61.1	33.3	33.3	50.0	33.3	38.9	72.2	66.7	22.2
通所系サービス	8	50.0	50.0	25.0	87.5	50.0	50.0	87.5	50.0	12.5
訪問系サービス	19	57.9	15.8	21.1	21.1	52.6	47.4	68.4	52.6	15.8
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	100.0	0.0

区分	サービス提供マニュアルの作成	従業員の資格取得への支援	事業者間の交流	ICT機器や介護ロボットの導入	ノーリフティングケア等の導入	事業者連絡会への出席	専門家、コンサルタントの活用	その他	特に行っていない	無回答
全 体	32.7	50.0	28.8	21.2	3.8	23.1	15.4	0.0	0.0	5.8
施設・居住系サービス	33.3	55.6	38.9	33.3	5.6	16.7	27.8	0.0	0.0	0.0
通所系サービス	50.0	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	36.8	47.4	31.6	10.5	0.0	31.6	10.5	0.0	0.0	0.0
地域密着型・多機能系サービス	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問9 利用者・家族等からのハラスメントの状況についてうかがいます。

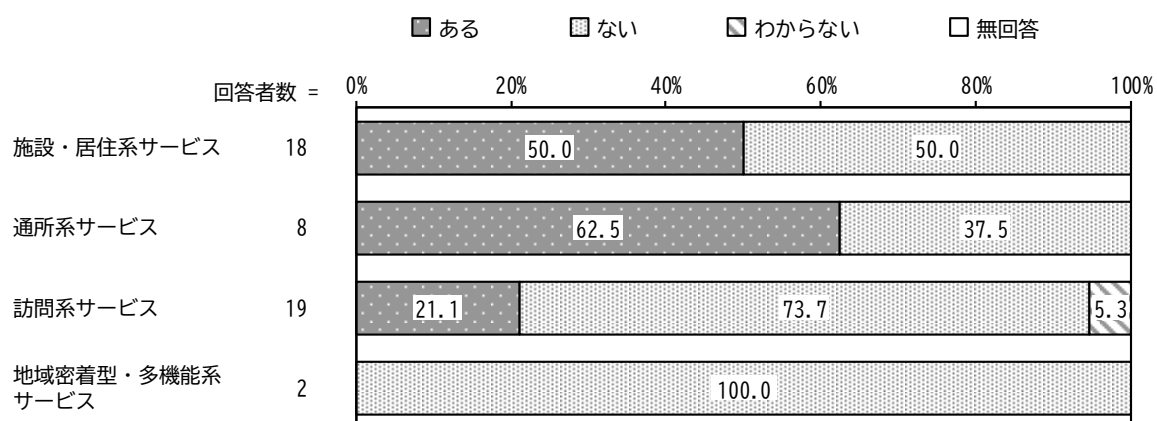
(1) 貴事業所において、概ね直近1年以内に、利用者・家族等からハラスメントと考えられる行為を受けたことがありますか。(〇は1つ)

「ある」の割合が38.5%、「ない」の割合が53.8%となっています。



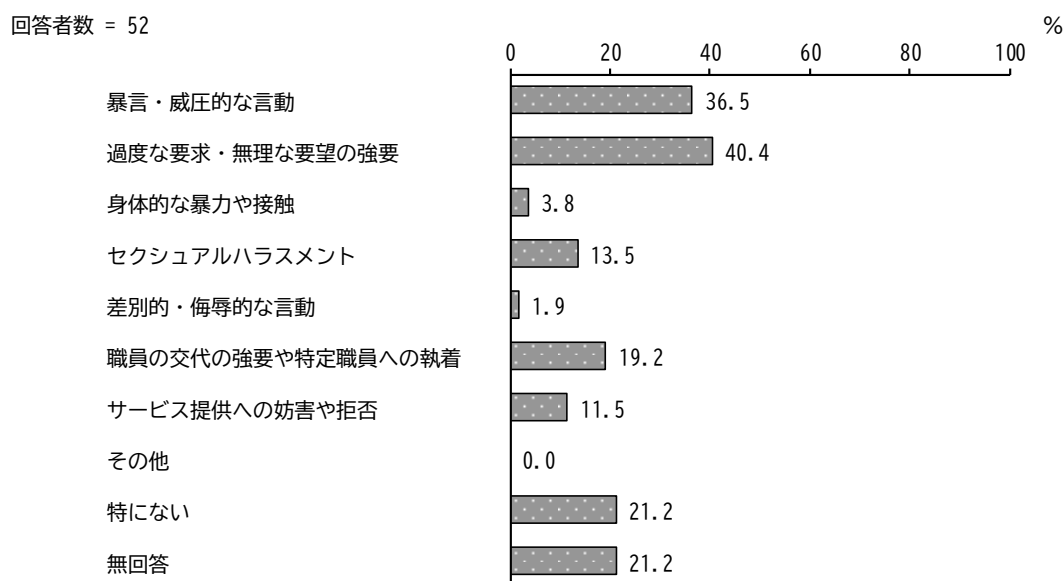
【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「ある」の割合が高くなっています。



(2) 利用者・家族等からのハラスメントにおいて特に多いと感じるものはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

「過度な要求・無理な要望の強要」の割合が40.4%と最も高く、次いで「暴言・威圧的な言動」の割合が36.5%、「職員の交代の強要や特定職員への執着」の割合が19.2%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「セクシュアルハラスメント」の割合が高く、訪問系サービスで「暴言・威圧的な言動」「過度な要求・無理な要望の強要」「差別的・侮辱的な言動」「サービス提供への妨害や拒否」の割合が高くなっています。

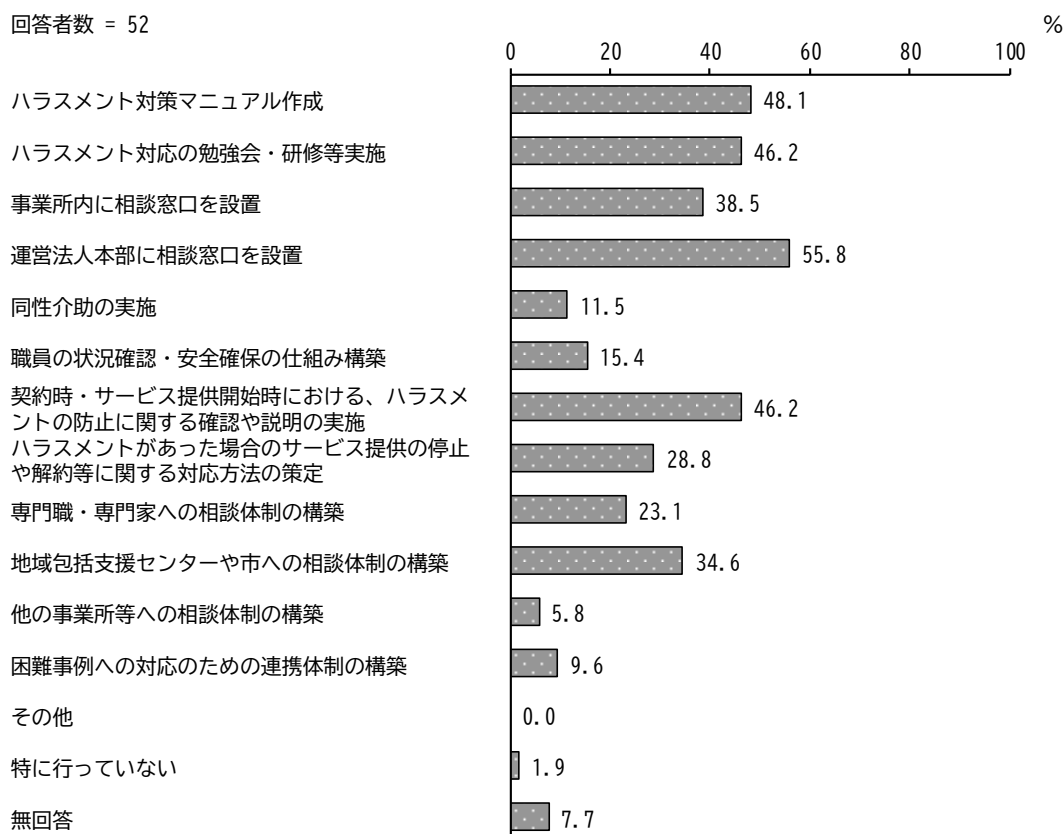
単位：％

区分	回答者数（件）	暴言・威圧的な言動	過度な要求・無理な要望の強要	身体的な暴力や接触	セクシュアルハラスメント	差別的・侮辱的な言動	職員の交代の強要や特定職員への執着	サービス提供への妨害や拒否	その他	特にない	無回答
全 体	52	36.5	40.4	3.8	13.5	1.9	19.2	11.5	0.0	21.2	21.2
施設・居住系サービス	18	27.8	38.9	5.6	16.7	0.0	16.7	5.6	0.0	22.2	16.7
通所系サービス	8	37.5	37.5	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5
訪問系サービス	19	47.4	47.4	5.3	10.5	5.3	21.1	15.8	0.0	21.1	21.1
地域密着型・多機能系サービス	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 10 利用者・家族等からのハラスメント対策についてうかがいます。利用者・家族等からのハラスメントに対する、貴事業所（組織）の防止対策の整備状況について教えてください。（○はいくつでも）

「運営法人本部に相談窓口を設置」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「ハラスメント対策マニュアル作成」の割合が 48.1%、「ハラスメント対応の勉強会・研修等実施」、「契約時・サービス提供開始時における、ハラスメントの防止に関する確認や説明の実施」の割合が 46.2%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「ハラスメント対策マニュアル作成」「ハラスメント対応の勉強会・研修等実施」「事業所内に相談窓口を設置」「運営法人本部に相談窓口を設置」「専門職・専門家への相談体制の構築」「他の事業所等への相談体制の構築」の割合が高く、訪問系サービスで「同性介助の実施」「契約時・サービス提供開始時における、ハラスメントの防止に関する確認や説明の実施」「ハラスメントがあった場合のサービス提供の停止や解約等に関する対応方法の策定」の割合が高くなっています。

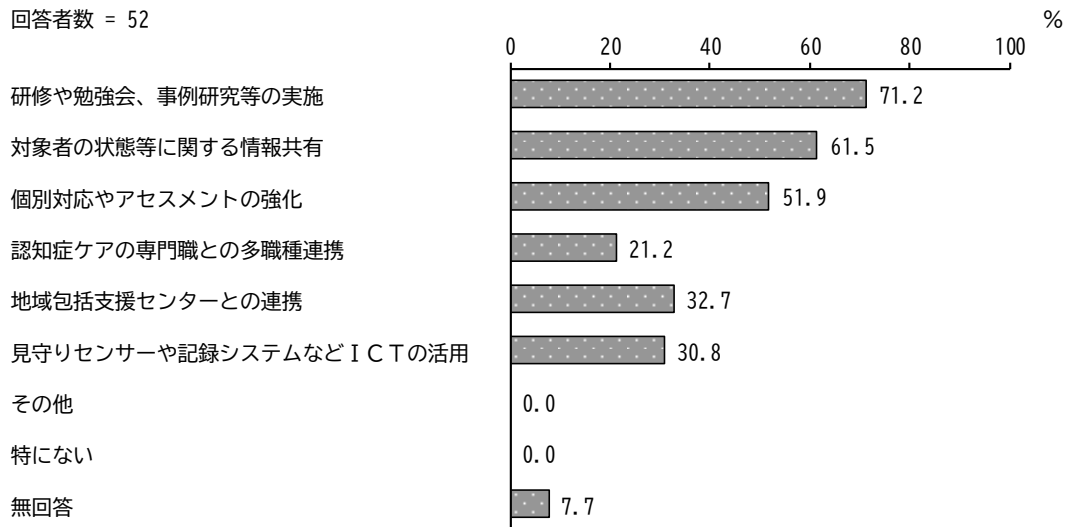
単位：％

区分	回答者数 (件)	ハラスメント対策マニ ュアル作成	ハラスメント対応の勉 強会・研修等実施	事業所内に相談窓口を 設置	運営法人本部に相談窓 口を設置	同性介助の実施	職員の状況確認・安全 確保の仕組み構築	契約時・サービス提供 開始時における、ハラ スメントの防止に関す る確認や説明の実施
全 体	52	48.1	46.2	38.5	55.8	11.5	15.4	46.2
施設・居住系サ ービス	18	66.7	50.0	44.4	66.7	0.0	11.1	44.4
通所系サービス	8	62.5	62.5	50.0	50.0	37.5	37.5	50.0
訪問系サービス	19	36.8	42.1	36.8	52.6	10.5	15.8	52.6
地域密着型・多 機能系サービス	2	0.0	50.0	50.0	100.0	50.0	0.0	50.0

区分	ハラスメントがあつた 場合のサービス提供の 停止や解約等に関する 対応方法の策定	専門職・専門家への相 談体制の構築	地域包括支援センタ ーや市への相談体制の構 築	他の事業所等への相談 体制の構築	困難事例への対応のた めの連携体制の構築	その他	特に行っていない	無回答
全 体	28.8	23.1	34.6	5.8	9.6	0.0	1.9	7.7
施設・居住系サ ービス	16.7	27.8	33.3	5.6	11.1	0.0	0.0	0.0
通所系サービス	37.5	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	36.8	15.8	36.8	0.0	15.8	0.0	5.3	5.3
地域密着型・多 機能系サービス	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 11 認知症の利用者への対応強化について、どのような取組を行っているか教えてください。（〇はいくつでも）

「研修や勉強会、事例研究等の実施」の割合が71.2%と最も高く、次いで「対象者の状態等に関する情報共有」の割合が61.5%、「個別対応やアセスメントの強化」の割合が51.9%となっています。



【サービス種別】

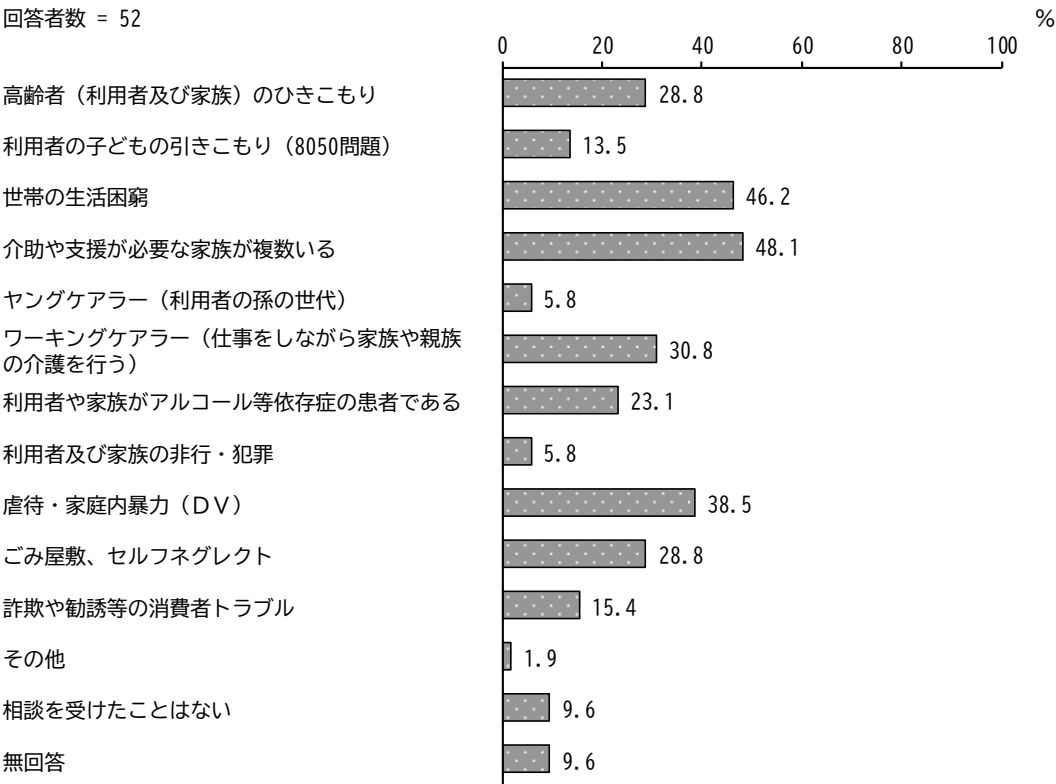
サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「対象者の状態等に関する情報共有」「個別対応やアセスメントの強化」「認知症ケアの専門職との多職種連携」「見守りセンサーや記録システムなどICTの活用」の割合が高く、訪問系サービスで「地域包括支援センターとの連携」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	研修や勉強会、 事例研究 等の実施	対象者の 状態等 に関する 情報共有	個別 対応 やアセ スメン トの 強化	認知症 ケアの 専門職 との 多職種 連携	地域 包括 支援 センタ ーと の 連携	見守り センサ ーや記 録シ ステ ムな どICT の活 用	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	52	71.2	61.5	51.9	21.2	32.7	30.8	0.0	0.0	7.7
施設・居住系サービス	18	72.2	72.2	61.1	27.8	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
通所系サービス	8	87.5	75.0	62.5	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	19	73.7	52.6	47.4	21.1	52.6	15.8	0.0	0.0	5.3
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 12 貴事業所では、次に挙げるような複合的な課題を抱えた困難事例等について、利用者やその家族から相談を受けたことはありますか。相談を受けたことのある事例を教えてください。（〇はいくつでも）

「介助や支援が必要な家族が複数いる」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「世帯の生活困窮」の割合が 46.2%、「虐待・家庭内暴力（DV）」の割合が 38.5%となっています。



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「介助や支援が必要な家族が複数いる」の割合が高く、訪問系サービスで「高齢者（利用者及び家族）のひきこもり」等の割合が高くなっています。

単位：%

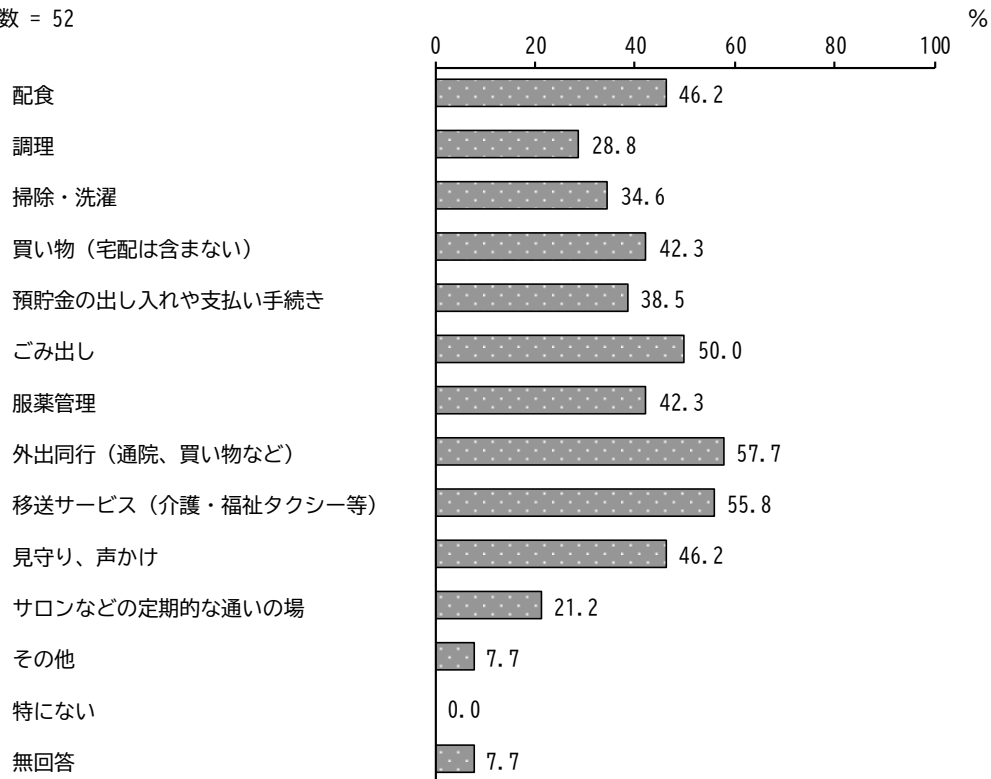
区分	回答者数（件）	高齢者（利用者及び家族）のひきこもり	利用者の子どもの引きこもり（8050問題）	世帯の生活困窮	介助や支援が必要な家族が複数いる	ヤングケアラー（利用者の孫の世代）	ワーキングケアラー（仕事をしながら家族や親族の介護を行う）	利用者や家族がアルコール等依存症の患者である
全 体	52	28.8	13.5	46.2	48.1	5.8	30.8	23.1
施設・居住系サービス	18	11.1	0.0	44.4	66.7	5.6	16.7	11.1
通所系サービス	8	50.0	0.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0
訪問系サービス	19	47.4	31.6	57.9	42.1	10.5	63.2	47.4
地域密着型・多機能系サービス	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

区分	利用者及び家族の非行・犯罪	虐待・家庭内暴力（DV）	ごみ屋敷、セルフネグレクト	詐欺や勧誘等の消費者トラブル	その他	相談を受けたことはない	無回答
全 体	5.8	38.5	28.8	15.4	1.9	9.6	9.6
施設・居住系サービス	0.0	38.9	11.1	0.0	5.6	5.6	0.0
通所系サービス	0.0	37.5	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0
訪問系サービス	15.8	42.1	52.6	31.6	0.0	15.8	10.5
地域密着型・多機能系サービス	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問13 地域での高齢者の在宅生活継続のために、さらに充実が必要と感じる支援・サービス等についてご回答ください。（〇はいくつでも）

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が57.7%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が55.8%、「ごみ出し」の割合が50.0%となっています。

回答者数 = 52



【サービス種別】

サービス種別にみると、施設・居住系サービスで「配食」「調理」「買い物（宅配は含まない）」「ごみ出し」「サロンなどの定期的な通いの場」の割合が高く、訪問系サービスで「預貯金のおし入れや支払い手続き」「外出同行（通院、買い物など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	預貯金のおし入れや支払い手続き	ごみ出し	服薬管理
全 体	52	46.2	28.8	34.6	42.3	38.5	50.0	42.3
施設・居住系サービス	18	50.0	38.9	38.9	55.6	38.9	66.7	44.4
通所系サービス	8	62.5	37.5	50.0	50.0	12.5	50.0	62.5
訪問系サービス	19	42.1	26.3	36.8	36.8	52.6	47.4	47.4
地域密着型・多機能系サービス	2	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0

区分	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	特になし	無回答
全 体	57.7	55.8	46.2	21.2	7.7	0.0	7.7
施設・居住系サービス	55.6	55.6	55.6	27.8	5.6	0.0	0.0
通所系サービス	75.0	75.0	25.0	37.5	12.5	0.0	0.0
訪問系サービス	68.4	57.9	57.9	15.8	10.5	0.0	5.3
地域密着型・多機能系サービス	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

VIII 次期計画策定に向けた課題の整理

Ⅷ 次期計画策定に向けた課題の整理

次期計画の策定に向け、「富谷市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の施策体系に基づき、課題の整理を行いました。

1. 心と体の元気づくりの推進

第9期計画では、福祉健康センターを拠点とした健康推進事業や、筋トレ型通所サービス等の介護予防・日常生活支援総合事業を推進してきました。

調査結果では、階段昇降を「できるし、している」の割合が61.9%に減少しており、15分位続けて歩く項目でも「できるけどしていない」が増加(22.4%)するなど、運動機能の低下傾向がうかがえます。また、オーラルフレイル(口腔機能の低下)に関しては、半年前と比較して「固いものが食べにくくなった」人が30.2%、「お茶や汁物でむせる」人が23.7%に達しており、オーラルフレイル予備軍が約3割見られます。また、介護予防に取り組んでいない理由として「必要性を感じていない」が41.7%と最多ですが、取り組んでいる内容では「散歩やウォーキング」が35.0%と最も高く、身近な活動への関心は維持されています。

今後は、機能低下が顕在化しやすい85歳以上への重点的な支援とともに、無関心層に対しても日常生活の中で短時間かつ効果的に取り組める口腔機能向上プログラムや健康増進事業の周知・啓発を強化していくことが課題であると考えられます。

2. 共に支える地域づくり

第9期計画では、地域サポーターの養成や「街かどカフェ」の設置、ボランティア活動の支援を通じて、地域住民が主体となる支え合いの仕組みづくりを進めてきました。

調査結果では、ボランティアやスポーツ等のグループ活動において、前回調査と比較し「参加していない」の割合が増加しており、社会参加の停滞傾向が見られます。特に第2号被保険者では、地域活動に参加していない理由として「仕事や家事で忙しい」が42.0%と突出しており、現役世代の関与が限定的である実態がうかがえます。一方で、今後の活動への参加意向は、ニーズ調査で「参加してもよい」が48.8%、第2号被保険者でも40.4%あり、潜在的な参加ニーズは高い状況にあります。

今後は、リフレッシュを兼ねた趣味・スポーツ活動など、現役世代も参加しやすい「ゆるやかな地域とのつながり」を創出するとともに、既存の「通いの場」の魅力を再発信し、担い手の育成と支え合い意識の醸成を推進する施策が求められます。

3. 安心できる在宅生活のための環境づくりの推進

第9期計画では、緊急通報システム事業や外出支援乗車証「とみぱす」の交付、福祉避難所の確保など、在宅生活の安全・安心を支える基盤整備を行ってきました。

調査結果では、現在の住まいに対する不安として、「住宅がバリアフリーではない」(35.4%)、「修繕費の準備が難しい」(35.3%)が上位を占めています。家族構成は「夫婦2人暮らし」と「1人暮らし」を合わせた高齢者のみ世帯が過半数(52.5%)に達しており、住環境の老朽化と経済的不安が顕在化しています。

災害時については、「ライフラインの切断」への不安が52.3%と高い一方、「福祉避難所」の内容を知っている割合は各調査層で1割程度と極めて低い水準にあります。

今後とも高齢者のみ世帯の増加を見据え、在宅生活継続のための住環境整備支援やバリアフリー化の促進、さらには有事の際の共助体制強化に向けた個別避難計画の策定推進と、福祉避難所の周知徹底が喫緊の施策課題であると考えられます。

4. 地域包括ケアシステムの深化・推進

第9期計画では、地域包括支援センターの機能強化や、在宅医療・介護の連携強化、重層的支援体制整備事業の移行準備などを進めてきました。

調査結果では、介護が必要になった場合に「自宅での生活を継続したい」と希望する人は約3割から4割となっています。しかし、主な介護者の実態をみると「精神的負担」を感じている割合が41.3%と最も高く、家族介護の負担増が見られます。専門相談機関である地域包括支援センターについては、「内容も知っている」人が36.7%にとどまっており、名称は知っていても機能の詳細が十分に浸透していない傾向がうかがえます。

今後とも医療・介護の連携による在宅療養体制の充実とともに、地域包括支援センターの機能を多角的に周知し、家族の負担軽減を図るための早期相談促進や、レスパイト（休息）サービスの拡充が今後の施策の方向性として重要です。

5. 認知症施策の推進

第9期計画では、認知症サポーター養成講座の実施や「認知症の人と家族の会」の運営、認知症初期集中支援チームによる早期介入体制の構築に取り組んできました。

調査結果では、認知症へのイメージとして「家族・介護する人の負担が大きい」との回答が約7割に達しており、介護負担に対する強い不安が見られます。一方で、共生社会の実現を目指す新しい認知症観の内容まで知っている人は4.3%と極めて少なく、普及啓発の不足が見られます。

住み慣れた地域で生活し続けるためには「家族などの正しい理解」が71.8%と最も重視されており、周囲のサポート体制の構築が求められています。

今後は「共生」を目指す新しい認知症観のさらなる普及啓発を進めるとともに、認知症サポーターが実際に活動できる「チームオレンジ」等の仕組みを強化し、本人と家族が孤立しない環境づくりを推進する必要があります。

6. 介護保険事業等の推進

第9期計画では、介護サービス基盤の計画的な整備や、成年後見制度の利用促進を図る中核機関の設置、人生会議（ACP）の普及啓発に努めてきました。

調査結果では、介護保険制度の内容を「知っている」割合は、第2号被保険者で26.0%にとどまり、依然として制度理解の深化が課題となっています。

また、成年後見制度の相談先を「知らない」人は73.4%と高く、権利擁護に関する制度の浸透も不十分な状況にあります。

さらに、将来の医療・介護費用について「心配」とする回答は65.8%と高く、経済的備えに対する不安が見られます。

事業所調査の結果によれば、直近の事業収支において「赤字」または「収支均衡」と回答した事業所が合わせて約半数（46.2%）に達しており、特に施設・居住系サービスで経営の厳しさがうかがえます。

事業継続における不安要素としては、「人材の確保・育成・定着」を挙げる事業所が82.7%と突出し

ており、次いで「利用者の確保」(50.0%)、「物価高騰への対応」(48.1%)が続いており、深刻な人材不足を背景に、経営基盤の脆弱化とコスト増が重なり、サービス供給体制の維持に対する危機感が顕在化しています。

今後は、デジタルツール等も活用して制度や手続きに関する情報発信を強化することが求められます。あわせて、成年後見制度の周知や人生会議の普及を通じ、高齢者の意思が尊重される支援体制を整備していくとともに、事業所の安定経営を支えるための支援策を講じ、中長期的な視点で介護サービス供給能力を維持・強化していく必要があります。

富谷市
高齢者保健福祉計画・
第10期介護保険事業計画
実態把握調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：富谷市 長寿福祉課

〒981-3392 宮城県富谷市富谷坂松田30番地

電話：022-358-0513